

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 29

平成24年度発掘調査報告 (第1分冊)

若宮大路周辺遺跡群

高徳院周辺遺跡

名越山王堂跡

若宮大路周辺遺跡群

甘繩神社遺跡群

下馬周辺遺跡

平成25年3月

鎌倉市教育委員会



若宮大路周辺遺跡群（小町三丁目425番3） II区全景



若宮大路周辺遺跡群（小町三丁目422番2外） 全景

ごあいさつ

近年、鎌倉の街では古い家屋や店舗の建て替えが相次いでいます。その中で、埋蔵文化財に影響のある工事も多くなっています。このため、個人専用住宅等建設に際しては、昭和59年度から国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が調査主体となって発掘調査の実施にあたってまいりました。

先人の遺産である文化財を守ることは、現在に生きる我々の責務であり、市内のおよそ6割の地域が埋蔵文化財包蔵地となっている本市の場合、特に市民の皆様のご理解とご協力なくしては、埋蔵文化財の保存や発掘調査の実施が困難であることは言うまでもありません。

本書は平成16～21年度に国・県の補助を受けて鎌倉市教育委員会が実施した個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査の記録として14ヶ所の調査成果を掲載しています。

調査の実施にあたり埋蔵文化財に対する深い御理解をいただくとともに、調査の期間中、物心両面にわたり多大なご協力をいただきました事業者・工事関係者の皆様に心からお礼を申しあげます。

平成25年3月29日

鎌倉市教育委員会

例　　言

- 1 本書は平成24年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に
係る発掘調査報告書(第1分冊及び第2分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおり
である。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化
財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教
育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

総 目 次

(第1分冊)

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成16～21年度発掘調査地点一覧	VI
平成24年度調査の概観	VII
調査地点位置図	X
1 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 小町三丁目425番3地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	6
第二章 調査の概要	10
第三章 検出遺構と出土遺物	14
第四章 まとめ	88
2 高徳院周辺遺跡 (No.327) 長谷五丁目382番7の一部地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	117
第二章 調査の概要	121
第三章 検出遺構と出土遺物	124
第四章 まとめ	141
3 名越山王堂跡 (No.234) 大町三丁目1362番1地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	159
第二章 調査の概要	164
第三章 検出遺構と出土遺物	168
第四章 まとめ	204
4 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 小町三丁目422番2外地点	
第一章 遺跡概要	225
第二章 発見した遺構と遺物	232
第三章 まとめ	283

5 甘繩神社遺跡群 (No.177) 長谷一丁目227番24地点

第一章 調査地点の歴史的環境	322
第二章 調査の経過と土層	330
第三章 検出された遺構と遺物	330
第四章 まとめ	362

6 下馬周辺遺跡 (No.200) 由比ガ浜二丁目19番4地点

第一章 遺跡の概観	401
第二章 調査の概要	409
第三章 調査結果	411
第四章 まとめと考察	432

(第2分冊)

例言	II
目次	III

7 玉繩城跡 (No.63) 植木字植谷戸198番地点

第一章 遺跡の概観	5
第二章 調査の概要	15
第三章 調査結果	17
第四章 まとめと考察	41

8 笹目遺跡 (No.207) 笹目町316番10地点

第一章 本調査地点の位置と歴史的環境 (図1・2、表1)	63
第二章 調査の概要	67
第三章 発見された遺構と遺物	71
第四章 まとめ	97

9 今小路西遺跡 (No.201) 御成町176番7地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	121
第二章 調査の概要	125
第三章 検出遺構と出土遺物	129
第四章 まとめ	180

10 円覚寺旧境内遺跡 (No.434) 山ノ内字瑞鹿山398番地点	
第一章 本調査地点の位置と歴史的環境	205
第二章 調査の概要	212
第三章 発見された遺構	217
第四章 発見された遺物	240
第五章 まとめ	266
11 玉繩城跡 (No.63) 植木字植谷戸48番6地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	288
第二章 調査の概要	291
第三章 検出遺構と出土遺物	293
第四章 まとめ	295
12 天神山城 (No.384) 山崎字宮廻656番19地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	302
第二章 調査の概要	304
第三章 検出遺構と出土遺物	308
第四章 まとめ	314
13 新善光寺跡 (No.284) 材木座四丁目579番8地点	
第一章 遺跡の位置と環境	331
第二章 調査の概要	337
第三章 検出遺構と出土遺物	342
第四章 まとめ	353
14 米町遺跡 (No.245) 大町二丁目993番1外地点	
第一章 遺跡の位置と環境	375
第二章 調査の概要	381
第三章 検出遺構と出土遺物	384
第四章 まとめ	393

本誌掲載の平成16～20年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1 ▲	若宮大路周辺遺跡群 (N0,242)	小町三丁目425番3	診療所併用住宅 (杭基礎構造)	都市	66.00	平成16年12月10日 ～平成17年2月21日
2 □	高徳院周辺遺跡 (N0,327)	長谷五丁目382番7の一部	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	50.00	平成17年6月20日 ～平成17年8月19日
3 □	名越山王堂跡 (N0,234)	大町三丁目1362番1	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	社寺	27.50	平成17年8月23日 ～平成17年10月20日
4 □	若宮大路周辺遺跡群 (N0,242)	小町三丁目422番2外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	78.00	平成17年11月2日 ～平成18年2月7日
5 □	甘繩神社遺跡群 (N0,177)	長谷一丁目227番24	個人専用住宅 (車庫の築造)	都市	93.50	平成18年2月21日 ～平成18年5月2日
6 ●	下馬周辺遺跡 (N0,200)	由比ガ浜二丁目19番4	店舗併用住宅 (杭基礎構造)	都市	82.40	平成18年4月25日 ～平成18年6月13日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
7 □	玉縄城跡 (N0,63)	植木字植谷戸198番	個人専用住宅 (杭基礎構造)	城館	98.00	平成18年2月6日 ～平成18年4月6日
8 ●	笹目遺跡 (N0,207)	笹目町316番10	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	42.50	平成18年6月15日 ～平成18年8月1日
9 ●	今小路西遺跡 (N0,201)	御成町176番7	個人専用住宅 (杭基礎構造)	都市	55.00	平成18年7月18日 ～平成18年9月25日
10 ●	円覚寺旧境内遺跡 (N0,434)	山ノ内字瑞鹿山398番	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	40.25	平成19年2月6日 ～平成19年3月27日
11 △	玉縄城跡 (N0,63)	植木字植谷戸48番6	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	城館	21.00	平成19年9月12日 ～平成19年9月26日
12 ■	天神山城 (N0,384)	山崎字宮廻656番19	個人専用住宅 (地下室)	城館	49.07	平成20年5月26日 ～平成20年6月17日
13 ■	新善光寺跡 (N0,279)	材木座四丁目579番8	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	24.00	平成20年8月21日 ～平成20年9月12日
14 ■	米町遺跡 (N0,245)	大町二丁目993番1外	個人専用住宅	都市	16.50	平成20年10月22日 ～平成20年11月10日

▲印は平成16年度実施の発掘調査

□印は平成17年度実施の発掘調査

●印は平成18年度実施の発掘調査

△印は平成19年度実施の発掘調査

■印は平成20年度実施の発掘調査

平成24年度調査の概観

平成24年度の緊急調査実施件数は、前年度からの継続調査3件を含む8件であり、調査面積は614m²であった。これを前年度の8件、711.5m²と比較してみると件数は増減がなかったものの、調査面積は97.5m²の減少となった。1件の調査面積は平均で約76.75m²（前年度は88.94m²）であり、1件あたりの面積は前年度よりも減少している。

調査原因は個人専用住宅の建設が7件、店舗等併用住宅の建設が1件である。これらの工種別内訳は、鋼管杭打ち工事が2件（25%）、地盤改良工事が5件（62.5%）、基礎工事が1件（12.5%）となっている。今年度も鋼管杭打ち工事や地盤改良工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著にみられた。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成24年度調査地点一覧」を参照。）

1 円覚寺門前遺跡（No.287）

山ノ内に位置し、県道を挟んで円覚寺のはすに向かいにある。地盤の柱状改良工事を内容とする集合住宅併用個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、13世紀から14世紀代の生活痕跡が確認できた。泥岩で護岸を施した、14世紀代に作られたと考えられる溝等が出土し、円覚寺門前における当時の町割りの一端が明らかとなっている。板壁建物のほか、漆器や鳥帽子など、木製品の残りも良好であった。

2 若宮大路周辺遺跡群（No.242）

小町二丁目に位置する。JR鎌倉駅の北東側にある。地盤の柱状改良工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、中世の整地層と柱穴、溝等が出土しており、13世紀から14世紀にかけて、当該地が盛んに土地利用されていたことが明らかになった。

3 若宮大路周辺遺跡群（No.242）

小町二丁目に位置する。大巧寺の西側参道と、小町大路の接する南側角に存する。地盤の柱状改良工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、旧小町大路の一部と考えられる道路跡と、平行して木組みの溝が出土した。中世鎌倉の都市計画のあり方を検討するうえで重要な発見であった。

4 田楽辻子周辺遺跡（No.33）

浄明寺二丁目に位置する。県道金沢・鎌倉線の南側に位置する。個人専用住宅の建築にともなって発掘調査を実施した。基礎工事の掘削深度は現況地盤面より60cmまでであったため、発掘調査の深度もそこまでにとどめた。さらに下は遺跡が保存されている。

調査の結果、14世紀後半から15世紀にかけての土地利用痕跡が確認できた。鎌倉石積みの井戸をはじめ、多くの柱穴や抜き取られた礎石などが出土し、建物が建っていたことが明らかとなった。室町時代後期の当該地の土地利用を明らかにする上で貴重な成果が得られた。

5 米町遺跡 (No.245)

大町二丁目に位置する。安国論寺から200m程西に離れた地点である。地盤の柱状改良工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、13世紀中葉から14世紀代の整地層、礎板を伴う柱穴多数、板壁建物等が出土した。14世紀代は舶載磁器の出土も多い。中世都市民の活発な土地利用の様子がうかがえる。

6 名越ヶ谷遺跡 (No.293)

大町四丁目に位置する。妙法寺の北西側にあたる。地盤の表層改良工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、13世紀中葉から14世紀代の整地層、土坑、柱穴等が出土した。方形の土坑が複数切りあう様子が確認されているが、用途は不明である。

7 清涼寺跡 (No.183)

扇ガ谷四丁目に位置する。海蔵寺門前から数十メートル東に離れた道路沿いの敷地である。鋼管杭の設置工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、中世の整地層や掘立柱建物の一部等が出土した。木製品の残存状況も良好で、鳥帽子や草履の芯、木製の小型五輪塔などが出土している。

8 公方屋敷跡 (No.268)

浄明寺四丁目に位置する。調査地点南側は県道金沢・鎌倉線に面する。鋼管杭の設置工事を内容とする個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。

調査の結果、中世の遺構・遺物が確認されている。

平成 24 年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1 ★	円覚寺門前遺跡 (No. 287)	山ノ内 1338 番	賃貸併用住宅 (柱状改良工事)	都 市	120.00	平成 24 年 4 月 1 日 ～平成 24 年 5 月 18 日
2 ★	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町二丁目 281 番 2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	104.00	平成 24 年 4 月 1 日 ～平成 24 年 4 月 20 日
3 ★	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町一丁目 331 番 1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	58.00	平成 24 年 4 月 1 日 ～平成 24 年 5 月 31 日
4	田楽辻子周辺遺跡 (No. 33)	淨明二丁目 569 番 10	個人専用住宅 (基礎工事)	屋敷跡	58.50	平成 24 年 6 月 14 日 ～平成 24 年 7 月 23 日
5	米町遺跡 (No. 245)	大町二丁目 2400 番 5、6	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都 市	75.00	平成 24 年 8 月 28 日 ～平成 24 年 11 月 22 日
6	名越ヶ谷遺跡 (No. 293)	大町四丁目 1884 番 14	個人専用住宅 (表層改良工事)	屋敷跡	45.00	平成 24 年 9 月 25 日 ～平成 24 年 12 月 7 日
7	清涼寺跡 (No. 183)	扇ガ谷四丁目 570 番 1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	寺院跡	67.50	平成 24 年 11 月 6 日 ～平成 25 年 2 月 15 日
8 ◎	公方屋敷跡 (No. 268)	淨明寺四丁目 292 番 1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	屋敷跡	86.00	平成 25 年 3 月 1 日 ～平成 25 年 3 月 31 日

★印は平成 23 年度からの継続調査を示す。

◎印は平成 25 年度への継続調査を示す。

鎌倉市全図



若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

小町三丁目 425 番 3 地点

例 言

1. 本報は「若宮大路周辺遺跡群(No.242)」内の一部、小町三丁目425番3地点(略称WA0423)における診療所併設住宅の建築(杭基礎構造)にともなう埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 調査期間:平成16(2004)年12月10日~平成17(2005)年2月21日 調査面積:66.00m²
3. 現地調査・整理作業の体制は以下の通りである。

調査担当者:原 廣志

調査員:赤堀裕子・石元道子・宇都洋平・太田美智子・小野夏菜・後藤健吾・須佐直子
須佐仁和・田畠衣里・梅岡渓音

調査補助員:宇都洋平・大塚悠介・岡田優子・後藤亜季子・高橋拓也・竹原千秋・中川建二・
野崎美帆・橋本和之・平山千絵・銘苅春也・森谷十美・山口亜希子・山口正紀・
吉田和枝・脇 多美子

作業員:倉澤六郎・佐藤美隆・山崎一男(以上、社団法人鎌倉市シルバー人材センター)

協力機関名:(社)鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉考古学研究所

4. 整理作業及び本報の作成は以下の分担で行った。

遺物実測:赤堀裕子・竹原千秋・田畠衣里・梅岡渓音・平山千絵・吉田和枝・脇 多美子

挿図作成:小野夏菜・石元道子

遺物観察表:平山千絵

遺構写真:須佐仁和・原 廣志

遺物写真:須佐仁和(撮影)・赤堀裕子・平山千絵(版組)

本文執筆:宇都洋平・原 廣志

5. 出土遺物、図面・写真などの発掘調査資料は、報告書刊行後に鎌倉市教育委員会が保管している。

6. 本報の凡例は、以下の通りである。

挿図縮尺:全側図:1/80 遺構図:1/40 1/50 遺物図:1/3

使用名称:本書で使用する用語のうち、「土丹(どたん)」はシルト質凝灰岩、「鎌倉石」は逗子池市池子層に顯著な粗粒凝灰岩、「伊豆石」は相模川以西の河川・海浜に産する礎石に利用可能な扁平な円礫を示す。

遺構図:遺構のレベル数値は海拔高を示している。

遺物図:黒塗りは灯明皿に付着した油煙煤を表現、手捏ねかわらけ底径の寸法は外底指頭痕と口縁部との稜部の計測値を示している。

7. 本遺跡の現地調査から本報作成に至るまで、以下の方々からご助言とご協力を賜った。記して感謝の意を表したい(敬称略、五十音順)。

秋山哲夫・伊丹まどか・沖元 道・押木弘己・小野正敏・河野眞知郎・菊川 泉・菊川英政・熊谷満・古田戸俊一・五味文彦・佐藤仁彦・汐見一夫・宗臺秀明・宗臺富貴子・鈴木庸一郎・玉林美男・塙本和宏・中田 英・中野晴久・松尾宣方・松葉 崇・馬淵和雄・森 孝子・八幡義信

目 次

本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	6
1. 遺跡の位置と地形	
2. 遺跡の歴史的環境	
第二章 調査の概要	10
1. 調査の経過	
2. 側量軸の設定	
3. 層序	
第三章 検出遺構と出土遺物	14
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
第四章 まとめ	88

挿 図 目 次

図1 調査地点位置図	7
図2 調査地点と周辺遺跡	7
図3 國土座標・調査区位置	11
図4 調査区壁土層断面	12
図5 第1面全測図	14
図6 第1面土坑・ピット(1)	15
図7 土坑・ピット(2)	17
図8 土坑出土遺物(1)	18
図9 第1面土坑出土遺物(2)	19
図10 第1面玉石列	20
図11 第1面井戸1・2	21
図12 第1面井戸1・2出土遺物	22
図13 第1面ピット	23
図14 第1面ピット出土遺物	24
図15 第1面遺構外出土遺物	25
図16 第1面下のかわらけ溜りと土丹敷面	26
図17 第1面下かわらけ溜り出土遺物(1)	27
図18 第1面下かわらけ溜り出土遺物(2)	28
図19 第1面下かわらけ溜り出土遺物(3)	29
図20 第1面かわらけ溜り出土遺物(4)	30
図21 第2面遺構全測図	31
図22 第2面建物1～4	32
図23 第2面建物5～8	34
図24 第2面土坑・ピット(1)	35
図25 第2面土坑・ピット(2)	36
図26 第2面土坑・ピット(3)	38
図27 第2面土坑出土遺物(1)	39
図28 第2面土坑出土遺物(2)	41
図29 第2面土坑出土遺物(3)	42
図30 第2面土坑出土遺物(4)	43
図31 第2面土坑出土遺物(5)	44
図32 第2面ピット(1)	45
図33 第2面ピット(2)	46
図34 第2面ピット出土遺物(1)	47
図35 第2面ピット出土遺物(2)	48
図36 第2面ピット出土遺物(3)	49
図37 ピット出土遺物(4)、その他	50
図38 第2面遺構外出土遺物	51

表 目 次

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表	8
表2 第1面下かわらけ溜り型式別出土点数	30
表3 第1面下かわらけ溜り機種別出土点数	30
表4 遺物観察表(1)	53
表5 遺物観察表(2)	54
表6 遺物観察表(3)	55
表7 遺物観察表(4)	56
表8 遺物観察表(5)	57
表9 遺物観察表(6)	58
表10 遺物観察表(7)	59
表11 遺物観察表(8)	60
表12 遺物観察表(9)	61
表13 遺物観察表(10)	62
表14 遺物観察表(11)	63
表15 遺物観察表(12)	64
表16 遺物観察表(13)	65
表17 遺物観察表(14)	66
表18 遺物観察表(15)	67
表19 遺物観察表(16)	68
表20 遺物観察表(17)	69
表21 遺物観察表(18)	70
表22 遺物観察表(19)	71
表23 遺物観察表(20)	72
表24 遺物観察表(21)	73
表25 遺物観察表(22)	74
表26 遺物観察表(23)	75
表27 遺物観察表(24)	76
表28 遺物観察表(25)	77
表29 遺物観察表(26)	78
表30 遺物観察表(27)	79
表31 遺物観察表(28)	80
表32 遺物観察表(29)	81
表33 遺物観察表(30)	82
表34 遺物観察表(31)	83
表35 遺物観察表(32)	84
表36 遺物観察表(33)	85
表37 遺物観察表(34)	86
表38 遺物観察表(35)	87
表39 遺物分類別出土数量表	89
表40 遺物分類別出土比率表	89

図 版

図版1	92
a. I区第1面全景(南から)	
b. I区第1面全景(北から)	
c. II区第1面全景(西から)	
d. II区第1面全景(東から)	
図版2	93
a. I区第1面北半部(西から)	
b. I区第1面南半部(西から)	
c. 井戸1	
d. 井戸2	
e. 玉石列	
f. 土坑1	
g. 土坑5	
h. P 18	

目 次

図版3	94
a. II区第1面の調査風景	
b. I区第1面下かわらけ溜り(西から)	
c. I区第1面下かわらけ溜り(北から)	
d. I区第1面下かわらけ溜り (I区北東壁際)	
図版4	95
a. II区第1面下かわらけ溜り(西から)	
b. II区第1面下かわらけ溜り(北から)	
c. II区第1面下かわらけ溜り(北から)	
d. II区第1面下土丹敷面	
図版5	96
a. I区第2面全景(南から)	
b. I区第2面南側(西から)	
c. I区第2面北側(西から)	

図版6	97	図版10	101
a.	II区第2面全景(北から)	第1面遺構出土遺物	
b.	II区第2面全景(東から)	図版11	102
c.	土坑9(左上)・12(右下)のかわらけ出土状況	I区第1面遺構・第1面下～2面かわらけ溜まり(1)	
d.	土坑11・13(東から)	出土遺物	
図版7	98	図版12	103
a.	II区第2面全景(北から)	I区1面下～2面かわらけ溜まり(2)	
b.	II区第2面全景(西から)	出土遺物	
c.	土坑14(北から)	図版13	104
図版8	99	I区1面下～2面かわらけ溜まり(3)	
a.	土坑1(東から)	出土遺物	
b.	同上土層断面(西から)	図版14	105
c.	土坑4(南から)	第1面下～2面かわらけ溜まり(4)・	
d.	同上土層断面(南から)	第2面遺構出土遺物(1)	
e.	土坑2・P18土層断面	図版15	106
f.	P77	第2面遺構出土遺物(2)	
g.	P164・186	図版16	107
h.	P168・169	第2面遺構出土遺物(3)	
図版9	100	図版17	108
a.	I区調査区北壁土層断面	第2面遺構出土遺物(4)	
b.	I区調査区東壁北側土層断面	図版18	109
c.	I区南西隅の拡張区土層断面	第2面遺構出土遺物(5)	
d.	I区調査区東壁中央土層断面	図版19	110
e.	II区調査区北壁土層断面	第2面遺構出土遺物(6)	
f.	II区調査区北壁土層断面	図版20	111
g.	II区調査区東壁土層断面	第2面遺構(7)・遺構外出土遺物(1)	
h.	II区調査区南壁土層断面	図版21	112
		第2面遺構外出土遺物(2)	

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置と地形

若宮大路周辺遺跡群（県遺跡台帳No.242）は、鎌倉市中央部低地の北西部を占めており、鶴岡八幡宮から由比ヶ浜に至る鎌倉市基幹道路の若宮大路を中心として、その東西両側を含んだ範囲を指した遺跡名称である。本遺跡地の範囲は若宮大路の東側で若宮大路御所を包括する「北条小町邸跡（同台帳No.282）」と「宇津宮辻子幕府跡（同台帳No.239）」を除く地域、また若宮大路の西側では鶴岡八幡宮寄りに位置した「北条時房・顕時邸跡（同台帳No.278）」を除いた範囲であり、北辺は鶴岡八幡宮社頭の東西路と「北条高時邸跡（同台帳No.281）」、西辺は今小路、東辺は滑川・小町大路の一部、南辺は大町大路（下馬四角で交差する東西路）に囲まれ南北約500～700mの広範囲に及んでいる。調査地点は、JR鎌倉駅から北東方向へ約500mで、若宮大路社頭から東方215mほど進んだ横大路と小町大路の交差点（塔ノ辻）に近い鎌倉市小町三丁目425番3に所在している。

現地表の海拔高をみると、本調査地点は10.5m前後の標高である。周辺の地形は小町大路沿いでは日蓮辯説法碑の辺りで海拔高約7.9mと北に向かって高くなり、また若宮大路社頭辺りで海拔高9.8mを測り、横大路沿いに東へ向かい緩やかに上がって行く地形を呈している。次に中世基盤層（中世地山）とされる黒褐色粘質土（暗茶褐色粘質土も同類の中世地山）の上面海拔高を比較してみると、小町大路を約150m南方の地点23（北条小町邸跡：雪ノ下一丁目935番地点・賀茂歯科用地）では海拔8.3m前後を計り、本調査地点へ向かい上っている。若宮大路東辺沿いに位置した地点28（同遺跡内：雪ノ下一丁目377番7地点・紅谷ビル用地）が約8.1mを測り、東へ向かって緩やかな傾斜を持ちながら高くなっている。従って本調査地点周辺は滑川右岸に形成された微高地の一角を占めていたことがわかる。

2. 遺跡の歴史的環境

本遺跡は、鶴岡八幡宮の社頭より若宮大路を中心にして東辺の小町大路周辺、西辺の今小路（武藏大路）、南辺の大町大路を含んだ広範囲の地域である。本調査地点はその北東隅、小町大路北端で宝戒寺門前の「塔ノ辻」南隣した位置である。本調査地点前を南北に走る小町大路については、『吾妻鏡』建久二年（1191）三月四日の条に南風が烈しく丑の刻に小町大路の辺が失火し、北条義時・時房などの邸以下人屋数十軒が焼亡、鶴岡八幡宮、大蔵幕府も炎上したとあるのが記事の初見である。また嘉禎元年（1235）六月二十九日の条には、明王院供養で將軍頼経が宇津宮辻子御所の南門を出て小町大路を北に行き、塔ノ辻を東に向かったとの記事がある。さらに小町大路の「小町」の名は、『吾妻鏡』建長三年（1251）十二月三日条と、文永二年（1265）三月五日条の二度にわたり經濟統制を目的とする何箇所かの町屋免許地を規定した鎌倉幕府法令に登場している。免許地は小町の他に大町、米町（穀町）、魚町、和賀江、亀谷辻、氣和飛坂（化粧坂）山上、大倉辻などに与えられ、そこで日常的な商品売買が行われていたという。従って塔ノ辻に近いこの付近は鎌倉幕府の中枢域であるとともに、小町大路で町屋の多くと連なり和賀江津へ至り、さらに六浦道から朝比奈超えで外港六浦津へと繋がる經濟的な動脈であったと想像され、小町大路は人や物資が盛んに往来し、集散した中世都市鎌倉の中では繁華な地域であったと思われる。

宝戒寺はもと上野寛永寺末の天台宗、金竜山釈満院円頓と号す。開山は円觀慧鎮、開基は後醍醐天皇である。元弘三年（1333）東勝寺で自刃した北条高時の菩提を弔うために高時の邸跡に後醍醐天皇が建立したと伝える。同寺に所蔵する江戸末期所作（18世紀中葉の嘉永頃）の『宝戒寺境内領地図』には諸堂の位置とともに、その周囲に門前屋敷や畠を、背後の谷地には土地所有者及び永高が明示され、近世末の



図1 調査地点位置図

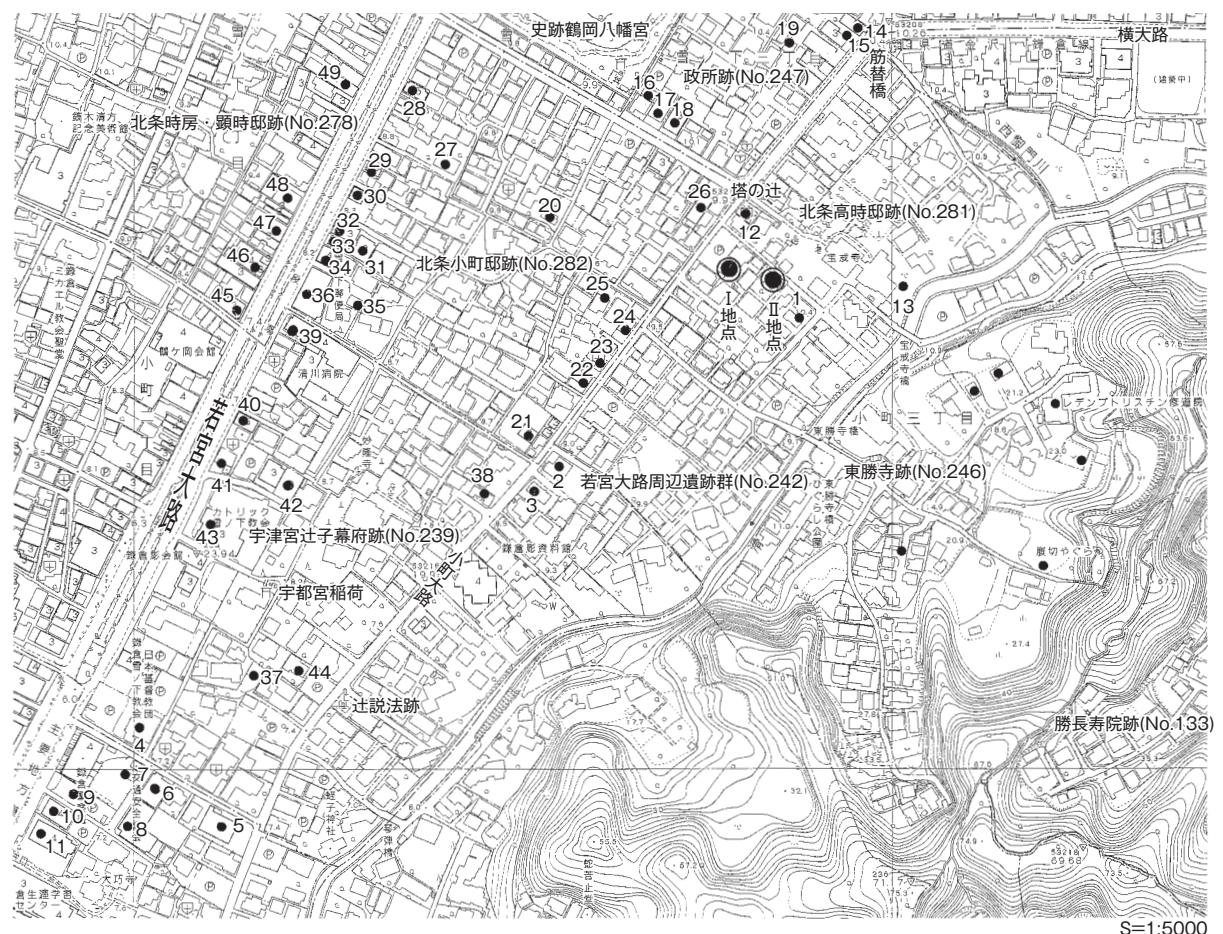


図2 調査地点と周辺遺跡

寺容が描かれている。

なお、調査地点周辺の発掘調査事例については「表1 周辺遺跡の調査地点一覧表」を参照されたい。

【参考文献】

- 臼井永二編 1986 『鎌倉事典』東京堂出版
貫 達人 1971 「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第8号
貫 達人・川副武胤 1980 『鎌倉廃寺事典』
三浦勝男 1992『鎌倉の古絵図』Ⅲ(再版) 鎌倉国宝館

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表

◎若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

1	小町2-373-1の一部	原 1998 未報告
2	小町2-409-9外	馬淵・伊丹 2007『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23(第2分冊)』
3	小町2-402-5	手塚・野本 2000『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』
4	小町2-345-2	馬淵 1985『小町二丁目345番2地点遺跡』同地点発掘調査団
5	小町1-325-イ	佐藤・原 1994『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10(第3分冊)』
6	小町1-322-2	菊川 1987 未報告
7	小町1-321-1	宮田 1996『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』同発掘調査団
8	小町1-322-1	宮田 1997『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』
9	小町1-319-2	松尾ほか 1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』
10	小町1-309-5	斎木 1983『小町一丁目309番5地点発掘調査報告書』
11	小町1-309-4	松尾ほか 1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』

I 地点：小町1-425-1の一部外(宇都・原2012『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第1分冊)』本調査地点の東方に位置し、昨年度の報告地点にあたる。)

◎北条高時邸跡 (No.281)

12	小町3-426-3	原・佐藤 1996『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第2分冊)』
13	小町3-451-1	菊川・森 2004『小町三丁目451番1地点』

◎政所跡 (No.247)

14	雪ノ下3-965	手塚・瀬田 1992『鎌倉市埋蔵文化財緊急報告書8』
15	雪ノ下3-966-1	手塚・瀬田 1992『鎌倉市埋蔵文化財緊急報告書8』
16	雪ノ下3-986-4	宗臺・馬瀬 2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』
17	雪ノ下3-988	手塚・田畠 1993『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』
18	雪ノ下3-987-1・2	手塚・宮田 1991『政所跡』同発掘調査団
19	雪ノ下3-970-2外	野本 1999『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』

◎北条小町邸跡 (No.281)

20	雪ノ下1-407-3の一部	原ほか 2005『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第2分冊)』
21	雪ノ下1-440の一部	馬淵・鍛冶屋・松原 2010『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26(第1分冊)』
22	雪ノ下1-432-2	菊川 1988『鎌倉市埋蔵文化財近調査報告書5』
23	雪ノ下1-432-1	松尾ほか 1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I』
24	雪ノ下1-400-1	馬淵・鍛冶屋・松原 2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2冊)』
25	雪ノ下1-401-5外	馬淵・鍛冶屋・松原 2003『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』
26	雪ノ下1-395	菊川 1988『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』
27	雪ノ下1-374-2	玉林ほか 1985『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2』
28	雪ノ下1-377-6・7	馬淵・岡・秋山 1996『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第2分冊)』
29	雪ノ下1-372-7	馬淵 1984『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』

30	雪ノ下1-371-1	馬淵 1985『北条泰時・時頼邸跡』同遺跡発掘調査団
31	雪ノ下1-369外	田代 1989 未報告
32	雪ノ下1-370-1	土屋・宗臺 1998『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』
33	雪ノ下1-369外	瀬田 1990『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』
34	雪ノ下1-369-1	原・秋山・須佐 1998『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』
35	雪ノ下1-419-3	玉林 1987『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3』
36	雪ノ下1-367-1・368-1	諸星・富田・森 2000『北条小町邸跡(泰時・時頼邸)』同遺跡発掘調査団

◎宇津宮辻子幕府跡 (No.239)

37	小町2-390-2外	宇都 2010『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26』
38	小町2-374-1	原 1998『第22回神奈川県遺跡調査・研究会 - 発表要旨 -』「鎌倉市宇津宮辻子幕府跡」
39	小町2-361-1	手塚 1990 未報告
40	小町2-361-1	原・小林・須佐 1996『宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書』同遺跡発掘調査団、『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第2分冊)』
41	小町2-354-2	松尾 1997 未報告
42	小町2-354-12	熊谷・浜野・佐藤 1993『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』
43	小町2-354-2	継 1993『第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会』「宇津宮辻子幕府跡遺跡の調査 - 発表要旨 -」
44	小町2-389-1	原・佐藤 1996『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』

◎北条時房・顕時邸跡 (No.278)

45	雪ノ下1-274-2	原・福田 1988『北条時房・顕時邸跡』同遺跡発掘調査団
46	雪ノ下1-273-口	原 1988『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』
47	雪ノ下1-272-1	宗臺・宗臺 1998『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』
48	雪ノ下1-271-1	原・田代 1989『北条時房・顕時邸跡』同遺跡発掘調査団
49	雪ノ下1-265-3	田代・原 1989『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』及び宗臺・宗臺 1999『北条時房・顕時邸跡 - 中世都市鎌倉中心域の調査』同遺跡発掘調査団

第二章 調査の概要

1. 調査の経過

本調査地点は、市街地中心部で若宮大路周辺遺跡の北東隅にあたる小町三丁目に位置し、小町大路から宝戒寺南辺の路地を東へ23m程入った南側で鎌倉市小町三丁目425番3に所在している。今回の発掘調査に先立ち、平成16年3月に診療所併用住宅建設の事前相談があり、住宅の基礎工事に伴って鋼管杭の埋設を内容して実施する計画があったため、工事の実施により掘削深度の関係から埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れのある事が予想された。このために鎌倉市教育委員会による遺構確認の試掘調査が行われた。その結果、現地下40cm前後まで近・現代の客土、それ以下は薄い中世遺物包含層を挟んで鎌倉時代の少なくとも三時期の遺構面（生活面）と、それに伴う遺物が出土して具体的な埋蔵文化財の存在することが判明した。これにより当該建築工事の実施による埋蔵文化財への影響が避けられないと判断された。このため事業者との協議を行ったところ、当初の計画に基づき建築工事を実施したいとの意向が示され、文化財保護法に基づく届出手続き後、施工者との協議を重ねて発掘調査を開始する運びとなった。

現地調査は平成16年12月10日に機材搬入し、試掘データを基に遺構面を傷つけないよう地表下50cm程までの重機で表土層を除去し、それ以下を人力により掘り下げての遺構検出を行った。調査面積は66.0m²が対象である。調査の結果、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、礎石列、柱穴列、ピットなどにより構成された遺構群が検出された。出土遺物は多量のかわらけを始め、陶磁器類、金属・骨角製品など主体の時期は12世紀末葉～13世紀代の所産である。平成17年2月21日までの間に必要な記録作業を行い、同日に機材撤収して現地調査を終了した。調査の経過については、以下に主な作業内容を日誌抜粋で記しておく。

日誌抄

- 12月10日（金） 調査区（I区）設定、地表下50cmまで重機により表土掘削。機材搬入とテント設営。
11日（土） 鎌倉市4級基準点を基として測量用方眼の設定。第1面の遺構検出を開始。
13日（月） 測量用水準点の原点レベルを敷地内に移動。
18日（土） 井戸1・2の写真撮影と平面図作成。
21日（火） 第1面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。平面図の作成開始。
24日（金） 第1面掘り下げ中に調査区南東隅でかわらけ溜りを検出。
27日（月） かわらけ溜りの写真撮影と遺物取り上げを実施。
1月4日（火） 第2面の遺構検出に向けての調査開始。
8日（土） 井戸3・土坑4の写真撮影、平面・土層断面図の作成。
12日（水） 第2面の調査終了。全景及び個別遺構などの写真撮影。平面図の作成。
17日（月） II区調査開始。I区埋戻し後、II区を重機により表土掘削。第1面の遺構検出を開始。
29日（土） 第1面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影。平面図作成。
2月2日（水） 第1面掘り下げ中にかわらけ溜りと土丹塊敷き面を検出（I区続き）。
9日（水） かわらけ溜りと土丹塊敷き面の写真撮影。第2面の遺構検出作業を開始。
12日（土） 第2面の遺構検出作業を継続。土坑9・11遺物出土状況の写真撮影。
17日（木） 第2面の調査終了。全景及び個別写真の写真撮影。平面図作成。
21日（月） 現地調査終了。調査関係各方面に発掘調査終了の旨を連絡し、機材撤収。

2. 側量軸の設定

調査にあたって使用した側量軸の設定には、図3に示したように国土座標の数値（世界測地系第IV系）を用いており、側量グリットは調査区の軸方向にほぼ平行して南北の基準軸を設けⅡ地点として調査を実施した。また図3の東側に隣接したⅠ地点（小町三丁目425番1の一部外地点・略称WA0425）は昨年度報告しているが、重複した調査期間（平成17年1月25～同年2月9日）で実施され、近接した地点から考えて同一敷地内の遺構検出も予想されたので測量方眼を統一して設定することにした。両地点の側量軸は、調査地北側で宝戒寺南堀沿いを東西に走る路地面上に鎌倉市道路管理課が設定しTQ89・TQ90の市4級基準点（第IV座標系）を基準としている。この4級基準2点の関係から開放トラバース側量により任意点のA点を算出し、そこから側量基準点にあたるグリット杭を設置している。さらに側量軸は東西軸と南北軸を2m方眼による軸線を配し、南北軸はA～Qのアルファベットの名称、東西軸に1～12の算用数字をそれぞれ付してグリット設定を行った。現地調査で使用した国土座標は、日本測地系（座標AREA9）の国土座標数値であった。そこで整理作業の段階で国土地理院が公開する座標変換ソフト『webTKY2JGD』によって世界測地系第IX系の座標数値に準じて算出を行った数値を図3に示した。

TQ89 : [X - 75.161.159 Y - 25.087.503] TQ90 : [X - 75.198.020 Y - 25.045.906]

A点 : [X - 75.107.060 Y - 25.077.276]

挿図中の方位は、すべて真北を採用したが、測量方眼の南北軸線は遺構の方位を意識して小町大路南北軸にほぼ平行した方位軸としたので真北より東に触れている。また調査地点の経緯度は以下のとおりである。

南北軸線 : [N - 38° 05' 50" - E]

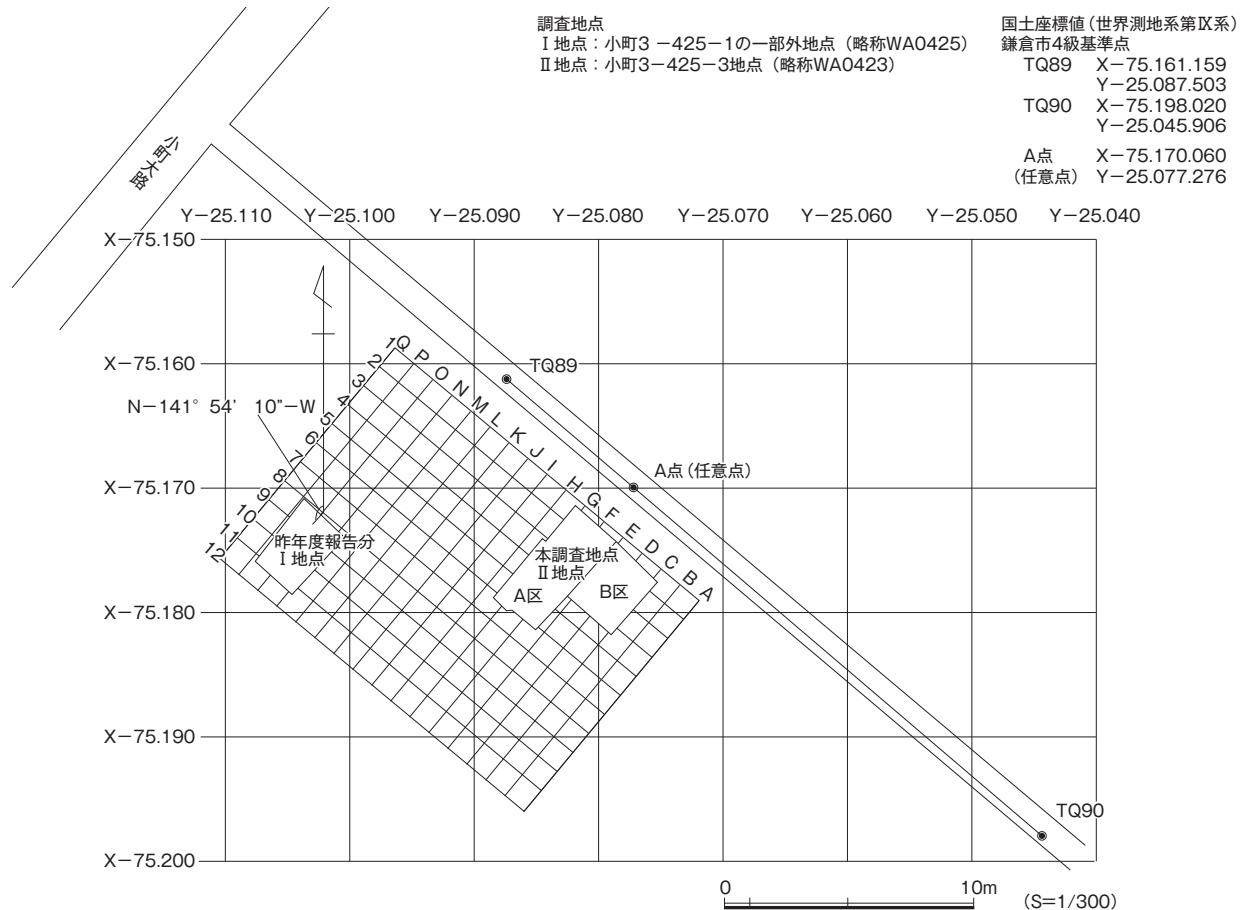
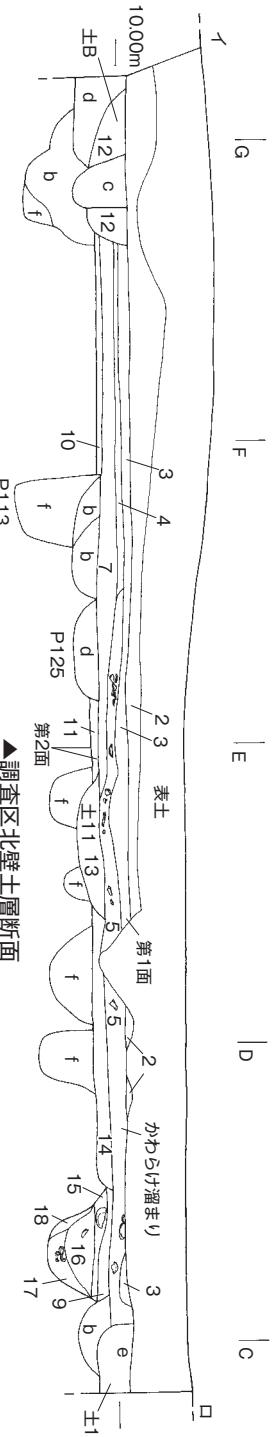


図3 国土座標・調査区位置

調査地点：[東経 139° 33' 27"] [北緯 35° 19' 19"]

海拔標高の原点移動については、宝戒寺惣門の道路を挟んだ向かい側の歩道に設置されている鎌倉市3級水準点 (No.53210、海拔標高はL = 9.925 m) から調査地の測量杭にあたるF - 1 杭上 (L=10.804m) と、F - 7 杭上 (L=10.769m) へ仮水準点を移設した。したがって、文章中または挿図に記載されたレベル数値は、すべてこれを基準にした海拔標高を示している。



3. 層序

調査地点は、現地表の海拔高10.50m前後を計りほぼ平坦な宅地を形成している。鎌倉市教育委員会が実施した試掘調査の結果を基に、現地表下40cm程まで堆積していた近現代客土や攪乱を含んだ表土を重機で掘り下げて中世遺構の確認を実施した。調査区各壁面の土層堆積は遺構覆土を除くと、表土下に堆積した3層の遺物包含層から中世地山上面(中世基盤層=暗茶褐色粘質土)まで概ね11層に区分されたが、その中で少なくとも2時期以上の生活面が確認されている。土層堆積の状況は図4に示したとおりである。

現地表から第1面上の遺物包含層(1・2層)までの間に確認された表土層は、大正12(1923)年関東大震災の後片付けに伴う攪乱と現代客土で構成された厚さ20～60cmほどの堆積が認められた。表土を除去すると、調査区全域では2層にあたる厚さ10cm前後の茶褐色砂質土の締まりのない土層が観察されたが、東壁付近だけに1層とした茶褐色砂質土の堆積が認められた。これらの遺物包含層を取り除くと、やや締まりのある黄褐色弱粘質土の地形層(3層)が顔を覗かせ、上面で遺構を確認することができたので第1面として調査を行った。第1面は海拔高10.10m前後を測り、厚さ10cmにも満たない薄い土層であるが土丹粒・かわらけ片を多く含んだ整地層で平らな生活面からは玉石列、土坑、井戸、柱穴などを検出した。

第1面構築土と4層を掘り下げていくと、調査区グリットの3ラインを境にして北側でかわらけ溜り、Ⅱ区南側で小土丹塊を密に敷きつめた範囲をそれぞれ確認することができたので、これを第1面下の遺構と捉えて検出作業を実施した(図16、図版3・4)。確認面の海拔高10.00m前後である。その下は7～9層の遺物包含層を挟んで10・11層から構成された地形層が海拔高9.90m前後で検出され、これを第2面の遺構確認面とした。さらに第2面の遺構には暗茶褐色粘質土の中世基盤層、いわゆる中世地山上(海拔高9.80m前後)で確認した遺構も含む。中世基盤層以下の土層堆積については、井戸1掘り方の壁面で観察すると、厚さ約90cm程の黒褐色粘質土と暗灰色粘質土に分別される。その下は海拔高8.90mから7.80mまで明黄褐色砂質土の厚い堆積が観察された。

第三章 検出遺構と出土遺物

1. 第1面の遺構と遺物

現地表下40cm前後の近現代客土や攪乱を重機掘削した後、遺物包含層を挟んで第1面の遺構を確認することができた。発見した遺構は土坑19基、井戸2基、玉石列、ピット約62穴などが認められ、それに伴う遺物は多量のかわらけ、青磁・白磁を中心とした貿易陶磁器、瀬戸・常滑窯の国産陶器、瓦器・瓦質製品、金属製品などが出土している。

a. 土坑(図5～9)

土坑1：調査区北西のF-2杭の位置で検出され、近代ゴミ穴の掘り込みで一部が壊されている。平面形は橢円形を呈し、大きさは長径142cm、短径130cm、深さ40cmを測り、断面形が皿状で平らな底面の掘り方である。覆土は2層に分層され、上層が粘性をもつ暗茶褐色粘質土、下層は貝砂・かわらけ粒を多量に含む暗茶褐色土が認められた。出土した遺物は図8-1～13がかわらけである。1～10は

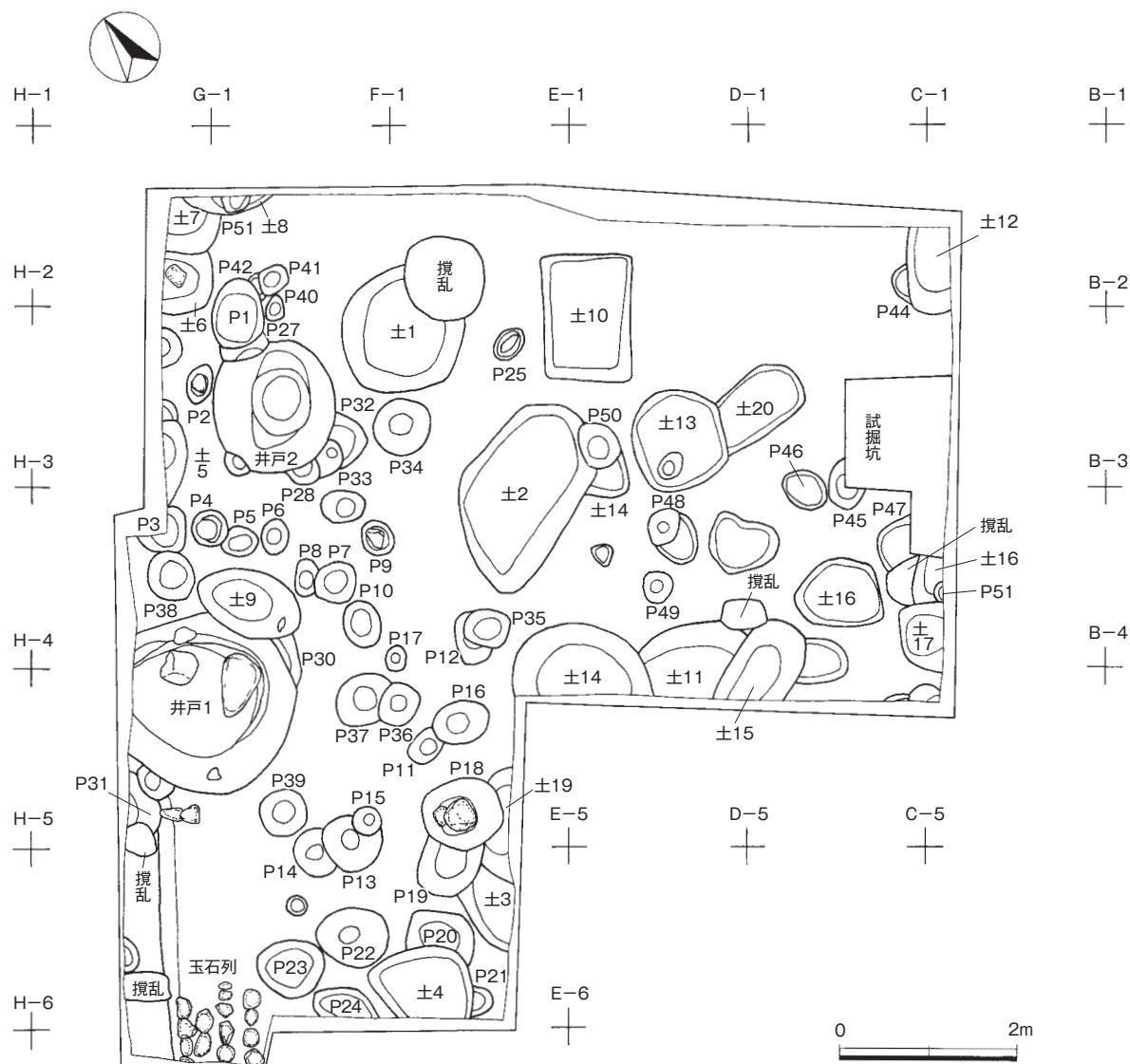


図5 第1面全測図

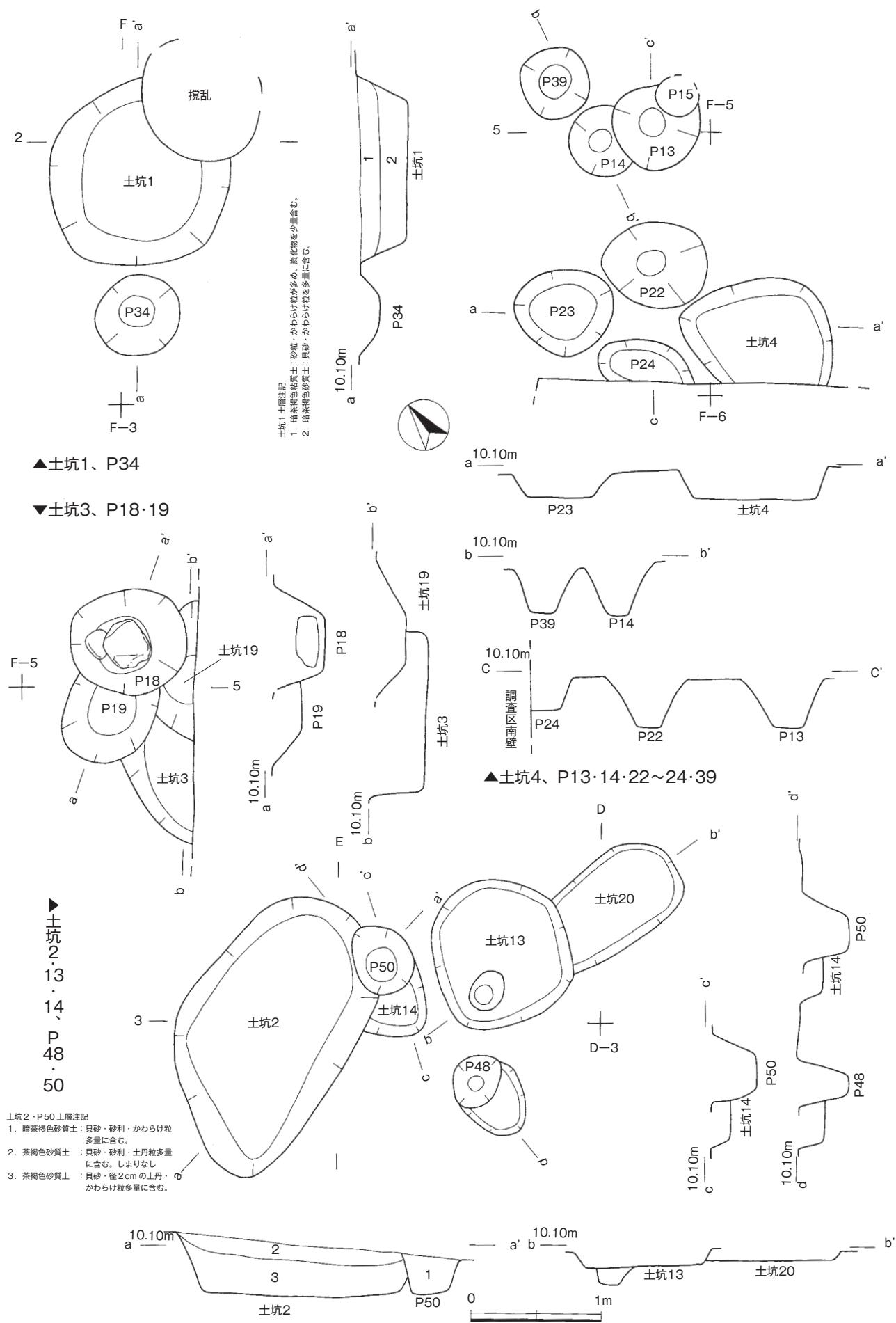


図6 第1面土坑・ピット(1)

ロクロ成形の大小皿がみられ、小皿は口径と底径の比率が小さな厚手器壁もの、11～13は手捏ね成形の小皿、厚手の器壁で口唇部が丸味もつ器形である。14・15は龍泉窯の青磁無文碗、16・17は北部系山茶碗で接合しないが同一個体の可能性がある。18は瓦器の手捏ね皿、19・20は瓦質香炉・羽釜、21は鍛造した断面四角形の鉄釘である。

土坑2：調査区中央E－3杭に位置した大型土坑、土坑14・P 50と重複関係にあるが前者の土坑より新しく、ピットより古い遺構である。形状は橢円形を呈し、大きさは長径2.16cm、短径125cm、深さ48cmであり、掘り方は底面の平らな逆台形状の断面形を呈する。覆土は完形品を伴うかわらけ片を多く混入した茶褐色砂質土が主体を占め、上層に貝砂・砂利を多量に含む薄い堆積が認められた。かわらけを廃棄したゴミ穴と考えられる。出土遺物は図8－22～36がロクロ成形のかわらけ大小皿、37～51が手捏ね成形のかわらけ大小皿である。29・34・35・46は油煙煤の付着した灯明皿、27・51は焼成後に穿孔したもの。52は青白磁梅瓶で外面に渦巻文、53は渥美窯の壺である。

土坑3：F－5杭東側に位置し、遺構の大半は土坑19やP18・19の掘削により壊され、さらに調査区外にかかるため全容は不明である。確認した規模は南北軸130cm・東西軸60cm以上、深さ45cm、掘り方は断面逆台形を呈し、底面は平坦での海拔高9.50mを測る。覆土は主に暗茶褐色砂質土の単一層で構成されていた。遺物は図8－54～61がロクロ成形の大小皿で口径と底径の比率が小さめで器高の低いもの、62が手捏ね成形の大皿である。63は龍泉窯青磁の鎧蓮弁文碗、64は常滑窯の甕が出土している。

土坑4：F－6杭北隣で調査区外に架かり全体の規模は解らない。確認した大きさは東西径105cm・南北径90cm以上、深さ25cmで平坦な底面である。覆土の主体は暗褐色砂質土で上層に炭化物の多い暗茶の褐色土の薄い堆積がみられた。出土遺物は図8－65～67のかわらけでロクロ・手捏ね成形である。

土坑5：G－3杭西隣に位置し、大半が調査区西壁に架かる。確認できた大きさは南北径96cm、東西径28cm以上、深さ68cmで断面擂鉢形を呈する。覆土は3層からなり、上層が貝殻・かわらけ粒を多量に混じえた暗褐色砂質土、中層が締りのない砂質土、下層が締りのある茶褐色粘質土である。遺物は図9－1・2でロクロ成形のかわらけ小皿と常滑窯の甕胴部片である。

土坑9：G－3杭南側に位置し、井戸1・P30の遺構一部を壊して掘り込んでいる。平面形状は橢円形を呈し、大きさは長径120cm、短径73cm、深さ22cmを測り、底面の平らな浅い掘り方で覆土はやや締まりのある茶褐色砂質土である。図示可能な遺物は図9－3の白磁四耳壺だけである。

土坑10：E－2杭に位置した長方形を呈した方形土坑である。大きさは長軸142cm、短軸96cm、深さ35cmで覆土は土丹粒を多く含む締まりのない砂質土でかわらけ片を多く伴っている。底面が平らな逆台形の断面をもつ掘り方で底面の海拔高9.60mである。図9－4～6・8～11はロクロ成形のかわらけ大小皿、7は白かわらけで外底が回転糸切底のもの、12は手捏ね成形のかわらけ小皿である。13は同安窯青磁の櫛搔文碗、14は龍泉窯青磁の劃花文碗である。

土坑11：D・E－4ライン間に位置で検出された。土坑14・15の掘削により壊され、南側は調査区外に拡がっているために全体規模は不明である。確認した大きさは東西径120cm・南北径85cm以上、深さ10～20cmで底面が凹凸をもつ掘り方である。覆土は貝砂を含む暗茶褐色砂質土でかわらけを多く伴っていた。出土遺物は図9－15～22はロクロ成形かわらけで小皿が低い器高の口径と底径の比率が少ないものが主体を占める。23～26は手捏ね成形のかわらけ、27は白磁口兀皿である。

土坑12：A区北西隅に位置し、調査区外に拡がるので全体規模は不明であり、P44を壊して掘られた新しい遺構である。確認された大きさは南北96cm・東西40cm以上、深さ30cmを測り、断面形が浅い皿状の掘り方である。覆土は土丹粒・かわらけ片を多量に含む締まりのない茶褐色砂質土の単一層であ

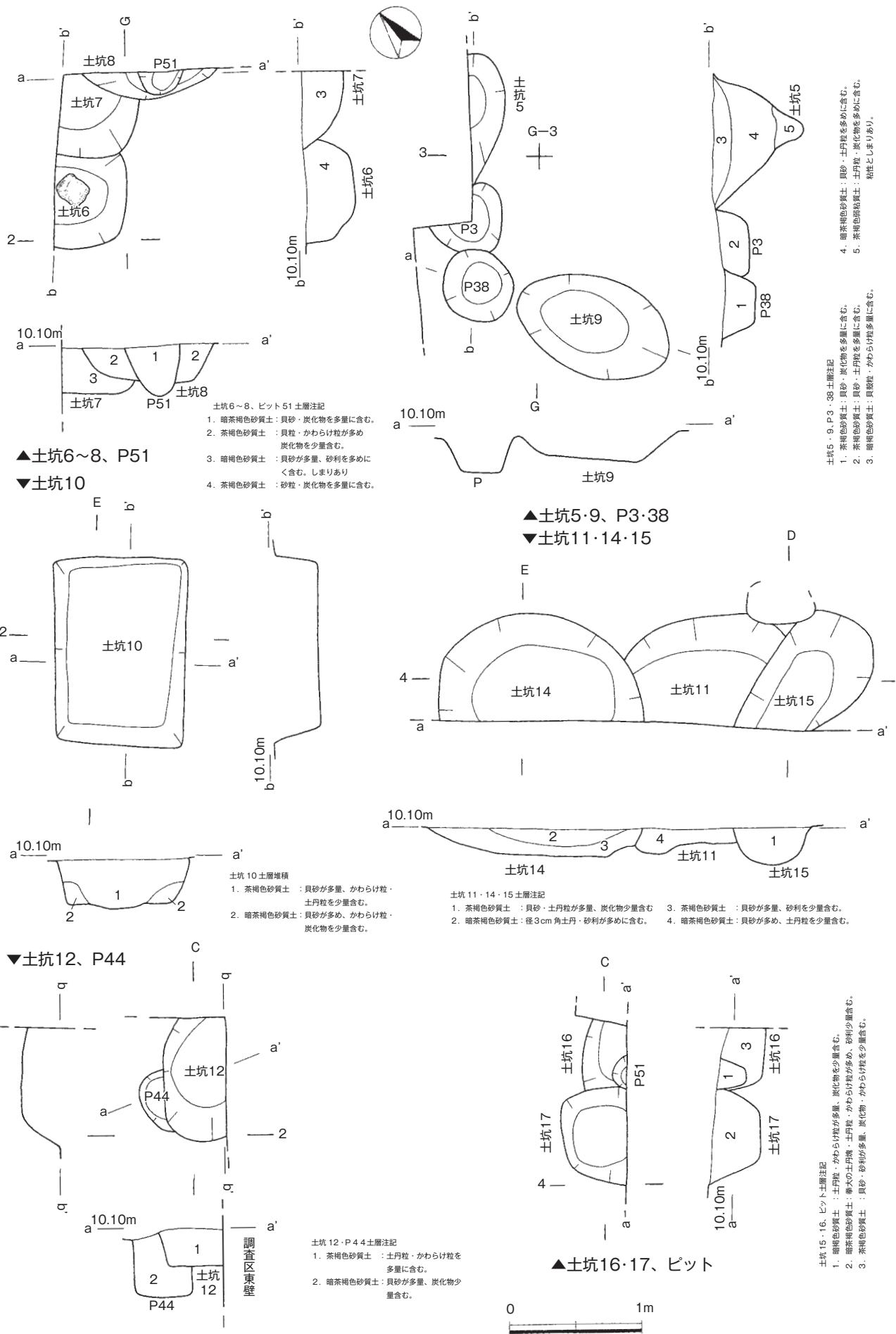


図7 土坑・ピット(2)

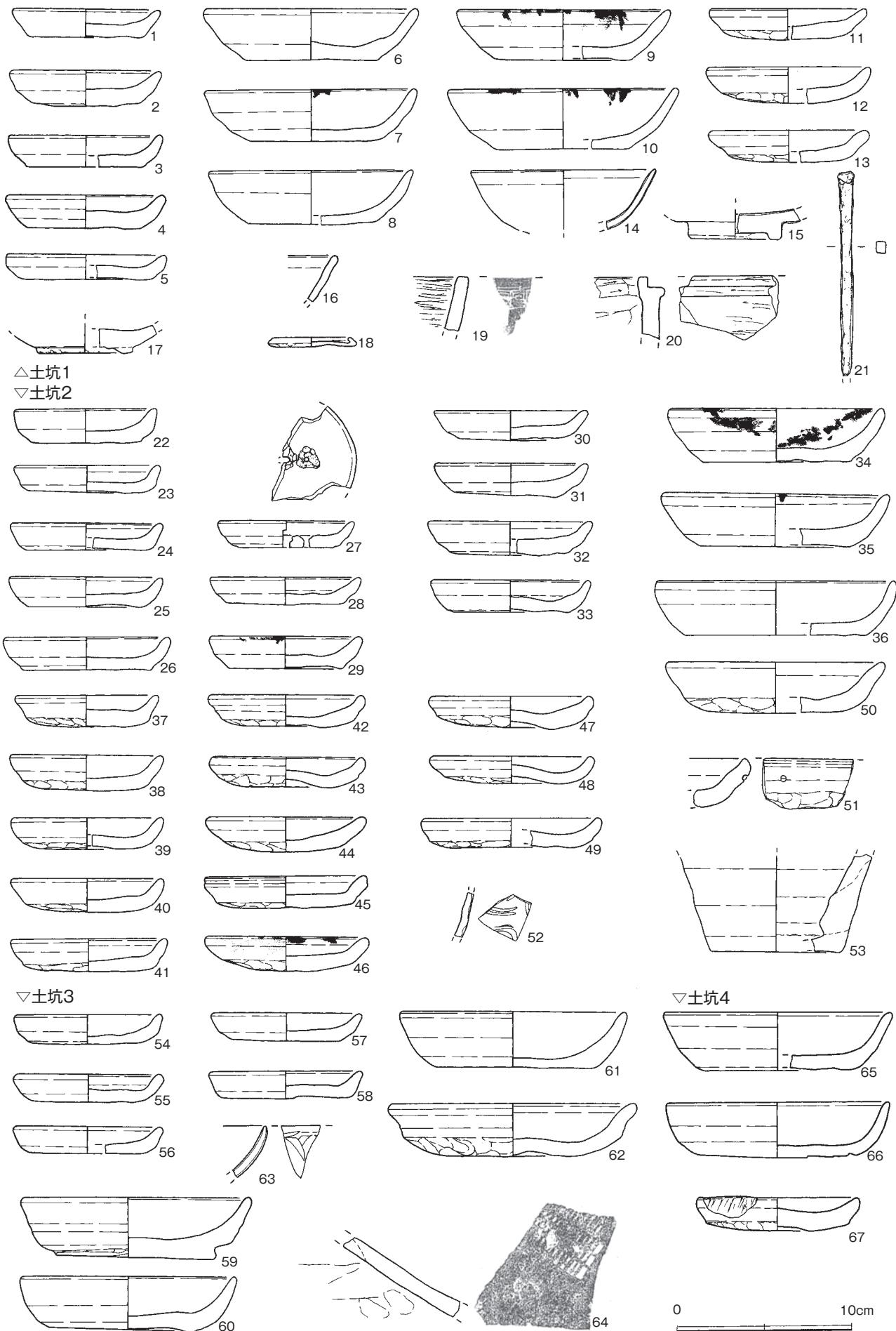


図8 土坑出土遺物(1)

る。遺物は図9-28・29がロクロ成形のかわらけ小皿、30・31が手捏ね成形の小皿が出土している。

土坑13 : D-3杭の北隣に位置し、土坑20の一部とピット上部を壊して掘り込んでいる。形状は隅丸方形状を呈し、長径112cm、短径105cm、深さ15cmを測り、底面が平らな断面が浅い皿状の掘り方である。覆土は土丹小塊や貝砂粒を少量含む暗茶褐色砂質土である。出土遺物は図9-32～36のロクロ成形のかわらけ小皿である。

土坑14 : E-3杭の位置で土坑2、P50の掘り方で大半が削平を受けていた。確認できた大きさは東西径65cm・南北径42cm以上、深さ15cmを測る。覆土は土丹細片と砂利を多く含む茶褐色砂質土、出土遺物はかわらけ細片だけで図示できなかった。

土坑15 : D-4杭に位置し、土坑11の東大半を壊して掘り込んでいる。南半部は調査区外に拡がり、確認した大きさは東西径115cm・南北径72cm、深さ28cmを測り、断面U字状の掘り方をもつ。覆土は貝砂、炭化物を多く含む茶褐色砂質土で、実測可能な遺物は出土していない。

土坑16 : C-4杭の北隣に位置し、土坑17・P51の掘り方と試掘坑により大半が削平を受けていた。確認できた規模は南北径50cm・東西径25cm、深さ35cmの擂鉢状断面の掘り方を呈する。覆土は貝砂・砂利を多量に含む砂質土、遺物は図9-37・38のロクロ成形のかわらけ大小皿、大皿は灯明皿で口縁部

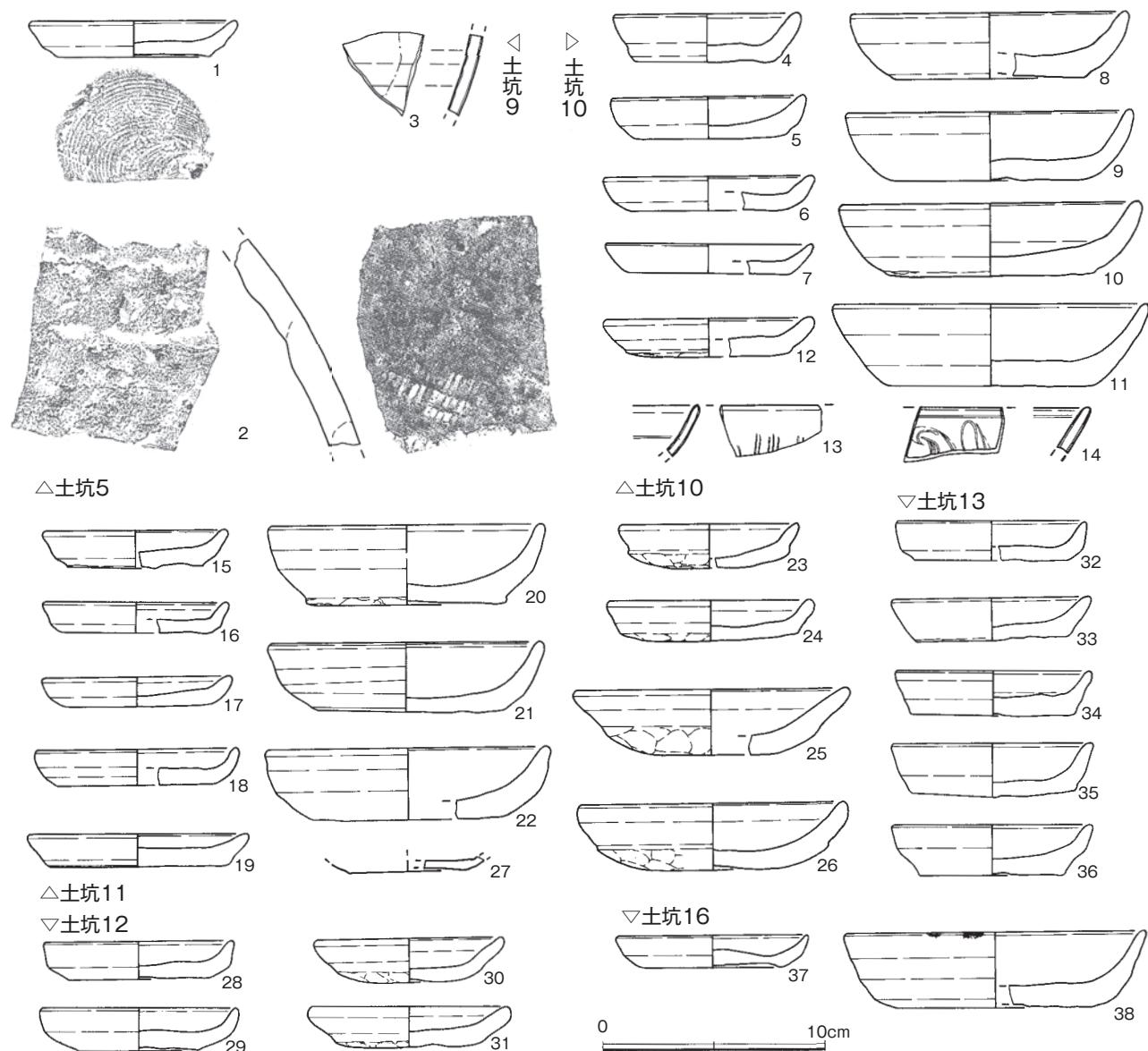


図9 第1面土坑出土遺物(2)

に油煙煤が付着する。

土坑17：東側は調査区外に架かる形で検出された。確認された大きさは南北径75cm、東西径50cm以上、深さ40cmで断面逆台形の底面平坦な掘り方を呈する。覆土は拳大の土丹塊、かわらけ粒を多く含む茶褐色砂質土である。遺物はすべてロクロ成形のかわらけ細片だけで図示できなかった。

土坑19：F-5杭の東隣に位置する。重複関係を観察すると、土坑3を掘り込んで新しく、P18・19の掘り方に壊されたもので、東半部は調査区外に延びている。確認されたのは南北径132cm・東西径35cm以上、深さ50cmを測り、底面が平坦な掘り方で海拔高9.60mである。覆土はやや粘性をもち、締まりがある暗茶褐色土で、良好な遺物の出土は見られなかった。

土坑20：D-3杭の北隣に位置し、土坑13により西側が壊されている。掘り方は長楕円形と思われ、確認できた大きさは東西径110cm以上、南北68cm、深さ10cmの浅い掘り方である。覆土は砂利、炭化物を多くしまりの無い砂質土で、図示可能な遺物の出土はみられなかった。

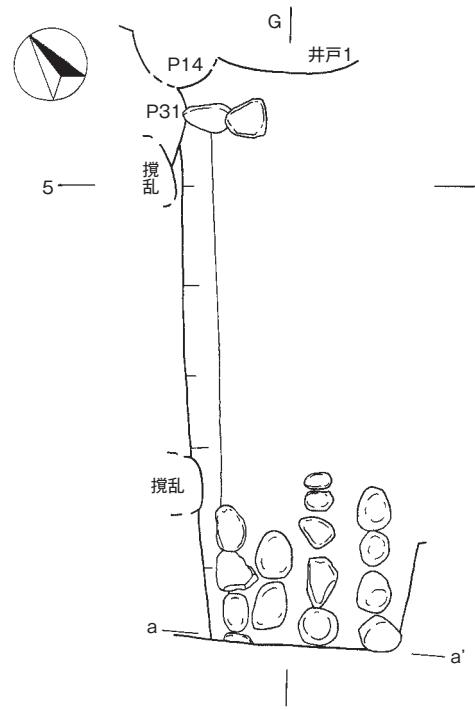
b. 玉石列(図10)

調査区南西隅において、西壁に沿って貝砂や砂利を多量に混入した硬く締まる茶褐色砂質土の地形層がある一定の範囲が確認され、その地形層中に4列の構成で据えられたような状態で伊豆石の玉石列を検出した。玉石列はグリットの南北軸に並行した方位を示し、N-39°-Eである。なお土層観察から玉石列は調査区南壁へ架かって状況で確認されており、調査区外へ伸びていくことが判明している。

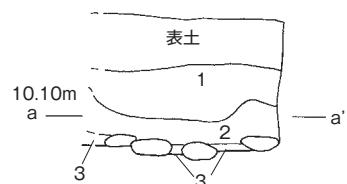
4列の玉石列は、西端に位置した1列目が4個、2列目が大型のもの2個、3列目が5個で北側3個が小型のもの、4列目が4個の伊豆石がそれぞれを検出している。さらに1・2列目の軸線上で北方向へ2m程離れた位置に2個の伊豆石が認められた。伊豆石は円形～楕円形を呈しもので、径15～25cm、厚さ7～10cmの水摩した扁平な川原石を用いている。玉石列上面は海拔高10.0m前後である。遺物はかわらけ小片だけで図示可能な資料は出土していない。

c. 井戸(図11・12)

井戸1：調査区南側でG-4杭に位置し、西端が調査区外に架かり検出した。土坑9より古いが、P30を掘削している。木枠などの井戸枠などは廃棄の際に抜かれたのか遺存していない。掘り方の形状は不整円形を呈し、大きさは南北径198cm、東西径185cm以上、深さ275cm、底面の海拔高7.30mを測る。掘り方は壁面の上部が開く形状で東側は裏込にあたる部分が25cm程拡がり、底面にかけて軽い段をもつ底面が円形で径120cm前後の平坦な掘り込みである。覆土は上層に径25～70cm程の土丹塊が多く



▼調査区南壁西端土層断面



玉石列土層注記
1. 近世～近代整地層
2. 暗褐色砂質土：かわらけ粒・砂利・炭化物を少量含む。
3. 茶褐色砂質土：貝砂・砂利が多量に含む。硬くしまる。

0 1m

図10 第1面玉石列

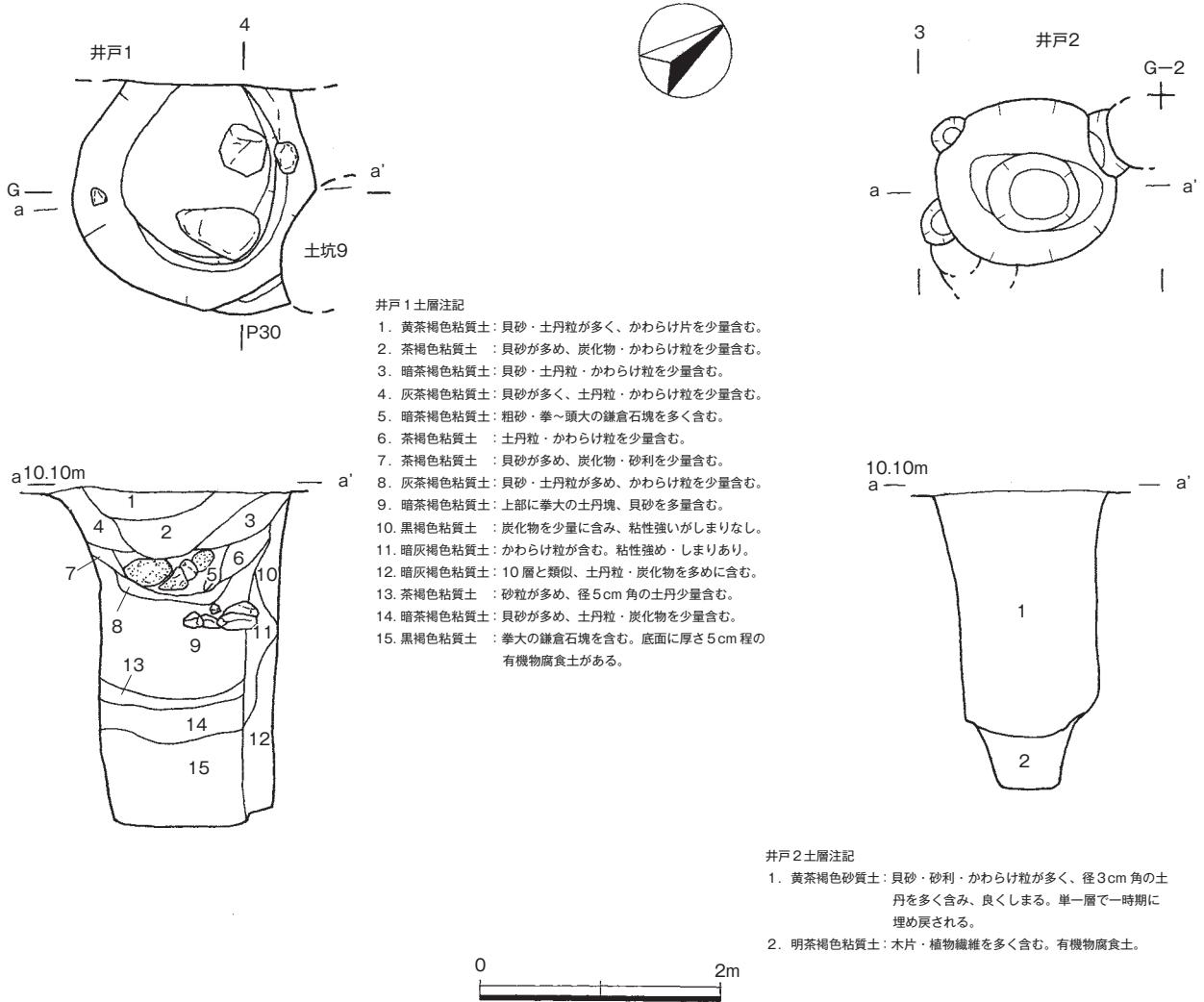


図11 第1面井戸1・2

みられ(2~5層)、中層は拳大の土丹塊を含む暗茶褐色土(9層)、下層には拳大の鎌倉石小塊を含み、底面上には厚さ約5cmの木枝や藁状纖維が混じる有機物腐食土の堆積が認められた。

出土遺物は図12-1~25のロクロ成形、26の手捏ね成形のかわらけである。ロクロ成形は小皿に1~6の口径6cm台の一群と、7~12の口径7.4~8.1cmの一群とがあり、中皿には13~20の口径8.8~9.8cmがみられ、小中皿ともに開き気味で直線的に立ち上がる器壁をもつ器形が主体を占めていた。25の大皿は口径15cmに近い大型品で厚手の直線的な器壁から口縁が外反気味になる。24は口縁部を刃物で削る加工を施している。27は龍泉窯の青磁劃花文碗、28・29は瀬戸窯の鉄釉花瓶・壺、30は常滑窯甕片を転用した磨り陶片で叩目が木の葉文である。遺物組成から15世紀代に下るものである。

井戸2: 調査区北西のG-3杭に近隣し、井戸1から北へ2m離れた位置で検出した。平面形は橢円形を呈し、大きさは長径150cm、短径133cm、深さ233cmであるが、底面の中央部には径70cm、深さ50cm程の円形を呈した土坑状の掘り込みが認められた。木枠などの井戸枠はみられない。覆土は2層からなり、上層が貝砂・砂利・かわらけ粒を多く含んだ締まりの強い黄茶褐色土の単一層からなり、一時期に埋め戻された可能性が高い。2層の下層は木片や植物纖維を多く含む有機物腐植土である。

出土遺物は31~33がロクロ成形かわらけの大小皿、34が手捏ね成形のかわらけ小皿である。35は龍泉窯の青磁劃花文碗、36・37は常滑窯の片口鉢I・II類、38は瓦器内折れ小皿、39・40は瓦質火鉢、

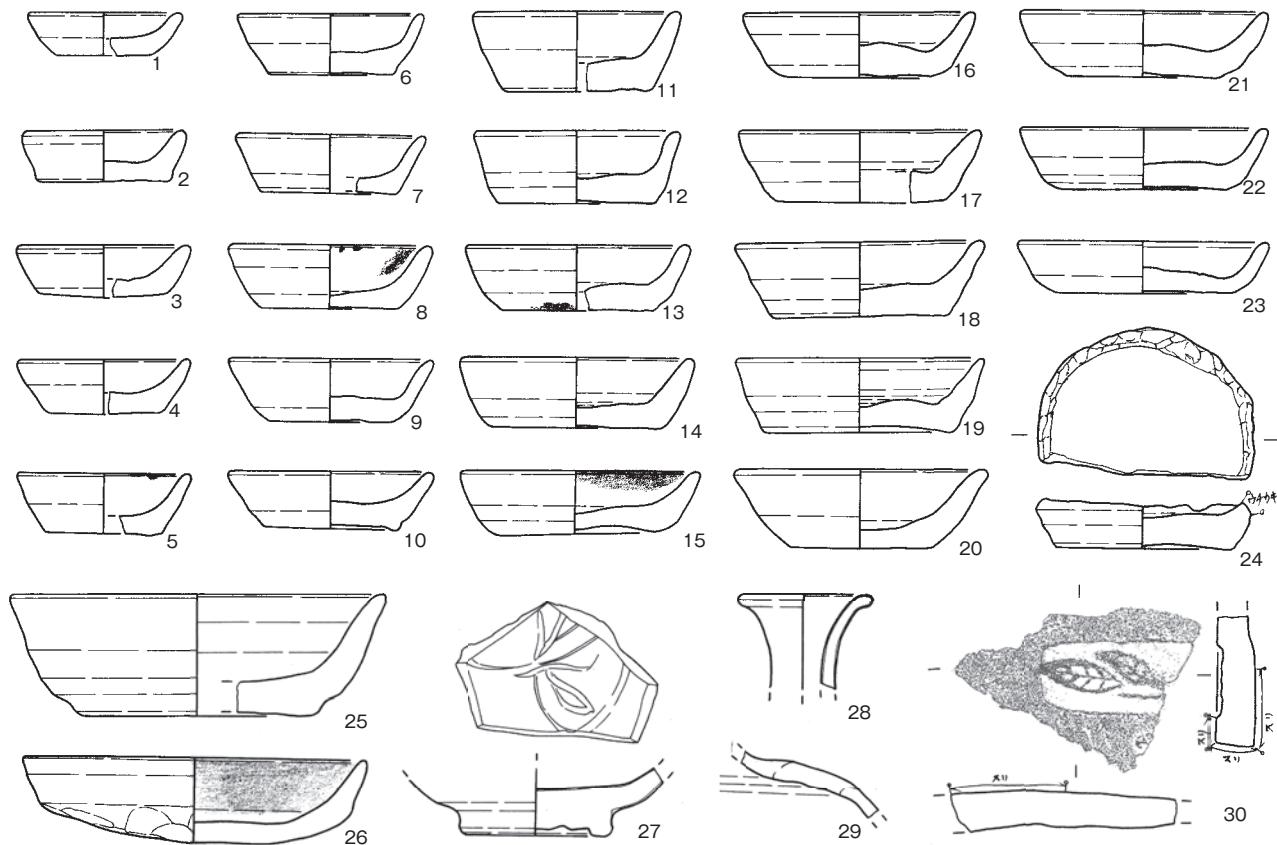


図12 第1面井戸1・2出土遺物

41は女(平)瓦である。

d. ピット(図6・7・13・14)

調査区のほぼ全域にわたり、ピット62穴を確認したが、柱並びの確かなものは確認されておらず掘立柱建物などを復元するに至っていない。このうち、遺物を出土したものや特徴のあるピットについて簡単に触れる。

P1: G-2杭に位置し、P27・42を壊して掘り込んだ新しい遺構である。大きさは長径73cm、短径52cm、深さ20cmで橢円形を呈し、底面が平らな浅い掘り方である。遺物は図14-1のロクロ成形かわらけ小皿である。P2: P1と西隣に位置する。大きさは長径43cm、短径28cm、深さ37cmの橢円形を呈した掘り方で、底面に礎石を据えていた。礎石は径約20cm、厚さ8cmの扁平な伊豆石を用いている。覆土は貝砂・粗砂を多めに含む茶褐色砂質土で、2の手捏ねかわらけの小皿が出土した。P3: G-3杭の西隣に位置し、P38の掘り方に一部を壊される。円形を呈し、径57cm、深さ27cmの浅い掘り方である。

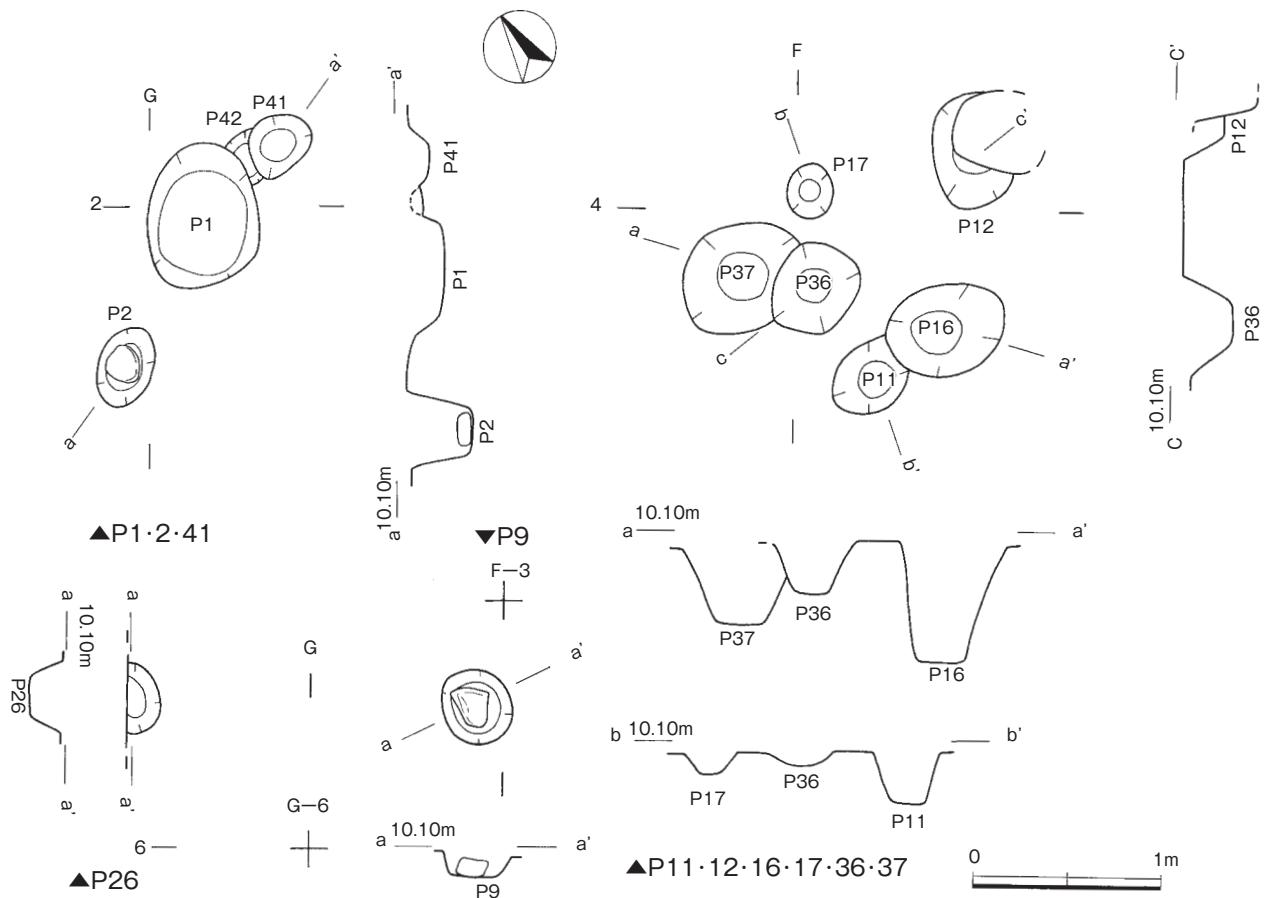


図13 第1面ピット

出土遺物は3のロクロ成形で薄手丸深のかわらけ中皿である。P9:F-3に近接した位置し、掘り方は径40cm程、深さ15cmの浅い円形を呈し、底面に扁平な伊豆石を据えている。遺物は4のロクロ成形のかわらけ大皿が1点出土した。

P11:F-4杭の南側に位置し、P16よりも古いピットである。楕円形を呈し、長径45cm、短径35cm、深さ30cmで覆土は貝砂・砂利混りの暗褐色土である。遺物は5がロクロ成形かわらけの薄手丸深になる大皿、6は瓦器質の三足釜、7は鉄釘である。P13:F-5杭に近接した位置、新旧関係を観察するとP14よりも新しい。掘り方は円形を呈し、径67cm、深さ37cmの底面径の小さなもの。遺物は8が龍泉窯青磁の蓮弁文碗、9が鉄釘である。P14:円形の掘り方で径57cm、深さ43cmの小さな底面径を呈す。出土遺物は10・11がかわらけでロクロ成形の小皿と手捏ね成形の大皿、12が青白磁梅瓶である。P16:楕円形の掘り方で長径62cm、短径50cm、深さ65cmを測り、覆土は砂利を多く含む茶褐色砂質土で遺物が14のロクロ成形小皿1点が出土した。P18:F-5杭の東隣に位置し、土坑19・P19の掘り方一部が壊されている。掘り方は径約83cm、深さ40cmで円形に近い形状で底面には扁平な伊豆石の礎石が据えられている。暗褐色砂質土の覆土中からは15～21のロクロ成形のかわらけ大小皿、22～24の青白磁水注・梅瓶、25・26の鉄釘が出土した。P19:掘り方は楕円形状と思われ、長径70cm以上、短径67cm、深さ23cmの底面平らなものである。覆土中からの遺物は27・28がロクロ成形のかわらけ小皿、29が鉄釘である。

P22:F-5杭西側に位置し、掘り方は楕円形を呈した長径78cm、短径62cm、深さ38cmである。覆土は炭化物を多く含む茶褐色砂質土、遺物は30が手捏ね成形のかわらけ小皿と31の青白磁梅瓶が出土した。P23:P22の西隣で検出した。楕円形の形状で長径73cm、短径62cm、浅い掘り方で深さ15cm

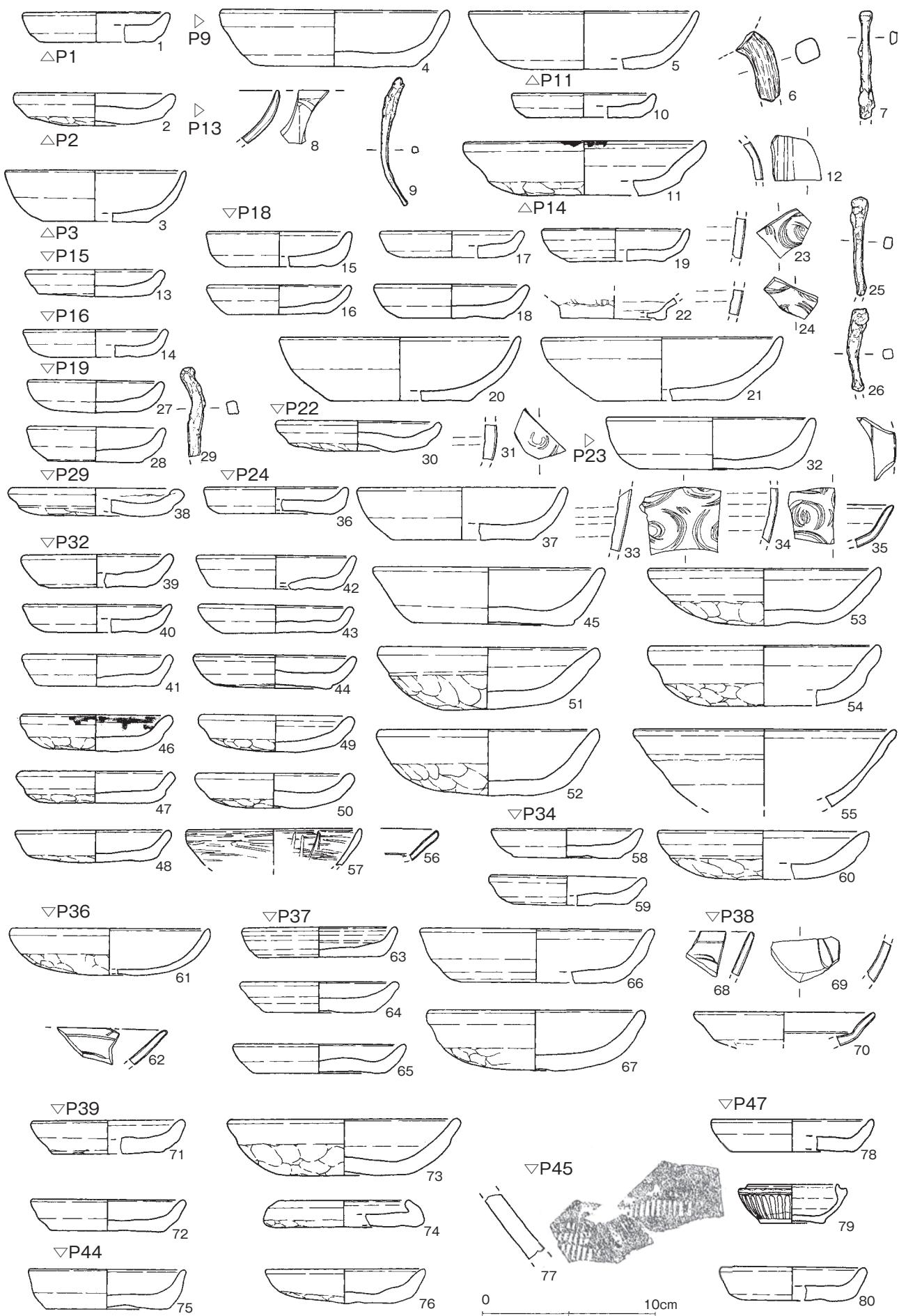


図14 第1面ピット出土遺物

である。覆土中からは32のロクロ成形かわらけの大皿、33・34が青白磁梅瓶、35の同安窯青磁の櫛搔文皿である。P24:P22・23に近接して調査区南壁に架かる。楕円形で長径72cm、短径30cm以上、深さ38cmで、遺物はロクロ成形のかわらけ大小皿である。P29:井戸2に一部削平される。円形で径35cm、深さ38cmの小型ピットである。遺物は38の手捏ねかわらけの小皿1点が出土した。

P32:井戸2・P33に一部削平される。径45cm以上、深さ40cm程の掘り方で覆土中からかわらけを中心に多量の遺物が出土した。39～45はロクロ成形のかわらけ大小皿、46～54が手捏ねかわらけの大小皿、55は東美濃系の山茶碗、56が同安窯青磁の櫛搔文皿、57が楠葉型の瓦器碗である。P34:土坑1とF-3杭の間に位置する。形状は円形を呈し、径65cm、深さ15cmと浅く底面径の小さな掘り方である。出土遺物は58～60がロクロ成形のかわらけ大小皿である。P36:F-4杭の北側に位置し、P37を壊して掘り込む。平面隅丸方形を呈し、径48cm、深さ28cmを測り、覆土は貝砂を多く含む茶褐色砂質土で61の手捏ね白かわらけと、62の白磁劃花文碗が出土した。P37:P3掘り方の一部を壊して検出した。平面隅丸方形を呈し、径60cm、深さ42cmを測る。覆土は炭化物・砂利を多めに含む砂質土、出土遺物は63～67がロクロと手捏ね成形のかわらけ大小皿である。P38:径58cm深さ42cmの楕円形を呈し、覆土は茶褐色粘質土の単層で土丹小塊がみられた。68～70が龍泉窯青磁の劃花文碗と皿が出土した。P39:G-5杭東側に位置する。径50cm前後の円形を呈し、深さ36cmを測る。覆土中からはかわらけで71・72のロクロ小皿と73の手捏ねのかわらけ大皿と内折れ小皿が出土した。

P44:調査区北東隅で土坑12に壊されて検出した。確認した大きさは径50cm以上、深さ35cm、覆土は茶褐色砂質土で締りなく、遺物は75・76のロクロ・手捏ね成形のかわらけ小皿である。P45:調査I区東端の試掘坑に架かる位置である。長径55cm、短径42cmの楕円形を呈し、深さ38cmと深い掘り方である。遺物は77の常滑窯甕片で格子目叩き痕がある。P50:E-3杭に近接した位置、土坑2・14を壊して掘り込むピットである。平面不整円形を呈し、長径55cm、短径37cm、深さ35cmである。覆土は貝砂・砂利・かわらけ粒を多量に含む暗茶褐色土、遺物は80のかわらけ小皿1点が出土した。

e. 遺構外出土遺物(図14)

遺構外とした遺物は第1面上の遺物包含層や遺構確認に伴った精査作業において出土した資料を一括してここに掲載した。図15-1～6はロクロ成形で糸切底のかわらけ小皿であるが、1は高い器高で口縁外反する資料であるのに対し、2～5は低い器高で内湾した器形が特徴的である。7・8の大皿は厚手の器壁で内湾器形である。9～11が手捏ね成形のかわらけ大小皿であり、9は内折れ気味の小皿、10・11は指頭圧痕の外底部と横位ナデの口縁部との境界の稜が明瞭である。12・13は龍泉窯の青磁無文碗

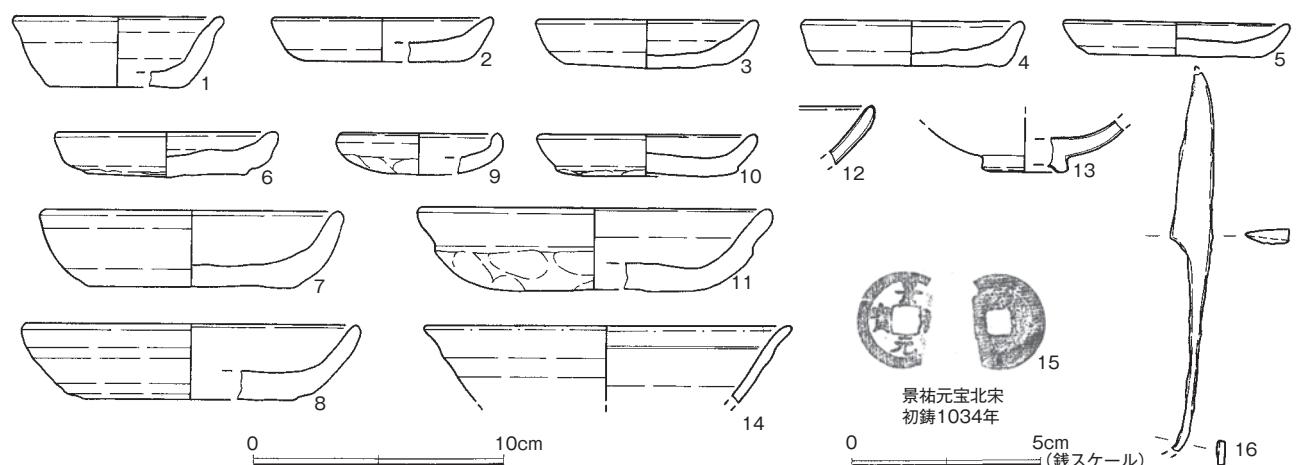


図15 第1面遺構外出土遺物

の口縁と底部破片、14は白磁口元碗で口縁が外反気味である。15は銅錢で一部破損するが「景祐元宝」(北宋初鑄年 1034 年)であろう。16は鉄製の鍔で片側は欠失する。

f. 第1面下かわらけ溜り・土丹塊敷面(図 16 ~ 20)

第1面の地形層(3層)とその下の茶褐色砂質土の薄い堆積土(4層)を除去すると、調査区北半部の位置で測量軸4ラインより北側域の広い範囲にわたり、かわらけ溜りと土丹塊敷面が検出された。これらは図16に示したように3ラインを境にして北側の面上に完形品や大型破片を中心とした多量のかわらけがゴミ捨て場的な状況で廃棄されていた。さらに南側には土丹塊を敷き詰めた一定の範囲を確認することができた。

かわらけはロクロ成形の小皿と大皿(図17・18)の一群に大別され、手捏ね成形は図19に示した大小皿の資料が認められた。ロクロは小皿が背低の口径8cm以上が主体、器形は薄い器壁で開き気味の資料と、内湾する器壁が認められた。大皿は低めの器高で口径と底径比の差が少ない資料が中心である。手捏ねは底部が平底気味でナデと指頭圧痕との境の稜が不明瞭な資料が多く認められた。図19-95~100は手捏ねの白かわらけである。図20-1~4は同安窯と龍泉窯の碗皿、5・6が青白磁皿・小壺蓋、7・8が皿・合子、9・10が山茶碗・皿、12~19が常滑窯片口鉢・甕、20・21が瓦器碗皿、22が掛け金、23が銅錢の祥符元宝か、24・25が碁石、26が京都鳴滝産の砥石、27が土丹の加工円盤、28・29が骨加工製品である。

かわらけの型式・器種別における数量の出土状況をみると(表2・3)、ロクロ成形(4,061点)・手捏ね成形(2,323点)・白かわらけ(49点)がみられ、個体数にして合計6,433点余りが出土している。かわらけの型式別の出土比率内訳は表2に示したとおり、ロクロ成形が63.5%、手捏ね成形が36.4%、白かわらけが0.1%以下であった。さらに各型式の器種別数量の組成を提示したのが表3である。ロクロ成形は大皿が2,580点(64%)、小皿が1,481点(36%)の出土比率で大皿が6割以上を占めていた。手捏ね成形は大皿が1,124点と、小皿が1,199点でほぼ等しい比率で出土している。

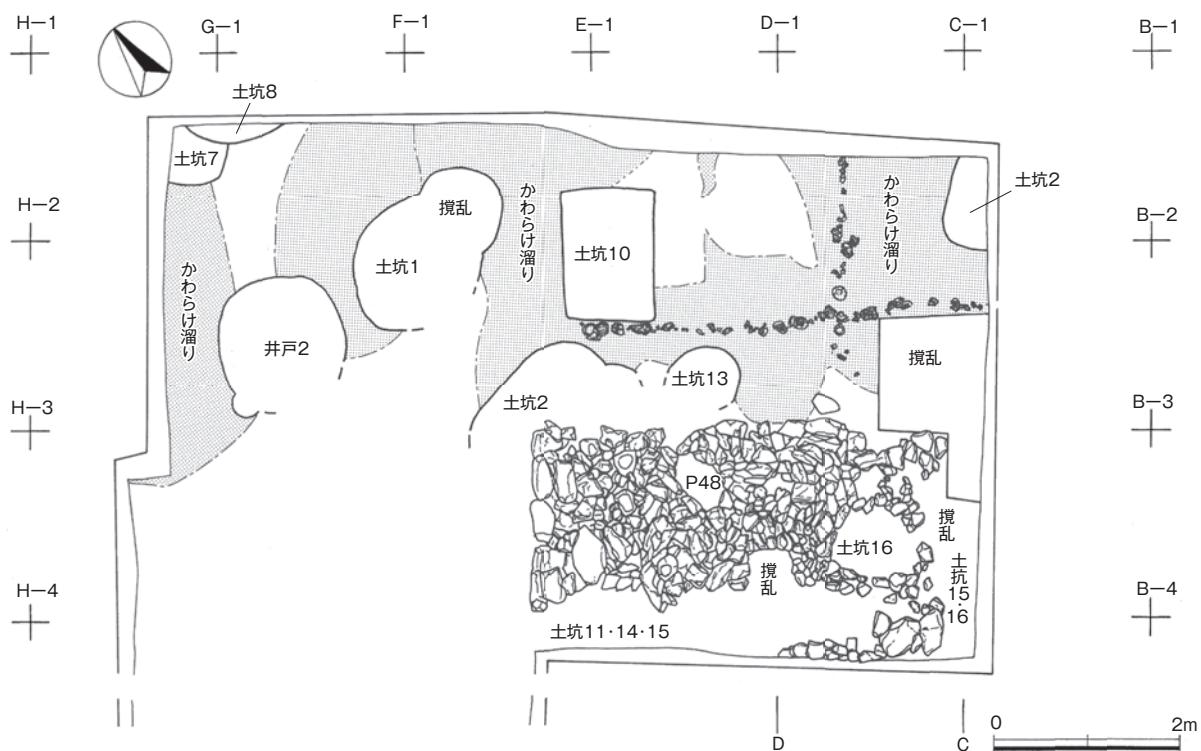


図16 第1面下のかわらけ溜りと土丹敷面

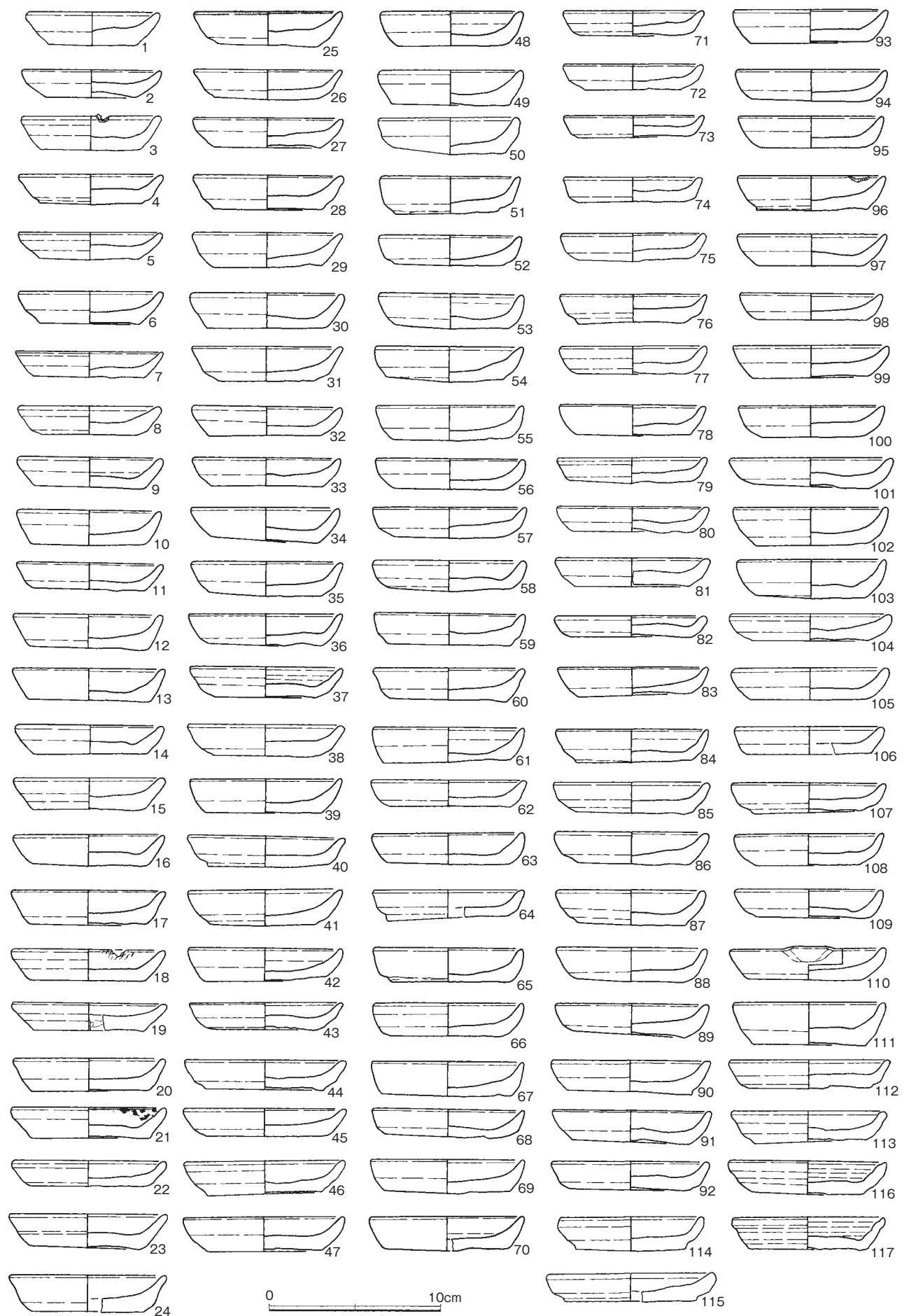


図17 第1面下かわらけ溜り出土遺物(1)

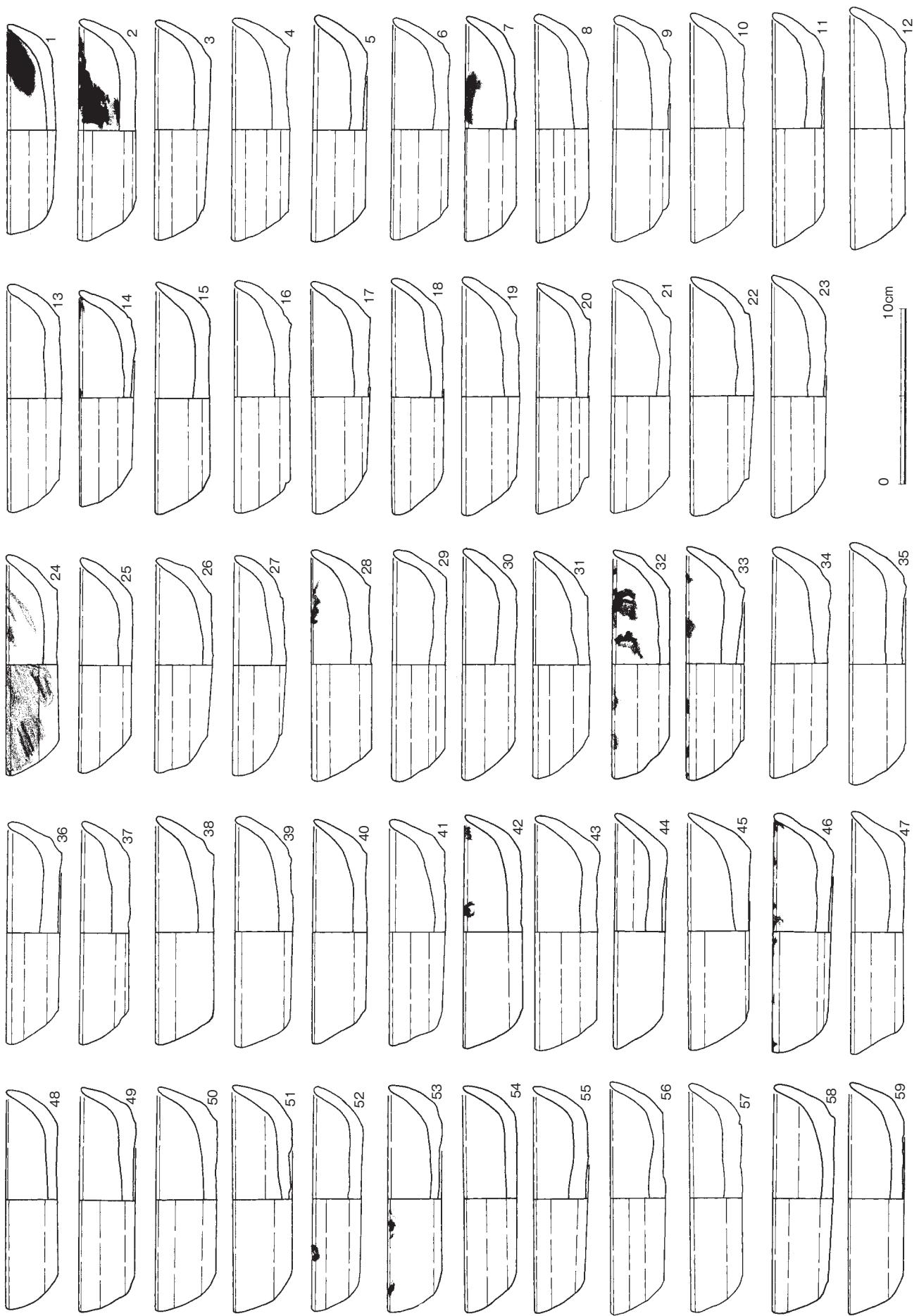


図18 第1面下かわらけ溜り出土遺物(2)

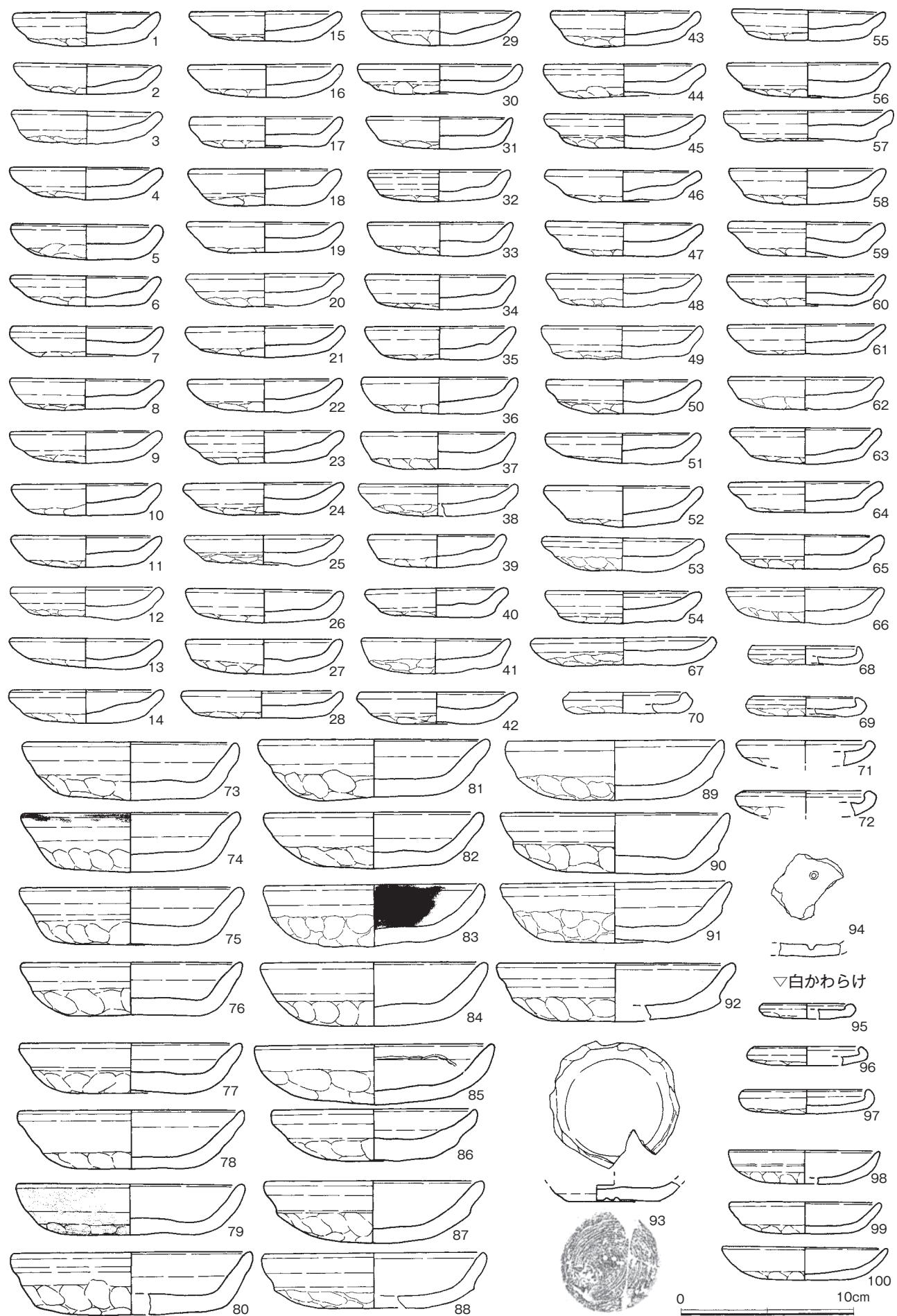


図19 第1面下かわらけ溜り出土遺物（3）

表2 第1面下かわらけ溜り型式別出土点数

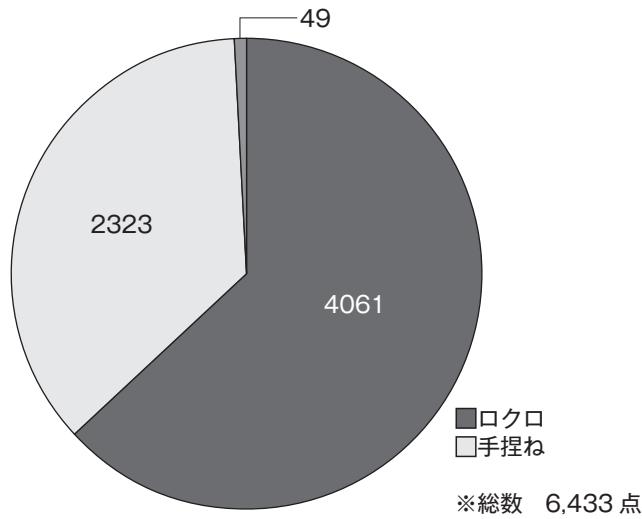
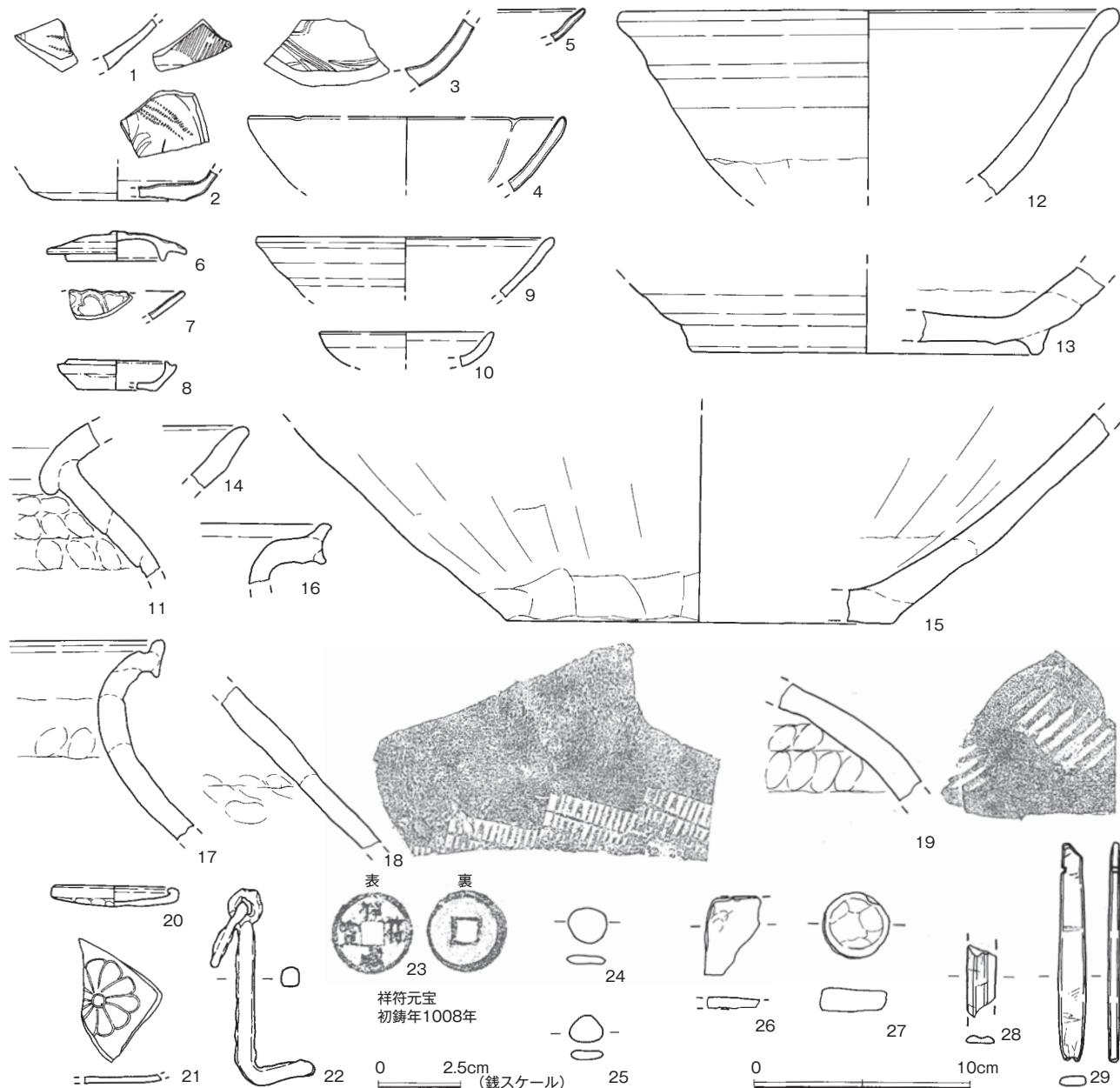
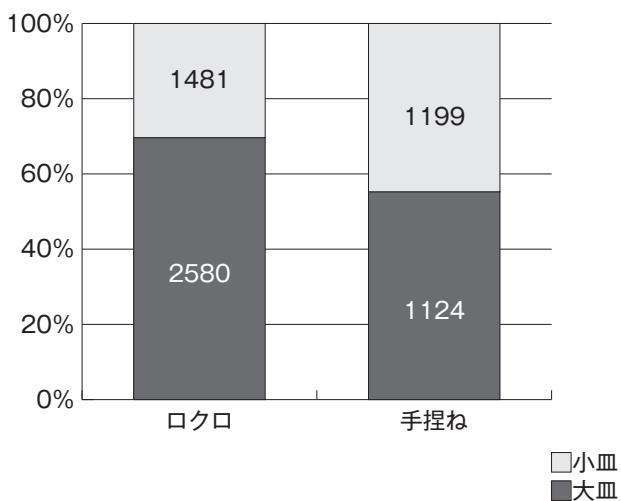


表3 第1面下かわらけ溜り器種別出土点数

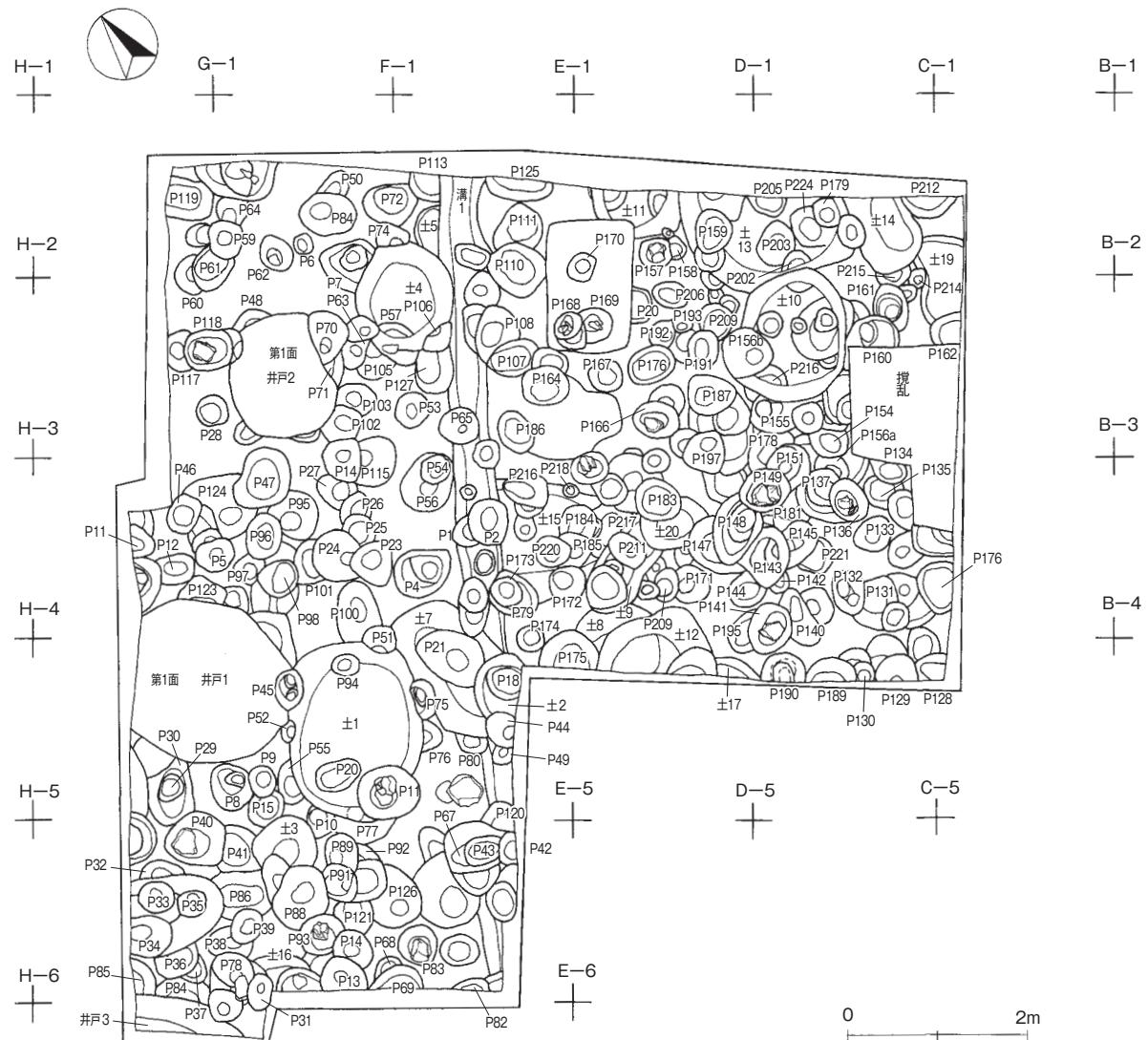


2. 第2面の遺構と遺物

現地表下55～75cm、海拔高9.75～90m、遺構確認は中世基盤層上で検出した地形層(10・11層)上面と、黒褐色粘質土の中世地山面の両面で確認した遺構を合わせて第2面としてここに掲載した。この面で検出した遺構には、掘立柱建物8棟、土坑基、井戸1基、溝1条、ピット穴などである。主な遺物は多量のかわらけ、青磁・白磁・青白磁などの舶載陶磁器、瀬戸・常滑・渥美窯の国産陶器、火鉢・瓦器・瓦などの製品、銭・釘の金属製品の他、土師器・須恵器などの中世以前の遺物も少量出土している。

a. 掘立柱建物(図21～23・34～37)

建物1：調査区中央のC～H-1～4に位置し、海拔高は9.87m前後で地形層上面から検出された。軸方位はN-23°20' Eである。調査区内で確認した建物の規模は東西4間×南北2間の掘立柱建物である。南北軸上に並ぶ柱穴が確認できなかつたので、この建物の南北柱間は2間幅であろう。柱間寸法は東西列(a1～a1')が西端のP12から206cm・196cm・210cm・186cmと各柱間の距離は不揃いな数値を示したが、南北列2間(a2～a2')の幅は各210cmほどである。柱穴掘り方は不整円形または橢円形を呈し、径35～65cm、深さ25～40cmである。東西列のP197・216の掘り方底面には礎版と思しき板状の痕跡が確認された。



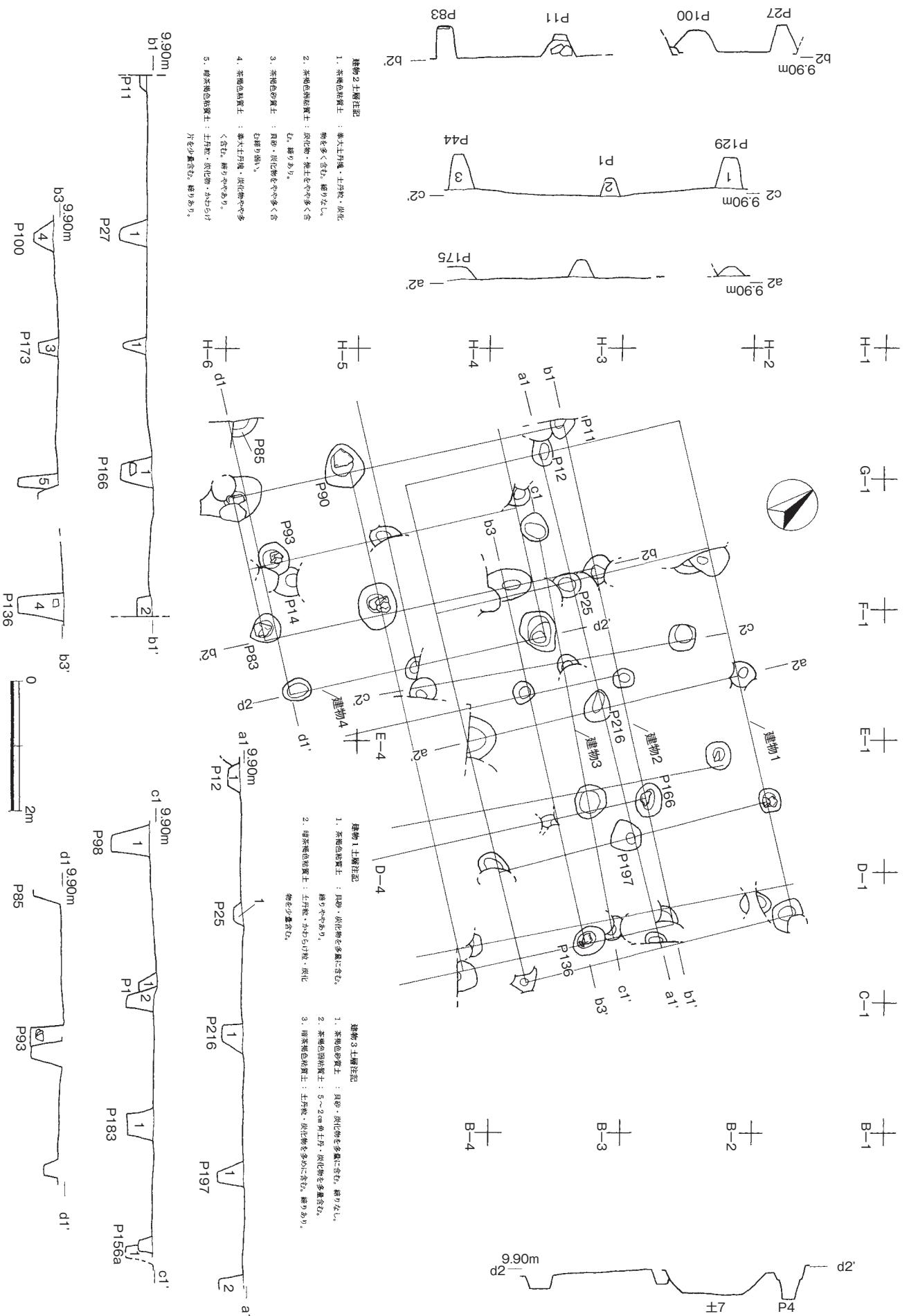


図22 第2面建物1～4

各柱穴の出土遺物は、P12の図34-9・P197の図36-71・P216の図37-7ともに常滑窯甕片である。

建物2：建物1の北端柱穴列と近い位置で検出されたが、新旧関係は不明である。東西4間と南北2間半を確認した掘立柱建物であり、南側は調査区外へ伸びる可能性が高い。海拔高9.85～92mで地形層上から確認され、軸方位はN-24°30'-Eである。確認した規模は東西7.79m、南北5.22m以上である。柱間寸法は東西位b列(b1～b1')が西から215cm・168cm・198cm・198cm、南北位b列(b2～b2')が南から202cm・180cmを測り、北端の柱間は140cmの距離に位置しており、庇や縁などの柱列の可能性が考えられよう。柱穴掘り方は、径36～65cmの円形または橢円形を呈し、深さは浅いP11以外が30～70cmである。底面にはP83・90・136・166のように土丹塊を混入した例が認められた。

各柱穴の出土遺物はP11が図34-9の龍泉窯青磁碗、P27が30・31のロクロ・手捏ねかわらけ小皿、P166が図36-27・28の手捏ねかわらけ大小皿である。

建物3：建物2よりも古い時期の掘立柱建物である。建物規模は調査区内で東西3間(6.18m)と南北2間(4.17m)が確認され、海拔高は9.90m前後である。建物の軸方位はN-26°30'-Eであり、建物1に比べてやや東に触れた主軸である。柱間寸法は東西位C列(c1～c1')の各間の芯々距離が西から210cm・210cm・198cm、南北位C列(c2～c2')の2間の芯々距離が192cm・215cmを測る。柱穴の掘り方は、径35～50cmで円形または橢円形を呈し、深さ35～55cmで中世地山上で確認した。掘立柱建物を構成していたP98・129・183の柱穴底面からは木質の腐食した礎板と思しき痕跡が認められた。

各柱穴の遺物をみると、P44は図34-51・52の手捏ねかわらけ小皿・53の土丹加工円盤、P98は図35-41の手捏ねかわらけ小皿、P183は図36-48の常滑窯甕の口縁部片が出土した。

建物4：調査区南側に位置し、確認した規模は東西2間、南北2間で調査区外に拡がる可能性が高い。建物の主軸方位はN-23°30'-Eで建物1と同一方向の掘立柱建物、確認した海拔高9.90mである。柱間寸法は東西列の2間が各210cm、南北列の2間が各198cmである。柱穴掘り方は橢円形を呈し、径30～45cm、深さ25～50cmと不揃いである。本建物は重複する土坑7より新しい。

建物5：調査区北側に位置し、確認した規模は東西3間、南北1間で北側の調査区外に拡がる可能性がある。建物7と重複関係にあるが、本建物の方が新しい。建物の主軸方位はN-35°40'-Eを測り、建物8と同一の軸方位を示している。柱穴掘り方は橢円形を呈し、径30～55cm、深さ28～50cmを測り、底面に伊豆石や土丹塊を据えた例が認められた(P57・118・149・168など)。覆土は貝砂・炭化物・土丹粒などを多く含む茶褐色砂質土である。出土遺物は、P57が図35-6の手捏ねからけ、P149の同図68は銅錢で「熙寧元宝」、P161・168が図36-6～8、29～31がロクロ・手捏ね成形かわらけである。

建物6：調査区西側に位置し、確認した規模は南北2間(柱間寸法各200cm)、東西1間(柱間寸法215cm)で主軸方位はN-28°30'-Eである。柱穴掘り方は橢円形を呈し、径40～60cm、深さ50～80cmである。柱穴に伴う遺物はP21から図34-21・22のロクロ・手捏ね成形のかわらけが出土している。

建物7：調査区北側に位置し、確認した規模は東西4間、南北2間主軸方位はN-29°40'-Eで建物6に近い柱通りになる。柱穴間隔は190～200cm、柱穴掘り方は橢円形を呈し、径40cm前後、深さはC1～C1'を観察すると一間おきに深さが変化し、P123・185が深さ60～75cm、間の柱穴は深さ40cm前後である。出土遺物は、P50から図34-56～64のロクロ・手捏ね成形のかわらけ、P103・P123から図35-43・49の手捏ね成形かわらけ、P185から図36-54の手捏ね成形のかわらけがみられた。

建物8：調査区北西に位置し、東西南北とも1間分(柱間寸法200cm前後)が確認された。柱穴掘り方は橢円形を呈し、径30～50cm、深さ30～65cmである。P36から図34-44のかわらけが出土している。

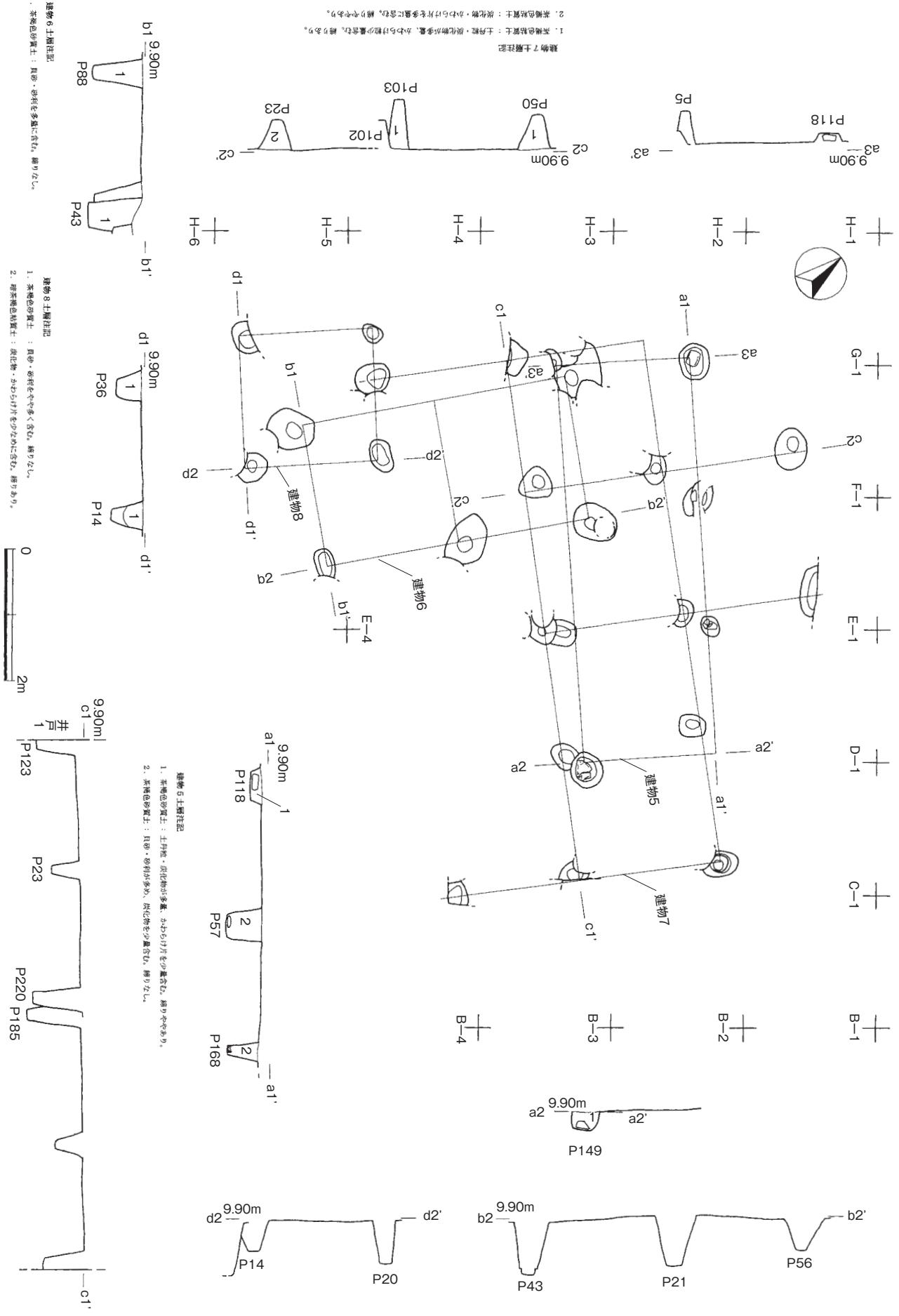
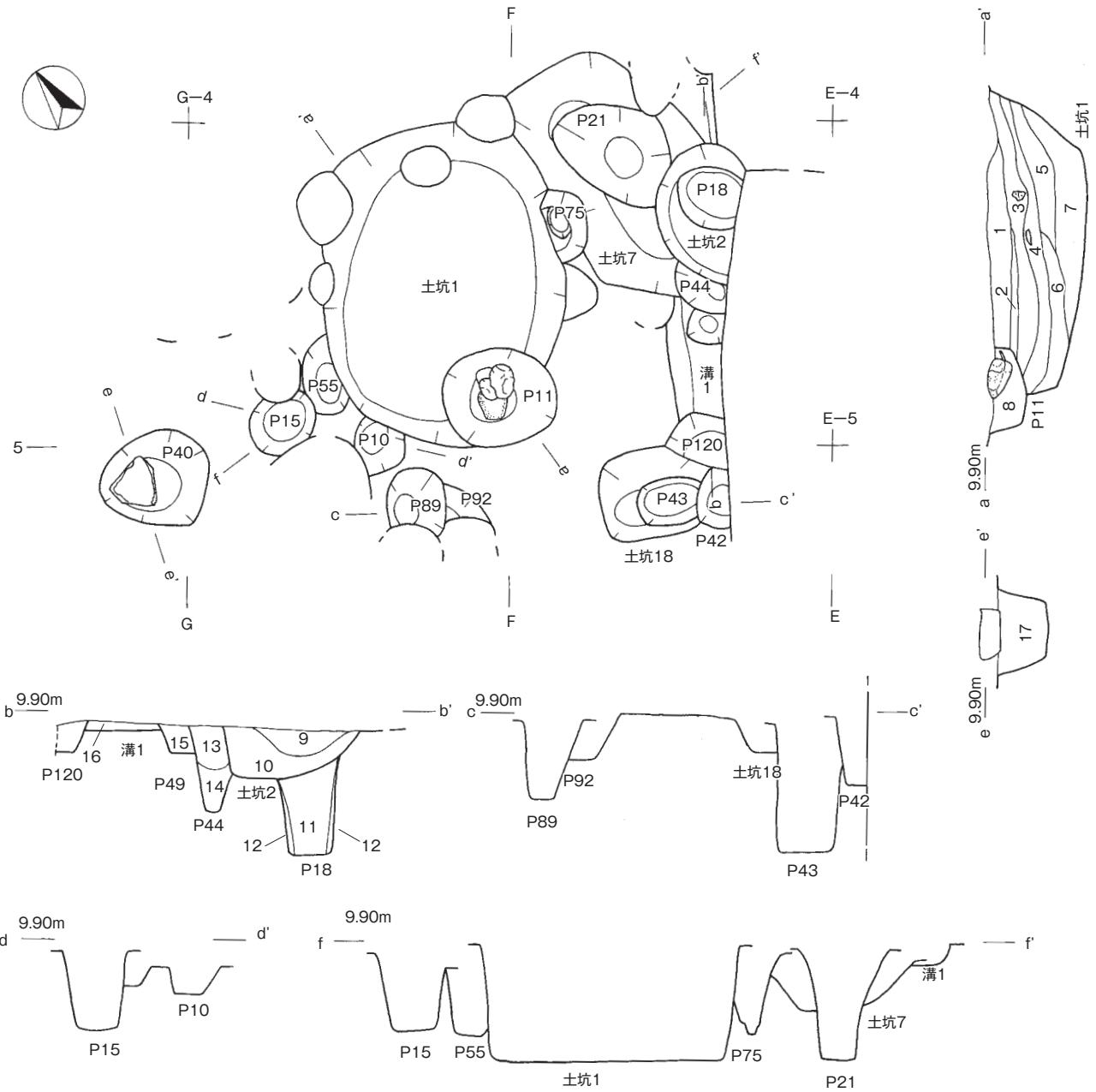


図23 第2面建物5～8



土坑1

1. 茶褐色砂質土：貝殻粒・かわらけ大小片・径2cm角土丹を多量に含む。
2. 茶褐色砂質土：炭化物を多量に含む。粘性・しまりなし。
3. 茶褐色粘質土：土丹粒・径2cm角土丹をやや多く含む。しまりあり。
4. 暗褐色粘質土：かわらけ粒・炭化物を多量に含む。しまりなし。
5. 茶褐色弱粘質土：土丹粒・明褐色粘質土のブロックを多量に含む。
6. 茶褐色弱粘質土：炭化物・明褐色粘質土のブロックを多量に含む。
7. 暗茶褐色砂質土：炭化物・焼土・明褐色c粘土のブロックを多量に含む。

P11

8. 茶褐色砂質土：貝殻粒・土丹粒・かわらけ粒をやや多く含む。土坑1を壊し掘り込む。

土坑2

9. 茶褐色砂質土：貝砂・拳大土丹・径1cm角土丹をやや多く含む。
10. 茶褐色砂質土：炭化物・土丹粒・径1cm角土丹を多量に含む。

P15

11. 茶褐色砂質土：炭化物・径2cm角土丹をやや多く含む。
12. 暗茶褐色粘質土：土丹粒・地山粘質土のブロックを少量含む。

P44

13. 暗茶褐色砂質土：貝砂・かわらけ粒を多量、炭化物を少量含む。
14. 暗茶褐色粘質土：土丹粒・かわらけ粒をやや多く含む。しまりあり。

P49

15. 暗茶褐色粘質土：土丹粒・かわらけ粒をやや多く含む。しまりあり。

溝1

16. 茶褐色砂質土：貝砂・炭化物を多量に含む。

P21

17. 茶褐色砂質土：貝砂・炭化物を多量に含む。



図24 第2面土坑・ピット(1)

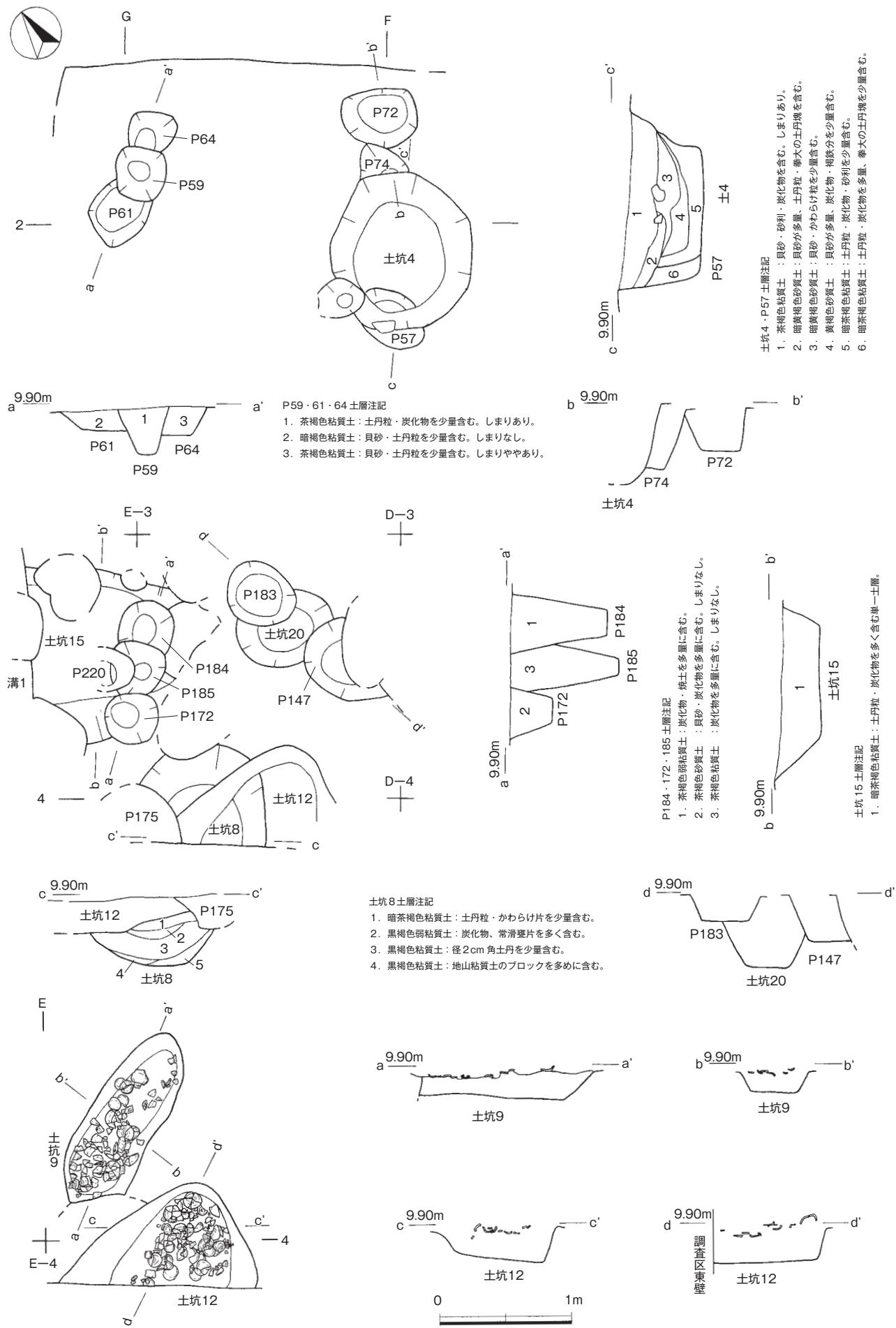


図25 第2面土坑・ピット(2)

b. 土坑(図24～31)

土坑1: 調査区北西中央、F-5杭から北側に拡がる大型の土坑が検出された。第1面の井戸1やP11に一部削平を受け、土坑7・P10・55・75を壊して掘り込まれていた。平面形状は南北位に長軸を有した橢円形を呈し、大きさは南北径206cm、東西径153cm、深さ67cmほどで平らな底面をもち、断面台型の掘り方である。覆土は7層から構成されており、上層は1・2層のかわらけ片や炭化物などを多く含む締まりのない茶褐色砂質土、中層は3・4層のかわらけ粒や土丹粒を多めに含む粘質土、下層は5・6層の中世地山の粘土ブロックを多く含み、最下層にあたる7層は焼土・炭化物・明褐色粘土ブロックを含んだ層位に大別された。出土遺物は、図27-1～5がロクロ成形のかわらけ大小皿であり、小皿は口径8.6cm前後で器高の低いもの、7～13の手捏ね成形かわらけは小皿が口径9cm前後であるが、大皿は口径12～14.8cmと一定していない。14・15は同安窯の櫛搔劃花文碗と龍泉窯の劃花文碗である。16～19は常滑窯の片口鉢I類と甕片である。

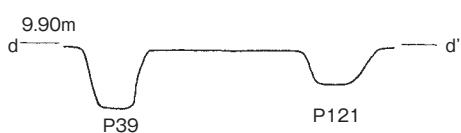
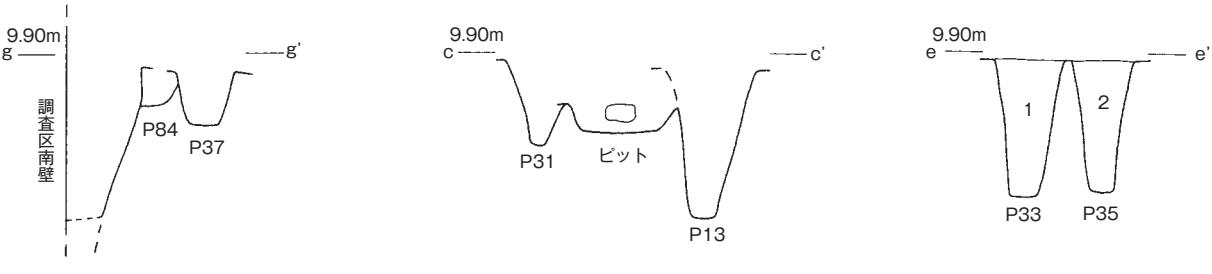
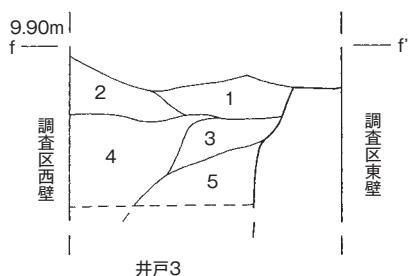
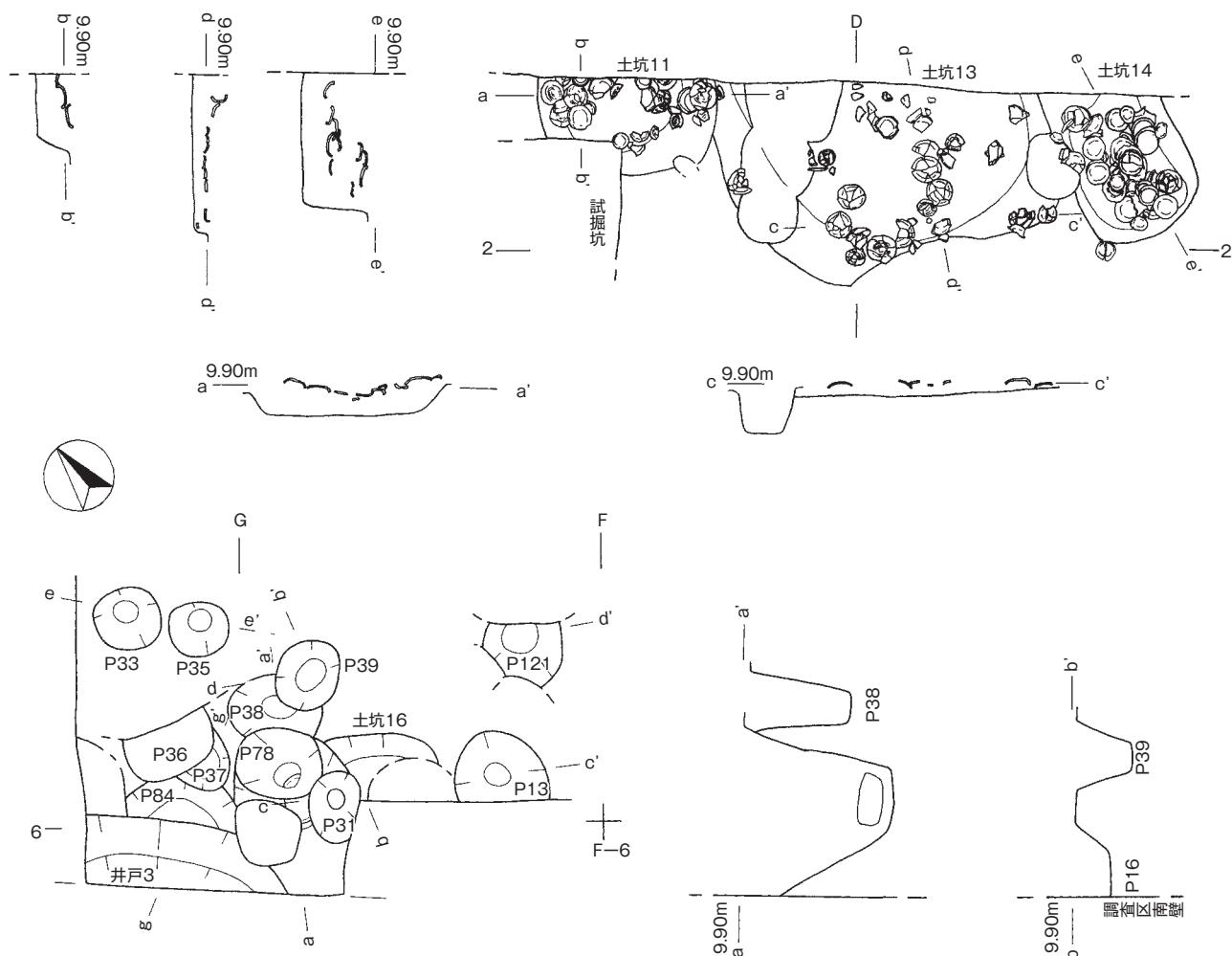
土坑2: 調査区中央、F-4グリットの位置で調査区外に拡がる土坑を検出した。本址は土坑やピットとの重複関係が確認され、土坑7、溝1、P21・44より新しく、P18で底面一部が掘削されている。確認した大きさは南北径86cm・東西径65cm以上、深さ32cmの浅い皿状断面を呈した掘り方である。覆土は上層が貝砂・拳大土丹塊を含む茶褐色砂質土、下層が炭化物・土丹粒を多量に混入した茶褐色砂質土で覆土中から良好な遺物は出土していない。

土坑4: 調査区北西域のF-2杭の位置で検出され、土坑5やP7・57・74を壊して掘り込んでいた。橢円形の平面形状で大きさは南北径118cm、東西径105cm、深さ63cmの断面逆台形の掘り方である。覆土は上層が1層の貝砂・砂利などを含む粘質土、中層が2～4層で貝砂の多い黄褐色砂質土、下層は5層の茶褐色粘質土で構成される。かわらけ細片だけで図示可能な遺物は出土していない。

土坑7: 調査区中央でF-4グリットの位置で他の遺構と重複形で検出された。本址との新旧関係を観察すると、溝1より新しく、土坑1・2やP18・21・44によって壊されており、全体像は不明である。確認できたのは南北径162cm、東西径102cm、深さ43cmの規模、平面形状は橢円形を呈し、断面U字型の掘り方をもつ。覆土は2層に区分され、上層が炭化物や小土丹塊をやや多く含む茶褐色砂質土、下層が土丹粒・かわらけ粒を含んだ暗茶褐色粘質土である。図27-20の銅製品で腰刀などの鞘の頭金が出土している。

土坑8: 調査区中央の南端、E-4杭の位置で調査区南壁外に拡がる土坑を検出した。遺構の上部は土坑9・12・P175によって削平を受けていた。確認できた規模は南北径76cm・東西径96cm以上、深さ54cmを測り、掘り方の断面形状がU字型を呈する。覆土は大別して3層に区分され、上層(1・2層)がかわらけ片・常滑片・炭化物を含んだ弱い締りの粘質土、中層(3層)が土丹小塊を混入した黒褐色粘質土、下層(4・5層)は底面に張り付くように中世地山に類似した黒褐色粘質土の薄い堆積が認められた。図示した遺物の大半は覆土上層からの出土資料である。図27-21～26・27～29はロクロ成形と手捏ね成形のかわらけ皿、30・31は龍泉窯の劃花文碗、32は南部系の尾張型山皿、33は女瓦(平瓦)で永福寺創建期の女瓦と同類資料である。

土坑9: 土坑8に北接した位置でかわらけを多量に伴った細長い東西位の土坑を検出した。確認できた大きさは東西径148cm、南北径55cm、深さ30cm前後の規模で断面皿状の浅い掘り方を呈していた。覆土は土丹粒・炭化物を多量に含んだ弱い締りの暗茶褐色粘質土の単一層が堆積し、覆土の上層部から多量のかわらけが廃棄された状態で発見した。遺物は図27-34～69がロクロ成形のかわらけ大小皿で



P 33・P 35 土層注記

- 暗茶褐色粘質土：貝砂・かわらけ片が多め、炭化物を少量含む。
- 暗茶褐色粘質土：貝砂・拳大の土丹塊を少量含む。

図26 第2面土坑・ピット(3)

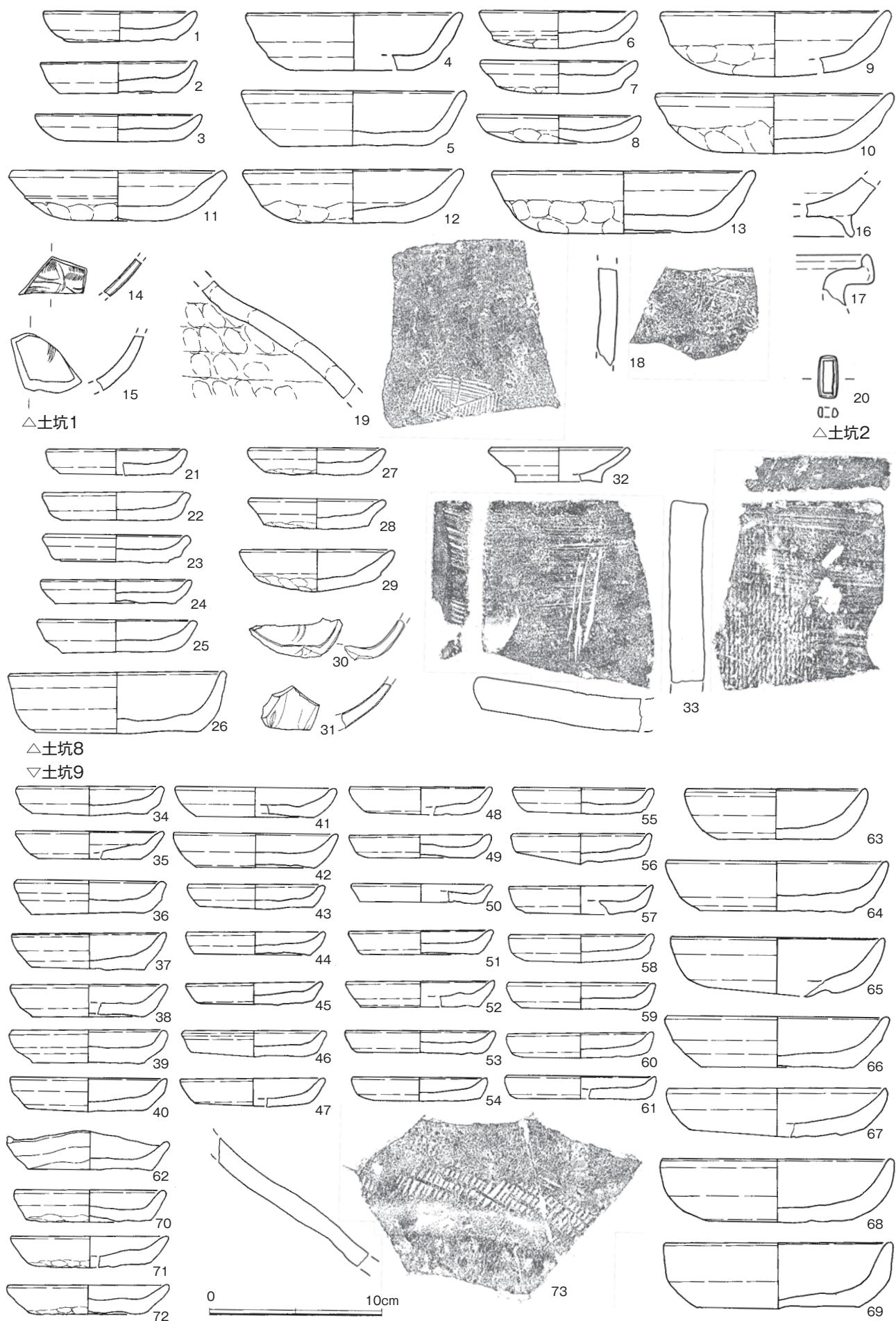


図27 第2面土坑出土遺物(1)

あるが、小皿の寸法は口径8.0～9.4cm、底径6.5～7.2cm、器高1.1～2.0cmを測り、口径と底径比の差が小さめで低い器高の一群が主体を占めている。この他、ロクロ成形かわらけに比べて手捏ね成形の出土比率が少ないので特徴的である。

土坑10：調査区北東域、D-2杭に近接した位置で検出した。土坑13、P 155・216を壊し掘り込み、P 156bにより一部削平されていた。楕円形の平面形状を呈し、南北径146cm、東西径122cm、深さ36cm、断面が浅い皿状になる。覆土は上層が貝砂・土丹粒を含む黄褐色砂質土、下層が炭化物・土丹粒を多く含む茶褐色粘質土に分けられた。遺物は図28-1・2は手捏ね成形のかわらけ、3は京都鳴滝産の小型石硯が出土した。

土坑11：調査区中央の北端でE-1グリットに位置し、北半部は調査区壁に架かるため全体形は不明である。土坑13と重複関係にあり、本址が古い。確認できた大きさは東西径102cm、南北径55cm以上、深さ18cmを測り、断面形状は浅い皿状を呈した掘り方である。覆土は締まりのない茶褐色粘質土の単一土層であり、覆土上層からはかわらけの完形品もしくは大型の破片40個体以上を検出している。出土遺物は図28-4～32がロクロ成形かわらけと、33～42が手捏ね成形かわらけの大小皿である。43は同安窯青磁の櫛描文碗である。

土坑12：E-4杭に位置し、遺構大半が調査区南壁外に拡がり、全体規模は不明である。土坑8・16を壊して掘り込んでいる。確認した規模は東西径150cm・南北径80cm以上、深さ28cmを測り、断面形状は逆台形を呈し、平らな底面の掘り方をもつ。覆土は二層に分別され、上層が炭化物・かわらけを多く含んだ弱い締まりの茶褐色粘質土、下層が貝砂ブロックを混入した茶褐色粘質土の堆積が認められ、上層のかわらけは完形品や大型破片が主体を占め60個体以上に及んでいた。出土した遺物は図29-1～61がロクロ・手捏ね成形のかわらけ大小皿で両成形の出土比率を観ると、ロクロ成形が8割近くを占めていた。48・49はロクロ成形による内折れかわらけ、62は手捏ねの白かわらけである。63～65は常滑窯の甕と片口鉢I類である。

土坑13：調査区北東域のD-2杭に位置し、遺構北半部は調査区外に拡がる大型の土坑である。本址の重複関係を観察すると、土坑10・11によって掘り方の一部が削平されて古く、土坑14よりも新しい痕跡が認められた。調査区壁に架かり部分的な検出で平面形は不詳である。東西径186cm以上、南北径132cmを検出し、確認面からの深さ13cmと浅く、底面の海拔高は9.82m程である。覆土は土丹粒や炭化物を多く含む暗褐色粘質土の単一土層で、上層からはかわらけ40個体近くがまとまった状態で出土している。かわらけは図29-44～71はロクロ成形と手捏ね成形のかわらけ大小皿である。両成形の出土比率で観ると、手捏ね成形が7割以上と高い比率を占めていた。72は鍛造による鉄釘で断面四角形である。

土坑14：土坑13に東接した位置で、調査区北壁に架かる規模不明の土坑を検出した。確認できたのは南北径100cm以上、東西径68cm、深さ37cmであり、掘り方は断面箱型に近く、南北長の隅丸長方形の平面形と思われる。覆土は炭化物層を挟んで上下2層からなり、下層は土丹粒や炭化物を多い茶褐色粘質土でかわらけ35個体以上が出土、上層は炭化物を少量含む締まりの弱い粘質土である。遺物は図30-1～11が上層と、12～47が下層から出土したロクロ・手捏ねかわらけの大小皿とともに手捏ね成形が主体を占めている。48・49が手捏ね成形の白かわらけ、50が白磁口元皿である。

土坑15：調査区中央のE-3杭の北隣に位置し、溝1や土坑9、ピットのP 154・172・185・211・220などの遺構に掘削された状態で検出された。確認できた規模は東西径138cm・南北径115cm以上、深さ32cmであり、掘り方は底面の平らな断面逆台形を呈する。覆土は暗茶褐色粘質土の土丹粒・炭化物を多く含んだ単一層でかわらけが45個体以上と多量に出土している。出土遺物は図31-1～26がロクロ成形、27～44が手捏ね成形のかわらけ大小皿であるが、ロクロ成形と手捏ね成形の出土比率を観察すると、

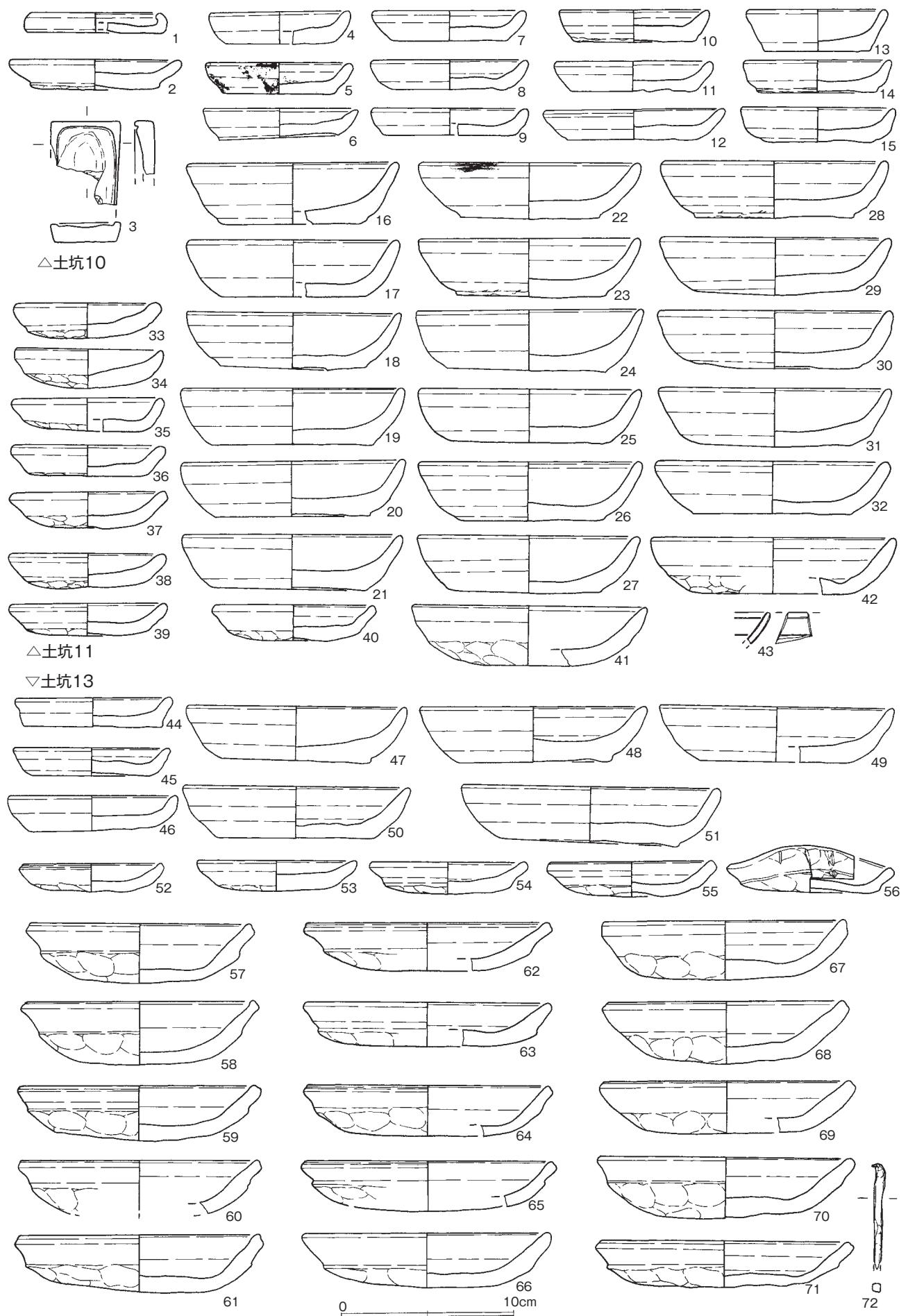


図28 第2面土坑出土遺物(2)

その占める割合はほぼ半々であった。45・46は常滑窯の片口鉢I類、47が断面四角形の鉄釘である。

土坑16：調査区南西隅のG-6杭の東隣に位置して調査区外に拡がる土坑であり、井戸3やピットのP31・78などの遺構により大半が削平受けて検出された。確認した規模は南北径65cm・東西径37cm以上、深さ25cmと浅い掘り方を呈し、貝砂やかわらけ粒を多めに含む暗茶褐色弱粘質土の覆土であり、それに伴う遺物はかわらけ小片だけで図示可能な資料は認められなかった。

土坑17：D-4杭の西隣の位置で遺構大半が調査区南壁外へ拡がり、土坑12に削平された土坑を検出した。確認できたのは東西径58cm・南北径25cm以上、深さ30cmほどで底面が平らな掘り方を有している。覆土は拳大の土丹塊や炭化物を多めに含む茶褐色粘質土であり、遺物は図化できる資料は出土していない。

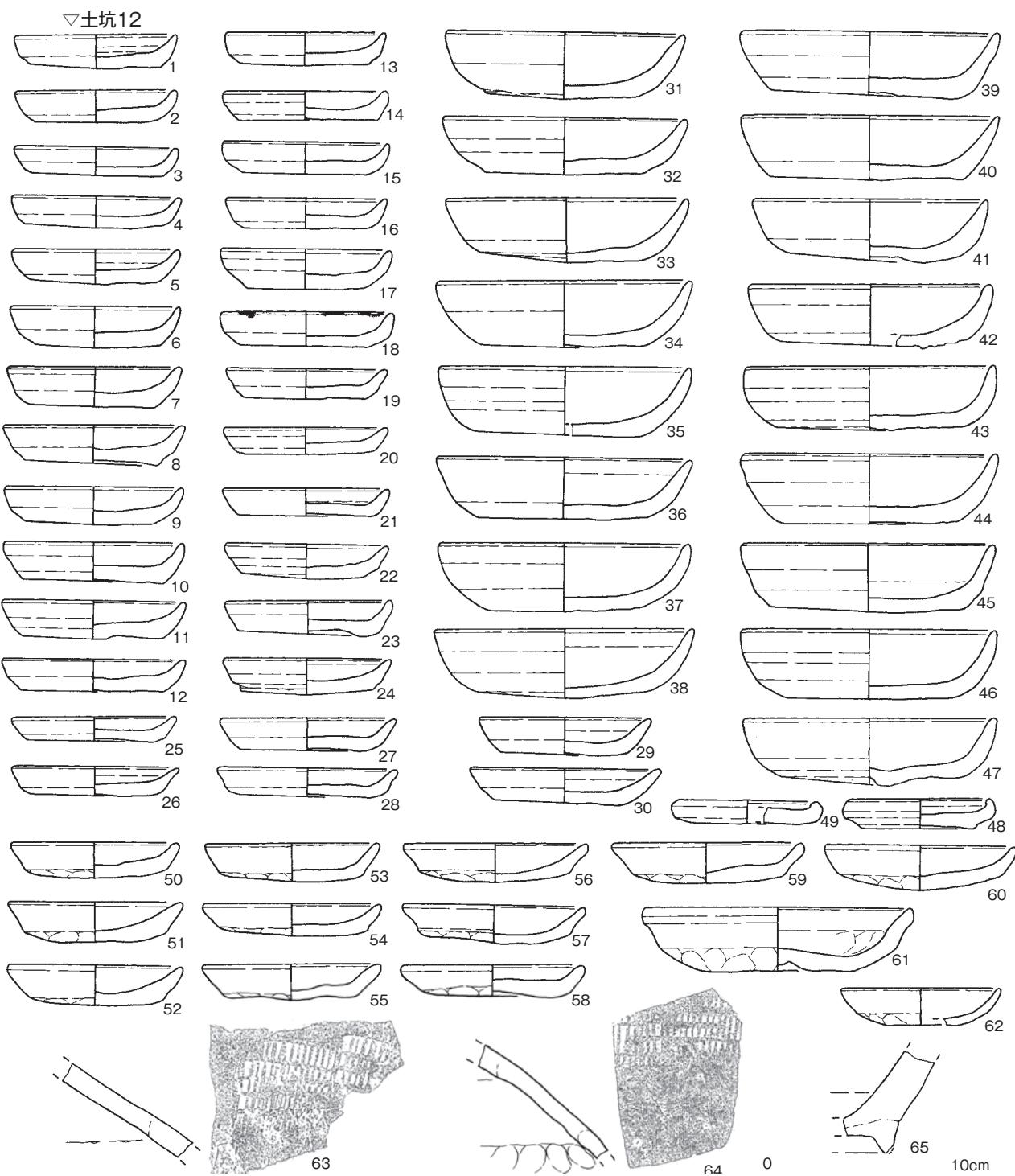


図29 第2面土坑出土遺物(3)

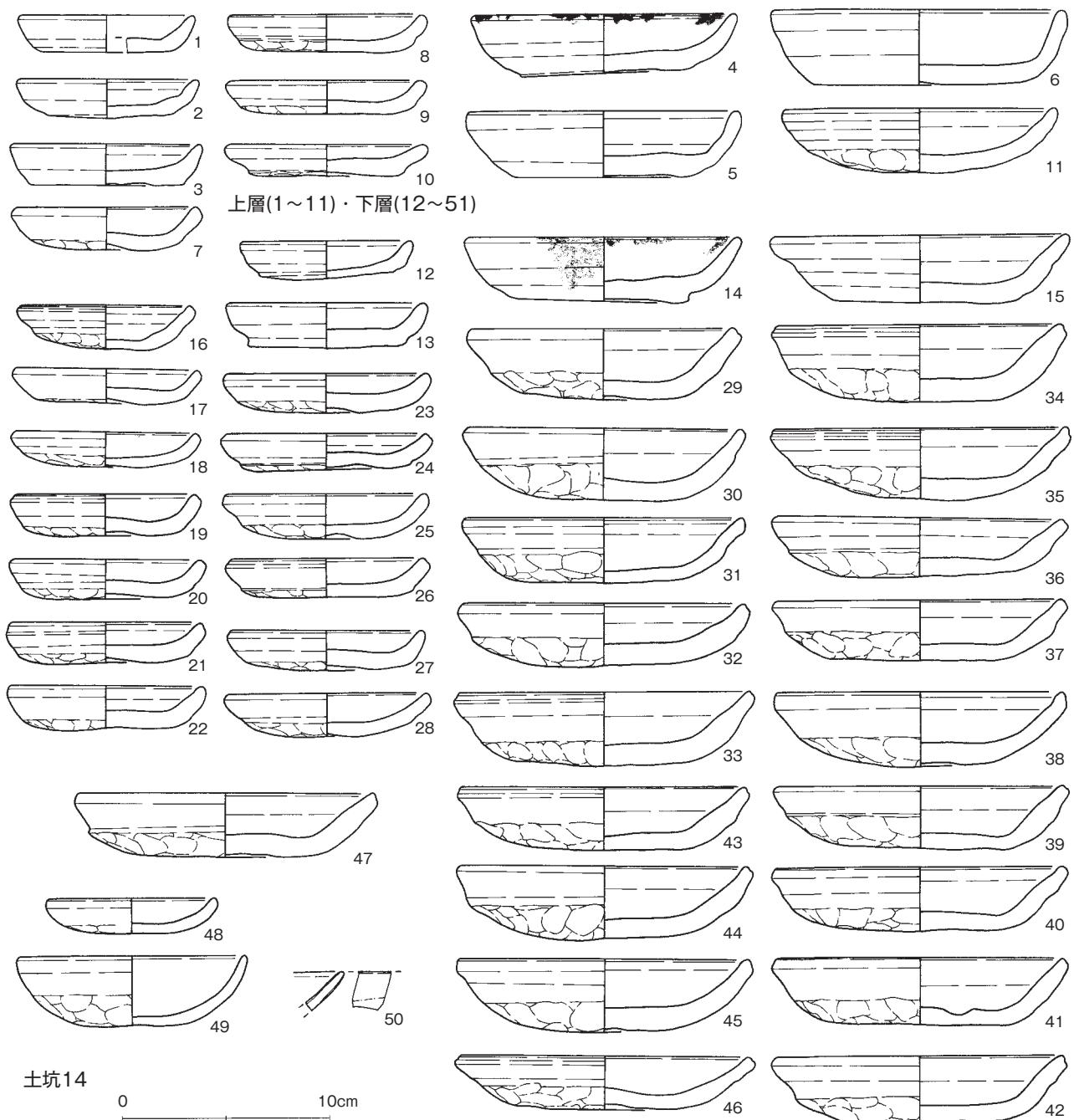


図30 第2面土坑出土遺物(4)

土坑19：調査区南東隅でC-4杭に位置し、土坑24やP 162・214などのピットに一部を壊されていた。確認できたのは南北径95cm以上、東西径50cm、深さ10cmほどの底面が平らな浅い掘り方である。底面の海拔高約9.8mである。覆土は黒色粘質ブロックを多く含む締まりのある茶褐色粘質土、遺物はかわらけ細片だけで図化可能な資料は伴っていない。

土坑20：D-E-3・4杭に囲まれた中央に位置し、ピットのP 147・183に削平を受けて検出された。確認できたのは東西径76cm、南北径55cm、深さ60cmを測り、平面形は橢円形を呈し、底面が平らな断逆台形の断面形状の掘り方である。底面の海拔高9.58mである。覆土は中世地山の黒色粘質土ブロックを多く含んだ締まりのある暗茶褐色粘質土の単一層であった。第2面遺構の新旧関係や覆土からみて検出遺構中において古い堆積土の一群と思われる。出土遺物はかわらけ細片が少量認められただけで図示できなかった。

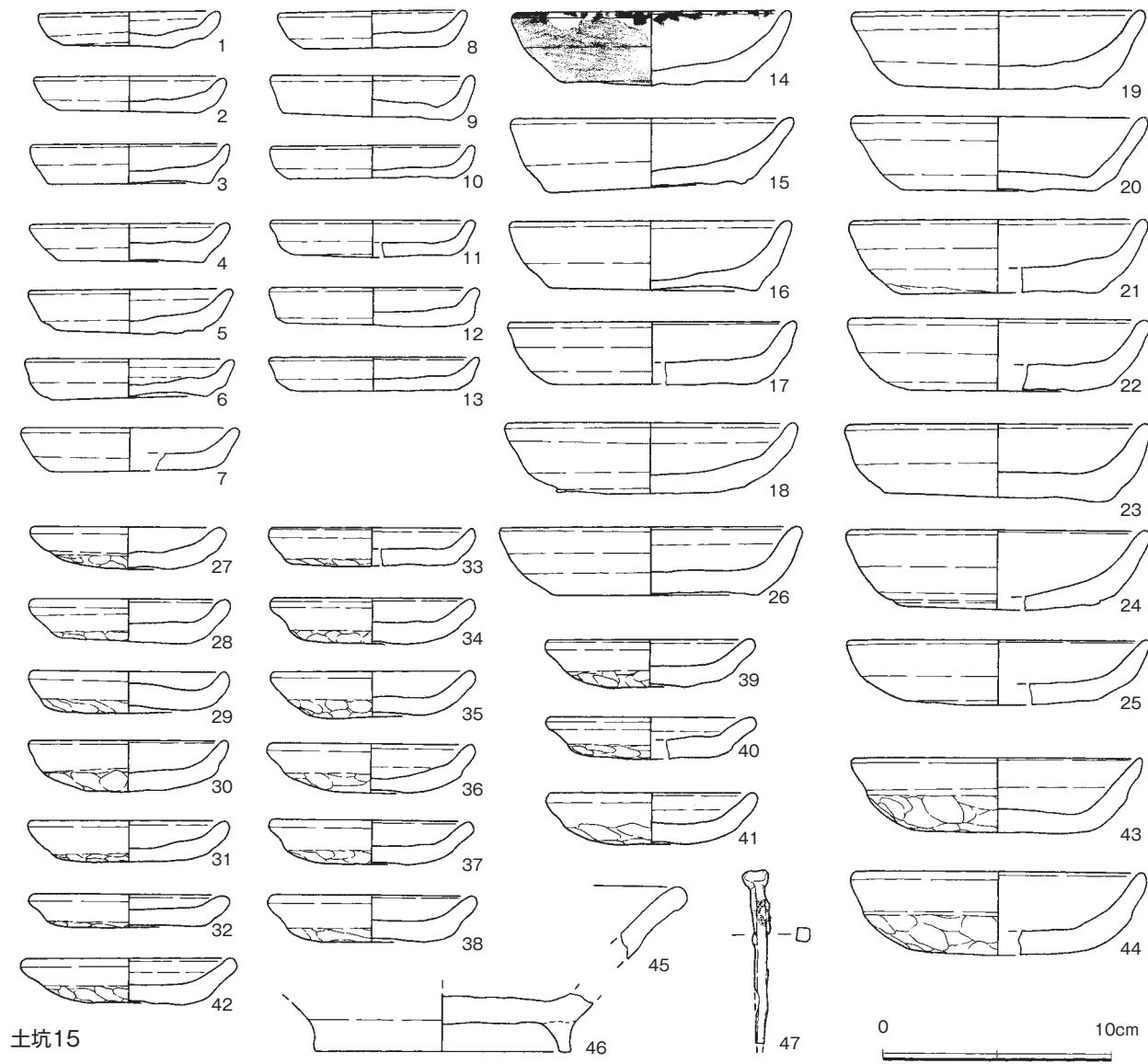


図31 第2面土坑出土遺物(5)

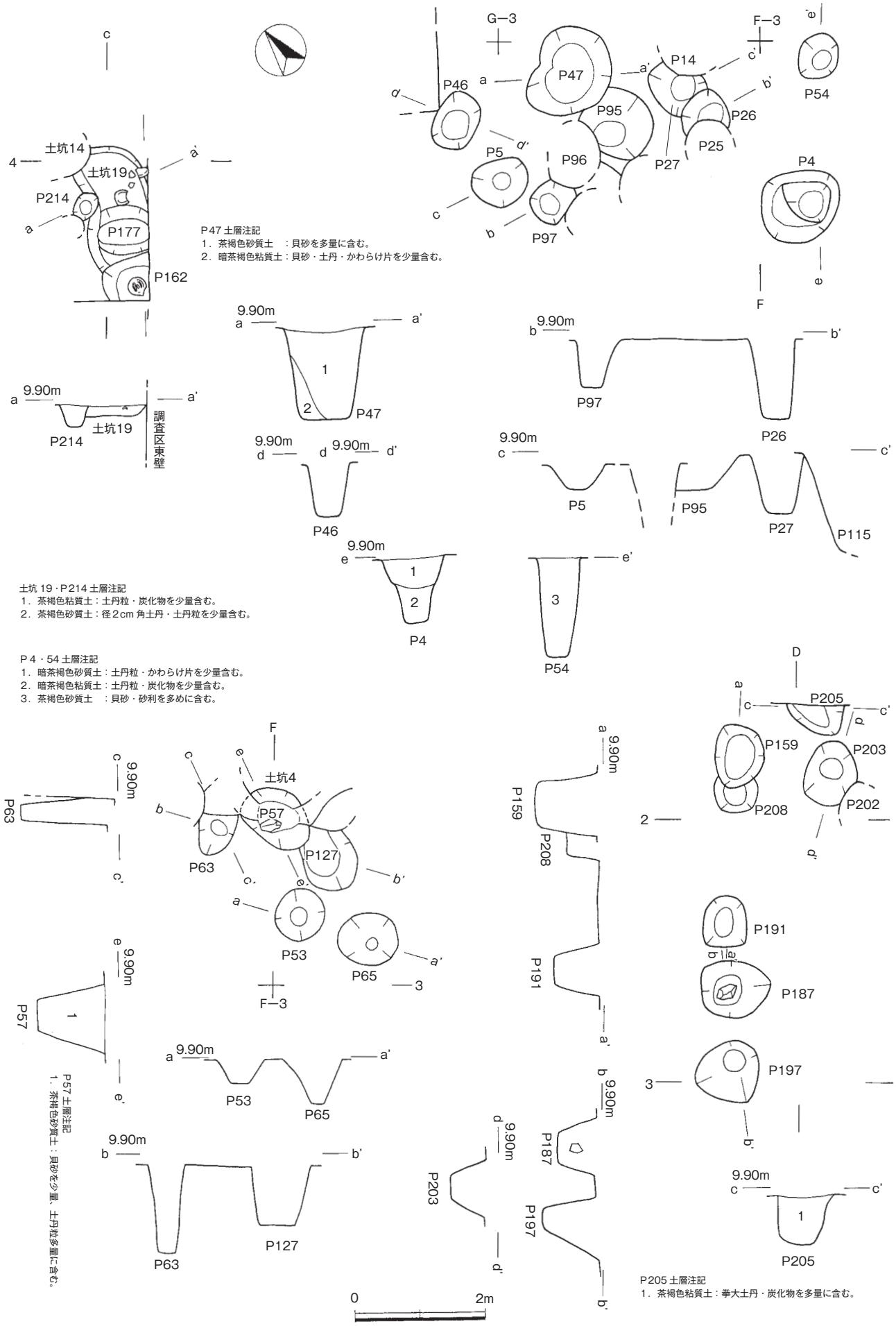
c. 井戸3(図26)

調査区南西隅で井戸掘り方の一部を検出した。本址は調査区壁際に位置し大半が調査区外に拡るものである。降雨や湧水で地盤が緩み調査中に崩落の危険性があると判断され、深さ約80cmまで確認して掘りさげを中止した。遺物は図37-9～13の外底部が回転糸切痕かわらけの大小皿が出土した。

d. ピット(図21・24～26・32～36)

この面では掘立柱建物に伴う柱穴群以外に調査区のほぼ全域にわたり、ピット220口以上が検出されている。ここでは遺物を出土したものや特徴のあるピットについて簡単に触ることにする。

P3: F-3グリットに位置し、溝1を壊して掘り込んだ新しい遺構である。大きさは長径43cm、短径32cm、深さ40cmで楕円形を呈し、壁面が垂直気味で底面の平らな掘り方である。遺物は図34-1・2の手捏ね成形かわらけの大皿である。P4:P3と北隣に位置する。大きさは長径60cm、短径52cm、深さ48cmの楕円形を呈した掘り方で、底面に礎版2枚の腐食した痕跡が認められた。覆土は上層が締りの無い暗茶褐色砂質土、下層が締りのある粘質土で図示可能な遺物は出土していない。P5:G-4杭の東隣に位置し、長径45cm、短径38cm、深さ18cmの楕円形で浅い掘り方のピットを検出した。覆



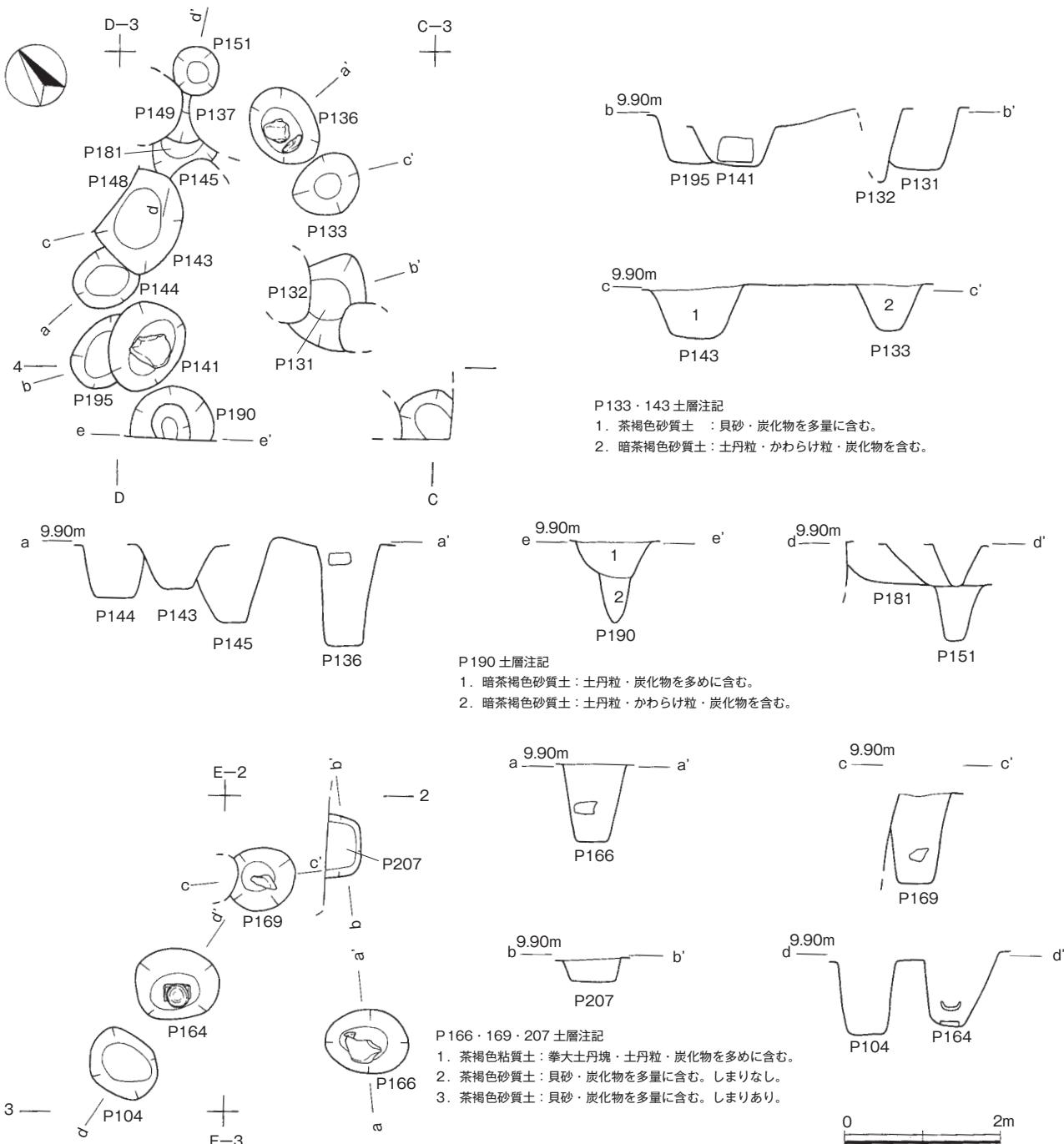


図33 第2面ピット(2)

土は貝砂・炭化物を含む茶褐色砂質土で図34-3の手捏ねかわらけ小皿が1点出土した。P6: G-2杭の北側に位置する。掘り方は長径44cm、短径35cm、深さ48cmの橢円形を呈した掘り方で、底面に土丹塊が据えられていた。覆土は締りの無い暗茶褐色粘質土であり、遺物は4~6のロクロと手捏ね成形かわらけが出土した。P10: F-5杭の北隣で土坑1・3に削平を受けて検出された。掘り方は橢円形を呈し、径40cm前後、深さ30cm、覆土は粘性の強い黒褐色土で、遺物は7の手捏ねかわらけ大皿と8の砥石が出土した。

P11・12: H-3グリットのP5西隣の位置で調査区外に架かるピット2口を検出した。確認できたのはP11が径40cm・深さ35cm、P12は径60cm・深さ52cmを測り、平面形は橢円形と思われ、底面には伊豆石の破片がみられた。覆土中からは9・10の青磁の割花文碗と常滑窯の甕がそれぞれ出土している。

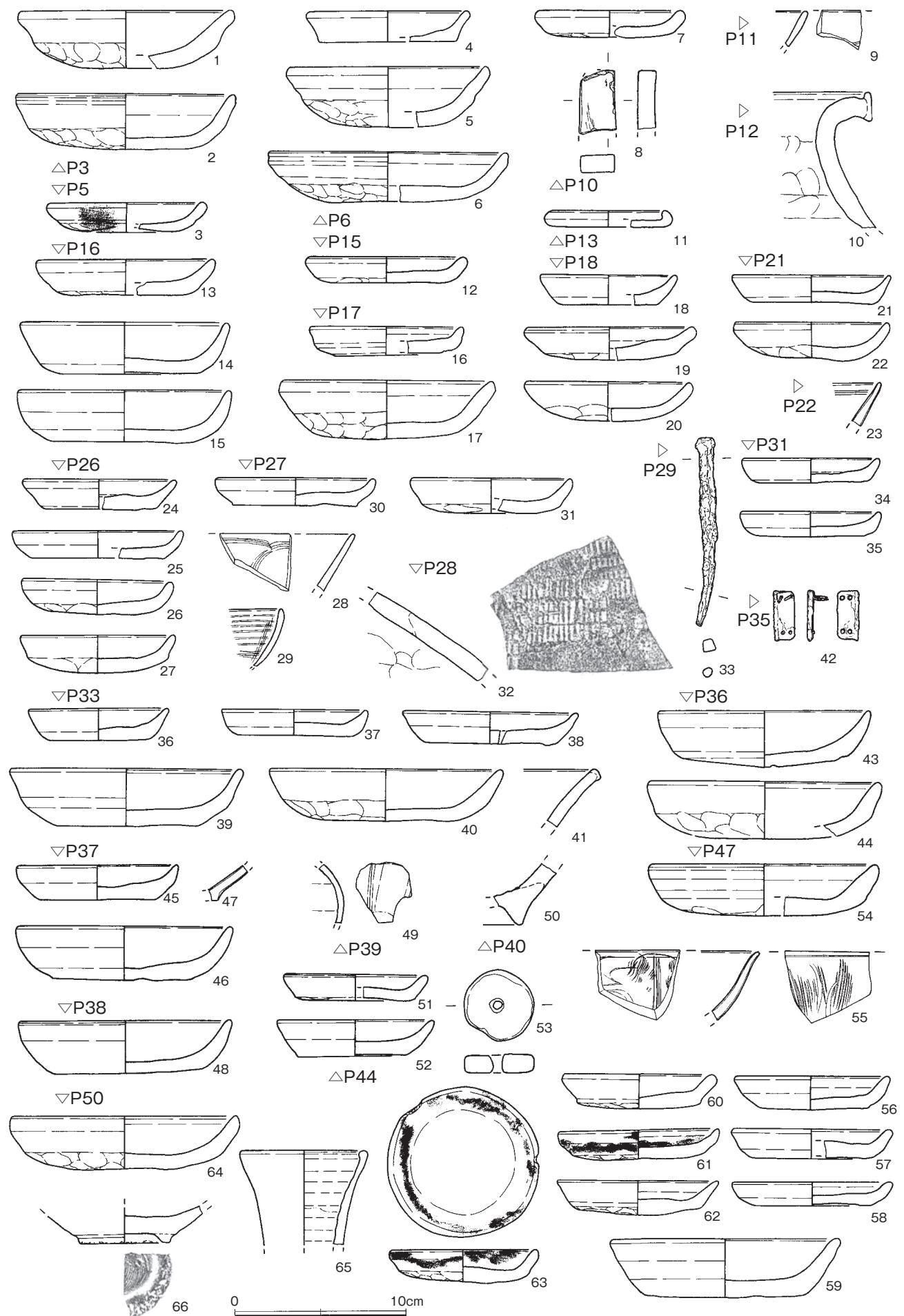


図34 第2面ピット出土遺物(1)

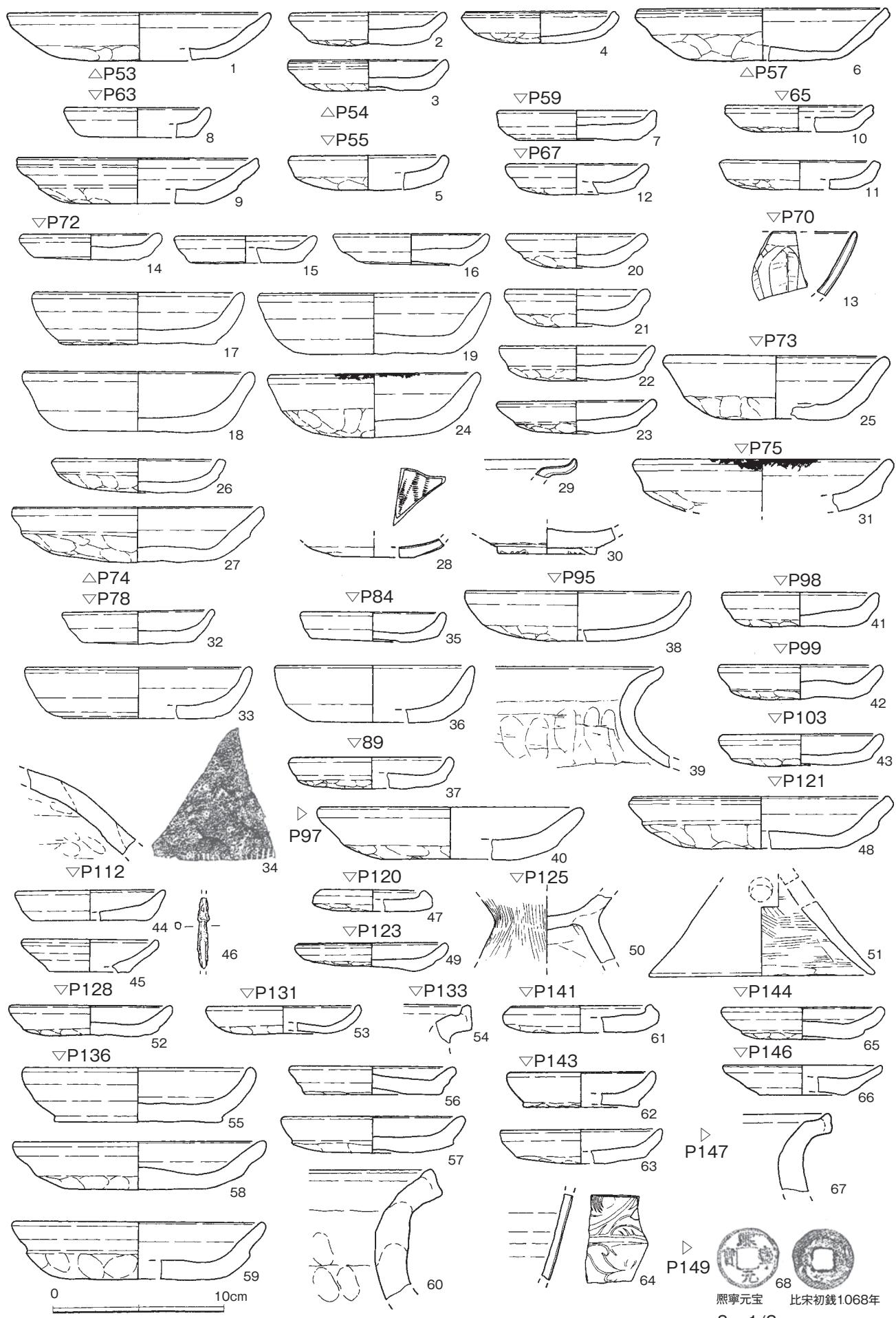


図35 第2面ピット出土遺物(2)

熙寧元宝 比宋初錢1068年

S = 1/2

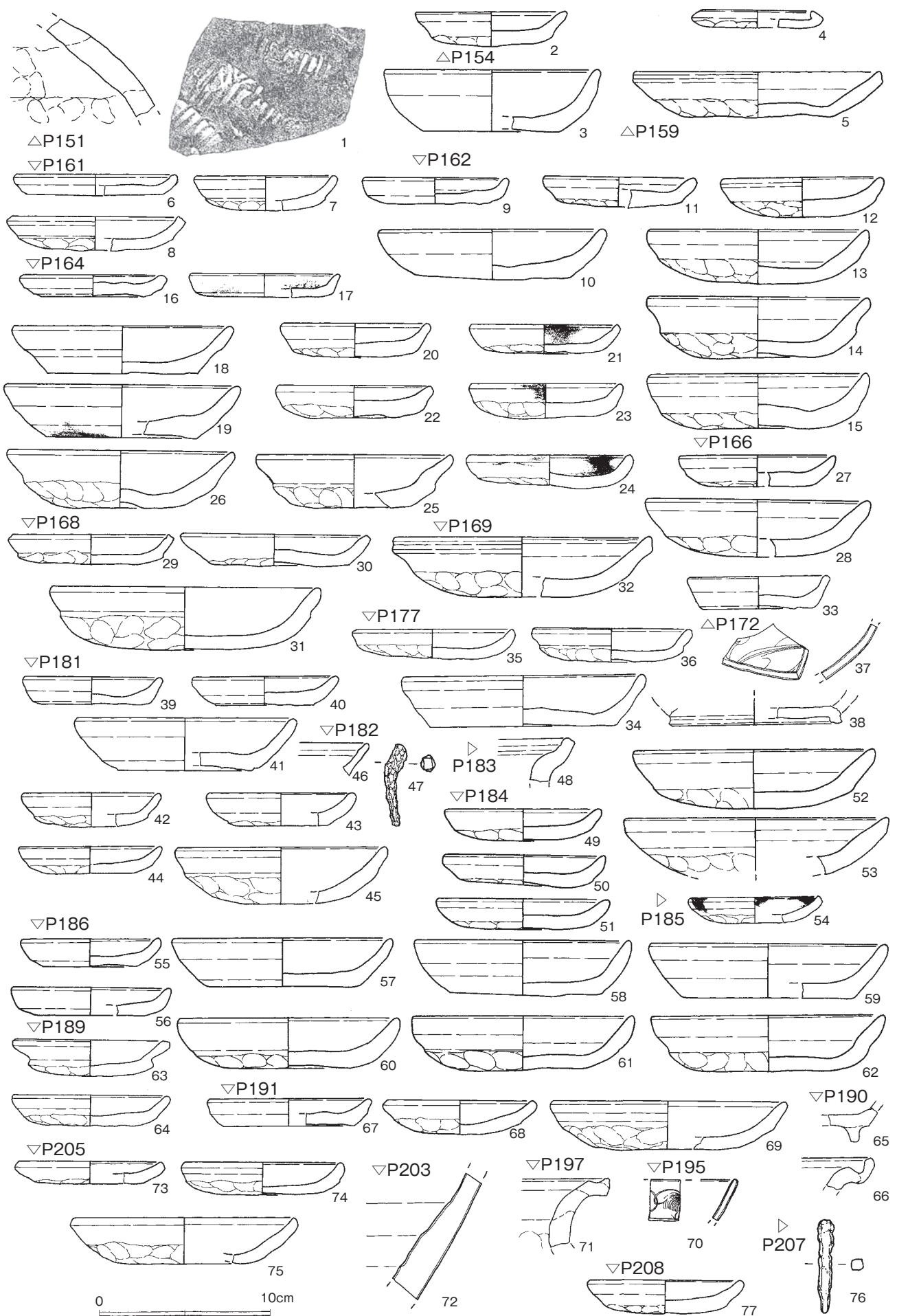


図36 第2面ピット出土遺物(3)

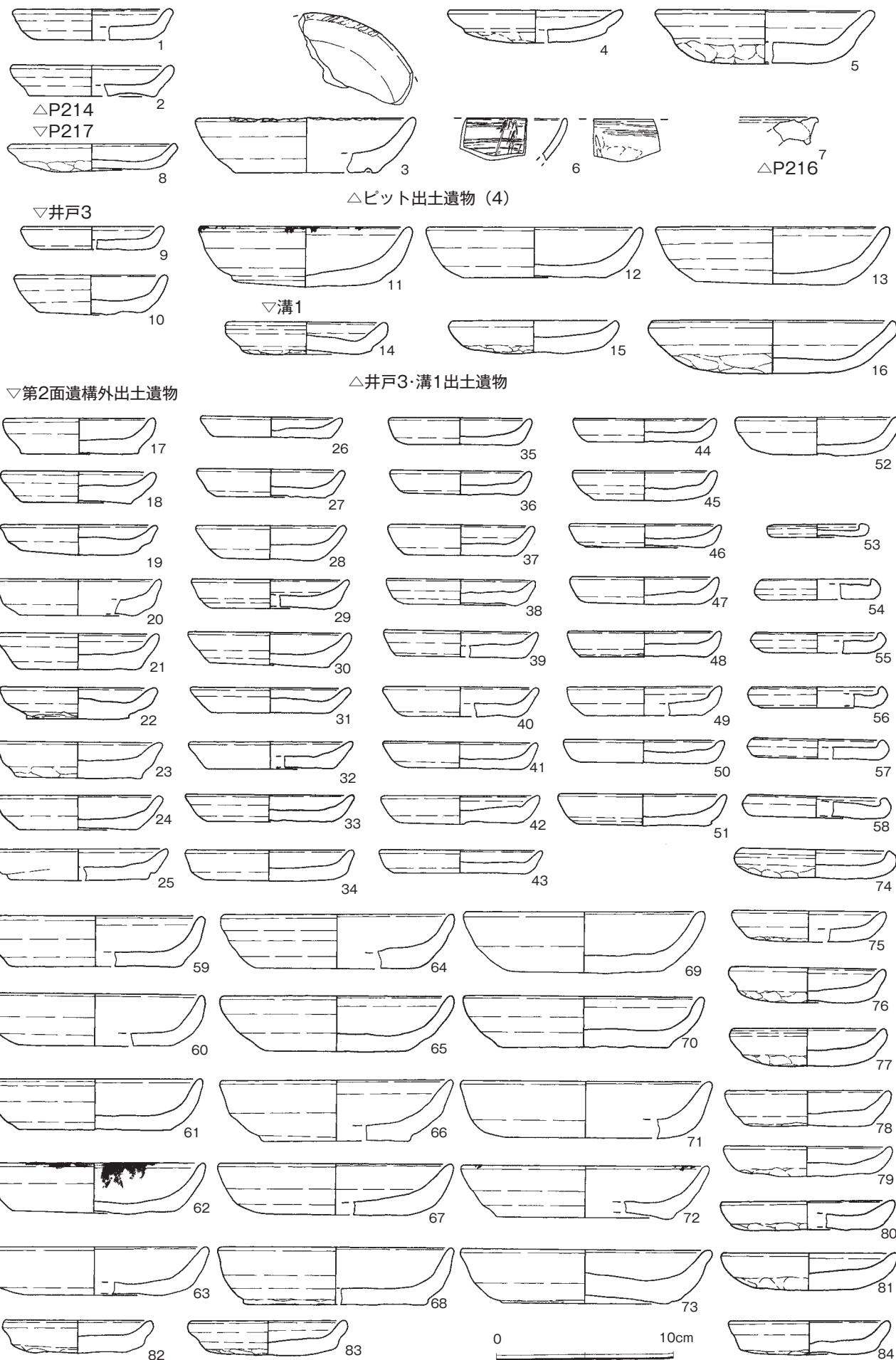


図37 ピット出土遺物(4)、その他

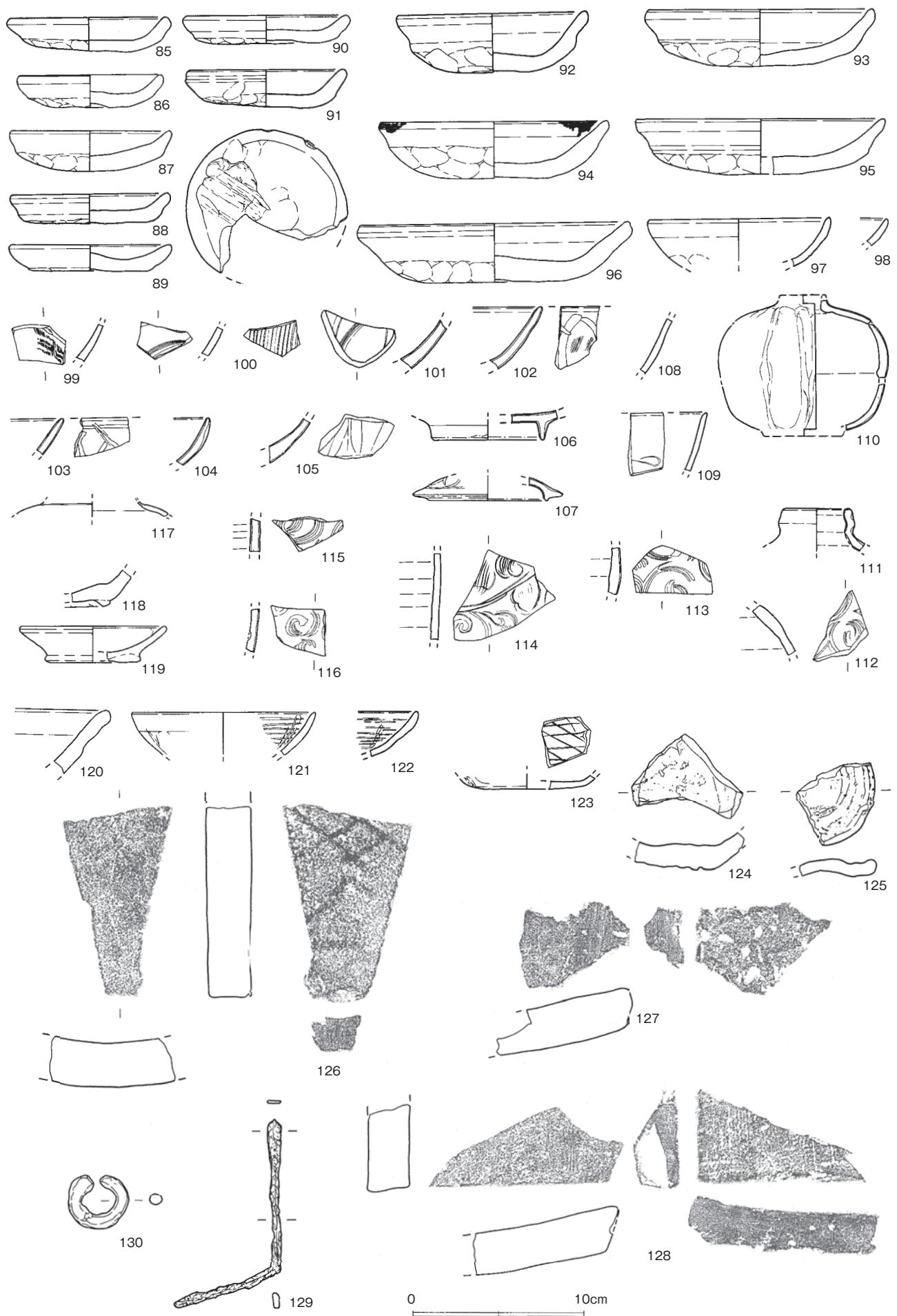


図38 第2面遺構外出土遺物

P 13 : F - 6 杣の北隣で調査区壁に架かる位置、掘り方は径50cm、深さ82cmの円形と思われ、平らな底面には腐食した礎版の痕跡が認められた。覆土は貝砂・炭化物を少量含む暗茶褐色粘質土、図34-11の手捏ねの内折れかわらけが出土した。P 18 : E - 4 杣の西側で土坑2に上部掘り方が削平された状態で検出された。確認したのは径42cm以上、深さ73cm、底面の海拔高9.05mを測る。覆土は掘り方の壁面際に締まりのある暗茶褐色粘質土、中央に柱の抜き方を思われる茶褐色砂質土が堆積し、遺物は18~20のロクロと手捏ねのかわらけ小皿である。P 26 : F - 3 杣の西隣に位置し、P 25より古くP 29より新しい。掘り方は径38cm、深さ63cm、覆土は貝砂・砂利を多めに含む茶褐色砂質土、遺物はかわらけが24~27のロクロ・手捏ね小皿、28が青磁劃花文碗、29が内面に暗文のある瓦器塊で京都楠葉産のものである。

P 33・35 : 調査区南西隅で近接した2口のピットを検出した。両ピットの掘り方は円形を呈し、径36cm前後、深さ約70cmを測り、覆土はともに暗茶褐色粘質土であるが前者は貝砂・かわらけ細片が多く、36~39の主にロクロ成形かわらけ皿がみられ、後者は貝砂・拳大の土丹塊を少量含み42の金銅製品の飾り金具を伴っていた。P 50 : G - 1 グリットでP 6の東隣に位置する。掘り方は楕円形を呈し、長径65cm、短径50cm、深さ42cmで平らな底面を呈する。遺物は56~64がかわらけ、65が鎌倉での出土事例の少ない越州窯の瓶と推定されるもの、66が尾張産の北部系山茶碗である。P 72・P 74 : F - 2 杣の東隣に位置し、P 72よりもP 74が新しい重複関係にある。P 72の掘り方は長径60cm、短径45cm、深さ36cm、暗茶褐色粘質土の覆土中からは図35-14~24のロクロ・手捏ねかわらけを多く伴っていた。P 74は土坑4に径38cm、深さ50cm、覆土は貝砂を多めに含む茶褐色砂質土、遺物は26・27の手捏ねかわらけ、28が同安窯青磁の櫛搔文皿、29が龍泉窯青磁の折縁皿、30が北部系山茶碗である。

P 136 : D - 3 グリットに位置する。掘り方は楕円形を呈し、長径54cm、短径42cm、深さ67cm、覆土は拳大の土丹塊・炭化物を多く茶褐色粘質土である。遺物は55~59がかわらけで手捏ね成形が主体を占めていた。60が常滑窯の甕で口縁形態から13世紀前葉の所産であろう。P 162 : C - 2 杣の西側で攪乱に削平された土坑19より新しいピットを検出した。確認できた掘り方は径40cm以上、深さ55cmを測り、茶褐色粘質土の覆土から図36-9~15のかわらけが出土している。P 164 : E - 3 杣北側に位置する。掘り方は長径52cm、短径43cm、深さ50cmの楕円形を呈し、底面に礎板を据えていた。覆土は貝砂や砂利を含む締まりのない砂質土で16~26のロクロ・手捏ねかわらけが多量に出土した。P 184 : E - 3 グリットで土坑15を掘削している。掘り方は径40cm以上、深さ85cmと小径の深いピット、覆土は炭化物を多量に含み締まりのない茶褐色粘質土、49~53の手捏ねかわらけが出土した。P 186 : E - 3 杣の西隣した位置で長径48cm、短径37、深さ65cmの楕円形を呈したピットを検出した。覆土は上層が貝砂を多量に含む茶褐色土、下層が土丹粒・かわらけ片を含んだ暗茶褐色粘質土の2層で構成され、上層から55~62のかわらけがまとまって出土した。

e . 遺構外出土遺物 (図37・38)

ここでは、第1面下から第2面にかけての整地層や面上包含層に伴って出土した遺物で遺構に共伴しない資料を一括して述べることにする。図37-17~52・59~73はロクロ成形の回転糸切底のかわらけ大小皿である。内折れ小皿類は53が瓦器質、54~58がロクロ・74が手捏ね成形である。図37・38-74~96が手捏ね成形のかわらけ大小皿で指頭圧痕の外底部と横位ナデの口縁部との境界の稜が明瞭である。99・100は同安窯青磁の櫛搔文碗、101~107は龍泉窯青磁で碗には劃花文や鎬蓮弁文などがある。108は白磁口兀碗、109~116は青白磁で109・110が碗と小壺以外はすべて梅瓶であった。121~123は内面に暗文を施した京都楠葉産の瓦器碗・皿、124・125はかわらけ転用の坩埚である。129は先端部が尖り気味になり平根鏃系統の鉄鏃と思われる。

表4 遺物観察表(1)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
8-1	第1面土坑1	かわらけ	(8.3)	(6.7)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
8-2	"	かわらけ	(8.3)	6.0	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-3	"	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-4	"	かわらけ	8.8	6.7	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-5	"	かわらけ	(8.8)	(7.6)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-6	"	かわらけ	(12.0)	8.0	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-7	"	かわらけ	11.9	7.5	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
8-8	"	かわらけ	11.5	7.3	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒多め c.橙色 e.良好
8-9	"	かわらけ	(11.9)	(7.8)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
8-10	"	かわらけ	(12.4)	(10.6)	3.4	a.ロクロ 海綿骨芯 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒少なめ 小石 精良土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
8-11	"	かわらけ	(8.7)	(7.4)	1.8	a.手捏ね 指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒少なめ 良土 c.橙色 e.良好 f.二次焼成を受け、外底は黒灰色を呈しブクが出てる、内底も黒ずむ
8-12	"	かわらけ	(9.1)	(7.7)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
8-13	"	かわらけ	8.6	7.1	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少なめ 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-14	"	龍泉窯 青磁 無文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 黒色粒を少量含む d.淡青灰色 失透 薄手施釉 気泡あり f.二次焼成の為か、器表荒れる
8-15	"	龍泉窯 青磁 無文碗	高台部片			a.ロクロ 高台回転削り出し b.灰色 精良堅緻 d.灰緑色 半透明 薄手施釉 貫入若干 気泡僅かにあり f.高台畳付の製品ながら釉が流れで高台内まで及ぶ
8-16	"	北部系山茶碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰白色 微砂 砂質良土 e.良好 硬質 f.図1-17と同一個体の可能性あり
8-17	"	北部系山茶碗	高台径(5.5)			a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.灰白色 微砂 砂質良土 e.良好 硬質
8-18	"	瓦器 皿	4.4	5.1	6.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.灰白色 白色粒 砂質良土 c.灰黒色 e.良好 f.楠葉型瓦器皿
8-19	"	瓦質香炉	口縁部			b.白色 気孔多め粗土 c.黒灰色 e.やや甘く素地の焼き縮まり悪め f.外面口縁下線刻あり
8-20	"	瓦質羽釜	口縁部			b.灰茶色 雲母 白色粒 砂質粗土 c.器表:黒色炭素吸着 e.良好 硬質
8-21	"	鉄製品 釘	残存長 11.6 × 0.5 × 0.6			鍛造 断面四角形
8-22	第1面土坑2	かわらけ	(8.0)	(6.3)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-23	"	かわらけ	8.0	7.7	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.くすんだ黄橙色 e.良好
8-24	"	かわらけ	(8.4)	(7.8)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-25	"	かわらけ	8.6	6.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-26	"	かわらけ	(9.2)	(7.3)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-27	"	かわらけ	(8.6)	(5.3)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 海綿骨芯僅か 赤色粒少量 良土 c.橙色 e.良好 f.底部に2ヶ所穿孔あり
8-28	"	かわらけ	(8.4)	(6.9)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-29	"	かわらけ	(8.4)	(6.5)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒少なめ やや粗土 c.黄灰色 e.良好 f.灯明皿
8-30	"	かわらけ	8.6	5.7	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-31	"	かわらけ	(8.4)	(6.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-32	"	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
8-33	"	かわらけ	(8.8)	(7.1)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-34	"	かわらけ	(8.6)	(5.3)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
8-35	"	かわらけ	(12.6)	(8.6)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿

表5 遺物観察表(2)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
8-36	第1面土坑2	かわらけ	(13.4)	(10.3)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多い やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
8-37	"	かわらけ	7.9	7.0	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-38	"	かわらけ	8.5	7.3	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
8-39	"	かわらけ	(8.4)	(7.4)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
8-40	"	かわらけ	8.5	7.3	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
8-41	"	かわらけ	8.7	7.8	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
8-42	"	かわらけ	8.6	7.5	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 微量 赤色粒微量 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
8-43	"	かわらけ	8.5	8.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多く 砂質 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-44	"	かわらけ	(8.6)	(7.0)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 赤色粒 土丹粒 少量 良土 c.黄橙色 e.良好
8-45	"	かわらけ	9.5	7.9	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
8-46	"	かわらけ	8.9	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
8-47	"	かわらけ	9.0	8.6	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-48	"	かわらけ	8.8	7.8	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 少量 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-49	"	かわらけ	(9.9)	(9.3)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
8-50	"	かわらけ	(12.2)	(10.5)	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 微量 赤色粒 少量 良土 c.橙色 e.良好
8-51	"	かわらけ	口縁部片(穿孔あり)		a.手捏ね 指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 小石微量 良土 c.黄橙色 e.良好 f.体部中位に3mm程度の穴あり	
8-52	"	青白磁梅瓶	胴部片小片		a.ロクロ b.灰白色 繊密 d.水色半透明 貫入あり 気泡多し e.二次焼成か器表面荒れる f.文様 涡巻文	
8-53	"	渥美壺	胴部片 底径(7.5)		a.輪積み技法 b.白色粒・黒色粒少量含む 繊密良土 c.器表:暗茶色 胎土:暗灰色 d.自然降灰 e.良好 硬質	
8-54	第1面土坑3	かわらけ	8.2	6.8	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
8-55	"	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-56	"	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 良好 c.橙色 e.やや甘い
8-57	"	かわらけ	(8.3)	6.3	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
8-58	"	かわらけ	(8.4)	(7.4)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.甘い
8-59	"	かわらけ	(12.9)	9.0	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 粗土 c.橙色 e.良好
8-60	"	かわらけ	(12.0)	(8.4)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
8-61	"	かわらけ	12.7	9.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
8-62	"	かわらけ	(13.8)	(12.5)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-63	"	龍泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部小片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.青灰色 厚い 半透明 わずかに気泡あり	
8-64	"	常滑甕	肩部片		a.輪積み技法 内面指頭痕 横位ナデ b.白色粒 砂粒 やや粗土 c.茶褐色 d.外面:降灰なし 内面:灰かぶり薄茶色に灰白色斑灰 e.不良 軟質	
8-65	第1面土坑4	かわらけ	13.0	8.5	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.橙色 e.良好
8-66	"	かわらけ	12.7	9.3	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-67	"	かわらけ	9.1	8.1	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部外方が挿され一部変形
9-1	第1面土坑5	かわらけ	8.9	6.6	1.6	a.ロクロ 外底粗めの回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 砂質土 c.黄灰色 e.不良
9-2	"	常滑甕	胴部片		a.輪積み技法 内面指頭痕 外面格子目叩き痕 b.茶褐色 長石・黒色粒多い c.茶褐色 d.外面:暗緑灰色自然釉 e.堅緻	
9-3	第1面土坑9	白磁四耳壺	胴部片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 微砂を少量含む d.淡青灰色 白濁して不透明	

表6 遺物観察表(3)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
9-4	第1面土坑10	かわらけ	8.0	6.3	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い f.全体的に摩耗して剥がれやすい
9-5	"	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-6	"	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
9-7	"	白かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 白色粒 やや粗土 c.黄味かった灰白色 e.良好
9-8	"	かわらけ	(12.1)	(8.4)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-9	"	かわらけ	(12.5)	(8.2)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.橙色 e.良好
9-10	"	かわらけ	(13.0)	(9.2)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
9-11	"	かわらけ	(13.8)	(9.2)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
9-12	"	かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-13	"	同安窯 青磁 櫛搔文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.淡灰色 黒色微砂 堅緻 気孔あり d.暗灰緑色半透明 やや厚手施釉 f.キズあり 外面に粗い縦の櫛搔文
9-14	"	龍泉窯 青磁 劇花文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰白色 黒色微砂 堅緻 d.暗青緑色不透明 厚手施釉 f.キズあり 内面に劃花文
9-15	第1面土坑11	かわらけ	(7.9)	(6.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-16	"	かわらけ	(8.2)	(6.7)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-17	"	かわらけ	(8.1)	(6.7)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
9-18	"	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-19	"	かわらけ	(9.6)	(8.0)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
9-20	"	かわらけ	(11.8)	(8.8)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
9-21	"	かわらけ	11.8	8.4	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
9-22	"	かわらけ	(12.2)	(8.5)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
9-23	"	かわらけ	(7.7)	(7.0)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
9-24	"	かわらけ	9.2	7.9	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
9-25	"	かわらけ	11.9	9.6	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
9-26	"	かわらけ	(11.5)	(10.2)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
9-27	"	白磁 口兀皿	底部小片			a.ロクロ 外底回転ヘラ削り b.白色 精良堅緻 d.かすかに青味を帯びた白色 透明 薄く全面施釉 f.内底外周に沈線巡る
9-28	第1面土坑12	かわらけ	(8.3)	(6.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 体部中位に強い稜 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.やや不良
9-29	"	かわらけ	8.5	5.2	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好
9-30	"	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.淡橙色 e.良好
9-31	"	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 砂質土 c.黄灰色 e.不良
9-32	第1面土坑13	かわらけ	(8.3)	(6.8)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粉質土 c.淡橙色 e.良好
9-33	"	かわらけ	8.6	6.7	6.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好
9-34	"	かわらけ	(8.5)	(7.2)	2.0	a.ロクロ 外底荒めの回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質土 c.淡橙色 e.良好
9-35	"	かわらけ	(8.8)	(7.2)	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.黄橙色 e.やや甘い
9-36	"	かわらけ	(8.7)	(6.4)	2.2	a.ロクロ 外底荒めの回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質土 c.黄橙色 e.やや甘い
9-37	第1面土坑16	かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.赤橙色 e.良好
9-38	"	かわらけ	(13.2)	8.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い f.灯明皿

表7 遺物観察表(4)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
12-1	第1面井戸1	かわらけ	(6.0)	(3.8)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-2	"	かわらけ	(6.1)	(5.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-3	"	かわらけ	(6.7)	(5.0)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-4	"	かわらけ	(6.7)	(4.4)	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-5	"	かわらけ	(6.7)	(4.7)	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
12-6	"	かわらけ	(7.4)	(4.9)	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 ただし全体的に煤ける
12-7	"	かわらけ	(7.6)	(5.5)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.赤橙色 e.良好
12-8	"	かわらけ	(7.8)	(5.5)	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿 内側所々に煤付着
12-9	"	かわらけ	(8.0)	(4.9)	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.灰黄色 e.やや甘い
12-10	"	かわらけ	(8.1)	(5.3)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好 f.内底は所々剥離し荒れている
12-11	"	かわらけ	(8.0)	(5.6)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・小石粒少量含む 良土 c.黄橙色 e.良好
12-12	"	かわらけ	8.1	6.4	2.8	a.ロクロ 外底粗めの回転糸切痕 指ナデ 内底未調整 b.微砂 海綿骨芯 砂質やや良土 c.橙色 e.良好
12-13	"	かわらけ	(8.8)	(6.1)	2.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
12-14	"	かわらけ	(9.0)	(6.9)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
12-15	"	かわらけ	9.4	5.8	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.灰黄色 e.やや甘い
12-16	"	かわらけ	(9.1)	(5.7)	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.内底にナデ見込めず
12-17	"	かわらけ	(9.5)	(6.5)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
12-18	"	かわらけ	(9.7)	(6.8)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-19	"	かわらけ	9.8	7.5	2.9	a.ロクロ 外底粗い回転糸切痕 指ナデ 内底未調整 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-20	"	かわらけ	(9.7)	(5.6)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.橙色 e.良好
12-21	"	かわらけ	(9.7)	(6.1)	2.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
12-22	"	かわらけ	(9.8)	(6.6)	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好 ただし全体的に煤ける
12-23	"	かわらけ	9.8	7.1	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 内底軽く指ナデ b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-24	"	かわらけ 加工品	長さ 8.6 底径 7.0 器高 1.6			a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好 f.焼成後に口縁を作為的に削る
12-25	"	かわらけ	(14.9)	(9.2)	4.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-26	"	かわらけ	(13.4)	(12.5)	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.灰黄色 e.やや甘い f.内面全体煤ける
12-27	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗	底部片 復元底径(4.9)			a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.暗緑灰色半透明 薄手施釉 気泡あり 外底部露胎 f.内底部に劃花文
12-28	"	瀬戸 花瓶	口縁～頸部片 復元口径(4.9)			a.輪積技法 b.灰白～橙色 砂粒・黒色粒少量 良土 d.暗褐色と茶褐色斑の鉄釉 薄手施釉 e.良好 硬質
12-29	"	瀬戸 壺	肩部片			a.輪積技法 b.灰色 砂粒少量 良土 d.黒褐色鉄釉 薄手施釉 e.良好 硬質
12-30	"	磨り常滑甕片	甕片			a.輪積技法 b.砂粒 白色粒 黒色粒やや多い c.器表：茶褐色 d.黒褐色鉄釉 薄手施釉 e.良好 硬質 f.摩耗陶片
12-31	第1面井戸2	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.7	a.ロクロ 外底細目の回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好
12-32	"	かわらけ	(9.3)	(6.7)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.橙色 e.良好
12-33	"	かわらけ	(13.0)	(10.0)	3.1	a.ロクロ 外底細目の回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.淡橙色 e.良好
12-34	"	かわらけ	(8.1)	6.8	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.橙色 e.良好
12-35	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.暗緑灰色半透明 薄手施釉 f.内面に劃花文

表8 遺物観察表(5)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
12-36	第1面井戸2	常滑 片口鉢I類		口縁部片		a.輪積技法 口縁部横位ナデ 以下指頭圧痕とナデ b.灰色 砂粒・石英少量含む 良土 c.器表:灰褐色 d.内面斑に自然降灰
12-37	"	常滑 片口鉢II類		口縁部片		a.輪積技法 口縁部横位ナデ 以下指頭圧痕とナデ b.灰褐色 砂粒 石英粒 黒色粒 良土 c.淡橙色 d.口縁部内面斑に自然降灰 e.硬質
12-38	"	瓦器 内折れ皿	(4.8)	(5.2)	0.9	a.手捏ね 口縁部内折れ 外底指頭痕 b.灰白色 灰雜物含まず良土 c.灰黒～灰白色 e.良好 f.京都楠葉産か
12-39	"	瓦質火鉢		口縁部片		a.輪積技法 口縁部肥厚した鉢形器形 b.淡灰黒色 微砂 白色粒 赤色粒 石粒 粗土 c.表面:橙色 e.不良 軟質氣味 f.外面口縁部下に菊花文スタンプ
12-40	"	瓦質火鉢		口縁部片		a.輪積技法 口縁部肥厚した鉢形器形 内外面横位ナデ b.灰白～灰橙色 微砂 白色粒 赤色粒 石粒 粗土 c.表面:灰黒色 e.良好
12-41	"	女瓦(平瓦)		厚さ 1.7cm		a.粘土板一枚作り 凹凸面縦位指ナデ 斑に微砂付着 側縁凹面指ナデ調整 b.赤味灰白色 微砂 白色粒 赤色粒 石粒 粗土 e.不良
14-1	第1面P-1	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
14-2	第1面P-2	かわらけ	(9.0)	(7.8)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄灰色 e.良好
14-3	第1面P-3	かわらけ	10.3	6.2	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂少量 赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.やや甘い
14-4	第1面P-9	かわらけ	(13.0)	9.5	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯少量 赤色粒 砂質良土 c.黄橙色 e.良好
14-5	第1面P-11	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂少量 赤色粒少量 良土 c.橙色 e.良好
14-6	"	瓦器質三足釜		足部片		a.断面:直方形 面取り後細かく丁寧な磨き b.灰白色 微砂 良土 c.器表:灰白色 e.良好 硬質
14-7	"	鉄製品釘		残存長 6.2 × 0.3 × 0.5		鍛造 断面四角形
14-8	第1面P-13	龍泉窯青磁 鎬蓮弁文碗		口縁部小片		a.ロクロ b.灰白色 黒色微砂 精良堅緻 気孔あり d.灰青色半透明 厚手施釉 気泡あり
14-9	"	鉄製品釘		残存長 7.3 × 0.3 × 0.3		鍛造 断面四角形
14-10	"	かわらけ	(8.1)	(6.6)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.橙色 e.良好
14-11	"	かわらけ	(13.2)	(11.0)	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.良好 f.灯明皿
14-12	"	青白磁水注		肩部小片		a.瓜形 b.白色 精良堅緻 d.青灰白不透明 薄手施釉 気泡あり f.二次焼成を受け内外器表荒れひどい
14-13	第1面P-15	かわらけ	(7.7)	(6.8)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 弱い板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
14-14	第1面P-16	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-15	第1面P-18	かわらけ	(8.1)	(6.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-16	"	かわらけ	8.1	5.8	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 弱い板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-17	"	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-18	"	かわらけ	(8.6)	(6.1)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.橙色 e.良好
14-19	"	かわらけ	(8.3)	(5.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂・海綿骨芯・赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-20	"	かわらけ	(13.6)	(8.1)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂少量 海綿骨芯微量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-21	"	かわらけ	(13.6)	(8.1)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 弱い板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒少量 良土 c.橙色 e.良好
14-22	"	青白磁水注	高台径(6.0) × 高さ(1.3)			a.瓜型 b.白色 精良堅緻 d.青白色半透明 薄手施釉 気泡あり f.高台～高台内露胎
14-23	"	青白磁梅瓶		胴部小片		a.胴部外面渦巻文 b.白色 精良堅緻 d.灰青色半透明 薄手施釉 気泡あり f.図4-24と同一個体の可能性あり
14-24	"	青白磁梅瓶		胴部小片		a.胴部外面渦巻文 b.白色 精良堅緻 d.灰青色半透明 薄手施釉 気泡あり f.図4-23と同一個体の可能性あり
14-25	"	鉄製品釘		残存長 5.7 × 0.4 × 0.6		鍛造 断面四角形
14-26	"	鉄製品釘		残存長 4.8 × 0.4 × 0.4		鍛造 断面四角形
14-27	第1面P-19	かわらけ	(7.7)	4.9	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
14-28	"	かわらけ	(7.6)	5.5	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂少なめ 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
14-29	"	鉄製品釘		残存長 5.0 × 0.5 × 0.6		鍛造 断面四角形

表9 遺物観察表(6)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
14-30	第1面 P-22	かわらけ	(9.2)	(8.0)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.良好
14-31	"	青白磁 梅瓶		胴部小片		a.胴部外面渦巻文 b.白色 精良堅緻 d.灰青白色不透明 薄手施釉 気泡あり f.二次焼成の為か器表強く荒れブクが出てる 景徳鎮
14-32	第1面 P-23	かわらけ	11.3	8.9	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
14-33	"	青白磁 梅瓶		胴部小片		a.胴部外面渦巻文 b.白色 精良堅緻 d.青白色半透明 薄手施釉 気泡あり f.二次焼成の為か器表やや荒れでいる 景徳鎮
14-34	"	青白磁 梅瓶		胴部小片		a.胴部外面渦巻文 b.白色 精良堅緻 d.灰青白色不透明 薄手施釉 気泡多い f.二次焼成の為か器表強く荒れでいる 景徳鎮
14-35	"	同安窯 青磁 櫛搔文皿		口縁部～体部片		b.灰白色 精良堅緻 d.緑灰色半透明 薄手施釉
14-36	第1面 P-24	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
14-37	"	かわらけ	(11.6)	(8.1)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-38	第1面 P-29	かわらけ	(9.5)	(8.9)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
14-39	第1面 P-32	かわらけ	(8.3)	(6.8)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-40	"	かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
14-41	"	かわらけ	(8.4)	(7.2)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-42	"	かわらけ	(8.9)	(7.4)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-43	"	かわらけ	8.5	6.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 弱い板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-44	"	かわらけ	9.0	6.9	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
14-45	"	かわらけ	13.0	9.3	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-46	"	かわらけ	8.4	7.7	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄灰色 e.良好 f.灯明皿
14-47	"	かわらけ	(8.7)	(8.1)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-48	"	かわらけ	8.1	7.5	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
14-49	"	かわらけ	8.6	7.6	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
14-50	"	かわらけ	(8.7)	(7.5)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 土丹粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-51	"	かわらけ	12.3	11.4	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.密で重い
14-52	"	かわらけ	12.4	11.2	3.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.密で重い
14-53	"	かわらけ	(13.1)	(11.0)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
14-54	"	かわらけ	(13.0)	(11.5)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
14-55	"	北部系山茶碗	(14.8)	—	3.5	a.ロクロ 口縁部～胴部片 b.灰白色 白色粒極少量 砂質精良土 c.灰白色 d.口縁～内面にかけて灰色～緑灰色の自然降灰 e.良好・硬質 f.東濃型
14-56	"	同安窯 青磁 櫛搔文皿		口縁～体部小片		b.灰褐色 精良堅緻 d.灰褐色透明 薄手施釉 貫入あり
14-57	"	瓦器 碗		口縁～体部片		a.楠葉型 内外面横みがき 内面：縱方向暗文 b.灰白色 白色粒極少量 精良堅緻 c.灰黒色 e.良好 硬質 f.炭素吸着の為全体的に黒ずんでいる
14-58	第1面 P-34	かわらけ	8.5	6.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
14-59	"	かわらけ	(8.7)	7.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-60	"	かわらけ	(11.8)	(10.7)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 赤色粒 やや粉質良土 c.黄灰色 e.良好
14-61	第1面 P-36	白かわらけ	(11.3)	(10.2)	2.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 白色粒 細密良土 c.白色 e.不良
14-62	"	白磁 劃花文碗	口縁部 小片			b.黄白色 微砂 精良堅緻 d.淡緑色を帯びた透明 薄手施釉
14-63	第1面 P-37	かわらけ	(8.2)	(7.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好 f.内面ロクロ目強い
14-64	"	かわらけ	8.7	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好

表10 遺物観察表(7)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
14-65	第1面 P-37	かわらけ	(9.8)	(7.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.黄灰色 e.不良
14-66	"	かわらけ	(13.2)	(10.0)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
14-67	"	かわらけ	(12.1)	(10.6)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
14-68	第1面 P-38	龍泉窯 青磁 劃花文碗	口縁部小片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰青色透明 薄手施釉 貫入あり	
14-69	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗	体部小片		a.ロクロ b.灰褐色 黒色粒微量 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉	
14-70	"	龍泉窯 青磁 無文皿	口縁～底部片		a.ロクロ b.灰褐色 黒色粒微量 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉	
14-71	第1面 P-39	かわらけ	(8.5)	(6.3)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
14-72	"	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質やや粗土 c.橙色 e.良好
14-73	"	かわらけ	(12.8)	(12.0)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-74	"	内折れ かわらけ	(7.3)	(9.1)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・海綿骨芯少量 粉質良土 c.黄灰色 e.良好
14-75	第1面 P-44	かわらけ	(8.8)	(6.9)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.橙色 e.良好
14-76	"	かわらけ	8.9	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.やや甘い
14-77	第1面 P-45	常滑 瓢	頸部片		a.輪積み技法 ナデ・内面指頭痕弱い 外面スタンプ文 b.淡褐色 砂粒白色粒 黒色粒・土丹粒少量 e.硬質 f.拓本あり	
14-78	第1面 P-47	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.良好
14-79	"	青白磁 合子	(5.1)	(3.6)	2.2	b.白色 微砂 精良堅緻 d.水青色不透明 薄手施釉 細かい貫入あり 口縁部・外面部付近露胎 f.外面に幅の狭い蓮弁
14-80	第1面 P-50	かわらけ	(8.2)	(5.4)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
15-1	第1面 遺構外	かわらけ	(8.2)	(5.4)	2.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.やや甘い
15-2	"	かわらけ	(8.6)	(6.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
15-3	"	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
15-4	"	かわらけ	(8.6)	(7.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
15-5	"	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.良好
15-6	"	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.糸切り 2回試みた痕あり
15-7	"	かわらけ	(11.6)	(8.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
15-8	"	かわらけ	(13.1)	(8.4)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
15-9	"	かわらけ	(6.1)	(6.2)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
15-10	"	かわらけ	(8.6)	(7.2)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄灰色 e.やや甘い
15-11	"	かわらけ	(13.6)	(12.6)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや甘い f.灯明皿
15-12	"	龍泉窯 青磁 無文碗	口縁部片		a.ロクロ b.灰白色 微砂 精良堅緻 d.青緑色不透明 厚手施釉 f.内外面共に無文 キズあり 図5-13と同一個体の可能性あり	
15-13	"	龍泉窯 青磁 無文碗	底部～高台部片		a.ロクロ b.淡黄色味かかった灰白色 微砂 精良堅緻 d.青緑色不透明 厚手施釉 大きめの貫入あり f.内外面共に無文 キズあり 図5-12と同一個体の可能性か	
15-14	"	白磁 口兀碗	口径(14.4)		b.白色 微砂 精良堅緻 d.青味がかった明灰白色不透明 薄手施釉 f.口唇部釉掻き取り露胎	
15-15	"	銅錢	径 1.6		景祐元宝 北宋 初鑄年 1034年 f.裏面擦られてつるつるしている	
15-16	"	鉄製品 錛	最大残長 14.9 幅1.6 厚さ 0.5		f.全体的に錙の付着激しい 半分のみ遺存	
17-1	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-2	"	かわらけ	(8.0)	(5.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
17-3	"	かわらけ	(7.8)	(5.8)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表11 遺物観察表(8)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
17-4	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	8.3	6.1	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-5	"	かわらけ	(8.1)	(5.7)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
17-6	"	かわらけ	8.2	6.0	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-7	"	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-8	"	かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-9	"	かわらけ	8.3	6.5	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-10	"	かわらけ	8.3	6.6	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
17-11	"	かわらけ	8.4	6.6	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-12	"	かわらけ	8.5	7.0	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-13	"	かわらけ	8.7	7.1	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質土 c.黄灰色 e.不良
17-14	"	かわらけ	8.4	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-15	"	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-16	"	かわらけ	8.6	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-17	"	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-18	"	かわらけ	8.7	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-19	"	かわらけ	(8.7)	(6.3)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.底部中央に穿孔
17-20	"	かわらけ	(8.6)	(6.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-21	"	かわらけ	8.8	7.0	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
17-22	"	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-23	"	かわらけ	8.9	6.5	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
17-24	"	かわらけ	(9.0)	(6.6)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
17-25	"	かわらけ	8.4	5.9	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部内外にうっすら煤付着
17-26	"	かわらけ	8.5	6.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-27	"	かわらけ	8.6	6.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
17-28	"	かわらけ	8.5	6.5	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-29	"	かわらけ	8.6	6.4	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-30	"	かわらけ	8.6	7.0	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
17-31	"	かわらけ	8.5	5.7	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
17-32	"	かわらけ	8.5	6.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-33	"	かわらけ	8.5	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-34	"	かわらけ	8.6	6.3	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
17-35	"	かわらけ	8.6	6.6	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-36	"	かわらけ	8.7	6.5	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.黄灰色 e.不良
17-37	"	かわらけ	8.7	5.9	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
17-38	"	かわらけ	8.8	6.1	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い

表12 遺物観察表(9)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
17-39	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	6.6	6.7	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.黄灰色 e.不良
17-40	"	かわらけ	8.9	7.0	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-41	"	かわらけ	8.8	6.3	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-42	"	かわらけ	8.7	7.0	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好
17-43	"	かわらけ	8.7	5.8	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-44	"	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
17-45	"	かわらけ	9.3	6.9	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-46	"	かわらけ	9.0	6.6	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
17-47	"	かわらけ	(9.1)	6.6	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-48	"	かわらけ	8.1	6.4	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-49	"	かわらけ	8.4	6.8	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-50	"	かわらけ	8.0	6.5	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
17-51	"	かわらけ	8.0	6.0	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.黄橙色 e.良好
17-52	"	かわらけ	8.1	6.5	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
17-53	"	かわらけ	8.2	6.6	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-54	"	かわらけ	8.5	6.9	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-55	"	かわらけ	8.4	6.8	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-56	"	かわらけ	8.4	6.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-57	"	かわらけ	8.8	6.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-58	"	かわらけ	(8.6)	(7.5)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-59	"	かわらけ	(8.6)	(7.3)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味良土 c.黄橙色 e.良好
17-60	"	かわらけ	8.6	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
17-61	"	かわらけ	8.7	7.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
17-62	"	かわらけ	8.7	6.8	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや良土 c.黄橙色 e.良好
17-63	"	かわらけ	8.6	7.2	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-64	"	かわらけ	8.5	7.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや良土 c.黄橙色 e.良好
17-65	"	かわらけ	8.5	7.0	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味粗土 c.黄橙色 e.良好
17-66	"	かわらけ	8.5	6.3	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質良土 c.橙色 e.良好
17-67	"	かわらけ	8.8	7.7	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.橙色 e.良好
17-68	"	かわらけ	8.8	7.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.不良
17-69	"	かわらけ	8.9	7.3	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-70	"	かわらけ	(8.8)	(7.0)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-71	"	かわらけ	(7.9)	(6.1)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
17-72	"	かわらけ	(8.2)	(5.5)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-73	"	かわらけ	8.1	6.5	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.やや甘い

表13 遺物観察表(10)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
17-74	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	7.3	6.1	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-75	"	かわらけ	8.1	6.3	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-76	"	かわらけ	8.4	6.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
17-77	"	かわらけ	(8.2)	(6.5)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-78	"	かわらけ	8.5	6.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
17-79	"	かわらけ	8.4	7.1	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄灰色 e.良好
17-80	"	かわらけ	(8.5)	(6.8)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-81	"	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-82	"	かわらけ	8.6	7.0	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 少量良土 c.黄橙色 e.良好
17-83	"	かわらけ	8.6	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
17-84	"	かわらけ	8.8	6.7	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-85	"	かわらけ	8.8	6.75	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質気味や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-86	"	かわらけ	8.7	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 土丹粒 砂質粗土 c.黄灰色 e.良好
17-87	"	かわらけ	8.4	6.4	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
17-88	"	かわらけ	8.6	6.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
17-89	"	かわらけ	8.8	6.5	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.黄橙色 e.やや甘い
17-90	"	かわらけ	9.0	7.2	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-91	"	かわらけ	9.0	6.8	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.赤橙色 e.良好
17-92	"	かわらけ	(9.0)	(7.1)	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
17-93	"	かわらけ	8.8	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
17-94	"	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-95	"	かわらけ	8.3	6.1	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-96	"	かわらけ	8.5	6.4	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質や粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-97	"	かわらけ	8.5	6.3	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
17-98	"	かわらけ	8.2	6.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質土 c.橙色 e.良好
17-99	"	かわらけ	8.9	6.9	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-100	"	かわらけ	8.3	6.1	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質や粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
17-101	"	かわらけ	9.4	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-102	"	かわらけ	8.8	6.6	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質や粗土 c.灰黄色 e.良好
17-103	"	かわらけ	8.4	6.5	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-104	"	かわらけ	(9.0)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-105	"	かわらけ	8.8	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
17-106	"	かわらけ	8.4	7.2	(1.6)	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-107	"	かわらけ	8.8	6.5	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-108	"	かわらけ	8.5	6.7	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表14 遺物観察表(11)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
17-109	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	8.4	6.6	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.橙色 e.良好
17-110	"	かわらけ	8.9	6.5	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄灰色 e.不良
17-111	"	かわらけ	8.7	6.5	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好
17-112	"	かわらけ	9.0	7.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-113	"	かわらけ	8.6	6.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-114	"	かわらけ	(8.4)	(6.3)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
17-115	"	かわらけ	(9.4)	(7.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
17-116	"	かわらけ	9.1	6.5	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
17-117	"	かわらけ	8.8	6.9	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-1	"	かわらけ	11.7	8.7	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 やや粉質良土 c.黄橙色 e.良好
18-2	"	かわらけ	12.2	8.3	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質良土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
18-3	"	かわらけ	12.2	8.2	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.良好 f.微量ながら口唇部に煤付着
18-4	"	かわらけ	(12.7)	(8.4)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-5	"	かわらけ	(12.8)	(8.8)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 白色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-6	"	かわらけ	(12.1)	8.6	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-7	"	かわらけ	12.5	8.5	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
18-8	"	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-9	"	かわらけ	(12.4)	(8.3)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-10	"	かわらけ	(12.7)	(9.4)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-11	"	かわらけ	13.0	8.8	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
18-12	"	かわらけ	(13.8)	(9.8)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-13	"	かわらけ	(12.6)	(9.2)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-14	"	かわらけ	12.1	8.4	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-15	"	かわらけ	13.1	8.7	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.黄灰色 e.不良
18-16	"	かわらけ	12.8	8.9	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-17	"	かわらけ	13.0	8.7	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-18	"	かわらけ	13.1	8.6	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄灰色 e.不良 f.口縁部弱い煤付着 灯明皿
18-19	"	かわらけ	(13.2)	(9.1)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
18-20	"	かわらけ	(12.9)	(9.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-21	"	かわらけ	12.9	9.0	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好
18-22	"	かわらけ	(13.1)	(9.4)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-23	"	かわらけ	(13.8)	9.2	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-24	"	かわらけ	12.3	8.5	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好 f.二次焼成を受けた為か側面半分黒っぽい
18-25	"	かわらけ	(11.9)	(7.7)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
18-26	"	かわらけ	11.9	8.1	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯多め 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好

表15 遺物観察表(12)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
18-27	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	(12.3)	(7.2)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-28	"	かわらけ	12.8	9.2	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
18-29	"	かわらけ	(12.6)	9.4	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-30	"	かわらけ	(12.8)	8.6	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-31	"	かわらけ	12.4	7.9	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粉質や粗土 c.橙色 e.良好
18-32	"	かわらけ	12.8	8.3	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 二次焼成で表面荒れ剥離している
18-33	"	かわらけ	(13.0)	(8.6)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
18-34	"	かわらけ	12.8	9.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-35	"	かわらけ	(13.4)	(9.0)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
18-36	"	かわらけ	12.3	8.8	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-37	"	かわらけ	(12.4)	(8.4)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-38	"	かわらけ	(12.7)	(8.5)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
18-39	"	かわらけ	12.8	9.6	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
18-40	"	かわらけ	12.7	8.8	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.良好
18-41	"	かわらけ	12.5	9.1	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-42	"	かわらけ	13.2	8.7	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.良好 f.灯明皿
18-43	"	かわらけ	13.1	9.5	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
18-44	"	かわらけ	13.1	9.4	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
18-45	"	かわらけ	13.2	9.1	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-46	"	かわらけ	13.4	8.9	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
18-47	"	かわらけ	(13.6)	(10.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-48	"	かわらけ	12.3	8.6	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-49	"	かわらけ	12.7	8.6	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.橙色 e.良好
18-50	"	かわらけ	12.7	8.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好
18-51	"	かわらけ	12.8	8.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好
18-52	"	かわらけ	12.4	8.3	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
18-53	"	かわらけ	(12.8)	8.6	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 内面器表荒れ剥離している
18-54	"	かわらけ	12.7	8.9	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
18-55	"	かわらけ	(12.8)	8.9	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質や粗土 c.黄灰色 e.不良
18-56	"	かわらけ	(12.9)	(9.3)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
18-57	"	かわらけ	12.7	8.6	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
18-58	"	かわらけ	12.8	9.3	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質土 c.黄橙色 e.やや甘い
18-59	"	かわらけ	13.1	8.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
19-1	"	かわらけ	8.4	7.0	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.やや甘い
19-2	"	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い

表16 遺物観察表(13)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
19-3	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	8.8	7.0	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
19-4	"	かわらけ	8.7	6.7	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質良土 c.黄灰色 e.良好
19-5	"	かわらけ	8.4	7.2	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-6	"	かわらけ	8.5	7.2	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-7	"	かわらけ	8.7	6.9	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-8	"	かわらけ	8.7	7.0	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.黄橙色 e.良好
19-9	"	かわらけ	(9.2)	(7.4)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
19-10	"	かわらけ	8.4	7.0	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
19-11	"	かわらけ	8.5	6.9	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
19-12	"	かわらけ	8.9	6.9	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-13	"	かわらけ	8.7	7.3	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
19-14	"	かわらけ	8.65	7.3	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
19-15	"	かわらけ	8.6	6.4	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-16	"	かわらけ	8.8	7.4	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
19-17	"	かわらけ	8.6	7.3	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
19-18	"	かわらけ	(8.6)	(7.1)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-19	"	かわらけ	8.9	7.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-20	"	かわらけ	9.2	7.9	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-21	"	かわらけ	8.9	7.5	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好 f.二次焼成の為か部分的にムラ・煤あり硬く焼き縮まる
19-22	"	かわらけ	8.8	6.9	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
19-23	"	かわらけ	8.9	7.2	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-24	"	かわらけ	8.9	7.5	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-25	"	かわらけ	9.2	7.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-26	"	かわらけ	8.9	7.5	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-27	"	かわらけ	8.8	8.2	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-28	"	かわらけ	(9.2)	(8.0)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質粗土 c.黄橙色 e.良好
19-29	"	かわらけ	9.0	7.8	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-30	"	かわらけ	(9.3)	(8.0)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-31	"	かわらけ	8.4	7.1	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
19-32	"	かわらけ	(8.1)	(7.3)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-33	"	かわらけ	8.3	7.2	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
19-34	"	かわらけ	8.4	7.2	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
19-35	"	かわらけ	8.5	7.0	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-36	"	かわらけ	8.9	7.5	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-37	"	かわらけ	(8.8)	(7.6)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好

表17 遺物観察表(14)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(c m)	(c m)	(c m)	
19-38	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	(9.2)	(7.6)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄灰色 e.良好
19-39	"	かわらけ	7.8	6.8	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-40	"	かわらけ	8.0	6.6	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
19-41	"	かわらけ	(8.6)	(7.6)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-42	"	かわらけ	9.1	7.3	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-43	"	かわらけ	8.4	7.0	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-44	"	かわらけ	9.1	7.6	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-45	"	かわらけ	9.1	7.55	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-46	"	かわらけ	8.4	6.8	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-47	"	かわらけ	8.9	7.1	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
19-48	"	かわらけ	9.1	7.5	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
19-49	"	かわらけ	9.4	7.9	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-50	"	かわらけ	8.8	7.4	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好 f.器表に鉄分等の融着物あり
19-51	"	かわらけ	8.8	7.0	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
19-52	"	かわらけ	(9.0)	(6.6)	2.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-53	"	かわらけ	(9.4)	(7.0)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-54	"	かわらけ	8.8	7.2	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
19-55	"	かわらけ	(8.8)	(7.3)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.黄橙色 e.やや甘い
19-56	"	かわらけ	9.2	7.8	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-57	"	かわらけ	(9.7)	(7.8)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 砂質良土 c.黄灰色 e.良好
19-58	"	かわらけ	(8.9)	(7.4)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
19-59	"	かわらけ	8.8	7.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好
19-60	"	かわらけ	8.9	7.7	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-61	"	かわらけ	9.0	6.9	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
19-62	"	かわらけ	(4.5)	(7.7)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-63	"	かわらけ	8.4	6.5	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.橙色 e.良好
19-64	"	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-65	"	かわらけ	8.8	7.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-66	"	かわらけ	9.2	7.7	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好
19-67	"	かわらけ	(10.8)	(9.2)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-68	"	内折れ 白かわらけ	(6.6)	(6.5)	1.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.灰白色 e.良好 f.内面煤付着
19-69	"	内折れ 白かわらけ	(7.0)	(6.9)	1.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.灰白色 e.やや甘い
19-70	"	内折れ かわらけ	(8.0)	(7.5)	1.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-71	"	内折れ かわらけ	(8.0)	—	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-72	"	内折れ かわらけ	(8.2)	—	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表18 遺物観察表(15)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
19-73	1面下 かわらけ溜まり	かわらけ	12.1	11.0	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-74	"	かわらけ	12.5	11.0	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 磔 やや粉質粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿か
19-75	"	かわらけ	12.6	11.2	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
19-76	"	かわらけ	12.6	10.4	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.橙色 e.良好
19-77	"	かわらけ	(12.8)	(11.4)	2.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-78	"	かわらけ	(13.0)	(10.3)	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-79	"	かわらけ	(12.8)	(11.7)	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 やや粉質粗土 c.橙色 e.良好 f.外面火を受け全体的に灰黒色に変色
19-80	"	かわらけ	(13.7)	(12.6)	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
19-81	"	かわらけ	13.0	11.6	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
19-82	"	かわらけ	12.5	11.7	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.やや甘い
19-83	"	かわらけ	12.8	11.7	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-84	"	かわらけ	12.7	11.5	3.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好
19-85	"	かわらけ	(13.8)	(13.2)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
19-86	"	かわらけ	(11.8)	(10.0)	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
19-87	"	かわらけ	(12.5)	(11.2)	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-88	"	かわらけ	(13.0)	(11.5)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-89	"	かわらけ	(12.6)	(11.2)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.橙色 e.良好
19-90	"	かわらけ	13.0	11.9	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好
19-91	"	かわらけ	13.4	12.1	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
19-92	"	かわらけ	13.5	12.0	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや砂質粗土 c.黄橙色 e.良好
19-93	"	かわらけ 加工品	—	5.3	—	a.ロクロ 外底回転糸切痕 周縁破面粗く打ち欠き円形に加工 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好 f.底部中央に径3mm深さ1.5mmの穿孔
19-94	"	穿孔かわらけ	残存値2.7×4.0 厚さ0.8			a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い f.2.5mm～3mmの深さの穿孔しようとした穴あり 貫通はしていない
19-95	"	内折れ 白かわらけ	(5.2)	(5.0)	1.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.肌色味帶びた白色 e.良好
19-96	"	内折れ 白かわらけ	(6.2)	(6.4)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質良土 c.ピンク味帶びた白色 e.良好
19-97	"	内折れ 白かわらけ	7.1	7.0	1.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質良土 c.ピンク味帶びた白色 e.良好
19-98	"	白かわらけ	(8.6)	(7.6)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質良土 c.ピンク味帶びた白色 e.良好
19-99	"	白かわらけ	(8.6)	(7.2)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質やや粗土 c.ピンク味帶びた白色 e.良好
19-100	"	白かわらけ	(9.4)	(7.3)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.肌色味帶びた白色 e.良好
20-1	"	同安窯 青磁 櫛搔文碗	体部下位片			a.ロクロ b.黄味帶びた淡灰色 黒・白色微砂 繊密 d.淡灰緑色半透明 やや薄手施釉 f.内面:櫛搔花文 外面:縦位の櫛搔文 器表面キズあり
20-2	"	同安窯 青磁 櫛搔文皿	底部1/6片 底径(6.0)			a.ロクロ b.淡灰色 黒色砂粒 繊密 d.淡灰緑色半透明 やや薄手施釉 f.内底面櫛搔文 器表面キズあり
20-3	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗	体部下位片			a.ロクロ b.黄味帶びた灰白色 黒色微砂多め やや粗土 d.暗灰緑色半透明 やや薄手施釉 貫入あり f.内底面に劃花文 キズあり
20-4	"	龍泉窯 青磁 無文碗	口縁部小片 口径(14.2)			a.ロクロ b.灰白色 微砂少量 精良堅緻 d.暗灰青色不透明 厚手施釉 気泡あり f.内面に堆白線文による区分けを行い口縁部を輪花に成形 キズあり
20-5	"	青白磁 皿	口縁部小片			a.ロクロ b.黄味帶びた白色 微砂少量 精良堅緻 d.淡水青色不透明 厚手施釉
20-6	"	青白磁 小壺蓋	径6.4 器高1.4			a.型作りで受部凸状 b.白色緻密 d.上面:青白色不透明 薄手施釉 内面:露胎 f.上面の文様は不明 中央部につまみの凸部がみられる
20-7	"	白磁 輪花型皿	口縁部小片			a.ロクロ b.白黄色 微砂 精良堅緻 d.白黄色半透明 やや薄手施釉 大きめ貫入あり f.口縁部を輪花に成形 内面に花弁のような文様あり

表19 遺物観察表(16)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
20-8	1面下 かわらけ溜まり	白磁合子	(4.4)	(2.6)	1.3	a.型作り b.白色 微砂 繊密 d.乳白色 薄く施釉 貫入あり
20-9	"	南部系山茶碗	(13.4)	—	—	a.ロクロ b.微砂 白色粒 やや粗土 c.暗灰色～灰色 e.良好 f.常滑
20-10	"	北部系山皿	(7.8)	—	—	a.ロクロ b.微砂 白色粒 精良堅緻 灰色 c.灰色 e.良好 硬質
20-11	"	渥美甕	頸部片			a.輪積技法 b.砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒やや多い 粗土 c.灰褐色 d.自然降灰
20-12	"	常滑 片口鉢I類	口縁部～胴部片	口径 (22.8)		a.輪積技法 回転ヘラ削り b.灰色 砂粒 石英 長石粒多め c.灰色 d.自然降灰 f.内面に使用磨滅
20-13	"	常滑 片口鉢I類	底部～高台部片	底径 (16.0)		a.輪積技法 貼付け高台 砂目底 b.灰褐色 白色粒 黒色粒 石英多め 長石粒 c.灰褐色 d.自然降灰
20-14	"	常滑 片口鉢II類	口縁部片			a.輪積技法 b.灰褐色 白色粒 黒色粒 砂粒 小石粒やや多め 良土 c.灰褐色 d.口縁部～内面体部に自然降灰 f.中野編年5型式
20-15	"	常滑 片口鉢II類	底部片	底径(18.0)		a.輪積技法 内面:横ナデ・板ナデ 全面降灰 外面:細かいヘラ状工具縦位ナデ b.明褐色 黒色粒 白色粒 長石粒多め c.明褐色 d.自然降灰
20-16	"	常滑甕	口縁部片			a.輪積技法 b.灰褐色 白色粒 砂粒 c.暗赤褐色 d.内面に自然降灰 e.良好 f.中野編年6a型式
20-17	"	常滑甕	口縁部片			a.輪積技法 b.灰黄色 白色粒 石英 長石粒 c.暗赤褐色 d.自然降灰 f.内面に使用磨滅 中野編年6a型式
20-18	"	常滑甕	肩部～胴部片			a.輪積技法 b.明褐色 白色粒 石英 長石粒 c.褐色 d.自然降灰
20-19	"	常滑甕	肩部片			a.輪積技法 b.暗灰色 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗灰色 d.自然降灰
20-20	"	瓦器 内折れ皿	5.4	5.8	1.0	a.手捏ね 外底指頭痕 口縁部内側へ折り込む b.灰白色 精良土 c.灰黒色 部分的に灰土 e.良好 f.京都楠葉産
20-21	"	瓦器 碗	底部片			a.ロクロ b.灰白色 水築した土で黒色微砂少量 c.器表黒色炭素吸着 e.硬質 f.内底面に花弁一つ一つ描かれた菊花文
20-22	"	掛金具	全長:8.9 幅:0.8 厚:0.8			f.先端を折り曲げて接続し環状にする 根元に留金具残る
20-23	"	銅錢	径2.3 厚0.2			祥符元宝 初鑄年 1008年 北宋
20-24	"	碁石	最長:1.8 幅:1.7 厚さ:0.4			c.黒色 不整円形
20-25	"	碁石	最長:1.5 幅:1.3 厚さ:0.4			c.白色 不整円形
20-26	"	砥石	残存長:3.5 幅:2.4 厚さ:0.5			a.砥面上下2面 b.流紋岩細粒凝灰岩 やや軟質 c.黄白色 f.仕上砥 鳴滝産 流紋岩細粒凝灰岩
20-27	"	土丹 加工品	直径:3.1 厚さ:0.9～1.1			f.土丹を円形・円盤状に加工 側面に削った痕とみられる縦の溝あり
20-28	"	骨製品 筈	残存長:3.2 幅:1.3 厚さ:0.3			a.丁寧な刃物の削り調整 断面蛤型
20-29	"	骨製品	全長:9.9 幅:1.2 厚さ:0.5			a.削り調整 f.用途不明
27-1	第2面土坑1	かわらけ	8.6	8.4	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-2	"	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.やや甘い
27-3	"	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
27-4	"	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-5	"	かわらけ	(12.6)	(8.1)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-6	"	かわらけ	(8.8)	7.3	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-7	"	かわらけ	(8.8)	(7.1)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-8	"	かわらけ	(9.2)	(8.2)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.良好
27-9	"	かわらけ	(12.8)	(12.0)	3.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.良好
27-10	"	かわらけ	(13.4)	(12.0)	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄灰色 e.やや甘い
27-11	"	かわらけ	(12.0)	(9.5)	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-12	"	かわらけ	(12.3)	(10.4)	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.淡橙色 e.やや甘い
27-13	"	かわらけ	(14.8)	(13.6)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや甘い

表20 遺物観察表(17)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
27-14	第2面土坑1	同安窯 青磁 櫛搔劃花文碗		体部小片		a.ロクロ b.灰色 黒色微砂少量 精良堅緻 d.暗灰緑色不透明 やや薄手施釉 気泡あり f.内面に櫛搔劃花文 キズあり
27-15	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗		体部片		a.ロクロ b.灰黄色 黑色微砂少量 堅緻 d.灰緑色透明 やや厚手施釉 気泡あり 貫入あり f.内面に劃花文 キズあり
27-16	"	常滑 片口鉢I類		底部片		a.輪積技法 回転ヘラ削り 砂目底 b.灰色 白色粒・黒色粒・石英多く含む c.灰色 d.内面に自然降灰 e.硬質
27-17	"	常滑 鮢		口縁部片		a.輪積技法 b.灰色~黄灰色 白色粒多め 黒色粒 c.暗褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.中野 編年6型式
27-18	"	常滑 鮢		体部片		a.輪積技法 b.黒褐色 白色粒・黒色粒やや多め c.暗褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.外面 に叩き目痕
27-19	"	常滑 鮢		肩部片		a.輪積技法 b.灰褐色 白色粒 黑色粒 小石粒 c.褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.外面に叩き 目痕 内面:密な指頭痕
27-20	第2面土坑7	銅製品	全長:2.4 幅:1.2 厚さ:0.5			a.型作り f.小刀の鞘の装飾品、頭金の様なものか 輪の内側に使用による溝の様な ものが見られる
27-21	第2面土坑8	かわらけ	(8.2)	(6.5)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-22	"	かわらけ	(8.6)	(6.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.良好
27-23	"	かわらけ	(8.6)	6.3	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-24	"	かわらけ	8.8	7.0	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-25	"	かわらけ	9.3	6.4	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.良好
27-26	第2面土坑8	かわらけ	12.7	9.6	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 土丹粒 やや粗 土 c.黄橙色 e.良好
27-27	"	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
27-28	"	かわらけ	(8.0)	(6.1)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-29	"	かわらけ	(9.0)	(7.4)	2.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-30	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗		底部小片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色透明 やや厚手施釉 気泡多い f.内面に劃花文
27-31	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗		胴部~底部		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.黄緑色透明 薄く施釉 f.内面に劃花文
27-32	"	南部系 山皿	(8.2)	(5.0)	2.0	a.ロクロ b.灰色 堅緻 c.灰色 f.第5型式か 内底面凹凸あり
27-33	"	女瓦(平瓦)	残存長:10.5 残存幅:9.9 厚さ:1.9			a.四面:離れ砂若干付着 横位ナデ 凸面:縄目 横位ナデ 側面:削りと横に溝が多数あ り 端面:ヘラ削り b.灰色 c.暗灰色
27-34	第2面土坑9	かわらけ	(8.6)	(6.7)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-35	"	かわらけ	(8.4)	(5.9)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-36	"	かわらけ	8.8	6.6	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-37	"	かわらけ	8.8	6.5	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-38	"	かわらけ	(8.8)	(6.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-39	"	かわらけ	(9.2)	(6.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-40	"	かわらけ	(8.9)	(6.7)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.や や甘い
27-41	"	かわらけ	(9.4)	(6.8)	(1.7)	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.灰黄色 e.良 好
27-42	"	かわらけ	(9.4)	(6.9)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.やや甘い
27-43	"	かわらけ	8.0	6.6	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-44	"	かわらけ	8.1	6.7	1.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-45	"	かわらけ	(7.8)	(6.1)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.やや甘い
27-46	"	かわらけ	(8.4)	(7.3)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.良好
27-47	"	かわらけ	(8.2)	(6.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.や や甘い
27-48	"	かわらけ	(8.1)	(6.1)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄 橙色 e.やや甘い

表21 遺物観察表(18)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
27-49	第2面土坑9	かわらけ	8.0	6.0	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-50	"	かわらけ	(8.2)	(7.1)	1.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-51	"	かわらけ	(8.2)	(6.7)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-52	"	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-53	"	かわらけ	(8.5)	(7.1)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-54	"	かわらけ	7.7	5.5	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-55	"	かわらけ	8.15	6.6	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-56	"	かわらけ	8.15	7.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-57	"	かわらけ	(8.3)	(6.4)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-58	"	かわらけ	8.4	6.7	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-59	"	かわらけ	8.6	6.8	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-60	"	かわらけ	(8.3)	(6.5)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
27-61	"	かわらけ	(8.5)	(7.2)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-62	"	かわらけ	9.4	(7.2)	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.歪み激しい
27-63	"	かわらけ	(10.2)	(6.6)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-64	"	かわらけ	(12.1)	(8.9)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-65	"	かわらけ	(12.2)	(7.9)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-66	"	かわらけ	(13.0)	(8.8)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-67	"	かわらけ	(12.8)	(10.0)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-68	"	かわらけ	(13.1)	(8.0)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-69	"	かわらけ	(12.9)	(9.3)	3.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-70	"	かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-71	"	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-72	"	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
27-73	"	常滑甕	胴部片			a.輪積技法 b.淡黄橙色 赤色粒 白色粒 黒色粒 石英 c.淡赤褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.拓本あり
28-1	第2面土坑10	内折れ かわらけ	(7.4)	(7.8)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
28-2	"	かわらけ	(9.8)	(7.5)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質 c.黄橙色 e.良好
28-3	"	硯	残存長:4.9 幅:4.0 厚さ:1.1			a.小型品 断面:台形状に加工 内面:使用による磨滅あり
28-4	第2面土坑11	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-5	"	かわらけ	8.2	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 やや粗土 c.黄橙色 e.不良 f.外内面ともに鍋の焦げ状の煤が付着 灯明皿ではなく別の用途か
28-6	"	かわらけ	9.0	6.9	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-7	"	かわらけ	(8.6)	(6.7)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-8	"	かわらけ	(8.8)	(6.7)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒多め 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.不良
28-9	"	かわらけ	(8.7)	(7.7)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-10	"	かわらけ	(8.6)	7.2	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い

表22 遺物観察表(19)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
28-11	第2面土坑11	かわらけ	(8.9)	(7.3)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒微量 砂質や粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-12	"	かわらけ	(10.5)	(7.6)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-13	"	かわらけ	(7.8)	6.2	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-14	"	かわらけ	(8.2)	(6.9)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-15	"	かわらけ	(8.7)	(6.4)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒微量 赤色粒 粗土 c.橙色 e.やや甘い
28-16	"	かわらけ	(11.9)	(8.6)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-17	"	かわらけ	(11.8)	(8.3)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-18	"	かわらけ	(12.4)	(8.4)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-19	"	かわらけ	12.9	9.3	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-20	"	かわらけ	13.0	8.9	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-21	"	かわらけ	12.5	9.1	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-22	"	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
28-23	"	かわらけ	12.5	8.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-24	"	かわらけ	13.2	9.1	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-25	"	かわらけ	12.6	9.3	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-26	"	かわらけ	12.5	8.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-27	"	かわらけ	12.5	8.8	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質や粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-28	"	かわらけ	(12.7)	(9.2)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-29	"	かわらけ	13.0	9.8	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 砂質や粗土 c.橙色 e.良好
28-30	"	かわらけ	13.0	10.2	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-31	"	かわらけ	(13.0)	8.6	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-32	"	かわらけ	(13.0)	(9.1)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
28-33	"	かわらけ	7.8	6.9	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-34	"	かわらけ	8.3	7.4	2.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.橙色 e.良好
28-35	"	かわらけ	8.3	7.4	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
28-36	"	かわらけ	(8.4)	(7.1)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 小石粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-37	"	かわらけ	8.6	7.3	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.良好
28-38	"	かわらけ	8.6	7.6	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 良土 c.橙色 e.良好
28-39	"	かわらけ	8.8	7.3	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 粉質や粗土 c.黄橙色 e.良好
28-40	"	かわらけ	(9.2)	(7.8)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
28-41	"	かわらけ	(13.6)	(11.5)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-42	"	かわらけ	(13.7)	(12.1)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-43	"	同安窯 青磁 櫛搔劃文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉
28-44	第2面土坑13	かわらけ	8.8	8.0	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質気味粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-45	"	かわらけ	(8.7)	(6.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味や粗土 c.橙色 e.やや甘い

表23 遺物観察表(20)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
28-46	第2面土坑13	かわらけ	9.4	7.2	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質気味粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-47	"	かわらけ	13.3	8.5	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
28-48	"	かわらけ	12.7	8.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.良好
28-49	"	かわらけ	(13.2)	(8.8)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-50	"	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
28-51	"	かわらけ	14.4	9.8	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-52	"	かわらけ	8.5	6.8	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-53	"	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-54	"	かわらけ	8.7	7.1	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
28-55	"	かわらけ	9.3	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-56	"	かわらけ	9.2	8.1	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.外から中へ3ヶ所工具による押し込みあり 大きく歪んでいる
28-57	"	かわらけ	(12.4)	(11.4)	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
28-58	"	かわらけ	(12.8)	(11.7)	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-59	"	かわらけ	13.2	12.5	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-60	"	かわらけ	(13.6)	(12.3)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味粗土 c.橙色 e.やや甘い
28-61	"	かわらけ	13.6	12.9	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-62	"	かわらけ	(14.0)	(12.0)	(2.8)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-63	"	かわらけ	(14.0)	(12.7)	2.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.器表面の汚れ強い
28-64	"	かわらけ	(14.0)	(13.2)	(2.9)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
28-65	"	かわらけ	(14.3)	(13.5)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
28-66	"	かわらけ	13.9	11.8	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.良好
28-67	"	かわらけ	13.6	12.7	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
28-68	"	かわらけ	(13.2)	(11.9)	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.やや甘い
28-69	"	かわらけ	(14.0)	(12.4)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い
28-70	"	かわらけ	14.2	13.3	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-71	"	かわらけ	14.0	13.2	2.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
28-72	"	鉄製品 釘	残存長6.15×0.45×0.5			鍛造 断面四角形
29-1	第2面土坑12	かわらけ	8.0	6.6	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-2	"	かわらけ	7.9	5.9	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-3	"	かわらけ	7.8	6.4	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-4	"	かわらけ	8.2	7.0	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-5	"	かわらけ	(8.1)	6.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-6	"	かわらけ	8.2	6.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-7	"	かわらけ	8.6	6.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-8	"	かわらけ	9.9	6.8	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表24 遺物観察表(21)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
29-9	第2面土坑12	かわらけ	8.3	6.6	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-10	"	かわらけ	8.2	7.2	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-11	"	かわらけ	9.0	7.1	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-12	"	かわらけ	(9.1)	(7.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-13	"	かわらけ	(7.9)	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-14	"	かわらけ	8.0	7.0	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-15	"	かわらけ	8.2	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粉質粗土 c.橙色 e.良好
29-16	"	かわらけ	7.9	6.1	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-17	"	かわらけ	(8.4)	6.1	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-18	"	かわらけ	8.5	6.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 多め やや砂質粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
29-19	"	かわらけ	(8.0)	6.1	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-20	"	かわらけ	8.1	6.2	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-21	"	かわらけ	8.2	6.2	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-22	"	かわらけ	8.0	6.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-23	"	かわらけ	8.2	7.2	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-24	"	かわらけ	8.2	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-25	"	かわらけ	(8.1)	(6.4)	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.橙色 e.良好
29-26	"	かわらけ	8.8	6.4	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-27	"	かわらけ	8.6	6.5	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-28	"	かわらけ	8.7	6.7	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-29	"	かわらけ	(8.4)	6.4	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-30	"	かわらけ	(9.2)	(6.5)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-31	"	かわらけ	11.8	8.0	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-32	"	かわらけ	12.2	8.0	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 多め やや砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-33	"	かわらけ	11.8	8.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
29-34	"	かわらけ	12.5	8.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-35	"	かわらけ	12.4	8.8	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-36	"	かわらけ	12.6	8.3	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質良土 c.橙色 e.良好
29-37	"	かわらけ	12.3	7.8	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-38	"	かわらけ	12.8	8.5	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-39	"	かわらけ	12.8	9.4	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-40	"	かわらけ	12.7	9.6	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-41	"	かわらけ	11.6	7.9	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-42	"	かわらけ	12.0	8.8	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-43	"	かわらけ	(12.7)	(9.3)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表25 遺物観察表(22)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
29-44	第2面土坑12	かわらけ	12.6	8.6	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-45	"	かわらけ	12.5	9.2	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-46	"	かわらけ	12.6	8.4	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-47	"	かわらけ	12.5	9.2	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
29-48	"	内折れ かわらけ	6.9	5.6	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-49	"	内折れ かわらけ	6.9	5.4	1.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-50	"	かわらけ	8.2	7.2	1.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
29-51	"	かわらけ	(8.6)	7.2	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
29-52	"	かわらけ	8.6	6.7	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
29-53	"	かわらけ	8.6	7.3	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-54	"	かわらけ	8.8	7.6	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-55	"	かわらけ	8.7	6.7	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-56	"	かわらけ	9.1	7.7	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-57	"	かわらけ	9.0	7.7	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-58	"	かわらけ	8.9	7.4	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-59	"	かわらけ	9.3	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質気味やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-60	"	かわらけ	(9.0)	(8.0)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
29-61	"	かわらけ	(13.2)	(11.8)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
29-62	"	白かわらけ	(7.9)	(6.4)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 粉質気味良土 c.淡肌色帶びた白色 e.良好
29-63	"	常滑甕	肩部片			a.輪積技法 b.黄橙色 白色粒 黒色粒 小石粒 土丹粒 c.明褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.叩き目痕あり
29-64	"	常滑甕	肩部片			a.輪積技法 b.黄褐色 白色粒 黒色粒 石英 c.橙褐色 d.自然降灰 e.硬質 f.叩き目痕あり
29-65	"	常滑 片口鉢I類	底部小片			a.輪積技法 貼付高台 b.淡灰色 白色粒 黒色粒 小石粒 土丹粒 c.淡灰色 d.自然降灰 e.硬質
30-1	第2面 土坑14上層	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
30-2	"	かわらけ	8.3	5.9	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.不良
30-3	"	かわらけ	(8.8)	7.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-4	"	かわらけ	12.2	8.1	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
30-5	"	かわらけ	12.5	8.4	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
30-6	"	かわらけ	13.6	9.6	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.不良
30-7	"	かわらけ	8.4	7.1	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 良土 c.黄橙色 e.良好
30-8	"	かわらけ	8.9	8.3	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
30-9	"	かわらけ	8.9	8.4	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
30-10	"	かわらけ	9.2	7.3	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・海綿骨芯少量 赤色粒微量 良土 c.黄灰色 e.良好
30-11	"	かわらけ	(12.6)	(10.6)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
30-12	第2面 土坑14下層	かわらけ	7.9	6.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯多め 赤色粒微量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
30-13	"	かわらけ	9.2	7.5	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い

表26 遺物観察表(23)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
30-14	第2面 土坑14下層	かわらけ	12.7	8.5	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.不良
30-15	"	かわらけ	13.8	8.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 砂質粗土 c.黄灰色 e.不良
30-16	"	かわらけ	8.0	6.9	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-17	"	かわらけ	8.5	7.5	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好
30-18	"	かわらけ	8.5	7.8	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯微量 良土 c.橙色 e.良好
30-19	"	かわらけ	8.3	7.6	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-20	"	かわらけ	8.7	8.1	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
30-21	"	かわらけ	8.9	8.2	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒微量 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-22	"	かわらけ	9.1	7.9	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-23	"	かわらけ	(9.3)	(8.5)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-24	"	かわらけ	9.0	8.1	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-25	"	かわらけ	9.3	8.2	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好
30-26	"	かわらけ	(9.0)	(8.2)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒多め 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-27	"	かわらけ	8.9	7.9	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-28	"	かわらけ	9.4	8.0	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
30-29	"	かわらけ	12.3	10.7	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
30-30	"	かわらけ	12.7	12.0	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
30-31	"	かわらけ	13.0	11.6	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
30-32	"	かわらけ	13.6	12.5	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
30-33	"	かわらけ	13.6	11.7	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
30-34	"	かわらけ	13.4	12.2	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-35	"	かわらけ	13.7	12.0	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-36	"	かわらけ	13.4	12.3	2.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好 f.歪み大
30-37	"	かわらけ	13.4	12.6	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒少量 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-38	"	かわらけ	13.4	11.3	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
30-39	"	かわらけ	13.4	12.7	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-40	"	かわらけ	13.4	11.8	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
30-41	"	かわらけ	13.4	12.1	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
30-42	"	かわらけ	13.5	11.8	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒微量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
30-43	"	かわらけ	13.3	12.3	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
30-44	"	かわらけ	13.4	12.7	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
30-45	"	かわらけ	13.5	11.7	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
30-46	"	かわらけ	(13.5)	(11.7)	(2.5)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
30-47	"	かわらけ	13.9	12.7	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 粉質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
30-48	"	白かわらけ	7.8	6.5	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・赤色粒少量 粉質精良土 c.灰白色～淡黄橙色 e.良好

表27 遺物観察表(24)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
30-49	第2面 土坑14下層	白かわらけ	10.6	9.3	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 粉質精良土 c.灰色 e.やや甘い
30-50	"	白磁皿		口縁部小片		a.ロクロ b.露胎部:白褐色 胎土:白色 精良堅緻 d.乳白色透明 薄手施釉
31-1	第2面土坑15	かわらけ	7.7	6.0	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 海綿骨芯多め 良土 c.淡橙色 e.良好
31-2	"	かわらけ	8.1	6.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.橙色 e.良好
31-3	"	かわらけ	(8.6)	(7.3)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-4	"	かわらけ	8.5	6.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
31-5	"	かわらけ	8.7	6.5	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-6	第2面土坑15	かわらけ	8.9	6.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-7	"	かわらけ	9.2	7.3	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-8	"	かわらけ	(8.0)	(6.1)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-9	"	かわらけ	8.7	7.8	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-10	"	かわらけ	(8.6)	(7.2)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
31-11	"	かわらけ	(8.7)	(7.1)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.橙色 e.良好
31-12	"	かわらけ	8.9	7.7	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
31-13	"	かわらけ	9.0	7.4	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
31-14	"	かわらけ	(11.8)	(8.3)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯・土丹粒少量 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
31-15	"	かわらけ	12.1	9.1	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-16	"	かわらけ	12.1	9.2	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-17	"	かわらけ	(12.4)	(9.2)	2.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-18	"	かわらけ	12.4	8.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-19	"	かわらけ	12.5	9.0	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-20	"	かわらけ	(12.7)	(8.5)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒多め 土丹粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-21	"	かわらけ	12.6	9.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
31-22	"	かわらけ	(12.8)	(10.0)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹細粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-23	"	かわらけ	13.0	10.4	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-24	"	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-25	"	かわらけ	(13.0)	(8.2)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-26	"	かわらけ	12.8	9.0	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・小石粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-27	"	かわらけ	8.1	6.7	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯少量 赤色粒微量 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-28	"	かわらけ	8.2	7.1	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒微量 良土 c.黄橙色 e.良好
31-29	"	かわらけ	8.3	7.7	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯多め 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
31-30	"	かわらけ	8.4	7.6	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
31-31	"	かわらけ	8.3	6.9	1.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒微量 土丹粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-32	"	かわらけ	8.3	7.2	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯多め 赤色粒 粗土 c.黄灰色 e.良好
31-33	"	かわらけ	(8.7)	(7.7)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒微量 小石粒少量 良土 c.黄灰色 e.良好

表28 遺物観察表(25)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
31-34	第2面土坑15	かわらけ	8.6	7.3	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・小石粒少量 良土 c.黄橙色 e.良好
31-35	"	かわらけ	8.5	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
31-36	"	かわらけ	8.7	7.7	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
31-37	"	かわらけ	8.5	7.3	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-38	"	かわらけ	(8.7)	(7.5)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒少量 やや粗土 c.橙色 e.良好
31-39	"	かわらけ	8.8	7.3	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒微量 小石粒少量 良土 c.黄灰色 e.良好
31-40	"	かわらけ	(8.5)	(7.3)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.良好
31-41	"	かわらけ	(8.7)	(7.5)	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒 小石粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-42	"	かわらけ	8.9	7.4	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-43	"	かわらけ	12.5	11.4	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
31-44	"	かわらけ	(12.5)	(11.6)	(3.6)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 土丹粒少量 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
31-45	"	常滑 片口鉢 I類	口縁部片			a.輪積技法 b.灰褐色 白色粒多め 砂粒 c.灰褐色 d.自然降灰 e.良好
31-46	"	常滑 片口鉢 I類	底部片			a.輪積技法 貼付高台 b.灰褐色 白色粒多め 砂粒 c.灰褐色 d.自然降灰 e.良好 f.内底磨滅痕・剥離あり
31-47	"	鉄製品 釘	残存長7.5×0.4×0.6			角釘 先端部欠損
34-1	第2面 P-3	かわらけ	(12.2)	(10.8)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-2	"	かわらけ	12.5	11.5	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-3	第2面 P-5	かわらけ	8.9	7.9	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.やや甘い f.外側一部媒ける
34-4	第2面 P-6	かわらけ	(9.1)	(8.1)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 砂質良土 c.橙色 e.良好
34-5	"	かわらけ	(11.4)	(10.1)	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
34-6	"	かわらけ	13.6	11.7	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒少量 小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-7	第2面 P-10	かわらけ	(8.1)	7.5	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-8	"	砥石	残存長3.4×1.9×1.0			f.仕上げ砥 京都鳴滝産
34-9	第2面 P-11	青磁碗	口縁部小片2.4×2.4			a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰白色透明 薄手施釉 貫入あり
34-10	第2面 P-12	常滑 瓢	口縁部～頸部 8.0×9.0 縁帶幅1.7			a.輪積技法 b.灰色 砂粒 白色粒少量 c.器表:暗赤褐色 d.自然降灰 灰緑色
34-11	第2面 P-13	内折れ かわらけ	(6.5)	(6.8)	0.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 良土 c.黄橙色 e.良好
34-12	第2面 P-15	かわらけ	(9.0)	(8.1)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
34-13	第2面 P-16	かわらけ	11.8	7.9	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-14	"	かわらけ	12.1	8.2	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-15	"	かわらけ	10.0	8.1	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-16	第2面 P-17	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
34-17	"	かわらけ	12.1	11.0	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-18	第2面 P-18	かわらけ	(7.7)	(5.9)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-19	"	かわらけ	(9.6)	(7.6)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-20	"	かわらけ	(9.4)	(7.6)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-21	第2面 P-21	かわらけ	9.0	7.0	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表29 遺物観察表(26)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
34-22	第2面 P-21	かわらけ	8.7	7.6	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-23	第2面 P-22	龍泉窯 青磁 劃花文碗		口縁部小片		a.ロクロ b.灰白色 白色粒少量 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉 気泡ややあり
34-24	第2面 P-26	かわらけ	(8.7)	(6.3)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-25	"	かわらけ	(9.7)	(7.8)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-26	"	かわらけ	8.5	7.4	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-27	"	かわらけ	8.7	8.2	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-28	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗		口縁部片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰色透明 やや薄手施釉 貫入多い f.内面櫛搔文
34-29	"	瓦器 碗		口縁部片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻(水籠) c.黒灰色 還元焼成で炭素吸着 f.内面の横位に磨き暗文施す 輪花の可能性あり 京都楠葉産
34-30	第2面 P-27	かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
34-31	"	かわらけ	(9.1)	(8.1)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
34-32	第2面 P-28	常滑 瓢		肩部片		a.輪積技法 外面格子目叩き文 b.灰褐色 黒色粒 白色粒 砂粒 c.褐色
34-33	第2面 P-29	鉄製品 釘		長さ 10.9 × 0.65 × 0.6		鍛造 断面四角形
34-34	第2面 P-31	かわらけ	(7.7)	(5.9)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-35	"	かわらけ	(7.9)	(6.3)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-36	第2面 P-33	かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-37	"	かわらけ	(8.3)	(6.1)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-38	"	かわらけ	(9.9)	(7.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.底部中央に穿孔
34-39	"	かわらけ	(13.3)	(8.2)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-40	"	かわらけ	(13.3)	(12.0)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-41	"	常滑 片口鉢II類		口縁部		a.輪積技法 b.灰色 白色粒 砂粒 c.器表:暗褐色 降灰部:灰白色 d.自然降灰 e.良好
34-42	第2面 P-35	銅製品		2.7 × 1.2		a.蝶番のような製品 f.銅の上から金メッキ施していく可能性あり
34-43	第2面 P-36	かわらけ	12.1	9.6	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-44	"	かわらけ	(13.3)	(12.5)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-45	第2面 P-37	かわらけ	(9.2)	(6.8)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-46	"	かわらけ	(12.3)	(8.1)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-47	"	青白磁 碗		底部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.明緑灰色透明 やや薄手施釉 やや気泡あり
34-48	第2面 P-38	かわらけ	12.1	8.6	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-49	第2面 P-39	青白磁 瓜形水注		肩～胴部片 3.7 × 3.0		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.明灰青色不透明 やや薄手施釉 気泡多い f.二次焼成の為器表荒れる
34-50	第2面 P-40	常滑 片口鉢I類		底部小片		a.輪積技法 貼付高台 b.灰色 白色粒・黒色粒多め 砂粒 c.灰色 f.内面使用により摩耗
34-51	第2面 P-44	かわらけ	(8.0)	(7.0)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
34-52	"	かわらけ	(9.0)	(6.3)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-53	"	土丹加工品		直径 4.0		a.土丹を磨って成形 中央に 5mm程度の穿孔
34-54	第2面 P-47	かわらけ	(13.0)	(11.9)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
34-55	"	同安窯 青磁 櫛搔蓮弁文碗		口縁部片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.明灰緑色透明 やや薄手施釉 外面貫入あり やや気泡あり f.内外面に櫛搔きで模様を施す
34-56	第2面 P-50	かわらけ	8.7	6.3	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い

表30 遺物観察表(27)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
34-57	第2面 P-50	かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
34-58	"	かわらけ	(9.1)	(6.8)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
34-59	"	かわらけ	(13.0)	(9.3)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
34-60	"	かわらけ	(8.1)	(7.1)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
34-61	"	かわらけ	(9.2)	(7.6)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.良好 f.煤付着した灯明皿
34-62	"	かわらけ	9.2	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
34-63	"	かわらけ	8.3	7.6	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 煤内外体部に廻っている
34-64	"	かわらけ	(13.0)	(11.5)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
34-65	"	越州窯瓶	(7.2)	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 黒色粒 d.緑色不透明 f.二次焼成を受け気泡あり 頸部より復元 錫倉事例は極めて少ない
34-66	"	北部系山茶碗	高台径 5.2			a.ロクロ 貼付け高台 高台内回転糸切り痕 置付もみ殻痕 b.灰色 精良土 c.器表:灰色 降灰部:緑灰色~灰白色 d.自然降灰 e.良好・硬質 f.東濃型 5型式
35-1	第2面 P-53	かわらけ	(15.0)	(12.3)	2.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
35-2	第2面 P-54	かわらけ	(8.3)	(7.1)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 多め やや粗土 c.黄灰色 e.良好
35-3	"	かわらけ	(9.1)	(7.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 少量 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-4	"	かわらけ	(8.7)	(7.7)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 砂質良土 c.橙色 e.良好
35-5	第2面 P-55	かわらけ	(8.8)	(8.6)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-6	第2面 P-57	かわらけ	(14.5)	(13.1)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 砂質良土 c.黄橙色 e.良好
35-7	第2面 P-59	かわらけ	(8.8)	7.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 多め 粗土 c.黄橙色 e.甘い
35-8	第2面 P-63	かわらけ	(8.1)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
35-9	"	かわらけ	(13.6)	(11.3)	2.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 良土 c.黄橙色 e.良好
35-10	第2面 P-65	かわらけ	(8.2)	(6.7)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 少量 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-11	第2面 P-65	かわらけ	(8.5)	8.4	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
35-12	第2面 P-67	かわらけ	(7.8)	(6.6)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 良土 c.黄灰色 e.良好
35-13	第2面 P-70	龍泉窯青磁 劃花文碗	口縁部片			a.ロクロ 内面:劃花文 b.灰色 白色粒 少量 精良堅緻 d.灰綠色透明 厚手施釉 気泡あり
35-14	第2面 P-72	かわらけ	(7.8)	(6.6)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 多め 砂質粗土 c.橙色 e.良好
35-15	"	かわらけ	(7.8)	(6.5)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒 少量 良土 c.黄灰色 e.良好
35-16	"	かわらけ	8.6	6.0	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
35-17	"	かわらけ	(11.8)	(9.1)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
35-18	"	かわらけ	(12.9)	9.7	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 多め 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
35-19	"	かわらけ	(13.0)	(9.3)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 多め 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
35-20	"	かわらけ	(7.7)	(6.1)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 少量 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.外底器表荒れています
35-21	"	かわらけ	(7.9)	(7.2)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 良土 c.黄灰色 e.良好
35-22	"	かわらけ	(8.8)	(7.8)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
35-23	"	かわらけ	8.8	7.0	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好
35-24	"	かわらけ	(11.8)	(10.7)	3.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
35-25	第2面 P-73	かわらけ	(12.6)	(10.7)	3.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.良好

表31 遺物観察表(28)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
35-26	第2面 P-74	かわらけ	9.3	9.3	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-27	"	かわらけ	14.0	13.0	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯微量 赤色粒少量 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-28	"	同安窯 青磁 櫛搔文皿	—	(4.5)	—	a.外底ヘラ切り b.灰褐色～灰白色 微砂 白色粒少量 黒色粒 砂質やや粗土 d.灰緑色 透明 薄手施釉 貫入あり
35-29	"	龍泉窯 青磁 折縁皿	口縁部小片			a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰青色半透明 厚手施釉
35-30	"	北部系山茶碗	高台径(5.7)			a.ロクロ 貼付け高台 高台内・外底回転糸切り痕 もみ殻痕 b.明灰色 砂質精良堅緻 c.褐白色 斑状 d.わずかに自然降灰 e.良好・硬質 f.東濃型6～7型式
35-31	第2面 P-75	かわらけ	(14.6)	(13.7)	(4.0)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好 f.灯明皿
35-32	第2面 P-78	かわらけ	(8.5)	6.5	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.良好
35-33	"	かわらけ	(12.8)	(8.7)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
35-34	第2面 P-78	常滑甕	肩部片			a.輪積技法 b.褐色 長石粒 砂粒 気孔のある粗土 c.暗赤色 d.自然降灰 e.硬質 良好 f.スタンプあり
35-35	第2面 P-84	かわらけ	8.2	7.5	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
35-36	"	かわらけ	(11.4)	(7.9)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
35-37	第2面 P-89	かわらけ	(9.1)	(8.6)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
35-38	第2面 P-95	かわらけ	(12.9)	(11.0)	2.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・海綿骨芯少量 良土 c.橙色 e.良好
35-39	"	常滑甕	口縁～頸部部片			a.輪積技法 内面指頭痕 b.褐色 白色粒少量 気孔のある砂質粗土 c.暗赤色 d.自然降灰 e.硬質 良好
35-40	第2面 P-97	かわらけ	(14.9)	(12.4)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 粉質良土 c.黄灰色 e.良好
35-41	第2面 P-98	かわらけ	(8.4)	(7.8)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 良土 c.黄灰色 e.良好
35-42	第2面 P-99	かわらけ	(9.3)	(8.1)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・海綿骨芯・赤色粒少量 良土 c.橙色 e.良好
35-43	第2面 P-103	かわらけ	(9.2)	(8.2)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
35-44	第2面 P-112	かわらけ	(8.4)	(7.0)	(1.7)	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
35-45	"	北部系山皿	(7.7)	(4.9)	1.9	a.ロクロ b.灰色 白色粒 砂質精良 c.灰色 e.良好 硬質 f.東濃型
35-46	"	鉄製品 釘	残存長4.2×0.3×0.3			鍛造 断面四角形
35-47	第2面 P-120	内折れ かわらけ	(6.0)	(7.0)	1.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 赤色粒少量 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.や や甘い
35-48	第2面 P-121	かわらけ	(14.7)	(13.7)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-49	第2面 P-123	かわらけ	8.6	7.2	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯微量 精良土 c.黄灰色 e.良好
35-50	第2面 P-125	台付甕	底部～高台接続部片			a.高台内ヘラナデ 外面タテ刷毛目痕 b.微砂 砂粒多量 c.黄橙色 e.良好 硬質 f.古墳 時代前期か
35-51	"	台付甕	脚裾部片 径(13.0)			a.脚内ヨコ・斜め刷毛目痕 外面タテ刷毛目痕 b.砂粒 赤色粒少量 c.黄橙色 e.良好 硬質 f.上位に直径1.3cm程の孔あり 古墳時代前期か
35-52	第2面 P-128	かわらけ	(9.2)	(7.8)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質気味やや粗土 c.橙色 e.良好
35-53	第2面 P-131	かわらけ	(8.8)	(7.4)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.橙色 e.良好 f.器 表面に鉄分付着
35-54	第2面 P-133	常滑甕	口縁部小片			a.輪積技法 b.灰褐色 白色粒 黒色粒 砂粒 c.暗褐色 d.自然降灰 e.硬質 良好 f.二次焼 成受け一部灰色に変色 中野編年5型式
35-55	第2面 P-136	かわらけ	(13.0)	(9.6)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.や や甘い
35-56	"	かわらけ	(9.3)	(8.0)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘 い
35-57	"	かわらけ	(10.3)	(9.3)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘 い
35-58	"	かわらけ	(14.4)	(11.8)	2.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘 い
35-59	"	かわらけ	(14.2)	(12.8)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-60	"	常滑甕	口縁部片			a.輪積技法 内面指頭痕 横位ナデ b.灰褐色 白色粒・黒色粒・小石粒多め c.暗褐色 d.自然降灰 e.硬質 良好 f.火を強く受け灰色に変色 中野編年4型式

表32 遺物観察表(29)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
35-61	第2面 P-141	内折れ かわらけ	(8.0)	(8.8)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
35-62	第2面 P-143	かわらけ	(8.2)	(6.6)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-63	"	かわらけ	(9.2)	(7.4)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.橙色 e.やや甘い f.器表面に鉄分付着
35-64	"	青白磁 梅瓶	胴部片			a.ロクロ b.灰白色 微砂 精良堅緻 d.明青灰色半透明 薄手施釉 貫入・気泡あり f.牡丹唐草文 二次焼成の為失透し白濁している
35-65	第2面 P-144	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 砂質気味やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
35-66	第2面 P-146	かわらけ	(9.1)	(5.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
35-67	第2面 P-147	常滑 甕	口縁部片			a.輪積技法 内面指頭圧痕 横位ナデ b.赤褐色 白色粒・黒色粒・石英多め 粗土 c.器表:赤褐色 降灰部:暗褐色 d.自然降灰 e.硬質 良好 f.中野編年5型式
35-68	第2面 P-149	銅錢	径 1.4 ~ 1.5			熙寧元宝 北宋 初鑄年1068年 f.裏面擦られてつるつるしている 厚みも薄くなり穴が開いている箇所あり
36-1	第2面 P-151	常滑 甕	肩部片			a.輪積技法 内面指頭圧痕 横位ナデ b.灰色 白色粒・黒色粒少量 c.赤褐色 d.自然降灰 e.硬質 良好 f.外面に叩き目痕
36-2	第2面 P-154	かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
36-3	第2面 P-159	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
36-4	"	瓦器 内折れ皿	(6.4)	(7.6)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.黒灰色 微砂 やや良土 c.灰白色~黒灰色 e.硬質 f.二次焼成によるものか炭素吸着している
36-5	"	かわらけ	(14.1)	(12.2)	2.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味良土 c.黄灰色 e.やや甘い
36-6	第2面 P-161	かわらけ	(9.6)	(8.0)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-7	"	かわらけ	(8.4)	(6.9)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-8	"	かわらけ	(10.4)	(9.0)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
36-9	第2面 P-162	かわらけ	(8.2)	(6.5)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
36-10	"	かわらけ	12.6	9.0	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-11	"	かわらけ	(8.2)	(7.3)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 多め 赤色粒 小石粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
36-12	"	かわらけ	9.2	8.5	2.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
36-13	"	かわらけ	12.6	11.7	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 少量 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
36-14	"	かわらけ	(12.7)	11.4	3.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-15	"	かわらけ	(12.5)	(11.5)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.黄橙色 e.やや甘い
36-16	第2面 P-164	かわらけ	(8.6)	(6.1)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-17	"	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内外面共に煤付着
36-18	"	かわらけ	(13.0)	(8.8)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-19	"	かわらけ	(13.8)	(8.8)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.口縁部に穿孔痕あり 外底にかけて一部煤付着
36-20	"	かわらけ	(8.8)	(7.3)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-21	"	かわらけ	(8.8)	(7.3)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.内面:焼けて黒ずむ 外面:再火の焼け痕
36-22	"	かわらけ	9.2	8.3	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.底部に白っぽい焼け痕
36-23	"	かわらけ	9.0	8.3	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.外面一部に煤付着 黄味がかった白い粉状のもの付着
36-24	"	かわらけ	9.8	8.4	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内面煤付着
36-25	"	かわらけ	(11.6)	(9.5)	3.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-26	"	かわらけ	13.3	11.2	3.4	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.器面全体に二次焼成うけ赤色変行
36-27	第2面 P-166	かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い

表33 遺物観察表(30)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
36-28	第2面 P-166	かわらけ	(13.0)	(11.8)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.やや甘い
36-29	第2面 P-168	かわらけ	9.7	8.5	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
36-30	"	かわらけ	(11.2)	8.2	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
36-31	"	かわらけ	(15.9)	(14.6)	3.7	a.手捏ね 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
36-32	第2面 P-169	かわらけ	(14.8)	(12.8)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.黄灰色 e.良好
36-33	第2面 P-172	かわらけ	(8.3)	(6.4)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-34	第2面 P-177	かわらけ	(14.2)	(10.8)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-35	"	かわらけ	9.5	8.9	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-36	"	かわらけ	(11.4)	(8.4)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好
36-37	"	龍泉窯 青磁 劃花文碗	胴部～底部片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色透明 薄手施釉 e.堅緻 f.内面劃花文	
36-38	"	須恵器 碗	—	(10.2)	—	a.ロクロ b.灰白色 d.緑灰色透明 薄手施釉 e.堅緻 f.底部～高台部片
36-39	第2面 P-181	かわらけ	(8.2)	(6.9)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-40	"	かわらけ	(8.6)	(5.8)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-41	第2面 P-181	かわらけ	(13.0)	(7.8)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-42	"	かわらけ	(8.2)	(6.7)	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-43	"	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
36-44	"	かわらけ	(8.4)	(7.2)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
36-45	"	かわらけ	(12.4)	(11.0)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
36-46	第2面 P-182	南部系山茶碗	口縁部小片		a.ロクロ b.灰色 精良土 c.灰色 e.良好 硬質 f.常滑 尾張 中野編年5型式	
36-47	"	鉄製品 釘	残存長4.8×7.0×0.6		鍛造 断面四角形	
36-48	第2面 P-183	常滑 甕	口縁部小片		a.輪積技法 内面指頭痕 横位ナデ b.灰色 白色粒・黒色粒・砂粒多め 石英少量 c.褐色 d.自然降灰 e.良好	
36-49	第2面 P-184	かわらけ	(10.0)	(7.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 白色粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い
36-50	"	かわらけ	9.3	7.8	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.橙色 e.良好
36-51	"	かわらけ	(9.9)	(8.4)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.内面器表に鉄分付着
36-52	"	かわらけ	(14.0)	(11.8)	3.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや砂質や粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
36-53	"	かわらけ	(15.4)	(12.6)	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好
36-54	第2面 P-185	かわらけ	(7.8)	(6.3)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 良土 c.黄灰色白 e.やや甘い f.煤付着の灯明皿
36-55	第2面 P-186	かわらけ	(8.0)	(5.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-56	"	かわらけ	(9.2)	(6.4)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
36-57	"	かわらけ	(12.7)	(8.8)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや砂質粗土 c.橙色 e.良好
36-58	"	かわらけ	12.4	8.8	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.良好
36-59	"	かわらけ	(13.7)	(10.0)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.橙色 e.やや甘い
36-60	"	かわらけ	(12.8)	(10.8)	2.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-61	"	かわらけ	12.8	11.3	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-62	"	かわらけ	(13.6)	(11.7)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質や粗土 c.黄橙色 e.良好

表34 遺物観察表(31)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
36-63	第2面 P-189	かわらけ	(9.2)	(7.3)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-64	"	かわらけ	(9.2)	(7.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
36-65	第2面 P-190	土師器 壊	底部~高台小片			a.貼付け高台 b.黄橙色 微砂・白色粒少量 c.橙色 d.外面:自然降灰 f.7世紀後半~8世紀前半
36-66	"	常滑 甕	口縁部小片			a.輪積技法 b.黄褐色 赤色粒少量 白色粒・砂粒多め c.暗褐色 d.自然降灰 e.良好 f.中野編年4型式
36-67	第2面 P-191	かわらけ	(9.6)	(7.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
36-68	"	かわらけ	(9.0)	7.35	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
36-69	"	かわらけ	(13.8)	(12.2)	2.8	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
36-70	第2面 P-195	龍泉窯 青磁 櫛搔劃花文碗	口縁部小片			a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉 e.堅緻 f.内面櫛搔劃花文
36-71	第2面 P-197	常滑 甕	口縁部			a.輪積技法 b.明褐色 赤色粒少量 白色粒・砂粒少量 c.赤褐色 d.自然降灰 e.良好 硬質 f.中野編年4型式
36-72	第2面 P-203	白磁 四耳壺	胴部片			a.ロクロ b.灰白色 白色粒極少量 精良堅緻 d.外面:青灰白色 失透 薄手施釉 貫入あり 内面:灰青色 半透明 厚手施釉 貫入あり
36-73	第2面 P-205	白かわらけ	(8.8)	(6.5)	1.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 良土 c.灰白色 e.やや甘い
36-74	"	白かわらけ	(9.6)	(9.1)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 良土 c.黄灰白色 e.良好
36-75	"	かわらけ	(13.4)	(11.4)	2.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 やや良土 c.灰白色 e.良好
36-76	第2面 P-207	鉄製品 釘	残存長5.3×(0.4)×0.6		鍛造 断面四角形	
36-77	第2面 P-208	かわらけ	(8.6)	(6.9)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-1	第2面 P-214	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-2	"	かわらけ	(8.8)	(7.1)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 少量 海綿骨芯微量 良土 c.黄灰色 e.良好
37-3	"	かわらけ 二次加工品	(11.9)	(8.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-4	"	かわらけ	(9.4)	(7.8)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂・海綿骨芯少量 良土 c.黄橙色 e.良好
37-5	"	かわらけ	(11.8)	(10.0)	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-6	"	瓦器 碗	口縁部			a.ロクロ 横位ナデ・ミガキ b.灰白色 白色粒極少量 精良土 c.黒褐色 f.器表に炭素吸着
37-7	第2面 P-216	常滑 甕	口縁部小片			a.輪積技法 ヨコナデ b.灰褐色 赤色粒少量 白色粒・砂粒多め 石英・長石粒少量 c.灰色 d.自然降灰 e.良好 硬質 f.中野編年6a型式
37-8	第2面 P-217	かわらけ	9.6	8.5	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄橙色 e.良好
37-9	第2面井戸3	かわらけ	(7.7)	(6.2)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯多め 赤色粒 土丹細粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
37-10	"	かわらけ	8.2	6.1	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
37-11	"	かわらけ	11.4	8.2	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.甘い f.灯明皿
37-12	"	かわらけ	(11.7)	(8.0)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-13	"	かわらけ	12.7	8.4	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-14	第2面 溝1	かわらけ	(8.3)	(7.3)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯少量 砂質良土 c.橙色 e.良好
37-15	"	かわらけ	(9.2)	(8.0)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂多め 海綿骨芯 砂質良土 c.黄灰色 e.良好
37-16	"	かわらけ	13.5	11.3	3.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質良土 c.黄灰色 e.甘い
37-17	第2面遺構外	かわらけ	(8.2)	(6.5)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-18	"	かわらけ	8.4	6.2	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-19	"	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂少量 海綿骨芯 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
37-20	"	かわらけ	(9.0)	(6.6)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い

表35 遺物観察表(32)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
37-21	第2面遺構外	かわらけ	(8.3)	(7.1)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや粗土 c.黄橙色 e.甘い
37-22	"	かわらけ	(8.4)	(5.8)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.糸切り一度失敗した痕あり
37-23	"	かわらけ	(9.2)	(7.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-24	"	かわらけ	(9.2)	6.6	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂少量 海綿骨芯 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
37-25	"	かわらけ	(9.5)	(7.8)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-26	"	かわらけ	(7.8)	(6.6)	1.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-27	"	かわらけ	(8.1)	(6.2)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
37-28	"	かわらけ	(8.1)	(5.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-29	"	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-30	"	かわらけ	8.9	6.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-31	"	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-32	"	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
37-33	"	かわらけ	9.2	7.0	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
37-34	"	かわらけ	(9.2)	(7.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
37-35	"	かわらけ	(7.8)	(6.6)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 小石粒 粗土 c.橙色 e.甘い
37-36	"	かわらけ	7.7	6.5	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-37	"	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 弱い板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.良好 京都都櫛葉産
37-38	"	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-39	"	かわらけ	(8.4)	(7.2)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-40	"	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-41	"	かわらけ	8.4	6.7	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや砂質や粗土 c.黄橙色 e.良好
37-42	"	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-43	"	かわらけ	(9.9)	(7.4)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-44	"	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-45	"	かわらけ	7.8	5.8	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-46	"	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒微量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
37-47	"	かわらけ	8.05	6.6	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-48	"	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
37-49	"	かわらけ	(8.5)	(6.6)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-50	"	かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-51	"	かわらけ	(9.3)	(7.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
37-52	"	かわらけ	(8.9)	(7.2)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質粗土 c.橙色 e.やや甘い f.器表面摩耗気味
37-53	"	内折れ瓦器皿	(4.6)	(5.2)	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.灰白色 白色粒 砂粒 c.灰黒色 f.器表に炭素吸着
37-54	"	かわらけ	(6.0)	(6.2)	1.2	a.手捏ね 外底指頭痕(不明瞭) b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.内折れ
37-55	"	内折れ かわらけ	(7.0)	(6.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内折れ

表36 遺物観察表(33)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
37-56	第2面遺構外	内折れ かわらけ	(7.4)	(6.4)	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内折れ
37-57	"	内折れ かわらけ	(7.2)	(7.4)	1.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内折れ
37-58	"	内折れ かわらけ	(7.4)	(7.6)	1.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好 f.内折れ
37-59	"	かわらけ	(11.9)	(9.9)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め やや粗土 c.橙色 e.良好
37-60	"	かわらけ	(12.0)	(8.7)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.甘い
37-61	"	かわらけ	(11.8)	(8.6)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-62	"	かわらけ	(12.2)	(9.3)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.良好 f.煤付着の灯明皿
37-63	"	かわらけ	(12.5)	(7.8)	2.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-64	"	かわらけ	(12.8)	(9.0)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
37-65	"	かわらけ	(13.4)	(8.0)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-66	"	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-67	"	かわらけ	(12.9)	(9.2)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-68	"	かわらけ	(11.0)	(8.3)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-69	"	かわらけ	(13.2)	(9.0)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.暗橙色 e.良好
37-70	"	かわらけ	(13.4)	9.6	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-71	"	かわらけ	(13.8)	(11.4)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 小石粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-72	"	かわらけ	(13.6)	(9.8)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
37-73	"	内折れ かわらけ	(14.8)	(9.2)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-74	"	かわらけ	(8.0)	8.8	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
37-75	"	かわらけ	(8.4)	(6.8)	1.7	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味 やや粗土 c.橙色 e.良好
37-76	"	かわらけ	8.5	7.8	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
37-77	"	かわらけ	(8.5)	7.4	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 少量 海綿骨芯 赤色粒 少量 粗土 c.黄灰色 e.良好
37-78	"	かわらけ	(9.0)	(7.2)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.淡橙色 e.やや甘い
37-79	"	かわらけ	(9.2)	(7.6)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-80	"	かわらけ	(9.5)	(8.6)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
37-81	"	かわらけ	(9.6)	(8.6)	2.1	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
37-82	"	かわらけ	(8.2)	(7.4)	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.橙色 e.良好
37-83	"	かわらけ	8.6	7.5	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや多め やや粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
37-84	"	かわらけ	8.9	7.5	1.8	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
38-85	"	かわらけ	9.0	8.1	2.0	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質 やや粗土 c.橙色 e.良好
38-86	"	かわらけ	(9.1)	(8.1)	1.9	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
38-87	"	かわらけ	(9.0)	(7.4)	2.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味 良土 c.橙色 e.良好
38-88	"	かわらけ	(9.0)	(7.6)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
38-89	"	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.5	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 粉質気味 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
38-90	"	かわらけ	(9.1)	(8.4)	1.6	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好

表37 遺物観察表(34)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
38-91	第2面遺構外	かわらけ	8.9	7.8	2.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂少量 海綿骨芯 粉質良土 c.黄橙色 e.良好 f.一部底部が削られている
38-92	"	かわらけ	(10.8)	(9.3)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
38-93	"	かわらけ	(13.0)	(10.6)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.黄橙色 e.良好
38-94	"	かわらけ	(13.0)	(12.0)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.橙色~黄橙色 e.良好 f.口唇部煤付着 灯明皿
38-95	"	かわらけ	(14.2)	(13.0)	3.2	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.淡橙色 e.やや甘い
38-96	"	かわらけ	(15.2)	(13.0)	3.3	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粉質気味やや粗土 c.黄灰色 e.良好 f.器表面鉄分付着
38-97	"	白かわらけ	(10.4)	—	—	a.手捏ね 外底指頭痕 b.微砂 赤色粒 粉質やや良土 c.淡橙色~白色 e.良好
38-98	"	白かわらけ	口縁部小片		a.糸切り・手捏ね判別不可 b.微砂 赤色粒 良土 c.灰色 e.良好	
38-99	"	同安窯 青磁櫛搔文碗	体部小片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰緑色透明 薄手施釉 f.内面に櫛搔劃花文	
38-100	"	同安窯 青磁櫛搔文碗	体部小片		a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色透明 薄手施釉 f.内外面に櫛搔文	
38-101	"	龍泉窯 青磁劃花文碗	体部下位小片		a.ロクロ b.灰白色 微砂少量 精良堅緻 d.灰緑色半透明 厚手施釉 f.内面劃花文 キズあり	
38-102	"	龍泉窯 青磁蓮弁文碗	口縁部片		a.ロクロ b.灰白色 微砂 精良堅緻 d.灰緑色不透明 やや厚手施釉 f.器表面キズあり 外面片切彫蓮弁文	
38-103	"	龍泉窯 青磁蓮弁文碗	口縁部片		a.ロクロ b.灰白色 微砂 精良堅緻 d.灰緑色不透明 厚手施釉 貫入あり f.器表面キズあり 外面片切彫蓮弁文	
38-104	"	龍泉窯 青磁蓮弁文碗	口縁部小片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.明緑灰色不透明 厚手施釉 f.外面に蓮弁文	
38-105	"	龍泉窯 青磁蓮弁文碗	体部下位小片		a.ロクロ b.灰色 微砂 精良堅緻 d.灰緑色半透明 厚手施釉 f.器表面キズ多い	
38-106	"	龍泉窯 青磁折腰皿	底部片 底径(6.4)		a.ロクロ b.灰色 微砂 精良堅緻 d.青灰色不透明 厚手施釉 f.器表面キズあり	
38-107	"	龍泉窯 青磁蓋	最大径(8.6) 合わせ口径(6.3)		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰緑色半透明 厚手施釉 貫入あり f.外面に片彫蓮弁文	
38-108	"	白磁碗	体部小片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰白色不透明 やや薄手施釉 f.外面にピンホール目立つ	
38-109	"	青白磁 劇花文	口縁部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.灰白色半透明 薄手施釉 気泡あり f.内面に櫛搔劃花文	
38-110	"	青白磁 瓜形壺	(2.8)	(4.6)	8.2	a.瓜形 内面:露胎 一部剥離 b.白色 精良堅緻 d.明青灰色透明 部分的に二次焼成を受け不透明 気泡多く肌荒れる やや薄手施釉 f.小片8片からの合成復元
38-111	"	青白磁 梅瓶	口縁部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.明灰青色半透明 やや薄手施釉 やや気泡あり	
38-112	"	青白磁 梅瓶	肩部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.明灰青色半透明 やや薄手施釉	
38-113	"	青白磁 梅瓶	胴部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 やや気孔あり d.明青灰色透明 外面:やや厚手施釉 内面:極薄く施釉 f.外面櫛搔渦巻模様	
38-114	"	青白磁 梅瓶	胴部片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 やや気孔あり d.明緑灰色半透明 外面:薄手施釉 内面:極薄く施釉 貫入・気泡あり f.外面櫛搔牡丹模様	
38-115	"	青白磁 梅瓶	体部小片		a.ロクロ b.白色 微砂 精良堅緻 d.水青色透明 やや薄手施釉 気泡あり f.外面に櫛搔文	
38-116	"	青白磁 梅瓶	胴部小片		a.ロクロ b.白色 精良堅緻 やや気孔あり d.明青灰色半透明 やや薄手施釉 二次焼成受け内外にピンホール多い 気泡あり f.外面櫛搔渦巻模様	
38-117	"	褐釉茶入	肩部小片		b.暗灰色 精良堅緻 d.暗茶色~黒茶色 薄手施釉 f.細い褐色斑紋状気泡	
38-118	"	南部系山茶碗	底部~高台部小片		a.ロクロ 貼付高台 叠付 粟殻痕 b.灰白色 白色粒多め 黒色粒少量 c.灰白色 e.良好 硬質 f.尾張 中野編年6 or 7型式	
38-119	"	南部系山皿	(8.2)	(5.0)	2.1	a.ロクロ b.灰色 白色粒 砂粒 小石粒 やや粗土 c.灰褐色 e.良好 硬質 f.常滑5型式
38-120	"	常滑片口鉢I類	口縁部片		a.輪積技法 b.灰色 白色粒 黒色粒多め 長石粒 砂粒 c.灰色 d.黒褐色~暗灰緑色の自然降灰 e.良好 硬質	
38-121	"	瓦器碗	(10.5)	—	—	a.ロクロ 内面:横方位のミガキ 外面:体部中位より横ナデ 指頭痕 b.灰白色 白色粒 砂粒 c.炭素吸着の為黒灰色 f.一ヶ所へラによる押し込みあり
38-122	"	瓦器碗	口縁部~体部小片		a.ロクロ 内面:横方位の条線暗文 外面:横ナデ 指頭痕 b.灰白色 微砂 c.炭素吸着の為黒灰色 e.硬質 f.一ヶ所へラによる輪花	
38-123	"	瓦器碗	底部片(6.6)		a.ロクロ 内面:底面に暗文 外面:体部に文様 輪花型 b.灰白色 微砂多め c.器表:炭素吸着の為黒色 e.硬質	
38-124	"	坩堝かわらけ転用	底部片		a.ロクロ b.褐灰色 外面より気泡多く含む 内面:黒褐色 海綿骨芯 外面:褐灰色~赤褐色 気泡多め	
38-125	"	坩堝かわらけ転用	口縁部~体部片		a.ロクロ 糸切りと思われる痕あり b.褐灰色 海綿骨芯 小石粒 器表:褐赤色 気泡多い f.素地・器表ともに気泡多し	

表38 遺物観察表 (35)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
38-126	第2面遺構外	女瓦(平瓦)	残存長:11.2 残存幅:7.3 厚さ:2.6	a.凹面:布目痕なし 全面離れ砂付着 凸面:斜格子状の叩き目痕 端面:へラ削り b.微砂 小石粒多量 粗土 c.灰白色 e.軟質		
38-127	"	女瓦(平瓦)	残存長:11.2 残存幅:7.3 厚さ:2.6	a.凹面:ナデ消し 離れ砂付着 凸面:×状格子状目叩き 端面:叩き締め時の痕か粘土はみ出る ナデ b.白色 砂粒等混入物多め 粉質精良土 軽い c.表面:灰白色～暗灰色 e.良好 いぶし気味		
38-128	"	女瓦(平瓦)	残存長:5.1 残存幅:8.3 厚さ:2.5	a.凹面:かすかに布目痕 全面離れ砂付着 凸面:縄目叩き目痕 側面・端面:へラ削り b.灰白色 砂粒少量 良土 c.黒灰色 e.軟質気味		
38-129	"	鉄製品 不明	残存長:15.3 幅:2 ~ 4.0 厚さ:0.5	f.先端が尖り鉄鎌のようなものか		
38-130	"	鉄製品 環状金具	径0.65	a.断面丸型に成形 掛金のような留金具か		

第四章　まとめ

本調査地点は、鎌倉市街地の中心部で「若宮大路周辺遺跡群」の北東最に位置し、北隣には鎌倉幕府最後の執権北条高時の菩提を弔うために後醍醐天皇が発願建立した宝戒寺、小町大路を挟んだ西側域は北条小町邸跡の遺跡名称である「若宮大路幕府」、北西域が横小路を挟み鶴岡八幡宮や政所跡などと隣接している。本章においては調査で知りえた諸事実から各生活面の遺構の様相や年代観、出土遺物の組成と特徴などについて、以下のような調査成果を得ることができた。

本調査では中世基盤となる地山上に堆積した厚さ25～40cm前後の整地層中に少なくとも三時期の生活面が発見されたが、その上面の時期にあたる鎌倉時代後期以降の生活面は確認されておらず、後世の削平・攢乱を受けていたことが想像される。第2面としたのは中世基盤層の黒褐色粘質土上面ないしは、その直上に施されていた整地層の上面で確認された時期の遺構である。この面からは掘立柱建物、素掘り溝、井戸などと共に多数の柱穴様のピットや土坑が検出された。掘立柱建物の南北軸は建物5以外がN-23°30'—EからN-29°40'—Eの間の軸方位を示していた。このように近い軸方位を示した掘立柱建物が同じような位置で重複して認められ、さらに柱穴様の遺構密度は高く、建物として抽出した以外にも多数のピットが検出され、かなりの頻度で建物の建替えが行われていたことを窺わせた。第2面の年代は出土遺物からみて概ね13世紀前葉に位置づけたいところである。

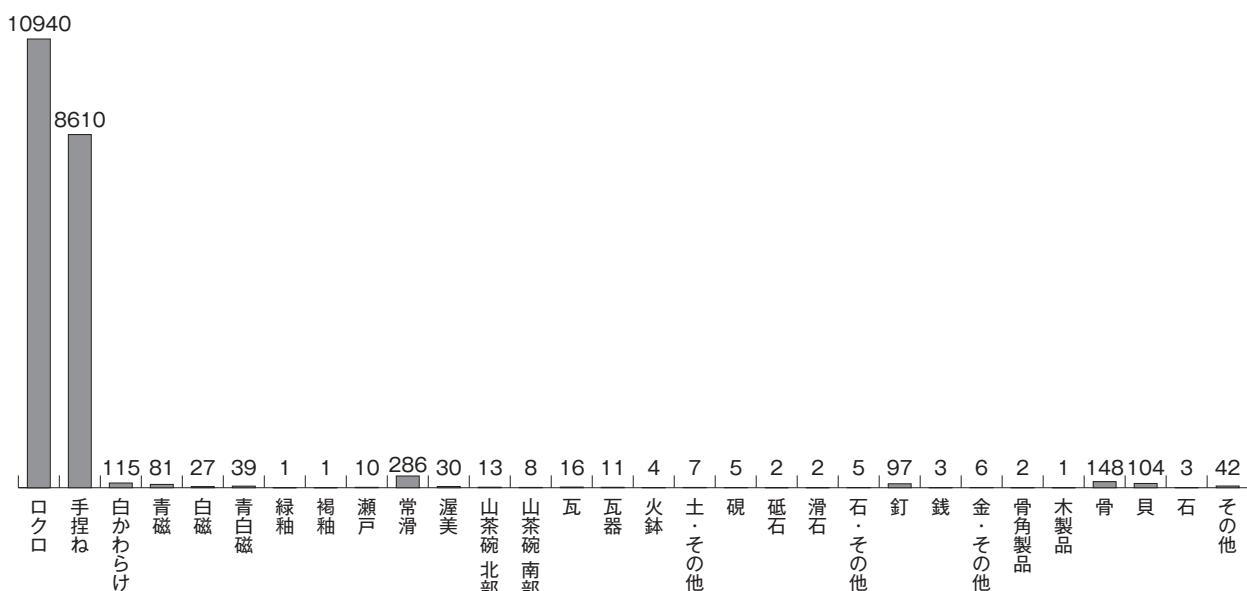
第1面下の様相は、調査区の南側で破碎土丹塊を敷き詰めた堅牢な地形層の範囲が検出され、北側域では面上に完形品を主体としたかわらけがゴミ捨て場のような状況で多量廃棄されており、かわらけ溜りを構成していた。出土遺物の組成から考えて当期は13世紀前半を主体とした年代にしておきたい。また第1面も大きくみて13世紀中～後半代が考えられるが、井戸1は出土遺物の年代からみて15世紀代に比定されもので、上層に存在していた該期の遺構が後代の削平を受けた結果と考えられる。

次に出土遺物の特徴や傾向、年代観も含めて述べることにしたい。今回の調査では、分類不可能な小片を除いた接合後の破片数で20,619点と多量の遺物が出土した。表39・40で示したようにその内訳をみると、かわらけは19,550点（白かわらけを除く）と総破片数の約95%にも上り、他の遺物を凌駕した出土状況であった。かわらけの内訳は手捏ね成形約44%に対してロクロ成形約56%の出土量が多めである。ところが第1面下のかわらけ溜り出土量をみると、ロクロ成形が4061点・63%以上で手捏ね成形に比較してかなり高い比率を示している。この手捏ね成形は体部外面の上半横ナデと下半の指頭圧痕との境界稜が弱く、厚手器壁で口唇の面取りが丸味をもつ資料が主体を占める。また大小皿の出土比率は、手捏ね成形がほぼ半々の出土量であるのに対し、ロクロ成形は大皿が6割5分と高い割合を占めていた。次に多く認められたのが常滑窯製品を主体とした国産陶器の347点である。このうち、常滑窯の甕片・片口鉢を合わせて289点に対し、瀬戸窯製品は僅かに10点出土したに過ぎなかった。鎌倉時代前期の調査地では瀬戸窯資料の出土数量に比べて貿易陶磁器のそれより少ないと見られる現象だが、本調査地点でも同様の出土傾向が認められた。貿易陶磁器では中世基盤層上の第2面に伴い龍泉窯系青磁劃花文碗I-2・3類、同安窯系青磁櫛描文碗I類・皿I-1類など多く出土しており、鎌倉市街地の調査で鎌倉時代前期の年代が与えられる層位によく見られるのと同じ種類・組成が窺える。それに対して第1面では、後発して出現する竜泉窯系青磁鎬蓮弁文碗I-5類・III-2類と白磁口元皿・碗が主体を占めている。

表39 遺物分類別出土数量表

	出土面 種類	1面	2面	かわらけ 溜まり	個数	比率(%)
か わ ら け	ロクロ	4149	2730	4061	10940	53.1
	手捏ね	4808	1479	2323	8610	41.8
	白かわらけ	43	23	49	115	0.6
舶 戴 陶 磁 器	青磁	34	36	11	81	0.4
	白磁	14	8	5	27	0.1
	青白磁	25	11	3	39	0.2
	緑釉	1	0	0	1	0
	褐釉	1	0	0	1	0
国 産 陶 器	瀬戸	1	9	0	10	0
	常滑	150	67	69	286	1.4
	渥美	13	6	11	30	0.1
	山茶碗 北部	6	2	5	13	0.1
	山茶碗 南部	4	1	3	8	0
土 製 品	瓦	6	10	0	16	0.1
	瓦器	0	5	6	11	0.1
	火鉢	1	3	0	4	0
	その他	6	1	0	7	0
石 製 品	硯	2	2	1	5	0
	砥石	0	1	1	2	0
	滑石	2	0	0	2	0
	その他	3	0	2	5	0
金属品	釘	36	14	47	97	0.5
	銭	1	1	1	3	0
	その他	1	1	4	6	0
加工品	骨角製品	0	0	2	2	0
	木製品	0	1	0	1	0
自然 遺 物	骨	63	27	58	148	0.7
	貝	24	44	36	104	0.5
	石	2	1	0	3	0
古代	その他	39	3	0	42	0.2
合計		9435	4486	6698	20619	(100%)
比率(%)		46%	22%	32%	100%	

表40 遺物分類別出土比率表



以上みてきたように、本調査地点の遺構・遺物は13世紀代の資料が主体を成しており、それ以降のものは15世紀代に下る井戸1だけであった。これは上層に存在していた該期の遺構群が後世の削平により消滅させられた結果であるとも考えられる。例えば、本調査地点より約20m南西に位置する昨年度報告地点(図2-I地点)、また宝戒寺側で北条高時邸跡に所在する北西約50mに位置する12地点(原・佐藤1996・鳥山眼科用地)と東方約90mに位置した13地点の3地点においても後代の削平により13世紀代以降の遺構密度は極めて低いことが報告されている。今後のこの近辺地点での調査継続によって、範囲と時期の確定とともに屋敷地の土地利用が次第に明らかになると思われる。

引用・参考文献一覧 ※引用・参考文献は本報告全体に共通する。

- 秋山哲雄 2010『都市鎌倉の中世史 吾妻鏡の舞台と主役たち』歴史文化ライブラリー 吉川弘文館
- 伊藤正義 1991「鎌倉・大倉幕府から宇津宮辻子幕府へ 御所の破却と政権の再生」「『吾妻鏡』の総合的研究」
- 宇都洋平・原 廣志 2010「宇津宮辻子幕府跡 小町二丁目390番2外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宇都洋平・原 廣志 2012「若宮大路周辺遺跡群 小町一町425番1の一部外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第1分冊)』鎌倉市教育委員会 I 地点で昨年度報告の調査地点
- 岡 陽一郎 2006「鎌倉の変容」小野正敏・萩原光雄編『鎌倉時代の考古学』高志書院
- 菊川英政・関口真理 1988「北条泰時・時頼邸跡 雪ノ下一丁目432番2地点」『鎌倉市埋蔵文化財近調査報告書5』鎌倉市教育委員会
- 菊川英政 1988「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目395番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会
- 菊川英政・森 孝子 2004『北条高時邸跡発掘調査報告書 小町三丁目451番1地点』(株)齋藤建設
- 熊谷洋一・浜野洋一・佐藤仁彦 1993「宇津宮辻子幕府跡 小町二丁目354番12外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会
- 佐藤仁彦・原 廣志 1996「北条高時邸跡 小町3-426-3地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宗臺秀明・土屋浩美 1998「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目370番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宗臺秀明・宗臺富貴子 1998「北条時房・顕時邸跡 雪ノ下一丁目272番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宗臺秀明・宗臺富貴子 1999『条時房・顕時邸跡 雪ノ下一丁目265番3地点』 同遺跡発掘調査団・東国歴史考古学研究所
- 宗臺秀明・馬瀬直子・太田美智子 2001「政所跡 雪ノ下三丁目986番4地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宗臺秀明 2008「中世鎌倉の都市性」中央大学考古学研究会編『白門考古論叢』
- 宗臺富貴子 2004「南関東の陶磁器流通」浅野晴樹・齋藤慎一編『中世東国の世界2 南関東』高志書院
- 瀬田哲夫 1990「北条泰時・時頼邸跡 雪ノ下一丁目369番地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』鎌倉市教育委員会
- 田代郁夫・原 廣志 1989「北条時房・顕時邸跡 雪ノ下一丁目265番3地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』鎌倉市教育委員会
- 玉林美男 1987「北条泰時時頼邸跡 雪ノ下一丁目419番3地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3』鎌倉市教育委員会
- 継 実 1993「宇津宮辻子幕府跡の調査 - 発表要旨 - 」『第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会』鎌倉考古学研究所
- 手塚直樹・宮田 真 1991『政所跡発掘調査報告書』同遺跡発掘調査団
- 手塚直樹・瀬田哲夫 1992「政所跡 雪ノ下三丁目965番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急報告書8』鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹・瀬田哲夫 1992「政所跡 雪ノ下三丁目966番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急報告書8』鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹・田畠佐和子 1993「政所跡 雪ノ下三丁目988番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第3分冊)』鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹・野本賢二 2000「若宮大路周辺遺跡群 小町二丁目402番5地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第1分冊)』鎌倉市教員委員会

- 中野晴久 2012「常滑窯の展開」『シンポジウム中世渥美・常滑焼をおって 発表要旨』日本福祉大学知多半島総合研究所
- 野本賢二 1999「政所跡 雪ノ下三丁目970番2外」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 原 廣志・秋山哲雄・須佐直子 1998「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目369番1」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 原 廣志 1999「神奈川・宇津宮辻子幕府跡」『木簡研究 第21号』木簡学会
- 原 廣志・小林重子・須佐直子 1996「宇津宮辻子幕府跡 小町二丁目361番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第2分冊)』鎌倉市教育委員会及び『宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書』同遺跡発掘調査団
- 原 廣志・佐藤仁彦 1996「宇津宮辻子幕府跡 小町二丁目389番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 原 廣志 1988「北条時房・頼時邸跡 雪ノ下一町273番口地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
- 原 廣志・須佐直子 2005「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目407番3の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 原 廣志 2008「若宮大路周辺遺跡群竪穴建物出土の陶磁器」『貿易陶磁器研究 No.28』日本貿易陶磁研究会
- 原 廣志・宇都洋平 2010「若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目425番1一部外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第1分冊)』鎌倉教育委員会
- 松尾宣方 1983「若宮大路周辺遺跡群 小町一町319番2地点」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報 I』鎌倉市教員委員会
- 松尾宣方 1983「若宮幕府跡 雪ノ下一丁目432番2地点」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報 I』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄 1984「北条泰時・時頼邸跡 雪ノ下一丁目372番7地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄 1985「北条泰時・時頼邸跡 雪ノ下一丁目371番1地点」『北条泰時・時頼邸跡』同遺跡発掘調査団
- 馬淵和雄・大三輪竜彦・大河内 勉 1985『小町二丁目345番2地点遺跡』同地点遺跡発掘調査団
- 馬淵和雄・岡 陽一郎・秋山哲雄 1996「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目377番6・7地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・鍛冶屋勝二・松原康子 2002「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目400番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・鍛冶屋勝二・松原康子 2003「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目401番5外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄・伊丹まどか 2007「若宮大路周辺遺跡群 小町二丁目409番9外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23(第2分冊)』鎌倉教育委員会
- 馬淵和雄・鍛冶屋勝二・松原康子 2010「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目440番1の一部地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 宮田 真 1996『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書 小町一丁目321番1地点』同遺跡発掘調査団
- 森 孝子・諸星真澄 2000『北条(泰時・時頼 雪ノ下一丁目367番1・368番1地点)』同遺跡発掘調査団
- 山村亜紀 1997「中世鎌倉の都市空間構造」『史林 80巻2号』

図版1

▼a. I区第1面全景(南から)



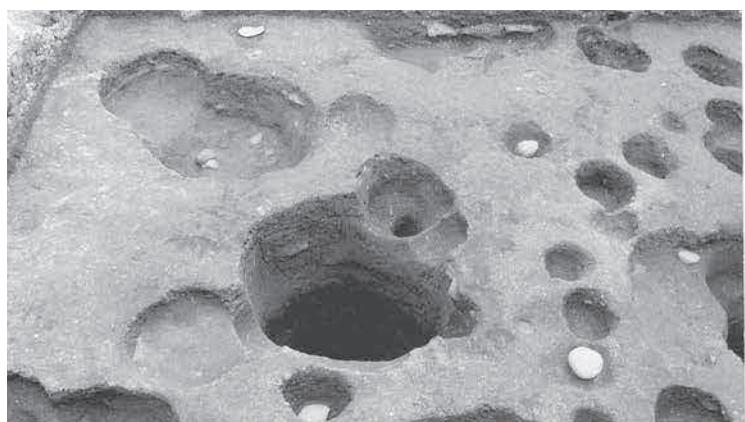
▲b. I区第1面全景(北から)



◀c.
II区第1面全景(西から)



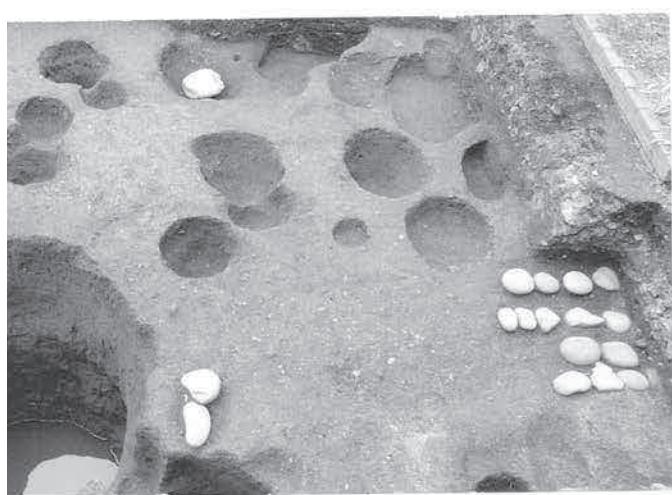
▶d.
II区第1面全景(東から)



▲ a. I 区第1面北半部 (西から)



► c.
井戸 1



▲ b. I 区第1面南半部 (西から)



► d.
井戸 2

▼ e. 玉石列



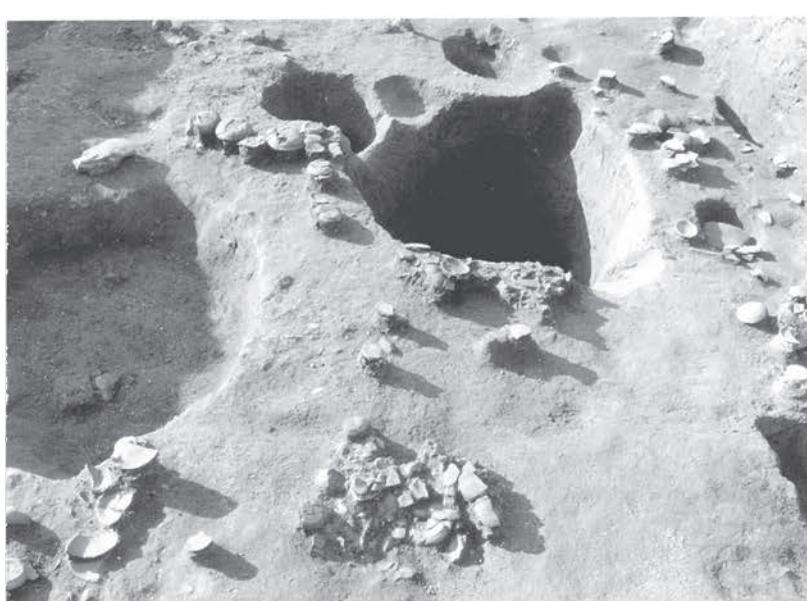
◀ f.
土坑 1

▼ g. 土坑 5



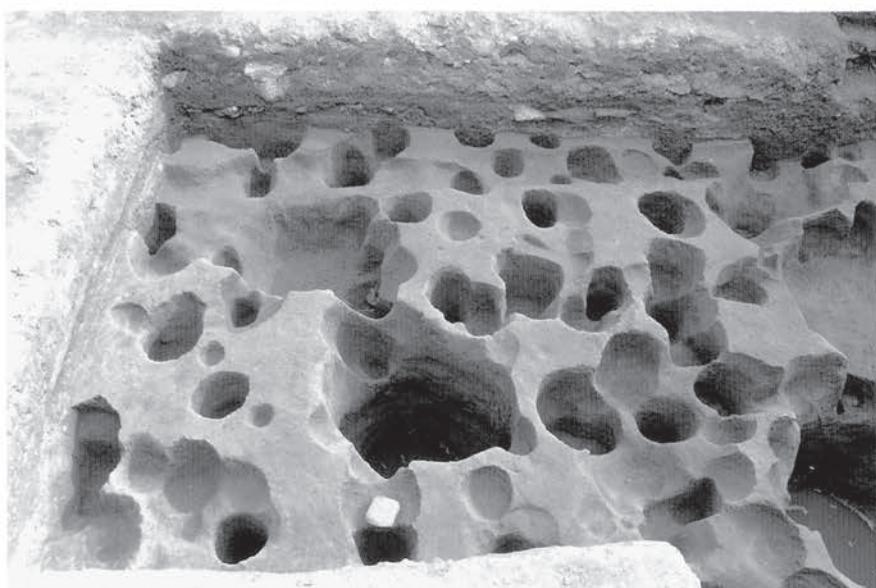
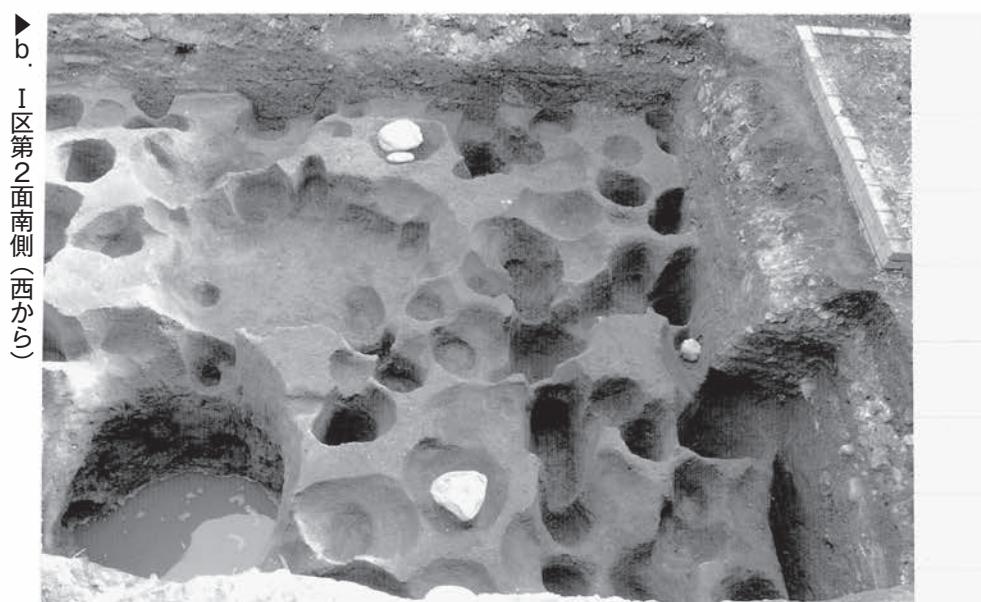
◀ h.
P 18

図版3





図版5





◀ a. II区第2面全景(北から)

※ a・bの第2面の全景写真は7・10・11層の上面で確認した遺構である。



▲ b. II区第2面全景(東から)



▲ d. 土坑11・13(東から)

▶ c. 土坑9(左上)・12(右下)のかわらけ出土状況



図版7



▲土坑14

も含めたものである。
中世地山上面で確認した遺構
※a・bの第二面全景写真は

a. II区第2面全景（北から）



►b. II区第2面全景（西から）



►c. 土坑14（北から）



▲ a. 土坑1（東から）



▼ d. 同上土層断面（南から）



▲ b. 同上土層断面（西から）



▲ e. 土坑2・P18土層断面



▲ f. P77



▲ h. P168・169



▲ g. P164・186

図版9



▲ a. I 区調査区北壁土層断面



▲ b. I 区調査区東壁北側土層断面



▲ c. I 区南西隅の拡張区土層断面



▲ d. I 区調査区東壁中央土層断面



▲ e. II 区調査区北壁土層断面



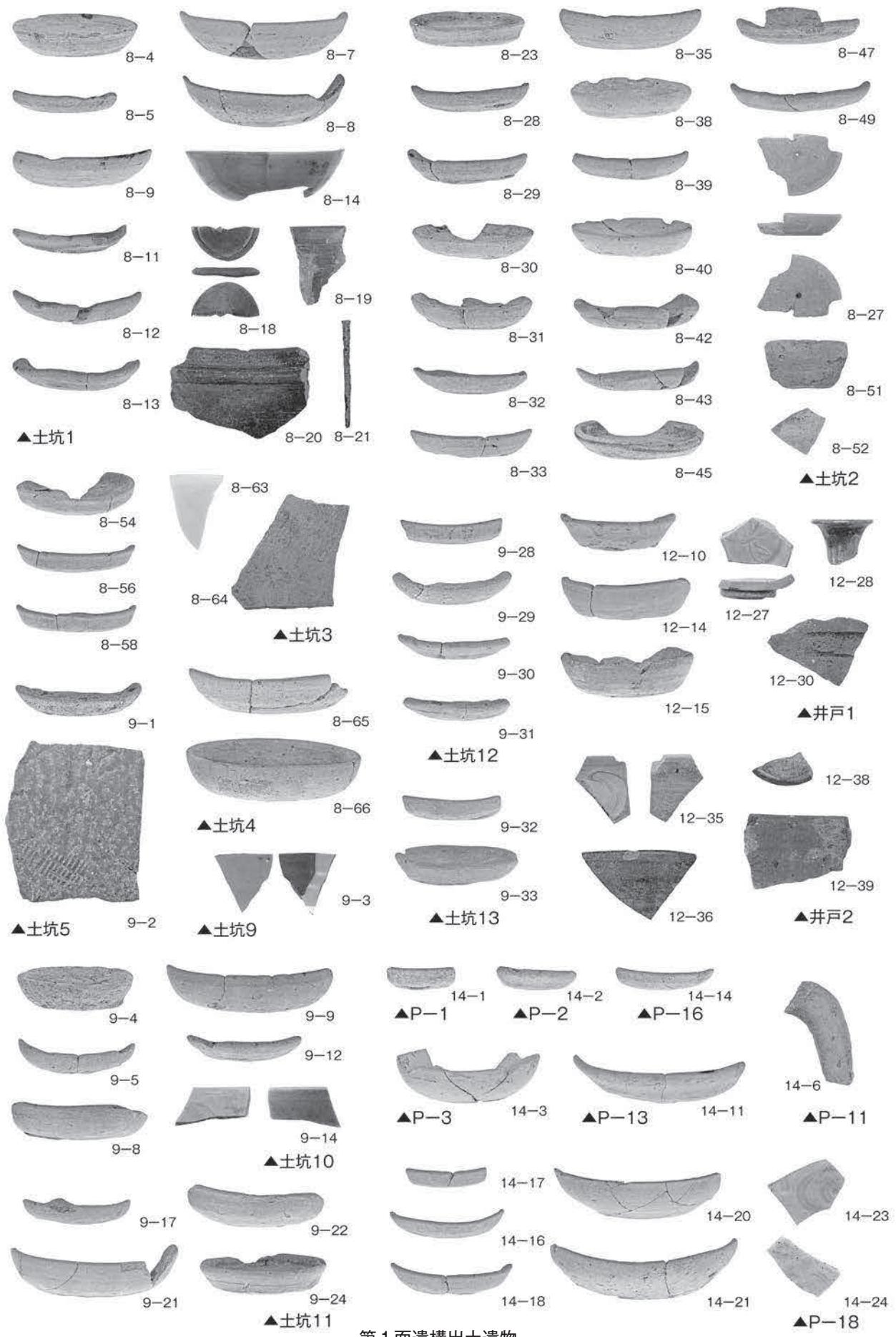
▲ f. II 区調査区北壁土層断面



▲ g. II 区調査区東壁土層断面

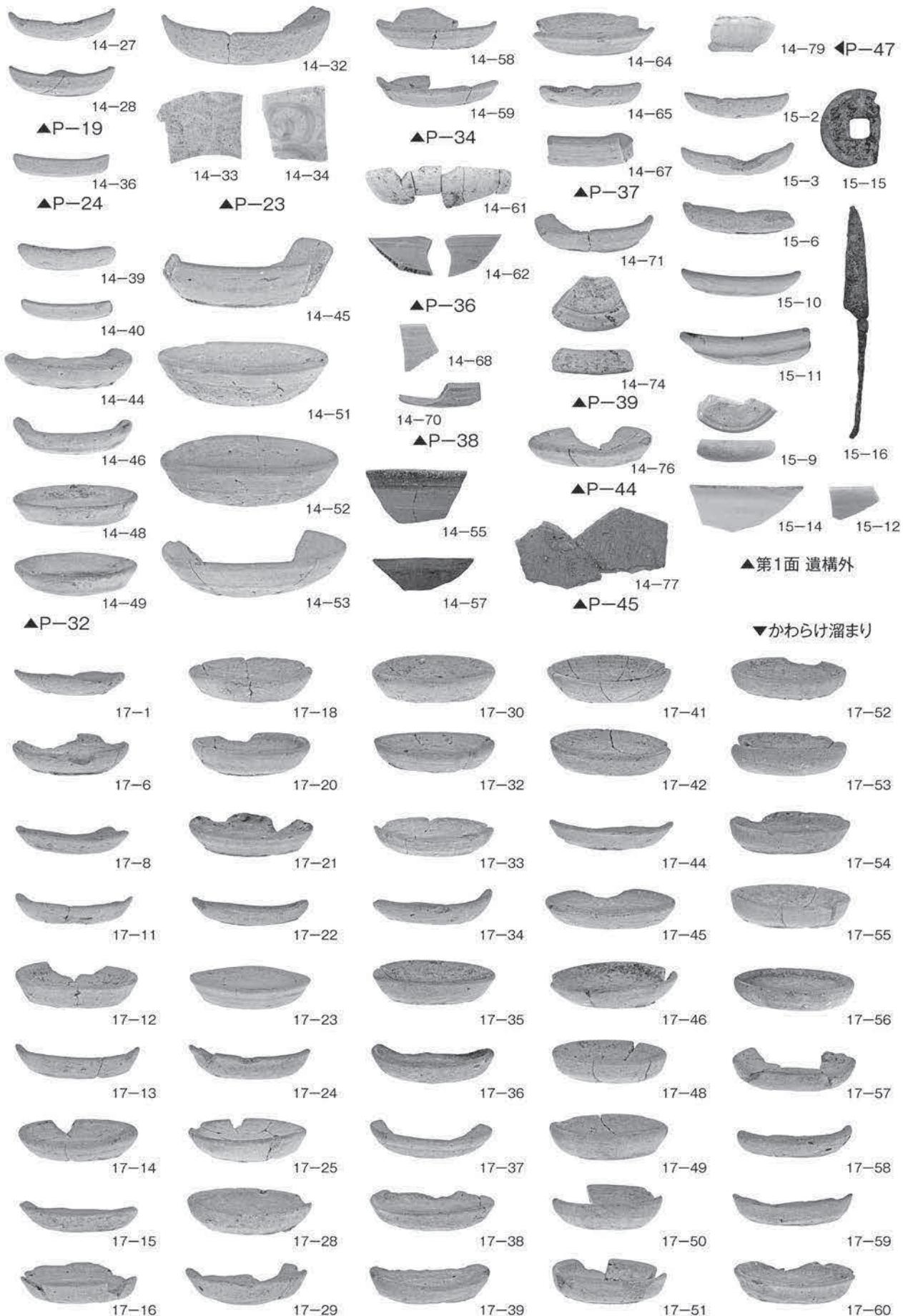


▲ h. II 区調査区南壁土層断面

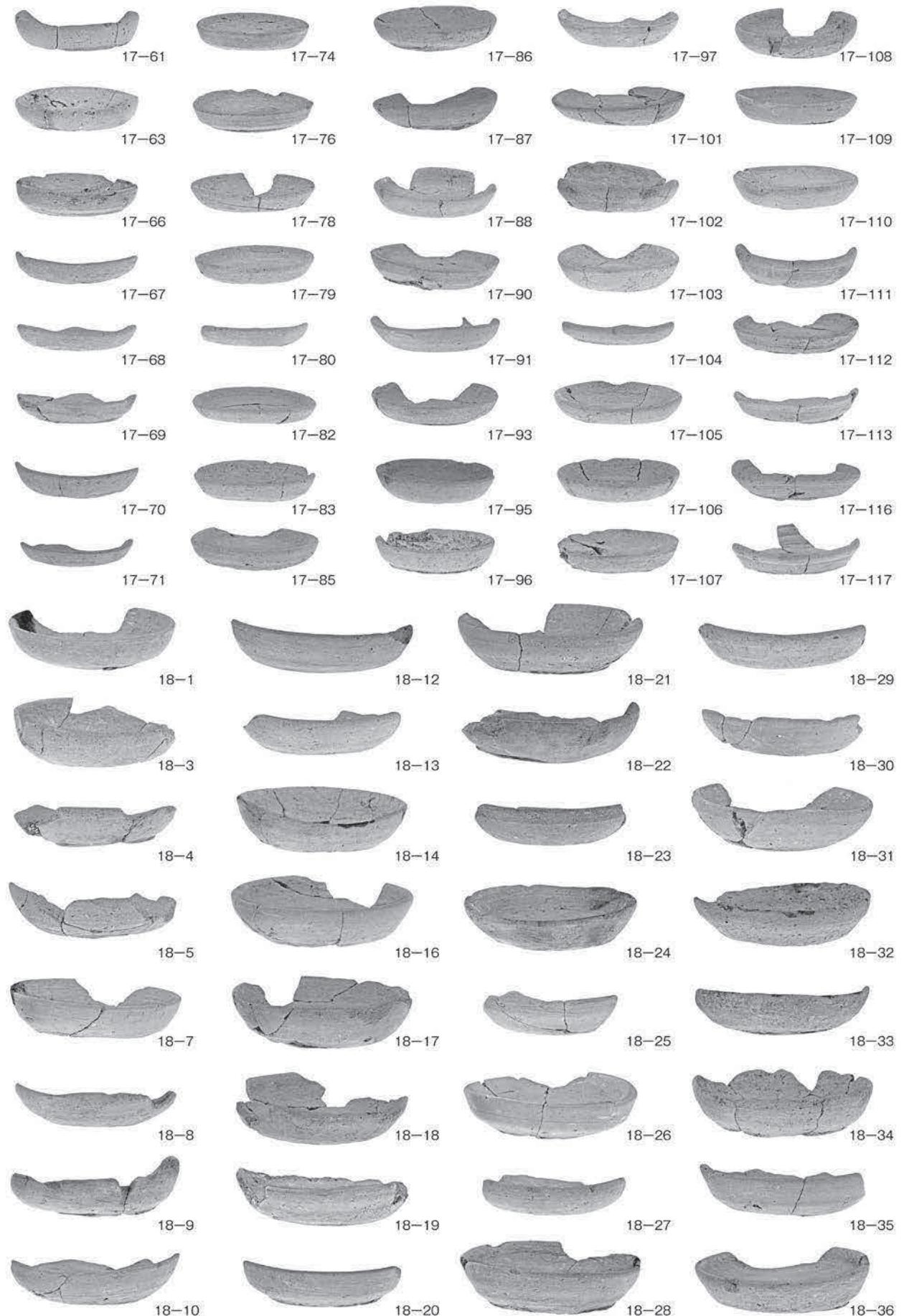


第1面遺構出土遺物

図版 11

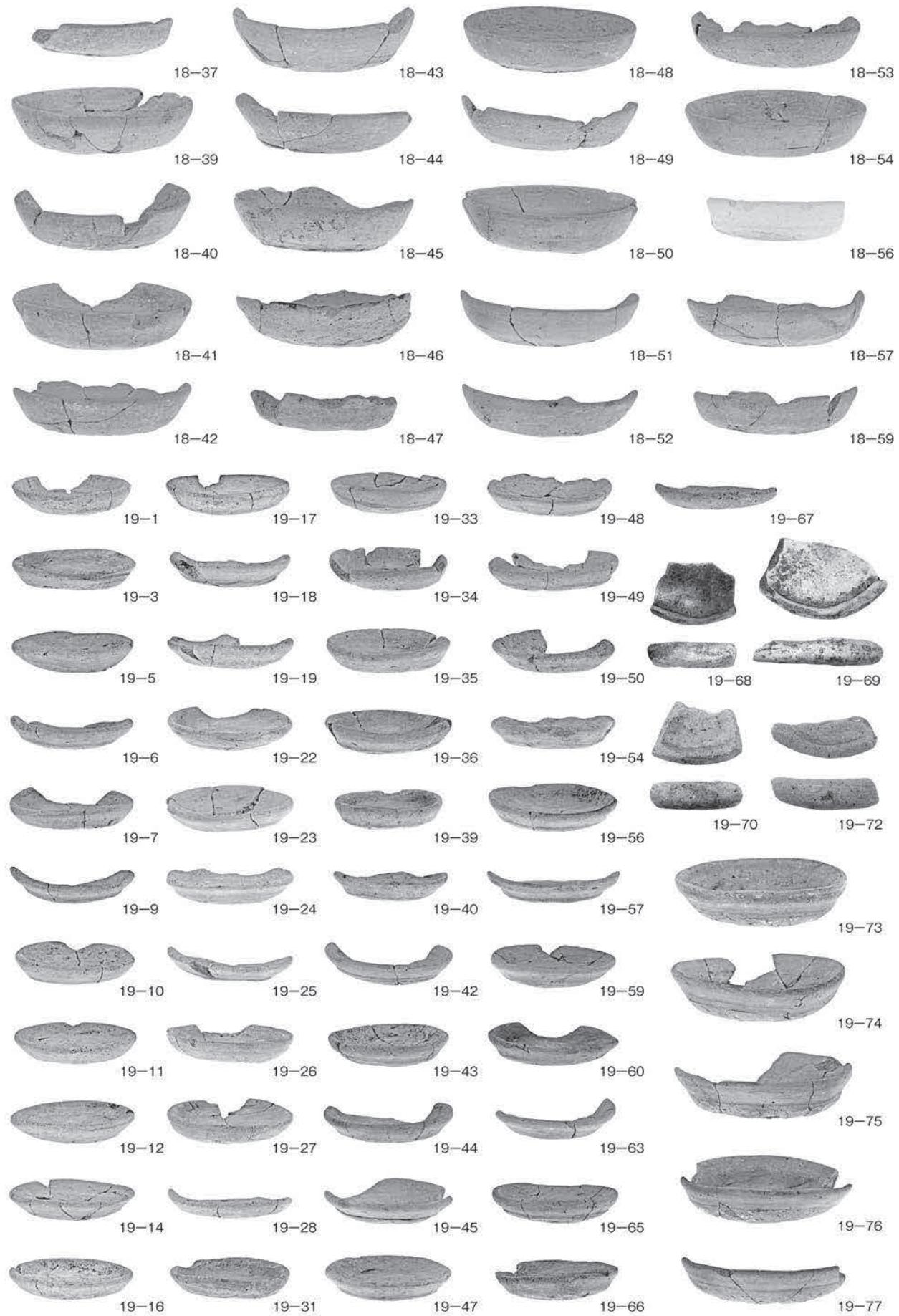


I 区第1面遺構・第1面下～2面かわらけ溜まり(1)出土遺物

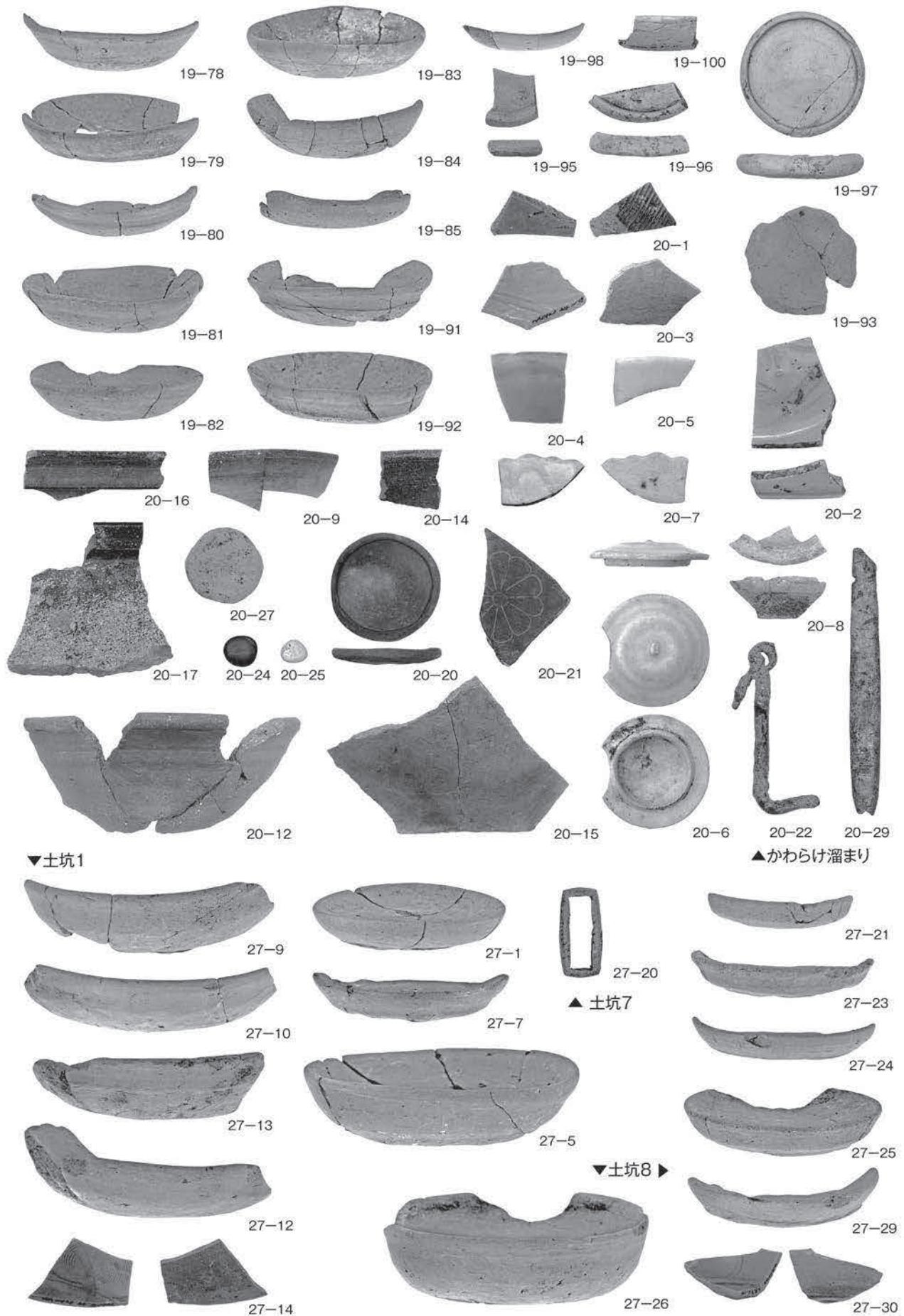


I区1面下～2面かわらけ溜まり(2)出土遺物

図版13

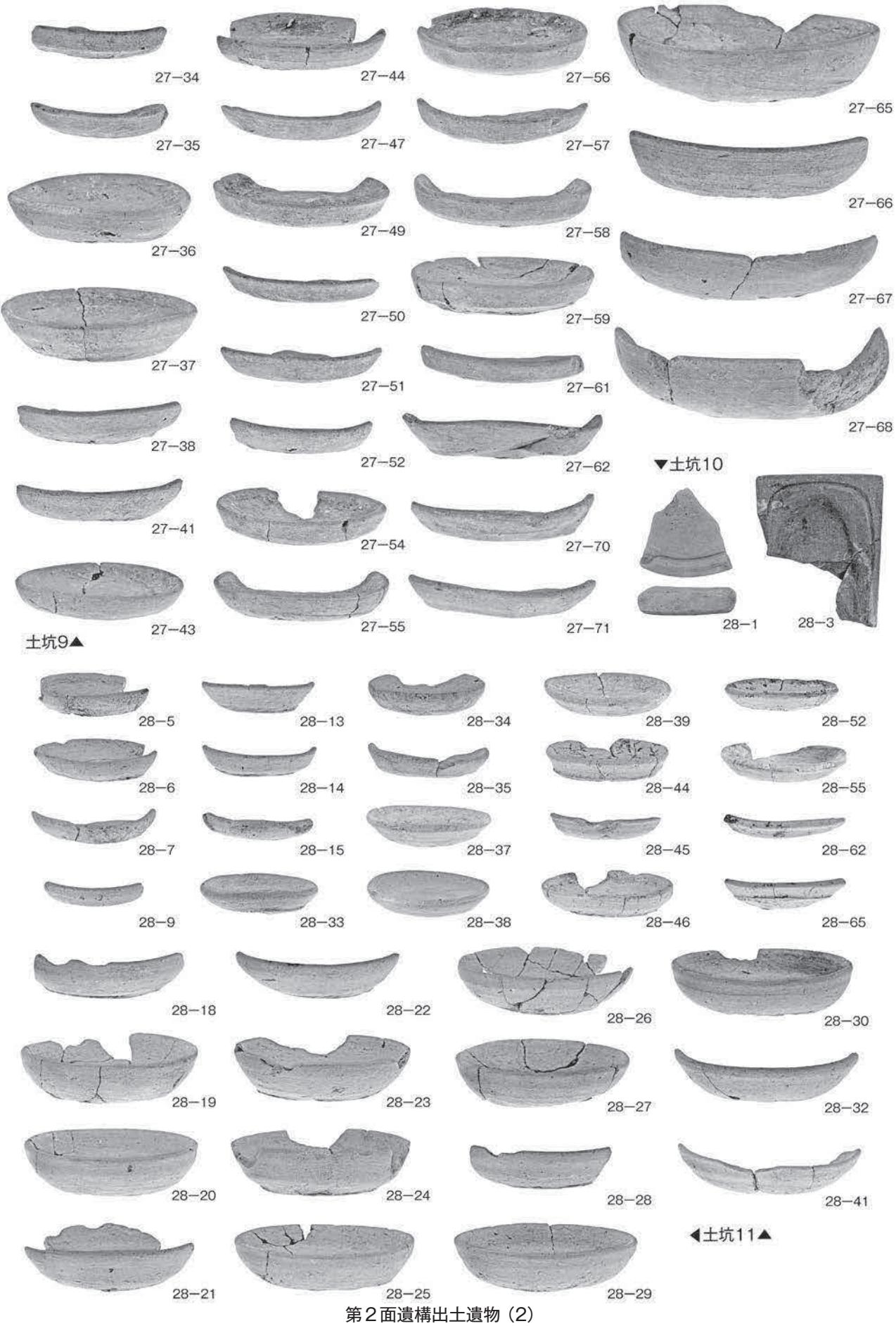


I区1面下～2面かわらけ溜まり(3)出土遺物

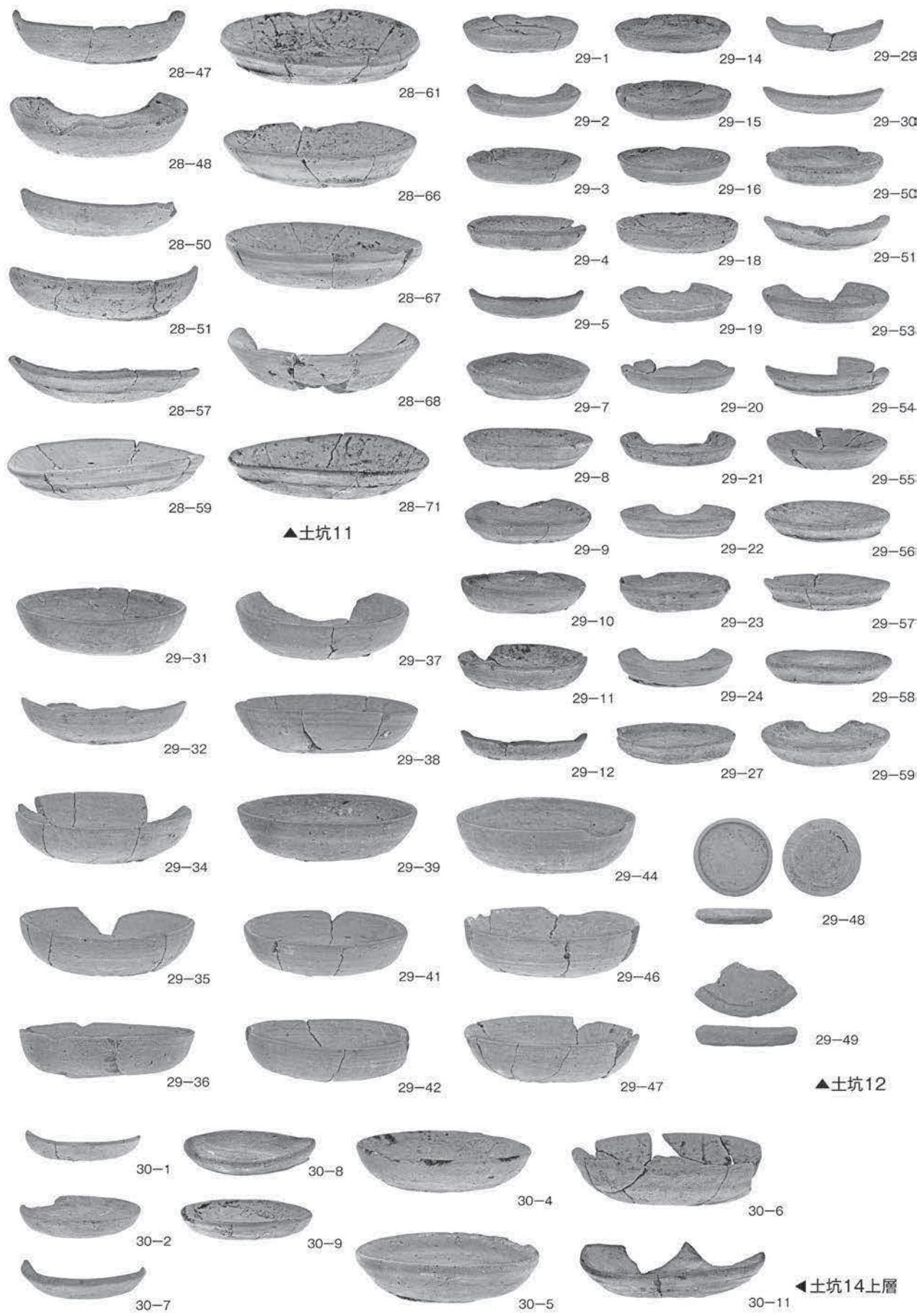


第1面下～2面かわらけ溜まり(4)・第2面遺構出土遺物(1)

図版15

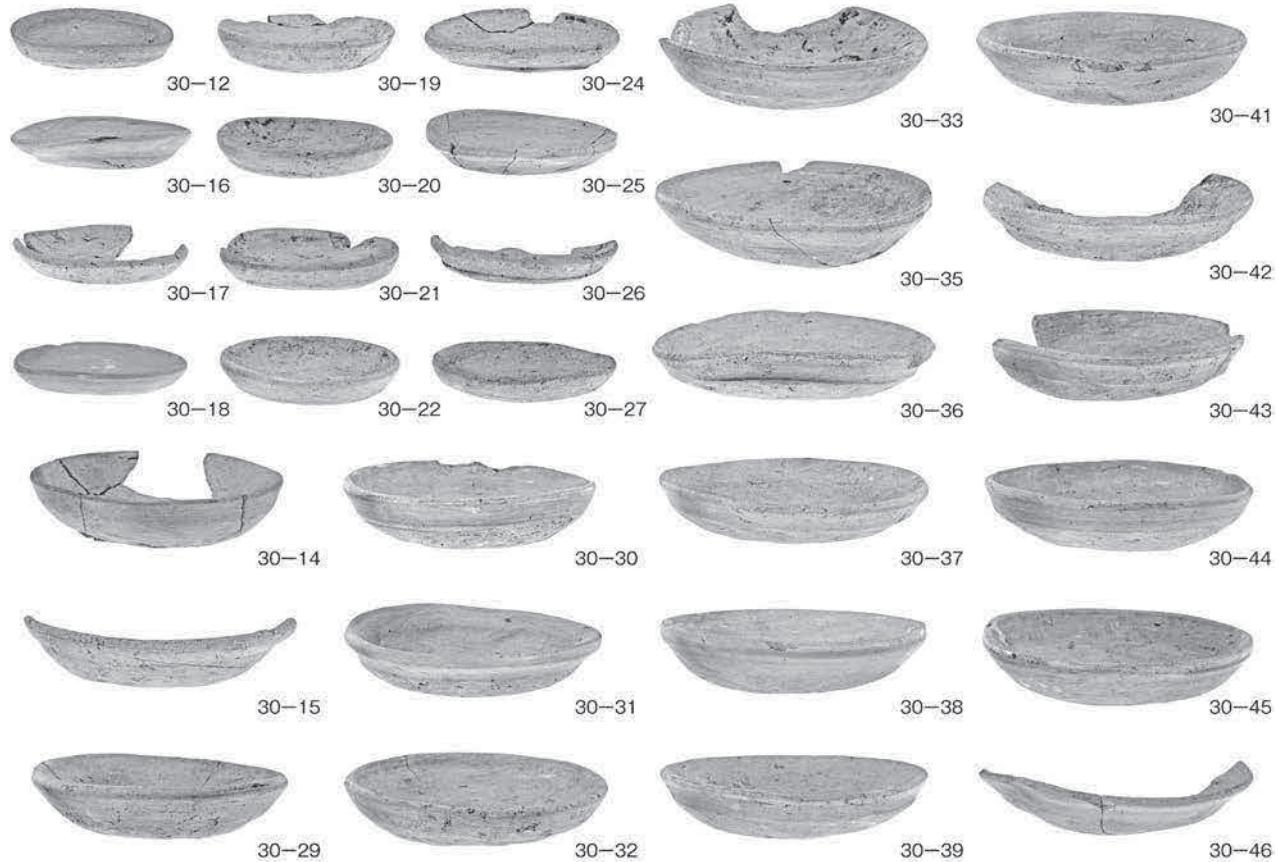


第2面遺構出土遺物(2)

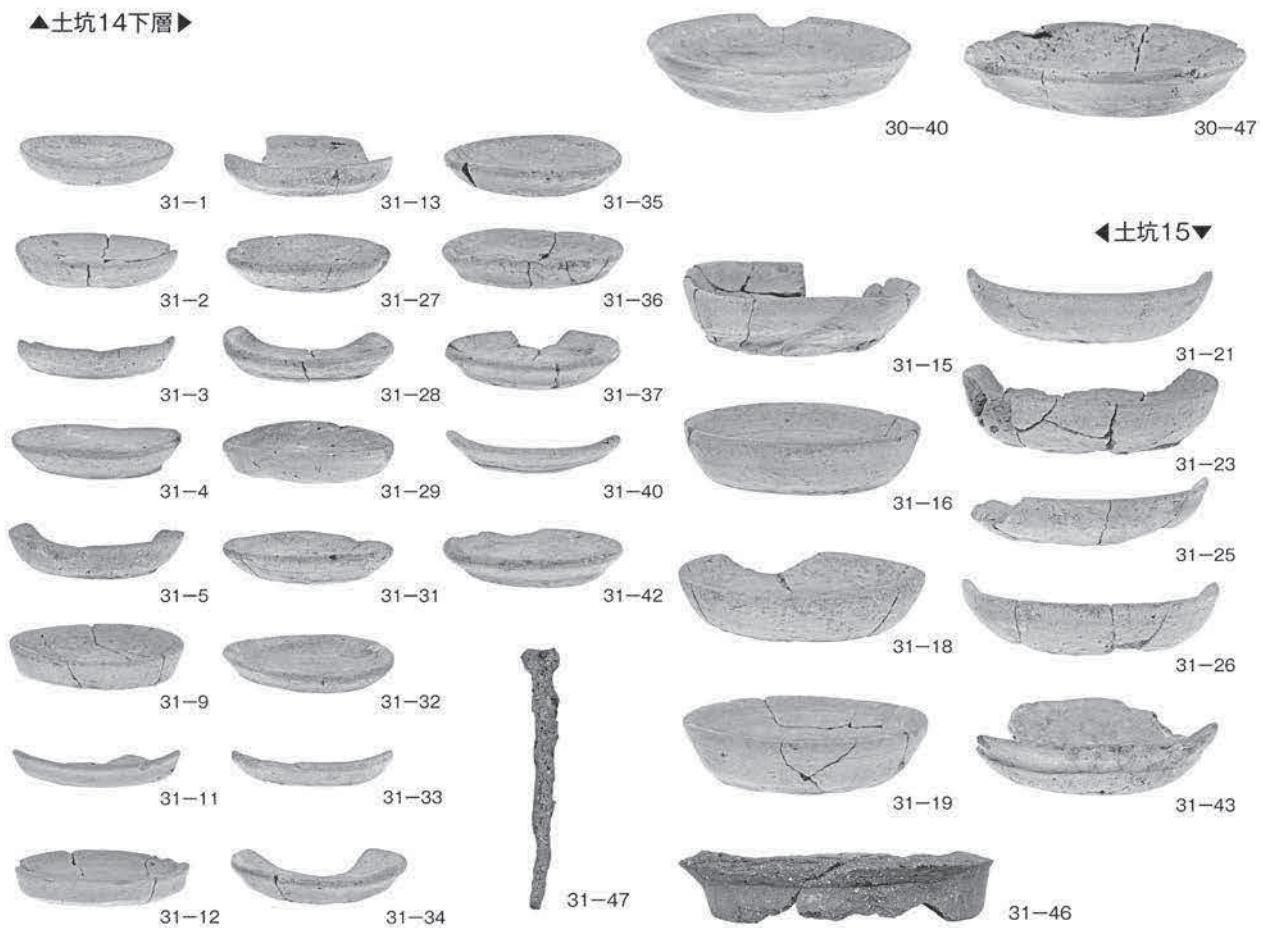


第2面遺構出土遺物（3）

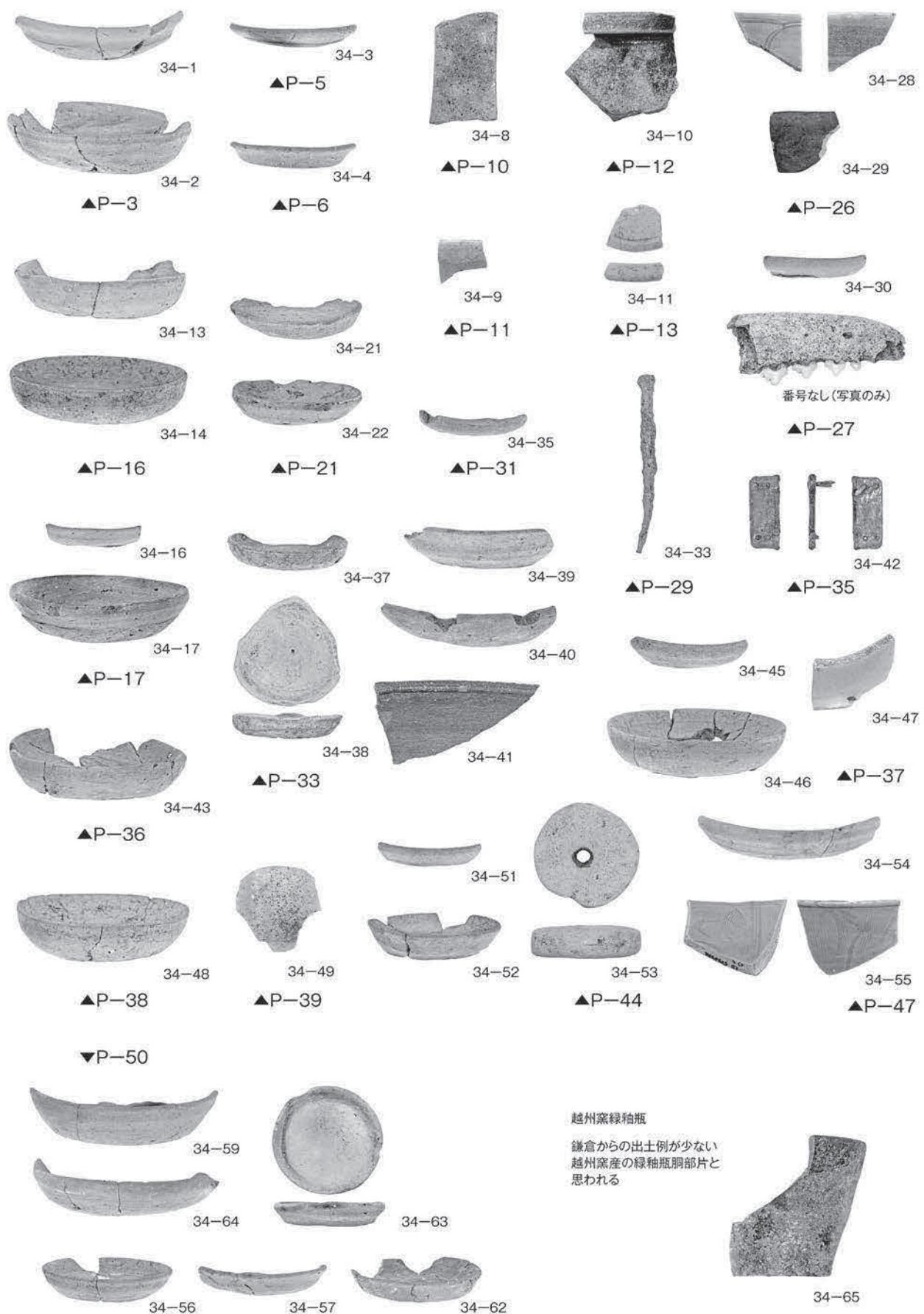
図版 17



▲土坑14下層▶

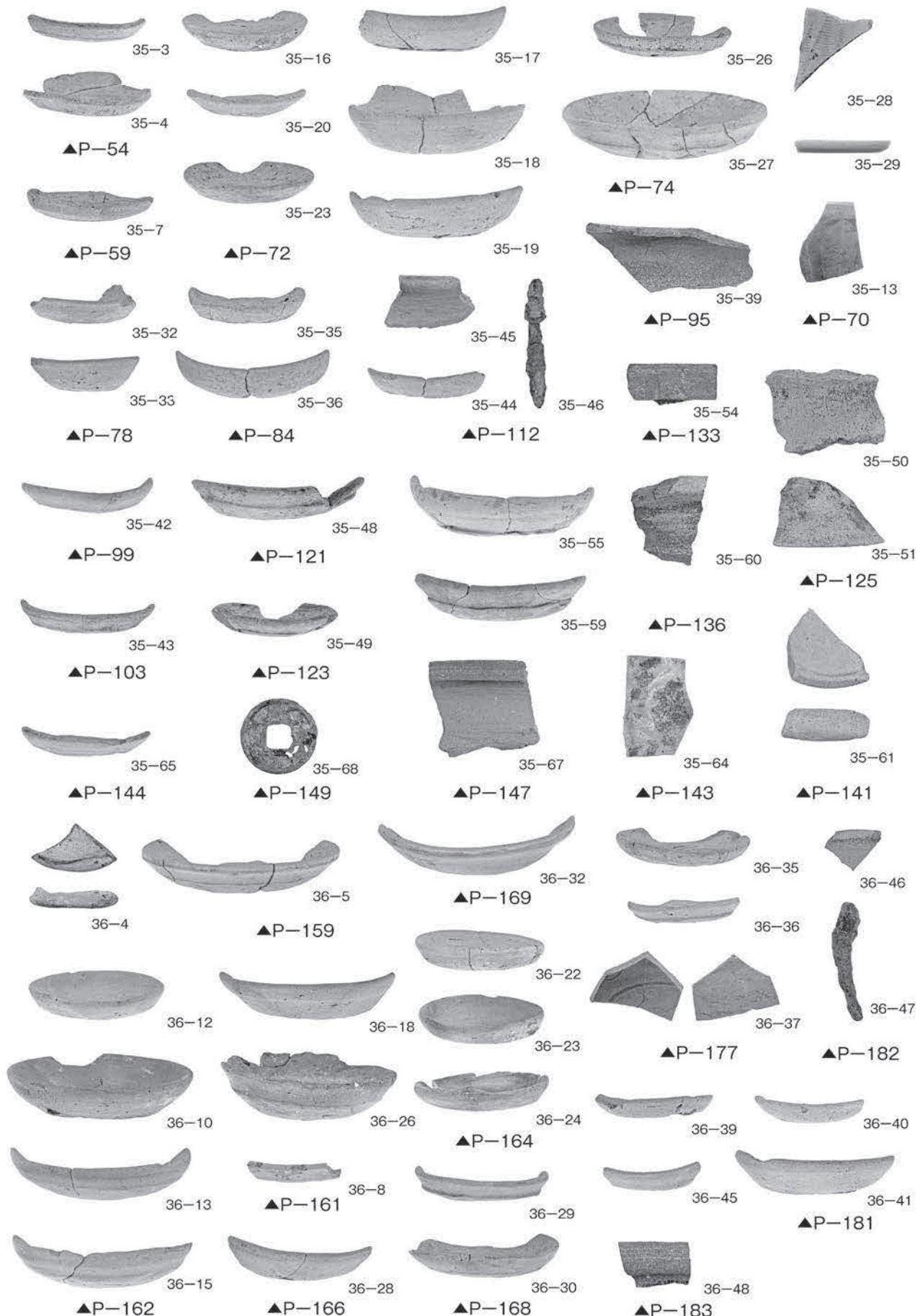


第2面遺構出土遺物(4)

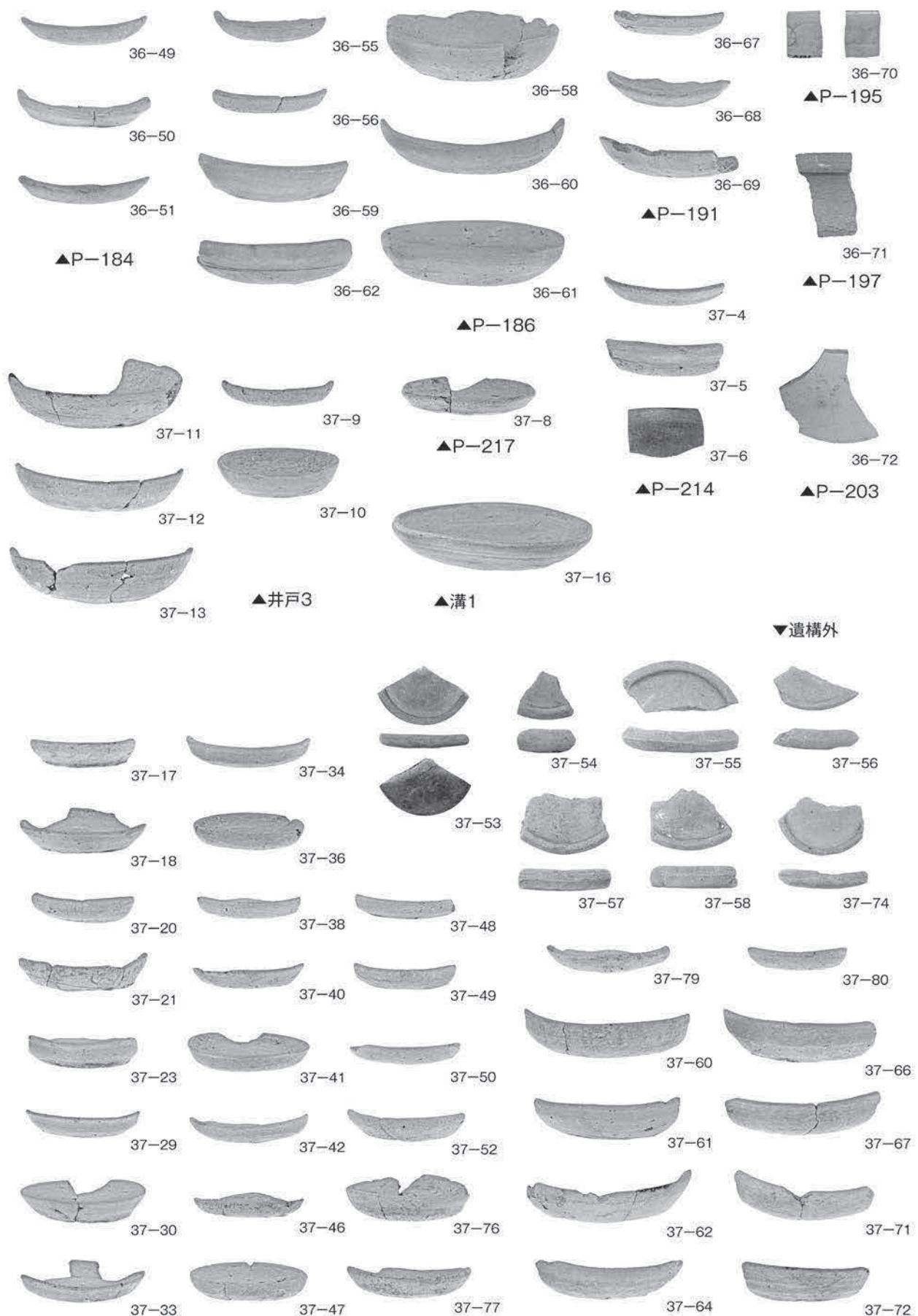


第2面遺構出土遺物 (5)

図版19

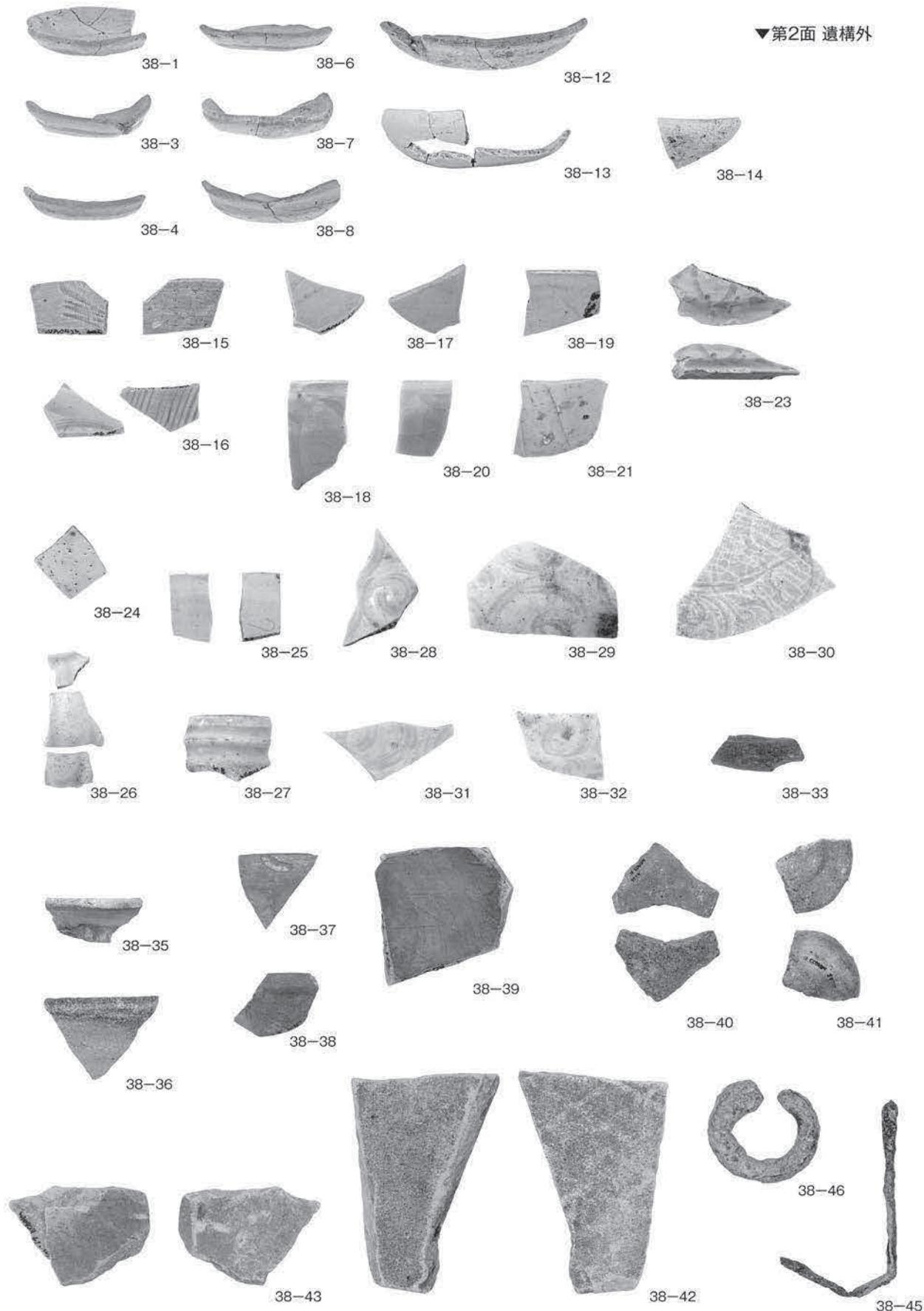


第2面遺構出土遺物 (6)



第2面遺構(7)・遺構外出土遺物(1)

図版21



第2面遺構外出土遺物 (2)

高徳院周辺遺跡（No.327）

長谷町五丁目 387 番 7 の一部地点

例 言

1. 本報は「高徳院周辺遺跡（No.327）」長谷五丁目382番7の一部地点（略称KTS0503）における個人専用住宅の建築（地盤の柱状改良）にともなう埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 調査期間：平成17(2004)年6月20日～同年8月19日 調査面積：50.00m²
3. 現地調査・整理作業の体制は以下の通りである。

調査担当者：原 廣志

調査員：太田美智子・小野夏菜・梅岡渙音・須佐仁和・中川建二・平山千絵・橋本和之・
銘苅春也・山口正紀

作業員：奥山利平・清水光一・中須洋二（社）鎌倉市シルバー人材センター

協力機関名：（社）鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉考古学研究所

4. 整理作業及び本報の作成は以下の分担で行った。

遺物実測：小野・梅岡・渡辺・原

挿図作成：小野・平山・原

遺物観察表：平山

遺構写真：山口・原

遺物写真：平山

原稿執筆：原（第四章は調査員協議のもとに原が稿を創した）

6. 出土遺物、図面・写真などの発掘調査資料は、報告書刊行後に鎌倉市教育委員会が保管している。

7. 本報の凡例は、以下の通りである。

挿図縮尺：全側図：1/80 遺構図：1/40 1/50 遺物図：1/3 銭1/2

使用名称：本書で使用する用語のうち、「土丹（どたん）」は逗子シルト岩の砂泥岩、「鎌倉石」は逗子市池子層に顕著な粗粒凝灰岩、「伊豆石」は相模川以西の河川・海浜に産する安山岩で礎石に利用可能な扁平な円礫を指し、表記を簡略化した。

遺構図：遺構の標高は海拔高の数値を示している。

遺物図：黒塗りは灯明皿に付着した油煙煤、漆器の朱漆文様を表現している。

8. 本遺跡の現地調査から本報作成に至るまで、以下の方々からご助言とご協力を賜った。記して感謝の意を表したい（敬称略、五十音順）。

秋山哲夫・伊丹まどか・沖元道・押木弘己・小野正敏・河野眞知郎・菊川泉・菊川英政・熊谷満・後藤健・古田戸俊一・五味文彦・佐藤仁彦・汐見一夫・宗臺秀明・宗臺富貴子・鈴木庸一郎・玉林美男・塚本和宏・中田英・中野晴久・松尾宣方・松葉崇・馬淵和雄・森孝子

目 次

本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	117
1. 遺跡の位置	
2. 遺跡の歴史的環境	
第二章 調査の概要	121
1. 調査の経過	
2. 側量軸の設定	
3. 層序	
第三章 検出遺構と出土遺物	124
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
3. 第3面の遺構と遺物	
4. 第3面下トレンチ	
第四章 まとめ	141

挿 図 目 次

図1 遺跡の位置	117
図2 調査地点の位置と周辺遺跡	118
図3 國土座標とグリット設定図	122
図4 調査区南壁土層断面	122
図5 第1面遺構	125
図6 第2面遺構全測図	126
図7 第2面遺構	127
図8 第1・2面出土遺物	128
図9 第3面遺構全測図	129
図10 第3面・第3面下遺構	130
図11 第3面遺構出土遺物	131
図12 第3面遺構外出土遺物	132
図13 第3面下トレンチ	133
図14 第3面下土坑1出土遺物	134
図15 第3面下トレンチ出土遺物	135

表 目 次

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表	119
表2 遺物観察表(1)	136
表3 遺物観察表(2)	137
表4 遺物観察表(3)	138
表5 遺物観察表(4)	139
表6 遺物観察表(5)	140
表7 遺物層位別出土数量表	142
表8 遺物種類別の出土比率表	142

図 版 目 次

図版 1	144	図版 6	149
a. I 区第 1 面全景 (西から)		a. II 区第 3 面全景 (東から)	
b. I 区第 1 面全景 (東から)		b. 第 3 面土坑 4	
c. 同上かわらけ溜り		c. 柱穴列 1 P25	
図版 2	145	d. 柱穴列 1 P26	
a. I 区第 2 面全景 (南から)		e. I 区調査区南壁土層断面	
b. II 区第 2 面全景 (西から)		図版 7	150
c. I 区第 2 面遺構 (東から)		第 1 面各遺構 第 2 面各遺構・遺構外出土遺物	
図版 3	146	図版 8	151
a. II 区第 2 面全景 (東から)		第 3 面各遺構出土遺物	
b. 第 1 面近世溝		図版 9	152
c. 第 2 面 P 1		第 3 面遺構外・第 3 面下遺構出土遺物	
d. 第 2 面 P 2		図版 10	153
図版 4	147	第 3 面下各遺構出土遺物	
a. I 区第 3 面全景 (南から)			
b. II 区第 3 面全景 (西から)			
c. I 区第 3 面全景 (東から)			
図版 5	148		
a. 第 3 面建物 1 (東から)			
b. 第 3 面土坑 1・2 (東から)			
c. 同上 土坑 1			
d. 同上 土坑 2			

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置

本遺跡は鎌倉市内中心部の西南部に位置する。調査地の所在する谷戸は露座の鎌倉大仏で有名な高徳院の位置から三方に展開する谷戸のうち、北東方向に深く伸びた谷戸で大谷戸と呼称されている。今回の調査地点はJR横須賀線鎌倉駅の西方約1.0km付近の鎌倉市長谷五丁目387番7に所在する(第1・2図)。

遺跡周辺の地形をみると、源氏山に端を発して桔梗山から浅間山に連なる丘陵が南へ伸びて大仏坂切通で画されている。そのような丘陵に挟まれた中、大谷戸に源を発した稻瀬川は高徳院の東山裾を西へ流下し、大仏坂切通や桑ヶ谷などの谷戸から流れてきた小河川と合流している。大仏通りでは暗渠に流れを変えた流路は、長谷寺門前から開渠となり東へ曲がり由比ヶ浜へと注いでいる。

大谷戸の規模は南北方向に約750mを測り、北の谷戸奥から南の開口部に向かって傾斜しており、高低差は30m以上となり、調査地点は谷戸中央を走る道路の高徳院から北方へ約500m進んだ道沿い東側となり、谷戸内の北寄りの位置である。開口部幅は80m程であるが谷奥へ行くにつれて開析が進み、大小の小谷戸を内包した樹枝状の入り組んだ地形を呈する。大谷戸を取り巻く尾根の標高は50～75m前後、谷戸内の平地海拔高は13～25mを測り、今回調査対象となった地点は海拔20.00m前後に立地している。現在の大谷戸は各支谷を含めて宅地化が進んでおり、北奥には鎌倉駅から東西に走る市役所通りで新佐助隧道や長谷隧道を抜けて藤沢方面へ行く、往来が絶えない交通要路となっている。

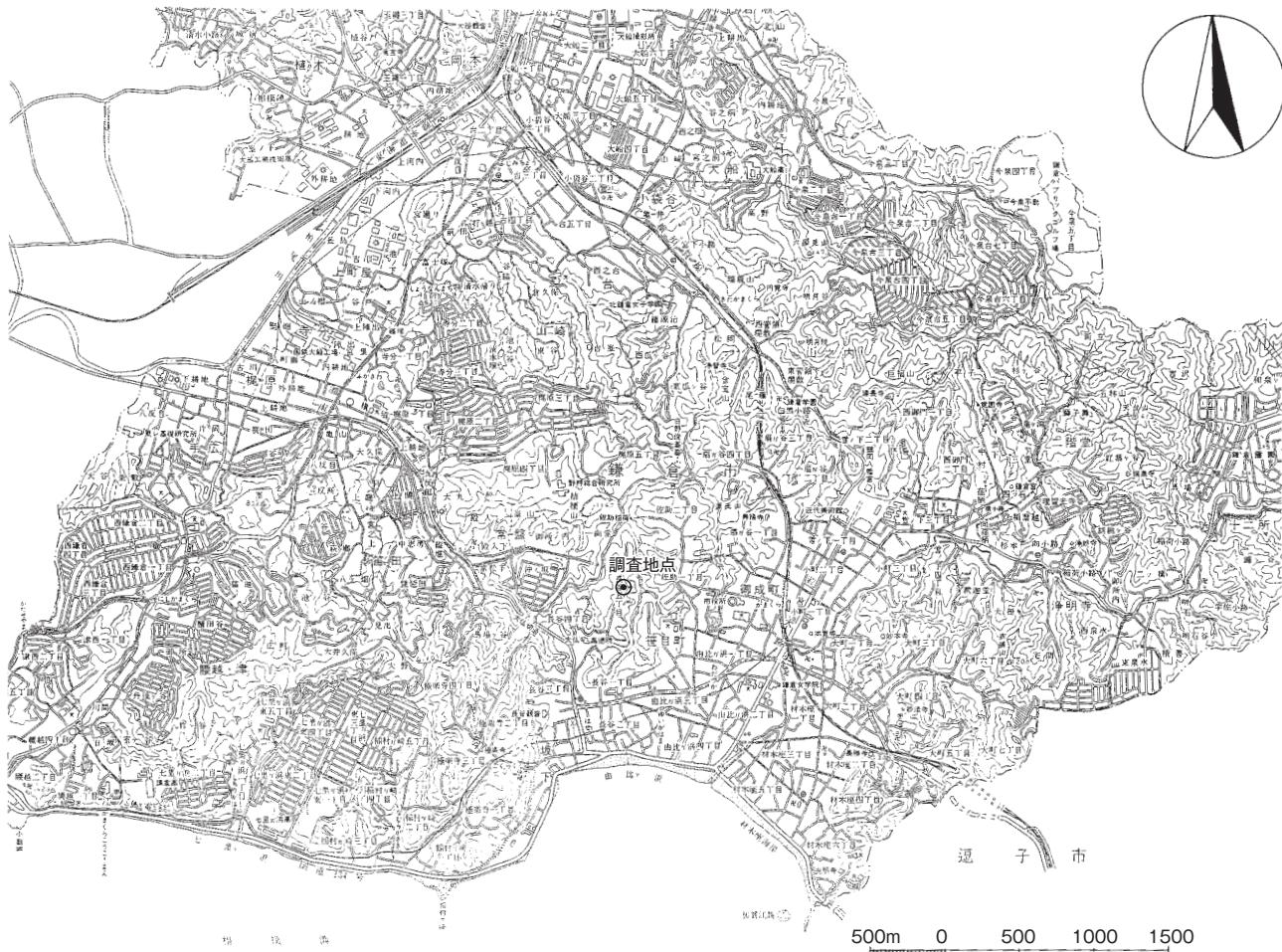


図1 遺跡の位置

2. 遺跡の歴史的環境

鎌倉旧市街地は古代において相模国鎌倉郡に所属し、鎌倉郷と荏原郷の一部に相当すると考えられる。各郷の詳細な範囲と区画は不明だが、本遺跡は鎌倉郷内の西に位置していると推定される。

大谷戸の開口部には鎌倉大仏（国宝銅像阿弥陀如来坐像）の鎮座する高徳院が所在している。高徳院はもと光明寺奥院であり、大異山高徳院清浄泉寺と号す。開山・開基ともに不明であるが、勧進上人淨光で中興は顯誉祐天である。もと淨泉寺の支院であった高徳院だけが残ったものと考えられる。

『極楽寺縁起』によれば、鎌倉時代に極楽房忍性が別当に任せられたとあり、その頃には悲田もあったことが知られる。南北朝時代以降は建長寺の管轄となり、江戸時代の正徳三年（1713）に芝増上寺僧祐天が山号を獅子吼山と改めたというが、今は大異山に復している。その時に宗旨を真言から天台宗へ



図2 調査地点の位置と周辺遺跡

改宗しており、その際に光明寺の末寺になったようである。

大仏の造立については、『吾妻鏡』暦仁元年(1238)三月二十八日条に僧淨光が諸国に勧進して淨財を集め同年に深沢里大仏堂の事始めが行われ、五年後の寛元元年(1243)に木造の八丈あまりの阿弥陀像及び大仏殿が竣工している。さらに九年後の建長四年(1252)には金銅大仏の铸造が開始されたが、完成の年次については記載がなく詳しくはわからない。铸造に際しては、鎌倉铸物師棟梁の物部重光をはじめ、河内铸物師丹治久友や大野五郎右衛門らの铸工が参加したという。金銅大仏の完成時期については諸説あるが、久友の肩書が「铸師」から「新大仏」への呼称変化に注目し、文応元年(1260)から文永元年(1264)の間の時期の説(清水1979)と、鎌倉時代の政治・宗教史の立場から推測して弘長二年(1262)との指摘があげらる(馬淵1998)。この金銅大仏も完成時には大仏殿に安置されていたが、その後大仏殿は『太平記』などの記事によると、建武二年(1335)におきた大風で倒壊、明応七年(1498)には津波の被害を受けている。このような相次ぐ災害はついに大仏殿を消滅させ、それ以降再建や倒壊の記事はみられない。元禄十六年(1703)の大地震では台座が崩れ傾くなどするが、正徳年間～元文年間(1711～1740)にかけて僧祐天・養国らによって台座の修復や欠穴の箇所を修理・修復している。その後、関東大震災で被害を受けるが、昭和34年(1959)に修理が実施され、現在ではみんなに親しまれる露座の大仏の姿となっている。

長谷の地名は長谷寺が建立された鎌倉中期以降に寺名から生まれたもので、それ以前は『吾妻鏡』にも長谷の地名がみられず「甘繩」「深沢」の内に含まれていたようである。『新編相模國風土記稿』には「觀音堂起立ありしより寺号によりて村名となす…」とあり甘繩・稻瀬川・桑ヶ谷などの事蹟を記述しており、また明治十二年(1879)編纂の『県皇國地誌』には長谷の小字に長谷小路・新明町・上町・新宿・甘繩・深沢・愛泉堂・宿屋・入地・長者ヶ久保・小谷・大谷があったと記している。

なお、遺跡周辺の発掘調査事例や旧跡については、図2と共に「表1 周辺遺跡の調査地点一覧表」を参照されたい。

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表(図2)

遺跡所在地	調査報告書名・遺跡名・遺跡台帳番号など
1 長谷五丁目 387番7一部	本調査地点 高徳院周辺遺跡(No.327)
2 長谷五丁目 377番、393番2	松葉 崇・菊川 泉・鈴木絵美 2010『長谷大谷やぐら群』かながわ考古学財団 調査報告257 長谷大谷やぐら群(No.146)
3 長谷五丁目 429番	大三輪竜彦・田代郁夫 1986『高徳院周辺遺跡(やぐら)発掘調査報告書』高徳院 周辺遺跡(やぐら)発掘調査団 長谷浅間神社下やぐら(No.307)
4 長谷四丁目 550番1外	福田 誠・鈴木 茂・平尾良光ほか 2002『鎌倉大仏周辺発掘調査報告書』鎌倉市 教育委員会 鎌倉大仏殿跡(史跡)
5 長谷四丁目 548番4	馬淵和雄 1995『高徳院周辺遺跡』高徳院周辺遺跡発掘調査団 高徳院周辺遺跡(No.327)
6 長谷一丁目 290番1外	宗臺秀明・斎木秀雄 1989『長谷一丁目290番-1地点遺跡』高徳院周辺遺跡発掘調査団 高徳院周辺遺跡(No.327)
7 長谷五丁目 341番10の一部	宮田 真 2006『高徳院周辺遺跡』(株)博通 高徳院周辺遺跡(No.327)
8 常盤 932番1	鈴木庸一郎・菊川英政 2001『古都鎌倉を取り巻く山稜部の調査』神奈川県教育委員会・鎌倉市教育委員会・かながわ考古学財団 大仏切通(史跡)
9 長谷三丁目 630番1、630番17	田代郁夫・原 広志 1991「桑ヶ谷療病院跡 長谷三丁目630番1」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』7 鎌倉市教育委員会 桑ヶ谷療病跡(No.294) 木村美代治・田代郁夫 1991「桑ヶ谷療病院跡 長谷三丁目630番17」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』7 鎌倉市教育委員会 桑ヶ谷療病跡(No.294)
10 長谷三丁目 633番2の一部外7	瀬田哲夫 2007『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』(株)齊藤建設 長谷小路周辺遺跡(No.236)
11 長谷一丁目 284番1	玉林美男 1988『長谷小路周辺遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』4 鎌倉市教育委員会 長谷小路周辺遺跡(No.236)

【引用・参考文献】

- 秋山哲雄 2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館
- 臼井永二編 1986『鎌倉事典』東京堂出版
- 宇佐美龍夫 1994『わが国の歴史地震被害一覧表』(社)日本電気協会
- 上本進二 2000「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子桟敷戸遺跡(逗子市No.100)』東国歴史考古学研究所
神奈川県図書館協会郷土資料編集委員会 1991「神奈川県皇国地誌 相模国鎌倉郡村誌」『神奈川県郷土資料集成』第十二輯
- 鎌倉市教育委員会編 1990「としよりのはなし」『鎌倉市文化財資料』第7集
- 鎌倉国宝館 1995「鎌倉の古絵図III」『鎌倉国宝館図録』第十五集 鎌倉市教育委員会
- 鎌倉文化研究会編 1972「鎌倉－史蹟めぐり会記録－」
- 河野真知郎 1995「中世都市鎌倉－遺跡が語る武士の都－」『講談社選書メチエ』49 講談社
- 木下 良ほか 1997『神奈川の古代道』藤沢市教育委員会
- 五味文彦 1995「大仏再建－中世民衆の熱狂－」『講談社選書メチエ』56 講談社
- 清水真澄 1979『鎌倉大仏－東国文化の謎－』有隣堂
- 貫 達人・川副武胤 1979『鎌倉市史 社寺編』鎌倉市史編纂委員会 吉川弘文館
- 貫 達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂
- 馬淵和雄 1992「中世鎌倉における谷戸開発のある側面」『鎌倉』第六十九号 鎌倉文化研究会
- 馬淵和雄 1998『鎌倉大仏の中世史』 新人物往来社

第二章 調査の概要

1. 調査の経過

今回の発掘調査は、基礎地盤の柱状改良の工事を実施する個人専用住宅建設の計画があったため、工事の実施により掘削深度の関係から埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れが予想され、鎌倉市教育委員会による遺構確認の試掘調査が行われた。その結果、現地150cm前後まで近・現代の客土や畠耕作土が確認され、それ直下は薄い中世遺物包含層を挟んで江戸時代から鎌倉時代に至る少なくとも4時期の遺構面（生活面）と、それに伴う遺物が出土して具体的な埋蔵文化財の存在することが判明した。これにより当該建築工事の実施による埋蔵文化財への影響が避けられないと判断された。このため事業者との協議を行ったところ、当初の計画に基づき建築工事を実施したいとの意向が示された。そこで文化財保護法に基づく届け出手続きを行い、施工者と調査方法・工程の協議を重ねた結果、平成17年6月20日から約2ヶ月の予定で発掘調査を実施する運びとなった。

現地調査は6月20日に機材搬入し、試掘データに基づいて遺構面を傷つけないように地表下150cm程までを重機で除去した後、それ以下を人力により掘り下げて遺構の確認・検出を行なった。平成17年8月19日までの間に必要な記録保存作業を行い、同日に機材撤収して現地調査を終了した。調査面積は50.0m²が対象である。調査の経過については、以下に主な作業内容を日誌抜粋で記しておく。

日誌抄

- 6月20日(月) I区の調査範囲を地表下150cmまで重機により表土掘削を実施する。調査機材搬入。
- 22日(水) 第1面の検出へ向けて荒掘り作業を開始、湧水多量。近代井戸攦乱で調査区北東壁
- 27日(金) 鎌倉市4級基準点を基に測量軸方眼の設定、測量用の海拔高のレベル原点を移動。
- 7月 6日(水) 第1面の調査終了。全景写真の撮影及び平面図の作成を行う。
- 14日(木) 第2面遺構の調査終了。全景写真及び個別遺構の写真撮影、平面図を作成開始。
- 22日(木) 第3面遺構の全景写真及び平面図の作成を行う。
- 25日(月) 調査区南壁直下にトレンチ設定し、以下の生活面と遺構を確認する。I区調査終了。
- 27日(水) II区調査開始、表土を重機掘削し、第1面検出に向け荒掘り作業を開始する。
- 8月 3日(火) 第1・2面遺構の調査終了し、平面図作成。全景及び個別遺構の写真撮影を行う。
- 11日(水) 第3面遺構の調査終了。全景及び個別遺構などの写真撮影。平面図を作成開始。
- 15日(月) 調査区南壁直下にトレンチ設定し、以下の生活面と遺構を確認する。
- 19日(金) 機材撤収し、現地調査終了。

2. 側量軸の設定

調査にあたって測量方眼軸の設定には、図3で示したのように国土座標の数値を用い、測量方眼軸は調査区の軸方位にほぼ平行して基準となる南北軸を設けた。測量軸の設定には調査地の西辺沿いを谷戸奥へ南北に走る道路上に鎌倉市道路管理課が設置したD O 26とD O 27 2点の市4級基準点（日本測地系第IV座標系）が確認された。このD O 26・D O 27を国土座標の基準点として開放トラバース側量によって敷地内に任意点であるA点を設け、さらに測量基準点のC-8杭を設置した。側量軸は東西軸

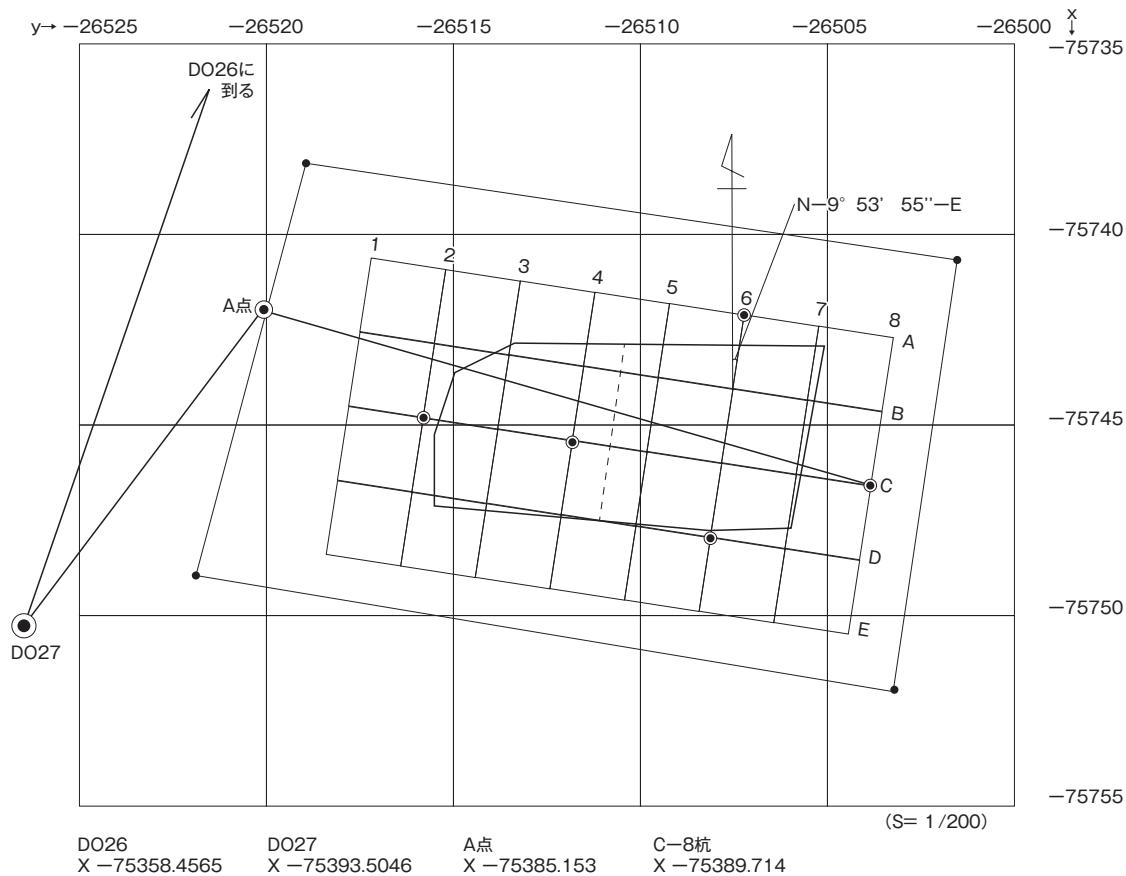
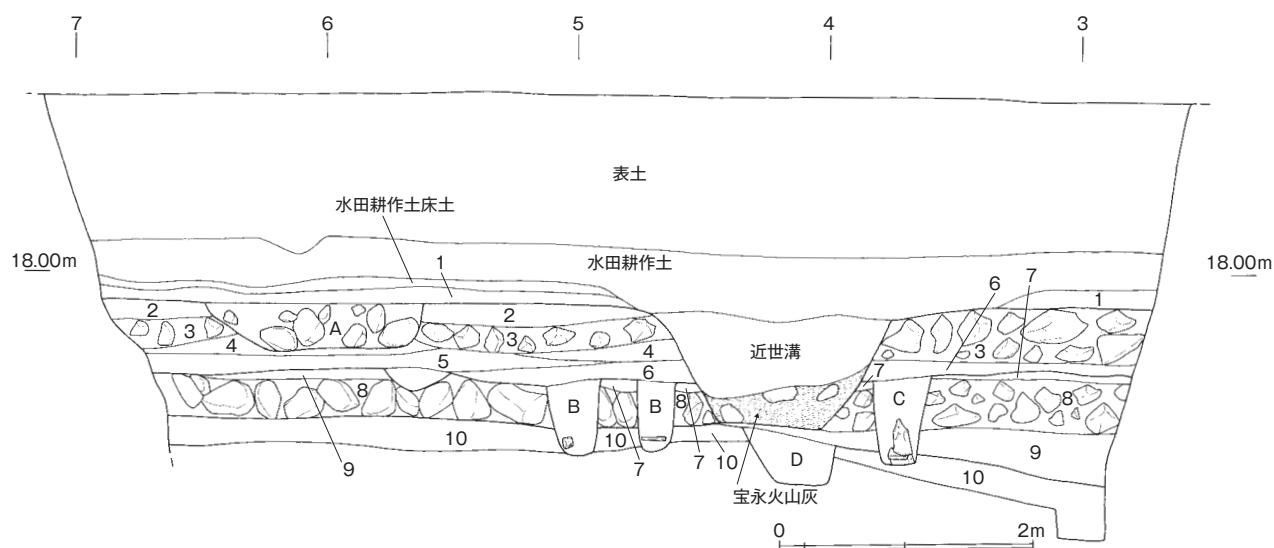


図3 國土座標とグリット設定図



土層注記

1. 青灰褐色粘質土：拳大の土丹・土丹粒を中量、炭粒、かわらけ片、1cm 大の小石を少量含む。締まりやや有り、遺物包含層
 2. 青灰褐色弱粘質土：拳大の土丹・土丹粒を多量に含む。炭粒中量、かわらけ片少量含む。締まりやや有り、第 1 面構築土
 3. 青灰色粘質土：人頭大の土丹・土丹粒を多く含む。炭粒、かわらけ片を多く含む。締まりやや有り
 4. 青灰褐色弱粘質土：土丹粒、炭粒少、量含む。締まり有り。
 5. 青灰褐色弱粘質土：土丹粒、炭粒、かわらけ片少量含む。締まりやや有り。
 6. 灰褐色粘質土：土丹粒多量、炭粒、かわらけ片少量含む。締まりやや有り。
 7. 灰褐色粘質土：土丹粒多量、かわらけ片少量含む。締まりなし。
 8. 青灰褐色粘質土：30cm 大の土丹・土丹粒を多く含む。炭粒を少量含む。締まり有り。第 2 面構築土
 9. 黒褐色粘質土：土丹粒、炭粒を中量含む。締まりやや有り。
 10. 黑褐色粘質土：中世基盤層
- A. 青灰色弱粘質土：30cm 大の土丹・土丹粒を多く含み、かわらけ片を少量含む。締まりやや有り。
- B. 暗灰褐色粘質土：5cm 大の土丹粒を多量に含む。炭粒を中量含み。締まりやや有り。
- C. 暗灰褐色粘質土：拳大土丹を多く含み、炭粒を少量混じる。締まりやや有り。D. 黑褐色粘質土：3cm 大の土丹粒を含み、貝殻少量含む。遺物を多量に含む。締まりなし。(ゴ)

図4 調査区南壁土層断面

と南北軸を2m方眼による軸線を配し、南北軸はA～Eのアルファベットの名称、東西軸に1～8の算用数字をそれぞれ付してグリッド設定を行った。

現地調査で使用した国土座標は、日本測地系（座標AREA9）の国土座標数値であったため、報告書作成の整理作業段階で、国土地理院が公開する座標変換ソフト『w e b版T K Y 2 J G D』を参考にしながら世界測地系第IX系の座標数値に準じて算出し直したのが、図3に示した数値である。調査地点は世界測地系第IV系のX - 75.735～75.755、Y - 26.525～26.500の国土座標区域内に位置している。挿図中の方位は、すべて真北を採用しており、測量方眼の南北軸線は真北より東に触れている。また調査地点の経緯度は以下のとおりである。

南北軸線：[N - 9° 5' 55" - E]

調査地点：[北緯 35° 19' 12"] [東経 139° 32' 18"]

さらに海拔高の原点移動は、調査地点西辺の道路を谷戸奥へ100m程進むと、市役所通りとの交差点である長谷大谷戸になる。その交差点南西隅の道路上に設置された鎌倉市3級水準点（No.53109 L = 24.381m、1985年8月設置）から調査地内のC-8杭上（L=19.505m）とC-2杭上（L=19.490m）へ仮水準点を移設した。本報の文章中または挿図に記載されたレベル数値は、すべてこれを基準にした海拔標高を示している。

3. 層序

調査地点は大谷のほぼ中央部の東側に位置し、現地表の海拔高19.40m前後を計り、ほぼ平坦な宅地を形成している。鎌倉市教育委員会が実施した試掘調査の結果を基に、現地表下約150cmまで堆積していた近・現代の客土や水田耕作土を重機で除去した後、中世遺構の確認を実施した。調査区壁面の土層堆積は遺構覆土を除くと、表土・耕作土以下が1層の遺物包含層から中世地山上面（中世基盤層＝黒褐色粘質土）まで概ね9層に区分され、少なくとも4時期以上の生活面が確認されている。調査区南壁土層堆積の状況は図4に示したとおりである。表土や耕作土を除去すると、水田床土を挟んで中世遺物包含層で締りのない青灰褐色粘質土の1層が観察された。この包含層を取り除くと、概ね5cm～拳大の土丹小塊を多く混えた青灰褐色弱粘質土（2層）が顔を覗かせ、近世溝や遺物溜りなどが確認されたので第1面と捉えてこの上面で遺構検出を行った。第1面は海拔高17.70～17.76mを測る。第1面を構成する厚さ20cm程の土層を掘り下げるに、包含層を挟まずに表面が破碎土丹による地形面を表出したので第2面とした。この面は拳大から人頭大の土丹塊を多く混入した青灰色粘質土により構成された地形層である。海拔高は調査区の西端17.70m程、東端17.60m程であり、西から東に向かって緩やかな傾斜をもつ生活面を構築している。検出した遺構は土坑、柱穴様のピットなどである。

厚い地形層の第2面構成土を除去すると、その下には4層の青灰褐色弱粘質土を挟み第3面上に堆積する5・6層の遺物包含層が認められた。第3面は拳大～人頭大の土丹塊を詰め込んだ粗い基礎地形の8層と、その上に7層のような細かな土丹粒を敷き詰めた生活面が表出したので第3面として調査を行った。面の海拔高は17.20mである。検出した遺構には掘立柱建物、土坑、柱穴様のピットなどである。

第3面検出時点では表土から2.2m以上の掘削深度に達しており、調査区壁の崩落などの危険を伴うと判断された。そこでI・II区の調査南壁際を深掘りして中世基盤層の黒褐色粘質土層（10層）を確認した。上面の海拔高は、調査区の東端から4・5ライン中間までが16.85m前後とほぼ平坦であるのに対し、9層の西へ向かって厚くなる堆積が示すように急な傾斜をもち落ち込んでおり、西端は16.30mを測る。調査区南壁トレンチ内の中世地山面（第4面）からは土坑1基が検出されている。

第三章 検出遺構と出土遺物

1. 第1面の遺構と遺物（図5・8）

近世の水田床土を取り除くと、近世溝や遺物溜りなどを伴う遺構が確認されたので生活面として調査を実施した。遺構の確認レベルは海拔高17.75m前後を測る。遺物は近世溝から瀬戸・美濃窯皿や煙管、中世が遺物溜りのかわらけや銭などが出土した。

近世溝：調査区中央寄りでグリット4・5ラインの間で検出された南北方向に走る素掘りの溝である。溝両端は調査区外に延びており、確認された規模は長さ420cm以上、上幅192～200cm、下幅97cm前後、深さ105cm前後であり、断面逆台形状の掘り方を呈する。主軸方位はN—18°30'—Eと東にやや触れた軸方向を示している。溝底面の海拔高は北端16.92m・南端16.76m前後をを計ることから北から南、谷戸開口部へ向かって緩やかな傾斜を示していた。覆土は上層が粗砂や土丹粒を含んだ灰褐色弱粘質土、下層は江戸時代の宝永4年(1707)富士山噴火に伴う火山灰が溝底まで厚く堆積する。

出土遺物は図8-1が青磁櫛描文皿、2が瀬戸窯卸皿、4が常滑窯片口鉢で覆土中に混入した鎌倉時代の所産品である。3は瀬戸・美濃窯の鉄釉灯明皿と、6が真鍮製の煙管雁首で江戸時代の資料である。5はかわらけ質の土錘である。

遺物溜り：図5のように調査区東側(I区)において近世溝に掘削されていたが、面上からかわらけや土丹塊がある程度まとまった状況で検出された(ここでは便宜上「遺物溜り」と呼称する)。遺物溜りは南北約3m、東西2m程の範囲に部分的な集中をみせながら検出され、かわらけの完形品を主体に銭も認められた。出土遺物の8～16のかわらけは全てロクロ成形の回転糸切底、器形は薄手器壁の内湾した丸深タイプの大・中・小皿、17・18は北宋銭の熙寧元寶(初鑄1068年)と紹聖元寶(初鑄1094年)である。

2. 第2面の遺構と遺物（図6～8）

第2面は、現地表下約170cmの深度に検出された破碎の大小土丹塊による地形層であり、生活面のレベルは海拔高17.65m前後である。検出した遺構は土坑4基、ピット5穴などがあり、それに伴う遺物はロクロ成形かわらけ、青磁・白磁碗皿の貿易陶磁器、瀬戸窯入子、常滑窯甕、備前窯擂鉢の国産陶器、加工骨、銭などである。

土坑2：調査区南東で検出した大型の土坑で南側は調査区外に拡がり全容は不明である。確認された規模は東西径174cm、南北径125cm以上、深さ37cm、断面逆台形の掘り方を呈し、底面の海拔高約17.30mである。覆土は拳大～人頭大の土丹塊を多く含む青灰色弱粘質土の単一層である。出土遺物は図8-19のかわらけ小皿で薄手器壁の内湾した器形の資料である。

土坑3・4：土坑2の北側に位置する。土坑3は不整円形の形状を呈し、長径98cm、短径78cm、底面が平らで深さ25cmと浅い掘り方である。覆土は小土丹塊・炭化物を含む締りのない青味を帯びた灰褐色粘質土であった。土坑4は平面形状が不整円形、大きさは長径72cm、短径62cm、深さ20cmの浅い掘り方である。締りのない灰褐色弱粘質土の覆土で良好な遺物の出土はない。

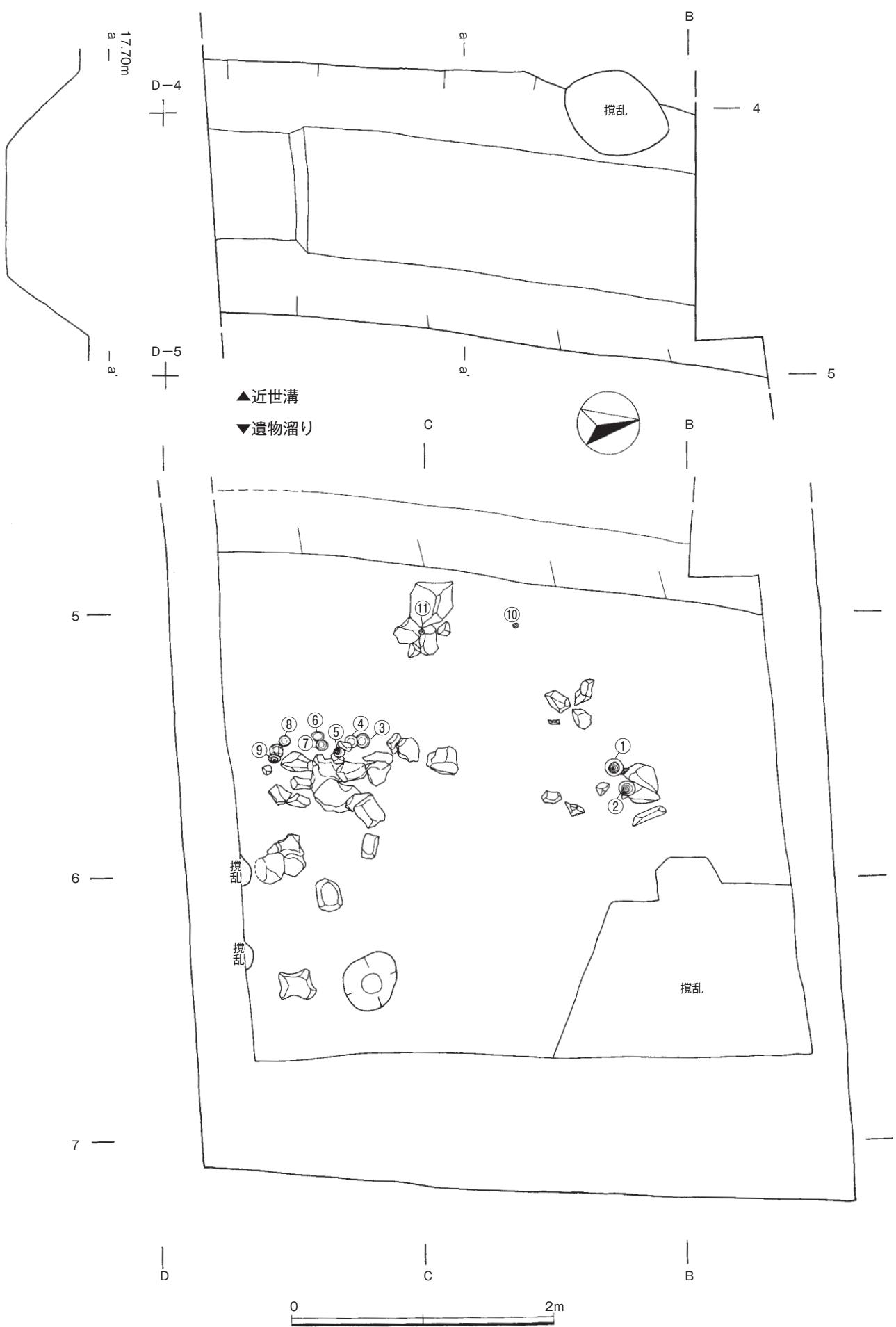


図5 第1面遺構

P1・2 : B - 5・6に位置し、P2は攪乱により掘り方の一部が壊されている。P1は隅丸方形を呈し、長径72cm、短径60cm、深さ55cmを測り、縊りのない灰褐色土の覆土中から図8-20のかわら

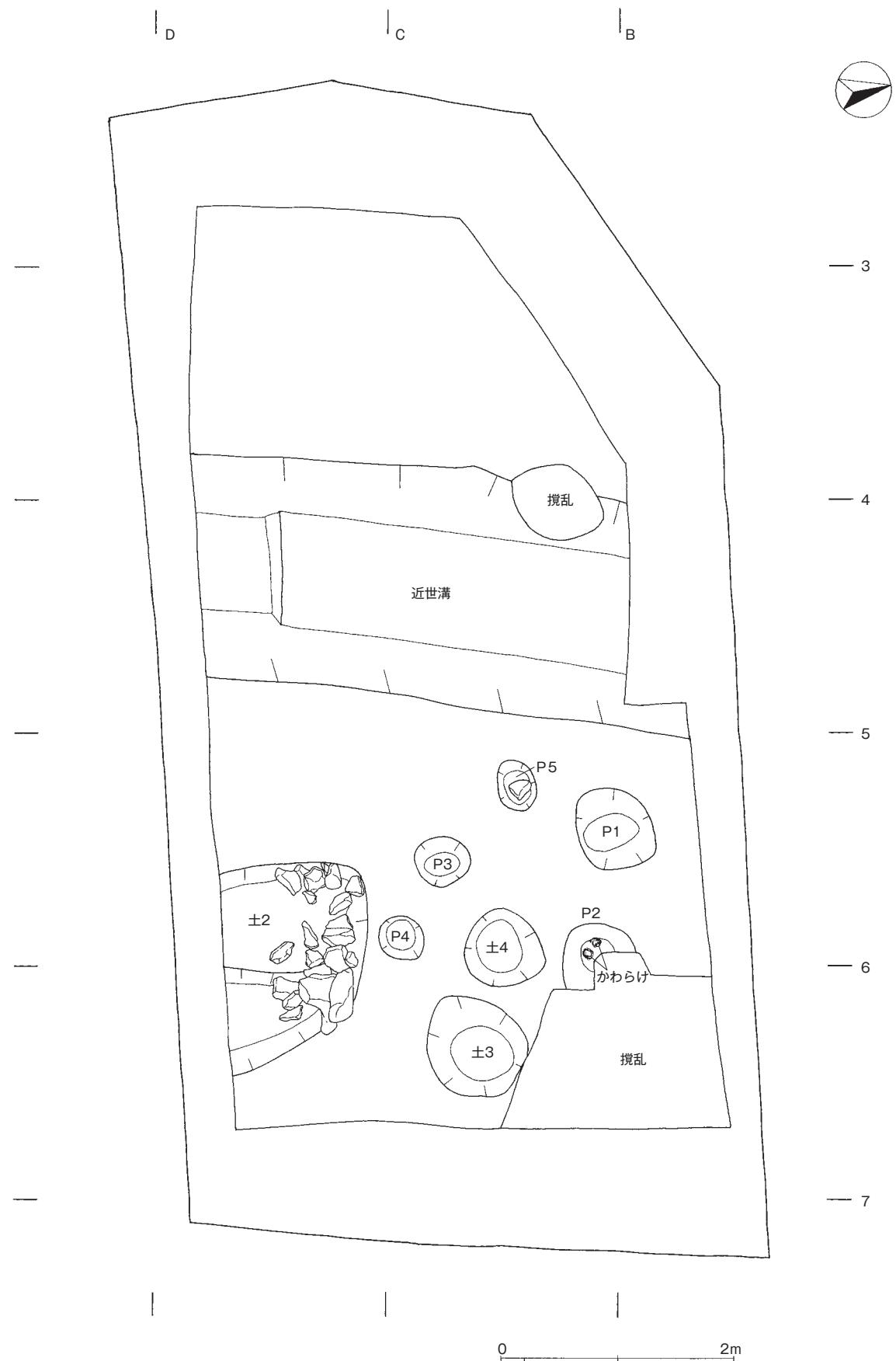
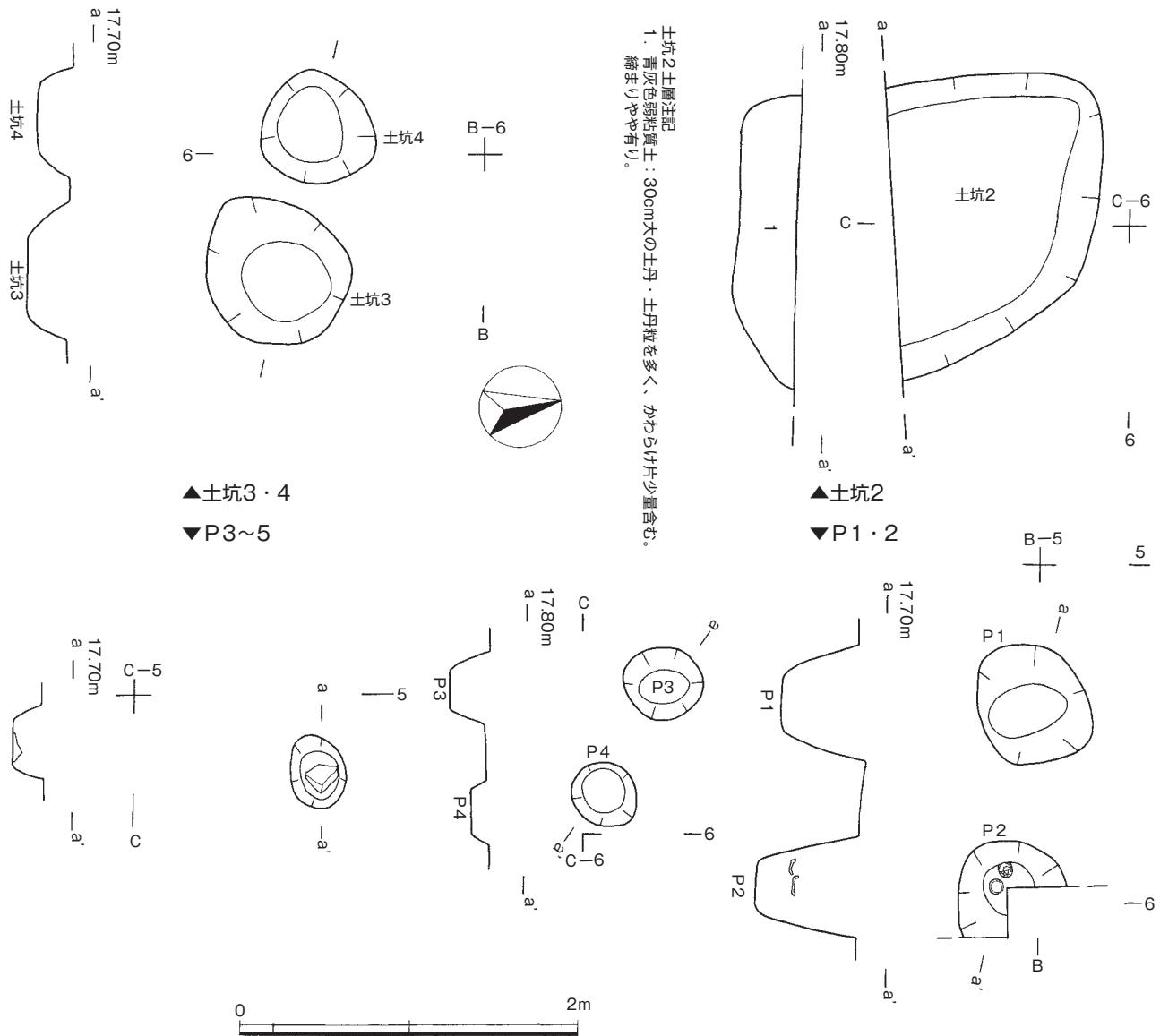


図6 第2面遺構全測図



け小皿が出土した。P 2 は長径 60cm 以上、深さ 65cm の橢円形状と推測され、青灰色粘質土の覆土中からは完形品かわらけを含む 7 個体が出土した。

P 3・4 : C - 6 杭の西側に位置する。P 3 は径 47cm、深さ 25cm の円形を呈し、P 4 は橢円形の径 43cm 前後、深さ 14cm と浅い掘り方である。遺物はかわらけ小片だけである。

P 5 : 調査区中央の C - 5 杭付近に位置する。橢円形を呈し、長径 48cm、短径 33cm、深さ 20cm で底面には扁平な土丹塊の礎石を据えている。

第2面遺構外出土遺物 : 図 8 - 28 ~ 39 はかわらけ大・中・小皿である。小皿は主に薄手器壁で 28・29 の背高と 30 ~ 35 の背低気味の一群があり、中・大皿は 36 ~ 38 の薄手器壁の丸深タイプと 39 の背低気味がある。40 は手捏ね成形の白かわらけである。41・42 は青磁碗で龍泉窯鎬蓮弁文と同安窯櫛描文、43 は白磁印花文皿の貿易陶磁器であり、国産陶器は 44・45 は瀬戸窯入子、46・47 は備前窯擂鉢、48 は常滑窯甕の口縁部（中野常滑編年 8 型式か）で上層からの混入品の可能性が考えられよう。48 は骨製品であるが、上面と両側面を刃物で削り加工を施した未成品、50 は北宋錢の「天聖元寶」（初鑄 1023 年）である。

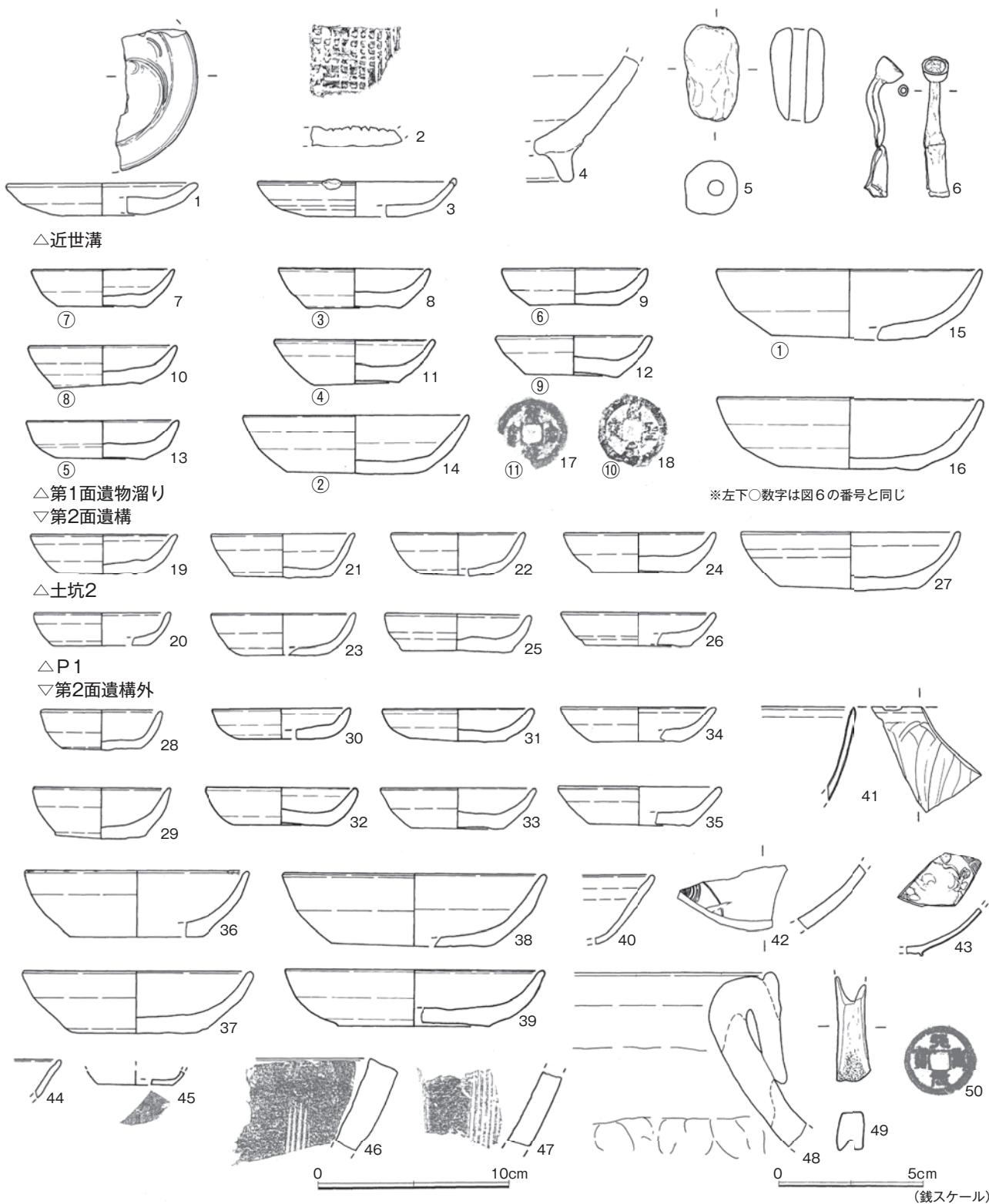


図8 第1・2面出土遺物

3. 第3面の遺構と遺物（図9～12）

第3面は、現地表下約220cmの深度に検出された破碎の大小土丹塊による地形層であり、遺構を確認したレベルは海拔高17.18m前後で比較的平坦な面に整地している。検出した遺構には柱穴列2列、土坑4基と、主に柱穴様ではないピット32穴などが認められた。出土した遺物はロクロ成形かわらけをはじめ、舶載陶磁器の青磁・白磁碗皿・褐釉壺などがあり、国産陶器には瀬戸窯の入子・壺、常滑窯の

甕・片口鉢、備前窯の擂鉢などの他、土製品、砥石、加工骨や錢なども認められた。

貿易磁器の青磁・白磁碗皿・褐釉壺などがあり、国産陶器には瀬戸窯の入子・壺、常滑窯の甕・片口

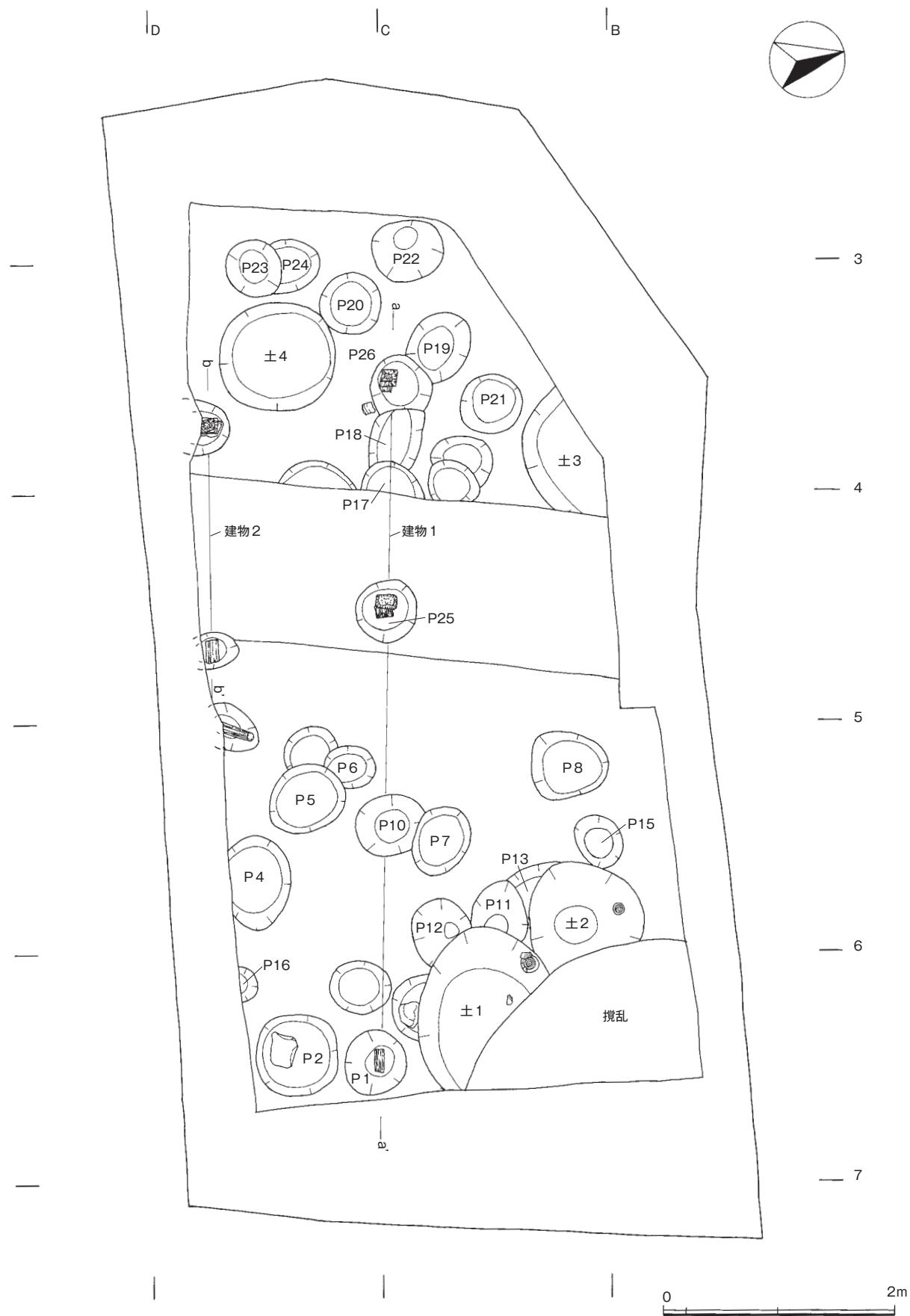


図9 第3面遺構全測図

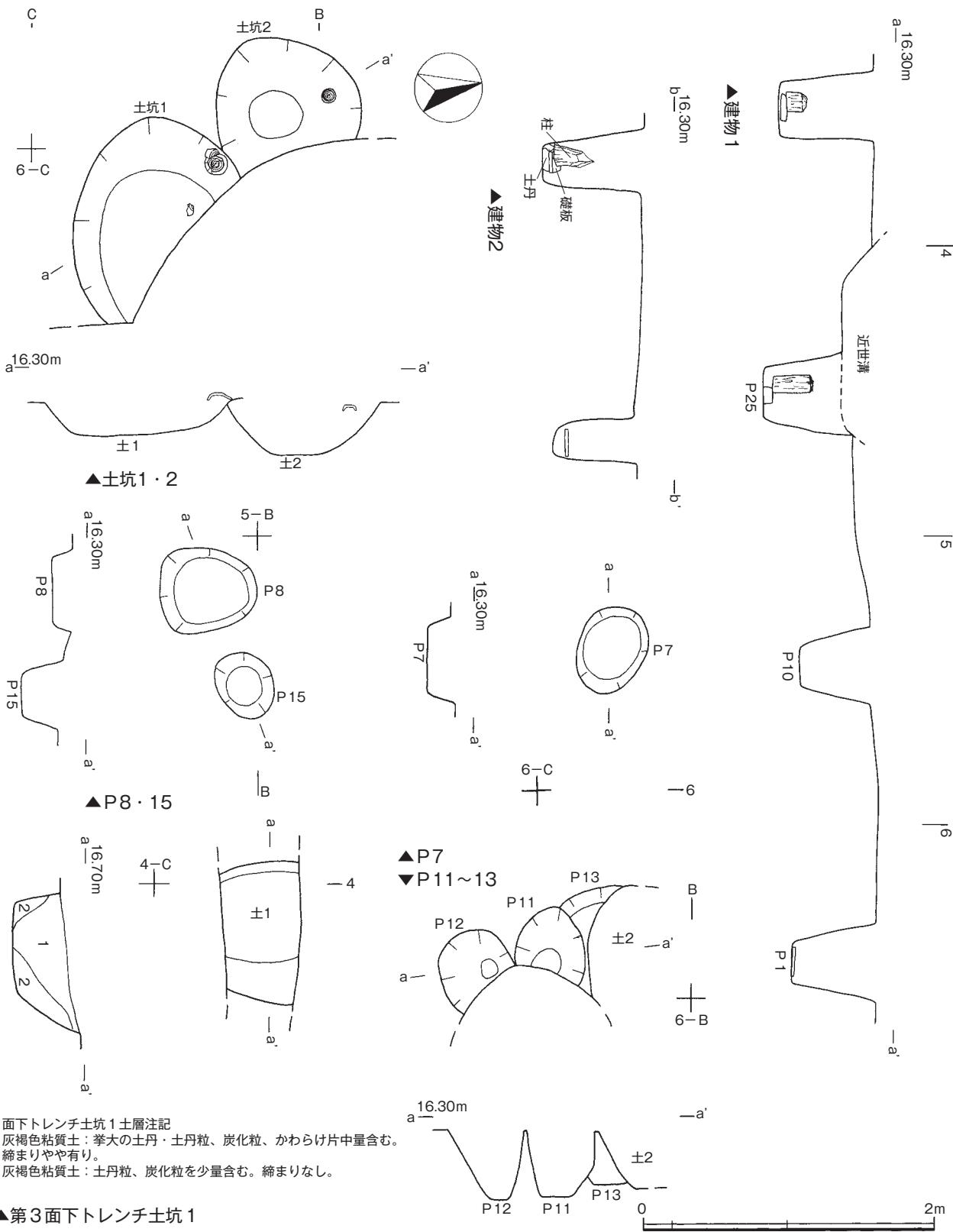


図10 第3面・第3面下遺構

鉢、備前窯の擂鉢などの他、土製品、砥石、加工骨や錢なども認められた。

柱穴列1：調査区中央の位置で測量軸のCラインに沿って確認され、現況で東西3間(595cm)が検出された。柱間寸法を観察すると、調査区内で西端に位置するP26からP25の一間分に残る角柱痕の芯々距離離は198cm(約6.6尺)を測り、さらにP25～P10～P1の東側二間分も各198cm程の柱間距

離を測ることができた。主軸方位はN—80° 20'—Wである。各柱穴の掘り方は平面形状が円形または橢円形を呈し、掘り方の大きさは径52～65cm、確認面からの深さ50～60cmである。P 25は掘り方上部を近世溝で削平されていた。柱穴の底面にはP 25・P 26に礎板と、その上に13×18cm角の柱痕、P 11に礎板がそれぞれ認められた。礎板は角柱の再利用で長さ20cm程に切断された後、2・3枚に縦割りにしたものを使用している。柱穴底面の海拔高は16.45～16.55mである。柱穴内からの出土遺物は、図11-35・36がかわらけ大小皿と37がかわらけ質の不明土製品でP 10、38が底部回転糸切痕かわらけ大皿でP 11、50が常滑窯片口鉢II類でP 25から出土した。

柱穴列2：調査区南壁際で東西方向に1間分を確認した。柱間寸法をみると、西側のP 27角柱痕中心から東側のP 28礎版までの芯々距離が198cm（約6.6尺）を測り、主軸方位は柱穴列1とほぼ同じである。掘り方は径40cm以上、確認面からの深さ60・68cmを測り、橢円形の掘り方であろう。P 27の底面には柱の沈下防止や高さ調整のためと考えられる扁平な土丹塊と礎板があり、その上に13cm角の

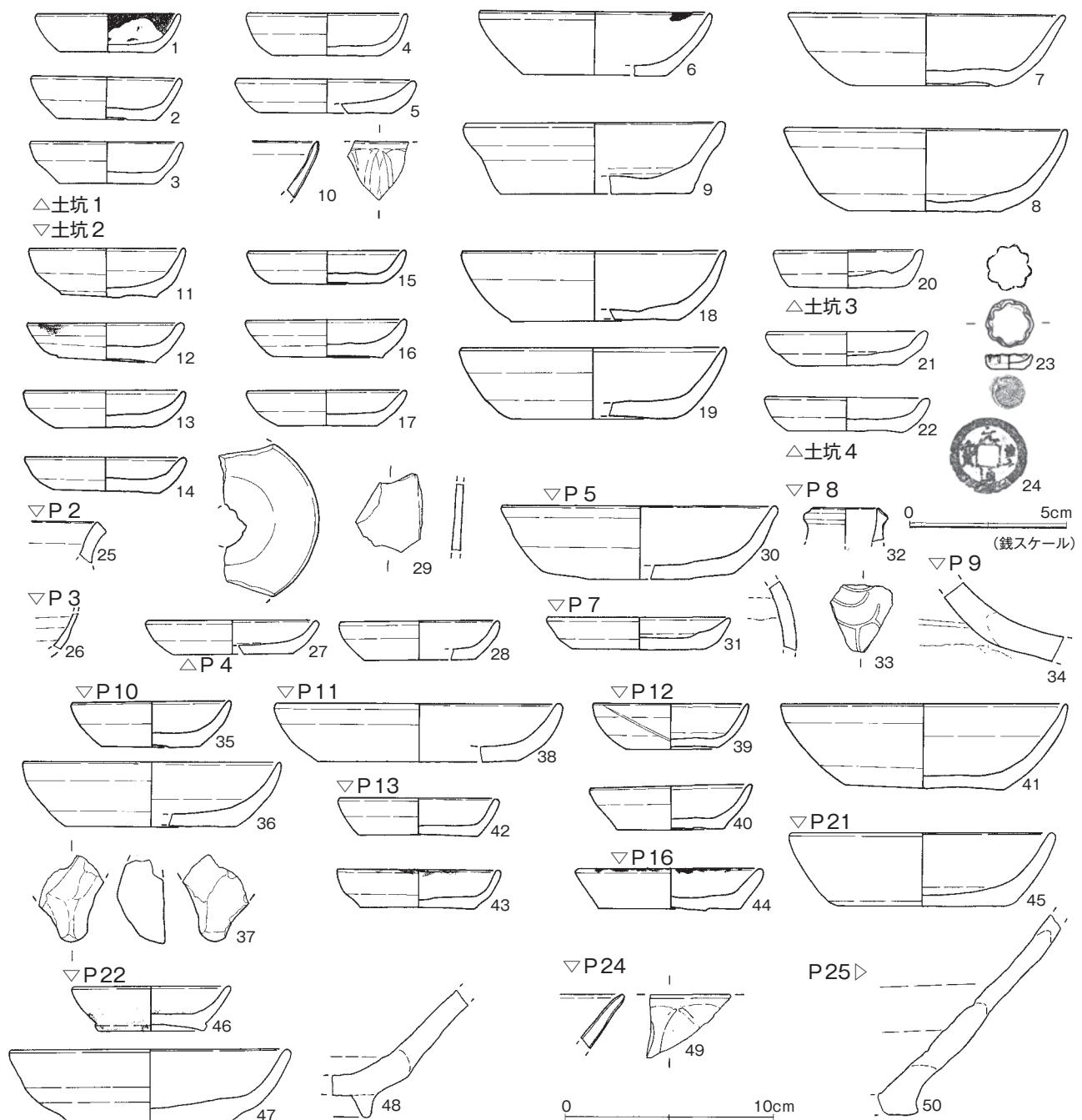


図11 第3面遺構出土遺物

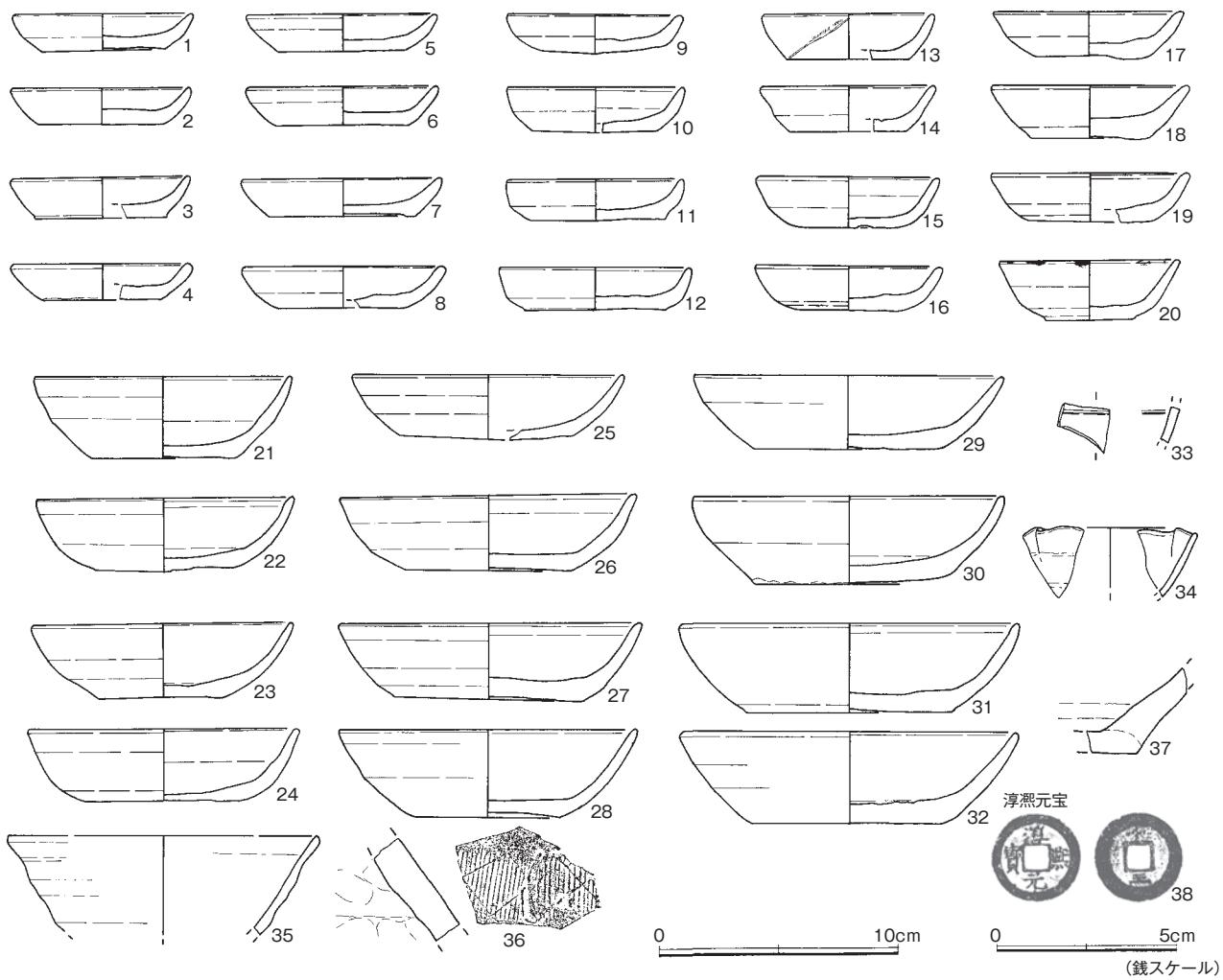


図12 第3面遺構外出土遺物

柱痕が据えられていた。柱穴底面の海拔高16.45m前後である。図示可能な遺物は出土していない。

土坑1・2：調査区北東隅の位置で近代井戸掘削の攪乱によって掘り方東側が削平された状態で検出され、土坑2より土坑1が新しい。土坑1は長径150cm・短径120cm以上、底面が平らで深さ25cmの皿状断面の掘り方である。覆土は土丹粒・炭化物を多く含む締りのない暗灰褐色粘質土の単一層である。土坑4は確認した大きさが長径102cm、短径80cm以上、深さ38cmの断面擂鉢の掘り方である。覆土は土丹粒・炭化物を多く混入した上層と、下層の拳大土丹塊を多く含む暗灰褐色粘質土に分けられた。出土遺物は土坑1がかわらけの1～4・6～8の薄手器壁で内湾したやや高めの器形が主体である。土坑2のかわらけ小皿が11以外が低めの器高、大皿はやや薄手器壁である。

土坑3：B-4杭に位置し、掘り方は東部を近世溝に壊され、大半が調査区外に拡がり全容不明である。確認した大きさは東西径110cm・南北径60cm以上、深さ35cm程である。覆土は拳大の土丹塊を含む締まりのない暗茶褐色粘質土、遺物は20の背低で厚手器壁のかわらけ小皿が出土した。

土坑4：調査区南西の位置で検出した円形の土坑である。大きさは径100cm程、深さ30cmの底面平らな掘り方である。覆土は土丹粒・炭化物を多く含む暗茶褐色粘質土、21・22の背低で厚手器壁のかわらけ小皿が出土している。

ピット：掘立柱や柱穴列を構成しないピット26口のうち、特徴的なものや遺物を伴うものを中心として簡単に触れる。ピットは概ね橢円形で断面逆台形を呈し、径30～60cm、深さ20～50cm程であり、P2やP29からは根石や角柱痕が検出された。遺物は図11の資料うち、P4は27～29が底部穿孔を

含むかわらけ小皿と京都鳴滝産の砥石、P 8は32・33が瀬戸壺と褐釉壺、P 12・P 13はかわらけ大小皿、P 22もかわらけ大小皿と常滑窯片口鉢I類などが出土している。

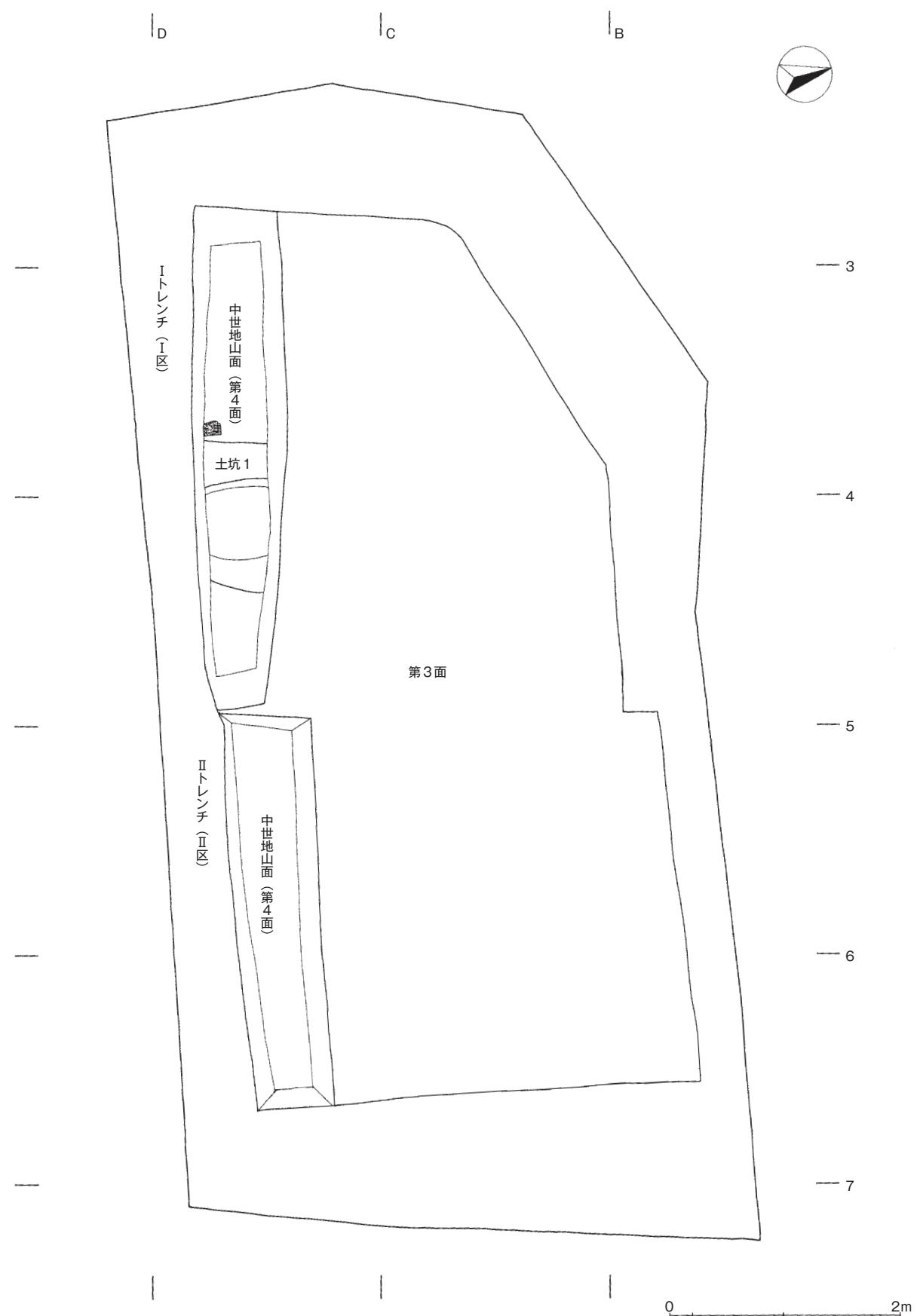


図13 第3面下トレンチ

第3面遺構外出土遺物：図12－1～31はかわらけ大・中・小皿である。小皿は主に背低のやや薄手器壁であるが、20の背高薄手器壁も混じっている。中・大皿は薄手器壁で丸深タイプが主体を占めている。33は白磁口元皿、34は瀬戸窯入子、35は北部系山茶碗、36・37は常滑窯甕片、38は南宋錢の「淳熙元寶」で背文に「十三」の元号があり、淳熙十三年(1187)に鋳造したものであろう。

4. 第3面下トレンチ (図10・13～15)

第3面検出時点で表土から2.2m以上の掘削深度に達しており、調査区壁の崩落などの危険を伴うと判断された。そこでI・II区の調査南壁際を幅80cm程、深掘りして中世基盤層の黒褐色粘質土層(10層)を確認した。地山上面の海拔高は、調査区の東端から4・5ライン中間までが16.85m前後とほぼ平坦であるのに対し、9層の西へ向かって厚くなる堆積が示すように急な傾斜をもち落ち込んでおり、西端は16.30mを測る。調査区南壁トレンチ内の中世地山面(第4面)からは土坑1基が検出されている。

土坑1：Iトレンチの中央東寄りに位置し、南北がトレンチ外に拡がる土坑である。確認した大きさは東西径107cm、南北径55cm以上、深さ42cmで底面平らな断面逆台形の掘り方である。覆土は2層から構成され、上層(1層)は拳大の破碎土丹塊、土丹粒・炭化物、かわらけ小片をやや多く含む灰褐色粘質土、下層(2層)は土丹粒・炭化物を少量含む締まりのない灰褐色粘質土が堆積していた。出土遺物は図14－1～8がかわらけである。1～4の小皿は背低で底部から開き気味立ち上がり、体部中位から内湾傾向を示す器形である。5～8の大皿は口径と底径の比率が少なめで底部から開き気味に立ち上がる器形である。

9は白磁口元碗、削り出し高台で内底面に一条沈線を巡らす、10は白磁口元皿、口唇部内外を削り加工で露胎である。11は緑釉盤(泉州窯系)で内底面に線描文、外底面に墨書痕がみられた。12～14は常滑窯片口鉢I類である。15は鉄製釘、16は鉄製品で釘隠しのようなものか。

I・II区トレンチ出土遺物：図15に示した出土遺物は、I・II区3面下トレンチの中世基盤層面上(第

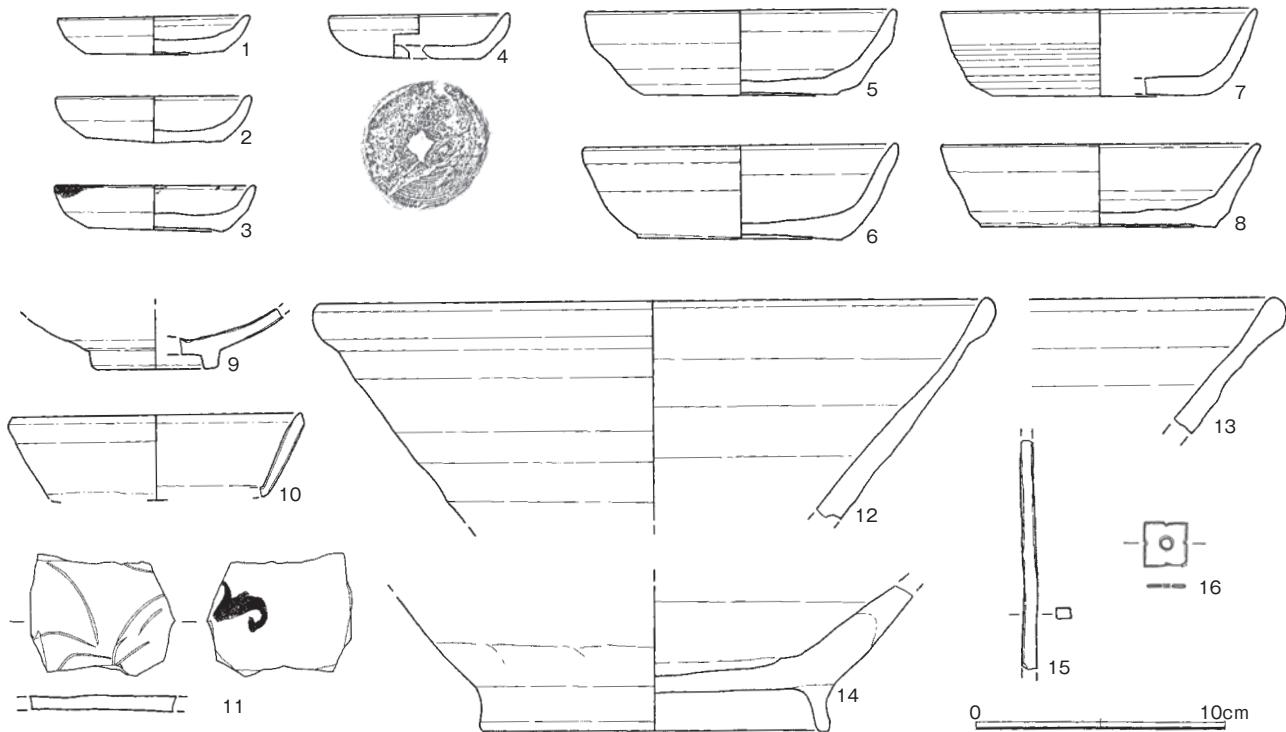


図14 第3面下土坑1出土遺物

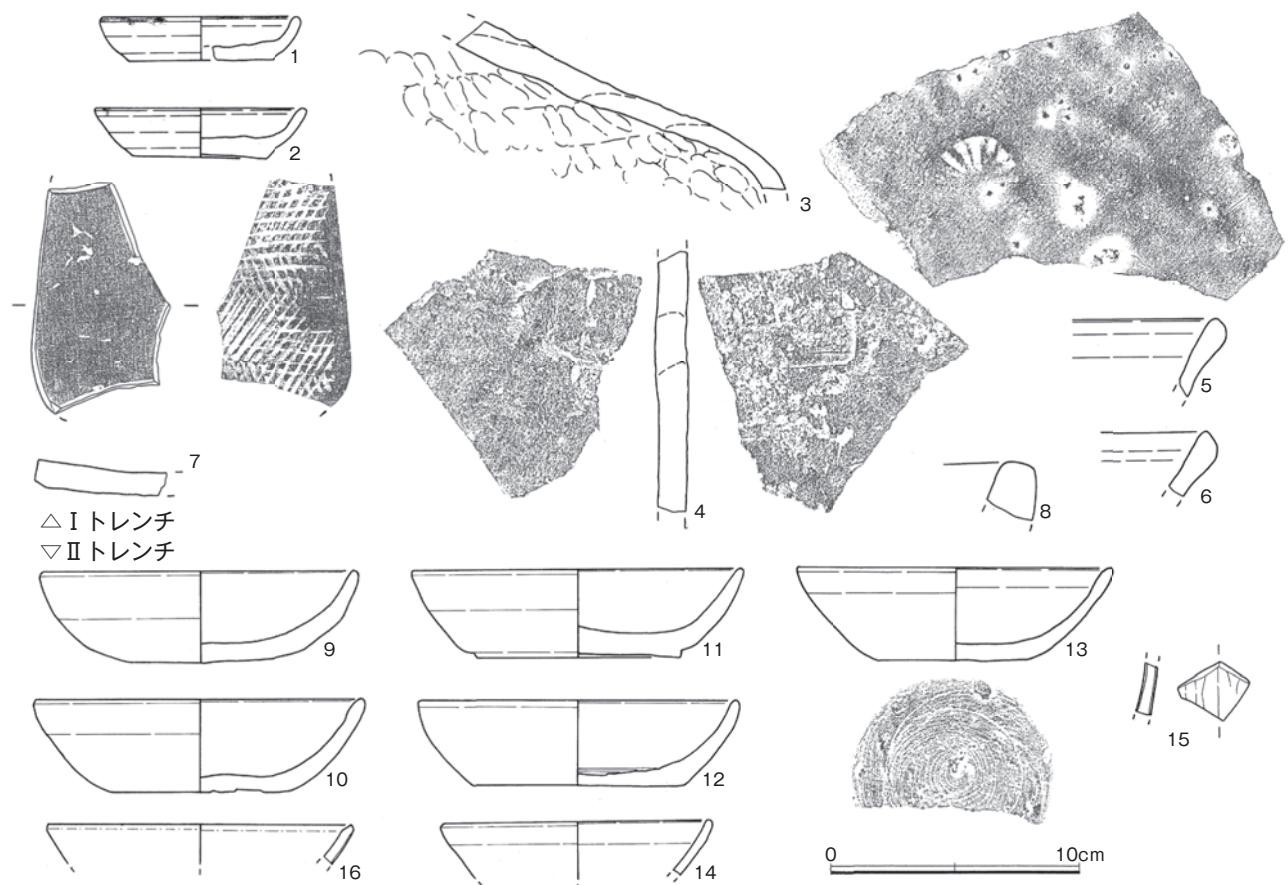


図15 第3面下トレンチ出土遺物

4面)に堆積した9層の黒褐色粘質土及び第3面構築土(7・8層)からの遺構外資料であり、I・II区に分けて掲載している。

Iトレンチの出土遺物は、1・2のかわらけ小皿が背低気味で1が内湾気味の器形、2が器壁は開きながら立ち上がるるもの。3～6は常滑窯の甕と片口鉢I類(13世紀後半)である。7は猿面硯と考えられる。外面が平行状叩き目、内面は青海波文の叩き目を施した須恵器破片を利用したもので、一種の転用硯である。内面側にあたる凹面は叩き目が殆んど消去されるほどの摩耗と、わずかに墨の付着が認められる。8は滑石製鍋で内外面にノミ状工具痕を残すが、煤などの使用痕は認められない。

IIトレンチの出土遺物は、9～12がかわらけ大皿である。9・10は背高気味の器壁はわずかに内湾したものと、11・12は器壁が内湾気味に立ち上がるものに大別された。12は口縁部下より外反し、13は外底の回転糸切痕が中央部で抜けた特徴的な資料であり、ともに内底面のナデ調整が甘くクロ目痕を残している。14はロクロ成形の白かわらけである。15は龍泉窯青磁の鎧蓮弁文碗、16は白磁口兀皿で口唇部内外をヘラ削り加工を施して露胎である。

表2 遺物観察表(1)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
8-1	第1面近世溝	龍泉窯青磁櫛搔文皿	9.7	3.7	1.7	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.灰色透明 やや厚手施釉 大まかな貫入あり f.内底に櫛搔劃花文
8-2	"	瀬戸卸皿	底部片	4.9 × 4.5		a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.明黄灰色 砂粒 良土 d.外底部以外極めて薄く施釉 e.良好硬質
8-3	"	瀬戸・美濃鉄釉灯明皿	(10.1)	(4.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.灰色 精良粘質土 d.茶色 極めて薄く施釉 e.良好 f.灯明皿 口縁部に粘土溜りあり
8-4	"	常滑片口鉢I類	体部下部～高台部片	6.5 × 6		b.灰色 白色粒 黒色粒 砂粒 小石粒 c.灰色
8-5	"	土錘	長さ	4.9 × 径2.8 × 孔径0.8		b.微砂 海綿骨芯 c.上面部橙色だが全体として灰黄色 e.良好 f.かわらけ質
8-6	"	煙管雁首	全長	7.1		b.真鍮製 羅字なし f.土圧でかなりの変形が見られる
8-7	第1面 遺物溜り	かわらけ	7.3	4.0	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-8	"	かわらけ	7.8	4.7	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-9	"	かわらけ	7.5	4.6	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-10	"	かわらけ	7.5	4.6	2.0	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-11	"	かわらけ	(8.2)	(4.4)	2.2	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-12	"	かわらけ	8.0	4.8	2.0	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-13	"	かわらけ	7.8	4.5	2.0	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-14	"	かわらけ	(11.6)	(7.2)	2.9	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
8-15	"	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.5	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-16	"	かわらけ	13.7	7.3	3.7	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-17	"	銭	外径2.42 内径1.92 孔径0.65 厚さ0.1			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年 f.真書体
8-18	"	銭	外径2.41 内径1.9 孔径0.73 厚さ0.15			紹聖元寶 北宋 初鑄年1094年 f.行書体
8-19	第2面土坑1	かわらけ	7.5	4.5	2.1	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-20	第2面P-1	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.7	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-21	第2面P-2	かわらけ	7.3	4.9	2.2	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
8-22	"	かわらけ	(6.8)	(3.9)	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-23	"	かわらけ	(7.5)	(4.1)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
8-24	"	かわらけ	7.8	5.0	2.1	a.ロクロ 外底糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-25	"	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-26	"	かわらけ	(8.0)	5.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-27	"	かわらけ	(11.2)	(7.3)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-28	第2面遺構外	かわらけ	(6.2)	(3.9)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
8-29	"	かわらけ	(7.0)	(4.7)	2.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-30	"	かわらけ	7.1	4.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-31	"	かわらけ	7.8	5.0	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-32	"	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
8-33	"	かわらけ	(8.0)	(4.7)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-34	"	かわらけ	(7.9)	(4.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8-35	"	かわらけ	(8.4)	(5.3)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好

表3 遺物観察表(2)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
8-36	第2面遺構外	かわらけ	(11.5)	(6.9)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.灯明皿
8-37	"	かわらけ	11.7	6.2	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-38	"	かわらけ	(13.4)	(8.6)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.やや甘い
8-39	"	かわらけ	(13.4)	(7.9)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
8-40	"	白かわらけ	口縁部～体部片			a.成形判別不可 外底指頭痕 b.微砂 良土 c.白色 e.良好 f.体部に指頭痕
8-41	"	青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片			a.ロクロ 外面片切彫り蓮弁文 b.灰白色 微砂 精良堅緻 d.灰緑色不透明 やや厚手施釉 f.二次焼成を受け釉薬白濁不透明
8-42	"	白磁 櫛搔劃花文碗	体部片			a.内面櫛搔劃花文 b.白色 精良堅緻 d.灰白色不透明 薄手施釉 小気泡 細かなキズあり
8-43	"	白磁 皿	体部～高台部片			a.内面型捺し 口縁部付近に雷文・内底部にかけて牡丹文 b.白色 精良堅緻 d.水青色 外面：やや厚手で透明 高台脇まで施釉 外底露胎 内面：薄手施釉だが不透明
8-44	"	瀬戸 入子	口縁部片			b.砂質 精良土 c.灰色 e.良好 硬質 f.口縁～器壁に自然釉付着 二次焼成受ける
8-45	"	瀬戸 入子	底部片(3.9)			a.外底へラ削り b.きめ細かい精良土 c.灰白色 e.硬質 f.内面体部 自然降灰ゴマ降り状
8-46	"	備前 擂鉢	口縁部片			b.黄灰色 赤色粒含むが精良 粘性強い
8-47	"	備前 擂鉢	口縁部片			b.黄灰褐色 赤色粒含むが精良 粘性強い
8-48	"	常滑 瓢	口縁部片			a.輪積み技法 内面指頭痕 b.暗灰色 長石 石粒 砂粒多め 粗土 c.褐色 e.堅緻
8-49	"	加工骨	4.9	1.4	1.9	f. 3面削り 摩耗している
8-50	"	銭	外径2.46 内径2.01 孔径0.64 厚さ0.13			天聖元寶 北宋 初鑄年1023年 f.篆書体
11-1	第3面土坑1	かわらけ	6.8	4.5	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.外体部焼きムラ有り 灯明皿
11-2	"	かわらけ	(7.0)	(4.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
11-3	"	かわらけ	7.2	4.5	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
11-4	"	かわらけ	(7.6)	(5.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
11-5	"	かわらけ	(8.5)	(6.3)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
11-6	"	かわらけ	(11.0)	(6.8)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
11-7	"	かわらけ	(13.2)	(7.8)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
11-8	"	かわらけ	13.5	7.5	4.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 c.橙色 e.良好
11-9	"	かわらけ	(12.3)	(9.5)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
11-10	"	青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片			a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色半透明 やや厚め施釉 貫入・気泡あり
11-11	第3面土坑2	かわらけ	7.4	4.6	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質良土 c.灰橙色 e.良好
11-12	"	かわらけ	7.3	4.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや良土 c.黄灰色 e.やや不良
11-13	"	かわらけ	7.8	4.9	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.灰橙色 e.良好
11-14	"	かわらけ	7.7	5.2	1.7	a.ロクロ 外底指頭痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄橙色 e.やや不良
11-15	"	かわらけ	7.5	5.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.灰橙色 e.良好
11-16	"	かわらけ	7.8	5.3	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒少量 やや粉質良土 c.黄橙色 e.不良
11-17	"	かわらけ	7.7	4.8	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.不良
11-18	"	かわらけ	12.7	8.1	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手丸深 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.黄橙色 e.やや不良
11-19	"	かわらけ	12.6	7.8	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
11-20	第3面土坑3	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好

表4 遺物観察表(3)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
11-21	第3面土坑4	かわらけ	(7.5)	(4.8)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
11-22	"	かわらけ	(7.7)	(5.5)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
11-23	"	瀬戸 入子	2.2	1.5	0.7	a.八弁輪花状 b.灰白色 良土 d.口縁一部、内底に自然降灰 e.良好 硬質
11-24	"	銭	外径2.46 内径2.01 孔径0.64 厚さ0.13			元寶通宝 北宋 初鑄年 1078年 f.真書体
11-25	第3面P-2	褐釉 壺	口縁部片 残存長2.0×幅4.1×厚0.6			b.暗灰色 砂粒 気泡あり d.褐色不透明 薄手施釉
11-26	第3面P-3	白かわらけ	口縁部小片			a.手捏ね b.微砂 c.白色 e.良好
11-27	第3面P-4	穿孔かわらけ	(8.0)	(5.8)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.底部に穿孔あり
11-28	"	かわらけ	(7.5)	(5.3)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
11-29	"	砥石	残存長3.6×幅3.2×厚0.5			f.両面共に使用痕なし 鳴滌産 仕上砥石
11-30	第3面P-5	かわらけ	(13.0)	(9.2)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好
11-31	第3面P-7	かわらけ	(8.7)	(6.4)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
11-32	第3面P-8	瀬戸 壺	口縁部片 口径(3.1)			b.灰色 良土 d.緑灰色透明 やや厚い 部分的に剥離 e.良好 硬質
11-33	"	褐釉 壺	体部片 残存長3.3×幅3.0×厚0.65			b.暗灰色 砂粒 気泡あり d.褐色 部分的に青い 半透明 薄手施釉 f.刻文様あり
11-34	第3面P-9	常滑 甕	肩部片 残存長6.3×幅9.2×1.3			a.輪積み技法 内面指頭痕 b.灰色の間に灰橙色挟む 微砂 長石 粗土 c.降灰部黄白色・褐色 d.自然降灰
11-35	第3面P-10	かわらけ	7.6	4.7	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 少量 砂質やや粗土 c.黄灰色 e.不良
11-36	"	かわらけ	(12.3)	(8.1)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 少量 やや砂質粗土 c.黄灰色 e.不良
11-37	"	かわらけ質 土製品	残存長4.1×高さ 2.2			a.手捏ね 製品用途不明 b.微砂多量 海綿骨芯 赤色粒 砂質粗土 c.橙色 e.良好
11-38	第3面P-11	かわらけ	(13.6)	(9.7)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好
11-39	第3面P-12	かわらけ	7.4	4.4	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手丸深 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 f.回転糸切りの際に紐抜けが悪く器壁に溝状の傷あり
11-40	"	かわらけ	7.7	5.1	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手丸深 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
11-41	"	かわらけ	13.7	7.6	4.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 薄手丸深 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや良土 c.橙色 e.良好
11-42	第3面P-13	かわらけ	(7.6)	(5.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 c.橙色 e.良好
11-43	"	かわらけ	7.7	5.4	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 全体的に歪んでいる
11-44	第3面P-16	かわらけ	8.8	6.8	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
11-45	第3面P-21	かわらけ	(12.6)	(8.1)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
11-46	第3面P-22	かわらけ	(7.5)	(5.1)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.口縁以外煤ける
11-47	"	かわらけ	(13.3)	(7.9)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
11-48	"	常滑 片口鉢 I類	高台部片 残存長6.3×幅11.0			a.輪積み技法 内面指頭痕 b.灰色 砂粒少量 白色粒 黒色粒 粘質土 c.灰色 f.貼付け三角高台 内面若干摩耗
11-49	第3面P-24	青磁 蓮弁文碗	口縁部小片			a.ロクロ 外面片切彫り蓮弁文 b.精良堅緻 気孔有り d.灰緑色半透明 やや厚手施釉 若干の貫入有り
11-50	第3面P-25	常滑 片口鉢 II類	底部片 残存長13.0×幅10.2			a.輪積み技法 内面指頭痕 横ナデ 離れ砂付着 b.灰褐色 白色粒多量 黒色粒・砂粒多量 粘質土 c.暗褐色 f.使用による摩耗有り
12-1	第3面遺構外	かわらけ	7.5	5.1	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 開き気味の器形で背低い b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-2	"	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
12-3	"	かわらけ	(7.3)	(5.5)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-4	"	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-5	"	かわらけ	7.9	5.4	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い

表5 遺物観察表(4)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
12-6	第3面遺構外	かわらけ	7.9	5.6	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-7	"	かわらけ	(8.4)	(6.1)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 土丹粒 海綿骨芯 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-8	"	かわらけ	(8.2)	(5.4)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 土丹粒 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
12-9	"	かわらけ	7.3	5.2	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.良好
12-10	"	かわらけ	7.4	5.2	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 内湾器形で背高気味 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-11	"	かわらけ	7.3	5.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-12	"	かわらけ	7.9	5.7	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 内湾器形で背高気味 b.微砂 海綿骨芯・赤色粒 やや良土 c.橙色 e.良好
12-13	"	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.外面体部に糸切の際の糸痕あり
12-14	"	かわらけ	(7.2)	(4.9)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-15	"	かわらけ	(7.4)	(3.1)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
12-16	"	かわらけ	(7.7)	(4.3)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-17	"	かわらけ	7.9	4.7	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-18	"	かわらけ	(8.1)	(5.0)	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-19	"	かわらけ	(8.3)	(5.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質良土 c.黄灰色 e.やや甘い
12-20	"	かわらけ	7.4	3.7	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁で背高気味 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 c.橙色 e.良好 f.口縁部内外に油煙煤付着
12-21	"	かわらけ	(10.7)	5.9	3.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁で背高器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質やや良土 c.黄橙色 e.不良
12-22	"	かわらけ	(10.7)	5.8	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁で背高気味 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.暗橙色 e.良好
12-23	"	かわらけ	(10.9)	(5.2)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
12-24	"	かわらけ	(11.3)	(6.5)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒・土丹粒 粉質やや良土 c.黄橙色 e.良好
12-25	"	かわらけ	(11.3)	(7.4)	2.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-26	"	かわらけ	12.4	6.9	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
12-27	"	かわらけ	12.5	7.8	3.2	a.ロクロ 粗めの外底回転糸切痕 板状压痕 底部厚手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 少量 やや粉質良土 c.黄灰色 e.不良
12-28	"	かわらけ	(12.5)	(6.0)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁で背高器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 少量 粉質良土 c.橙色 e.良好
12-29	"	かわらけ	(12.9)	(8.0)	3.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 砂質やや粗土 c.橙色 e.良好
12-30	"	かわらけ	12.0	8.0	3.65	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 薄手器壁 b.微砂 海綿骨芯 小石粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.内底面のナデ激しい
12-31	"	かわらけ	(14.0)	(8.5)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好
12-32	"	かわらけ	(13.8)	(8.0)	3.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 b.微砂 良土 c.黄橙色 e.良好 f.内底面ロクロ横ナデの回転痕
12-33	"	白磁 口兀皿	体部小片			b.灰色 精良堅緻 d.灰色不透明 薄手施釉 f.体部内面に沈線が巡る
12-34	"	瀬戸 入子	残存率口～体部にかけて1/8 口径(7.4)			a.輪花状 b.黄灰色 微砂 良土 d.灰色 薄く施釉 e.良好
12-35	"	北部系山茶碗	(12.9)	—	—	a.ロクロ 薄手器壁 口唇端部が縁帶気味 b.灰白色 白色粒 黒色粒少量 良土 c.灰白色 d.自然降灰 e.良好 硬質 f.東濃型
12-36	"	常滑 龐	肩部小片			a.ロクロ 外面：平行状の叩き目 内面：指頭痕 横位ナデ b.茶灰色 白色砂粒 流文状粘性あり c.茶灰色 d.外面：灰白色自然降灰 e.良好
12-37	"	常滑 龐	底部片			a.輪積み技法 内面：指頭痕 横位ナデ 外面：縦位ナデ 外底砂底 b.灰橙色 長石 石英 砂粒多い 粗土 c.黄橙色 e.不良
12-38	"	銭	外径2.42 内径1.86 孔径0.63 厚さ0.14			淳熙元寶 南宋 初鑄年 1174年 f.真書体 背文「十三」
14-1	第3面下土坑1	かわらけ	7.7	5.5	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 背低器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 砂質やや粗土 c.淡橙色 e.良好
14-2	"	かわらけ	7.6	5.6	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状压痕 内湾・背低器形 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや良土 c.黄灰色 e.やや不良

表6 遺物観察表(5)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
14-3	第3面下土坑1	かわらけ	8.0	5.5	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 内湾・背低器形 b.微砂 海綿骨芯 やや粉質良土 c.黄灰色 e.不良 f.灯明皿
14-4	"	かわらけ	7.2	4.7	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 内湾・背低器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.暗橙色 e.良好 f.底部中央寄りに焼成後の穿孔あり
14-5	"	かわらけ	12.4	7.8	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 底部から開く立ち上り口縁部下で内湾気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
14-6	"	かわらけ	12.5	8.2	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 底部から開き気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.不良
14-7	"	かわらけ	(12.6)	(8.6)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 内湾した器形 外面体部下半に細かなロクロ目の痕跡多々 b.微砂 海綿骨芯 やや砂質良土 c.黄橙色 e.良好
14-8	"	かわらけ	12.6	9.3	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 底部から開き気味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや良土 c.黄灰色 e.やや不良
14-9	"	白磁 口兀碗	底部～高台片 高台径(4.8)			a.ロクロ 削り出し高台で内底面に1条沈線巡る 中央部凸出 b.灰白色 繊密 d.灰白色透明 薄手施釉 高台部露胎
14-10	"	白磁 口兀皿	口縁～体部片			a.ロクロ 口唇部内外削り加工 b.灰白色 繊密 d.灰白色不透明 薄手施釉 口唇部内外・体部下露胎
14-11	"	泉州窯系 緑釉盤	底部片			a.外底砂目 b.灰褐色 小石粒多量 粗土 d.暗緑色不透明 薄手施釉 銀化 灰付着 e.堅緑f.内底面に線描を施文 裏面に墨痕
14-12	"	常滑 片口鉢I類	口縁～胴部片 口径(27.0)			a.輪積み技法 内面指頭痕 口縁端部丸く肥厚 b.灰色 砂粒 石英 長石粒多々 粗土 e.硬質 f.内面使用摩耗 中野編年5型式
14-13	"	常滑 片口鉢I類	口縁部片			a.輪積み技法 内面指頭痕 口縁端部丸く肥厚 b.灰色 砂粒 石英 長石粒多々 粗土 e.硬質
14-14	"	常滑 片口鉢I類	底部～高台部片 高台径(13.8)			a.輪積み技法 貼付け高台 胴部下位横位ヘラ削り 口縁端部丸く肥厚 b.灰色 砂粒 石英 長石粒多々 粗土 e.硬質
14-15	"	鉄釘	残存長9.3×厚さ0.45			a.鍛造 断面四角形 頂部と先端部欠失
14-16	"	鉄製品	長さ1.7×厚さ0.1			a.方形の鉄板で各辺の中央にV字型の切れ込みもつ四花弁状 中央に径0.4mm大の孔 f.釘隠のようなもの
15-1	第3面下 Iトレーナ	かわらけ	(7.8)	(5.7)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
15-2	"	かわらけ	(8.3)	(5.3)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.灯明皿
15-3	"	常滑 片口鉢I類	肩部～胴部片			a.輪積み技法 b.灰褐色 白色粒やや多め 黒色粒 粗土 c.暗褐色 d.外面：暗灰緑色自然降灰 e.硬質 f.外面に菊花文スタンプ
15-4	"	常滑 鏡	肩部～胴部片			a.輪積み技法 b.淡褐色 白色粒多め 粗土 c.淡褐色 e.硬質 f.外面に格子目スタンプ 表面再火の細かな剥離
15-5	"	常滑 片口鉢I類	口縁部小片			b.黄灰色 白色粒 粗土 c.褐色 e.硬質
15-6	"	常滑 片口鉢I類	口縁部小片			b.灰色 白色粒 石英多め 粗土 c.灰色 e.硬質
15-7	"	須恵器 鏡 転用鏡	胴部片			b.灰色 きめ細かい c.灰色 e.堅緑 f.外面：平行状叩き目 内面：同心円状の叩き目が摩耗してほとんど確認できず
15-8	"	滑石 鍋	口縁部小片			a.内面：ノミ状工具による横位の削り 外面：ノミ状工具による縦位の削り
15-9	第3面下 IIトレーナ	かわらけ	(12.8)	(8.4)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 やや粗土 c.灰黄色 e.やや甘い
15-10	"	かわらけ	(13.0)	(7.5)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
15-11	"	かわらけ	(13.2)	(8.1)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.灰黄色 e.やや甘い
15-12	"	かわらけ	(12.5)	(8.5)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.内底面にロクロ目痕を残す
15-13	"	白かわらけ	口縁部片 口径(10.7)			a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 やや粗土 c.白色(やや黄味) e.やや甘い
15-14	"	青磁 鎬蓮弁文碗	体部小片			b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色不透明 厚手施釉
15-15	"	白磁 口兀皿	口縁部小片 (12.2)			b.灰色 精良堅緻 気孔あり d.乳白色 半透明 外体部厚手施釉 口縁部露胎

第四章　まとめ

本遺跡が所在する長谷大谷戸周辺は、これまでの調査事例や文献史料が殆んどみられず、不明な点が多い地域にあった。さらに今回の調査面積は狭小で限られた範囲に留まり、検出した遺構も希薄な状況であったため、この場の空間的な様相の把握といった点については窺い知れなかった。そのような中、各時期の生活面に伴う遺構はほぼ一定の軸方位を示し、現在の道路・敷地境のラインと近似した方向で発見され、中世期から近世まで変化することなく継承きていたことが想像された。以下、各生活面の遺構についての初見と、出土遺物を基にして年代観やその遺物組成についても触れて簡単なまとめとしたい。

検出した生活面は中世地山上面まで含め4時期であるが、前述したように各面でほぼ一定の軸方位で遺構の重複がみられ、さらに第1・2面では同一面に近い遺構の新旧関係が確認された。また出土遺物から調査地の年代観をみると、中世地山上面においては遡っても13世紀中頃から生活の痕跡が認められはじめ、14世紀中頃までと比較的に短い期間ながら生活面の造り替えが行われていたことが窺える。これは谷戸の山裾斜面を掘削や削平の造成を行い、それによって得られた大小土丹塊で整地を行い平場地形を拡張して生活面とする土地利用の様子が想像された。

第4面は、第3面検出後において調査区南壁トレント（I・IIトレント）を入れて確認したのが黒褐色粘質土の中世基盤層上面から土坑が発見された。土坑覆土や面上包含層からは概ね13世紀中頃以降の時期を示すと考えられるかわらけ、青磁・白磁の碗・皿や常滑窯の甕・片口鉢などみられた。

第3面は、中世地山上に大小土丹塊を粗く積み増した上に破碎土丹によって整地された地形面であり、この面から掘り込んだ掘立柱建物と思しき柱穴列、土坑、ピットなどが検出された。この生活面は土坑などの遺構や面上包含層の出土遺物から概観すると、主体となるかわらけや国産陶器などからみて13世紀後葉頃に比定したいところである。

第2面も破碎した大小土丹塊を多く混入して造成された整地層であり、土坑、ピットなどが掘り込まれていた。遺構に伴うかわらけや常滑・備前製品などの遺物組成から、この生活面の年代観は14世紀前半頃に比定したいところである。

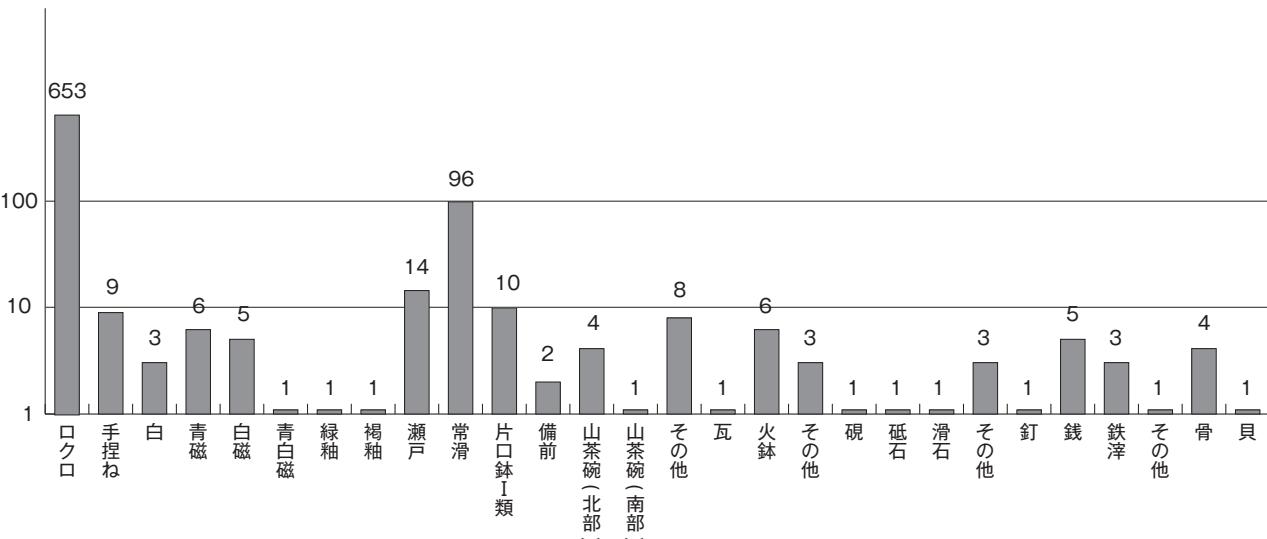
第1面は、調査区東側にかわらけを主体とした遺物溜りが認められ、さらに中世遺構を壊して開削された宝永火山灰が溝底に厚く堆積した近世溝が検出された。宝永四年（1707年）、富士山噴火で火口から噴出した火山灰などが上空高く舞い上がり、偏西風に乗り房総半島にまで降り注いだという。鎌倉でもその痕跡を示す事例が二階堂永福寺をはじめ、近世の水田耕作土に伴い数か所で確認されている（河野ほか1982、原ほか1997、原ほか2001）。さらに当時、宝永火山灰被害から田畠の土をよみがえさせる方法として、降灰に覆われた表層部と深層部の土を数条の溝を掘って入れ替える「天地返し」という土壤改良法、また溝を開削して水路に降灰を流し捨てたる「砂除堰」などの除去作業で田畠を復旧したことが知られる。県内の「天地返し」好事例が足柄上郡山北町に所在する河村城跡で発見されている。近世溝は底面に厚く火山灰が堆積していたことから、上記のような降灰の除去作業に関わる溝であった可能性も考えられよう。

出土遺物についてみると、調査で出土した遺物は分類困難な小破片を除き接合後の破片数にして845点が得られた。このうち大多数を占めているのがかわらけのロクロ成形653点で全体出土量の約8割近くにも上っており、手捏ね成形は地形層などの客土に混じって僅か9点が認められただけである。次に

表7 遺物層位別出土数量表

種類	\	出土地	第1面上層	第1面	第2面	第2面下トレンチ	個数	比率(%)
かわらけ	ロクロ		123	94	370	66	653	77.3
	手捏ね		8	0	1	0	9	1.1
	白		0	1	1	1	3	0.4
舶載陶磁器	青磁		4	0	1	1	6	0.7
	白磁		0	1	1	3	5	0.6
	青白磁		1	0	0	0	1	0.1
	緑釉		0	0	0	1	1	0.1
	褐釉		0	0	1	0	1	0.1
国産陶磁器	瀬戸		11	1	2	0	14	1.7
	常滑		31	5	24	36	96	11.4
	片口鉢I類		1	0	2	7	10	1.2
	備前		2	0	0	0	2	0.2
	山茶碗(北部)		2	0	2	0	4	0.5
	山茶碗(南部)		0	1	0	0	1	0.1
	その他		7	0	0	1	8	1
土製品	瓦		1	0	0	0	1	0.1
	火鉢		1	0	5	0	6	0.7
	その他		1	1	1	0	3	0.4
石製品	硯		1	0	0	0	1	0.1
	砥石		0	0	1	0	1	0.1
	滑石		0	0	0	1	1	0.1
	その他		1	1	1	0	3	0.4
金属製品	釘		0	0	0	1	1	0.1
	銭		2	1	2	0	5	0.6
	鉄滓		1	0	2	0	3	0.4
	その他		0	0	0	1	1	0.1
遺自然物	骨		1	0	2	1	4	0.5
	貝		0	0	0	1	1	0.1
合計			199	106	419	121	845	100%
比率			24	12	50	14	100%	

表8 遺物種類別の出土比率表



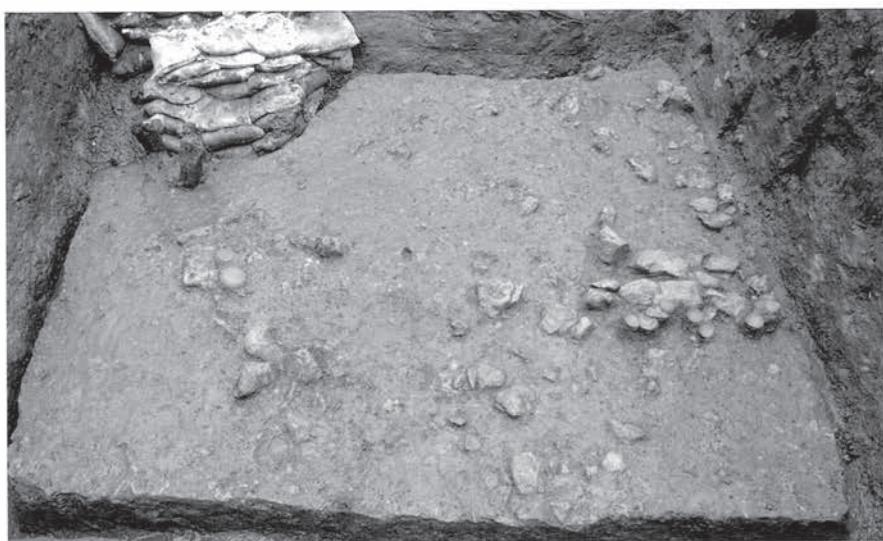
多く認められたのが常滑窯の甕・片口鉢106点(12%)であるが、瀬戸窯製品14点(1.7%)や貿易陶磁器の全体量は14点(1.7%)と低い出土比率を示していたのが特徴であろう。

今回は狭い範囲の調査面積であり、掘削深度にも限りがあったために検出遺構の繋がりや覆土の新旧関係など判別に迷うことも多かったものの、出土遺物はある程度の種類・量が認められ、人々の活動を窺わせるものであった。遺構密度は低いものの、第3面の柱穴列は調査区外に拡がる掘立柱建物と予想される状況から寺院や屋敷に関わりをもつ空間なのかもしれない。今回の調査地点では鎌倉時代前半期や南北朝時代以降の中世の土地利用については不明であり、今後の周辺調査による調査事例の蓄積が待たれるところである。

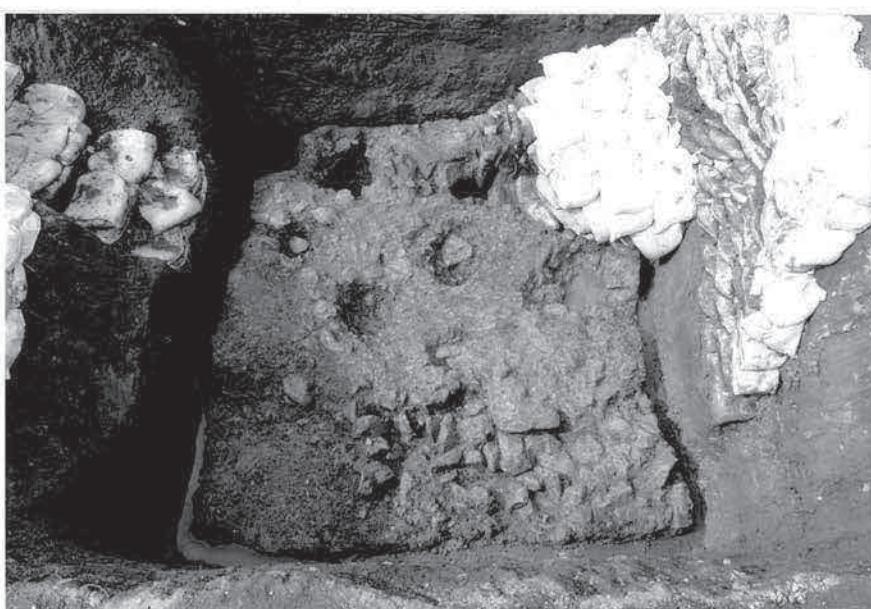
引用・参考文献

- 秋山哲雄 2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館 鎌倉市教育委員会
鎌倉市教育委員会編 1990「としよりのはなし」『鎌倉市文化財資料』第7集
鎌倉文化研究会編 1972「鎌倉－史蹟めぐり会記録－」
河野真知郎・福田 誠・原 廣志 1982『史跡永福寺跡昭和57年度発掘調査概報』 史跡永福寺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会
五味文彦 1995「大仏再建－中世民衆の熱狂－」『講談社選書メチエ』56 講談社
宗臺秀明 2002「14世紀のかわらけ」『かながわの中世～鎌倉から小田原へ～』 神奈川考古学会
宗臺秀明 2005「中世鎌倉出土の土器・陶磁器」『全国シンポジウム中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』 同実行委員会
宗臺富貴子 1996「鎌倉・今小路西遺跡（御成小学校）の瀬戸製品について—古瀬戸前期から古瀬戸後期までの出土遺物—」『（財）瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第4輯
宗臺富貴子 2002「南関東の陶磁器流通」『中世東国世界2 南関東』浅野晴樹・齋藤慎一編 高志書院
中野晴久 2012「常滑窯の展開」『シンポジウム「中世渥美・常滑焼をおって」』
貫 達人・川副武胤 1979『鎌倉市史 社寺編』鎌倉市史編纂委員会 吉川弘文館
貫 達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂
原 廣志・須佐直子・小林重子 1997「宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目361番1地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』13（第2分冊） 鎌倉市教育委員会
原 廣志・須佐直子・秋山哲雄 2001「大倉幕府周辺遺跡群（No.49）雪ノ下四丁目580番10外地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』17（第2分冊） 鎌倉市教育委員会
藤沢良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
馬淵和雄 1997「中世食文化の諸相—食器からみた中世鎌倉の都市空間—」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集
馬淵和雄 1998『鎌倉大仏の中世史』 新人物往来社
山本信夫ほか 2000「大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—」『大宰府市の文化財』第49集 大宰府市教育委員会

図版 1



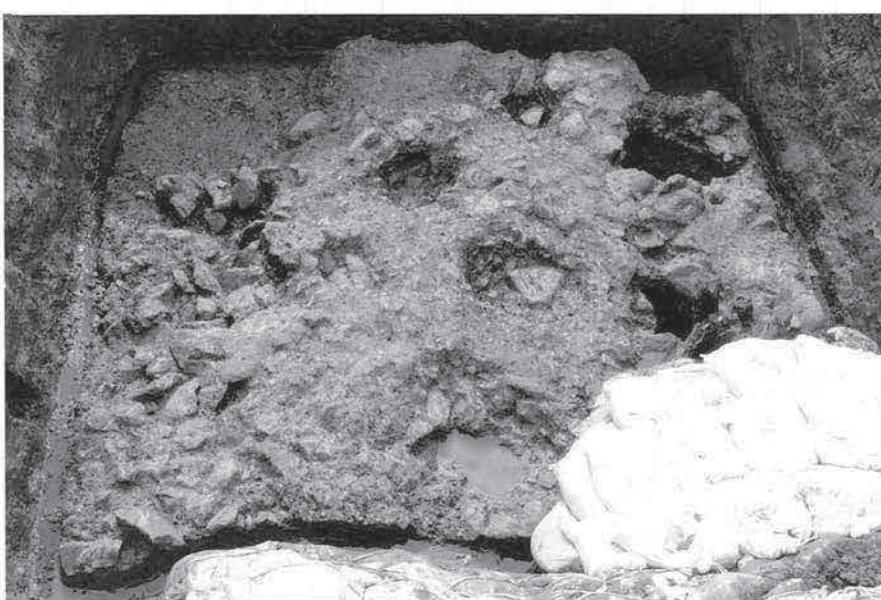
a. I区第2面全景(南から)



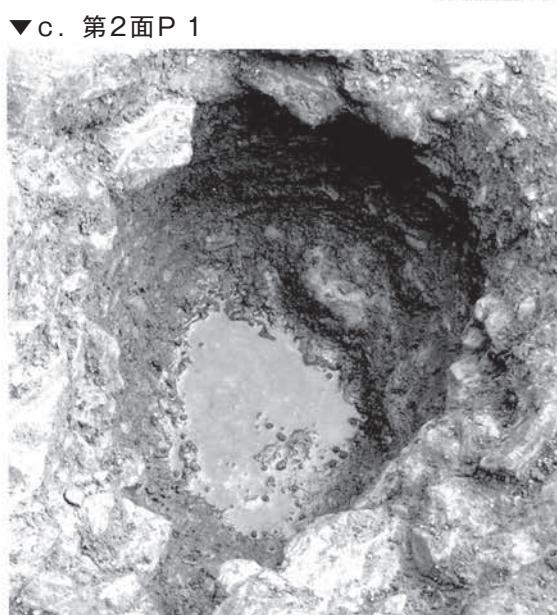
b. II区第2面全景(西から)



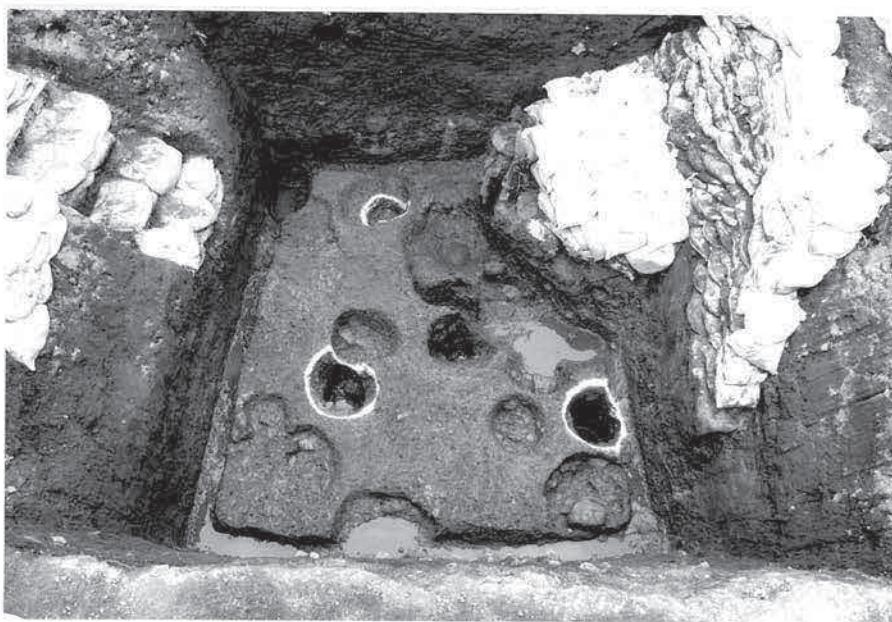
c. I区第2面遺構(東から)



図版3



► a. I区第3面全景（南から）



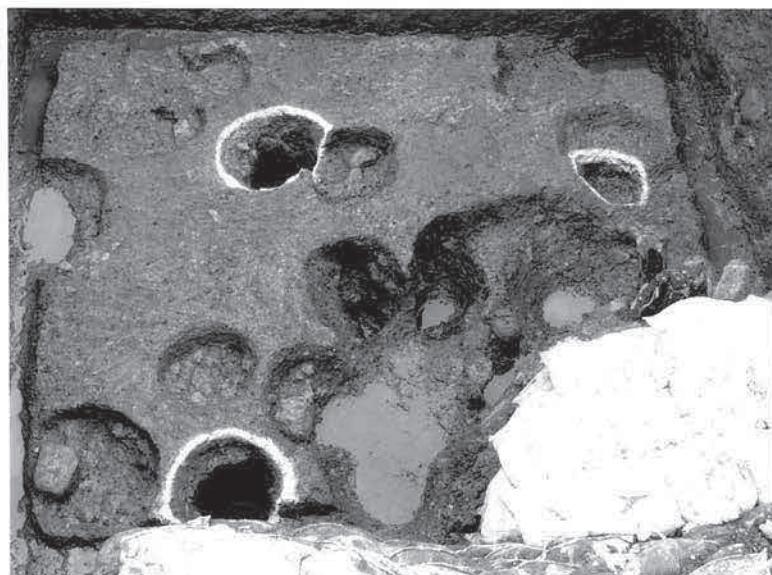
► b. II区第3面全景（西から）



► c. I区第3面全景（東から）



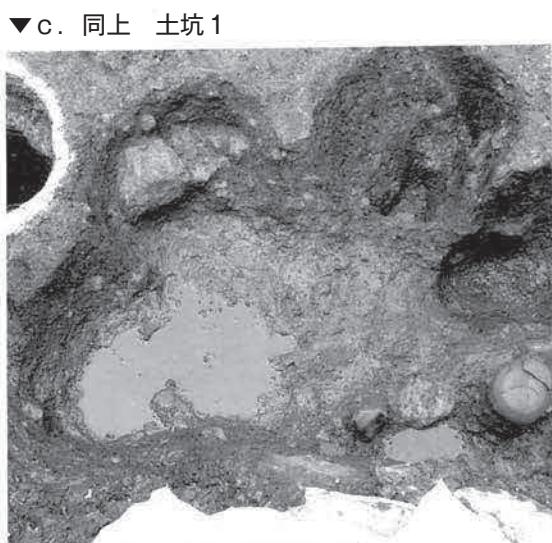
図版5



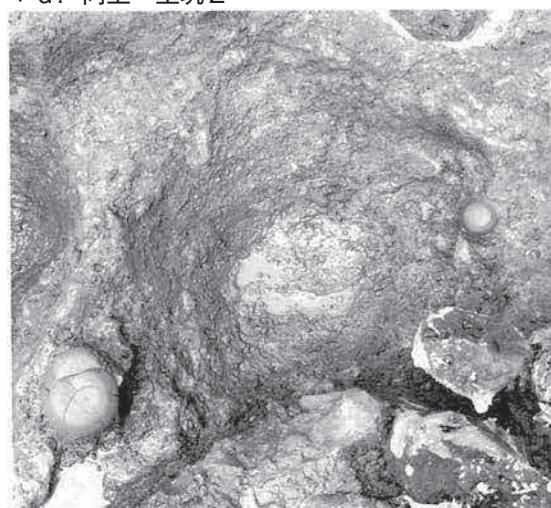
▲ a. 第3面建物1(東から)



▶ b. 第3面土坑1・2(東から)



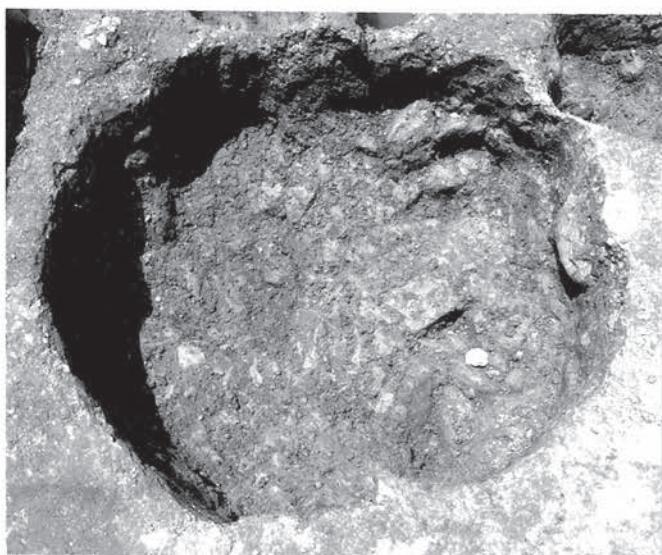
▼ c. 同上 土坑1



▼ d. 同上 土坑2



▲a. II区第3面全景(東から)



▲b. 第3面土坑4



▲c. 柱穴列1 P25

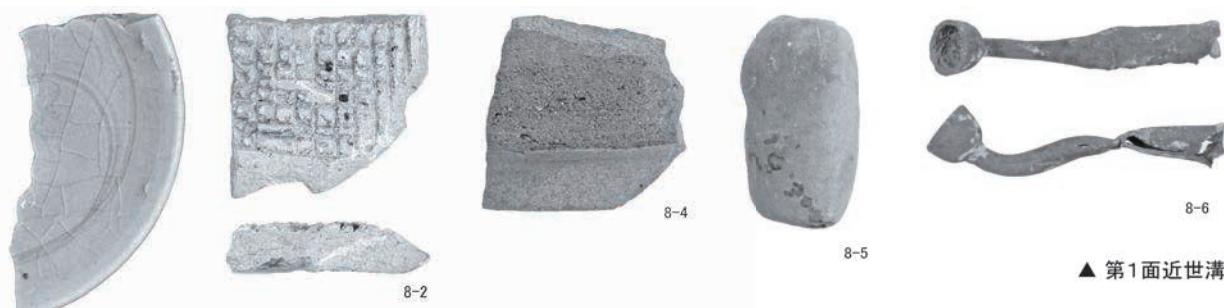


▲d. 柱穴列1 P26

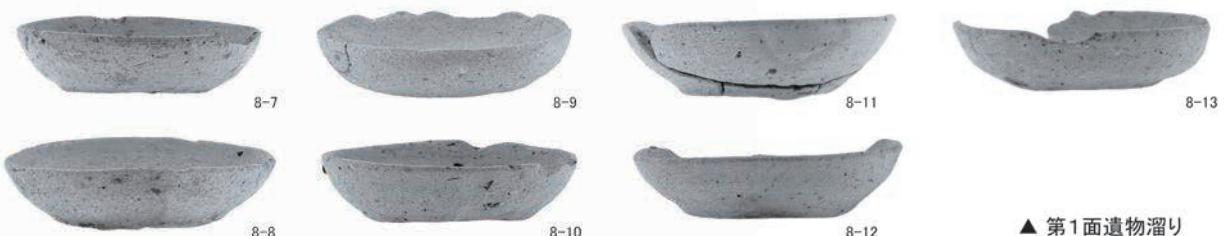


◀e. I区調査区南壁土層断面

図版7



▲ 第1面近世溝

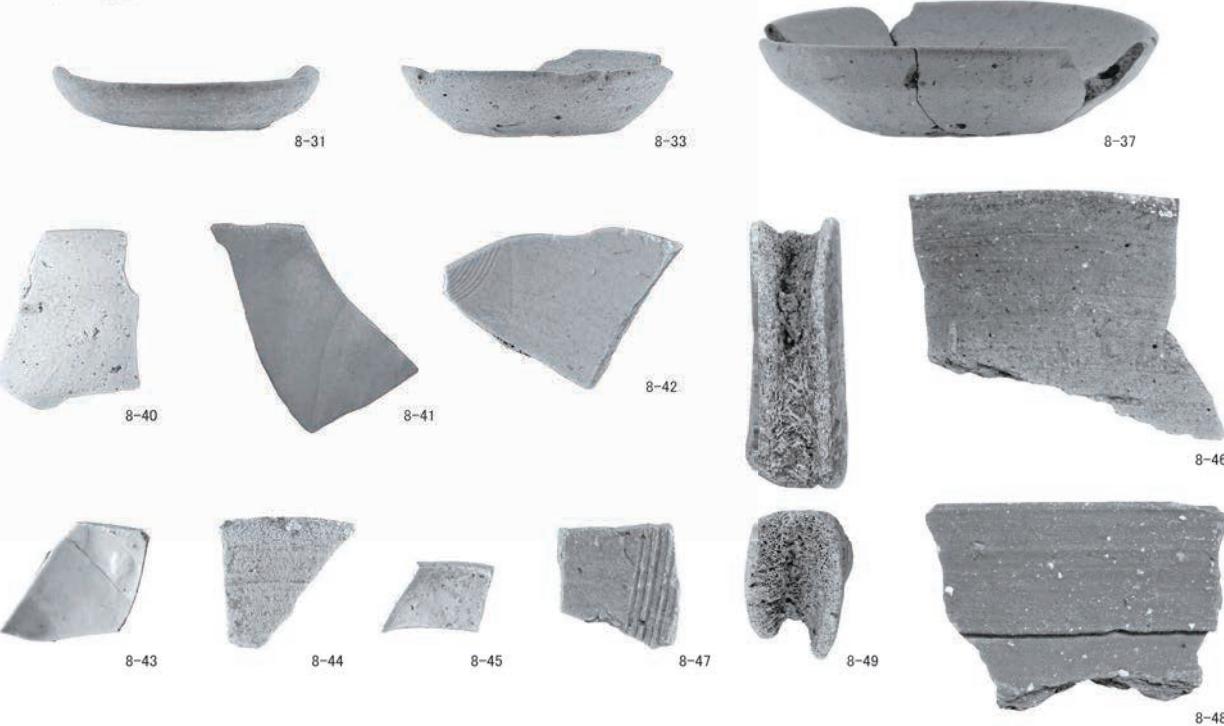


▲ 第1面遺物溜り

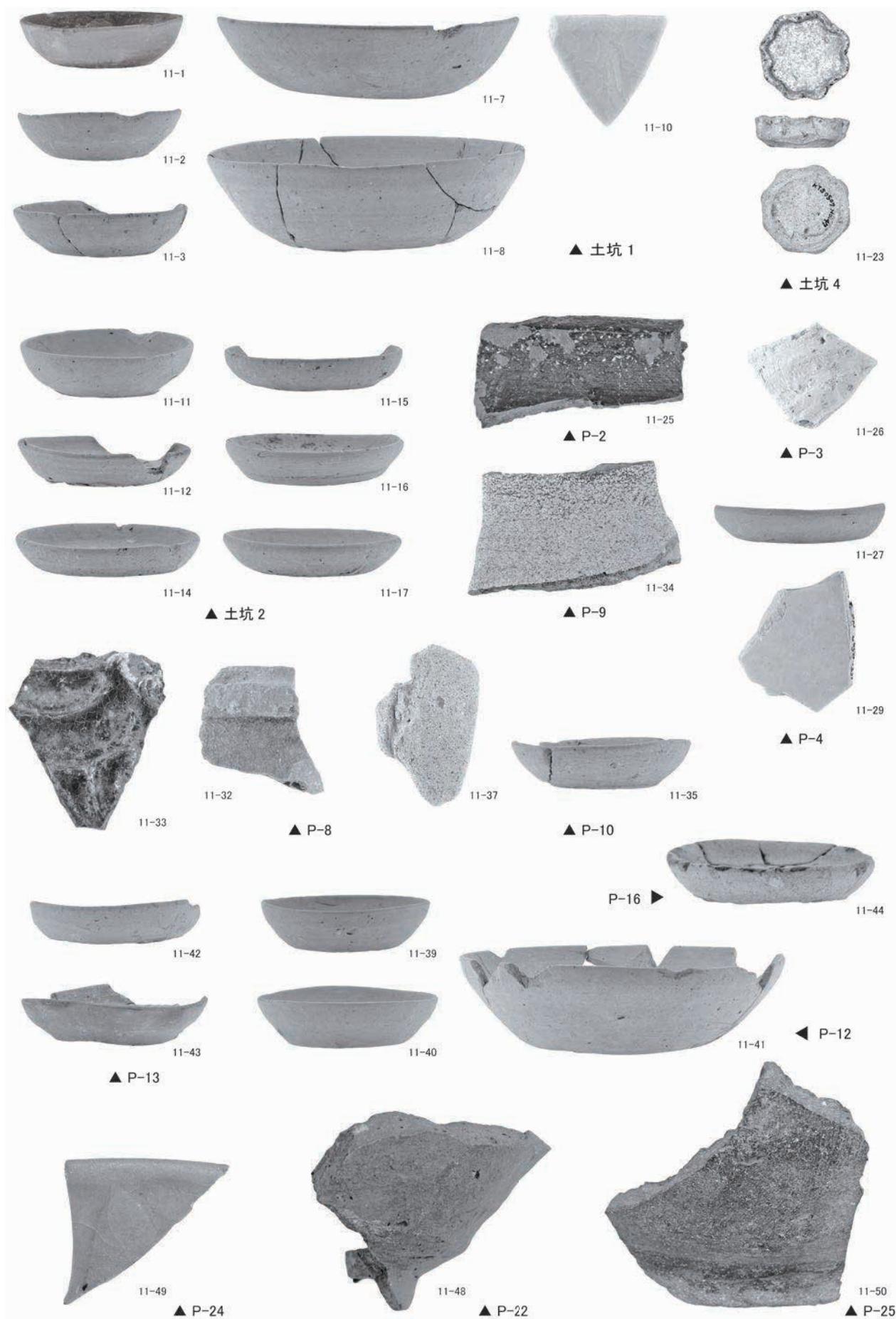
▼ 第2面各遺構



▼ 第2面遺構外

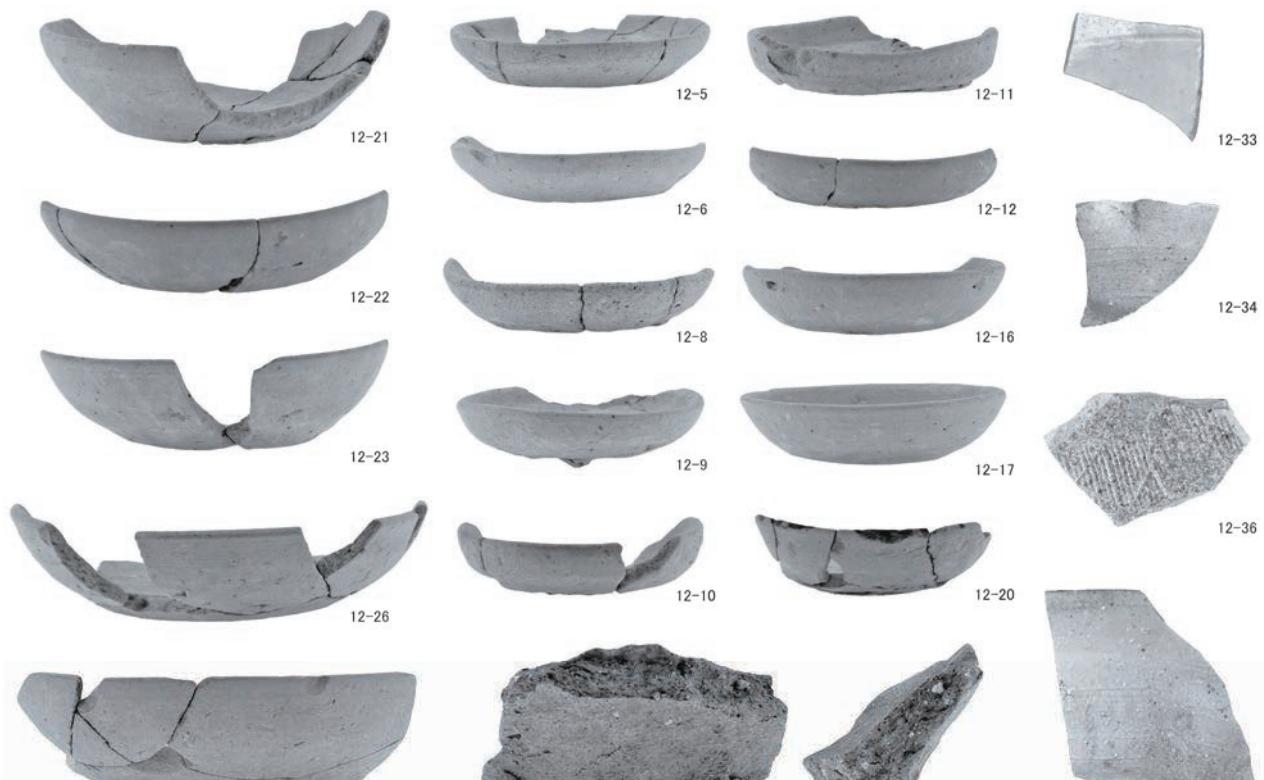


第1面各遺構 第2面各遺構・遺構外出土遺物



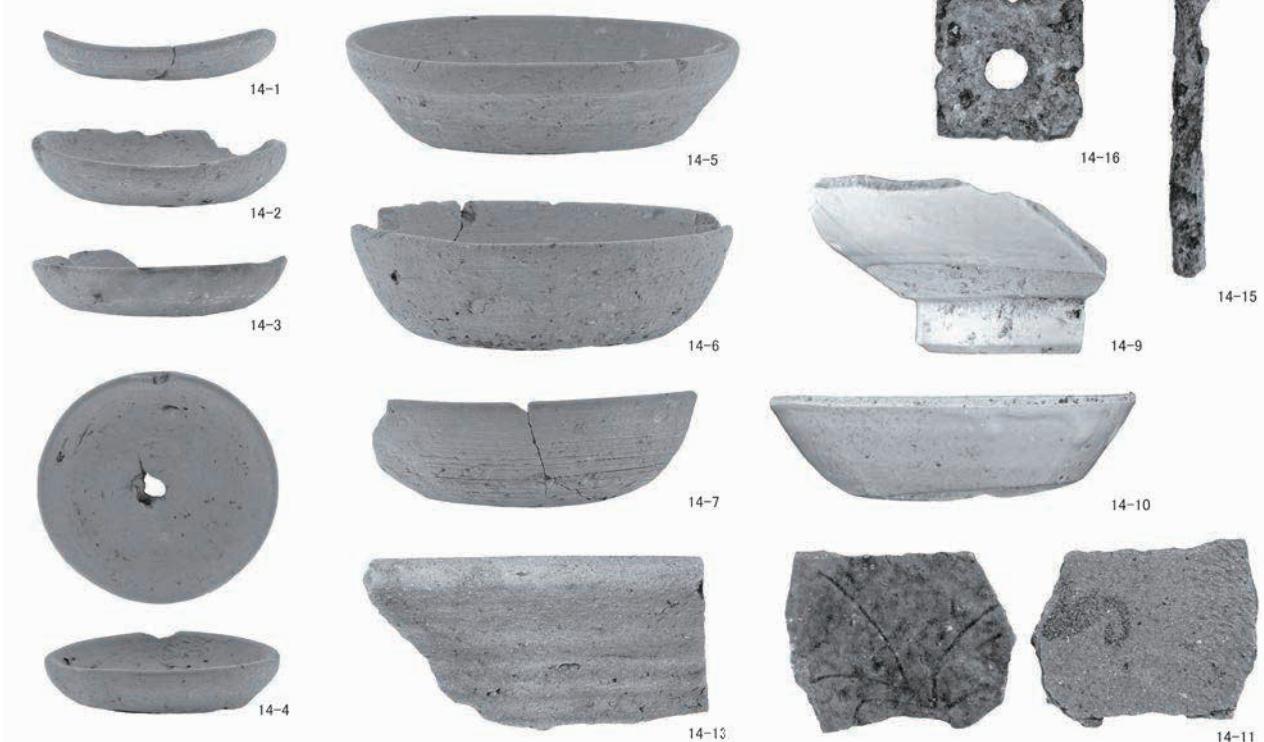
第3面各遺構出土遺物

図版9



▲ 第3面遺構外

▼ 第3面下土坑1



第3面遺構外・第3面下遺構出土遺物



▲第3面下土坑1



▼第3面下IIトレンチ



▲第3面下Iトレンチ



第3面下各遺構出土遺物

名越山王堂跡 (No.234)

大町三丁目 1362 番 1 地点

例 言

1. 本報は「名越山王堂跡 (No.234)」内の一部、大町三丁目1362番1地点（略称NGD0513）における個人専用住宅の建築（地盤の柱状改良）にともなう埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 調査期間：平成17(2004)年8月23日～同年10月20日 調査面積：27.5m²
3. 現地調査・整理作業の体制は以下の通りである。

調査担当者：原 廣志

調査員：岩崎卓治・太田美智子・小野夏菜・梅岡渙音・中川建二・平山千絵・銘苅春也・森谷十美・山口正紀・渡辺美佐子

作業員：奥山利平・鯉沼 稔・宝珠山秀雄・天野隆男（社）鎌倉市シルバー人材センター
協力機関名：（社）鎌倉市シルバー人材センター・鎌倉考古学研究所

4. 整理作業及び本報の作成は以下の分担で行った。

遺物 実測：岩崎・小野・梅岡・森谷・渡辺・原

挿図 作成：小野・平山・原

遺物観察表：平山

遺構 写真：山口・原

遺物 写真：平山

原稿 執筆：原

6. 出土遺物、図面・写真などの発掘調査資料は、報告書刊行後に鎌倉市教育委員会が保管している。

7. 本報の凡例は、以下の通りである。

挿図 縮尺：全側図：1/80 遺構図：1/40 1/50 遺物図：1/3

使用 名称：本書で使用する用語のうち、「土丹（どたん）」は逗子シルト岩の砂泥岩、「鎌倉石」は逗子市池子層に顕著な粗粒凝灰岩、「伊豆石」は相模川以西の河川・海浜に産する安山岩で礎石に利用可能な扁平な円礫を指し、表記を簡略化した。

遺構 図：遺構の標高は海拔高の数値を示している。

遺物 図：黒塗りは灯明皿に付着した油煙煤を表現している。

8. 本遺跡の現地調査から本報作成に至るまで、以下の方々からご助言とご協力を賜った。記して感謝の意を表したい（敬称略、五十音順）。

秋山哲夫・伊丹まどか・沖元 道・押木弘己・小野正敏・河野眞知郎・菊川 泉・菊川英政・熊谷満・後藤 健・古田戸俊一・五味文彦・佐藤仁彦・汐見一夫・宗臺秀明・宗臺富貴子・鈴木庸一郎・玉林美男・塚本和宏・中田 英・中野晴久・松尾宣方・松葉 崇・馬淵和雄・森 孝子

目 次

本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	159
1. 遺跡の位置と立地	
2. 遺跡の歴史的環境	
第二章 調査の概要	164
1. 調査の経過	
2. 側量軸の設定	
3. 層序	
第三章 検出遺構と出土遺物	168
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
3. 第3面の遺構と遺物	
4. 第4面の遺構と遺物	
5. 第5面の遺構と遺物	
6. 第6面の遺構と遺物	
7. 第7面の遺構と遺物	
8. 第7面下トレンチ	
第四章 まとめ	204

挿 図 目 次

図1 調査地点の位置と周辺遺跡	160
図2 國土座標とグリット設定図	165
図3 調査区東壁・西壁土層断面	166
図4 第1面全測図	168
図5 第1面土坑・ピット	169
図6 第1面遺構・遺構外出土遺物	170
図7 第2面全測図	172
図8 第2面土坑・ピット	173
図9 第2面遺構・遺構外出土遺物	174
図10 第3面全測図	175
図11 第3面建物・土坑	176
図12 第3面の遺構・遺構外出土遺物	177
図13 第4面全測図	178
図14 第4面土坑・井戸・ピット	179
図15 第4面遺構・遺構外出土遺物	180
図16 第4面遺構外出土遺物	181
図17 第5面全測図	182
図18 第5面建物・土坑・ピット	183
図19 第5面遺構・遺構外出土遺物	184
図20 第6面全測図	185
図21 第6面土坑・ピット	186
図22 第6面遺構・遺構外出土遺物	187
図23 第7面全測図	188
図24 第7面土坑・ピット	189
図25 第7面土坑・曲物出土遺物	190
図26 第8面曲物出土さし銭	191
図27 第7面ピット・遺構外出土遺物	192
図28 第7面下トレンチ	194

表 目 次

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表	162	表8 遺物観察表(6)	200
表2 埋設曲物出土銭の名称・年代別個数表	192	表9 遺物観察表(7)	201
表3 遺物観察表(1)	195	表10 遺物観察表(8)	202
表4 遺物観察表(2)	196	表11 遺物観察表(9)	203
表5 遺物観察表(3)	197	表12 層位別遺物の出土数量表	205
表6 遺物観察表(4)	198	表13 種類別遺物の出土比率表	205
表7 遺物観察表(5)	199		

図 版 目 次

図版1	207	図版7	213
a. 山王堂跡の谷を望む(南から)		a. 土坑1	
b. 第1面全景(南から)		b. P2柱跡	
c. 第1面全景(西から)		c. P2土層断面	
図版2	208	d. 常滑甕出土状況	
a. 第2面全景(南から)		e. 曲物	
b. P11かわらけ出土状況		f. 曲物内出土のさし銭	
c. 第3面全景(南から)		図版8	214
図版3	209	a. 調査区南壁土層断面	
a. 第3面全景(西から)		b. 調査区北壁土層断面	
b. 面上遺物出土状況		c. 調査区北壁西端土層断面	
c. 第3面全景(西から)		d. 井戸1	
d. 第3面建物1(東から)		e. 井戸1木枠検出状況	
図版4	210	図版9	215
a. 第4面全景(南から)		第1面各遺構・遺構外	
b. 第4面全景(西から)		図版10	216
c. 滑石製スタンプ出土状況		第2・3面各遺構・遺構外	
d. 井戸1(西から)		図版11	217
e. 井戸1木枠		第4面各遺構・遺構外	
図版5	211	図版12	218
a. 第5面全景(北から)		第5面各遺構・遺構外	
b. 建物1(北から)		図版13	219
c. 第5面全景(東から)		第6面遺構外・第7面各遺構	
d. 建物1Pハ		図版14	220
e. 面上馬齒出土状況		第7面遺構外	
図版6	212		
a. 第6面全景(西から)			
b. 第6面貝砂敷			
c. 第7面全景(西から)			

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

1. 遺跡の位置と立地

本遺跡は、鎌倉市内中心部の南東側にあたる名越ヶ谷と称される谷戸の一支谷に位置し、今回の調査地点は J R 横須賀線鎌倉駅の東方約 1.0km 付近の鎌倉市大町三丁目 1362 番 1 に所在する（第 1 図）。

鎌倉市南東部は、太平山から天台山に連なる丘陵で東隣の逗子市と画され、その南辺の衣張山から西南に派生する丘陵は、市内北東部の十二所・朝比奈峠に源を発し、西に流下する滑川が南へと流路を変えて市街地の低地に至っている。丘陵基盤は第三紀後期中新生～前期鮮新世にかけての堆積層で、三浦層群に属する逗子シルト岩層と呼ばれる。これらの丘陵に囲まれた名越ヶ谷は、谷戸の規模が東西の奥行約 1.0km を測り、北側に膨らんで弓なりに屈曲しながら北西方に開口している。谷戸の開口部幅は 200m 程であるが谷奥へ行くにつれて開析が進み、大小の小谷戸を内包した樹枝状の入り組んだ地形を展開している。

県道鎌倉・葉山線（旧国道 134 号線）の名越四ツ角から東北方向へ進むと二股に分かれた谷戸が展開しており、谷戸内の低地を北及び東最奥に源を発する逆川が西方し、大町四ツ角から南へと流下して上河原橋付近で滑川に合流する。逆川が谷戸内で一時的に南方へ流をかえるあたりの北側、南に開口した支谷は山王ヶ谷と呼ばれ、西側の祇園山丘陵の尾根先から最奥まで概ね 200m 程の谷戸である。山王ヶ谷を取り巻く尾根の標高は 25 ～ 65m 前後、谷戸内の平地海拔高は 10 ～ 20m を測り、今回調査対象となった地点は海拔 14.70m 前後に立地している。

2. 遺跡の歴史的環境

本遺跡の名称に係わる「名越」という地名は、現在のところ国史跡の名越切通や名越ヶ谷などの字名に限られた範囲でしか残されていないが、この地名は中世まで遡り鎌倉の境をなして大町から光明寺がある材木座地区にまたがった中世鎌倉の重要な場所の一つである。この名越一帯には北条氏一門の名越氏や三善氏等の有力御家人の居館、現在は廃寺となるが山王堂・慈恩寺・長善寺・新善光寺・崇寿寺等の有力寺院が知られている。一方、町名である「大町」も鎌倉時代まで遡り、『吾妻鏡』建長三年（1251）、小町屋や売買の施設を「大町・小町・米町（穀町）・亀ヶ谷辻・和賀江・大倉辻・氣和飛坂（化粧坂）山上」の七ヵ所に商業活動を限定し、それ以外での活動を禁止しているが、その筆頭に大町が挙げられている。大町・小町は、それぞれ大町大路・小町大路沿い付近と推定される。商業地域の場所が「町」「辻」「江」「坂山上」等であるが、「辻」は道が十文字に交差した四ツ角を意味し、本来的には無主・無縁の自由な場であるという興味深い意見がある。鶴岡八幡宮北東の宝戒寺門前から和賀江津へと南北に走る小町大路、下馬四ツ角から名越方面へ東西に走る大町大路が交差する現在の大町四ツ角が位置し、さらにその南側に大町大路と並行する車大路とが松葉ヶ谷入口あたりで合流し、名越切通（名越坂口）へと向かっていたと思われる。

鎌倉における奈良時代以来の古東海道の経路は、二説に大別される。ひとつは極楽寺坂近辺を抜けて稻瀬川河口付近から鎌倉に入って海岸に近い砂丘地帯を通り、六地蔵交差点を北東へ進み下馬四ツ角の交差点で若宮大路を横切り直進して名越から山道を超えて沼浜（逗子市沼間）に至る道である（馬淵 1994）。もうひとつが『鎌倉市史 総説編』の述べる説で、六地蔵交差点から東は県道鎌倉・葉山線より南、

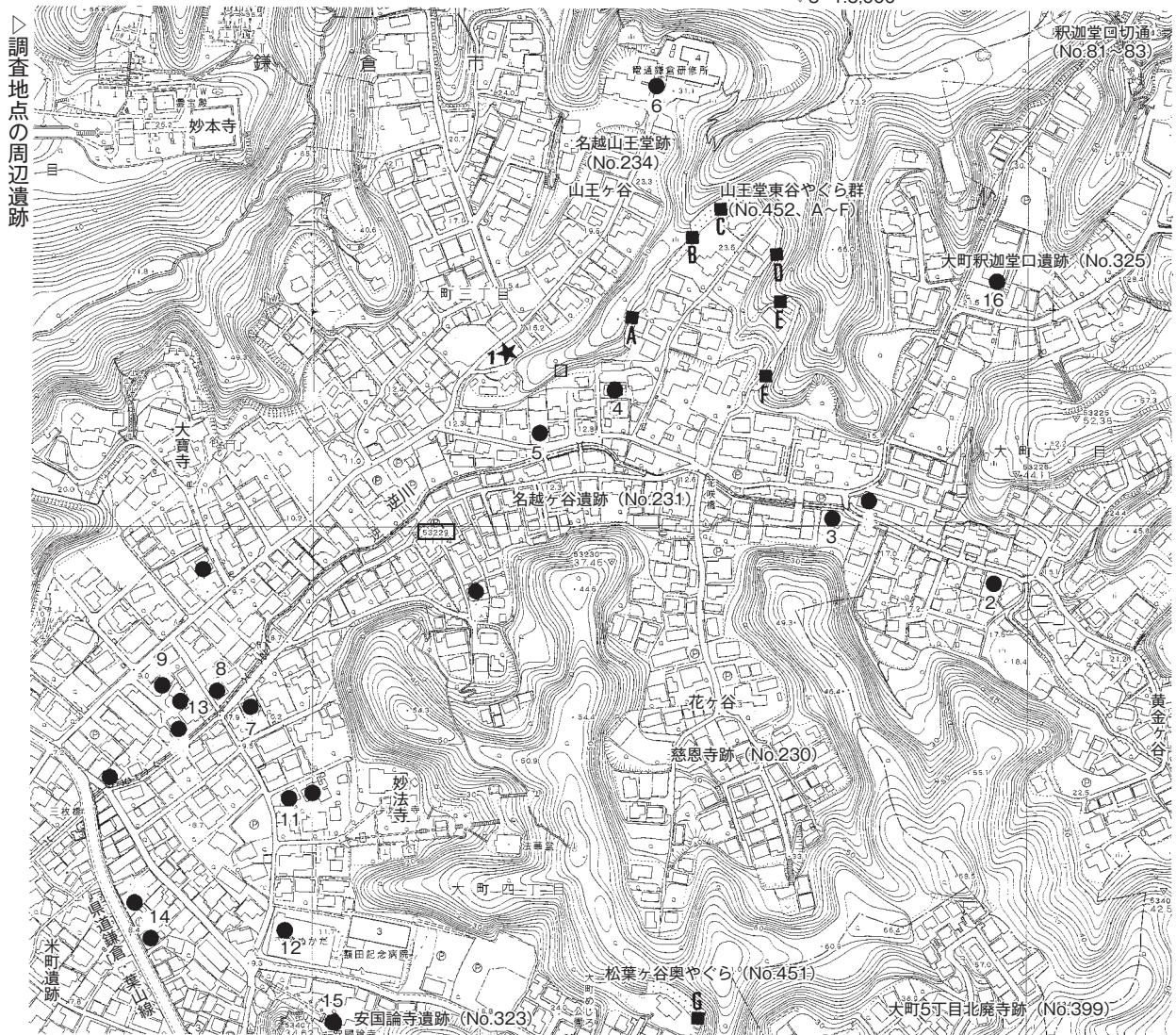


図1 調査地点の位置と周辺遺跡

現在の鎌倉女学院北縁を通り、由比若宮の元八幡・辻薬師堂付近を東進した先で県道に合流する古道が推測されている。いずれにせよ相模国府から鎌倉郡から三浦郡を抜けて房総を経由で常陸国府へと往還した重要な幹線であったことはまちがいない。なお、鎌倉を東海道が通過していたのは大化元年(645)に始まり宝亀二年(771)までの五畿七道制の改編に伴う時期までであった。

本遺跡が所在する大町三丁目周辺には名越ヶ谷・山王ヶ谷・六坊ヶ谷・花ヶ谷・松葉ヶ谷・赤門などの字名が知られている。名越大谷及び谷戸開口部付近には、別願寺、安養院、大寶寺、妙法寺、安國論寺が法灯を伝えており、現在は廃寺となるが山王堂、善導寺、慈恩寺、木束寺などの寺院があったという。

本遺跡の山王堂について『吾妻鏡』の記事をみると、建長四年(1252)二月三八日、大火で東は名越山王堂前まで延焼した。建長六年(1254)正月十日、早朝浜の風早町辺が焼け、名越山王堂に至る。人家数百戸災し、焼死者数十人である。また弘長三年(1263)三月十八日、名越辺焼亡。山王堂在其中。失火云々とあり。さらに『相模風土記稿』(以後『風土記稿』と省略する)にも「是も名越谷の内にて往昔此所に山王社今廢セリ…」と山王ヶ谷の名をあげている。

大寶寺は多福山一乘院大寶寺と号し、俗に名越佐竹屋敷跡と伝える場所に建つ日蓮宗の寺院である。『風土記稿』によれば、佐竹義盛が応永六年(1399)に多福寺を建立したが早く廃寺となり、文安元年(1444)に日蓮宗の僧日出がその地にまた寺を建て、前の寺号を山号としたという。境内には佐竹氏の租、新羅三郎義光の靈廟の多福明神社と、その墓と伝える変形の宝篋印塔もある。

花ヶ谷には慈恩寺・木束寺の旧跡地があった。慈恩寺(No.230)は臨済禪で山号が白華、足利直冬の菩提寺、開山は桂堂士聞というが、すでに元亨三年(1323)の史料にその名がみえるので、開創は鎌倉時代まで遡るようである。『成氏年中行事』によると、毎年正月十六日に真言・律・天台の住僧と共に当寺も御所へ参上している。15世紀の終わり頃には廃絶していたらしい。木束寺(目足寺または無垢息寺とも書く)も慈恩寺同様に臨済禪の寺院である。文安三年(1446)に円覚寺正統院領内の昭西堂の跡地へ移造した記録はある。『風土記稿』などの史料に断片的な記載があるだけで沿革や廃年など不詳である。

安養院は祇園山長楽寺安養院と号した浄土宗寺院である。寺伝では、嘉禄元年(1215)篠目に建立した律宗寺院の長楽寺が前進で開山は願行房憲静、開基は北条政子と伝える。鎌倉時代末期に現在地の浄土宗善導寺跡に移って安養院と号したという(旧境内は善導寺跡・No.280と遺跡指定)。史料を見ると、『金沢文庫文書』10の118頁に「於相州鎌倉名越郷善導寺書写之了 執筆源(カ)音生廿二歳也」(正応三・1290年)とあり、同十一の61頁には「鎌倉名越善導寺ニバ書之処也」(弘安十・1287年)と記されている。延宝八年(1680)の火災により全焼した。本堂背後には重要文化財の徳治三年(1308)七月の銘を刻んだ安山岩製の大宝篋印塔(相輪除く総高247.3cm)がある。破損部は多いが鎌倉で現存する関東型式の宝篋印塔中で最古の作例である。西隣りには時宗の稻荷山超世院別願寺がある。開山は覚阿公忍、弘安五年(1282)に公忍が真言宗能成寺を時宗に改め、別願寺と改称したという。鎌倉時宗寺院の第一で鎌倉御所の菩提所のひとつに挙げられる。境内には鎌倉時代末期まで遡る安山岩製の大宝塔(相輪除く総高243.2cm)がある。

松葉ヶ谷に所在した安國論寺、妙法寺はともに日蓮上人が安房から鎌倉入りし初めて小さな庵室を結んだという伝承地になっている。安國論寺は妙法山と号し、妙法寺と同じく寺地は松葉ヶ谷法難の跡と伝える(安國論寺遺跡・No.323)。本堂の他、御小庵・庫裡・山門・熊王稻荷大明神尊殿などの伽藍を配置している。また日蓮が籠って『立正安國論』を執筆したという岩窟(安國論寺やぐら・No.228)が残されている。一方、妙法寺は楞嚴山と号し、日蓮を開山、中興開山を日叡と。『風土記稿』によれば、小庵跡に建てられていた大光山本国寺の旧地に、護良親王遺子の日叡が正平十二<延文二>年(1357)

に伽藍を再興した。山号は日叡の幼名の楞嚴丸から、寺名は房号の妙法房からとり称するようになったという。

このように名越・大町は中世都市鎌倉において大町大路が走る幹線路の一つであり、名越大谷はその中にあって、三浦や六浦を経て房総方面への交通の要衝として、また有力御家人居館や寺社が所在した地域であった。さらに日蓮上人が布教拠点としての場、すなわち都市民が集中する町屋の様相も兼ね備えていたのではないだろうか。今後さらなる研究が望まれるところである。

なお、遺跡周辺の発掘調査事例や旧跡については、「表1 周辺遺跡の調査地点一覧表」を参照されたい。

表1 周辺遺跡の調査地点一覧表

遺跡所在地		調査報告書名・遺跡名・遺跡台帳番号など
1 大町三丁目 1362番 1		本調査地点
2 大町六丁目 1708番 4		汐見 2004「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』
3 大町四丁目 1736番 2外		宗臺 1998「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第1分冊)』
4 大町三丁目 1367番 4		玉林 1986「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2』
5 大町三丁目 1364番 1外		森 2004『名越ヶ谷遺跡』(有)博通
6 大町三丁目 1340番 外		齋木ほか 1990『名越・山王堂跡発掘調査報告書』同遺跡発掘調査団
7 大町四丁目 1880番 6外		田代ほか 1996「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11(第1分冊)』
8 大町三丁目 1826番 9		手塚ほか 2002「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』
9 大町三丁目 2356番 3		滝澤ほか 2001「名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書」同遺跡発掘調査団
10 大町三丁目 2356番 10		福田 2003「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』
11 大町四丁目 1888番		汐見ほか 2000「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』
12 大町四丁目 1901番 16外		滝澤ほか 2003「名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書(医療法人財団額田記念会老健ぬかだ建設に伴う発掘調査報告同遺跡発掘調査団)
13 大町四丁目 2356番 11		宮田 2003「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』
14 大町四丁目 2395番 2		滝澤 2006「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22』
15 大町四丁目 1947番		松尾 1992『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I(昭和46~52年度)』
16 大町六丁目 1442番 4外		永田ほか 2009『大町积迦堂口遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会
A 大町三丁目 1375番 3		鈴木 2000『鎌倉城(大町三丁目)所在やぐら(No.87)』かながわ考古学財団調査報告書89
B 大町三丁目 1376番 5外		池田ほか 2002『山王堂東谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告書1
C 大町三丁目 1377番 1		鈴木ほか 2002『山王堂東谷やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告書140
D 大町三丁目 1378番、1381番 3		鈴木 2005『山王堂東谷やぐら群III』かながわ考古学財団調査報告書182
E 大町三丁目 1388番乙号		井関ほか 2005『山王堂東谷やぐら群IV』かながわ考古学財団調査報告書184
F 大町三丁目 1389番		鈴木ほか 2005『山王堂東谷やぐら群V』かながわ考古学財団調査報告書186
G 大町四丁目 1932番 3		鈴木ほか 2002『松葉ヶ谷奥やぐら』かながわ考古学財団調査報告書139

【引用・参考文献】

- 秋山哲雄 2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館
 池田 治・井辺一徳・宍戸 信 2001『山王堂東谷やぐら群』かながわ考古学財団調査報告117 (財)かながわ考古学財団
 井関文明・鈴木庸一郎 2005『山王堂東谷やぐら群IV』かながわ考古学財団調査報告184 (財)かながわ考古学財団
 石井永二編 1986『鎌倉事典』東京堂出版
 上本進二 2000「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子棧敷戸遺跡(逗子市No.100)』 東国歴史考古学研究所
 鎌倉市教育委員会編 1990「としよりのはなし」『鎌倉市文化財資料』第7集
 鎌倉国宝館 1995「鎌倉の古絵図III」『鎌倉国宝館図録』第十五集 鎌倉市教育委員会
 鎌倉国宝館 2002「鎌倉の宝篋印塔」『鎌倉国宝館図録』第二十二集 鎌倉市教育委員会
 鎌倉国宝館 2003「鎌倉の石仏・宝塔」『鎌倉国宝館図録』第二十三集 鎌倉市教育委員会
 鎌倉文化研究会編 1972「鎌倉-史蹟めぐり会記録-」
 菊川英政 1996「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』11(第1分冊) 鎌倉市教育委員会

- 木下 良・木本雅康・中村太一・新井秀規・笹倉義邦 1997『神奈川の古代道』博物館建設準備調査報告書 第3集
藤沢市教育委員会
- 齋木秀雄 1990『名越・山王堂跡発掘調査報告書』 山王堂跡遺跡発掘調査団
- 汐見一夫・野本賢二ほか 2000「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16(第2分冊) 鎌倉市教育委員会
- 汐見一夫 2004「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20(第2分冊) 鎌倉市教育委員会
- 宗臺富貴子・宗臺秀明 1998「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14(第1分冊) 鎌倉市教育委員会
- 鈴木次郎・汐見一夫・井関文明 2005『山王堂東谷やぐら群V』かながわ考古学財団調査報告書 186 (財)かながわ考古学財団
- 鈴木庸一郎・木村吉行 2000『鎌倉城(大町三丁目)所在やぐら』かながわ考古学財団調査報告書 89 (財)かながわ考古学財団
- 鈴木庸一郎 2001「第7編 第Ⅱ章」『古都鎌倉』を取り巻く山稜部の調査 神奈川県教育委員会・鎌倉市教育委員会・(財)かながわ考古学財団
- 鈴木庸一郎・宮坂淳一 2002『松葉ヶ谷奥やぐら』かながわ考古学財団調査報告書 139 (財)かながわ考古学財団
- 永田史子・古田戸俊一・福田 誠・小林康幸 2009『大町积迦堂口遺跡発掘調査報告書』 鎌倉市教育委員会
- 鈴木庸一郎・宮坂淳一・村上吉正 2002『山王堂東谷やぐら群II』かながわ考古学財団調査報告書 140 (財)かながわ考古学財団
- 鈴木庸一郎 2005『山王堂東谷やぐら群III』かながわ考古学財団調査報告書 182 (財)かながわ考古学財団
- 鈴木庸一郎 2005『山王堂東谷やぐら群V』かながわ考古学財団調査報告書 186 (財)かながわ考古学財団
- 高柳光寿 1959『鎌倉市史 総説編』鎌倉市史編纂委員会編 吉川弘文館
- 滝澤晶子・諸星真澄・宮田 真 2001『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』 名越ヶ谷遺跡発掘調査団
- 滝澤晶子・宮田 真 2003『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書(医療財団額田記念会老健ぬかだ建設に伴う発掘調査)』名越ヶ谷遺跡発掘調査団
- 滝澤晶子 2006『名越ヶ谷遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22(第1分冊) 鎌倉市教育委員会
- 田代郁夫 1996『名越ヶ谷遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』11(第1分冊) 鎌倉市教育委員会
- 玉林美男 1986『名越ヶ谷遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』2 鎌倉市教育委員会
- 手塚直樹 2002『名越ヶ谷遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18(第2分冊) 鎌倉市教育委員会
- 永田史子・古田戸俊一・福田 誠・小林康幸 2009『大町积迦堂口遺跡発掘調査報告書』 鎌倉市教育委員会
- 貫 達人・川副武胤 1979『鎌倉市史 社寺編』鎌倉市史編纂委員会編 吉川弘文館
- 貫 達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂
- 松尾宣方 1992「安国論寺境内」『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』I(昭和46~52年度) 鎌倉市教育委員会
- 松葉 崇・鈴木絵美 2010『松葉ヶ谷奥やぐら』かながわ考古学財団調査報告書 253 (財)かながわ考古学財団
- 馬淵和雄 1992「中世鎌倉における谷戸開発のある側面」『鎌倉』第六十九号 鎌倉文化研究会
- 馬淵和雄 2008『米町遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』24 鎌倉市教育委員会
- 三浦勝男 1986『鎌倉の地名考(八) -花ヶ谷について-』『鎌倉』52号 鎌倉文化研究会
- 森孝子 2004『名越ヶ谷遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20(第1分冊) 鎌倉市教育委員会
- 森孝子 2004『名越ヶ谷遺跡』 名越ヶ谷発掘調査団

第二章 調査の概要

1. 調査の経過

本調査地点は市内中心部の南東側、県道鎌倉葉山線の名越四ツ角の交差点を北東へ85m程入った山王ヶ谷と呼ばれる谷戸開口部に近い東側山裾にあたる鎌倉市大町三丁目1362番1に所在している。今回の発掘調査は、基礎工事に際して地盤の柱状改良工事を実施する個人専用住宅建設の計画があったため、工事の実施により掘削深度の関係から埋蔵文化財に影響を及ぼす恐れのある事が予想された。このために鎌倉市教育委員会による遺構確認の試掘調査が行われた。その結果、現地下70cm前後まで近・現代の客土や畑耕作土が確認され、それ直下は薄い中世遺物包含層を挟んで鎌倉時代の少なくとも7時期の遺構面（生活面）と、それに伴う遺物が出土して具体的な埋蔵文化財の存在することが判明した。これにより当該建築工事の実施による埋蔵文化財への影響が避けられないと判断された。このため事業者との協議を行ったところ、当初の計画に基づき建築工事を実施したいとの意向が示された。そこで文化財保護法に基づく届け出手続きを行い、施工者と調査方法・工程の協議を重ねた結果、平成17年8月20日過ぎから約2ヶ月の予定で発掘調査を実施する運びとなった。

現地調査は8月23日に機材搬入し、試掘データに基づいて遺構面を傷つけないように地表60cm程までを重機で除去した後、それ以下を人力により掘り下げての遺構の確認・検出をおこなった。調査面積は27.50m²が対象である。調査の結果、建物跡、土坑、井戸、溝、ピットなどにより構成された遺構群が検出された。出土遺物は多量のかわらけを始め、陶磁器類、金属・骨角製品など13世紀後半～14世紀前半頃の所産である。平成17年10月20日までの間に必要な記録作業を行い、同日に機材撤収して現地調査を終了した。調査の経過については、以下に主な作業内容を日誌抜粋で記しておく。

日誌抄

- 8月23日（火） 調査区設定して地表下60cmまで重機により表土掘削を実施。機材搬入とテント設営。
- 29日（月） 第1面の検出、遺構確認作業を開始。鎌倉市4級基準点を基に測量軸方眼の設定。
- 30日（火） 測量用の海拔高を鎌倉市が設置した三級水準点から原点レベルを敷地内に移動。
- 9月 9日（金） 第1面の調査終了。全景及び個別遺構の写真撮影及び平面図の作成。第2面検出に向け荒掘り作業と面検出を開始。
- 14日（水） 第2面調査終了。全景写真の撮影、平面図の作成。
- 16日（金） 小大土丹塊を敷き詰めた第3面と建物遺構の落ち込みを検出。
- 21日（水） 第3面の全景写真、建物跡の土層断面・平面図の作成。
- 26日（月） 台風被害で調査区壁の一部崩落、土留作業を実施。掘下げ中に井戸枠を確認。
- 29日（木） 第4面の全景、井戸3・土坑1の写真撮影、平面・土層断面図の作成。
- 10月 4日（火） 第5面の調査終了し、平面図作成。全景・建物跡・土坑の写真撮影。
- 7日（水） 第6面の調査終了。全景及び個別遺構などの写真撮影。平面図作成。
- 13日（木） 第7面遺構の検出終了。全景写真、調査区各壁面、曲げ物などを撮影。平面図及び調査区壁面土層断面図の作成開始。
- 20日（水） 機材撤収し、現地調査終了。

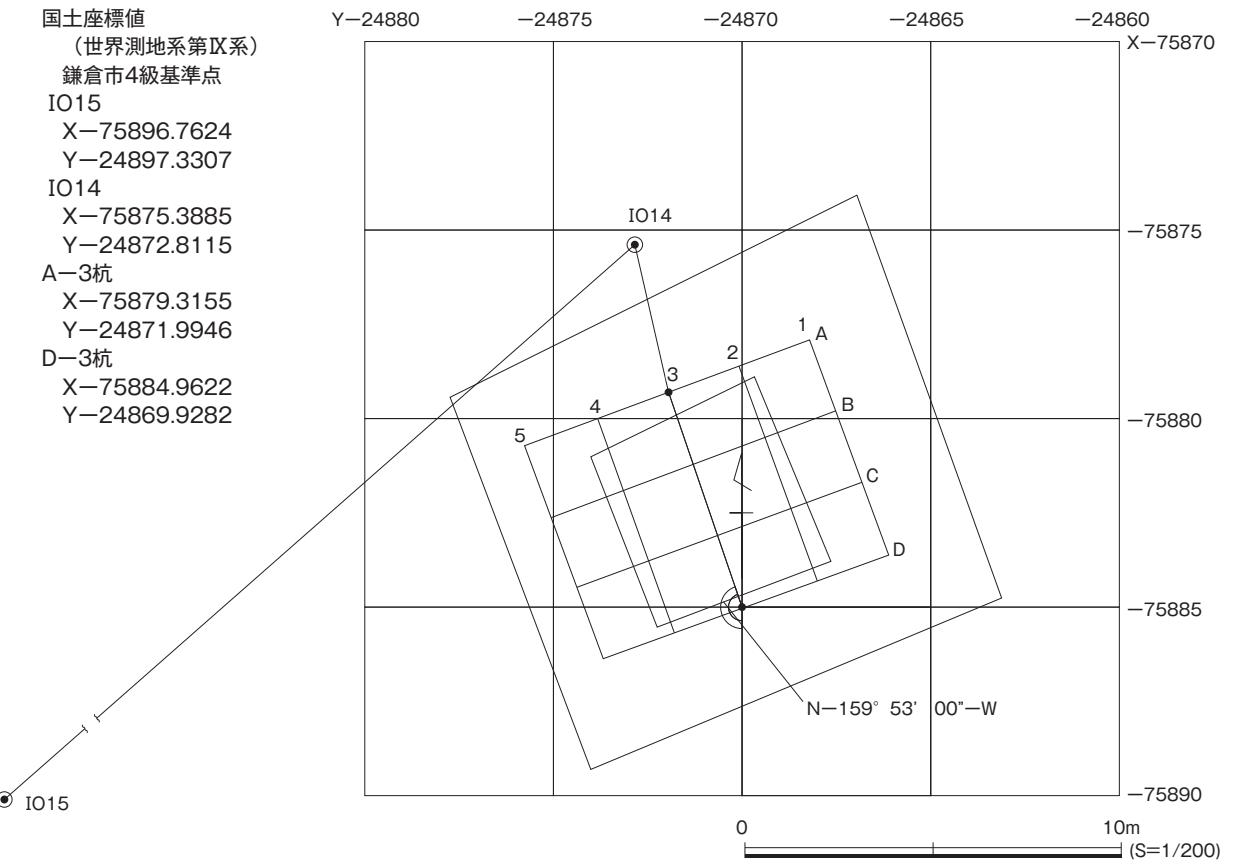


図2 国土座標とグリッド設定図

2. 側量軸の設定

調査にあたって使用した測量方眼軸の設定には、図2で示したのように調査地北辺沿いを山王ヶ谷奥に走る道路面上に鎌倉市道路管理課が設置したIO14・IO15の市4級基準点（日本測地系第IV座標系）を基準としている。この4級基準2点の関係から開放トラバース側量によって算出した側量基準点のA-3杭と、D-3杭をそれぞれ設置した。さらに側量軸は東西軸と南北軸を2m方眼による軸線を配し、南北軸はA～Dのアルファベットの名称、東西軸に1～5の算用数字をそれぞれ付して設定を行った。現地調査で使用した国土座標は、日本測地系（座標AREA9）の国土座標数値であったため、報告書の整理作業段階で、国土地理院が公開する座標変換ソフト『webTKY2JGD』によって世界測地系第IX系の座標数値に算出しなおした数値を明示している。

IO14 : [X - 75.161.159 Y - 25.087.503] A-3杭 : [X - 75.107.060 Y - 25.077.276]

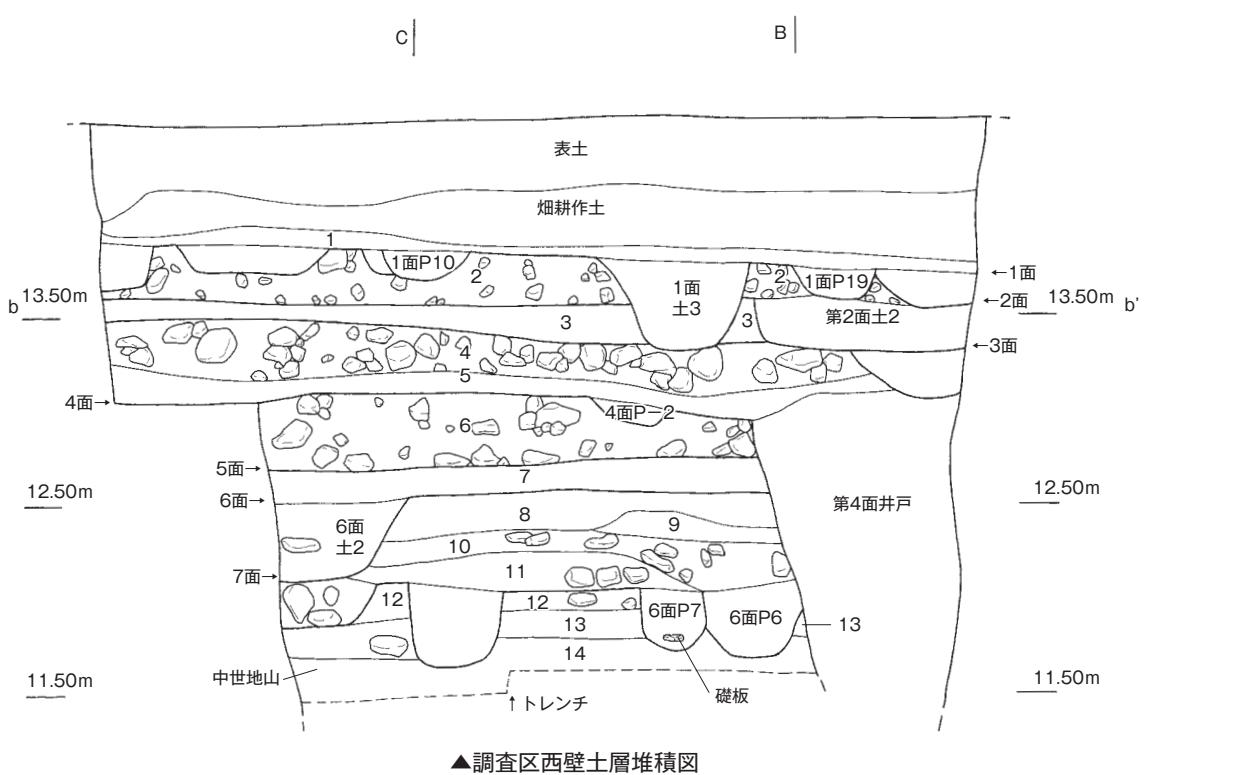
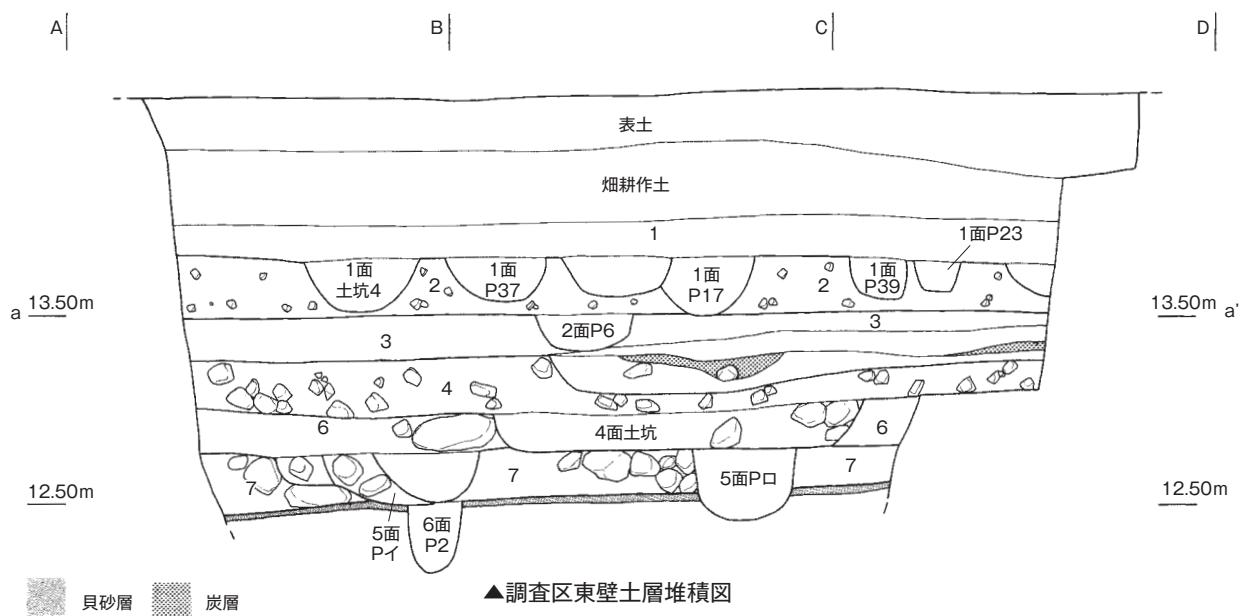
IO15 : [X - 75.198.020 Y - 25.045.906] D-3杭 : [X - 75.107.060 Y - 25.077.276]

従って、調査地点は世界測地系第IV系のX - 75 870.000 ~ 75 890.000・Y - 24 860.000 ~ 24 869.000の国土座標区画内に位置している。挿図中の方位は、すべて真北を採用した。測量方眼の南北軸線は遺構の方位を意識して調査区の南北軸にほぼ平行した主軸としたので真北より東に触れている。また調査地点の経緯度は以下のとおりである。

南北軸線 : [N - 20° 07' 00'' - E]

調査地点 : [東経 139° 33' 35"] [北緯 35° 18' 56"]

海拔高の基準点は、調査地点から南方150m程のところ、逆川の東側沿いを黄金ヶ谷方面に向かう道路上に設置された鎌倉市3級水準点（No.53229・L = 11.168 m、1985年10月与点）を標高原点として調



土層注記

1. 明茶褐色弱粘質土：5cm大の土丹粒を多く含み、炭化物少量含む。締まり有り
2. 明茶褐色弱粘質土：拳大の土丹・土丹粒・鎌倉石を碎いたもの多く含み、かわらけ片少量含む。締まり有り 第1面構築土
3. 明茶褐色弱粘質土：土丹粒多く含み、炭化物・かわらけ片少量含む。締まりやや有り 第2面構築土
4. 茶褐色弱粘質土：拳～人頭大の土丹を多量に含む。炭化物、かわらけ片少量含む。 第3面構築土
5. 暗茶褐色粘質土：土丹粒多量に含み、炭化物、かわらけ片少量含む。締まりやや有り。
6. 黄褐色粘質土：拳大土丹多量に含み、かわらけ片少量含む。砂粒混じる。締まりなし 第4面構築土
7. 青灰色粘質土：拳大土丹・土丹粒多量に含み、炭化物中量含む。締まりなし 第5面構築土
8. 暗茶褐色粘質土：拳大土丹・土丹粒を多く含み、炭化物、かわらけ片、木片を少量含む。締まりやや有り。
9. 暗茶褐色粘質土：土丹粒・炭化物、小石を少量含む。締まりややあり。
10. 暗茶灰色弱粘質土：拳大～人頭大の土丹粒を多く含み、かわらけ片、貝片を少量含む。締まりやや有り。
11. 暗茶灰色粘質土：10cm大の土丹を多く含み、土丹粒を中量、かわらけ片、木片を少量含む。締まり有り。
12. 黒褐色粘質土：拳大の土丹粒を多く含み、木片、貝片を中量含む。締まりやや有り。
13. 黑褐色粘質土：土丹粒を中量含む。締まりやや有り。
14. 黑褐色粘質土：土丹粒・自然木、貝砂を少量含む。非常に締まり有り。 中世地山

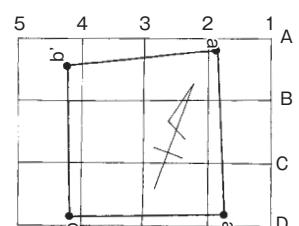


図3 調査区東壁・西壁土層断面

査地内のA－3杭上 (L=14.747m) と、D－3杭上 (L=14.753m) へ仮水準点を移設した。本報の文章中または挿図に記載されたレベル数値は、すべてこれを基準にした海拔標高を示している。

3. 層序

調査地点は山王ヶ谷開口部に位置し現地表の海拔高約14.70mを計り、ほぼ平坦な宅地を形成している。鎌倉市教育委員会が実施した試掘調査の結果を基に、現地表下約60cmまで堆積していた近・現代の客土や耕作土を重機で除去した後、中世遺構の確認を実施した。調査区各壁面の土層堆積は遺構覆土を除くと、表土・耕作土以下が1層の遺物包含層から中世地山上面（中世基盤層＝黒褐色粘質土）まで概ね14層に区分され、少なくとも7時期以上の生活面が確認されている。調査区東壁・西壁土層堆積の状況は図3に示したとおりである。

表土や耕作土の堆積土を除去すると、中世遺物包含層で締まりのない明茶褐色弱粘質土の1層が観察された。この包含層を取り除くと、概ね5cm～拳大の土丹小塊や鎌倉石を破碎したものを多く混えた締まりのある茶褐色弱粘質土の地形層（2層）が顔を覗かせので、これを第1面として調査を行った。第1面は海拔高13.70～13.85mを測り、遺構は土坑12基、柱穴様のピット55口などを検出した。第1面を構成する破碎土丹・鎌倉石など夾雜物の多い地形層は20～30cmの厚みがあり、これを掘り下げると、包含層を挟まずに表面が破碎土丹による地形面が現れたので第2面とした。この面は概ね数cm大の土丹角を多く混入した茶褐色粘質土による地形層で構成され、海拔高13.55m前後である。検出遺構は土坑6基、建物配置をみせない柱穴様のピット約25口などである。

薄い地形層の第2面構成土を除去すると、その下には調査区の北西側の一定範囲で拳大～人頭大の土丹塊を敷き詰めた面が現れ、南東域では一段落ち込み建物遺構が検出されこれを第3面として遺構検出を行った。面の海拔高約13.30mである。さらに第4面は5層にあたる厚さ10～15cmで暗茶褐色粘質土の面上包含層を挟み、海拔高13.05m前後で確認された生活面である。検出した遺構は土坑5基、井戸1基、柱穴などである。上層面の第4面構成土（6層）は25～40cmの厚みがあり、その下に拳大土丹小塊を混じえた7層の青灰色粘質土が平面的な拡がりを見せ、遺構も確認されたので第5面として調査を実施した。この面の海拔高12.70m前後、遺構は掘立柱建物1軒、土坑3基、柱穴様のピット6口である。

第5面の構成層は平均して20cm程の厚みがあり、これを除去するとすぐにまた破碎土丹による版築面と貝砂を撒いた平坦な地形面が現れたので、第6面とした。検出遺構は土坑2基とピット3口に留り、面の海拔高12.55m前後である。第6面を構成する厚さ20cmほどの破碎土丹による地形層（8層）と9～10層の破碎土丹小塊、貝殻・木片など夾雜物の多い堆積層を除くと、海拔高12.10m前後において平坦な面が表出され、遺構も確認されたのでこれを第7面とした。検出した遺構は土坑2基、埋設曲物、柱穴・ピット10口などである。この時点では現地表下250cmに達していた。

そこで第7面以下の調査に関しては、壁崩落など危険を回避する掘削深度規制により、全体を中世基盤層まで掘り下げることはできなかったが、調査区西壁際を深掘りして中世地山の黒褐色粘質土層（14層）を確認した。上面は概ね平坦で海拔高11.80mであった。

第三章 検出遺構と出土遺物

1. 第1面の遺構と遺物（図4～6）

この面は概ね破碎した5cm角～拳大の土丹小塊や鎌倉石を混えた茶褐色弱粘質土の地形であり、海拔高13.70～13.85m。遺構は土坑12基、柱穴様のピット55穴などを検出した。遺物は図6のかわらけ、青磁・白磁の貿易陶磁器、国産陶器は瀬戸・常滑窯製品、石・金属製品などが出土した。

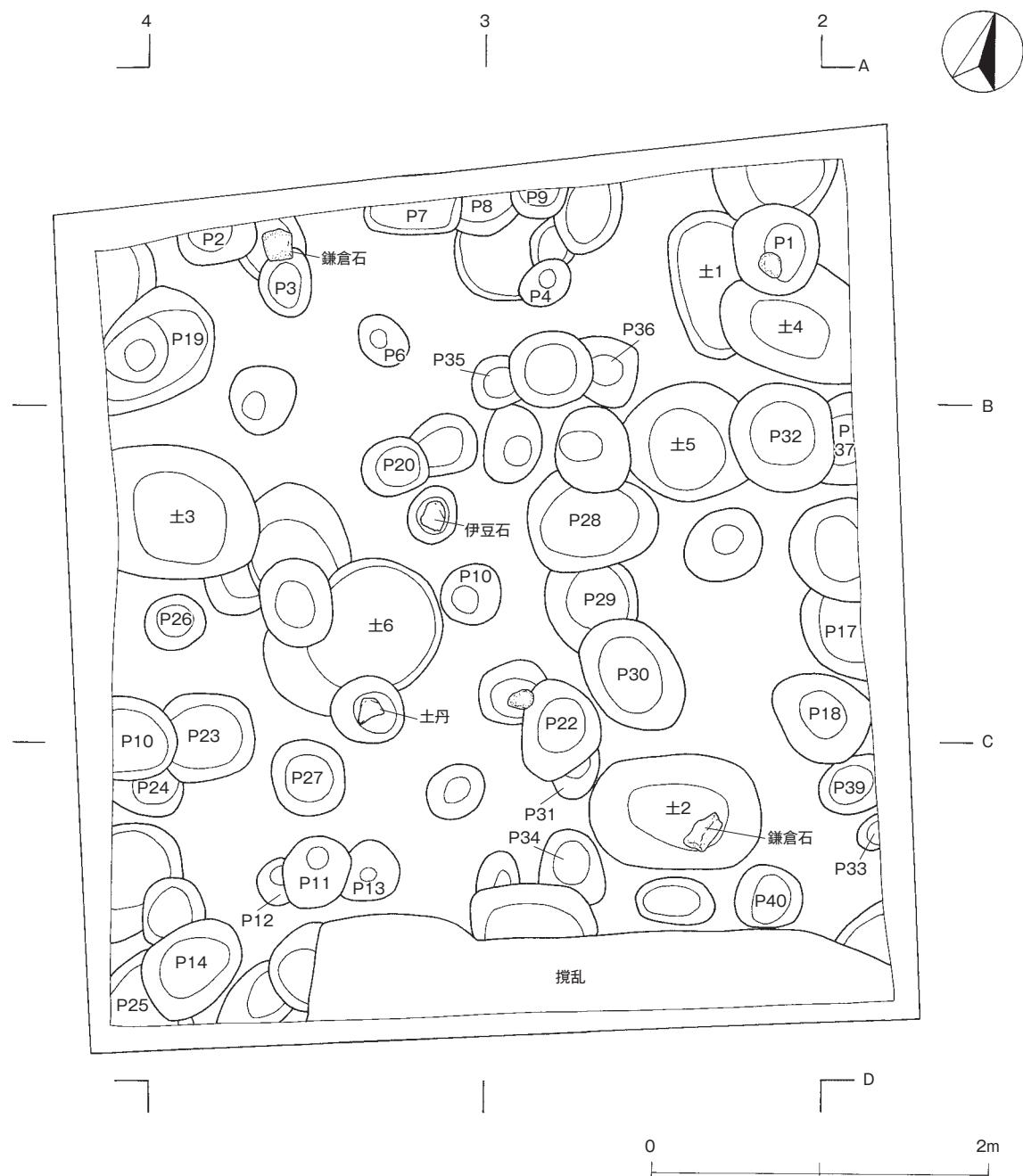


図4 第1面全測図

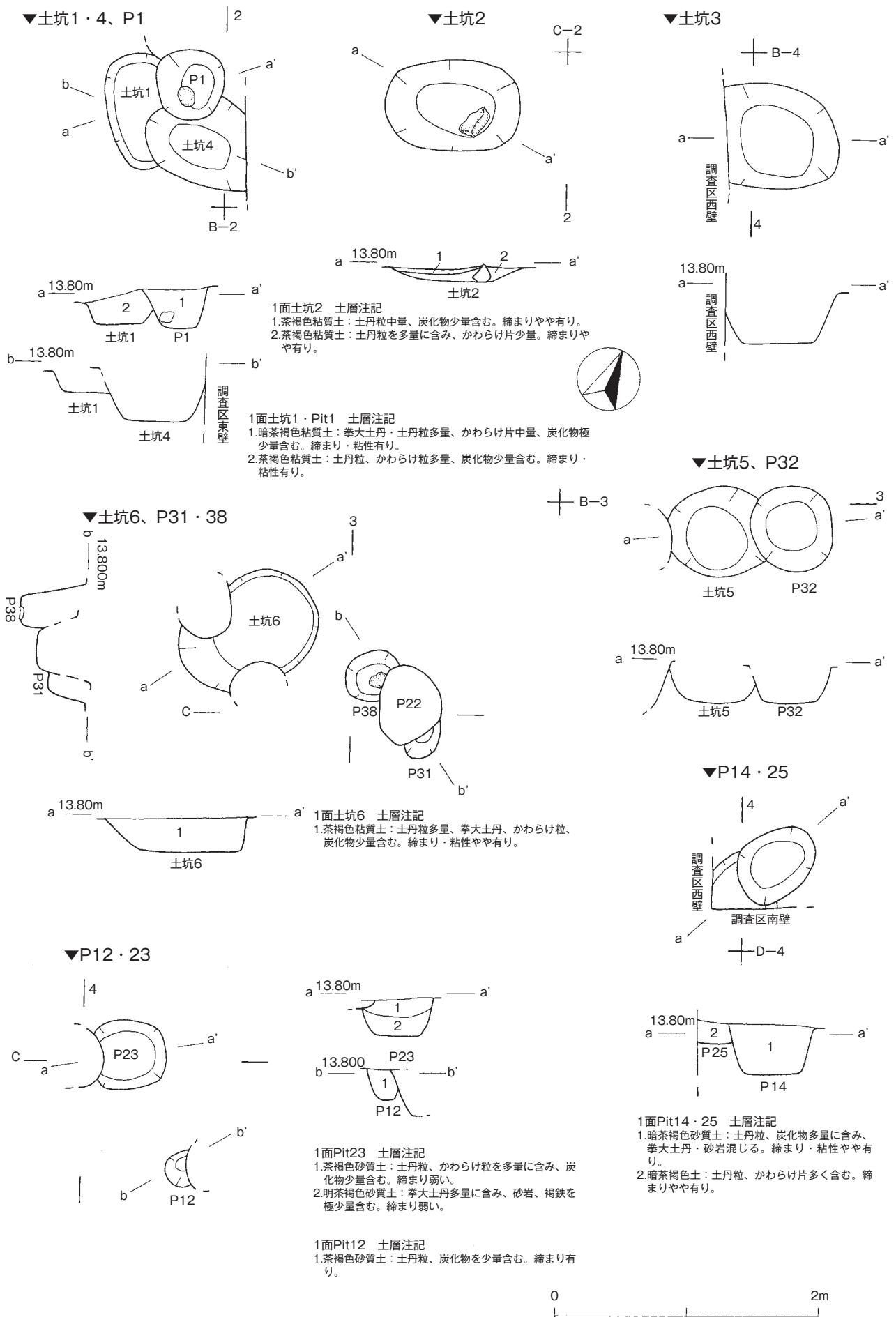


図5 第1面土坑・ピット

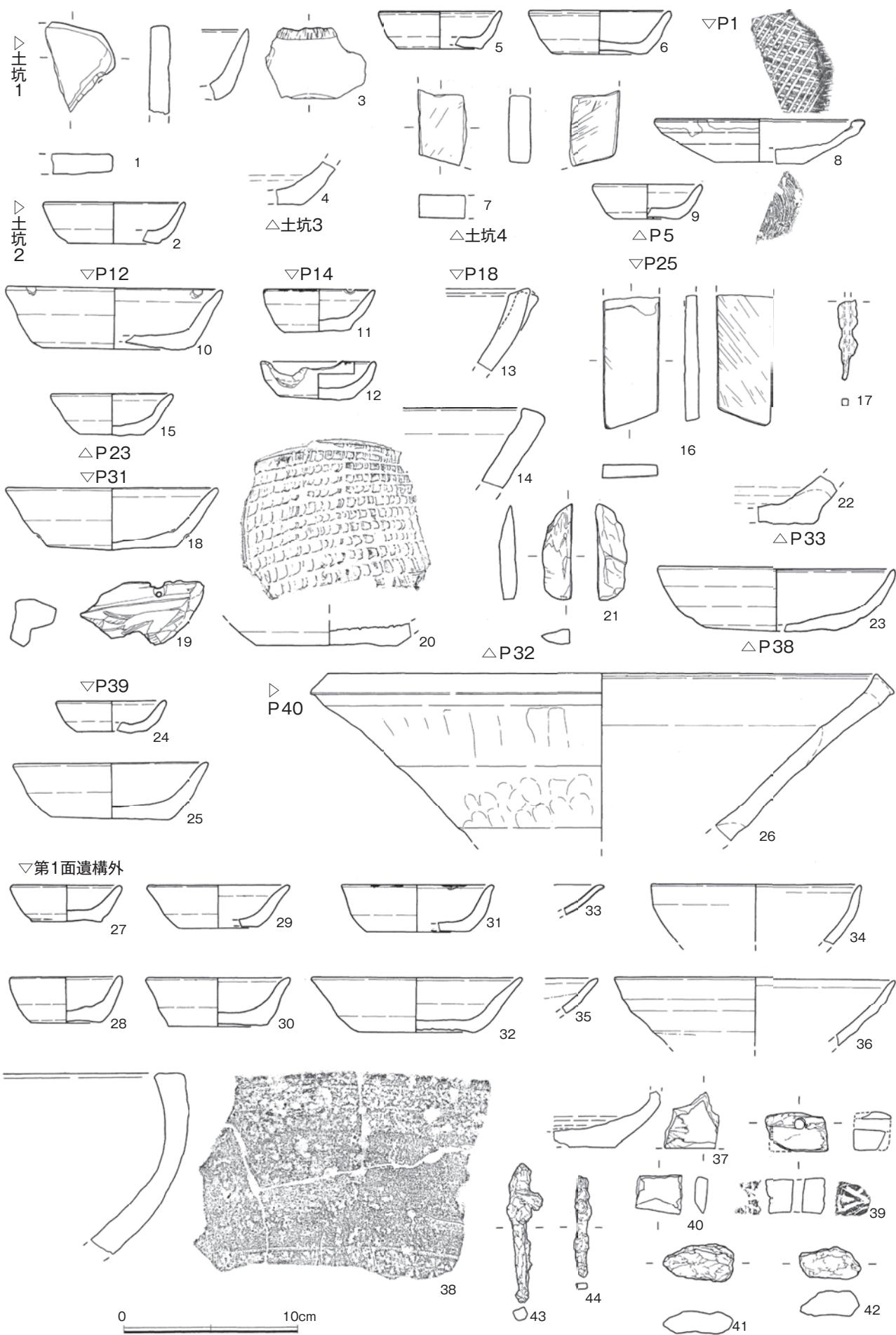


図6 第1面遺構・遺構外出土遺物

土坑1：調査区北東隅の位置で土坑4・P1と重複関係にあり、両者より古い遺構を検出した。形状は橢円形を呈し、大きさは長径92cm、短径50cm以上、深さ30cmであり、掘り方は浅く底面の平らな断面形を呈する。覆土は土丹粒やかわらけ小片を多量に含み、粘性を有した茶褐色土單一層の堆積が認められた。出土遺物は1の摩耗陶片で常滑甕胴部片を転用している。

土坑2：C-2杭の南西隣に位置する。掘り方の形状は橢円形を呈し、長径103cm、短径78cm、深さ15cm、浅く断面皿状、底面は海拔高13.75mである。覆土はやや締まりのある茶褐色粘質土の2層からなり、下層は土丹粒を多く含む。遺物は2のロクロ成形小皿、薄手器壁で体部上半が外反傾向にある。

土坑3：B-4杭の南側に位置し、調査区外に拡がる。確認できたのは長径92cm以上、短径81cm、深さ38cm、底面の平らな逆台形状の掘り方断面を呈する。覆土は土丹粒や炭化物を多く含む茶褐色粘質土、遺物は3のかわらけ皿と4の瀬戸折縁皿が出土した。

土坑4：B-2杭に近接した位置で土坑1より新しく、P1に壊されて検出された。調査区外に架かり全体の規模は解らない。確認した大きさは東西径95cm以上、南北径70cm、深さ40cmで平坦な底面をもつ断面逆台形の掘り方である。覆土の主体は締まりのない茶褐色粘質土で上部に炭化物の多い薄い堆積土がみられた。出土遺物は5・6がロクロ成形のかわらけ小皿、薄手の器壁で外反気味の器形もの、7は熊本県天草産の砥石である。

土坑5：B-3グリットの土坑4南隣に位置でP32などに掘り方一部を壊され検出された。確認できた大きさは東西径70cm以上、南北径72cm以上、深さ30cmで断面擂鉢形を呈する。底面の海拔高13.48mを測る。覆土は2層からなり上層が炭化物・かわらけ粒を多量に混じえた暗褐色土、下層が締りのある茶褐色粘質土、遺物はかわらけ細片だけである。

土坑6：C-3杭北西に位置し、ピットなどの遺構一部に壊されている。平面形状は橢円形を呈し、長径108cm、短径80cm、深さ27cmを測り、底面の平らな浅い掘り方で覆土はやや締まりのある茶褐色粘質土である。図示可能な遺物は出土していない。

ピットは調査区の全域にわたり、建物配置や柱並びやを見せない柱穴様のピット55口を検出した。ここでは主に出土遺物を伴うピットについて簡単に触れる。

P1：土坑1・4と重複して検出された。平面形は不整円形を呈し、径52cm、深さ35cmで覆土は土丹粒を多く含む締まりのない砂質土でかわらけ細片を多く伴っていた。遺物は8の瀬戸窯の御皿である。

P5：B-4杭東隣の位置で検出した。平面は円形を呈し、径40cm、深さ38cmを測り、小さな底面の平らな掘り方である。覆土は炭化物を含む暗茶褐色土、遺物は9の小径のロクロかわらけ小皿である。

P12：C-4グリット中央に位置しP11よりも古いピットである。円形を呈した径30cm、深さ22cmの掘り方で茶褐色粘質土の覆土中からは10のロクロ成形かわらけが出土した。口径・底径比の差が小さく、外反傾向の器形である。

P14・25：調査区北西隅の位置で重複関係にあるピットを検出した。P14が新しく、橢円形を呈し長径66cm、短径48cm、深さ40cm、覆土は土丹粒・炭化物を多量に含む暗茶褐色砂質土、遺物は11・12のロクロ成形かわらけ小皿である。P25は径50cm以上、深さ20cmで浅い掘り方で暗茶褐色土の覆土中からは16の京都鳴滝産の砥石がみられた。

P18・33・39：C-2杭付近で連続した3口を検出した。P18はP39より新しく、橢円形で長径62cm、短径46cm、深さ42cm、覆土は土丹粒・かわらけ粒を多量に含み13の常滑窯片口鉢II類が出土した。P33は径20cm以上、深さ32cm、覆土中から22の常滑窯片口鉢II類がある。P39は長径40cm以上、

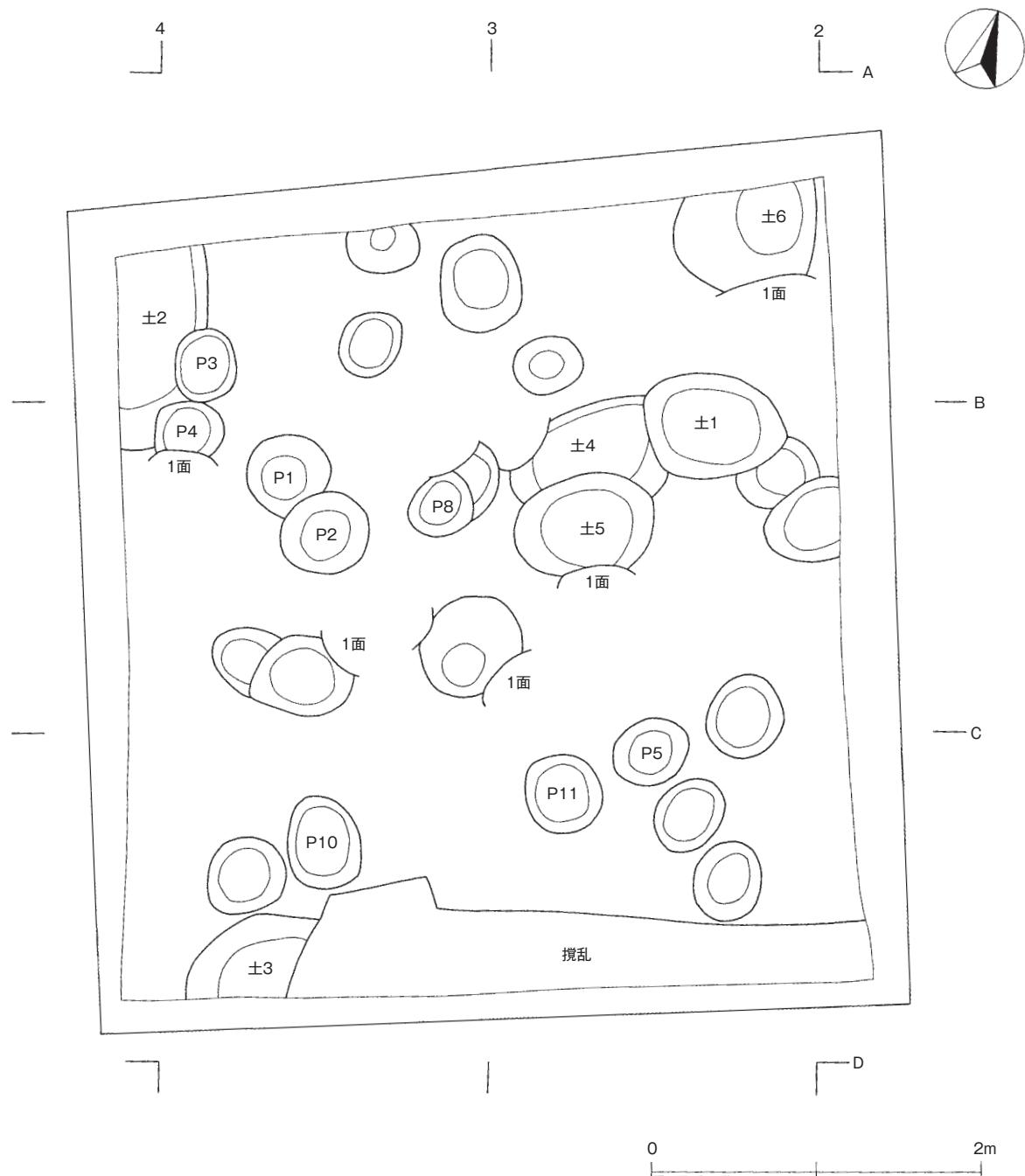


図7 第2面全測図

短径35cm、深さ35cmの楕円形、遺物は24・25のかわららけ皿が出土した。この他の出土遺物はP31から18のロクロ成形かわらけ、19の滑石鍋転用加工の未成品、10の瀬戸卸皿がみられ、P40から26の常滑窯の片口鉢II類が出土した。

第1面遺構外出土遺物：図6-27～32はロクロ成形のかわらけ大小皿である。小皿は口径が6cm代と8cm代に大別され、口径と底径の比率差が異なる資料に大別されきるが、器形は概ね外反傾向にある。33は白磁皿、34～37が瀬戸窯の製品である。34が鉄釉の天目茶碗、36が灰釉平碗、35が縁釉小皿であり、ともに古瀬戸後期Ⅱ～Ⅲ頃と思われる。37が胴部に菊花文押印した香炉、38が瓦質火鉢、39が滑石製スタンプで鍋口縁部を加工して三角形の文様を線刻、40が京都鳴滝産の仕上砥、41・42が火打石、43・44が鉄釘である。

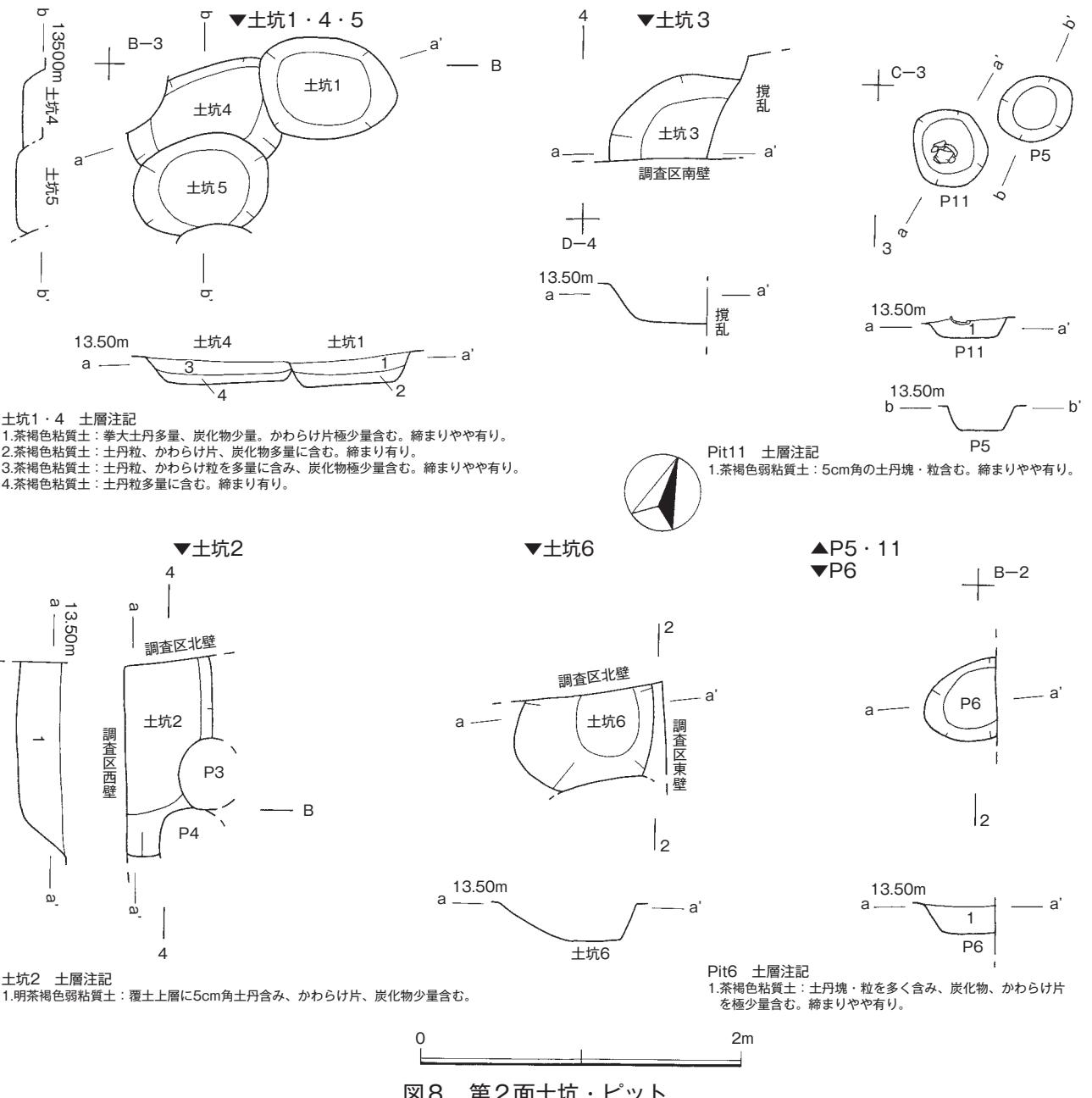


図8 第2面土坑・ピット

2. 第2面の遺構と遺物（図7～9）

この面は概ね破碎した数cm角の土丹小塊を混えた地形層であり、海拔高13.55m前後を測る。遺構は図7・8のように土坑6基、柱穴様のピット25穴などを検出した。遺物は図9のようにかわらけをはじめ、青磁・白磁の貿易陶磁器、瀬戸・常滑窯の国産陶器、瓦質品、石・骨・金属製品などが出土した。

土坑1・4・5：調査区中央の北東寄りに位置し、土坑1・4・5が重複関係にあり土坑4は両者より古い遺構である。土坑1は形状が橢円形を呈し、長径92cm、短径63cm、深さ30cmであり、掘り方は浅く底面の平らな断面形を呈する。覆土は土丹粒やかわらけ細片を多量に含み、粘性を有した茶褐色土単一層の堆積が認められ、遺物は1の瀬戸入子と2の火打石が出土した。土坑4は長径95cm以上、短径65cm、深さ18cmの底面平らな浅い掘り方、覆土は土丹粒・かわらけ細片・炭化物を多く含む茶褐色粘質土、図示可能な遺物は出土していない。土坑5は橢円形を呈し、長径87cm、短径63cm、深さ21cmの浅い掘り方で土丹粒多量の覆土、遺物はかわらけ小片だけである。

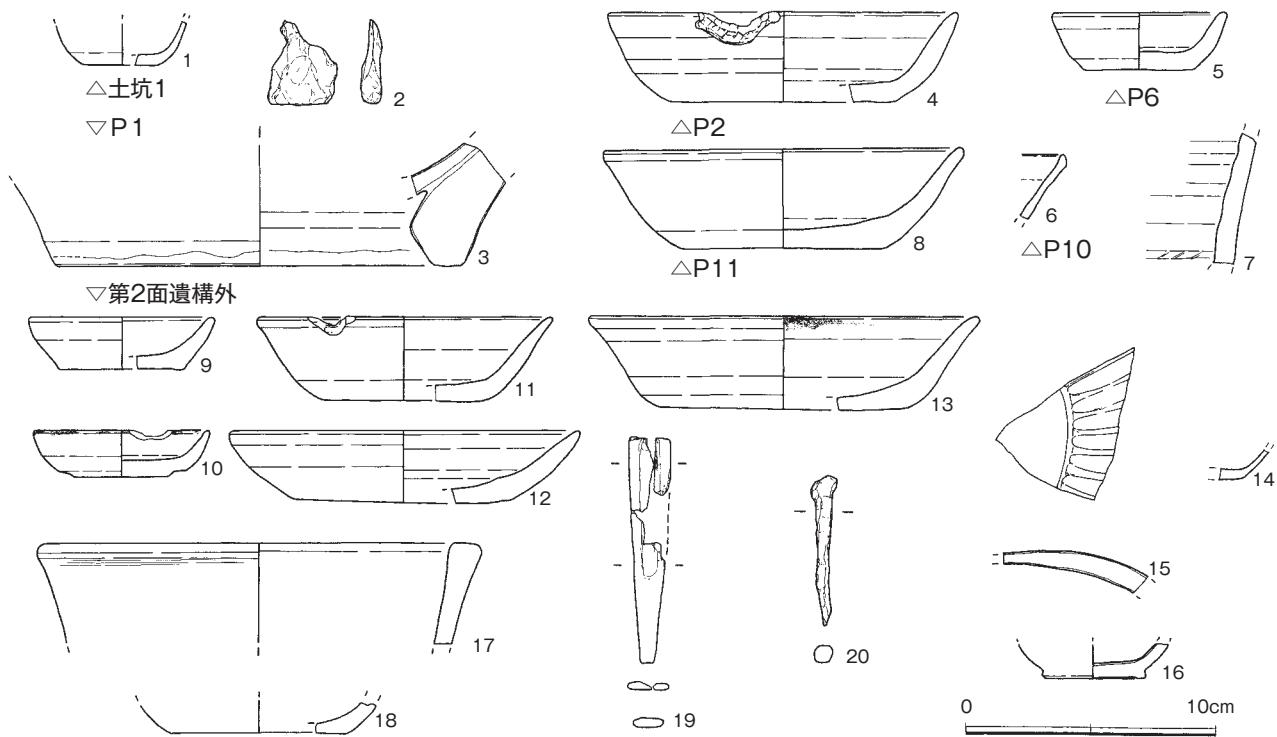


図9 第2面遺構・遺構外出土遺物

土坑2：調査区北西隅に位置し、調査区外へ拡がり全体規模は不明であり、P3・4に掘り方一部が削平される。確認できたのは長径120cm以上、短径55cm以上、深さ28cm、底面の海拔高13.25mである。覆土は数cm角の破碎土丹を含む明茶褐色土、図示可能な良好遺物は出土していない。

土坑3：調査区北西隅に位置し、東側は攪乱削平され、南側は調査区外に拡がり全体規模は不明である。確認できた大きさは東西径80cm・南北径50cm以上、深さ25cmを測り、底面が平らな断面が浅い逆台形状の掘り方、覆土は土丹小塊を少量含む暗茶褐色砂質土、遺物はかわらけ細片が出土しただけである。

土坑6：調査区北東隅に位置し、調査区北壁に拡がる掘り方で全容不明である。確認できた大きさは東西径87cm、南北径60cm以上、深さ22cm、底面の海拔高13.27mを測る。覆土は土丹細片と砂利を多く含む茶褐色砂質土、出土遺物はかわらけ細片だけで図示できなかった。

P1・2：B-4杭の南東に位置し、P1をP2が壊して掘り込んでいる。P1は円形を呈し、径50cm、深さ28cmを測り、断面U字状の掘り方をもつ。覆土は炭化物を多く含む茶褐色砂質土、出土遺物は3が青磁酒会壺が出土した。P2は径56cmのほぼ円形を呈し、深さ35cmで底面に腐食して痕跡だけの礎版2枚が認められ、覆土は締りのない茶褐色土である。遺物は4のロクロ成形かわらけの大皿で、口縁の一部を打ち欠き加工を施している。

P5・11：C-3杭の東隣に位置する。P5は橢円形の掘り方で長径52cm、短径38cm、深さ23cm、覆土はかわらけ片、炭化物を多く含む茶褐色土である。P11は長径50cm、短径42cm、深さ20cmの浅い掘り方で、覆土上層から8のロクロ成形かわらけが出土、大径で外反気味の器形である。

P6：B-2杭南隣に位置し、調査区壁かかり全容不明、南北径50cm・東西径50cm以上、深さ25cmの擂鉢状断面の掘り方である。覆土は破碎土丹小塊多量に含む粘質土、遺物は5の小径背高のロクロ成形かわらけである。

P10：C-4グリットで土坑3北隣に位置する。橢円形を呈し、長径58cm、短径44cm、深さ32cmを測り、遺物は6が北部系山茶碗（東濃型）の口縁部片、7がかわらけ質の筒形製品である。

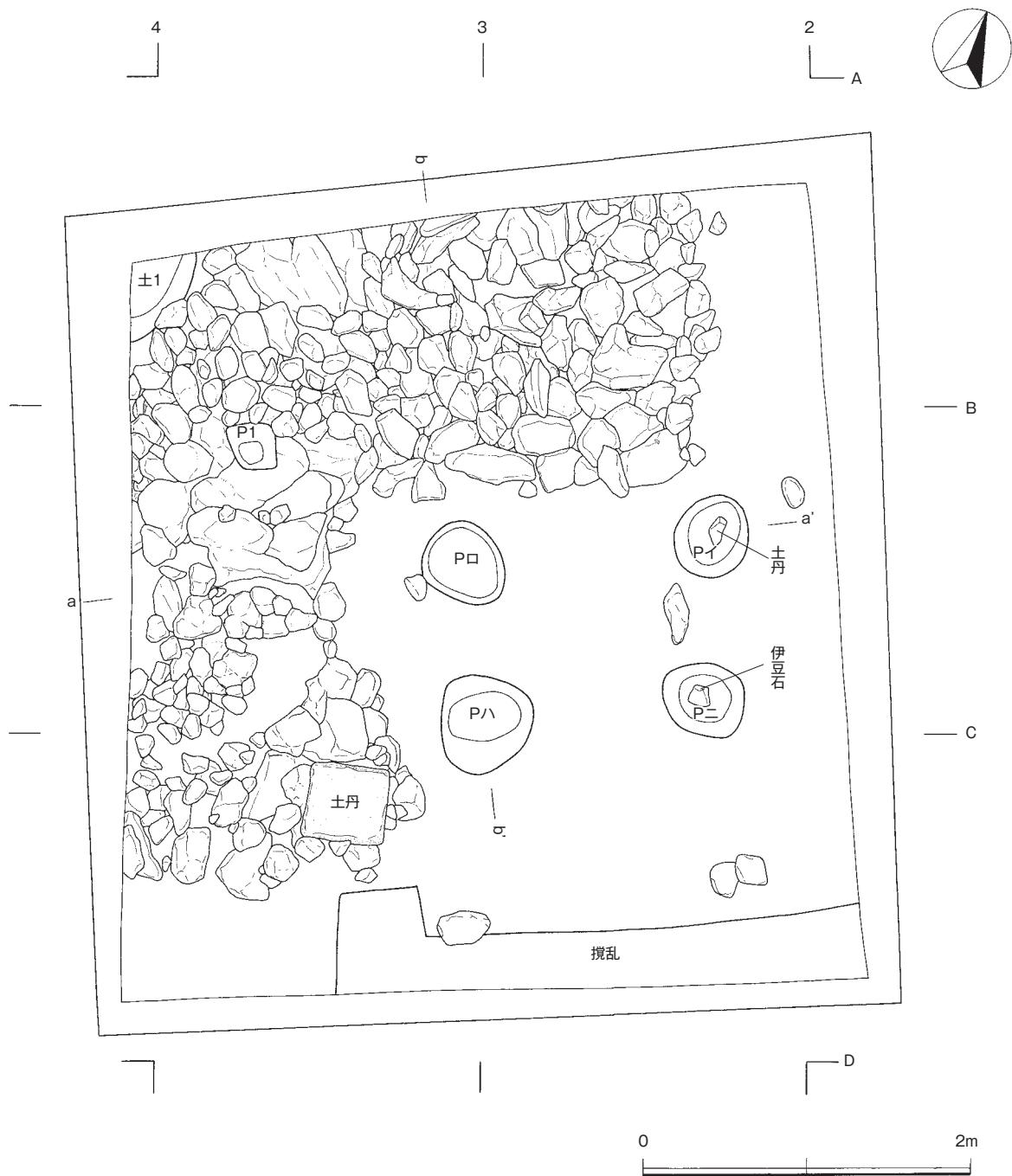
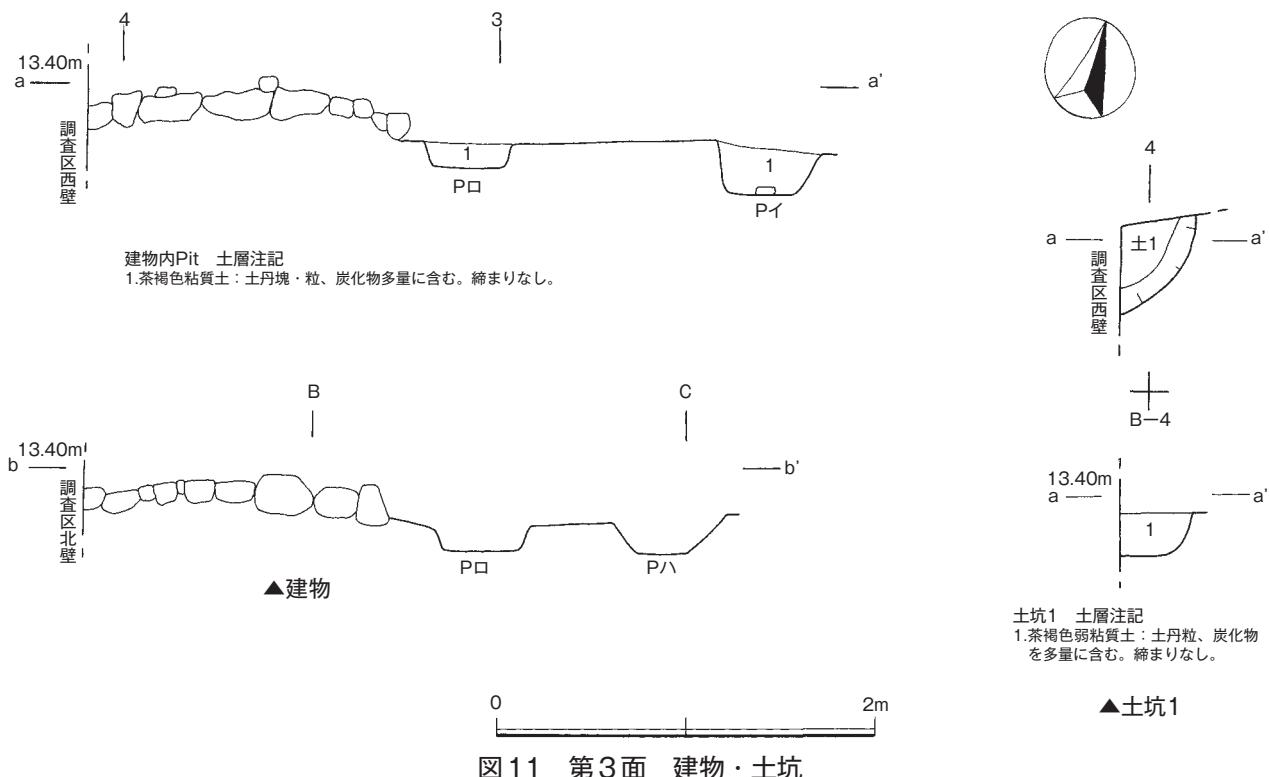


図10 第3面全測図

第2面遺構外出土遺物：図9-9～13はロクロ成形のかわらけ皿である。小皿は9の外反気味ものと10の内湾した器形があり、中大皿は11・13が背高な器高を有した外反傾向の器形をもち、13は口径15cm超える大径の資料である。12は背低な器高で内湾気味の器形である。14は青白磁合子の身底部片、15は青磁酒会壺の蓋部片、16は瀬戸天目茶碗、17・18は瓦質の火鉢・香炉、19は骨製品の笄、20は鉄釘である

3. 第3面の遺構と遺物（図10～12）

この面は概ね破碎した大小土丹塊を用いた地形層で構成されるが、地形層が抜けて一段落ち込んだ建物範囲を思われる遺構が検出された。遺構確認の海拔13.10～13.35m前後を測る。遺構は図10・11のよ



うに建物1軒、土坑1基、ピット1口などを検出した。遺物は貿易陶磁器、瀬戸・常滑窯產品、かわらけ、硯・砥石の石製品、鉄釘などがみられた。

建物1：調査区北西域で拳大～人頭大の破碎土丹塊を張り付けたような地形層を確認したが、北東域ではその地形層が抜けて遺構覆土のようなしまりの無い堆積土が確認され、一段落ち込むL字型の範囲が観察された。図3上段の調査区東壁土層堆積のように覆土中位には炭化物層を伴い底面に建物柱穴の掘り方が検出されので建物遺構として捉え調査を行った。建物は東及び南の方向の調査区外に拡がると考えられる。全体の規模や構造を明確にすることはできなかったので、ここでは底面の建物に伴うと思われる掘り方や伊豆石などの検出状況を中心に触れる。底面には土丹塊地形に沿って建物を構成すると考えられる4穴の円形掘り方(Pイ～Pニ)と、南北方向の軸線上に扁平な土丹塊が検出された。柱間寸法は、図11のエレベーションで示したように東西軸方向(a～a')のPイ～Pロが距離約150cm、南北軸方位(b～b')のPロ～Pハが約距離100cm、南側軸線上の土丹塊までの距離120cm程である。掘り方はPイが楕円形を呈し、長径55cm、短径45cmで底面中央に扁平な土丹塊を据えていた。覆土は土丹小塊・炭化物多量に含む締まりのない茶褐色土である。Pロは不整円形で長径52cm、短径45cmで浅い皿状断面をもつ。Pハは不整円形で長径62cm、短径54cm、Pニはほぼ楕円形で長径53cm、短径45cmで逆台形状の断面形を呈し、底面からの深さ18～28cm程とすべて浅い掘り方であった。

さらに底面上や覆土中から出土した伊豆石は被災により破損したものや表面が研れたものであり、掘り方に用いられていた礎石の可能性が考えられよう。また建物範囲の精査中、L字型に破碎土丹塊の地形層が切れて落ち込んで底面に至る位置で焼け焦げた薄い横板材を確認している。建物内外の海拔高を見ると、建物外の破碎土丹塊の地形層面は13.35m前後、建物内は底面13.10m前後、掘り方底面12.90～13.00m程を測り、建物範囲は地形面より30cm近く一段低い構造になっている。建物形態としては、竪穴建物の木組構造のように礎石基礎上に土台材を周囲に配した板壁の建物が想像される。

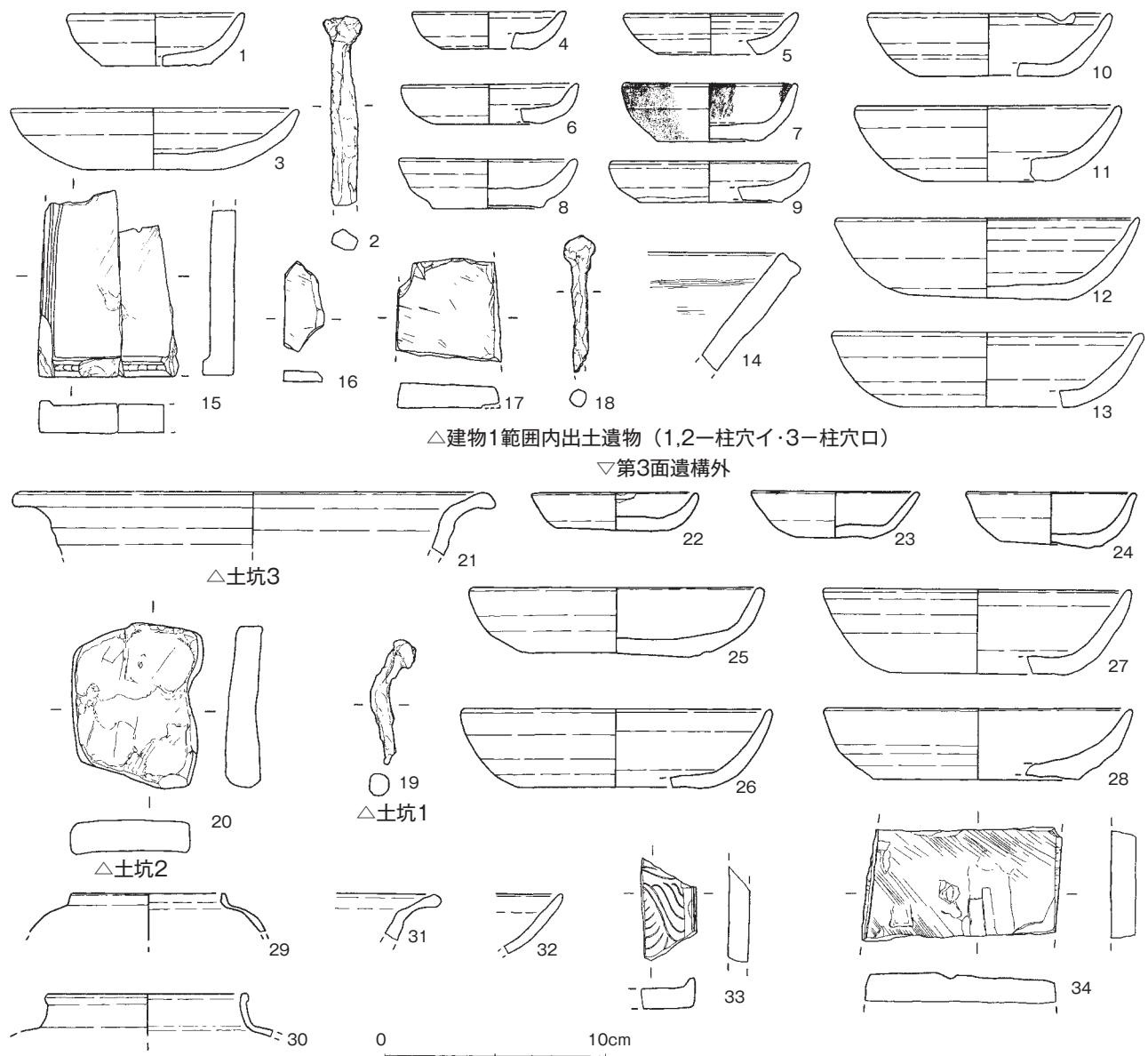


図12 第3面の遺構・遺構外出土遺物

建物1に伴う遺物は(図12)、建物掘り方のPイが1のロクロ成形かわらけで薄手の背高気味で内湾した器形の小皿と2の鍛造による鉄釘、P口からは3の背低で内湾気味の器形をもつ大皿である。建物範囲内の覆土中から出土したものは、4～13がロクロ成形かわらけ皿である。小皿は7の薄手器壁で背高気味の資料を除き、施低の内湾傾向をもつ器形が主体、中大皿は背高気味の薄手器壁を呈し、内湾した器形である。14は常滑窯片口鉢II類。15は石硯で縁に線刻文様を施すもの、16・17は砥石の仕上砥でこれらは京都鳴滝産岩の製品であろう。

土坑1：調査区北西隅に位置し、掘り方の一部が検出されだけで全容は不明である。大きさは径45cm以上、深さ23cmの浅い掘り方である。覆土は土丹粒や炭化物を多量に含む締まりのない茶褐色土の单一土層、図示可能な遺物は19の鉄釘のみである。

第3面遺構外出土遺物：図12－22～28はロクロ成形のかわらけ皿である。小皿は22が背低の内湾した器形、23・24は背高気味の薄手器壁である。25～28の大皿は背高気味で、薄手の器壁は内湾しなが

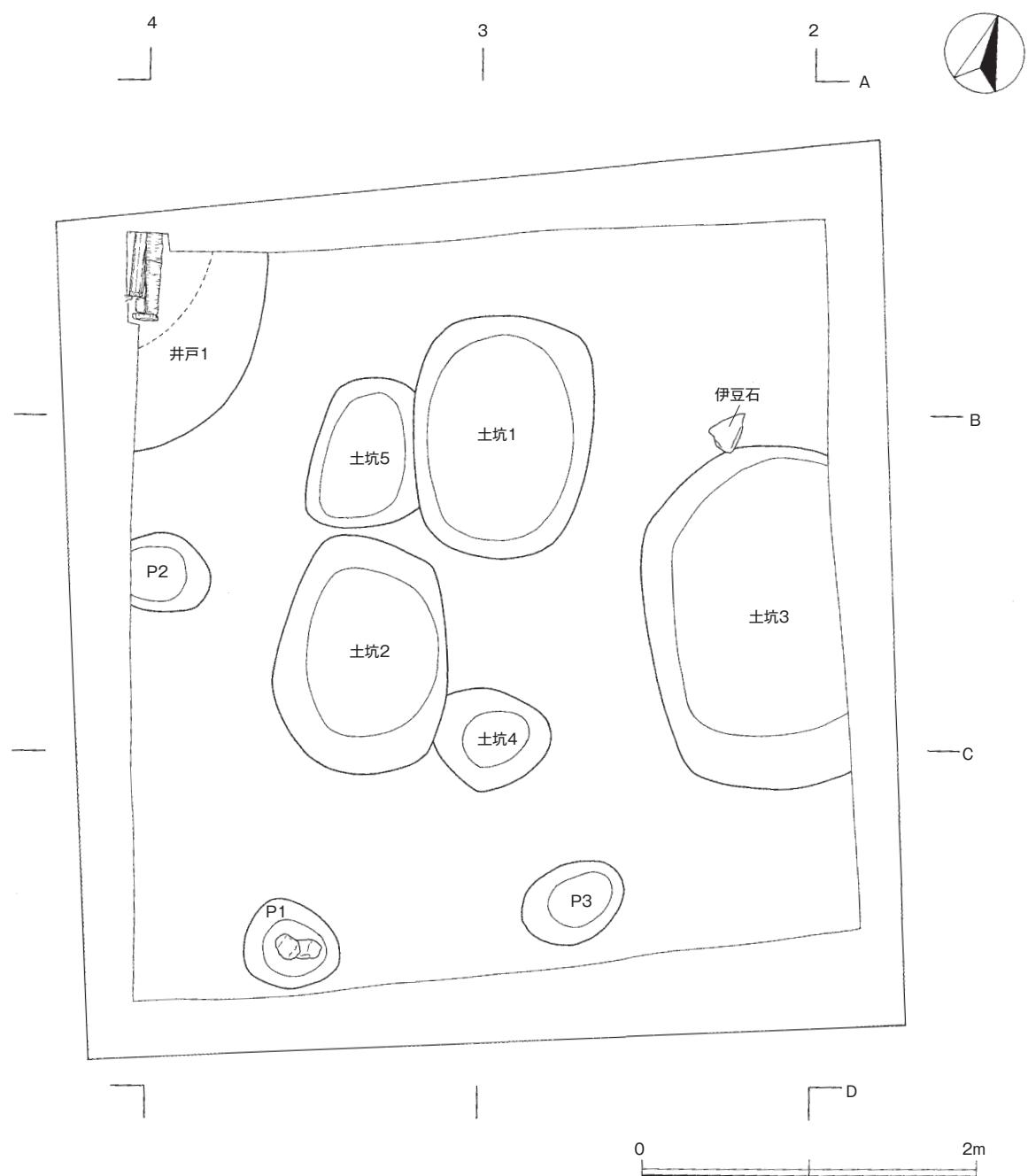


図13 第4面全測図

ら立ち上がる器形である。舶載陶磁器は29の白磁の外型造りの広口小壺と30は黒褐釉壺、31は瀬戸折縁深皿、32は白かわらけ質の皿、33・34は京都鳴滝産岩の石硯である。

4. 第4面の遺構と遺物（図13～16）

この面は破碎した拳大から頭大の土丹塊を多量に混じえた厚い地形層であり、生活面の海拔高13.00m前後を測る。検出した遺構は土坑5基、井戸1基、建物配置を示さないピット3穴などである。

土坑1：B-3杭に位置し、土坑5を壊して掘り込んだ大型の土坑である。大きさは長径145cm、短径108cmの隅丸長方形を呈し、深さ20cmの断面皿状の浅い掘り方である。覆土は土丹粒や炭化物を多量

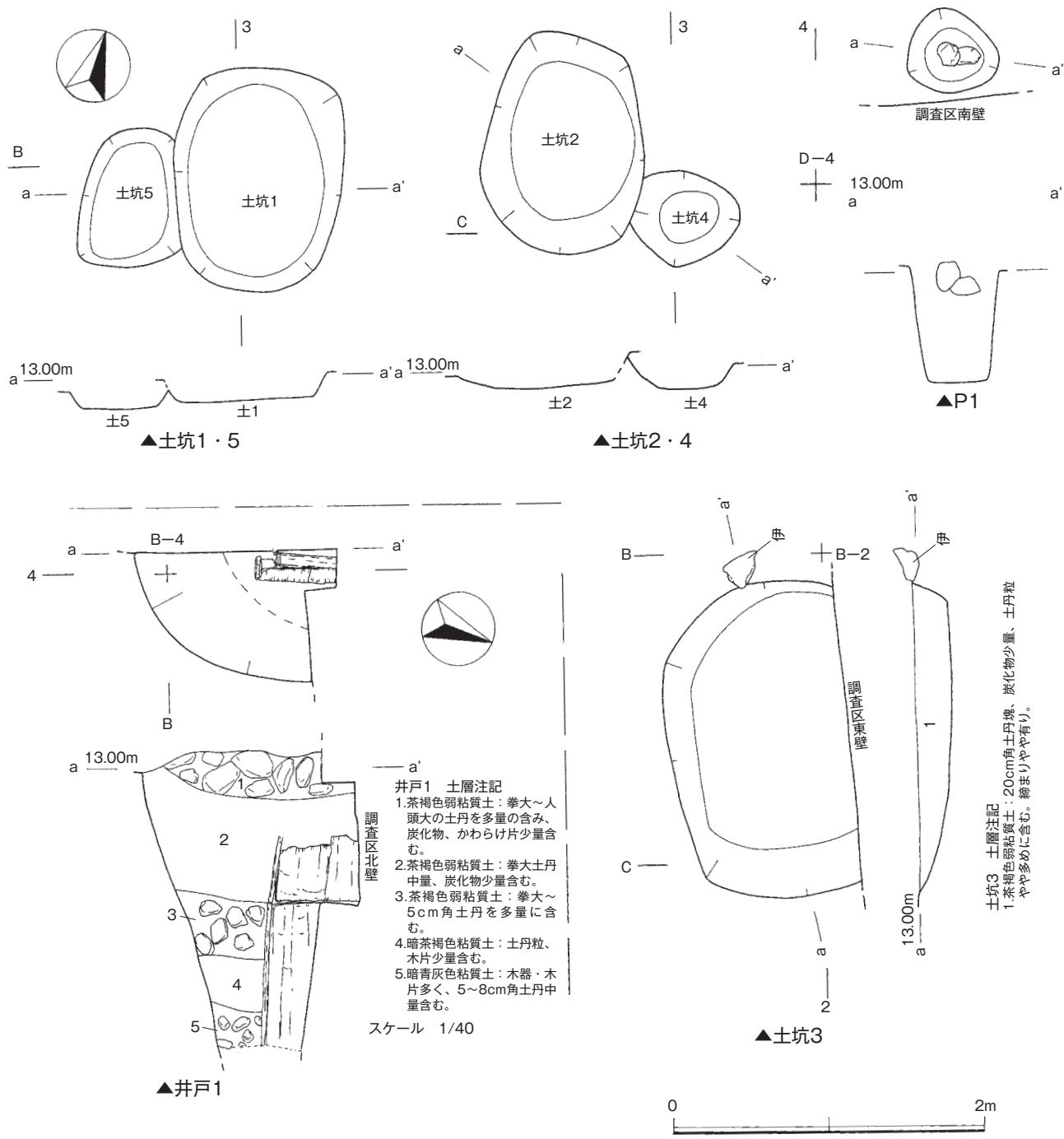


図14 第4面土坑・井戸・ピット

に含む縞まりのない茶褐色砂質土の単一層である。遺物は図15-1が回転糸切底のかわらけ小皿、2が滑石製スタンプで表面に草花文を陽刻したもの、3は砥石で京都鳴滝産の仕上砥である。

土坑2:C-3杭に近接した位置で検出され、土坑4より新しい遺構である。平面形は南北位の楕円形を呈し、長径146cm、南北径104cm、深さ25cmで平坦な底面をもつて掘り方である。覆土の主体は縞まりのない茶褐色粘質土で上部に炭化物の多い薄い堆積層があり、遺物はかわらけ細片だけで図示可能な資料の出土はみられなかった。

土坑3：調査区中央東端に位置した大型の土坑であるが、東壁にかかり全容は不明である。確認できたのは長径207cm、短径115cm以上、深さ26cm、底面の海拔高12.80mである。覆土は拳大の破碎土丹を含む茶褐色弱粘質土、遺物は4・5のロクロ成形のかわらけ大小皿、背高の薄手器壁で内湾器形である。

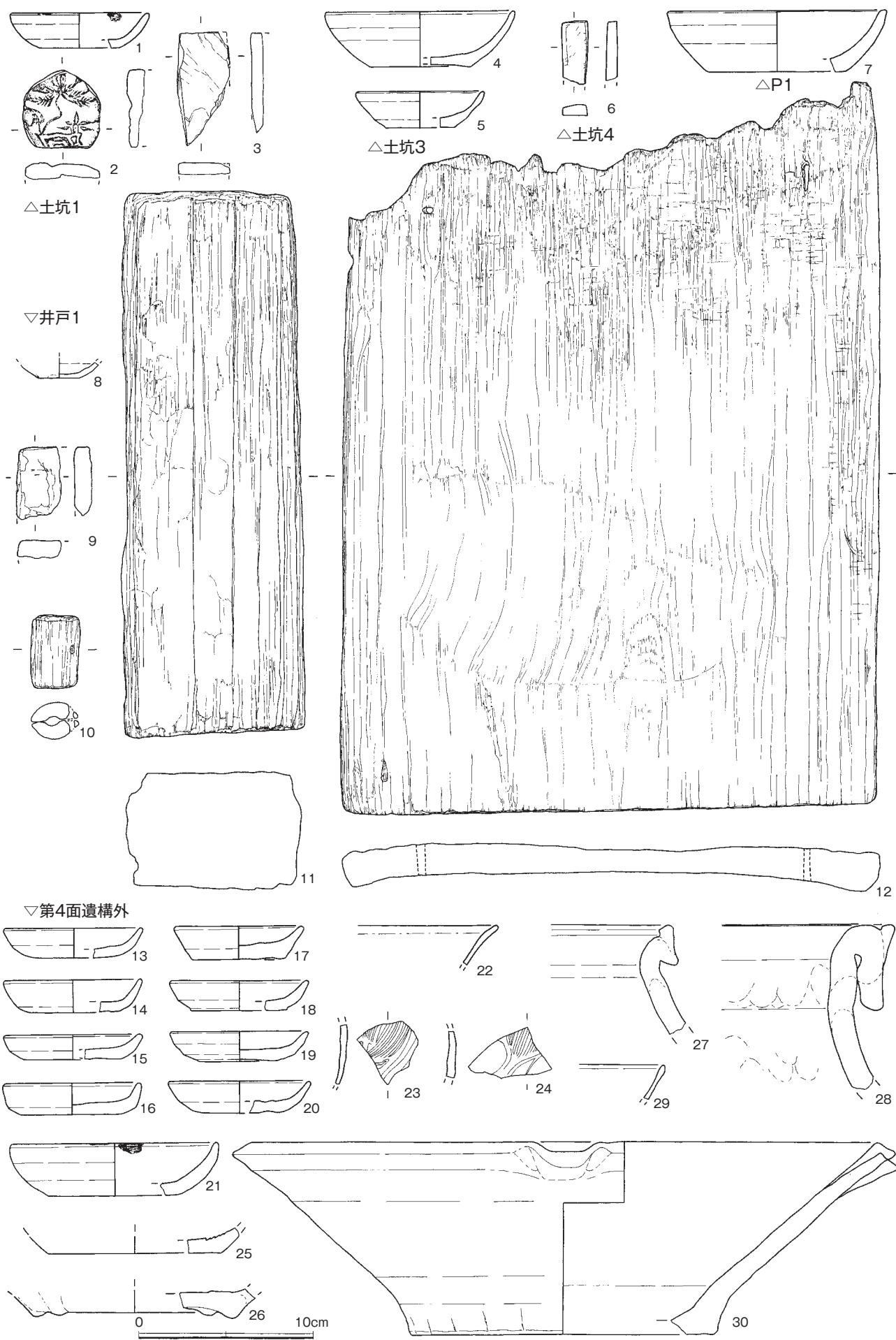


図15 第4面遺構・遺構外出土遺物

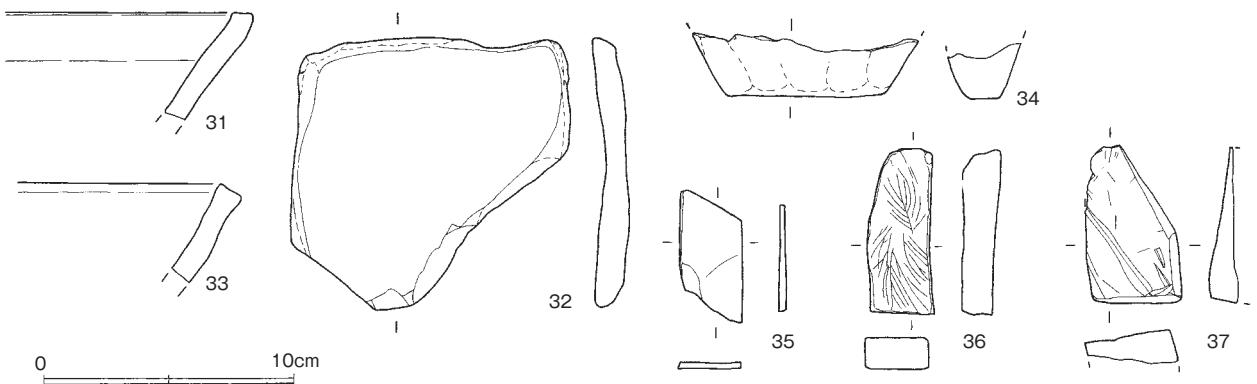


図16 第4面遺構外出土遺物

土坑4 : C - 3杭の位置で検出された。平面形は不整円形を呈し、長径70cm以上、短径58cm、深さ15cmと浅い掘り方で平坦な底面をもつ。覆土の主体は締まりのない茶褐色粘質土で上部に炭化物の多い薄い堆積層があり、出土遺物はかわらけ細片だけで、図示できたのは6の京都鳴滝産の砥石である。

土坑5 : 土坑1と重複関係にあり、本址が古い土坑である。平面形は橢円形を呈し、長径90cm、短径70cm以上、深さ15cmの平坦な底面をもつ浅い掘り方である。覆土は締まりのない茶褐色粘質土、遺物はかわらけ細片のみで図示可能な資料は出土していない。

井戸1 : 調査区北西隅で掘り方と井戸枠の一部が確認されたが、大半は調査区外に拡がっていた。この井戸は調査区壁際に位置して井戸枠内や掘り方の覆土は締まりのない土で埋め戻されており、湧水や降雨で崩落の危険を伴うと判断されたので、この面では深さ60cm程まで掘り方を確認したところで作業を中断した。図14の土層断面図や図版8-d・eの木枠検出状況の写真は、調査深度が下がり崩落の危険がやや和らいだ第7面において壁際にトレーナーを設定して実施した。掘り方一部を除去しながら第4面の遺構確認面から約150cmまで掘り下げ、土層観察と外側から井戸枠を確認しただけで井戸底まで調査していないことをお断りしておきたい。

井戸枠の形態は、方形横桟支柱式であり横桟は幅7cm・厚さ9cmの角材を使用して両端がホゾの組み合せ仕口になり、横桟隅に乗にのせた支柱は高さ42cm程で8cm角材が用いられていた。土留めの側板(図15-12)は幅30.3cm、厚さ2.1cm前後であり、下端から34cm程の位置に並行した釘穴が認められ、床や壁板材などの転用材と考えられる。覆土は5層まで観察できたが、1層は大小の破碎土丹塊を多く混入した茶褐色粘質土で井戸廃絶時の埋戻し土と考えられ、2層以下は掘り方の裏込め土にあたる。遺物は8が褐釉の茶入と思われるもの、9が滑石を加工した小片、10・11が用途不明の木製品である。

P1 : 調査区南西隅に位置する。平面形状はやや不整円形を呈し、径43cm、深さ60cm程の深い掘り方をもつ柱穴様のピット、覆土はかわらけ細片や炭化物を多く含み締まりの弱い茶褐色土、上部に拳大的土丹塊2個がみられた。遺物は7の背高気味のロクロ成形かわらけの大皿である。

P3 : 形状は橢円形を呈し、長径63cm、短径46cm、深さ25cmと浅めの掘り方である。覆土は土丹粒・炭化物の多い締り弱い砂質土、遺物はかわらけ細片だけである。

第4面遺構外出土遺物 : 図15・16-13~21はロクロ成形のかわらけ皿である。小皿は主に背低のやや内湾した器形であるが、17は開いた器形、大皿はやや厚手器壁の内湾器形である。舶載磁器は22の白磁の口元皿と23・24が青白磁の牡丹唐草文梅瓶である。国産陶器は25・26が瀬戸折縁深皿で内底面

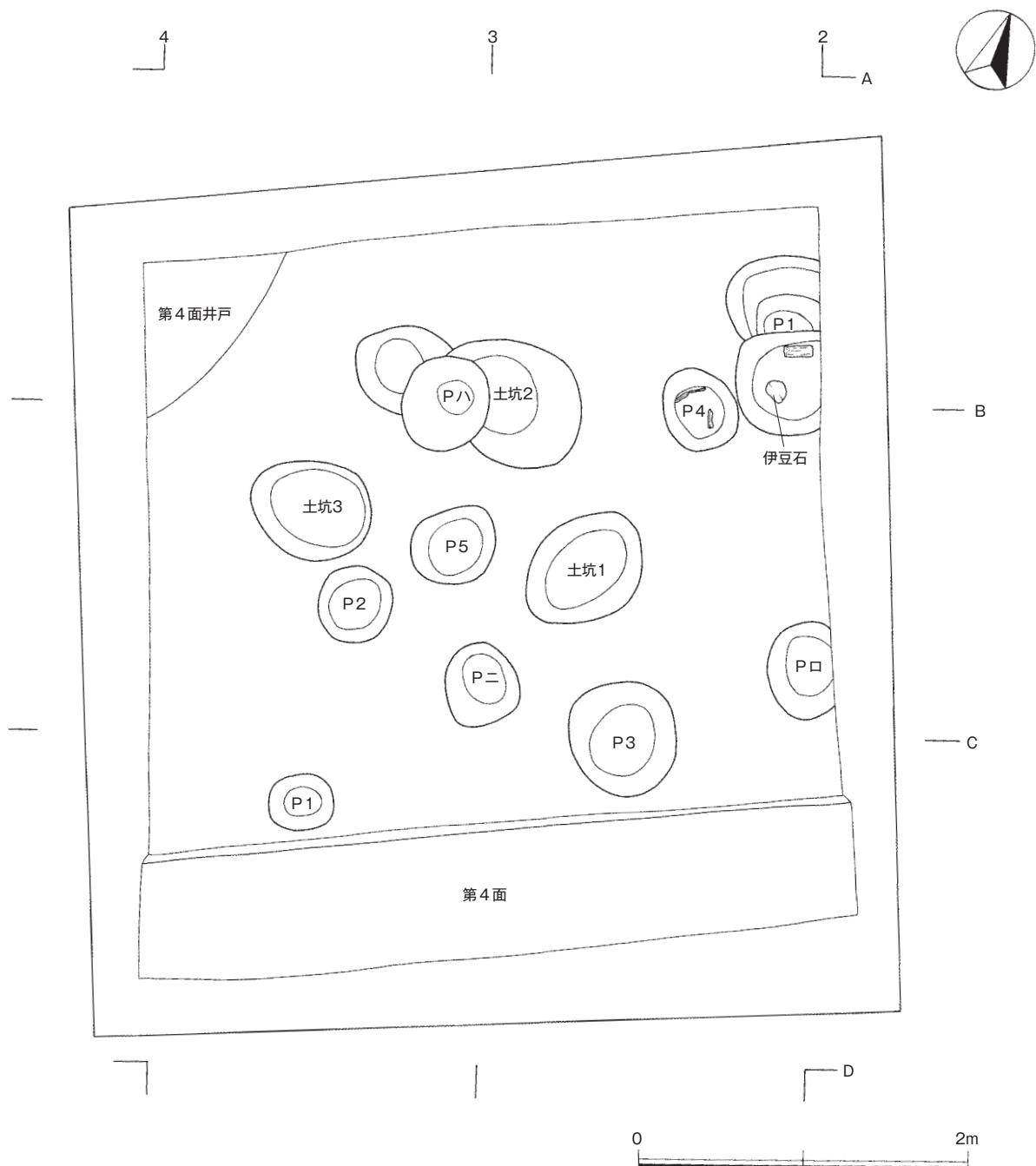


図17 第5面全測図

に円圈文、27が精良胎土の東美濃窯系（北部系）山茶碗、28～30が常滑窯の甕・片口鉢Ⅱ類である。

5. 第5面の遺構と遺物（図17～19）

第5面の厚い構築土を除いて表出したのが破碎した拳大の土丹塊による生活面である。海拔高12.70m前後を測る。検出した遺構は掘立柱建物1軒、土坑5基、建物配置を示さないピット6穴などである。遺物は量的に少ないがかわらけをはじめ、白磁小壺、瀬戸窯卸皿・入子、常滑窯壺・甕・片口鉢、山茶碗、伊勢系土器、骨製笄、鉄釘などが出土している。

建物1：調査区東寄りの位置で一定の配置を示した柱穴で掘立柱建物跡と推定され、建物規模は1間四方で調査区外に拡がるものであろう。柱間距離は東西軸が205cm、南北軸180cm程、柱穴掘り方は平

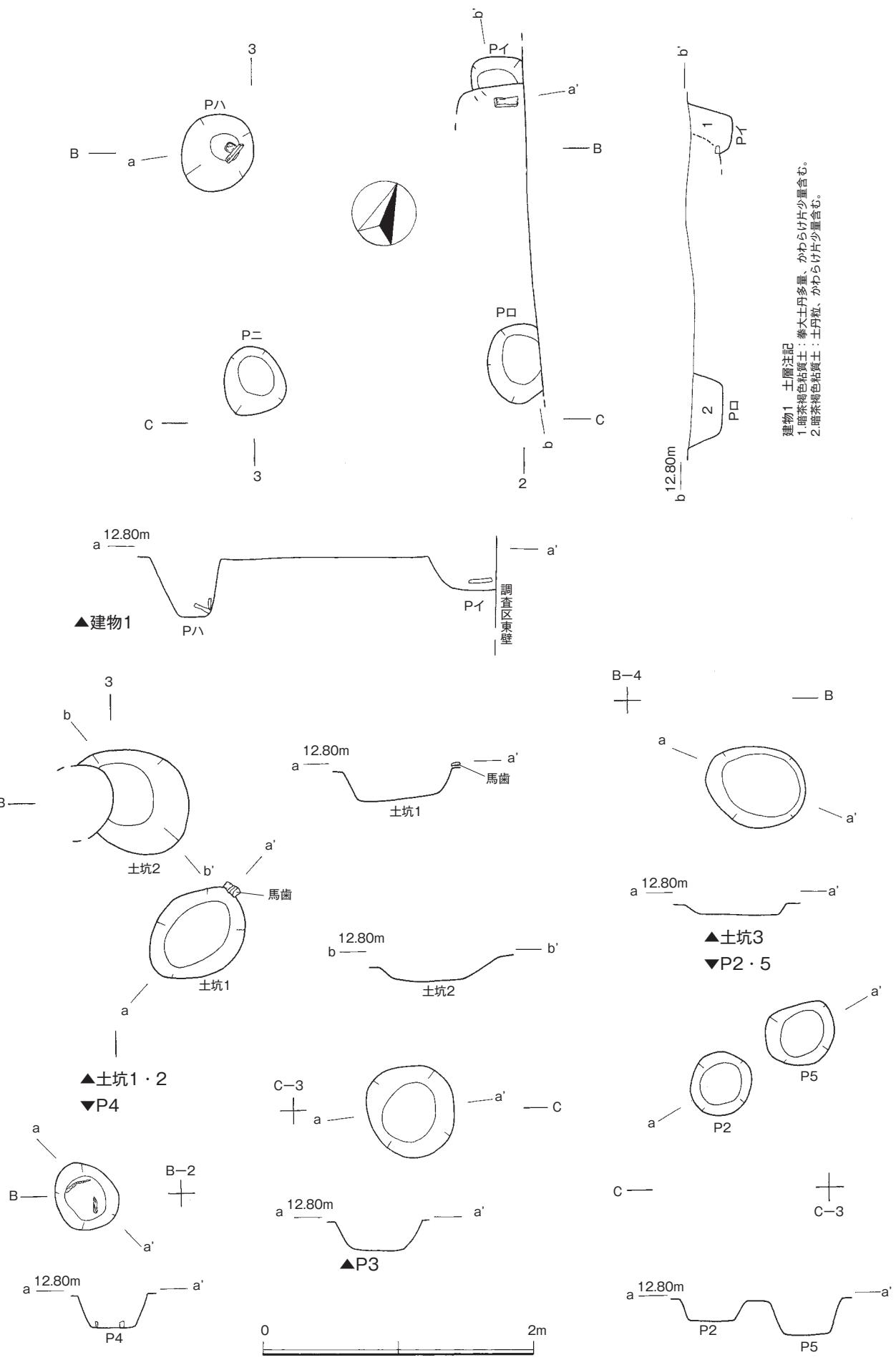


図18 第5面建物・土坑・ピット

建物1 土層注記
1.暗茶褐色粘質土：拳大土丹多量、かわらけ片少量含む。
2.暗茶褐色粘質土：土丹粒、かわらけ片少量含む。

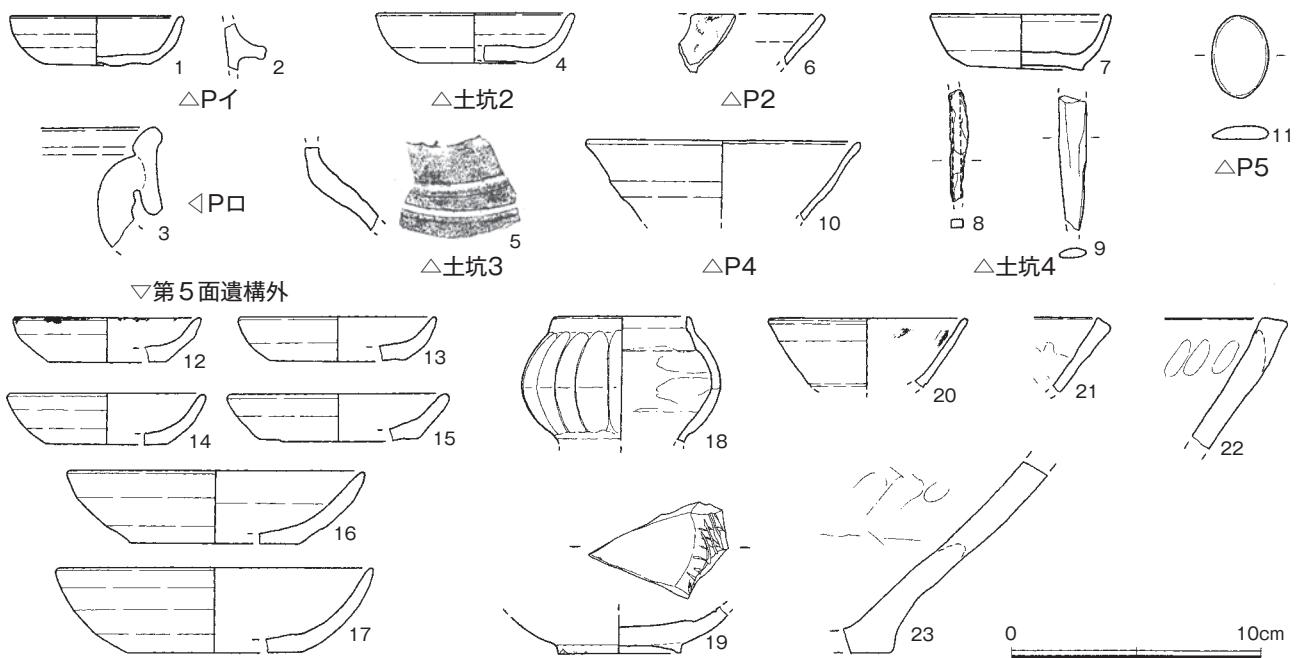


図19 第5面遺構・遺構外出土遺物

面形状が橢円形を呈する。大きさはPイが長径42cm・短径35cm以上、深さ33cm、Pロが長径60cm、短径40cm以上、深さ25cm、Pハが長径60cm、短径52cm、深さ45cm、Pニが長径50cm、短径42cm、深さ43cmでPイ・ハからそれぞれ礎板が検出された。柱穴の覆土は暗茶褐色粘質土で拳大土丹塊を少量含み締りのあるものがPイ・ハ、土丹粒・かわらけ片が少量混る締りの無いのがPロ・ニである。確認した海拔高12.75m前後である。遺物は図19のようにPイが1の薄手器壁のかわらけ小皿、2が伊勢系鍔釜、Pロが3の常滑窯甕の口縁部片で常滑編年の7型式に相当する資料と考えられる。

土坑1：調査区中央に位置する。形状は橢円形を呈し、大きさは長径82cm、短径63cm、深さ26cmと浅めで断面逆台形の掘り方を呈する。覆土は炭化物やや多く、拳大土丹塊を少量含む茶褐色土、遺物はかわらけ細片だけであったが、掘り方の北端上に馬歯が1点出土した。

土坑2：B-3杭に位置し、建物1-Pハの柱穴に一部壊される。形状は橢円形、大きさは長径95cm、短径73cm、深さ20cm程の浅い断面皿状の掘り方を呈する。覆土は土丹粒・かわらけ細片を少量含む砂質土、遺物は4の薄手器壁で内湾気味のロクロ成形かわらけ小皿である。

土坑3：調査区中央西寄りに位置する。形状は橢円形を呈し、大きさは長径76cm、短径60、深さ13cmの浅い皿状断面、茶褐色弱砂質土の覆土、遺物は5の常滑壺の肩部片で二条の沈線巡る。

土坑4：調査区南東に位置する。形状は不整円形を呈し、長径70cm、短径62cm、深さ25cmの底面平らな掘り方である。遺物は7がロクロかわらけ小皿で背高気味の薄手器壁、8が骨製笄、9が鉄釘である。

P2・5：調査区中央の位置で2穴を検出した。形状は共にほぼ円形を呈し、大きさはP2が径45cm、P5が径50cm、深さ34cmである。遺物はP2が6の瀬戸入子、P5が11の碁石である。

P4：B-2杭の西隣にあたる。形状は橢円形、長径53cm、短径42cm、深さ28cmの大きさで底面に腐蝕した礎版がみられた。遺物は10の瀬戸入子である。

第5面遺構外出土遺物：12～17はロクロ成形かわらけ皿である。大小15の開いて立ち上がる器形以

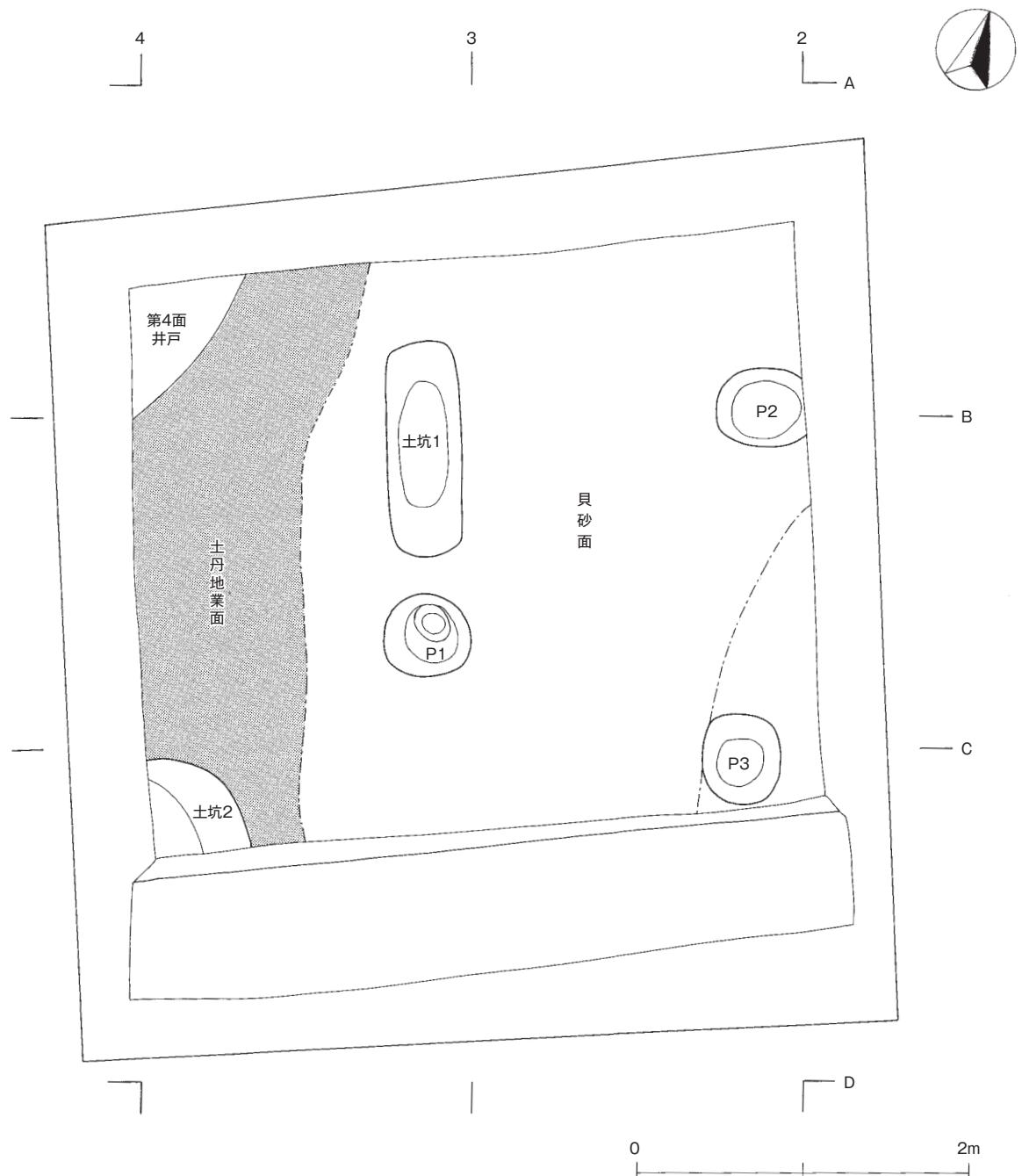


図20 第6面全測図

外は内湾気味の器形である。18は白磁小壺で無頸の瓜形様のもの、19は東美濃型山茶碗で内壁面にヘラ卸目刻みがある。20・21は瀬戸入子・卸皿、22・23は常滑片口鉢Ⅱ類である。

6. 第6面の遺構と遺物（図20～22）

第5面の構成土を除いて表出したのが破碎した拳大の土丹塊・土丹粒を多量に含む地形層で調査区西端が土丹版築面、その東側が貝砂を撒いた生活面を構成している。海拔高12.50m前後を測る。検出した遺構は土坑2基、建物配置を示さないピット3穴である。遺物は量的に少ないがかわらけをはじめ、青白磁梅瓶、瀬戸窯卸皿、常滑窯甕・片口鉢、東美濃山茶碗、瀬戸内系土器塊、土錐、石・木製品などが出土地している。

土坑1：B-3杭に近接した位置である。形状は隅丸長方形を呈し、大きさは南北長130cm、東西長

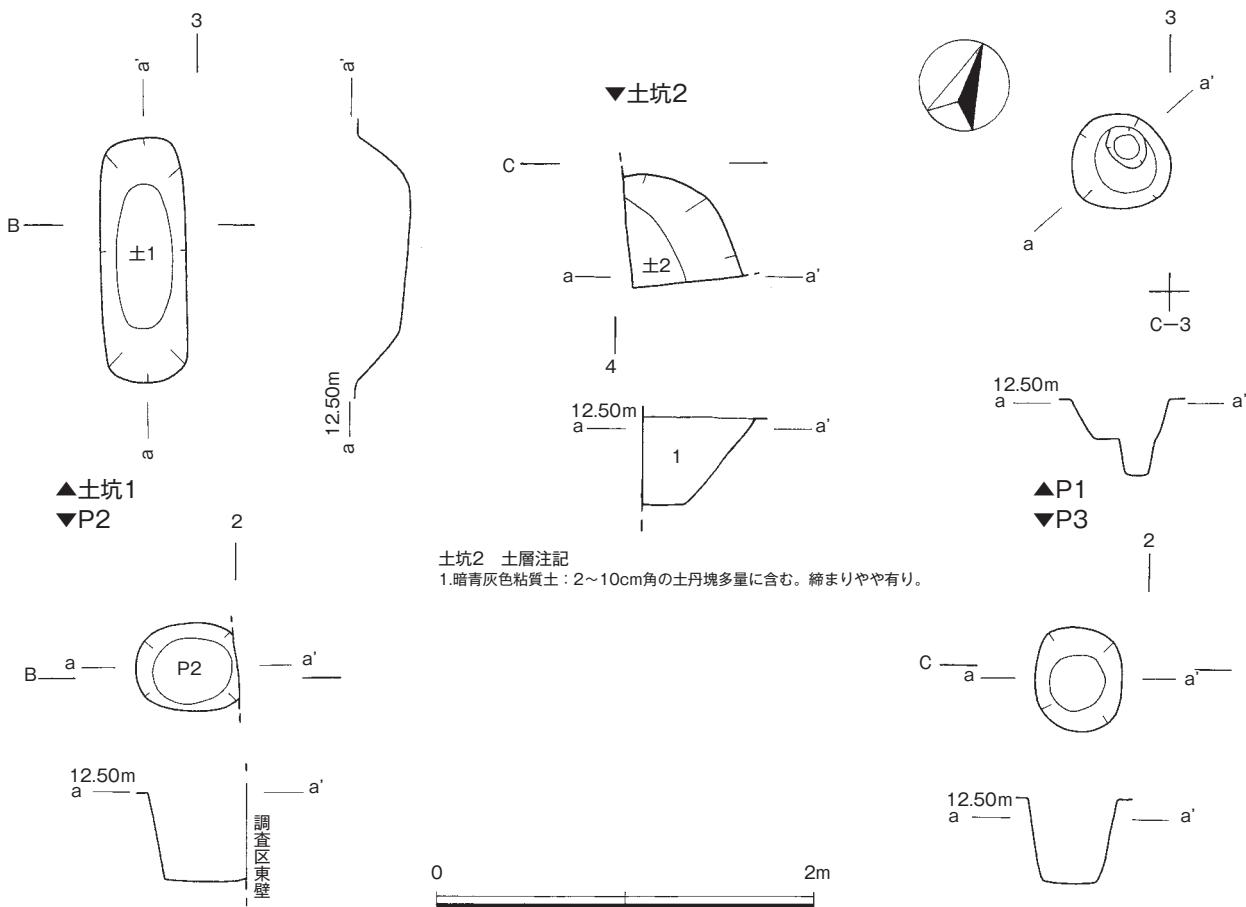


図21 第6面土坑・ピット

45cm、深さ30cmで断面船底形の掘り方を呈する。覆土は炭化物やや多く、拳大の土丹塊や炭化ごとに物を多量に含む茶褐色粘質土の単一層が堆積しており、遺物はかわらけ細片が多く、図示できたのが図22-1のロクロ成形のかわらけ大皿、背高で薄手器壁の内湾した器形の資料だけである。

土坑2: 調査区南西隅に位置し、掘り方の大半が調査区外へ拡がり全容は不明である。確認した平面径60cm以上、深さ48cm、覆土は2~10cm角の土丹塊多量に含む暗青灰色粘質土である。かわらけ細片だけで図示可能な遺物はない。

P1: C-3杭北側に位置した二段掘りの柱穴様ピットである。掘り方は上段がほぼ円形の径50cm、深さ22cmで平らな底面、底面北端の下段掘り込みは径26cm程、生活面からの深さ47cmであり、土層観察から考えて新旧関係ではなく同一時期の開削である。図示可能な遺物はみられない。

P2: B-2杭に位置し、調査区壁に一部かかり全容不明である。掘り方は楕円形、おおきさが長径52cm以上、深さ50cmで締りのない茶褐色粘質土、遺物はかわらけ細片だけである。

P3: 調査区南東隅に位置した柱穴様のピットである。形状は楕円形を呈した長径55cm、短径46cm、深さ45cmの掘り方である。覆土は締りの弱い暗茶褐色弱粘質土、遺物は2のロクロ成形の小型内折れかわらけ、3が瓦質の鉢形火鉢、4が常滑窯片口鉢I類である。

第6面遺構外出土遺物: 図22-5~18はロクロ成形のかわらけ皿である。小型は5の背高気味で薄手器壁の資料以外、背低のやや内湾した器形である。10の中型、11~18の大型は背高の薄手気味の器壁で内湾した器形になる。舶載陶磁器は19の青白磁梅瓶の蓋と20の褐釉の長胴壺、21は瀬戸卸皿、22~

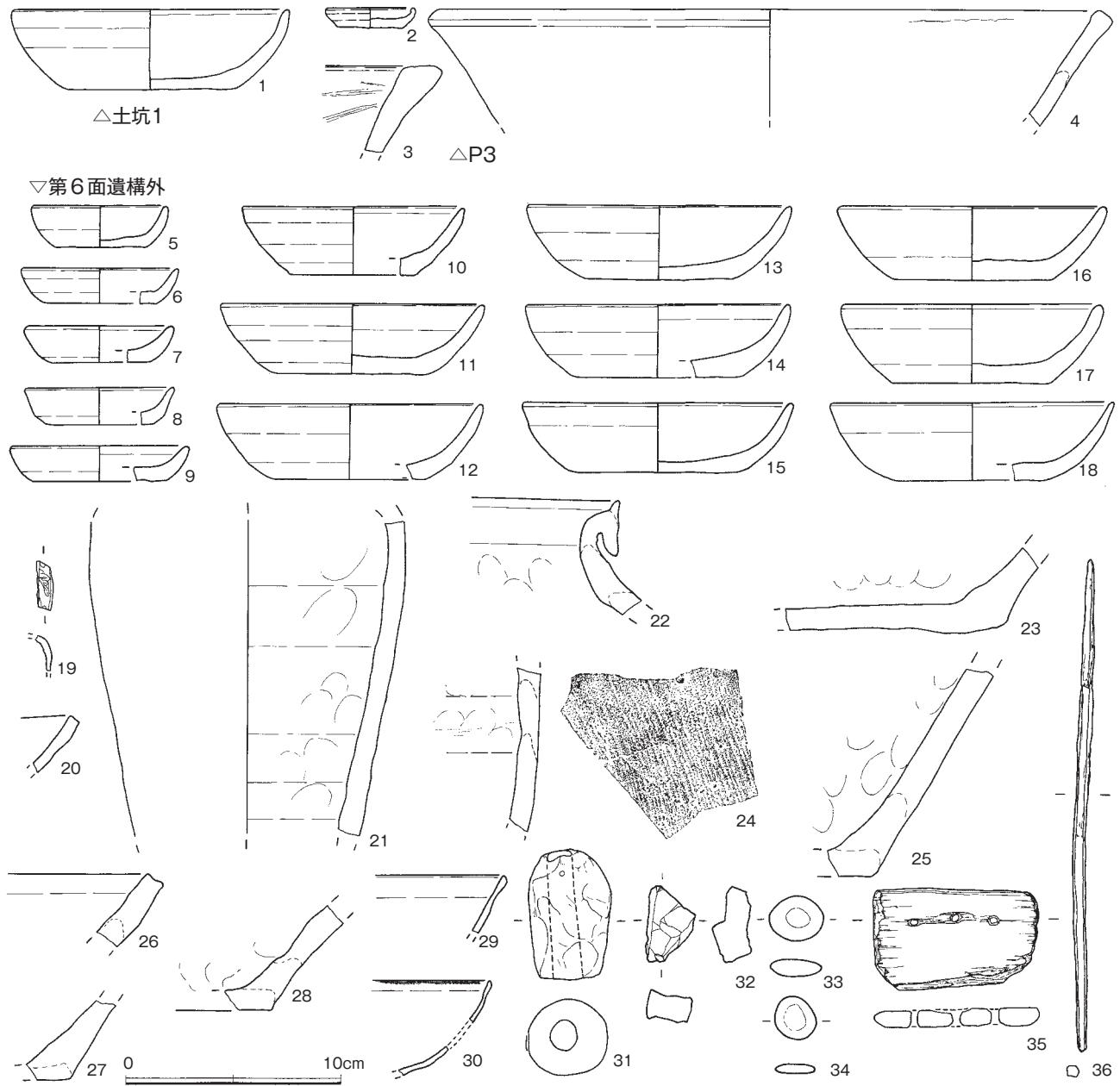


図22 第6面遺構・遺構外出土遺物

28は常滑窯の甕・片口鉢II類、29が東美濃窯系山茶碗、30が瀬戸内系土器壺である。31はかわらけ質土錘、32が火打石、33・34が碁石の黒、35・36が木製品で箸と不明品である。

7. 第7面の遺構と遺物（図23～27）

第6面調査時点での表土からの掘削深度が2.2mを超えており、第7面の調査では壁面崩落の危険を避けるために安全を考慮し、範囲を縮小して調査を実施することにした。第6面を構成していた厚さ20cm程の地形層(8層)を除くと、10・11層の破碎した拳大～人頭大の大小土丹塊やかわらけ細片・貝殻片・木片を含む厚さ約30cmの暗茶灰色粘質土が確認され、それを除去して表出したのが拳大の土丹塊を多量に混入し、少量の木片・貝殻片を含む黒褐色粘質土の遺構を伴う生活面を検出した。海拔高12.05m前後を測る。

検出した遺構は土坑3基、柱穴様のピット8穴、埋設曲物などが検出された。注目されるのは埋設曲物内からさし銭のように80枚以上の銅銭が重なった状態で出土している。遺物はかわらけをはじめ、

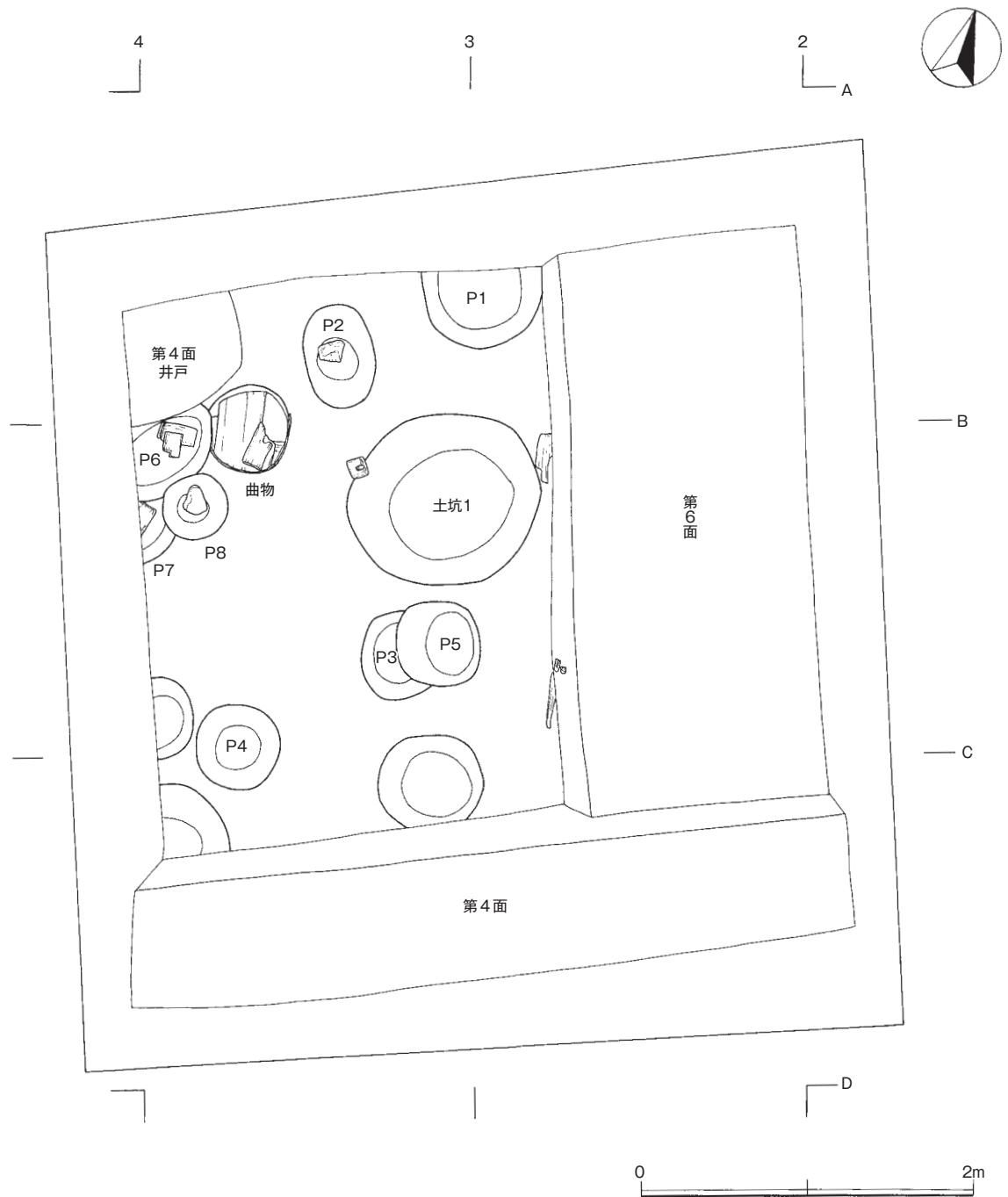


図23 第7面全測図

青磁・白磁の碗皿、常滑窯の甕・片口鉢、石・木製品などが出土している。

土坑1 : B – 3杭の南隣に位置する。形状は円形を呈し、大きさは径110cm、深さ25cmと浅めで断面逆台形の掘り方を呈する。覆土は三層から構成されており、上層の1層が明茶褐色粘質土で木製品や木片を多量に含んだ有機物腐蝕土、2層が藁状の纖維質を多く含む明茶灰色の腐蝕土、下層の3層が拳大土丹塊や有機物腐蝕土ブロックを混じえた明茶灰色土である。

出土遺物は図25-1が小型のロクロ成形かわらけで背低の薄手器壁で開いた器形、2は白磁口兀皿で口唇部の釉薬を欠き取りもの。細片だけであったが、掘り方の北端上に馬歯が1点出土した。3~6の木製品は3・5が箸で両端を細くなるように削り面取りしたもの、所謂利休箸である。4は上側を欠失しているが、端が細くなるよう丸棒状に面取り加工した菜箸と考えられもの、6は曲物の底板を再加工し

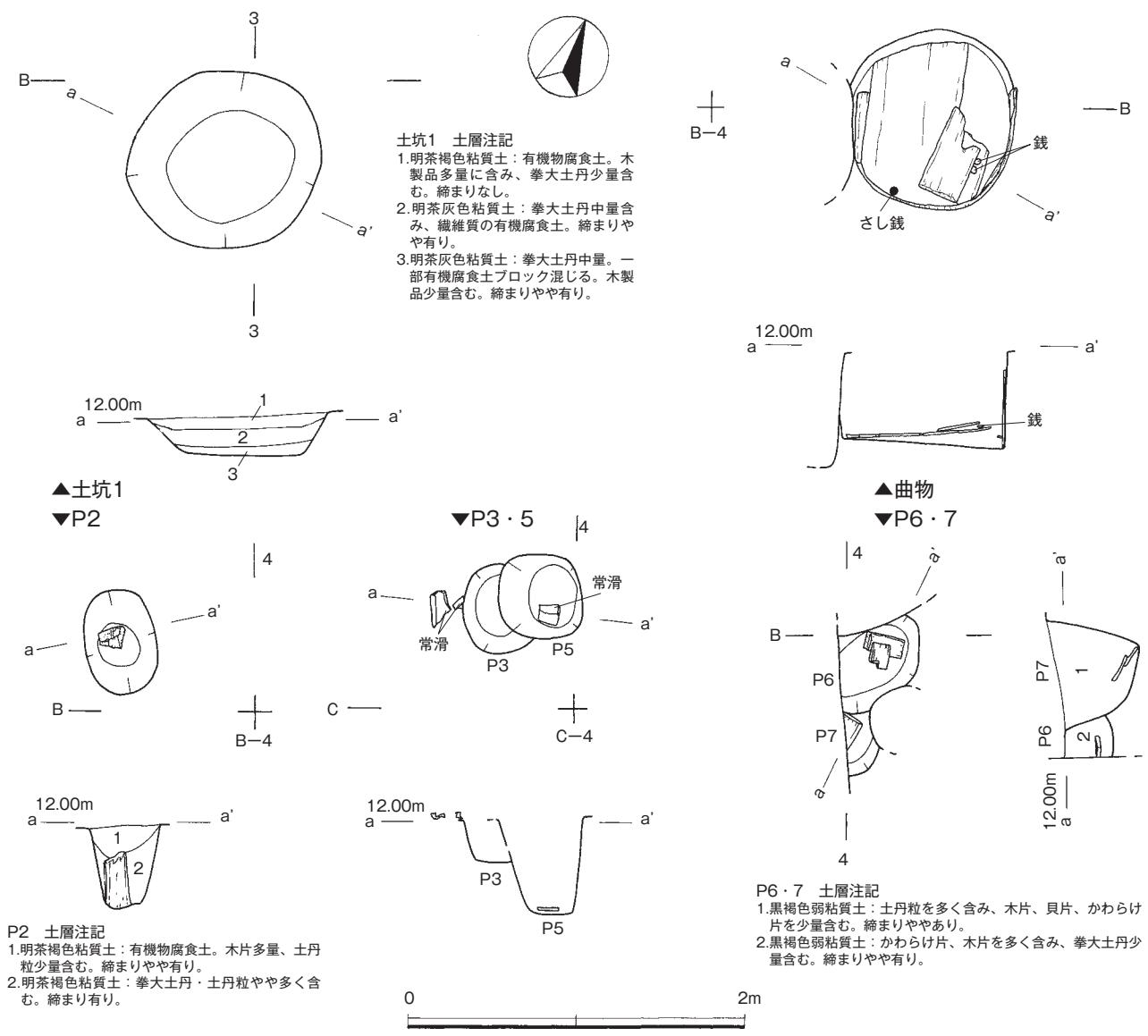


図24 第7面土坑・ピット

ている。

土坑2 : C - 3 杭南隣に位置し、一部調査区壁にかかる。形状は円形を呈し、大きさは径60cm、深さ38cmで平らな底面の掘り方である。覆土は土丹粒・かわらけ細片・有機物腐蝕土ブロックを含む粘質土、良好な遺物は出土していない。

土坑3 : B - 3 杭北側に位置し、調査区外へ拡がっている。円形状と思われ、大きさは東西径72cm、南北径50cm以上、深さ35cmの断面逆台形状を呈し、覆土は土丹粒や木片を含んだ暗茶褐色粘質土である。かわらけ細片だけで図示可能な遺物はない。

埋設曲物 : 調査区北西に位置し、P6により西端が削平されていた。曲物は径57cm、側板残存高約25cmが確認され、それを埋設した掘り込みは径70cm、深さ30cm程の曲物よりも一回り大きな掘り方に据えていた。図24に示した銅銭が曲物内南端でさし銭状態(図版7-f)で発見され、さらに底板上にも2枚が出土した。このような曲物を埋設した事例としては、市内では鎌倉駅西口に近い諏訪東遺跡で堅穴建物内の底面に曲物2個が並んで検出された例がある(斎木秀雄ほか 1985『諏訪東遺跡』同遺跡調査会)。

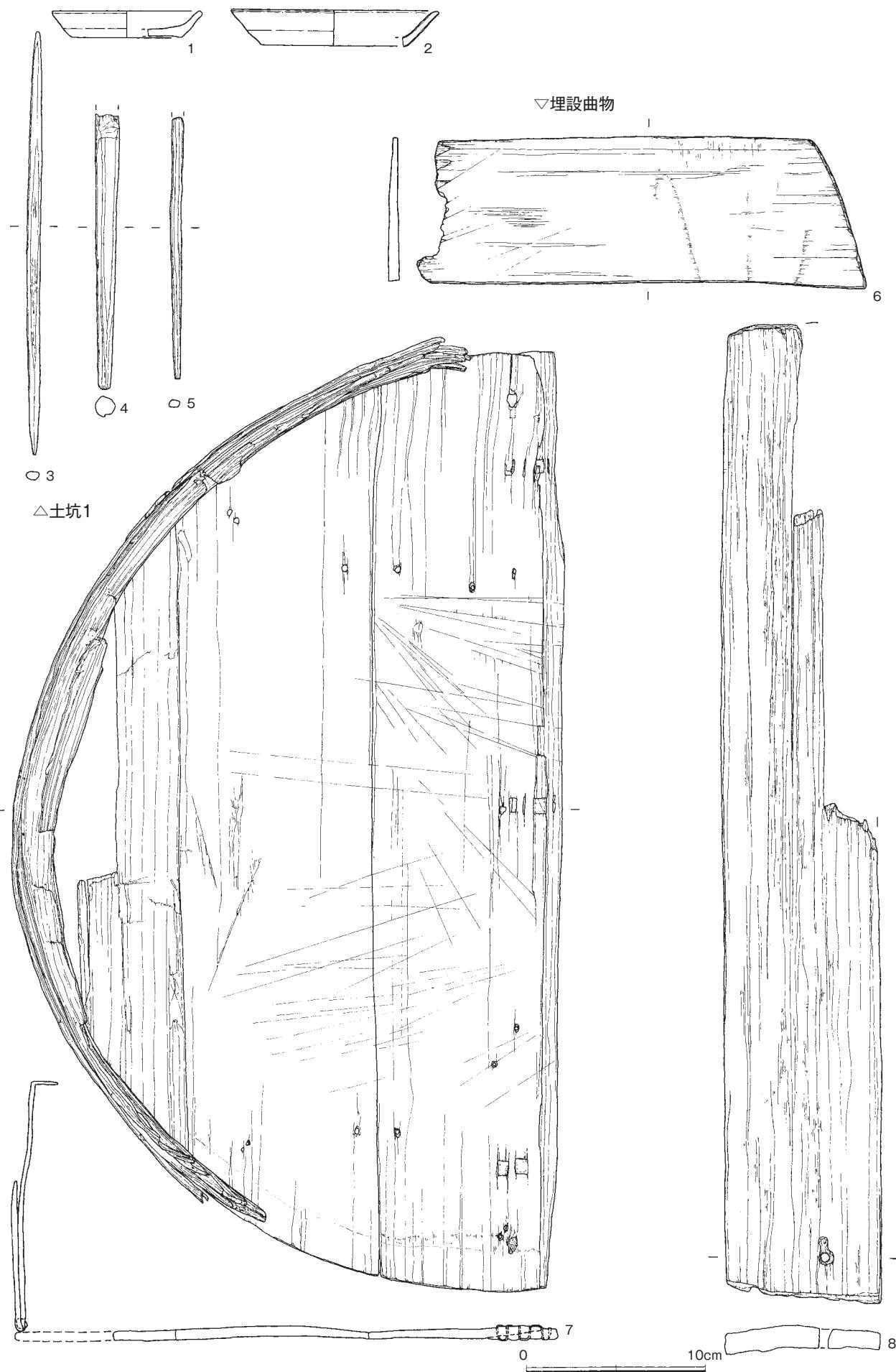


図25 第7面土坑・曲物出土遺物

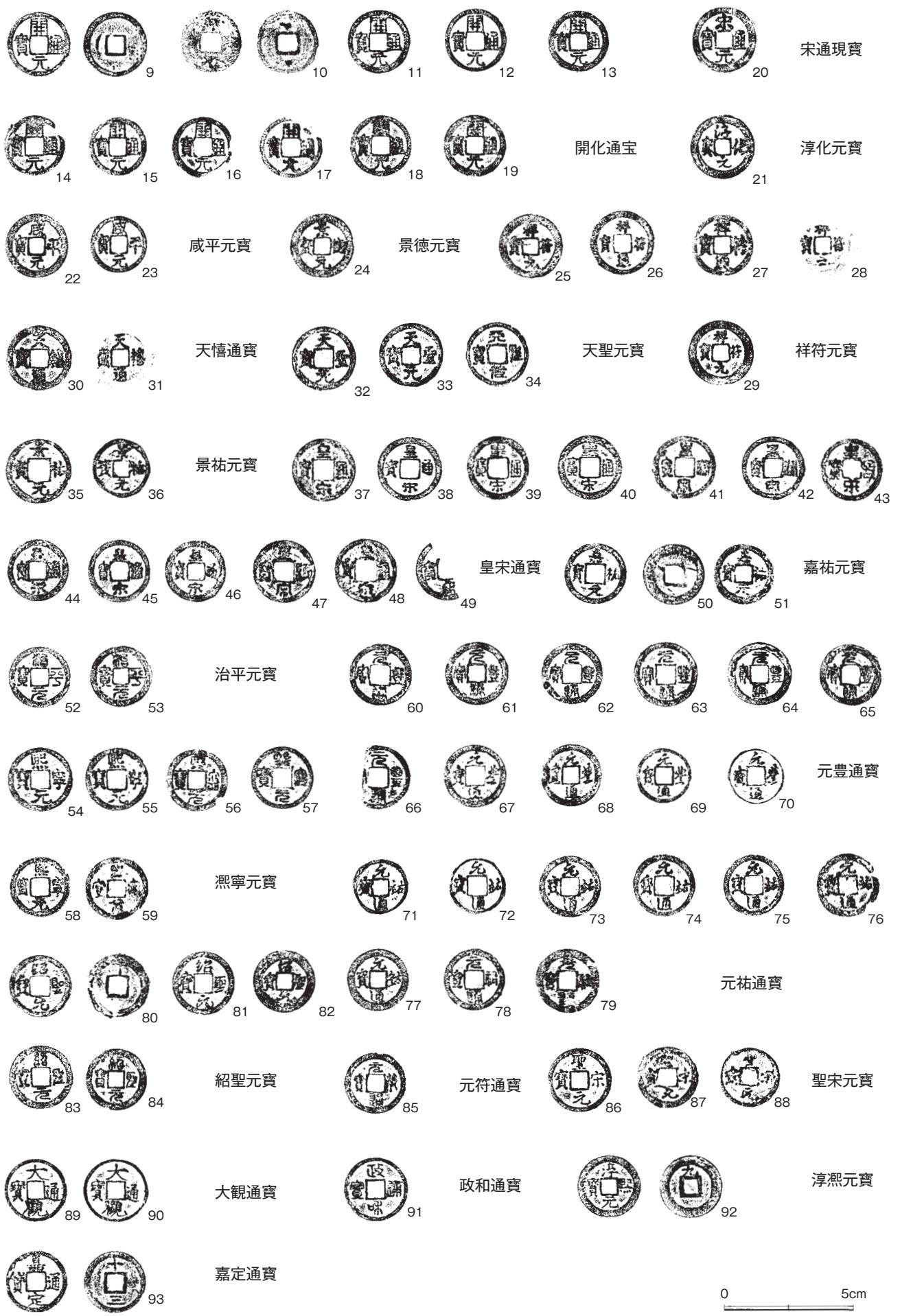


図26 第8面曲物出土さし錢

出土遺物をみると、7の曲物が厚さ1cmの底板は中央で二枚の板を桜皮紐で継ぎ合わせた作りのものである。側板は厚さ5mmの柾目の薄板材を用い、接合部を桜の皮で縫い合わせており、内面には折り曲げ易くする刃物による縦位の切り込みを施している。

銅錢は図版7出土状況写真のようにさし銭状態で83枚、さらに底板上で2枚が発見され、合計85点が出土している。表2のように銭種別出土点数は以下のとおりである。開元通寶（唐 621年）11点、宋通元寶（北宋 960年）1点、淳化元寶（北宋 990年）1点、咸平元寶（北宋 998年）2点、景德元寶（北宋

表2 埋設曲物出土銭の名称・年代別点数表

	個数	初鋤年									
開元通寶	11	621	天禧通寶	2	1017	治平元寶	2	1064	聖宋元寶	3	1101
宋通元寶	1	960	天聖通寶	2	1023	熙寧元寶	5	1068	大觀通寶	2	1107
淳化元寶	1	990	天聖元寶	2	1023	元豐通寶	11	1078	政和通寶	1	1111
咸平元寶	2	998	景祐通寶	2	1034	元祐通寶	9	1086	淳熙元寶	1	1174
景德元寶	1	1004	皇宋通寶	13	1038	紹聖通寶	5	1094	嘉定通寶	1	1208
祥符元寶	5	1009	嘉祐通寶	2	1056	元符通寶	1	1098			

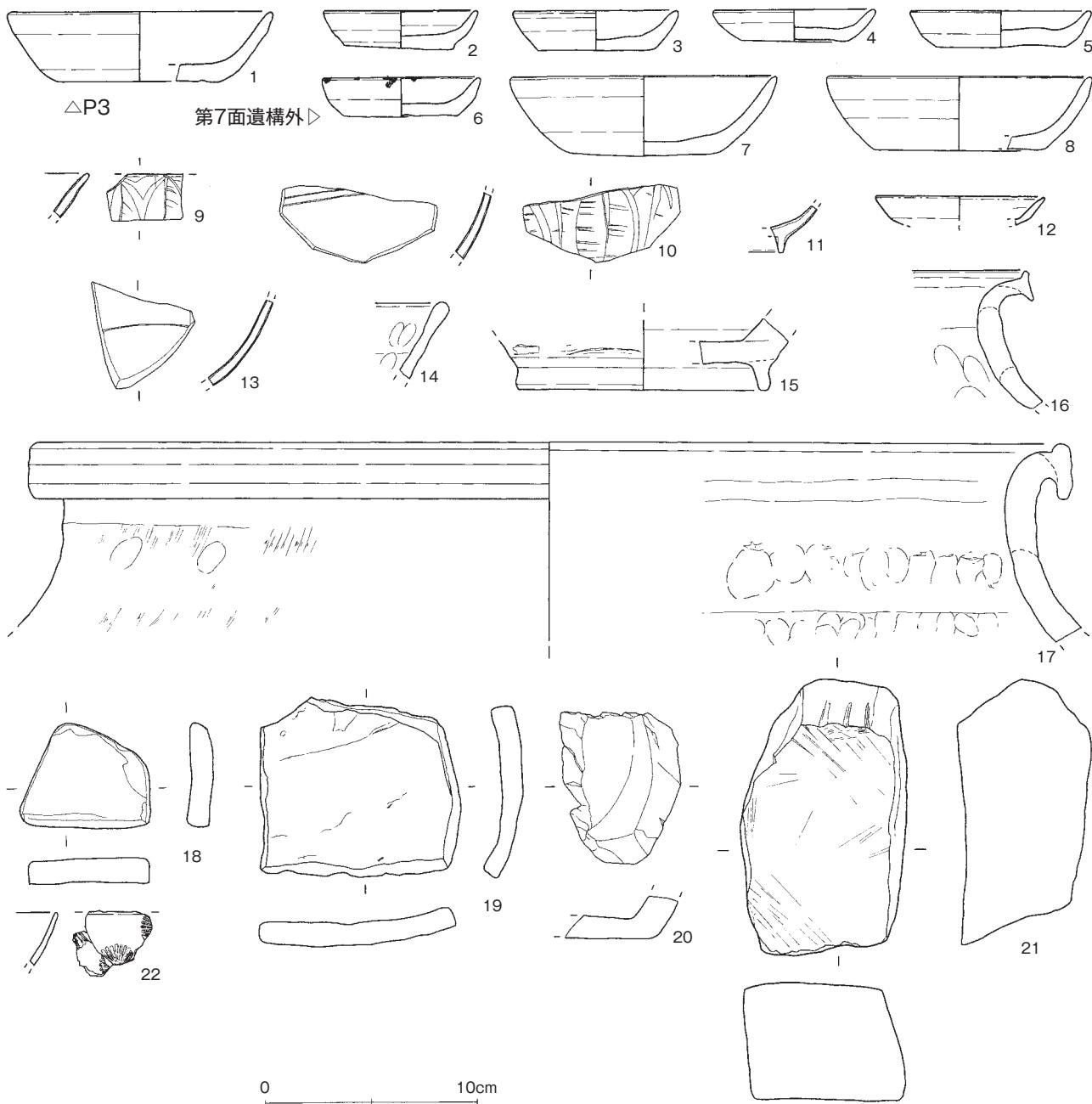


図27 第7面ピット・遺構外出土遺物

1004年) 1点、祥符元寶(北宋 1009年) 5点、天禧通寶(北宋 1017年) 2点、天聖通寶(北宋 1023年) 2点、天聖元寶(北宋 1023年) 2点、景祐元寶(北宋 1034年) 2点、皇宋通寶(北宋 1038年) 13点、嘉祐通寶(北宋 1056年) 2点、治平元寶(北宋 1064年) 2点、熙寧元寶(北宋 1068年) 5点、元豐通寶(北宋 1078年) 11点、元祐通寶(北宋 1086年) 9点、紹聖元寶(北宋 1094年) 5点、元符通寶(北宋 1098年) 1点、聖宋元寶(北宋 1101年) 3点、大觀通寶(北宋 1107年) 2点、政和通寶(北宋 1111年) 1点、淳熙元寶(南宋 1174年) 1点、嘉定通寶(南宋 1208年) 1点が出土した。確認した錢種は23種、時代的には唐代の開元通宝が1種、北宋代が最古の宋通元寶～最新の政和通寶までの時期(西暦 960～1111年)20種、南宋代の淳熙元寶・嘉定通寶の2種を確認した。裏面(背文)には開元通宝に「俯月」・「月星」などの記号、また南宋番錢にあたる淳熙元寶に「九」、嘉定通寶に「十三」の元号をなす数字がみられた。

P2 : B - 3 杭北西側で埋設曲物に近接した位置で柱痕を残す柱穴が検出された。平面形は橢円形を呈し、長径63cm、短径43、深さ 52cmで平らな底面には $15 \times 12\text{cm}$ 角の柱痕が据えられていた。覆土は上層が明茶褐色粘質土の有機物腐蝕土、下層が拳大の土丹塊を多く含む締まりのあるもので、図示可能な遺物はみられなかった。

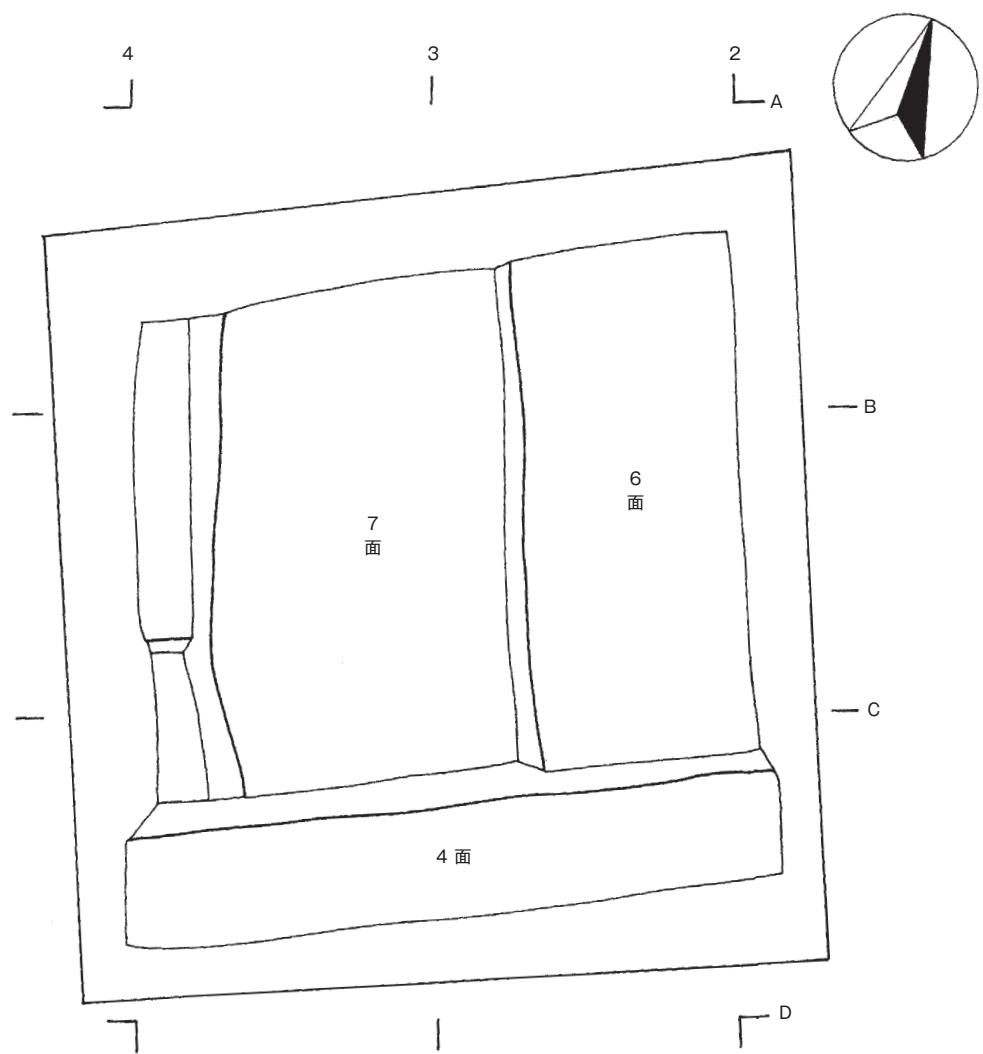
P3・5 : C - 3 杭北隣に位置し、新旧関係はP3が壊され古い遺構である。P5は平面形が隅丸方形状を呈し、長さ 50cm 前後、深さ 60cm で掘り方底面に常滑甕片が礎版代わりに据えられていた。覆土は締りのない茶褐色粘質土でかわらけ細片が出土しただけである。P3は橢円形の掘り方で長径 55cm、短径 35cm 以上、深さ 34cm の浅いもので黒褐色粘質土が充填土であった。遺物は図27 - 1 のロクロ成形かわらけの大皿である。

P6・7・8 : B - 4 杭南隣に位置する。P6・7は調査区壁にかかり、井戸1やP8に一部壊された柱穴様のピットである。P8は円形を呈し、径 40cm、深さ 38cm で底面に長さ 20cm 程の土丹塊が見られた。P6は橢円形の掘り方と思われ、長径 68cm・短径 50cm 以上、深さ 55cm を測り、掘り方の底面北寄りには重なった2枚の礎板が据えられていた。P7は深さ 30cm で掘り方下位に礎版1枚がみられた。覆土は締まりの弱い茶褐色粘質土である。図示可能な遺物はいずれの柱穴からも出土していない。

第7面遺構外出土遺物：図27 - 2～8はロクロ成形のかわらけ皿である。小型の資料は背低で底部から外反気味に立上がり、中位で内湾傾向になる器形である。大型は背高気味の厚手器壁で内湾した器形になる。舶載陶磁器は9・10が青磁蓮弁文碗、11が畳付露胎で三角高台の無文碗、12・13が白磁口兀碗皿である。14・15は常滑窯の片口鉢I・II類で16・17が甕の口縁部片、18・19が甕転用の磨り陶片である。20は滑石製石鍋、21は砥石で伊予産の中砥であろう。22は漆器碗で黒漆地に朱漆により菊花文スタンプで施文している。

8. 第7面下トレンチ (図28)

第7面の調査を終了した時点で、掘削深度が表土から 2.4m を過ぎて危険と判断された。そこで調査区西壁直下において中世基盤層(中世地山)の確認と、第4面で検出した井戸1の木枠や掘り方裏込め堆積土を観察する目的でトレンチを設定した。第7面構築土の12層は厚さ 10～20cm 程の黒褐色粘質土、その下は土丹粒を含むやや締りのある黒褐色粘質土が 15～20cm の薄い堆積土が確認され、その下から中世基盤層の黒褐色粘質土を検出することができた。中世地山面は海拔高 11.80m 前後、トレンチ内では海拔高 11.50m まで確認した。



0 2m

図28 第7面下トレンチ

表3 遺物観察表(1)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
6-1	第1面土坑1	常滑 転用品	胴部片 長さ(4.9)幅(3.8)	f.磨り常滑 外面から内面にかけて丸く磨った痕跡外面器表を磨った痕跡		
6-2	第1面土坑2	かわらけ	(8.0)	(5.3)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
6-3	第1面土坑3	かわらけ	口縁~体部小片			a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.黄灰色 微砂 白色粒 d.灰緑色 底部:重ね焼き時の自然釉 内部:刷毛塗りや薄手 f.古瀬戸中期
6-4	"	瀬戸 皿	底部小片			a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
6-5	第1面土坑4	かわらけ	(7.0)	(4.8)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
6-6	"	かわらけ	(8.1)	(4.8)	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
6-7	"	砥石	残存長3.7×幅2.6×厚さ1.3			f.中砥 上野産 流紋岩質凝灰岩 表裏使用痕あり 側面ノコ状の切り離し痕
6-8	第1面P-1	瀬戸 卸皿	(11.8)	(5.0)	2.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 内底面卸目浅い b.にぶい黄橙石英 良土 d.灰白色 やや厚手施釉 e.良好 硬質 f.古瀬戸後期皿
6-9	第1面P-5	かわらけ	(6.1)	(3.7)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
6-10	第1面P-12	かわらけ	(12.3)	(8.0)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粉質 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い f.打ち欠き痕
6-11	第1面P-14	かわらけ	6.3	3.7	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 打ち欠き痕有り
6-12	"	かわらけ	6.5	4.1	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿 打ち欠き痕有り
6-13	第1面P-18	常滑 片口鉢II類	口縁部片 残存長5.0×幅6.0×厚さ1.2			a.輪積技法 b.黒褐色 白色粒 小石粒 c.黒褐色
6-14	第1面P-21	常滑 片口鉢II類	口縁部片			a.輪積技法 b.灰色 白色粒多め 黒色粒 砂粒 やや粗土 c.灰褐色
6-15	第1面P-23	かわらけ	(6.9)	(3.7)	2.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
6-16	第1面P-25	砥石	残存長7.2×幅3.2×厚さ0.8			c.黄白色 f.仕上砥 京都鳴滝中山産 側面切り出し痕 表裏使用痕
6-17	"	鉄釘	残存長4.4×幅0.3×厚さ0.4			a.断面四角形の鍛造品
6-18	第1面P-31	かわらけ	(12.0)	(7.3)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
6-19	"	滑石鍋 転用品	残存長3.4×幅6.8×厚さ2.3 穿孔径0.4			a.鍔部を転用しようとした加工途中のもの 取手部分に径4mm程の穿孔あり 鍔内面部分に深い切り込み痕多い
6-20	"	瀬戸 卸皿	底部片 底径8.0			a.ロクロ 外底回転糸切痕 内底へラ状工具による卸目 b.黄白色 精良土 d.内面に灰緑色の釉垂れ e.堅緻 f.使用痕跡なし 古瀬戸中期
6-21	第1面P-32	石製品 漆磨き	長さ5.5×幅1.6×厚さ0.9			f.長崎産対馬石 全体的に磨滅 そのうち一面は特に顕著であり、他三面はノコ状製品で削り出した加工痕がある 拡大鏡でみると漆が石の隙間に入り込んでいるのが確認できる
6-22	第1面P-33	常滑 片口鉢II類	底部小片			a.輪積技法 b.暗灰色 長石粒 砂粒 c.器表:暗赤褐色 底部器表:橙色 e.良好 f.外底砂目底 内面:使用により摩耗し滑らか 外面:へラ削りによる調整
6-23	第1面P-38	かわらけ	(13.4)	(7.4)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
6-24	第1面P-39	かわらけ	(6.2)	(4.1)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質気味良土 c.橙色 e.良好
6-25	"	かわらけ	11.0	6.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粉質やや粗土 c.橙色 e.良好
6-26	第1面P-40	常滑 片口鉢II類	口縁~体部片 口径(31.6)			a.輪積技法 b.橙色 長石粒 砂粒 c.器表:明茶褐色 e.良好 f.内面:下端に向かって使用による磨滅 外面:横ナデ後上端横位のへラ削り 下端押頭調整
6-27	第1面遺構外	かわらけ	6.2	4.1	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 小径で厚手器壁 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粉質気味良土 c.淡橙色 e.良好
6-28	"	かわらけ	6.4	4.2	2.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 厚手器壁で背高器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
6-29	"	かわらけ	(8.1)	4.7	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁 体部上半外反器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
6-30	"	かわらけ	(8.2)	(5.8)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁 体部上半外反氣味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好
6-31	"	かわらけ	(8.7)	5.8	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 厚手器壁 口縁部外反氣味器形 体部内汚れあり b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 粗土 c.淡橙色 e.やや不良 f.口唇部内外に油煙煤付着
6-32	"	かわらけ	(12.1)	6.7	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 細板状圧痕 体部上半外反氣味器形 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 やや粉質良土 粗土 c.淡橙色 e.良好
6-33	"	白磁 皿	口縁部小片			b.灰白色 精良堅緻 d.灰白色不透明 内外に厚く施釉 気泡多く貫入る
6-34	"	瀬戸 天目茶碗	口縁部片 口径(12.2)			a.ロクロ 口縁部垂直から外反氣味に立ち上がる b.黄味灰白色 良土 d.黒褐色釉の地で口縁部が茶褐色 e.良好

表4 遺物観察表(2)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
6-35	第1面遺構外	瀬戸 縁釉小皿		口縁部小片		a.ロクロ 口縁部外反気味 b.黄白色 良土 d.灰緑色透明 細かな貫入多し 口縁部内外施釉 e.良好
6-36	"	瀬戸 灰釉平碗	(16.2)	—	—	a.ロクロ 口縁部外反気味 ロクロ目痕 b.灰白色 良土 d.灰緑色透明 細かな貫入多し 内面～外面中位まで施釉 e.良好 f.古瀬戸後期Ⅲか
6-37	"	瀬戸 香炉類		底部小片		a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.灰白色 白色粒 砂粒 良土 d.黄褐色～黒褐色外側に薄く施釉 e.良好 硬質 f.外面に菊花スタンプ印
6-38	"	瓦質 火鉢		口縁～胴体部片		f.内外面所々剥離著しい 一条沈線にはさまれてスタンプ文様帶有り
6-39	"	滑石スタンプ	長さ 2.2 × 幅 3.4 × 厚さ 2.1			a.表面だけでなく両サイドもスタンプにしている
6-40	"	砥石	残存長 25 × 幅 22 × 厚さ 0.7			c.灰白色 f.仕上砥
6-41	"	火打石	残存長 40 × 幅 19 × 厚さ 12			b.チャート系 f.全体的に打撃痕
6-42	"	火打石	残存長 3.4 × 幅 1.7 × 厚さ 1.6			b.石英系 f.全体的に打撃痕
6-43	"	鉄釘	長さ 7.9 φ 0.7			a.断面歪んだ円形
6-44	"	鉄釘	残存長 5.8 × 幅 0.7 × 厚さ 0.3			a.断面四角形
9-1	第2面土坑1	瀬戸 入子	底部片	底径 (3.0)		b.灰色 精良土 e.良好 f.釉なし
9-2	"	火打石	残存長 3.3 × 幅 2.6 × 厚さ 0.8			b.石英 f.製作途中の剥片か 加工痕なし
9-3	第2面P-1	青磁 酒会壺	高台部片	5.0 × 9.5 底径 (16.1)		a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.灰白色 白色粒 砂粒 良土 d.黄褐色～黒褐色外側に薄く施釉 e.良好 硬質 f.底部は別作りで落とし込む
9-4	第2面P-2	かわらけ	(13.8)	(8.9)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好 f.口縁一部を打ち欠き加工
9-5	第2面P-6	かわらけ	(6.7)	(4.3)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
9-6	第2面P-10	北部系 山茶碗	口縁部片	残存長 3.0 × 幅 1.7 × 厚さ 0.3		b.淡黄色 砂粒極少量 e.良好
9-7	"	かわらけ質製品	胴部片	残存長 5.0 × 幅 3.5 × 厚さ 0.8		b.微砂 赤色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
9-8	第2面P-11	かわらけ	(14.3)	(8.4)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
9-9	第2面遺構外	かわらけ	(7.3)	(5.0)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
9-10	"	かわらけ	(6.9)	(3.9)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
9-11	"	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好 f.口縁一部を打ち欠き加工
9-12	"	かわらけ	(13.9)	(9.0)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
9-13	"	かわらけ	(15.5)	(10.0)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
9-14	"	青白磁 合子	底部小片			b.灰白色 微砂少量 精良堅緻 d.水青色透明 薄手施釉
9-15	"	青磁 酒会壺蓋	残存長 5.8 × 幅 5.8 × 厚さ 0.4 ~ 0.9			b.淡灰色 微砂 やや粗土 d.淡緑灰色不透明 薄手施釉 f.両面共に摩耗を受けザラつきツヤなし状態
9-16	"	瀬戸 天目碗	底径 (4.1)			b.黄灰色 白色粒 砂粒 良土 c.黒褐色 やや厚め
9-17	"	瓦質 火鉢	推定口径 (17.4)			b.灰褐色 白色粒 黒色粒 土丹粒 砂粒 粗土 c.黒色くすべ状
9-18	"	瓦質 香炉	推定底径 (7.0)			b.灰白色 白色粒 砂粒 やや粗土 c.黒灰色くすべ状
9-19	"	骨製品 筝	残存長 9.0 × 幅 1.7 × 厚さ 0.4			f.中央部形にそって削られている
9-20	"	鉄釘	残存長 6.0 × 幅 0.6 × 厚さ 0.6			a.断面四角形
12-1	第3面 P-イ	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-2	"	鉄釘	残存長 8.4 × 幅 1.1 × 厚さ 0.8			a.断面四角形
12-3	第3面 P-ロ	かわらけ	(12.8)	(6.5)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-4	第3面 建物範囲内	かわらけ	(6.8)	(4.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-5	"	かわらけ	(7.7)	(4.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.良好

表5 遺物観察表(3)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
12-6	第3面 建物範囲内	かわらけ	(7.8)	(5.3)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好
12-7	"	かわらけ	(7.7)	4.8	2.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄灰色 e.やや甘い f.内外ともに明暗くっきり分かれ黒色化した部分あり
12-8	"	かわらけ	(7.9)	(5.1)	2.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-9	"	かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.黄橙色 e.良好
12-10	"	かわらけ	(10.8)	(7.0)	2.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 土丹粒 良土 c.黄灰色 e.良好
12-11	"	かわらけ	(11.8)	(6.0)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
12-12	"	かわらけ	(13.6)	7.5	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-13	"	かわらけ	(13.9)	(8.0)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 良土 c.橙色 e.良好
12-14	"	常滑 片口鉢II類	口縁部片 残存長6.0×幅7.0×厚さ1.1			a.輪積技法 b.赤褐色 白色粒 黒色粒 石英少量 c.赤褐色
12-15	"	硯	残存長8.4×幅3.7 ×厚さ0.9～1.4			a.縁に2タイプの線模様が刻まれている b.黒色粘板岩 c.黒色 f.接合した右のバーツは第2面土坑1より出土
12-16	"	砥石	残存長3.8×幅1.8×厚さ0.4			f.仕上砥 京都鳴滝産 表面に使用痕あり
12-17	"	砥石	残存長4.4×幅4.6×厚さ0.9			f.中砥 伊予産 流紋岩質粗粒凝灰岩 表裏側面全てに使用痕あり
12-18	"	鉄釘	残存長6.0×幅0.7×厚さ0.7			a.断面四角形
12-19	第3面土坑1	鉄釘	残存長5.6×幅0.8×厚さ0.9			a.断面四角形
12-20	第3面遺構外	常滑 転用品	残存長7.2×幅5.4×厚さ1.4			f.内面以外摩耗あり
12-21	"	瀬戸 折縁深皿	口縁部片 残存長4.5×幅5.0×厚さ0.7			b.黄灰色 白色粒 砂粒 良土 d.灰釉 灰白色 e.良好
12-22	"	かわらけ	7.4	5.1	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.口縁部故意に削られている
12-23	"	かわらけ	(7.5)	(3.4)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
12-24	"	かわらけ	7.6	4.6	2.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂多め 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-25	"	かわらけ	(13.1)	(7.9)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-26	"	かわらけ	(13.7)	(8.8)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-27	"	かわらけ	(13.7)	(7.7)	3.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 赤色粒 黒色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
12-28	"	かわらけ	(13.7)	(9.8)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
12-29	"	白磁 広口壺	口縁部片 口径(6.9)			b.白色 精良堅緻 d.緑味灰白色透明 極薄く施釉 口縁部露胎 f.二次焼成受け外面の釉薬・文様不鮮明
12-30	"	黒褐釉壺	口縁部片 口径(9.0)			b.暗赤褐色 精良堅緻 d.二次焼成を受けた為か鉄釉か黒褐色の釉
12-31	"	瀬戸 折縁深皿	口縁部小片			b.黄灰色 白色粒 良土 d.灰緑色透明釉刷毛塗り 斑状に釉薬 e.良好 f.古瀬戸中期
12-32	"	白かわらけ質 皿	口縁部片			b.微砂 粉質良土 c.灰白色 e.良好
12-33	"	石硯	残存長4.5×幅2.5×厚さ0.9			a.表面：線刻で文様彫る 内側面：横方向の削り 側縁：横方向削りの痕に縦方向の削り 側縁底部は面取りのように縦方向に削られる b.暗灰褐色粘板岩 f.鳴滝産岩王子 筆置きか
12-34	"	石硯	残存長5.0×幅3.7×厚さ1.1			a.表面全て剥離 側縁・裏面は刃物で細かく削った痕が見られる b.暗灰褐色粘板岩 f.鳴滝産岩王子か
15-1	第4面土坑1	かわらけ	(7.9)	(4.6)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黑色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿 剥離あり
15-2	"	滑石スタンプ	長さ4.4×幅4.4×厚さ1.0			a.円形板状 穿孔の痕跡あるが裏面剥離
15-3	"	砥石	残存長6.5×幅3.0×厚さ0.6			b.流紋岩質細粒凝灰岩 c.黄色 f.仕上砥 京都鳴滝産 側面削り出し痕 表面使用痕 裏面剥離
15-4	第4面土坑3	かわらけ	(10.8)	(5.8)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黑色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
15-5	"	かわらけ	(7.3)	(3.9)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黑色粒 良土 c.黄橙色 e.良好

表6 遺物観察表(4)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
15-6	第4面土坑4	砥石	長さ(3.7)×幅1.5×厚さ(6.5)			f.仕上砥 京都鳴滝産 表裏側面全てに使用痕あり
15-7	第4面P-1	かわらけ	(12.3)	(8.0)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 黒色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
15-8	第4面井戸1	褐釉 茶入	底部片 底径(2.5)			b.暗灰色 精良堅緻 d.暗茶色
15-9	"	滑石製品	長さ(4.0)×幅(2.6)×厚さ(1.0)			f.用途不明
15-10	"	木製品	縦2.7×横4.0×厚さ0.8			a.同形状の2個体を合わせて成立する浮きのようなものか
15-11	"	木製品	長さ31×幅9.9×厚さ6.8			f.全体的に表面の損傷著しい 用途不明
15-12	"	井戸 側板	残存長41.3×幅30.7 ×厚さ1.3~2.1			f.木製部材転用
15-13	第4面遺構外	かわらけ	(7.8)	(3.8)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
15-14	"	かわらけ	(7.8)	(4.7)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-15	"	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-16	"	かわらけ	(7.2)	5.8	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-17	"	かわらけ	(7.2)	5.3	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-18	"	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-19	"	かわらけ	(7.8)	4.6	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
15-20	"	かわらけ	(7.9)	(4.2)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
15-21	"	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.灯明皿
15-22	"	白磁 口兀皿	口縁~体部小片			b.乳白色 精良堅緻 d.淡青灰色半透明 口唇部露胎
15-23	"	青白磁 梅瓶	体部小片			b.灰白色 精良堅緻 d.青白色半透明 薄手施釉 気泡多い 貫入あり 一部火を受ける
15-24	"	青白磁 梅瓶	体部小片			b.灰白色 精良堅緻 d.青白色半透明 薄手施釉 気泡多い 貫入あり
15-25	"	瀬戸 折縁皿	底部片 底径(12.0)			a.外底回転糸切痕 外底面露胎 b.白灰色 精良土 d.灰緑色透明 表面光沢強い e.良好 硬質 f.内底面に目痕あり 貫入あり 線刻5本入
15-26	"	瀬戸 折縁皿	底部片 底径(10.0)			a.外底回転糸切痕 外底面露胎 外底縁に釉溜 b.黄白色 良土 d.灰緑色透明 表面光沢強い e.良好 硬質 f.内底面に目痕あり 貫入あり
15-27	"	常滑 甕	口縁部片 縁帯幅(2.3)			a.輪積み技法 内面指頭痕 内外面ナデ有り b.灰色 白色粒 長石 c.暗褐色 d.口縁~外面部に白緑色の自然降灰 e.良好 硬質
15-28	"	常滑 甕	口縁部片 縁帯幅(4.8)			a.輪積み技法 内面指頭痕 内外面ナデ有り b.灰色 白色粒 長石 c.暗赤褐色 d.口縁~外面部に白黄緑色の自然降灰 e.良好 硬質
15-29	"	北部系 山茶碗	口縁部小片			a.内外面ナデ有り b.白色粒 良土 c.白 e.良好 f.東濃型
15-30	"	常滑 片口鉢II類	(36.0)	(17.2)	11.0	a.内外面ナデ有り b.灰色 白色粒 長石 小石粒多め 粗土 c.暗赤褐色
16-31	"	常滑 片口鉢II類	口縁部片			a.内外面ナデ有り b.暗灰色 白色粒 長石 c.暗褐色
16-32	"	磨り常滑	長さ10.7×幅11.2 ×厚さ0.8~1.2			b.灰色 白色粒多め 小石粒 c.暗赤褐色 f.破断面に摩耗痕
16-33	"	土器質 火鉢	口縁~体部片			a.内外面ナデ有り b.灰色 白色粒 小石粒 粗土 c.橙色
16-34	"	土器質 火鉢	脚部片			b.灰色 白色粒 黒色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.橙色
16-35	"	砥石	残存長42×幅2.5×厚さ0.3			c.赤味のある灰白色 f.仕上砥 京都鳴滝産 表面に使用痕・剥離あり
16-36	"	砥石	残存長6.6×幅2.5×厚さ1.3			c.黄味かった灰白色 f.中砥 上野産 流紋岩質粗粒凝灰岩 表裏と一側面に刻線あり
16-37	"	砥石	残存長6.3×幅3.7 ×厚さ0.5~1.2			c.橙色 f.仕上砥 京都鳴滝産 表面に剥離あり
19-1	第5面P-イ	伊勢系土鍋	(6.8)	(4.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 黒色粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
19-2	"	鍔釜	鍔部片			b.暗淡橙色 粗い粉質 金雲母 c.淡橙色~暗灰色 f.煤付着
19-3	第5面P-ロ	常滑 甕	口縁部片			b.灰色 白色粒多め 黒色粒 c.灰色 d.口縁~外面部に自然降灰 e.良好 硬質 f.中野編年7型式

表7 遺物観察表(5)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
19-4	第5面土坑2	かわらけ	(7.8)	(4.4)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
19-5	第5面土坑3	常滑壺		肩部片		a.輪積み技法 内面指頭痕 b.白色粒少量 砂粒 c.茶褐色 d.外面斑に自然降灰 e.良好硬質
19-6	第5面P-2	瀬戸 入子		口縁部小片		b.黄灰色 砂粒 e.良好 f.内面紅付着
19-7	第5面土坑4	かわらけ	7.1	4.7	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-8	"	鉄釘	残存長44	×幅0.4	×厚さ0.3	a.断面四角形
19-9	"	骨角製品 筝	残存長53	×幅11	×厚さ0.4	a.丁寧な刃物の削り調整 断面蛤型
19-10	第5面P-4	瀬戸 入子		口縁部片 口径(10.8)		b.黄灰色 砂粒 e.良好 硬質 f.煤付着 内面摩耗している
19-11	第5面P-5	碁石	長さ3.3	×幅2.3	×厚さ0.6	c.黒色 f.不整円形
19-12	第5面遺構外	かわらけ	(7.5)	(4.8)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.灯明皿
19-13	"	かわらけ	(7.9)	(5.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-14	"	かわらけ	(7.9)	(4.9)	2.1	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 c.黄橙色 e.良好
19-15	"	かわらけ	(8.7)	(6.5)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-16	"	かわらけ	(11.9)	(6.8)	2.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-17	"	かわらけ	(12.7)	(7.0)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
19-18	"	白磁壺	口縁～体部片 口径(5.3)			a.灰白色 精良堅緻 型作り 底部露胎 d.乳白色 薄手施釉 ピンホール有り f.蓮弁状の文様
19-19	"	北部系 山茶碗	口縁～体部片 底径(5.0)			a.ロクロ 底部～高台部片 貼付高台 粗殻痕あり b.灰色 黒色粒少量 良土 c.灰色 e.硬質 f.東濃型
19-20	"	瀬戸 入子	口縁～体部片 口径(7.8)			b.黄灰色 白色粒極少量 砂粒 良土 e.良好 硬質 f.内面に紅付着
19-21	"	瀬戸 卸皿	口縁部小片			b.黄灰色 白色粒極少量 良土 d.外外面斑に灰色の釉薬 e.良好 硬質
19-22	"	常滑 片口鉢II類	口縁部片			a.輪積技法 b.灰色 砂粒 白色粒・小石粒多め c.外外面暗赤褐色 d.降灰部灰緑色の自然降灰
19-23	"	常滑 片口鉢II類	底部片			a.輪積技法 b.灰色 砂粒 白色粒・小石粒多め c.外外面暗赤褐色 d.降灰部灰緑色の自然降灰
22-1	第6面土坑1	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
22-2	第6面P-3	内折れかわらけ	4.0	3.1	0.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.橙色 e.良好 f.内折れかわらけ
22-3	"	瓦質火鉢	口縁部片			b.灰色 白色粒 砂粒 c.淡紅色 f.二次焼成受ける
22-4	"	常滑 片口鉢I類	口縁部片			b.明褐色 黒色粒 砂粒 c.明褐色 d.口縁～内面体部に自然降灰 f.内面摩耗
22-5	第6面遺構外	かわらけ	(6.2)	(4.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い
22-6	"	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い f.灯明皿ではないが煤付着
22-7	"	かわらけ	(6.8)	(4.2)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 粗土 c.橙色 e.良好
22-8	"	かわらけ	(7.9)	(5.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好
22-9	"	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
22-10	"	かわらけ	(10.2)	(6.0)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
22-11	"	かわらけ	(12.2)	(7.0)	3.3	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
22-12	"	かわらけ	(12.2)	(6.9)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄橙色 e.良好
22-13	"	かわらけ	(12.1)	(6.9)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
22-14	"	かわらけ	(12.1)	(8.0)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
22-15	"	かわらけ	(12.4)	7.4	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好

表8 遺物観察表(6)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
22-16	第6面遺構外	かわらけ	(12.2)	(7.2)	3.4	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
22-17	"	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
22-18	"	かわらけ	(13.0)	(7.0)	3.6	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 土丹粒 小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
22-19	"	青白磁 梅瓶 蓋	蓋部小片			b.白色 精良堅緻 d.水色半透明 薄手施釉 気泡あり
22-20	"	瀬戸 卸皿	口縁部小片			b.黄灰色 白色粒 砂粒 良土 d.淡緑色の灰釉 内外面薄手施釉
22-21	"	褐釉 瓶子	胴部片			a.輪積み技法 内面指頭痕横ナデ 外面縦ナデ降灰有り b.白灰色 白色粒 小石粒 c.褐色
22-22	"	常滑 甕	口縁部片 縁帯幅2.5			a.輪積み技法 内面指頭痕 b.暗灰色 白色粒 黒色粒 粗土 c.褐色 e.硬質
22-23	"	常滑 甕	底部片			a.輪積み技法 内面指頭痕 横ナデ b.暗灰色 白色粒 黒色粒 小石粒 長石 粗土 c.黒褐色 e.硬質
22-24	"	常滑 甕	胴部片			a.輪積み技法 内面指頭痕 外面叩き目あり b.暗灰色 白色粒 黒色粒 小石粒 やや粗土 c.褐色 e.硬質
22-25	"	常滑 甕	胴部片			a.輪積み技法 内面指頭痕 b.暗灰色 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗赤褐色 e.硬質
22-26	"	常滑 片口鉢II類	口縁部小片			a.輪積技法 外面縦ナデ b.灰色 白色粒 小石粒 やや粗土 c.暗赤褐色
22-27	"	常滑 片口鉢II類	底部小片			a.輪積技法 内面指頭痕 外面縦ナデ b.暗灰色 白色粒 小石粒 多め 粗土 c.暗赤褐色
22-28	"	常滑 片口鉢II類	底部小片			a.輪積技法 内面指頭痕 外面縦ナデ b.暗灰色 白色粒 小石粒 やや粗土 c.暗赤褐色
22-29	"	北部系 山茶碗	口縁部小片			a.ロクロ b.白色粒 黒色粒 良土 c.灰色 e.良好 硬質 f.東濃型
22-30	"	吉備系 土師質碗	口縁～体部片			a.ロクロ b.微砂 c.灰白色 e.良好 f.外側口縁部 7mm幅の帯状に黒くなる 内側口唇部位まで少し黒い
22-31	"	土製品 土錐	長さ6.0×幅(3.7)×厚さ3.5			b.微砂 黒色粒 c.黄黒色～赤褐色 e.良好
22-32	"	火打石	長さ3.5×幅2.1×厚さ1.6			f.打撃痕有り
22-33	"	碁石	長さ2.0×幅2.5×厚さ0.8			c.黒色 f.不整円形
22-34	"	碁石	長さ2.0×幅1.9×厚さ0.4			c.黒色 f.不整円形
22-35	"	木製品	長さ7.7×幅4.7×厚さ0.8			f.両面削り加工 木目方向に3つの孔がほぼ等間隔に並ぶ 側面荒れるが欠損なし
22-36	"	木製品 箸	長さ22.9 φ 0.5			f.断面六角形
25-1	第7面土坑1	かわらけ	(8.2)	(6.1)	1.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒多め 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
25-2	"	白磁 口兀皿	口縁～胴部片			b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.白色不透明
25-3	"	木製品 箸	長さ23.5×幅0.8×厚さ0.5			f.両端細くなる
25-4	"	木製品 菜箸	残存長15.3 φ 1.1			f.太くしっかりしている
25-5	"	木製品 箸	残存長14.6×幅0.6×厚さ0.4			f.尖端に若干の焦げ
25-6	"	木製品	最長24.6 最短20.8 ×幅8.1×厚さ0.3～0.6			f.曲げ物底板再加工品 一部刃物による切り込みあり、切り込んで割った可能性大
25-7	第7面 埋設曲物	木製品 曲物	径(52)×高さ15.6			a.底面：複数の板を桜皮で縫い合わせる 側面：2枚の板を木螺子で接合
25-8	"	木製品	残存長54×幅8.7 ×厚さ1～1.2			a.片方の端ほぼ中央に穴が穿たれる f.用途不明
26-9	"	銅錢	外径2.47 内径0.64 厚さ0.12			開元通寶 唐 初鑄年621年 f.背文「俯月」
26-10	"	銅錢	外径2.41 内径0.77 厚さ0.08			開元通寶 唐 初鑄年621年 f.背文「月・星・磨輪」
26-11	"	銅錢	外径2.45 内径0.61 厚さ0.12			開元通寶 唐 初鑄年621年
26-12	"	銅錢	外径2.42 内径0.68 厚さ0.11			開元通寶 唐 初鑄年621年
26-13	"	銅錢	外径2.34 内径0.62 厚さ0.12			開元通寶 唐 初鑄年621年
26-14	"	銅錢	外径2.38 内径0.62 厚さ0.08			開元通寶 唐 初鑄年621年

表9 遺物観察表(7)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
26-15	第7面 埋設曲物	銅錢	外径2.29 内径0.6 厚さ 0.12			開元通寶 唐 初鑄年 621年
26-16	"	銅錢	外径2.34 内径0.67 厚さ 0.1			開元通寶 唐 初鑄年 621年
26-17	"	銅錢	外径2.43 内径0.66 厚さ 0.09			開元通寶 唐 初鑄年 621年
26-18	"	銅錢	外径2.38 内径0.64 厚さ 0.11			開元通寶 唐 初鑄年 621年
26-19	"	銅錢	外径2.41 内径0.64 厚さ 0.1			開元通寶 唐 初鑄年 621年
26-20	"	銅錢	外径2.41 内径0.58 厚さ 0.08			宋通元寶 北宋 初鑄年 960年
26-21	"	銅錢	外径2.49 内径0.55 厚さ 0.09			淳化元寶 北宋 初鑄年 990年
26-22	"	銅錢	外径2.47 内径0.57 厚さ 0.1			咸平元寶 北宋 初鑄年 998年
26-23	"	銅錢	外径2.22 内径0.61 厚さ 0.1			咸平元寶 北宋 初鑄年 998年
26-24	"	銅錢	外径2.48 内径0.57 厚さ 0.1			景德元寶 北宋 初鑄年 1004年
26-25	"	銅錢	外径2.41 内径0.55 厚さ 0.1			祥符元寶 北宋 初鑄年 1009年
26-26	"	銅錢	外径2.49 内径0.6 厚さ 0.13			祥符元寶 北宋 初鑄年 1009年
26-27	"	銅錢	外径2.38 内径0.58 厚さ 0.1			祥符元寶 北宋 初鑄年 1009年
26-28	"	銅錢	外径1.76 内径0.57 厚さ 0.09			祥符元寶 北宋 初鑄年 1009年
26-29	"	銅錢	外径2.54 内径0.58 厚さ 0.1			祥符元寶 北宋 初鑄年 1009年
26-30	"	銅錢	外径2.55 内径0.64 厚さ 0.1			天禧通寶 北宋 初鑄年 1017年
26-31	"	銅錢	外径1.9 内径0.59 厚さ 0.09			天禧通寶 北宋 初鑄年 1017年 f.磨輪
26-32	"	銅錢	外径2.48 内径0.67 厚さ 0.09			天聖元寶 北宋 初鑄年 1023年
26-33	"	銅錢	外径2.47 内径0.66 厚さ 0.09			天聖元寶 北宋 初鑄年 1023年
26-34	"	銅錢	外径2.41 内径0.65 厚さ 0.12			天聖元寶 北宋 初鑄年 1023年
26-35	"	銅錢	外径2.54 内径0.74 厚さ 0.11			景祐元寶 北宋 初鑄年 1034年
26-36	"	銅錢	外径2.24 内径0.55 厚さ 0.08			景祐元寶 北宋 初鑄年 1034年 f.磨輪
26-37	"	銅錢	外径2.46 内径0.74 厚さ 0.08			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-38	"	銅錢	外径2.5 内径0.66 厚さ 0.09			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-39	"	銅錢	外径2.44 内径0.74 厚さ 0.08			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-40	"	銅錢	外径2.48 内径0.66 厚さ 0.12			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-41	"	銅錢	外径2.48 内径0.66 厚さ 0.11			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-42	"	銅錢	外径2.46 内径0.64 厚さ 0.12			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-43	"	銅錢	外径2.41 内径0.77 厚さ 0.12			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-44	"	銅錢	外径2.4 内径0.63 厚さ 0.07			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-45	"	銅錢	外径2.42 内径0.66 厚さ 0.09			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-46	"	銅錢	外径2.39 内径0.58 厚さ 0.11			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-47	"	銅錢	外径2.45 内径0.78 厚さ 0.11			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-48	"	銅錢	外径2.45 内径0.69 厚さ 0.1			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年
26-49	"	銅錢	外径 - 内径 - 厚さ 0.07			皇宋通寶 北宋 初鑄年 1038年

表10 遺物観察表(8)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
26-50	第7面 埋設曲物	銅錢	外径2.39 内径0.68 厚さ 0.08			嘉祐元寶 北宋 初鑄年1056年
26-51	"	銅錢	外径2.37 内径0.61 厚さ 0.12			嘉祐元寶 北宋 初鑄年1056年
26-52	"	銅錢	外径2.39 内径0.63 厚さ 0.1			治平元寶 北宋 初鑄年1064年
26-53	"	銅錢	外径2.43 内径0.53 厚さ 0.09			治平元寶 北宋 初鑄年1064年
26-54	"	銅錢	外径2.5 内径0.66 厚さ 0.11			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-55	"	銅錢	外径2.47 内径0.62 厚さ 0.14			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-56	"	銅錢	外径2.43 内径0.65 厚さ 0.12			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-57	"	銅錢	外径2.42 内径0.64 厚さ 0.13			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-58	"	銅錢	外径2.38 内径0.67 厚さ 0.12			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-59	"	銅錢	外径2.43 内径0.59 厚さ 0.1			熙寧元寶 北宋 初鑄年1068年
26-60	"	銅錢	外径2.47 内径0.7 厚さ 0.1			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-61	"	銅錢	外径2.45 内径0.62 厚さ 0.11			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-62	"	銅錢	外径2.38 内径0.69 厚さ 0.1			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-63	"	銅錢	外径2.51 内径0.68 厚さ 0.11			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-64	"	銅錢	外径2.48 内径0.64 厚さ 0.11			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-65	"	銅錢	外径2.41 内径0.69 厚さ 0.08			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-66	"	銅錢	外径2.5 内径0.69 厚さ 0.13			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-67	"	銅錢	外径2.44 内径0.69 厚さ 0.11			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-68	"	銅錢	外径2.38 内径0.57 厚さ 0.12			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年
26-69	"	銅錢	外径2.15 内径0.61 厚さ 0.09			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年 f.磨輪
26-70	"	銅錢	外径2.18 内径0.6 厚さ 0.12			元豐通寶 北宋 初鑄年1078年 f.磨輪
26-71	"	銅錢	外径2.18 内径0.63 厚さ 0.08			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年 f.磨輪
26-72	"	銅錢	外径2.24 内径0.67 厚さ 0.1			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年 f.磨輪
26-73	"	銅錢	外径2.42 内径0.65 厚さ 0.11			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-74	"	銅錢	外径2.44 内径0.67 厚さ 0.13			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-75	"	銅錢	外径2.39 内径0.67 厚さ 0.11			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-76	"	銅錢	外径2.46 内径0.55 厚さ 0.08			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-77	"	銅錢	外径2.4 内径0.53 厚さ 0.1			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-78	"	銅錢	外径2.4 内径0.64 厚さ 0.13			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-79	"	銅錢	外径2.49 内径0.62 厚さ 0.07			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-80	"	銅錢	外径2.43 内径0.72 厚さ 0.13			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-81	"	銅錢	外径2.45 内径0.65 厚さ 0.12			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-82	"	銅錢	外径2.43 内径0.56 厚さ 0.12			元祐通寶 北宋 初鑄年1086年
26-83	"	銅錢	外径2.46 内径0.64 厚さ 0.11			紹聖元寶 北宋 初鑄年1094年
26-84	"	銅錢	外径2.39 内径0.55 厚さ 0.12			紹聖元寶 北宋 初鑄年1094年

表11 遺物観察表(9)

()は復元値

挿図番号	出土面・遺構	種別	口径	底径	器高	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉薬 e.焼成 f.備考
			(cm)	(cm)	(cm)	
26-85	第7面 埋設曲物	銅錢	外径2.39 内径0.61 厚さ 0.11	元符通寶 北宋 初鑄年 1098年		
26-86	"	銅錢	外径2.48 内径0.58 厚さ 0.12	聖宋元寶 北宋 初鑄年 1101年		
26-87	"	銅錢	外径2.39 内径0.73 厚さ 0.11	聖宋元寶 北宋 初鑄年 1101年		
26-88	"	銅錢	外径2.33 内径0.63 厚さ 0.1	聖宋元寶 北宋 初鑄年 1101年 f.磨輪		
26-89	"	銅錢	外径2.44 内径0.6 厚さ 0.1	大觀通寶 北宋 初鑄年 1107年		
26-90	"	銅錢	外径2.52 内径0.62 厚さ 0.13	大觀通寶 北宋 初鑄年 1107年		
26-91	"	銅錢	外径2.48 内径0.62 厚さ 0.11	政和通寶 北宋 初鑄年 1111年		
26-92	"	銅錢	外径2.44 内径0.55 厚さ 0.11	淳熙元寶 南宋 初鑄年 1174年 f.背文「九」		
26-93	"	銅錢	外径2.37 内径0.65 厚さ 0.13	嘉定通寶 南宋 初鑄年 1208年 f.背文「十三」		
27-1	第7面P-3	かわらけ	(12.4)	(7.6)	3.2	a.ロクロ 外底回転糸切痕 b.微砂 海綿骨芯少量 やや粗土 c.黄灰色 e.良好
27-2	第7面遺構外	かわらけ	7.2	5.1	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
27-3	"	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.9	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 良土 c.黄灰色 e.やや甘い f.全体的に煤付着黒っぽい
27-4	"	かわらけ	(6.2)	(4.2)	2.0	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
27-5	"	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.7	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
27-6	"	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.8	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-7	"	かわらけ	(12.5)	(7.1)	(3.8)	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄灰色 e.やや甘い
27-8	"	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.5	a.ロクロ 外底回転糸切痕 板状圧痕 b.微砂 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 土丹粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好
27-9	"	龍泉窯 青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片		a.ロクロ 複弁蓮弁片切彫 b.灰色 精良堅緻 黒色粒多め d.灰緑色不透明 内外面施釉 気泡あり	
27-10	"	龍泉窯 青磁 鎬蓮弁文碗	体部片		a.ロクロ 複弁蓮弁片切彫 b.灰色 精良堅緻 黒色粒 d.灰緑色透明 内外面施釉	
27-11	"	龍泉窯 青磁 無文碗	底部～高台部小片		a.たたみ付け露胎 断面三角高台 b.灰色 精良堅緻 黒色粒 d.暗灰緑色不透明 内外面・高台部施釉 外面やや厚手施釉	
27-12	"	白磁 口兀碗	口縁～体部片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 黒色粒 d.灰白色不透明 口縁部剥ぎ取り 外面薄手施釉 ピンホール有り	
27-13	"	白磁 口兀碗	体部片		a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 黒色粒 d.灰白色不透明 薄手施釉	
27-14	"	常滑 片口鉢II類	口縁部片		a.輪積技法 口縁部横位ナデ 以下指頭圧痕とナデ b.明灰色 砂粒 白色粒多め 黒色粒 小石粒 d.口縁部内面斑に自然降灰 e.硬質	
27-15	"	常滑 片口鉢I類	高台部片		a.輪積技法 貼付高台 口縁部横位ナデ 以下指頭圧痕とナデ b.灰色 砂粒 白色粒多め 小石粒 c.外面：暗茶褐色 内面・底部：茶褐色 e.硬質 f.内面使用による摩耗	
27-16	"	常滑 龍	口縁部片 縁帯幅1.5		a.輪積み技法 内面指頭痕 b.茶褐色 白色粒少量 砂粒 c.暗茶褐色 e.硬質	
27-17	"	常滑 龍	口縁部片 縁帯幅2.2		a.輪積み技法 内面指頭痕 b.暗茶褐色 白色粒少量 砂粒 c.褐色 d.口縁部自然降灰 f.中野編年6型式	
27-18	"	磨り常滑	長さ 4.8 × 幅 6.2 × 厚さ 1.1	b.灰色 f.内外表面以外全て摩耗		
27-19	"	磨り常滑	長さ 8.4 × 幅 9.5 × 厚さ 1.1	b.灰色 砂粒 小石粒やや多め c.茶褐色 d.灰緑色 f.破断面摩耗		
27-20	"	滑石鍋	底部小片		a.外底面にノミ状工具の削り加工 f.内部擦痕・摩耗痕 二次焼成を受けている	
27-21	"	砥石	長さ 12.8 × 幅 7.6 × 厚さ 5.6	f.中砥 伊予産 流紋岩質粗粒凝灰岩 表裏側面全てに使用痕あり 側面ノミ状工具による削り出し痕		
27-22	"	漆器 梶	体部小片		f.黒地に朱漆で菊花スタンプ 漆の剥れ著しく状態劣悪	

第四章　まとめ

本遺跡の名称が示す「名越」は大町の東の一帯の総称で鎌倉時代からの地名で山王ヶ谷開口部に位置し、鎌倉時代に建立された山王堂が存在した旧境内の一角と推定されている。今回の発掘調査は面積が狭く遺構の面的な拡がりから全体の様相を把握するまでには至っておらず、掘削深度の規制により中世地山面の平面的な調査を実施することができなかった。遺跡の営為がいつから始まり、どのような土地利用が行われていたのかを考えてみたい。なお本章の引用・参考文献に関しては第1章を参照してほしい。

名越山王堂跡の遺跡名称が示している「名越」は大町の東の一帯の総称、鎌倉時代からの地名で『吾妻鏡』のところどころにこの名が現れる。北条時政以来北条氏の居館があったといい、問注所執事にあたる三善氏や佐竹秀義以来、大寶寺がある谷戸に居館があったという伝承が知られる。また佐竹天王祭は八雲神社の神輿巡行の際、祇園山の東裏の佐竹屋敷に所在する佐竹一族を祀る五輪塔群の前に神輿を据えて祭を行い、その際に大寶寺にも参向するという。さらに「山王」の名称は、中国の天台山守護神の山王元弼真君に由来すると伝える。最澄が中国へ渡来し、天台山国清寺の山王祠にならって比叡山の守護神・地主神として祭ったのがその始まりであり、日吉權現とか山王權現と呼ばれて比叡の山岳信仰と深くかかわっている。

ところで調査地は山王ヶ谷と呼ばれ、この谷戸には『吾妻鏡』の火災記事などにみられる「名越山王堂」が所在していたと考えられ、谷戸奥には山王社の小さな祠が祀られていることなどから伝承地に比定されている。古くは赤星直忠氏らによって昭和9・10年(1934~35)に踏査・発掘調査が行われ、石垣と中世瓦片の散布した状況が確認している(沢1972)。その後、谷戸の北奥部で昭和61~63年(1986~88)にかけて企業の研修所改築に伴う発掘調査が実施され、石積基壇もつ三間四方の礎石建物である。母屋は桁行3間(25.5尺)・梁行3間(24尺)で四周に5尺の「裳階」が取りつく構造であり、寺院の本堂に類する礎石建物跡との指摘がなされている(斎木1990 鈴木亘氏による礎石建物跡のコメントを掲載)。またやぐら状の岩窟内で火を焚き、五穀や宝物(ガラス・水晶製数珠玉、銅製仏具)を火中に焼べるような呪術的な修法を推測される場跡を窺わせた。年代的には概ね13世紀末葉~14世紀前半頃に比定される。この地が鎌倉における山王信仰の拠点、旧境内地であった可能性を想定したいところであるが、創建期を含めて13世紀後半に遡る時期については掘削深度の関係上、調査が実施されていないため解明されていなのが現状である。

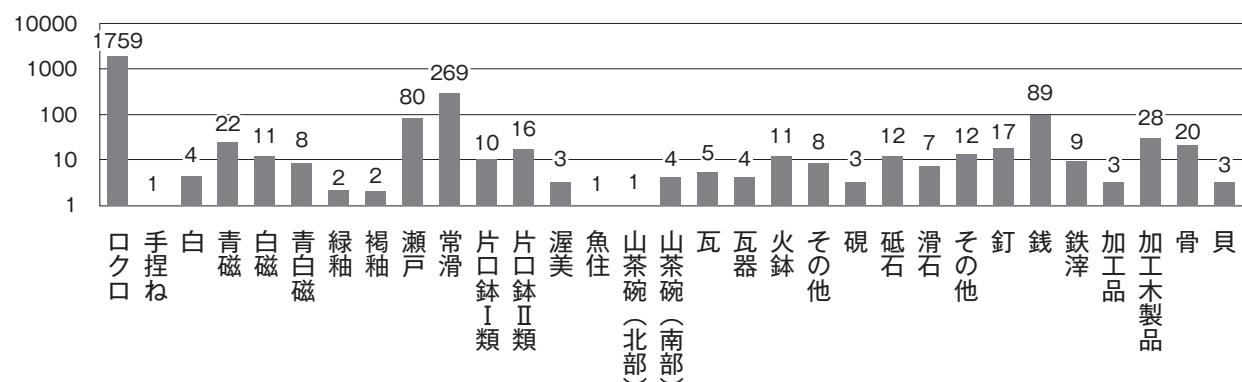
図1に示した今回の調査地点周辺で実施された調査事例について触れてみたい。名越大谷では県道鎌倉・葉山線に近い谷戸の開口部で比較的多くの調査事例が報告されているが、山王ヶ谷、花ヶ谷、釈迦堂口、黄金ヶ谷などの各支谷の低地部での発掘調査は7か所と殆んど実施されていないのが現状である。この谷戸の調査事例は、急傾斜地における崩落対策の一環として実施されたやぐらが調査主体を占めており(図1-A~G地点)、特に本地点裏手丘陵の東側支谷に位置した山王堂東谷やぐら群では多数のやぐらが点在していることは興味深い点である。名越大谷には山王堂推定地をはじめ、善導寺・慈恩寺・木束寺などの所在地の不明な廃寺の伝承が知られているが、今後も調査の成果を積み重ねていけば徐々に明らかになっていくことであろう。

次に出土遺物から各生活面の年代観について簡単に触れてみたい。第7面は土坑、埋設曲物、角柱や礎板を伴うピットを確認したが、掘立柱建物など何らかの建物を構成する柱穴と認識できなかった。出

表12 層位別遺物の出土数量表

種類 \ 出土地	第1面	第2面	第3面	第4面	第5面	第6面	第7面	個数	比率 (%)
かわらけ	ロクロ	233	93	330	274	328	373	128	1759
	手捏ね	0	0	0	0	0	0	1	0.04
	白	0	0	1	2	1	0	4	0.2
舶載陶磁器	青磁	4	5	0	4	1	2	6	22
	白磁	2	0	1	2	1	0	5	0.5
	青白磁	0	2	3	2	0	1	0	0.3
	緑釉	0	0	2	0	0	0	0	0.1
	褐釉	0	0	0	1	0	1	0	0.1
国産陶磁器	瀬戸	26	19	8	5	18	4	0	80
	常滑	28	31	44	37	31	34	64	269
	片口鉢I類	0	1	0	1	0	3	5	10
	片口鉢II類	4	0	1	9	1	1	0	16
	渥美	0	0	0	0	0	1	2	0.1
	魚住	1	0	0	0	0	0	0	0.04
	山茶碗(北部)	0	0	0	0	1	0	0	1
	山茶碗(南部)	1	1	0	0	0	1	1	0.2
土製品	瓦	1	3	0	0	0	1	0	5
	瓦器	1	1	0	0	1	1	0	4
	火鉢	7	1	0	2	0	1	0	11
	その他	3	2	0	0	1	1	1	8
石製品	硯	0	1	2	0	0	0	0	3
	砥石	4	0	2	4	1	0	1	12
	滑石	2	0	0	2	1	0	2	7
	その他	4	1	3	0	0	3	1	12
金属製品	釘	6	2	4	1	2	1	1	17
	銭	0	1	1	2	0	0	85	89
	鉄滓	0	2	0	6	1	0	0	9
骨角製品	加工品	0	0	1	1	1	0	0	3
木製品	加工木製品	0	0	0	3	0	4	21	28
自然遺物	骨	2	0	0	3	11	4	0	20
	貝	0	0	0	0	0	2	1	3
合計		329	166	403	361	401	439	325	2424
比率		14	7	17	15	16	18	13	100%

表13 種類別遺物の出土比率表



土遺物の組成からおおよそ13世紀後葉頃と思われる。さらに調査区南壁に沿ってトレントを入れたが中世基盤層の地山面上からは地形層や、それに伴う遺構を確認することはできなかった。

第6・5面の様相は、第6面のような土丹版築面や貝砂撒いた面などの丁寧な地形面の空閑地が形成され、第5面では部分的な検出に留まるが掘立柱建物がみられたことから前代とは異なる敷地利用が読み取れる。両面の年代は出土遺物からみて13世紀後葉～14世紀前葉頃と考えられる。

第4・3面を特徴づけるのは、板囲建物や井戸などである。板囲建物の周囲は通路状に土丹塊を貼り付けて積み増し、木枠を備えた井戸が開鑿されており永続的な生活が営まれていたことは確実である。出土遺物の年代観からおおよそ14世紀前半頃の時期に比定したいところである。

第2面と第1面は図6-34・36の瀬戸天目茶碗や平碗、かわらけの背高気味で口縁部が開きながら外反した器形などの型式から15世紀代と考えられる。第2面からも図9-8・11・13の資料のように時代的に下る遺物も少量出土しており、その存在を考慮すれば、両生活面の年代差は大きく違わず、14世紀後葉から15世紀中頃まで存続していたと思われる。

表12・13に示したように出土遺物について観察すると、分類の困難な小破片を除き接合後の破片数の合計は、2,424点が得られた。このうち大多数を占めているのが、ロクロ成形のかわらけで1759点で総出土量の7割以上の出土比率を示しており、手づくね成形は中世地山面上の包含層に伴う1点だけであった。陶磁器類では常滑窯の甕や片口鉢が全体の12%強とかわらけに次いで高い出土比率であるのに対し、瀬戸窯製品3.3%、貿易陶磁器は総て合わせても2%にも満たない出土量を示しているのが出土傾向の特徴になろう。

以上のように低地部の僅かな調査事例の成果をもとに、谷戸全体の性格を類推することしかできないので、今後の調査の進行に注目して行きたいところである。

【引用文献】

沢 寿郎・赤星直忠 1972『鎌倉－史蹟めぐり会記録－』鎌倉文化研究会

第十八回 昭和九年一月二十八日と第二十九回 昭和十年四月廿八日には名城山王堂の踏査と発掘調査の記録を赤星直忠氏が掲載している。

斎木秀雄 1990『名越・山王堂跡発掘調査報告書－電通鎌倉研修所改築に伴う中世寺院跡の発掘調査報告－』同遺跡発掘調査団



◀ a. 山王堂跡の谷を望む
(南から)

▶ b.
第1面全景
(南から)



◀ c. 第1面全景 (西から)



第1面

図版2



◀ a. 第2面全景(南から)

▶ b.
P11
かわらけ出土状況



◀ c. 第3面全景(南から)





◀ a. 第3面全景(西から)



▲ b. 面上遺物出土状況



▶ c. 第3面全景(西から)



◀ d. 第3面建物1
(東から)

図版4



◀ a. 第4面全景(南から)

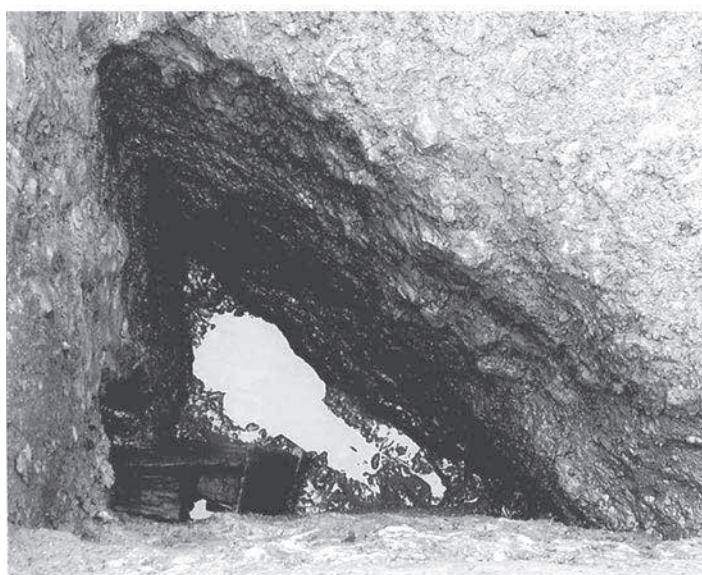
▼ b. 第4面全景(西から)



▼ c. 滑石製スタンプ出土状況



▼ d. 井戸 1 (西から)



▼ e. 井戸 1 木枠





▼b. 建物1 (北から)



▼d. 建物1 Pハ



▼c. 第5面全景 (東から)

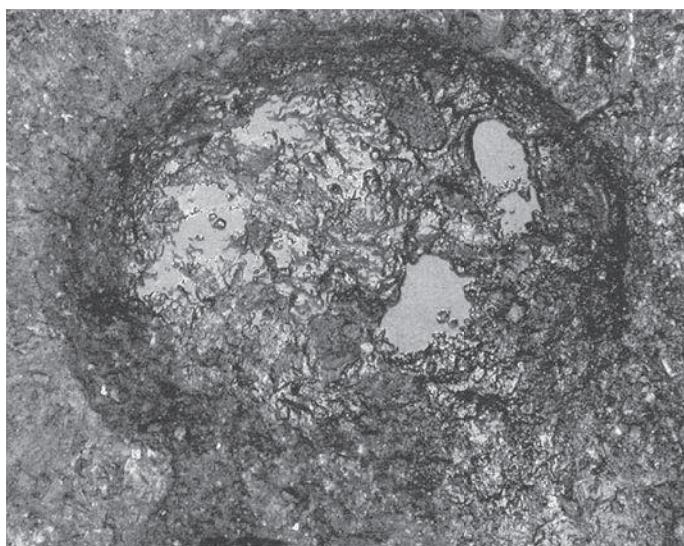


▼e. 面上馬齒出土状況



図版6





▲a. 土坑 1



▲b. P2柱跡



◀d. 常滑窯出土状況



◀c. P2土層断面



◀f. 曲物内出土のさし銭



◀e. 曲物

図版8



▲a. 調査区南壁土層断面



▲b. 調査区北壁土層断面



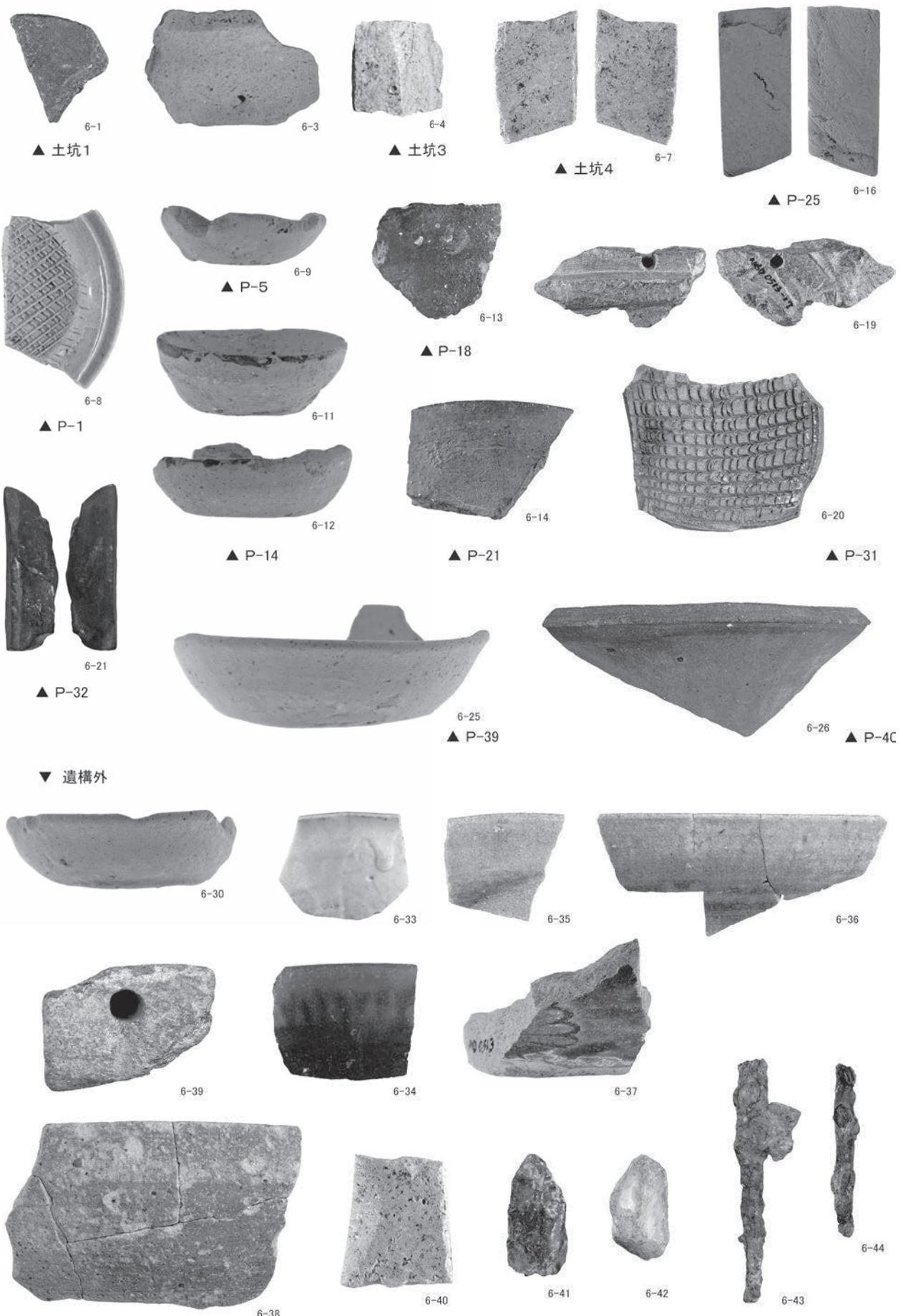
▲d. 井戸1



▲c. 調査区北壁西端土層断面

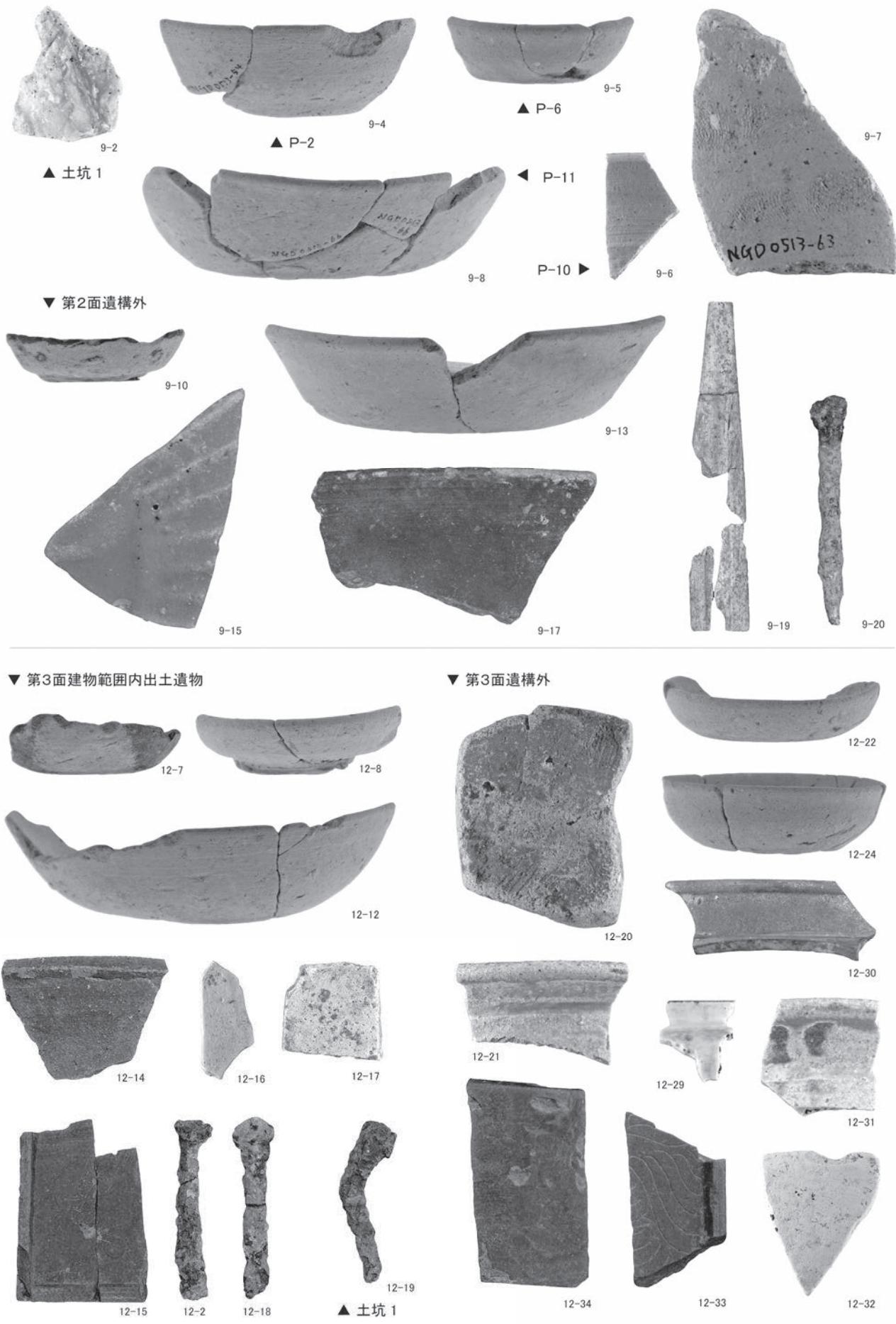


▶e. 井戸1木枠検出状況
横桟の検出状況

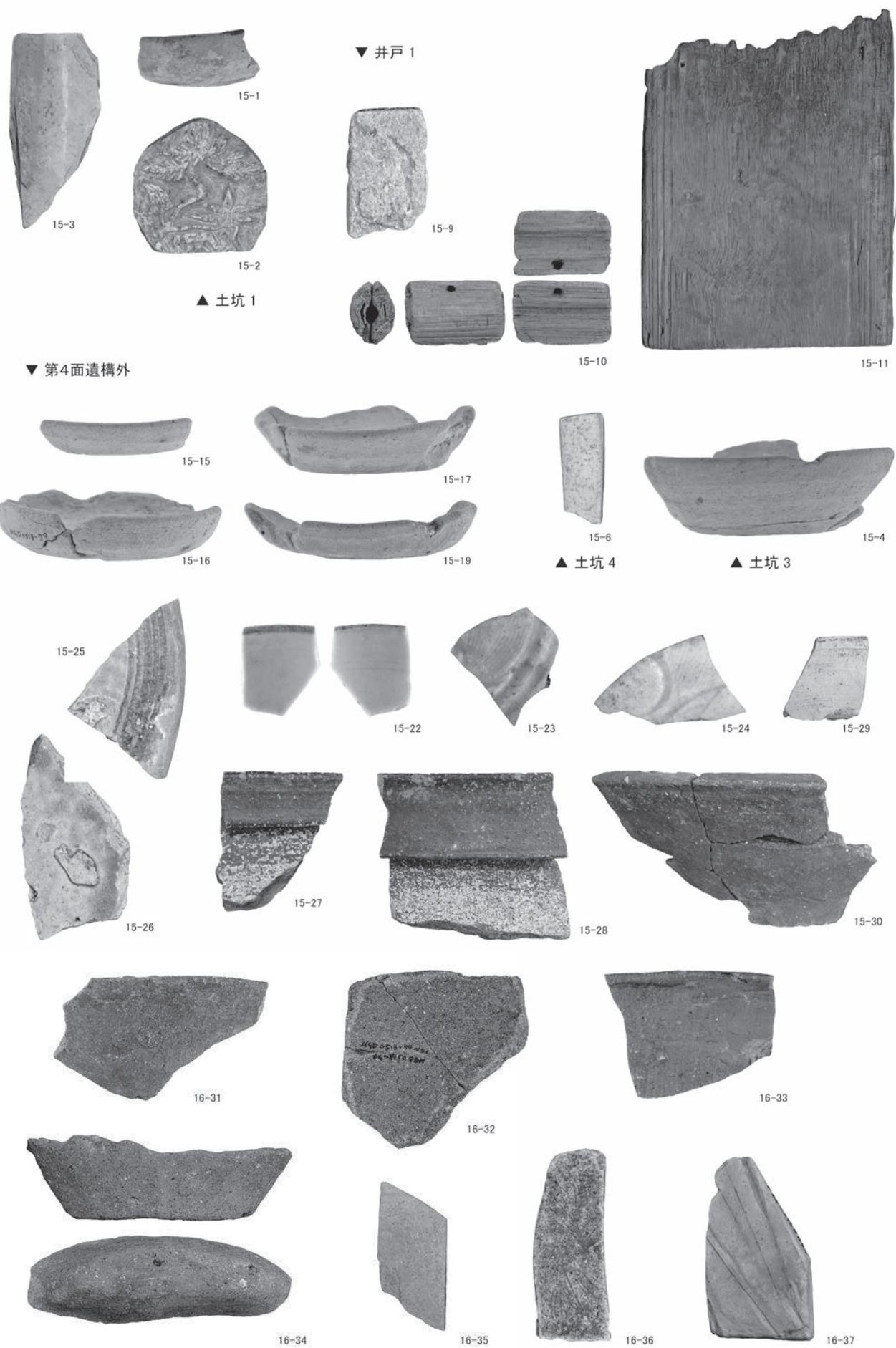


第1面各遺構

図版10

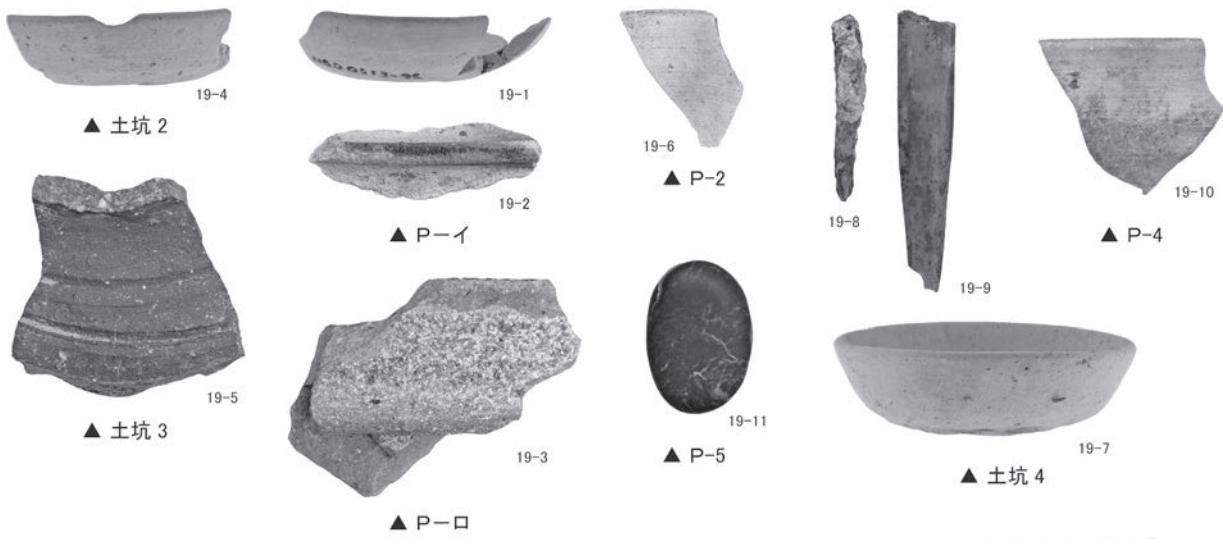


第2・3面各遺構

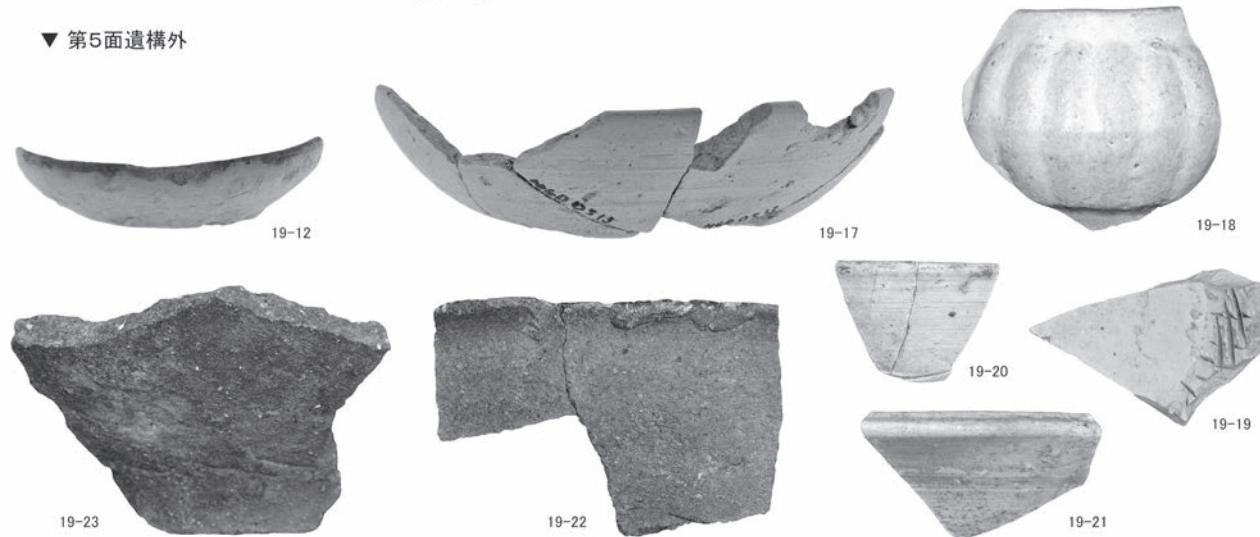


第4面各遺構

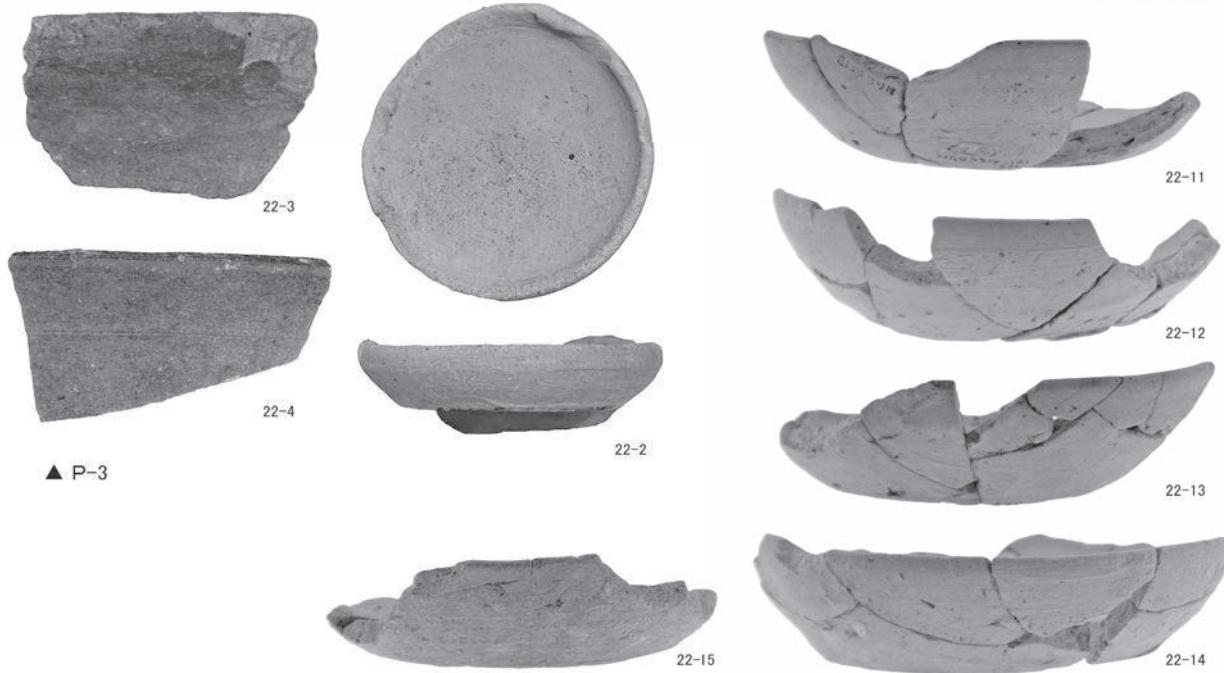
図版12



▼ 第5面遺構外

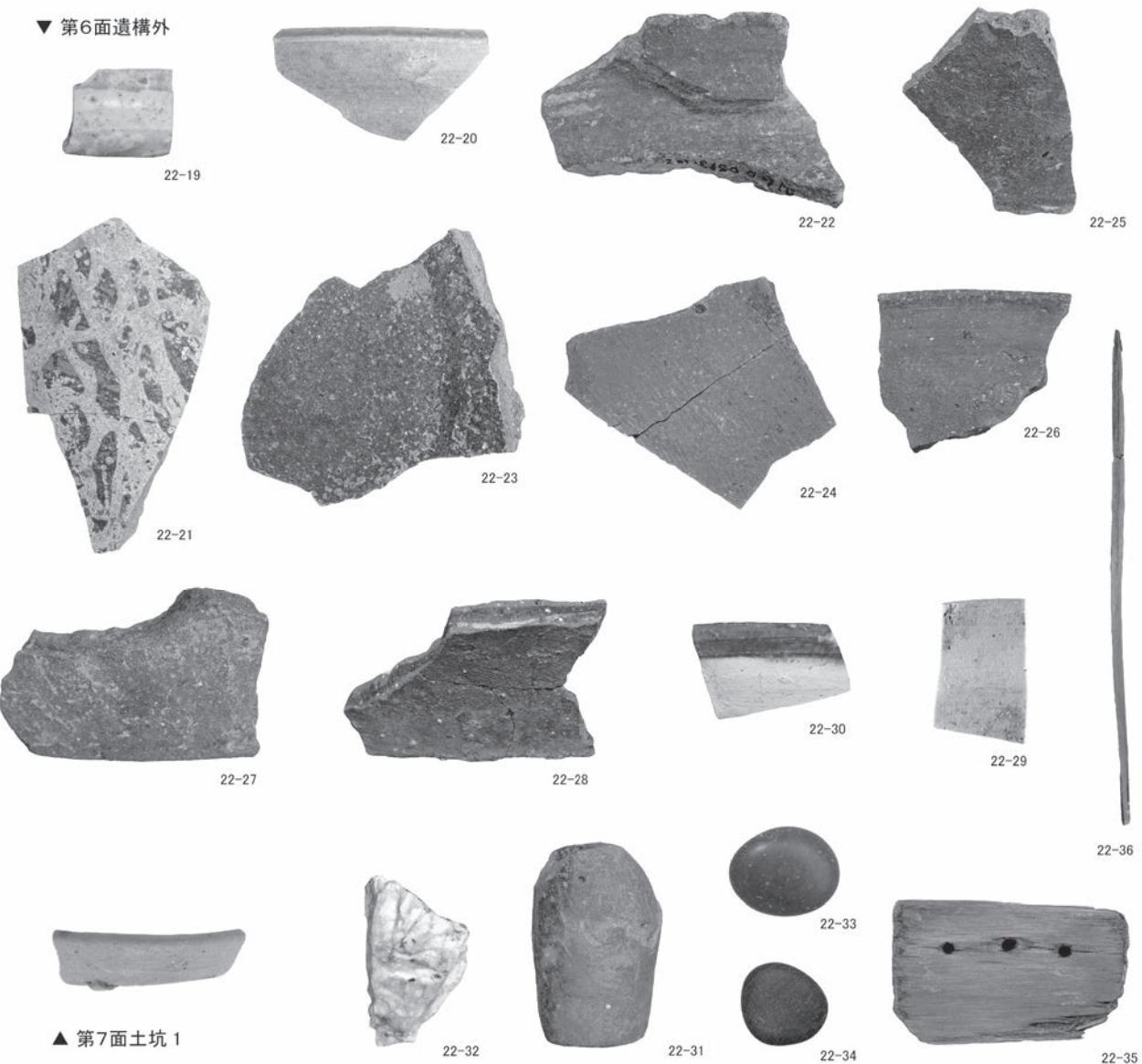


▼ 第6面遺構外



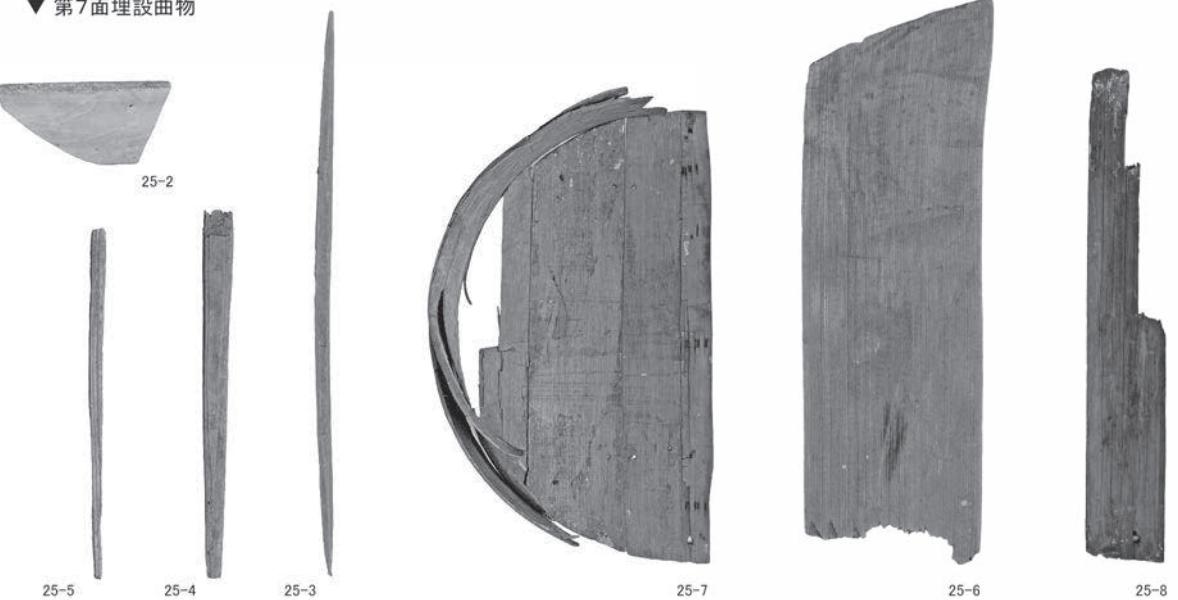
第5面各遺構・第6面遺構外

▼ 第6面遺構外



▲ 第7面土坑 1

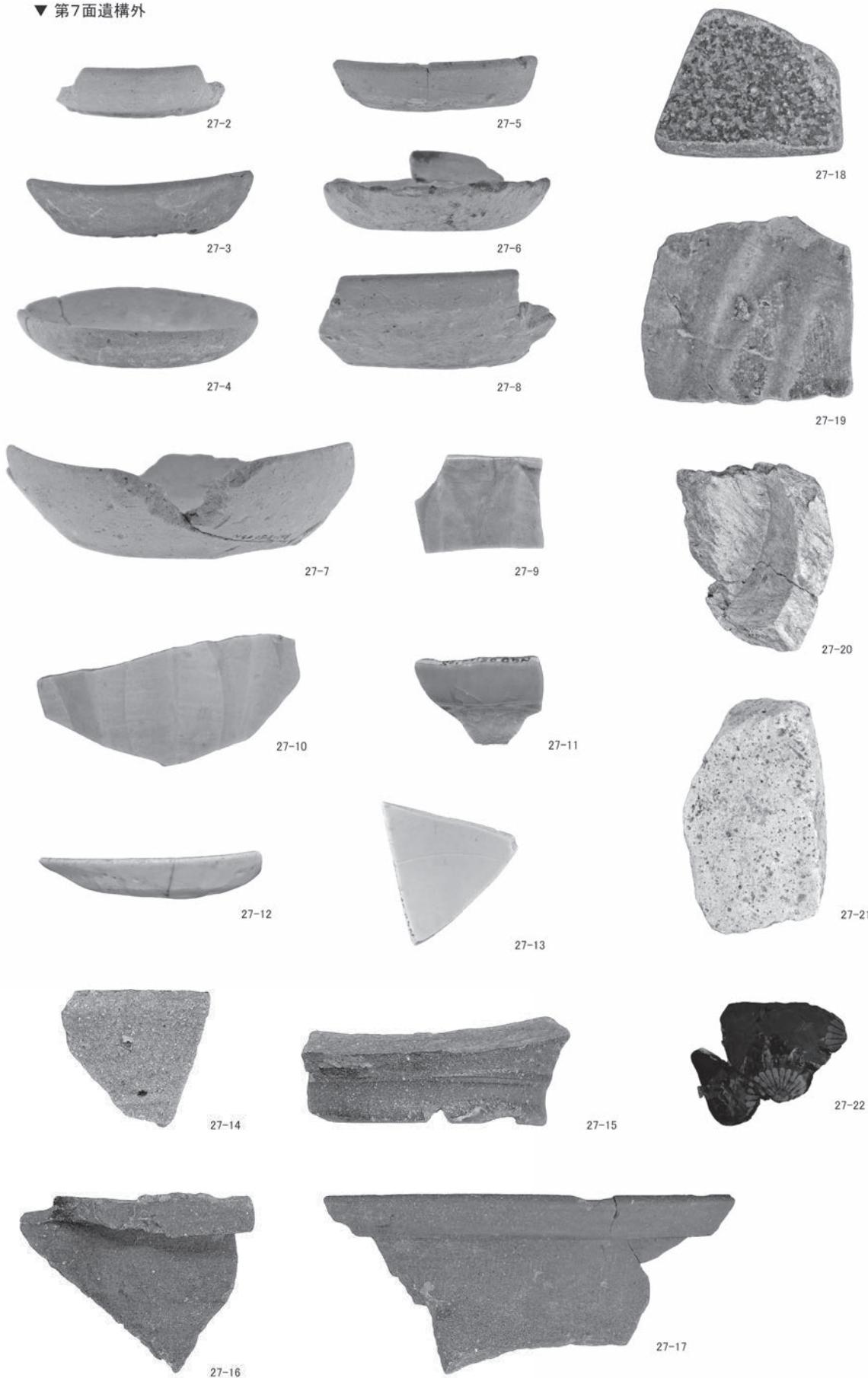
▼ 第7面埋設曲物



第6面遺構外・第7面各遺構

図版 14

▼ 第7面遺構外



第7面遺構外

若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

小町三丁目 422 番 2 外地点

例 言

1. 本報は鎌倉市小町三丁目422番2外地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人専用住宅に係る建築範囲78m²を対象とし、平成17年10月31日から平成18年2月6日にかけて実施した。
3. 現地調査体制は以下の通り。

担当者 伊丹まどか

調査員 宇都洋平・鍛冶屋勝二・本城裕

作業員 川崎由紀夫・倉沢六郎・佐藤美隆・鈴木順治・(社)鎌倉市シルバー人材センター

4. 本報作成は以下の分担で行った。

遺物実測 石元道子・岡田慶子・根本志保・松原康子・吉田桂子・渡辺美佐子

遺物写真 須佐仁和

遺構写真 宇都洋平・鍛冶屋勝二

遺構図版作成 岡田慶子

遺物図版作成 岡田慶子

写真図版作成 田畠衣理

執筆・編集 伊丹まどか・松吉大樹・田畠衣理

5. 出土品等発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は次のとおりである。

遺構全測図：1/60 個別遺構図：1/40 実測遺物図：1/3 銭：1/1

なお各挿図にはスケールを表示してある。

・「かわらけ」と表記してある場合は「轆轤成形」の土器であり、「手づくね成形」の土器に関しては「手づくね」と表記した。

・遺物に付着した油煤痕、および漆付着痕は共に黒色で表しているが、文章中で説明している。

・出土遺物の計測値は観察表に掲載しているが、()内は復元値および、遺存値である。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物計測値および、実測できなかった遺物の破片数は表にまとめて掲載してある。

8. 出土した遺物及び、調査資料は鎌倉市教育委員会が保管している。

9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

秋山哲雄・沖元道・菊川泉・古田土俊一・斎木秀雄・佐藤仁彦・汐見一夫(砥石)・鈴木亘

梅岡渓音・手塚直樹・浜野浩美・原廣志(瓦)・福田誠・本澤慎輔・馬淵和雄・宮田眞・八重樫忠郎

目 次

本文目次

第一章 遺跡概要	225
1. 遺跡の位置と歴史的環境 (図1)	
2. 調査の経過 (図2)	
3. 層序 (図3)	
第二章 発見した遺構と遺物	232
第1節 第4面の遺構と遺物 (図4～図13)	
第2節 第3面の遺構と遺物 (図14～図21)	
第3節 第2面の遺構と遺物 (図22～図30)	
第4節 第1面の遺構と遺物 (図31～図40)	
第三章 まとめ	283
検出した遺構と遺物	
出土遺物観察表	
遺構計測表	

挿 図 目 次

図1 調査地点とその周辺の位置図	226
図2 グリッド配置図	229
図3 堆積土層図	231
図4 第4面全測図	233
図5 第4面個別遺構図	234
図6 第4面遺構出土遺物	235
図7 遺構131個別遺構図・堆積土層図	237
図8 遺構131・エレベーション図	238
図9 遺構131内・個別遺構出土遺物	239
図10 遺構131底面出土遺物	239
図11 構造模式図	240
図12 遺構131一括出土遺物	241
図13 第4面・礎石建物址 ・遺構362出土遺物	242
図14 第3面全測図	244
図15 遺構95・遺構111	245
図16 第3面個別遺構図(1)	246
図17 第3面個別遺構図(2)	247
図18 第3面個別遺構出土遺物	249
図19 第3面個別遺構出土	250
図20 第3面面上出土遺物	255
図21 第3面構成土	256
図22 第2面全測図	258
図23 遺構65・出土遺物	259
図24 遺構88・出土遺物	260
図25 遺構104・出土遺物	262
図26 遺構219・出土遺物	263
図27 第2面遺構・個別平面図	264
図28 第2面遺構出土遺物	265
図29 第2面上出土遺物	266
図30 第2面構成土出土遺物	267
図31 第1面全測図	269
図32 第1面個別遺構図	270
図33 第1面・個別遺構出土遺物	271
図34 第1面・面上出土遺物	275
図35 第1面・構成土出土遺物(1)	276
図36 第1面・構成土出土遺物(2)	277
図37 第1面・構成土出土遺物(3)	278
図38 第1面・構成土出土遺物(4)	279
図39 第1面・構成土出土遺物(5)	280
図40 第1面・構成土出土遺物(6)	281
図41 表採出土遺物	282

図 版 目 次

図版 1	304	図版 6	309
I 区 第 1 面全景 (西から)		第 4 面遺構 149	
I 区 調査区東側遺構群 (西から)		第 4 面遺構 159	
II 区 第 1 面全景 (東から)		第 4 面遺構 166 (柱痕)	
図版 2	305	第 4 面遺構 151 (柱痕)	
I 区 第 2 面全景 (西から)		第 4 面遺構 151 (柱痕アップ)	
II 区 第 2 面全景 (北から)		図版 7	310
I 区 第 3 面全景 (西から)		第 4 面各遺構出土遺物	
図版 3	306	図版 8	311
II 区 第 3 面全景 (西から)		第 3 面各遺構出土遺物	
II 区 第 4 面全景 (西から)		図版 9	312
第 2 面遺構 219 (北から)		第 3 面遺構外出土遺物	
図版 4	307	第 2 面各遺構出土遺物	
第 1 面構成土 刀子 (図39-144) 出土状況		図版 10	313
第 2 面遺構 65・88・99・104		第 2 面各遺構出土遺物	
第 2 面遺構 88		第 2 面遺構外出土遺物	
第 3 面遺構 111		図版 11	314
第 2 面遺構 73		第 1 面各遺構出土遺物	
第 2 面遺構 65		第 1 面遺構外出土遺物	
第 2 面遺構 195・196		図版 12	315
第 3 面遺構 113		第 1 面遺構外出土遺物	
図版 5	308		
第 4 面遺構 131 十字ベルト状況 (南から)			
第 4 面遺構 131 (北から)			
第 4 面遺構 131 根太出土状況 (南から)			
第 4 面遺構 131 ベルト西側 (南から)			
第 4 面遺構 132 (北から)			
第 4 面遺構 131 根太出土状況 (南から)			

第一章 遺跡概要

1. 遺跡の位置と歴史的環境（図1）

本調査地点は現在の小町大路から少し東に入ったところに位置する。小町という地名について『新編相模国風土記稿』は、この場所が鎌倉時代の街の中心地であり、町屋が多数あったことによるし、商いの大きい、小さいをもって大町、小町と唱えたと伝えている。その範囲は、『鎌倉志』によると「若宮小路ノ東ヨリ南へ折て行、夷堂橋までの間を云」とあり、現在の雪ノ下の南辺りから本覚寺の夷堂橋付近までの地域を指していると思われる。

小町の史料上の初見は『吾妻鏡』建久二(1191)年三月四日条で「丑刻小町大路辺失火、江間殿、相模守、村上判官代、比企右衛門尉、同藤内、佐々木三郎、昌寛法橋、新田四郎、工藤小次郎、佐貫四郎已下屋敷數十宇焼亡」とあり、その余炎が鶴岡八幡宮にまで及んだという内容である。承元四(1210)年十一月廿日条には「戌刻焼亡、北風甚利、相模太郎殿小町御亭并近隣御家人宅等災」とあり、北条泰時亭と御家人宅が多数存在していた地域であったことが分かる（註1）。また建保元(1213)年五月二日条、いわゆる和田義盛の乱では、和田義盛は「幕府南門并相州御第〈小町上〉西北両門」と北条義時第を囲んでいる。北条氏が幕政に影響を及ぼすようになると、北条氏と他の御家人の間にも主従関係を持つような事例が見られるようになる。それは小町にある北条氏亭にも表れており、例えば、元仁元(1224)年六月廿七日条には「武州被移鎌倉亭〈小町西北〉、日者所被加修理也、閔左近大夫将監実忠、尾藤左近将監景綱兩人宅在此音内也」とあり、また嘉禎二(1236)年十二月十九日条は小町の事例ではないが「武州御亭御移徙也、日来御所北方所被新造也、被建檜皮葺屋并車宿、是為將軍家入御云云、御家人等同構家屋、南門東脇尾藤太郎、同西平左衛門尉、同（並）西大田次郎、南角諏方兵衛入道、北土門東脇万年右馬允、同西安東左衛門尉、同並南条左衛門尉宅等也云云」と、北条泰時亭の四隅を尾藤などの後の御内人と呼ばれる北条氏嫡流得宗流の被官が家屋を連ねていたことが分かる（註2）。小町の北条氏亭もその様な形態を為していたのであったことが推測され、嘉禎二(1236)年十二月廿三日条では北条泰時が服喪のために「平左衛門尉小町宅」へと移っている。「平左衛門尉」は平盛綱に比定されるが、この嘉禎二年以前の文暦元(1234)年八月には尾藤景綱にかわり家令に任じられるなど得宗の信任が厚く、盛綱の子である盛時にもその影響力は継承され、盛時の子の頼綱に至っては、当時得宗であった北条貞時や他の北条氏一門に不安を抱かれ討たれることになる。頼綱は祖父盛綱以来の小町の屋敷を伝領していたようで、正応五(1292)年八月廿四日付「覺雅附属状案」（註3）には「但在鎌倉之間、小町平金吾不浅申承之條」と見られるし、彼が得宗に討たれたことを記述している『親元僧正日記』正応六(1293)年四月廿二日条には「経師谷、其次小町放火了、其次笠井屋形放火了、」とあることからも知れる。

他の北条氏一門も小町周辺に屋敷を持っていた。『吾妻鏡』宝治元(1247)年七月十七日条では、北条重時が京都から鎌倉に到着し、「故入道武州経時小町上旧宅」に入っているのが見える。この旧宅は「御所北、面若宮大路」とあるように、御所の北にあって、若宮大路に面して建てられていた。建長三(1251)年十月八日条で、得宗北条時頼は「新造御第〈小町〉」に移っており、また文永二(1265)年七月十六日条では北条政村の亭が小町にあったことを伝える。小町大路周辺には得宗流の亭や他の北条氏一門の屋敷があり、また若宮幕府、宇津宮辻子幕府などがあったと考えられることからも、小町地域が鎌倉の政治的中心部であったことが分かる。



註 周辺の調査地点の位置は文末に表記

図1 調査地点とその周辺の位置図

『吾妻鏡』建長三年十二月三日条では、幕府が以前から鎌倉中に点在する商業取引の場所を「大町、小町、米町、亀谷辻、和賀江、大倉辻、氣和飛坂山上」に特定する旨の触れを出している。また文永二(1265)年三月五日条でも「散在町屋等」を整理して「一所大町、一所小町、一所魚町、一所穀町、一所武藏大路下、一所須地賀江橋、一所大倉辻」に限る旨を触れていることから、小町は幕府の中心地域であったと同時に商業地域としても活況を呈していたのが分かるであろう。『吾妻鏡』治承四(1180)年十二月十二日条は、源頼朝の大倉幕府への移徙について書かれているが、伊藤正義は同条の「又御家人等同構宿館、自爾以降、東国皆見其有道、推而為鎌倉主、所素辺鄙、而海人野叟之外、卜居之類少之、正当于此時間、閭巷直路、村里授号、加之家屋並甍、門扉輾軒云云」の「閭巷直路」を小町大路の開通と読み解き、大倉幕府から由井浦まで小町大路が開通したことで、それまで「通過型」であった鎌倉が「循環滞留型の都市構造へ」と大きく飛躍したとする(伊藤2011)。上述した小町地域の政治的・経済的賑わいは、この時点から始まったのかもしれない。

東勝寺、葛西ヶ谷

当調査地点は東勝寺跡の門前。広く地勢を見れば葛西ヶ谷の一帯とも想定できる。

東勝寺は現在廃寺。宗派は臨済または禪密兼修か。山号は青竜山。開基は北条泰時。開山は退耕行勇とする説と、西勇禅師とするのがある(註4)。退耕行勇は東勝寺で示寂している。関東十刹に列せられ、南山士雲・桑田道海・約翁徳儕などの高僧が住していた(註5)。元亨三(1323)年十一月に行われた北条貞時十三年忌供養では、東勝寺からは53人の僧衆が参列している(註6)。鎌倉幕府滅亡の際、『太平記』は「去程に余煙四方より吹懸て、相模入道殿の屋形近く火懸りければ入道殿、千余騎にて葛西谷に引籠り給ひ、諸大将の兵共は東勝寺に充满たり、是は父祖代々の墳墓の地なれば、爰にて兵共に防矢射させて心閑に自害せん為なり」と伝え、北条高時は最後に一族郎党と共に東勝寺で自害したとする(註7)。「天野文書」ではこれを「葛西谷之合戦」と伝えている(註8)。当寺は鎌倉幕府滅亡後にも存続しており、南北朝・室町を経て戦国には廃寺となっていたようである(註9)。『鎌倉志』では、すでに北条高時の頃に当寺を小町に移し、宝戒寺を建立したと伝えるが未詳。

葛西ヶ谷は宝戒寺の脇を東に入った辺りで、東勝寺跡はこの谷戸に含まれている。『新編相模風土記稿』は、源頼朝の御家人葛西清重の所領が当地にあったことから名付けられたと伝えている。北条義時追討の宣旨を持った朝廷の使者押松丸が葛西ヶ谷で捕えられていることや、谷戸の入口に厩が存在していたこと、先述した鎌倉幕府滅亡の記事などから、戦時下には重要な場所と成り得る地域であったのではないだろうか(註10)。『新編相模風土記稿』は弘治二(1556)年十月に北条氏康が葛西ヶ谷に足利義氏邸を造営したとしている。ただし永禄元(1558)年霜月十一日付北条家朱印状では「北宝戒寺公方屋敷」とあるので、屋敷の位置は明確ではない(註11)。弘治三(1557)年頃のものとされる年未詳八月十五日付足利義氏朱印状(註12)、「小田原所領役帳」では義氏のことを「葛西様」としていることから、当該地域に足利義氏の屋敷が存在していたことは間違いないさうである。

松吉大樹

【註】

- (註1) 屋敷・亭・邸などの所謂居住を示す建物の名称については、基本的に史料に依拠し、特に断りが無い限り人が居住する施設を指す。
- (註2) 石井進はこの状態を「武士社会の堅密な主従関係の空間的な表現」とする(石井・大三輪1989)
- (註3) 「山城醍醐寺文書」(『鎌倉遺文』17989号文書)
- (註4) 「本朝高僧伝」(『大日本佛教全書』102、名著普及会、1979)では退耕行勇を開山とし、「和漢禪刹次第」(『続群書類從』第28輯上 釋家部、)と「扶桑五山記」(『鎌倉市文化財資料第2集』、臨川書店、1983)は、西勇禪師を開山としている。
- (註5) 「元亨积書」(『新訂増補国史大系』、吉川弘文館、1965)
- (註6) 『鎌倉市史』史料編第二、「円覚寺文書」6 9号
- (註7) 卷十、「鎌倉兵火事付長崎父子武勇事」(『日本古典文学大系』、岩波書店、1962)
- (註8) 『神奈川県史』資料編2古代・中世2、3139号
- (註9) 「(永正九年五月廿日付)足利政氏住持職補任状案」京都御所東山御文庫記録甲百七(『神奈川県史資料編3』古代・中世3(下))6501号。「(元亀四年十月十九日付)北条家朱印状」佛日庵文書(『神奈川県史資料編3』古代・中世3(下))8183号など参照。
- (註10) 『吾妻鏡』承久三年五月十九日条。同建長三年二月廿日条
- (註11) 『神奈川県史』資料編3古代・中世3(下)「宝戒寺文書」7115号
- (註12) 『神奈川県史』資料編3古代・中世3(下)「岩本院文書」7042号

【引用・参考文献】

- 秋山哲雄『北条氏権力と都市鎌倉』(吉川弘文館、2006)
- 石井進・網野善彦編『中世の風景を読む－2 都市鎌倉と坂東の海に暮らす』(新人物往来社、1994)
- 石井進・大三輪龍彦編『よみがえる中世3武士の都 鎌倉』(平凡社、1989)
- 石井進『中世史を考える－社会論・史料論・都市論』(校倉書房、1991)
- 伊藤正義『鎌倉由井の市庭一閨巷は路を直し－』(2011年度中世都市研究会「都市的な場」資料集、中世都市研究会、2011)
- 奥富敬之『鎌倉北条氏の基礎的研究』(吉川弘文館、1980、第3版1988)
- 鎌倉考古学研究所『中世都市鎌倉を掘る』(日本エディタースクール出版部、1994)
- 『鎌倉市史総説編』(吉川弘文館、1976)
- 『鎌倉市史社寺編』(吉川弘文館、1976)
- 河野眞知郎『中世都市鎌倉－遺跡が語る武士の都－』(講談社選書メチエ49、1995)
- 菊川英政「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目395番地点 (No.282)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会、1989
- 菊川英政「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目432番2地点 (No.282)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5』鎌倉市教育委員会、1989
- 斎藤利男「「宿館」「宿所」と「本宅」」(『国立歴史民俗博物館研究報告』78、1999)
- 佐藤進一『鎌倉幕府訴訟制度の研究』(歴史書房、1943、再版:岩波書店、1993)
- 高橋慎一朗『中世の都市と武士』(吉川弘文館、1996)
- 北条氏研究会『北条氏系譜人名辞典』(新人物往来社、2001)
- 原廣志「北条高時邸跡 小町三丁目426番3地点 (No.281)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12』(第1分冊)鎌倉市教育委員会、1996
- 細川重男『鎌倉政權得宗專制論』(吉川弘文館、2000)
- 馬渕和雄「北条小町邸跡 雪ノ下一丁目400番1地点 (No.282)」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18』(第2分冊)鎌倉市教育委員会、2002
- 森幸夫「平・長崎氏の系譜」(安田元久編『吾妻鏡人名総覧』、吉川弘文館、1999)
- 貫達人・川副武胤著『鎌倉廃寺事典』(有隣堂、1980)
- 山村亜紀『中世都市の空間構造』(吉川弘文館、2009)

2. 調査の経過（図2）

調査は地表から約50cmの表土及び近現代の堆積層を重機によって掘削除去し、中世遺物包含層を検出した後、約10～20cm下方の破碎泥岩による地業層上まで人力によって掘削し第1面とした。調査の進行で生じた廃土の処理場がなかったため、調査区をI区・II区に分け、片側を廃土置き場として調査を実施した。本報告では分けたI区・II区を合成して報告しているため、遺構番号に付された数字は遺構の新旧を表していない。

調査地の位置と調査区内の遺構を国土座標軸に基づいた地図上で掌握するために光波測量機によるトライバース測量を行った。基準杭としたA点とB点は調査開始時に任意で設定した。A点とB点間の距離は水平方向で4mを測る。全測図に付したグリッド番号は2mの間隔で、南北方向にアルファベットを、東西方向に数字を与えた。座標数値は世界測地系を使用している。

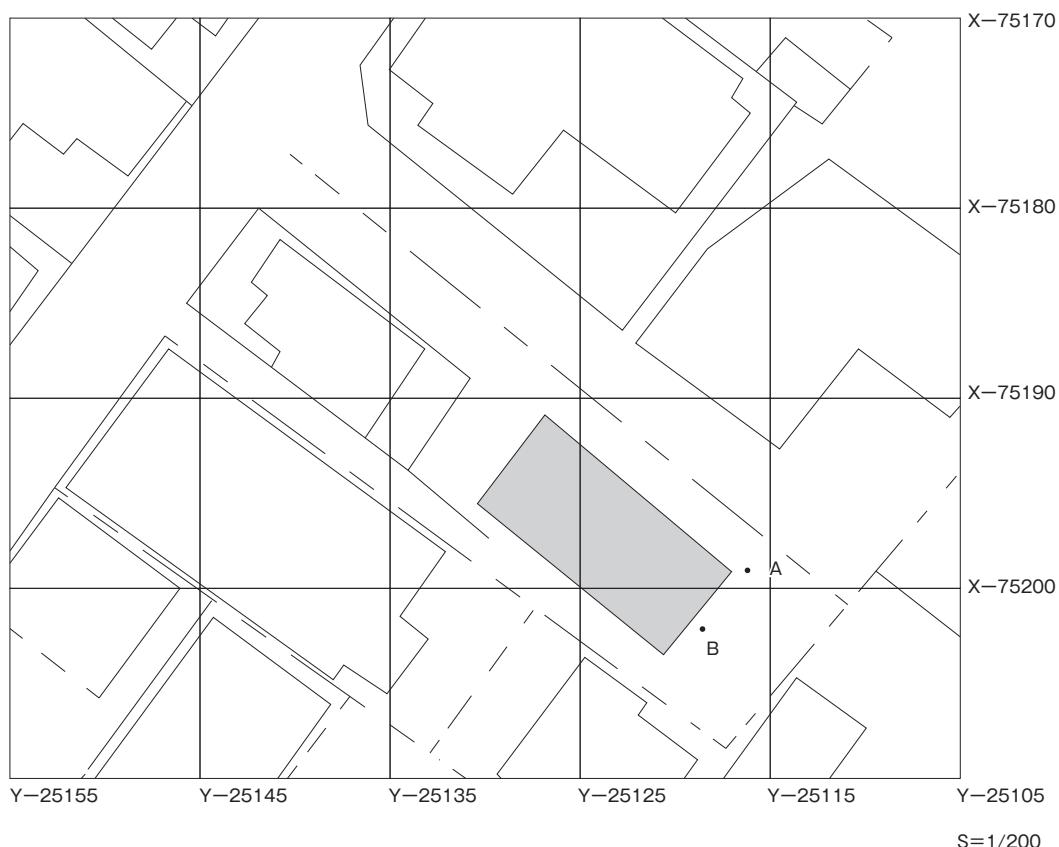


図2 グリッド配置図

3. 層序（図3）

調査区の北壁・南壁・西壁で確認した堆積土層図(図3)を用いて、堆積状況を上層より説明する。調査前現地表海拔高は約10.50mであった。地表から約50cmの表土・近現代の堆積層を重機により取り除き、茶褐色砂質土の中世遺物包含層を検出したが、生活面としては希薄であったため、第5層・第20層上面まで掘り下げて第1面とした。第1面は現代の造成に壊されている箇所もあったが、比較的良好な破碎泥岩による地業を確認している。第1面構成土上層は茶褐色砂質土。下層は暗茶褐色弱粘質土。泥岩、破碎泥岩、かわらけ細片を含む締まりのある土。約40cmの厚さで堆積していた。第2面は第8層・第9層上層で第1面と同様に破碎泥岩による地業を確認した。第2面構成土は暗灰褐色砂質土。第8層は貝砂の混じる砂質土で、平坦に地業してある様子であったが、遺構プランが確認できなかったため、第9層まで下げて第2面とした。第2面は部分的に壊されてはいたが、破碎泥岩による地業を確認している。また泥岩地業層上に、意図的に細かくしたと思えるかわらけの細片が集中的に遺存していた個所があったが、大きな広がりとはならなかった。第3面は第10層上面で確認した。第3面構成土は暗褐色粘質土。上層の遺構に壊され、地業・構成土も部分的にしか確認できなかった。

第4面は第11層上面で遺構を確認した。第4面構成土は暗褐色弱粘質土。第2面から第4面までは短期間に地業が繰り返されて様子で、第3面・第4面共にしっかりとした地業が残っておらず、遺構の切りあいを考慮して生活面を分けている。第4面構成土は約10cmの薄い堆積であり、下層には第19層とした黒色粘質土が堆積する。第19層は中世の地山層であったと考えている。

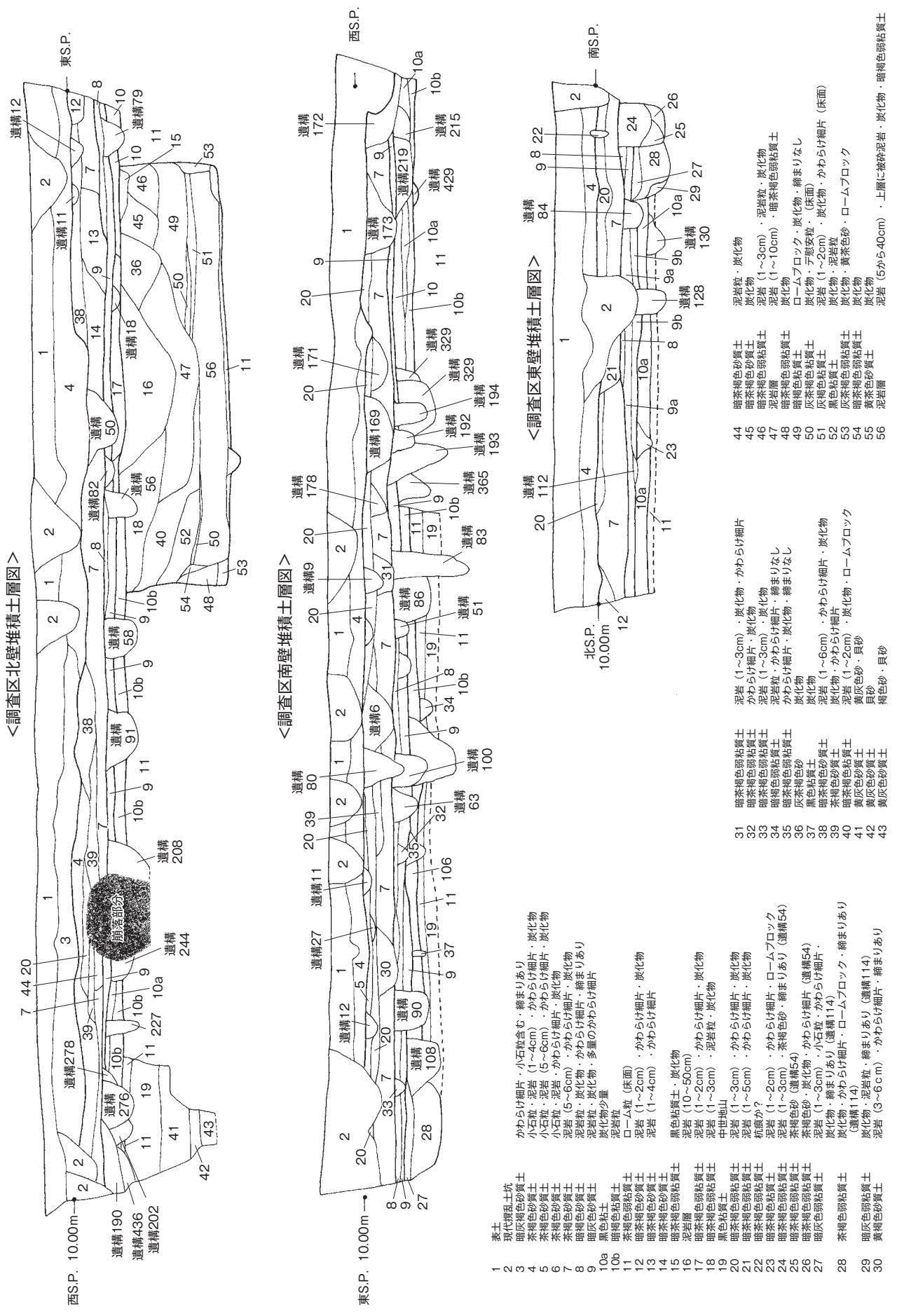


図3 堆積土層図

第二章 発見した遺構と遺物

以下に、今回の調査によって発見した遺構と遺物を、検出した順とは逆に下層から上層に向かって時代を下りながら説明する。また、個別の遺構図面は建物などの遺構のほか、現地で実測した遺構および実測遺物が掲載された遺構を掲載している。個別図面のない遺構の形状・規模は全測図と、遺構計測表を参照していただきたい。

第1節 第4面の遺構と遺物（図4～図13）

第4面は、地表レベル海拔約9.40mを測る。第4面では方形堅穴建築址1軒・礎石建物址・土坑22基・ピット121穴・方形堅穴建築址に伴う土坑1基・ピット23穴を発見した。

第4面と後述する第3面は、短期間に遺構の造り替えが行われ、多くの土坑・ピットが切りあって発見されたが、その大半は調査区の西側に集中する。遺構の切りあいを考慮して、報告では2枚の面に分けたが、それぞれの面で最低3回の造り替えが行われており一期の生活面ではない。

遺構119（図5・図6）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物を多く含み。破碎泥岩・砂質土混入。

- ・図6-1～3は遺構119出土

1～2は手づくね。1は火熱を受けたためか、内外面の器肌が剥離している。口唇部3か所に油煤痕。2は外底部に薄くではあるが板状圧痕がみえる。胎土精良・赤味を帯びた橙色を呈す。図6-3はかわらけ。外底面に板状圧痕。内底部横ナデの後見込み周囲をナデて整形している。破片で手づくねが出土している。

遺構129（図4）

I区とII区の境で確認したために、正確な形状不明になり個別に図示はしていない。破片ではあったが多量のかわらけを覆土内に含み、かわらけを廃棄した土坑であったと考えている。

遺構143（図4）

個別に図示はしていないが、ピット内に泥岩による根固めがあった。遺構144に覆土は近似し暗茶褐色弱粘質土。炭化物を含む。

遺構144（図5・図6）

円形を呈するピット。ピット内に安山岩の礎石。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図6-4は常滑甕の胴部片。格子の叩き文。礎石下層の覆土から出土。破片で、手づくね・かわらけが出土している。

遺構261（図5・図6）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土。締まりのない土。

- ・図6-5はかわらけ。胎土に雲母を多く含む。外底部板状圧痕。内面見込みに指頭による水引痕。

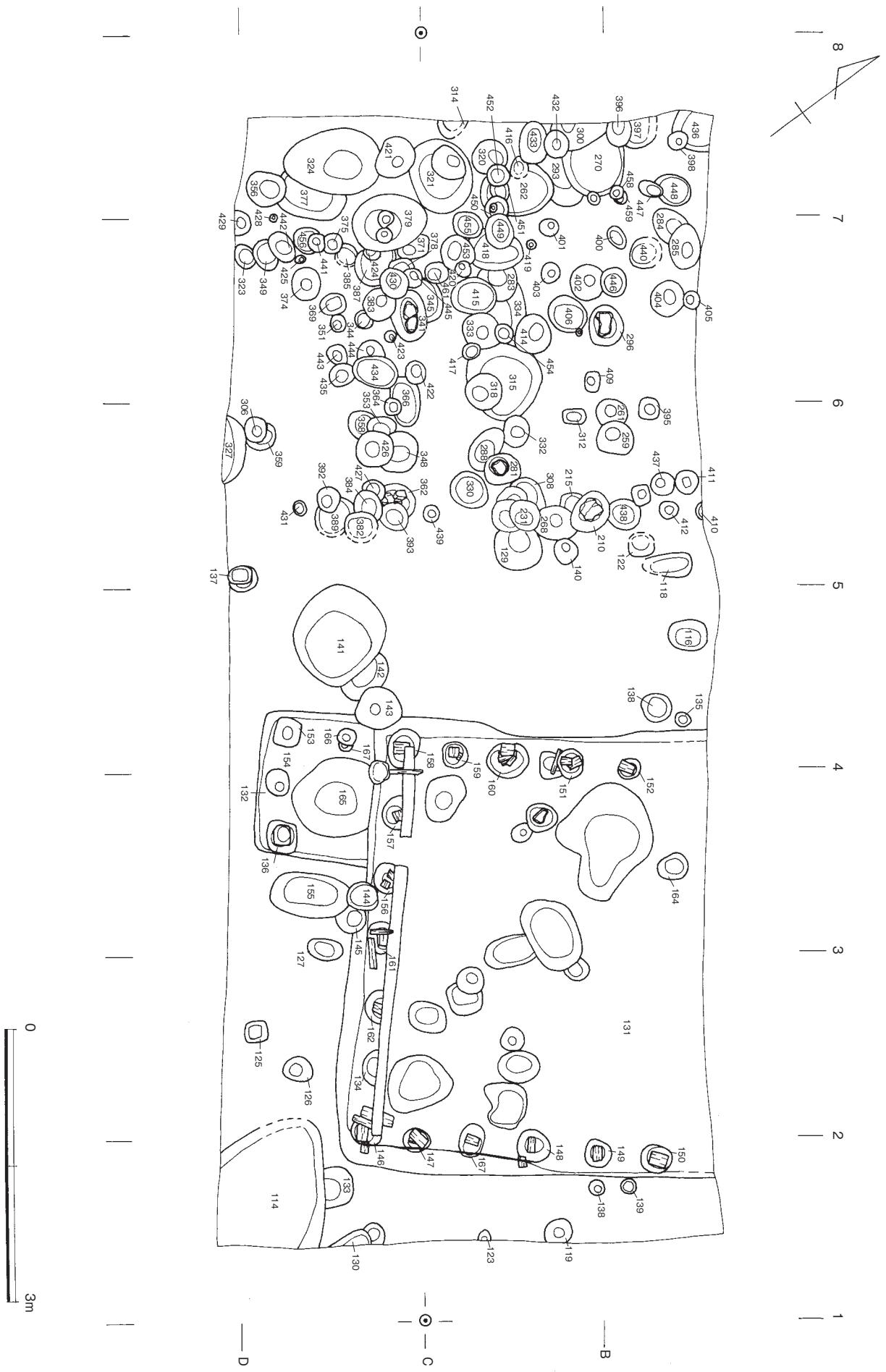


図4 第4面全測図

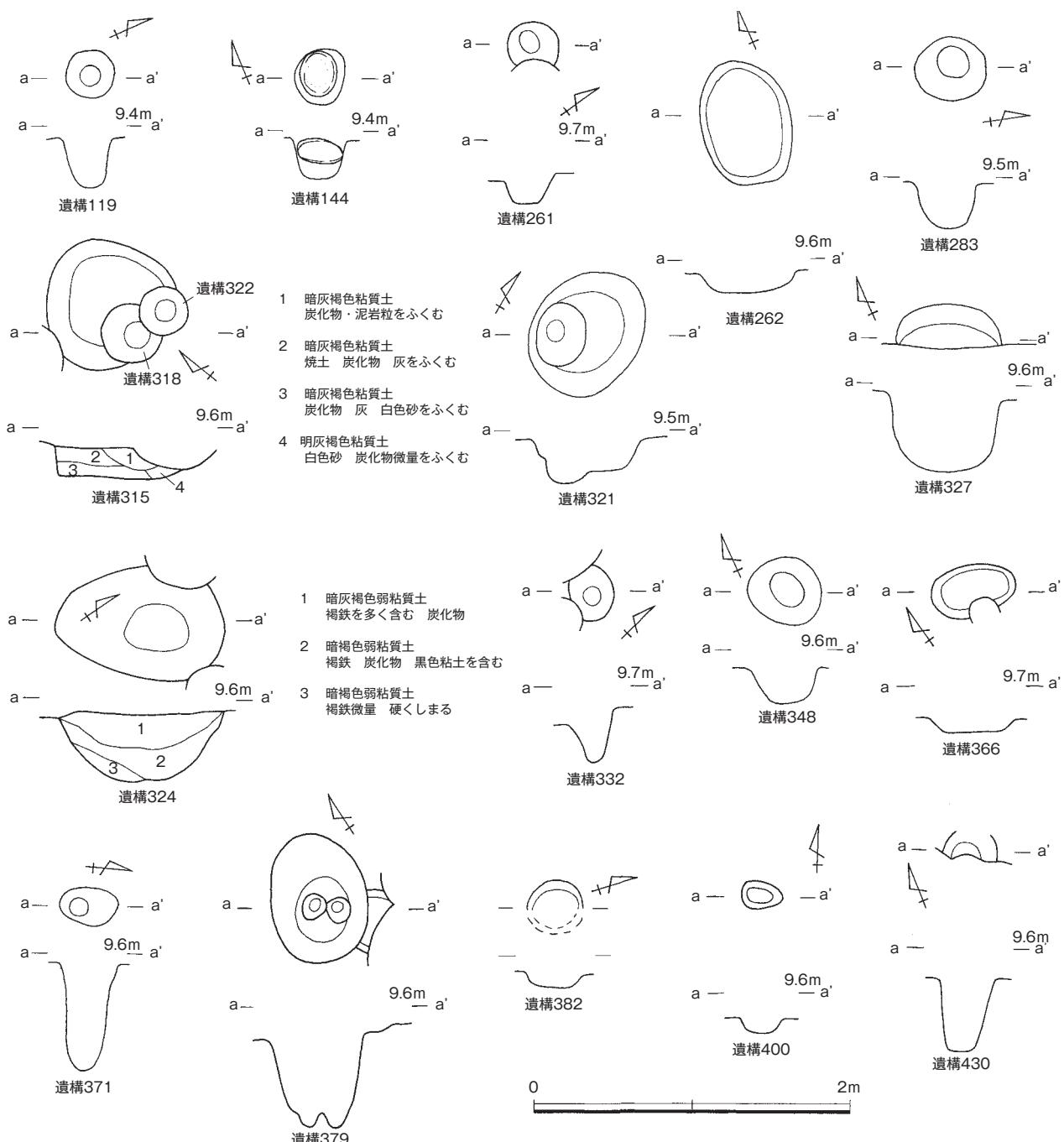


図5 第4面個別遺構図

遺構262（図5・図6）

橢円を呈する深い土坑。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。

・図6-6・7は遺構262出土

6はかわらけ小片・内面器肌が摩耗していた。7は鉄製品・取瓶。全体に錆が付着しているために正確な数値は出ないが、口径約7cm・底径約5cm・器高約2.5cm。片口を有する小型の碗。鋳造に関する遺物ではあるが、このほかに鋳造関連の遺物出土はなかった。破片で、手づくね・かわらけ・白かわらけが出土している。

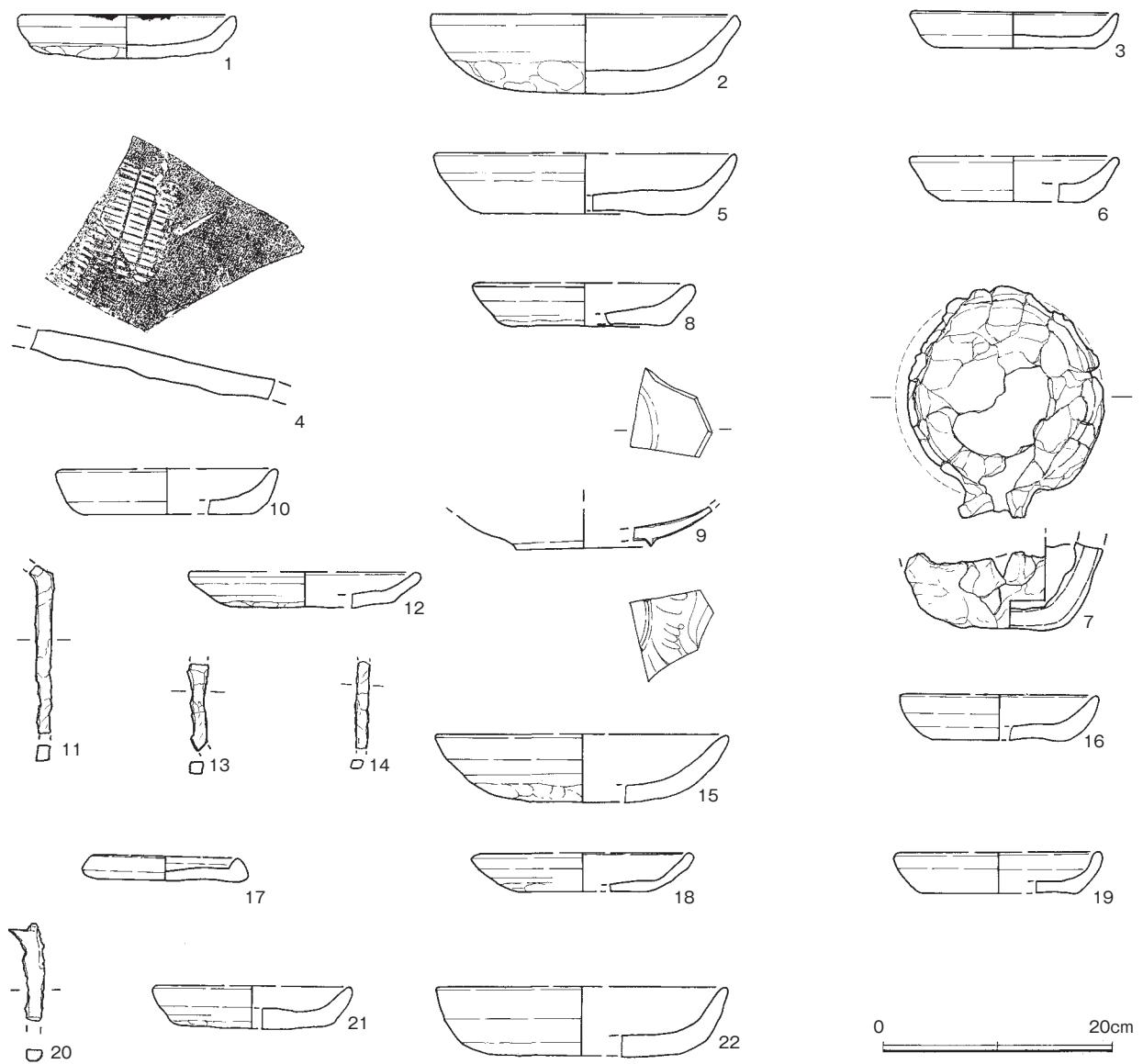


図6 第4面遺構出土遺物

遺構268（図4・図6）

遺構210・遺構231に切られる。円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。
 ・図6-8・9は遺構268出土
 8は手づくね。外底部ナデ痕。内底部回転ナデ。9は青白磁印花文皿。素地はやや粗いが、丁寧な施文。

遺構283（図5・図6）

円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒・砂質土含む。
 ・図6-8はかわらけ。外底面に板状圧痕。雲母を多く含む。

遺構315（図5・図6）

円形を呈する深い土坑。遺構318と遺構322に切られる。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物と焼土を多く含む。
 ・図6-9は鉄製品・釘。破片で、かわらけが出でている。

遺構321（図5・図6）

楕円を呈する土坑。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含み、褐色砂質土が多く混入。
・図6-10は手づくね。内底部横ナデ。雲母を多く含む。破片で、手づくね・かわらけ・常滑甕が出土している。

遺構324（図5・図6）

楕円を呈する土坑。覆土は暗褐色弱粘質土。褐鉄を多く含む。
・図6-11は鉄製品・釘。破片で、手づくね・かわらけ・渥美甕が出土している。

遺構327（図5・図6）

調査区南壁際で確認した土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。
・図6-12は鉄製品・釘。破片で、手づくね・渥美甕・鉄製品・釘が出土している。

遺構332（図5）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・砂礫を含む。ピット内に出土遺物はなかった。

遺構348（図5・図6）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土。褐鉄・泥岩粒・炭化物を含む。
・図6-13は手づくね。外底面に指頭によるナデ痕。内底面横ナデ。破片で、手づくね・かわらけ・白かわらけが出土している。

遺構366（図5）

楕円を呈する深いピット。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。出土遺物は手づくね小片。

遺構371（図5・図6）

円形を呈する深いピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。
・図6-14はかわらけ。胎土精良・外底部に板状圧痕・内底横ナデ。破片で、手づくね・かわらけが出土している。

遺構379（図5・図6）

楕円を呈する土坑。土坑底部に2穴のピット。杭痕か？覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐鉄・泥岩粒を含む。下層には炭化物が厚く堆積していた。
・図6-16は手づくね。器壁はやや内湾して浅く立ち上がる。コースター型。17は手づくね。胎土精良。18はかわらけ。破片で、手づくね・かわらけ・白かわらけ・青磁（器形不明）・渥美甕・常滑甕が出土している。

遺構382（図5・図6）

円形を呈するピット。暗褐色弱粘質土。炭化物・褐色砂質土・泥岩粒を含む。

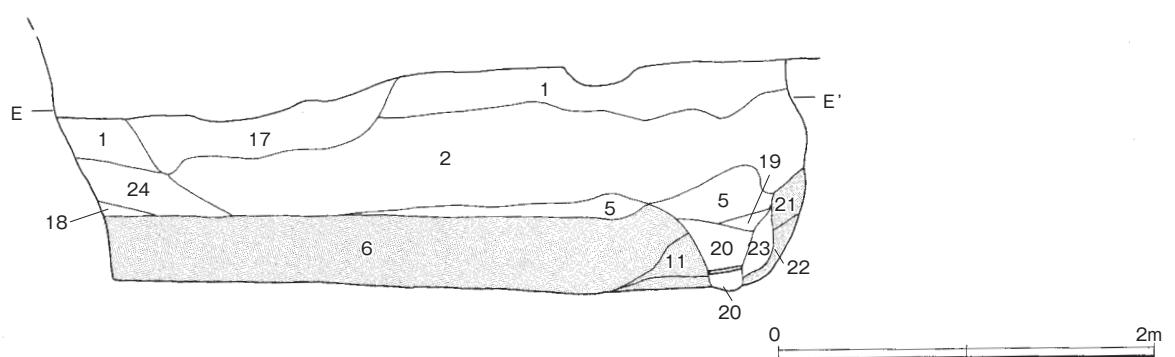
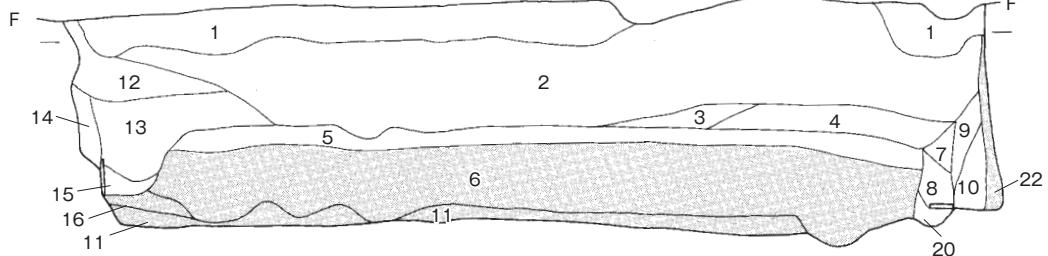
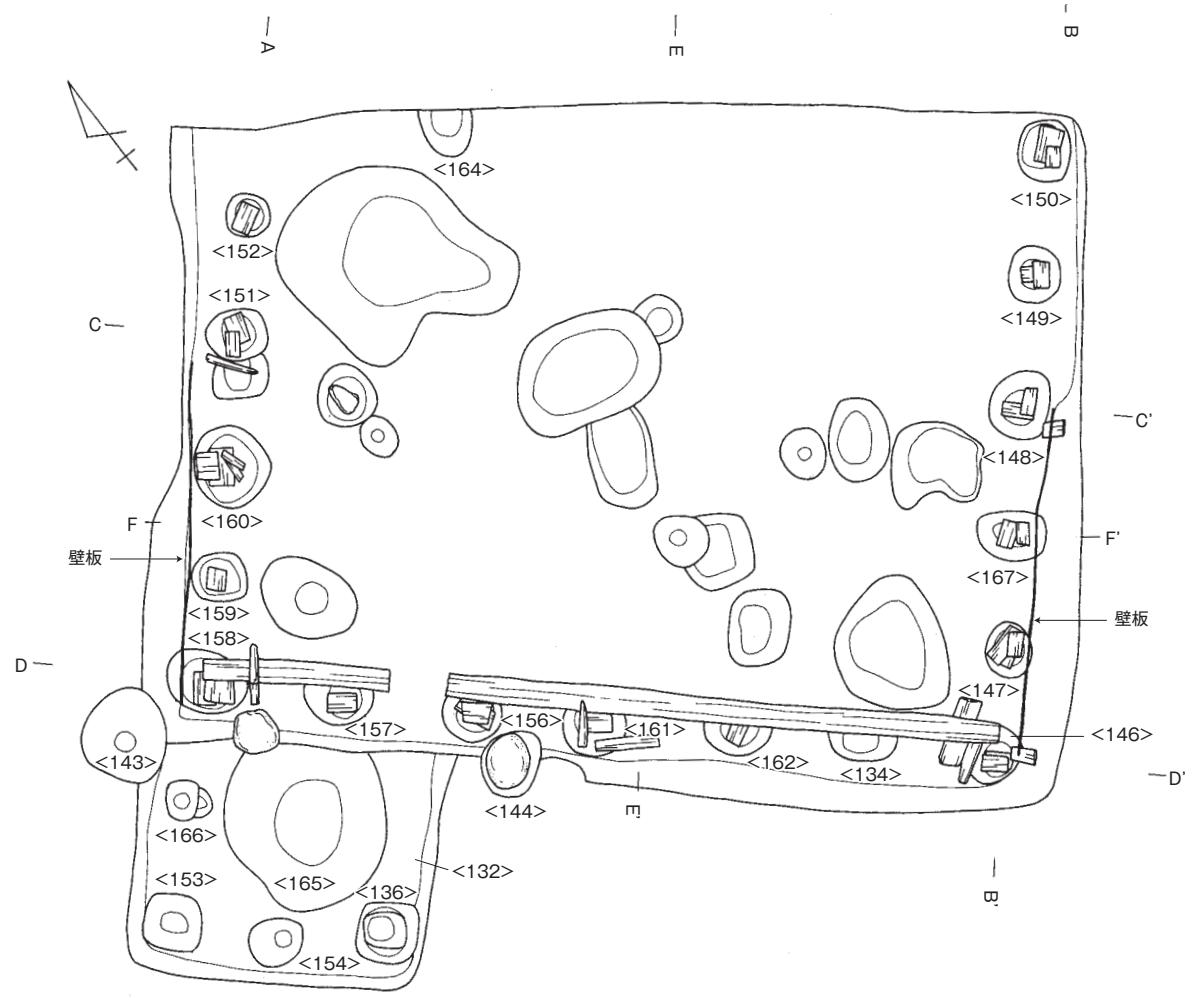


図7 遺構131個別遺構図・堆積土層図

土層注記（図7）	
1 暗褐色弱粘質土	炭化物・泥岩粒・褐色砂質土
2 泥岩層	不整形の大型泥岩・炭化物
3 泥岩層	泥岩・泥岩粒
4 暗茶褐色弱粘質土	炭化物・泥岩・泥岩粒
5 暗茶褐色弱粘質土	炭化物・泥岩粒
6 泥岩層	微量の炭化物・上層には破碎泥岩・下層には大きめの泥岩 床面か？
7 暗褐色粘質土	炭化物・泥版粒
8 茶褐色粘質土	炭化物・角材痕・下層に礎板
9 黄褐色粘質土	炭化物
10 黄褐色粘質土	褐色砂質土
11 黄褐色弱粘質土	黄褐色砂・炭化物
12 暗褐色粘質土	炭化物・泥岩・泥岩粒
13 暗褐色粘質土	炭化物・締まりなし
14 暗茶褐色粘質土	炭化物
15 茶褐色粘質土	炭化物・黑色粘土
16 茶褐色粘質土	炭化物・黑色粘土・褐色砂質土
17 灰褐色砂質土	炭化物・泥岩粒
18 灰褐色粘質土	炭化物
19 灰茶褐色粘質土	泥岩粒・炭化物
20 灰茶褐色粘質土	泥岩粒・炭化物・黑色粘土・黄褐色砂質土
21 暗褐色粘質土	炭化物・締まり有り
22 暗褐色粘質土	褐鉄・炭化物
23 暗褐色粘質土	炭化物・締まり有り・下層に大型土丹
24 暗茶褐色弱粘質土	泥岩・泥岩粒

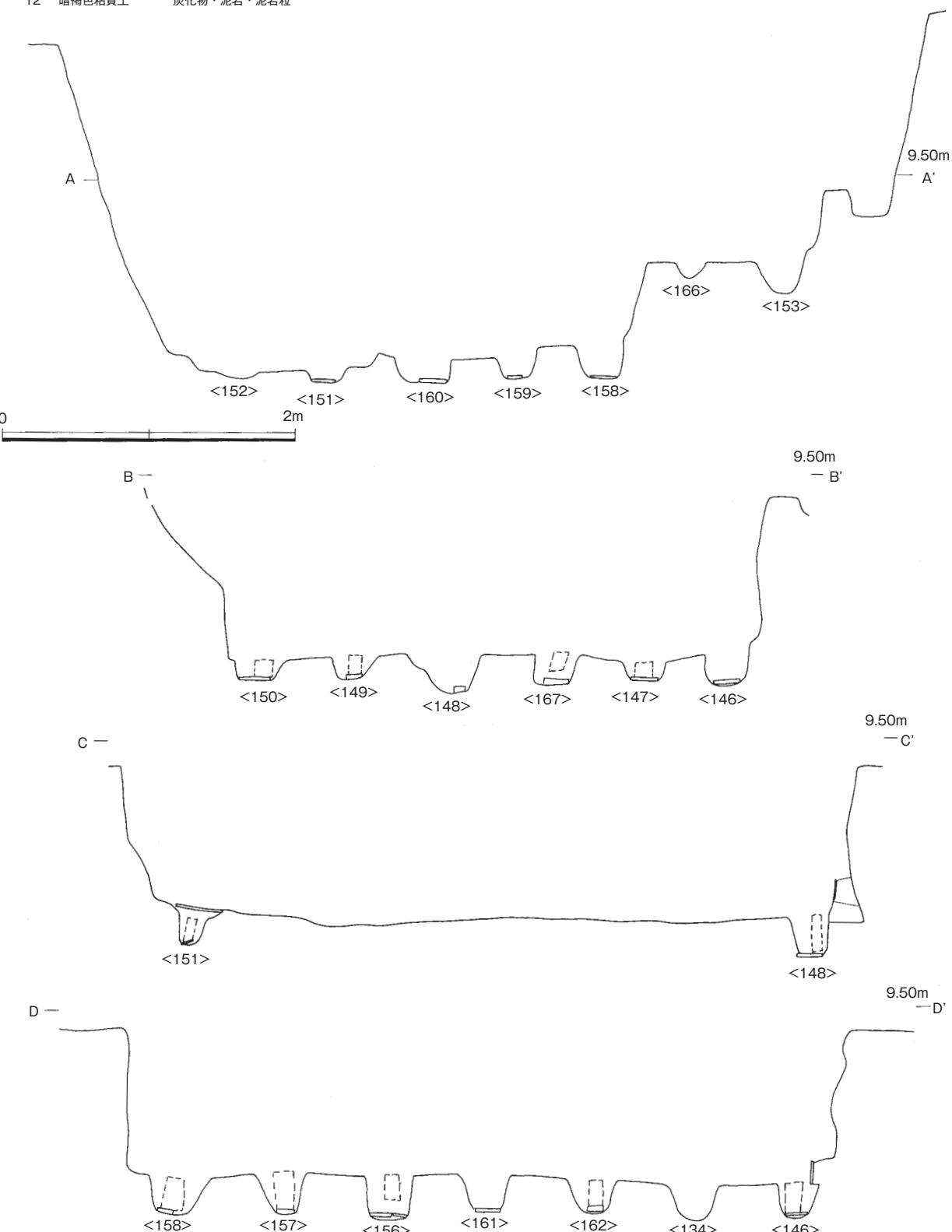


図8 遺構131・エレベーション図

・図6-15は鉄製品・釘。表面に木痕。破片で手づくね・白磁(器形不明)が出土している。

遺構387 (図6)

遺構378・遺構381に切られ規模が不明なため、個別の遺構図は載せていない。円形を呈するピット。暗褐色弱粘質土。泥岩粒・褐色砂質土・炭化物を多く含む。

・図6-19は手づくね。図6-20はかわらけ。内底部横ナデ痕。外底部板状圧痕。破片で手づくね・かわらけ・白かわらけ・渥美甕が出土している。

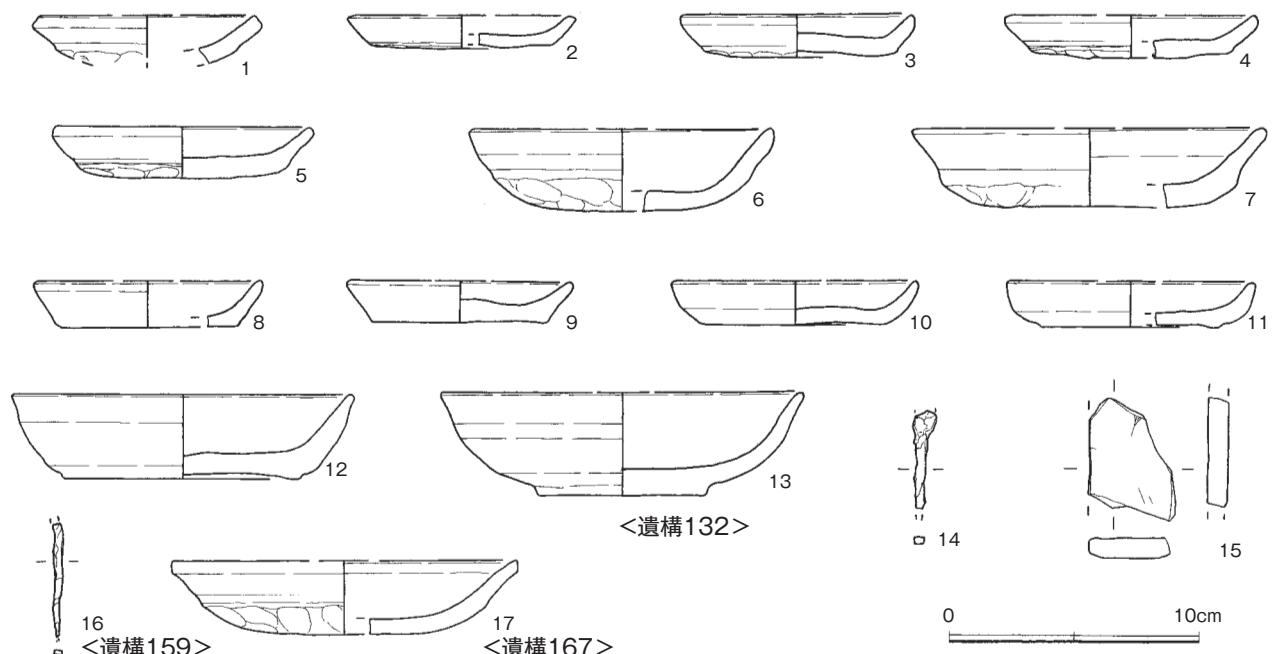


図9 遺構131内・個別遺構出土遺物

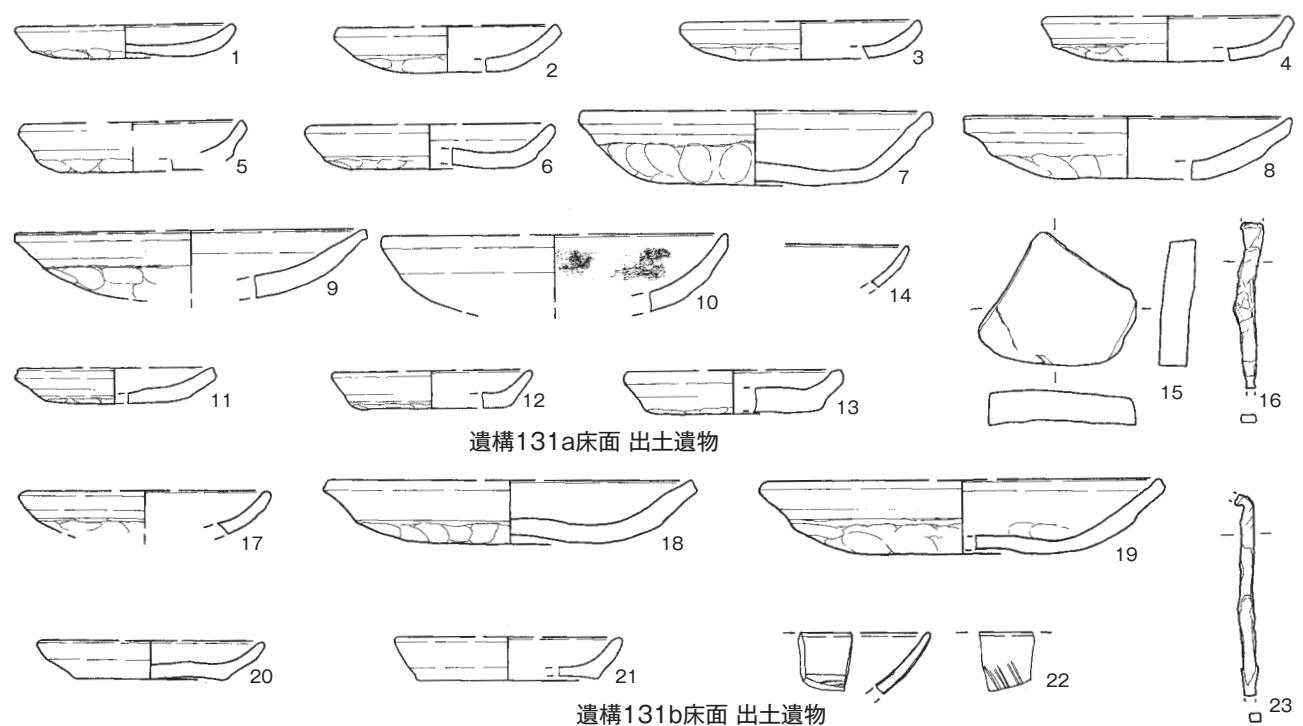


図10 遺構131底面出土遺物

遺構400（図5）

橢円を呈するピット。黒褐色弱粘質土。泥岩粒・褐鉄を含む。出土遺物はない。

遺構430（図5）

円形を呈する深いピット。黒褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。出土遺物はない。

遺構131（図7～図12）

方形の張り出し部を持つ方形竪穴建築址である。上層のプラン確認では1時期の遺構と認識して調査を進めたが、土層堆積の観察から2時期の遺構（以下、旧方形竪穴・新方形竪穴）であると考えている。

土層図（図7）のスクリーントーンで示した土層が、新方形竪穴に作り直すために旧方形竪穴を埋めた堆積になる。旧方形竪穴底面には浅いピットが数穴残っていたが、いずれも柱穴や土台などの建物の構造を推測できる遺構ではなかった。床面となる最下層には炭化物の混じる黄褐色砂が薄く堆積していた。

新方形竪穴は、旧方形竪穴に泥岩を投げ入れ新しく床面を作っているため、一回り小さくなっている。遺構外に延びた側は未確認となるが、床面周囲に柱穴が並ぶと思われる。確認した柱穴の芯芯間の距離

は約70cm。柱穴底面には礎板が遺存していた。エレベーション図（図8）で、礎板上に点線で示した個所は柱痕である。木質が劣化しており採集することはできなかったが、柱材の太さが4寸×5寸（約12×15cm）の柱であったことを確認している。遺構の上場で南側辺cm 487cm。調査区外に延びた東側辺が365cm。西側辺が325cm。壁高は約80cm、礎板が遺存する位置で約130cmを測る。調査区外に遺構が延びてしまっているため、正確な形状・規模は不明。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁際に一部ではあるが壁板が遺存していたが、遺存状況が悪く採集することはできなかった。

建物の構造は模式図（図11）に示したように、礎板を伴う柱穴に柄柱を建て、裏面に羽目板（壁板）で壁を作り、根太を床面に置き床板を張っていると思われる。

新しい方竪を壊す（埋める）際には、かなり大型の土丹を投げ入れているが、一時に埋めたのではなく少なくとも3時期に亘って埋められていた様子である。新方形竪穴の掘り方構成土は、灰茶褐色粘質土・褐色砂質土を含み、床面上層に堆積していた粘土層に近似していた。

遺構132（張り出し部）は、新方形竪穴に伴うものと考えている。遺構底面は細かく碎いた破碎泥岩で平坦に地業されていた。遺構の三方周囲に、芯芯で約30cmの間隔で柱穴を検出した。その内遺構136内には遺存状態が悪く採集はできなかったが礎板を確認している。床面中央には不定形な浅めの土坑を検出した。張り出し部単独の寸法は、1辺約130cm×約150cm・深さ約40cmを測った。

・図9の1～15は張り出し部の覆土内から出土した遺物である。

1～7は手づくね。1は精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。2は胎土に雲母を多く含む。3は歪みが大きく成形不良。4は内面ナデ痕。外底部に指頭による整形痕。5は精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。6は外底部に指頭による整形痕。7は精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。8～13はかわらけ。9は外底面に板状圧痕・火熱を受けたためか器肌が剥離している。10は外底部に板状圧

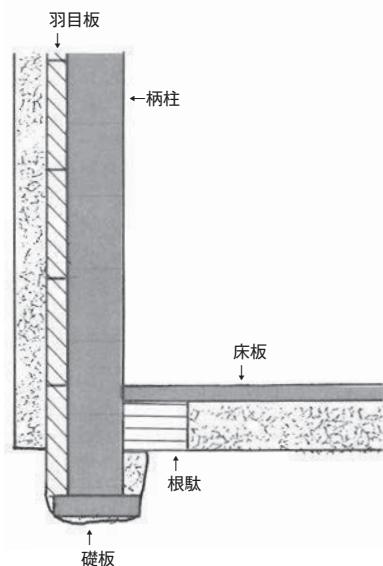


図11 構造模式図

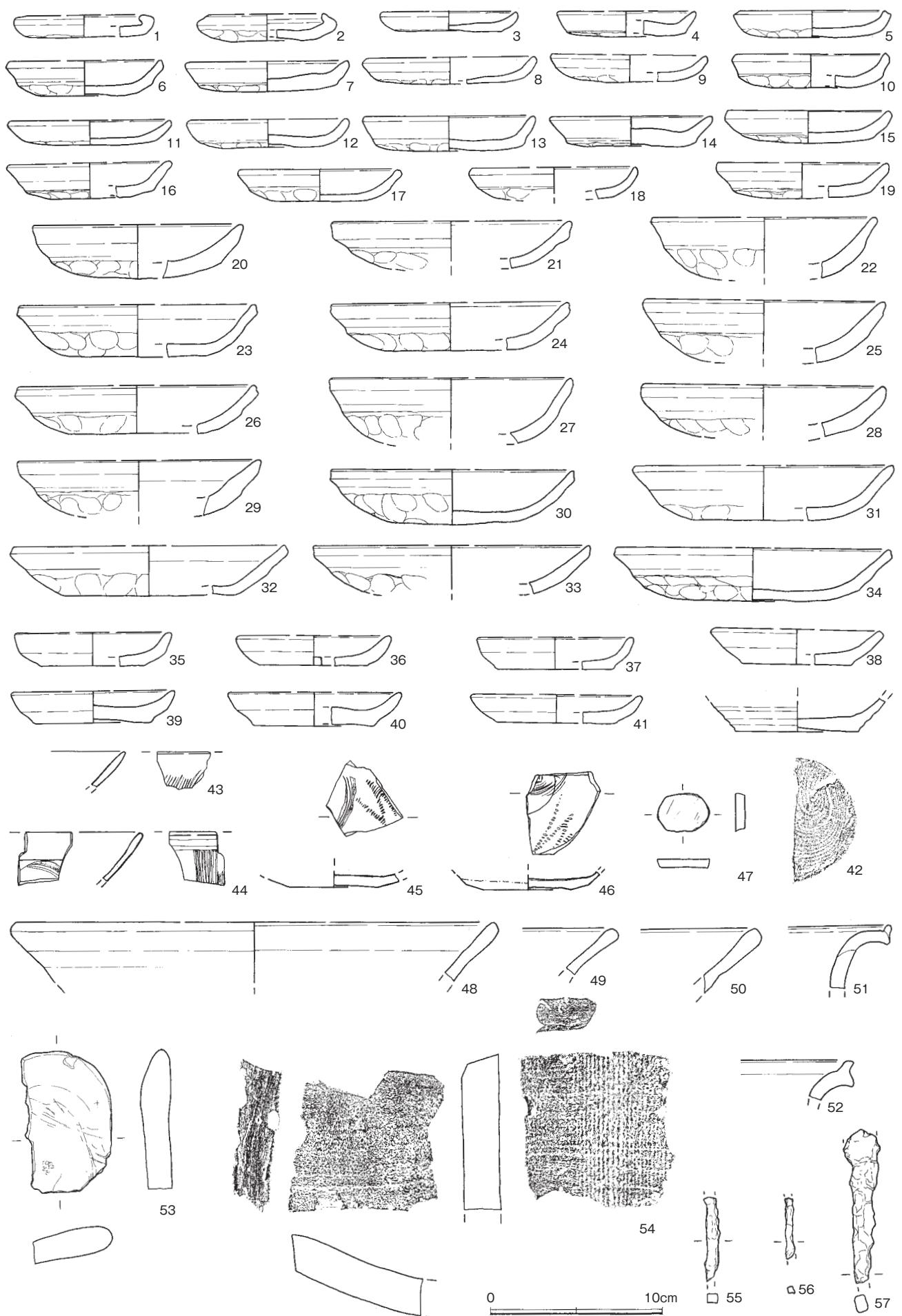


図12 遺構131一括出土遺物

痕・雲母を多く含む胎土。11は外底面に板状圧痕・内底面2か所に穿孔らしき痕跡。12は外底面板状圧痕・底部貼り付け・内底面に強く指頭による横ナデ痕。13はやや硬質な胎土・雲母を多く含む・外底部糸切りの後ナデの痕跡・丁寧な整形。14は鉄製品・釘。15は砥石・仕上砥・側面に切り出し痕。16・17は遺構131(方形堅穴)内の柱穴出土。16は鉄製品・釘。17は手づくね・外底部に指頭による整形痕・内底部ナデ痕。その他に手づくね・かわらけ・白かわらけ・青磁器種不明・常滑甕。常滑片口鉢I類・鉄製品釘・鉄滓が破片で出土している。

・図10・1～16は新方形堅穴の床面上から出土した遺物である。(観察表では131a床面と表記)

1～13は手づくね。1～3は外底部に指頭による整形痕。4は胎土に雲母を多く含む・外底部に指頭による整形痕。5は外底部に指頭による整形痕。6は硬質で精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。7は外底部に板状圧痕・指頭による整形痕・内底部指頭による横ナデ痕・胎土に雲母を多く含む。8は胎土が粗く、雲母を多く含む・外底部指頭による整形痕。9は外底部に指頭による整形痕。10は内面油煤か?灰黒色に変色・外底部指頭による整形痕・胎土は赤褐色。11～12は外底部指頭による整形痕。

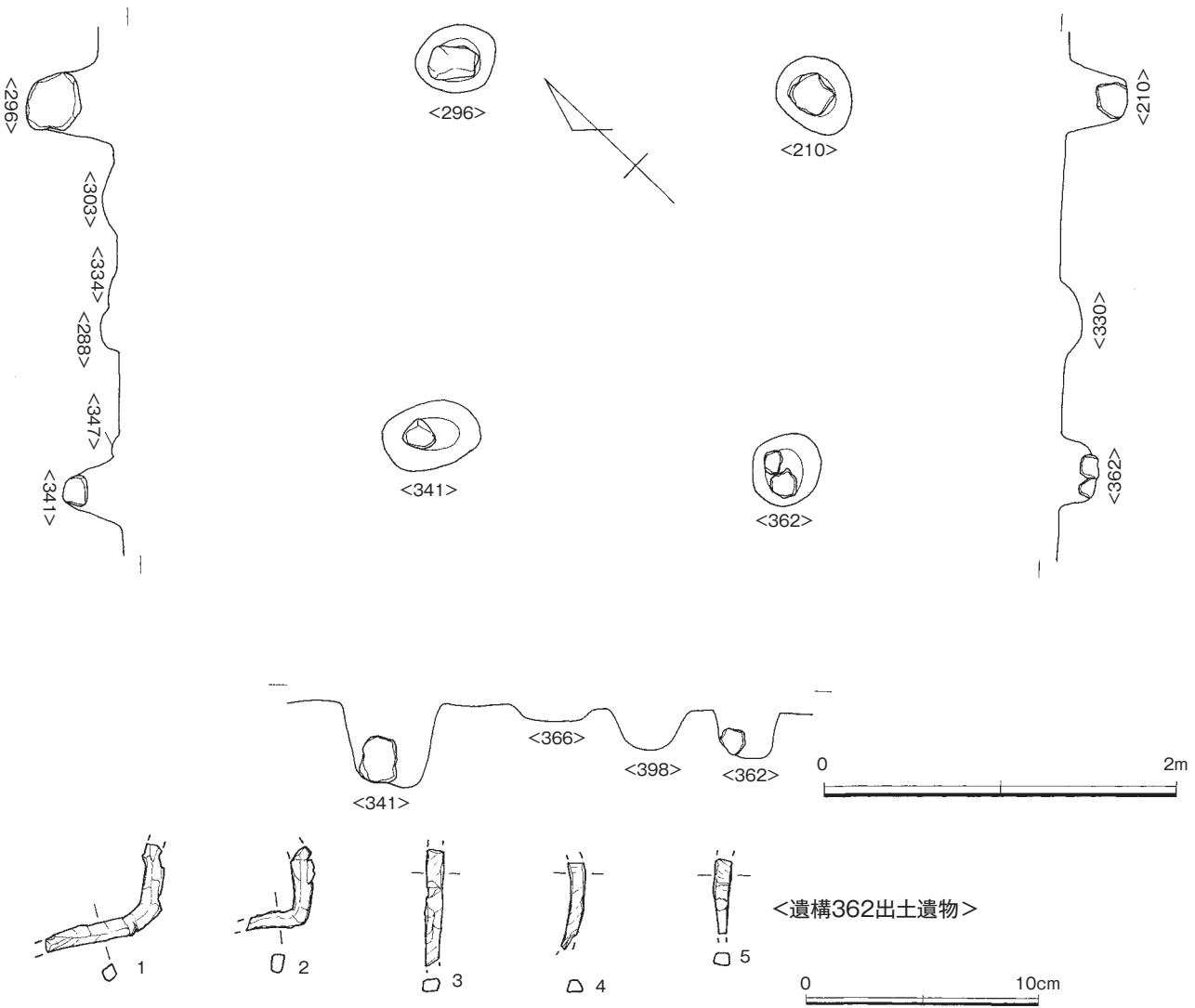


図13 第4面・礎石建物址・遺構362出土遺物

13は厚くて浅い器壁・外底部に指頭による整形痕。14は山皿・精緻な胎土。15は摩耗製品・常滑甕の胴部転用品・断面に使用痕。16は鉄製品・釘。

・図10・17～23は旧方形堅穴・床面出土遺物。(観察表では131b床面と表記)

17～19は手づくね。17は精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。18は外底部に指頭による整形痕。19は外底部に板状圧痕・指頭による整形痕。20・21はかわらけ。20は外底部に板状圧痕・内底面横ナデの後、見込み周囲をナデ。21は外底部板状圧痕。22は青磁櫛搔文皿・小片。23は鉄製品・釘。その他に破片で手づくね・かわらけ・渥美甕・常滑甕・綠釉盤・獸骨が出土している。

- ・図12は遺構131(新・旧方形竪穴)一括出土遺物。

1・2は内折れ手づくね。1は硬質で精良な胎土・外底部指頭によるナデ痕。2は外底面指頭による整形痕。3～34は手づくね。3は外底部指頭による整形痕。4は精良な胎土。5は胎土に雲母を多く含む。外底部指頭による整形痕。6は外底部指頭によるナデ痕。7は外底部指頭によるナデ痕。器形の歪み大きい。8は胎土に雲母を多く含む・外底部指頭による整形痕。9は硬質な胎土・外底部指頭によるナデ。10は胎土に雲母を多く含む・外底部指頭による整形痕。11は胎土に雲母を多く含む・外底部指頭によるナデ。12は外底部に指頭による整形痕・内底部横ナデの後見込み周囲をナデ。13は胎土に貝状骨針を含む・外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後見込み周囲をナデ。14は外底部板状圧痕・指頭による整形痕。15は外底部板状圧痕・指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲をナデ。16は外底部指頭による整形痕。17は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲をナデ。18・19は外底部に指頭による整形痕。20は胎土に雲母を多く含む・外底部指頭による整形痕。21は外底部指頭によるナデ。22は赤褐色を呈し、精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。23は外底部指頭による整形痕。24は外底部指頭によるナデ。25は硬質で精良な胎土・外底部に指頭による整形痕。26は外底部指頭による整形痕。27は外底面指頭による整形痕・内底部指頭によるナデ。28は胎土に雲母を多く含む・外底部指頭によるナデ。29は胎土に貝状骨針を含む・外底部に指頭による整形痕。30は硬質な胎土・外底部指頭によるナデ。31は内面に指頭によるナデ。32～34は外底部に指頭による整形痕。35～42はかわらけ。36は内底に穿孔あり。37・38は外底に板状圧痕。39は外底に板状圧痕・外側面に削り痕。40は外底に板状圧痕・内底に強いナデ痕。41は外底に板状圧痕。42は雲母を多く含む硬質な胎土・外側面に強く轆轤引き痕。43・45・46は青磁櫛搔文皿。44は青磁櫛搔文碗。47はかわらけ底部転用品・橢円の円盤状製品。48～50は常滑片口鉢I類。51・52は常滑甕。口縁部・暗緑色の降灰釉。53は凝灰岩・全体に摩耗痕あり・片面に刃物傷のような痕跡残る・用途不明。54は平瓦。55・56は鉄製品・釘。57は鉄製品・遺存状態が悪く用途不明。そのほかに、手づくね・かわらけ・白かわらけ・内折れ白かわらけ・青磁碗・青磁折れ縁皿・青磁劃花文碗・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢I類・瀬戸褐釉壺・瓦器火鉢・土師器甕・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

礎石建物址（遺構210・遺構296・遺構341・遺構362）（図13）

調査区西側で検出した礎石建物址である。多くの遺構が切りあって発見されており、建物址の検出は難しい状況であったが、ここに報告した柱穴は、それぞれがピット内に砂質凝灰岩の割石を遺存し、暗褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒・褐鉄を含み近似した覆土を持つ。確認できた規模は1間×1間であるが、調査区の北、および西に向かって建物範囲は延びると思われる。それぞれの柱穴間は芯芯で約210cmを測る。

- ・図13の1～5は、礎石建物址の柱穴（遺構362）出土遺物である。

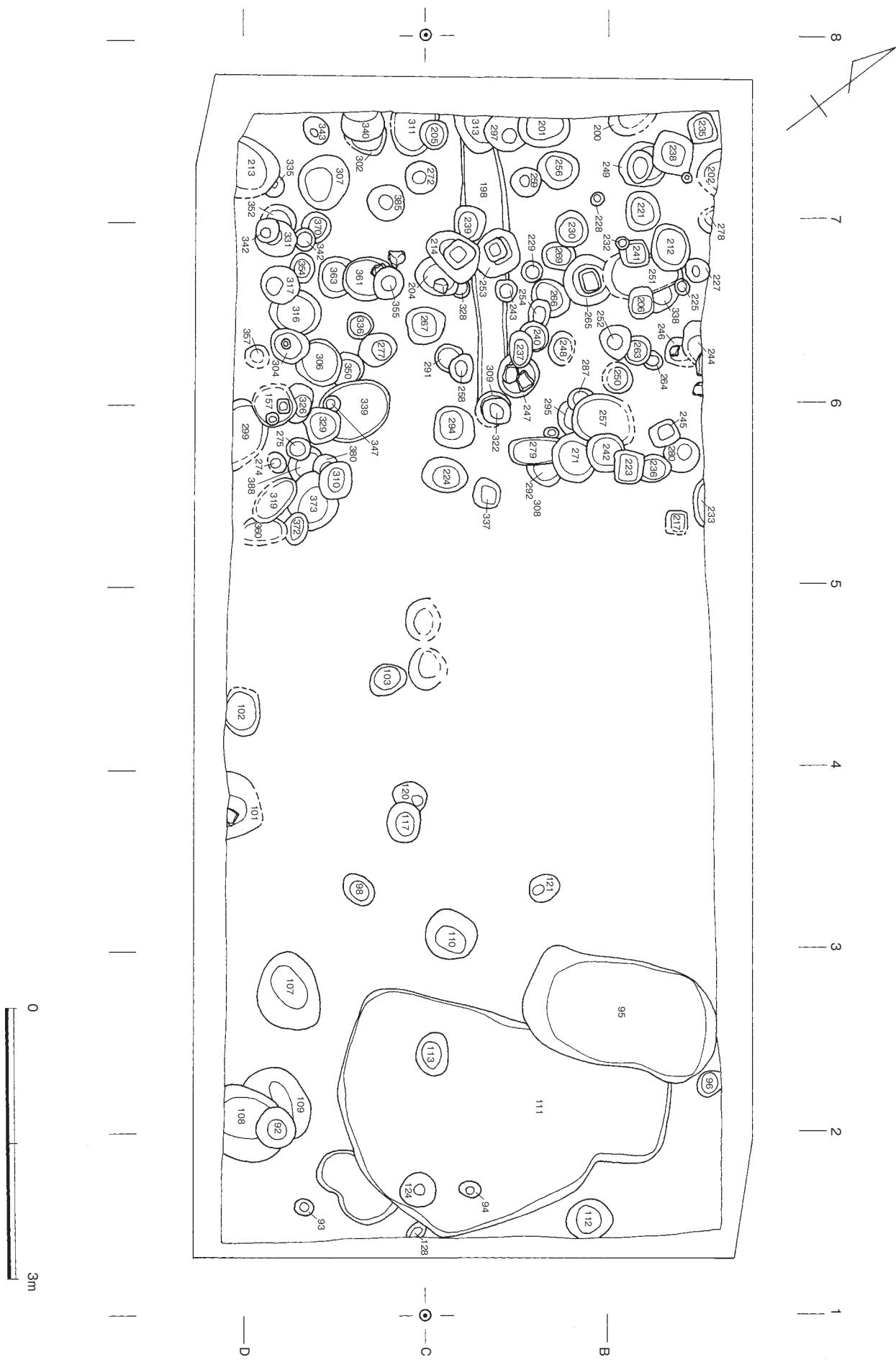
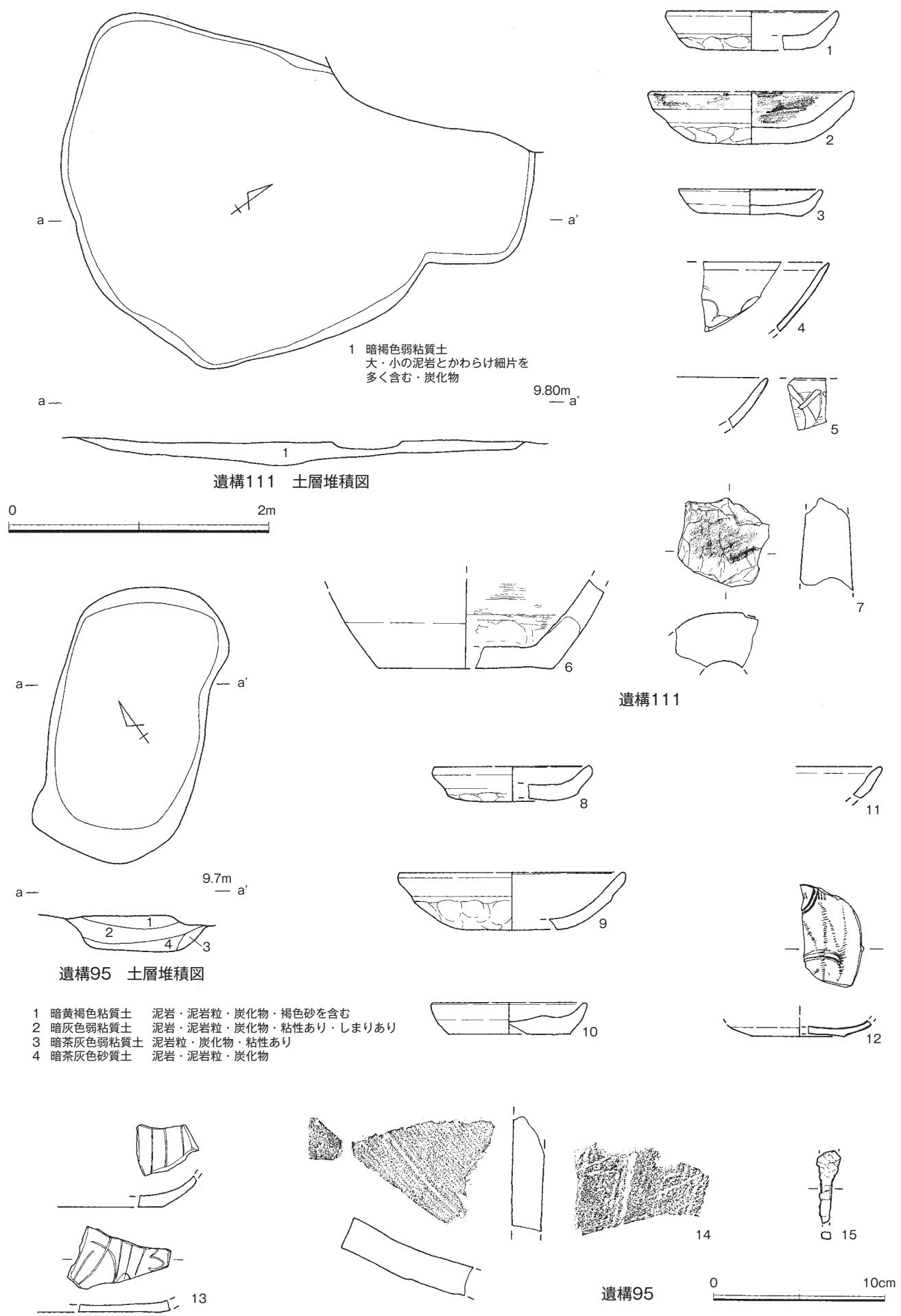


図14 第3面全測図



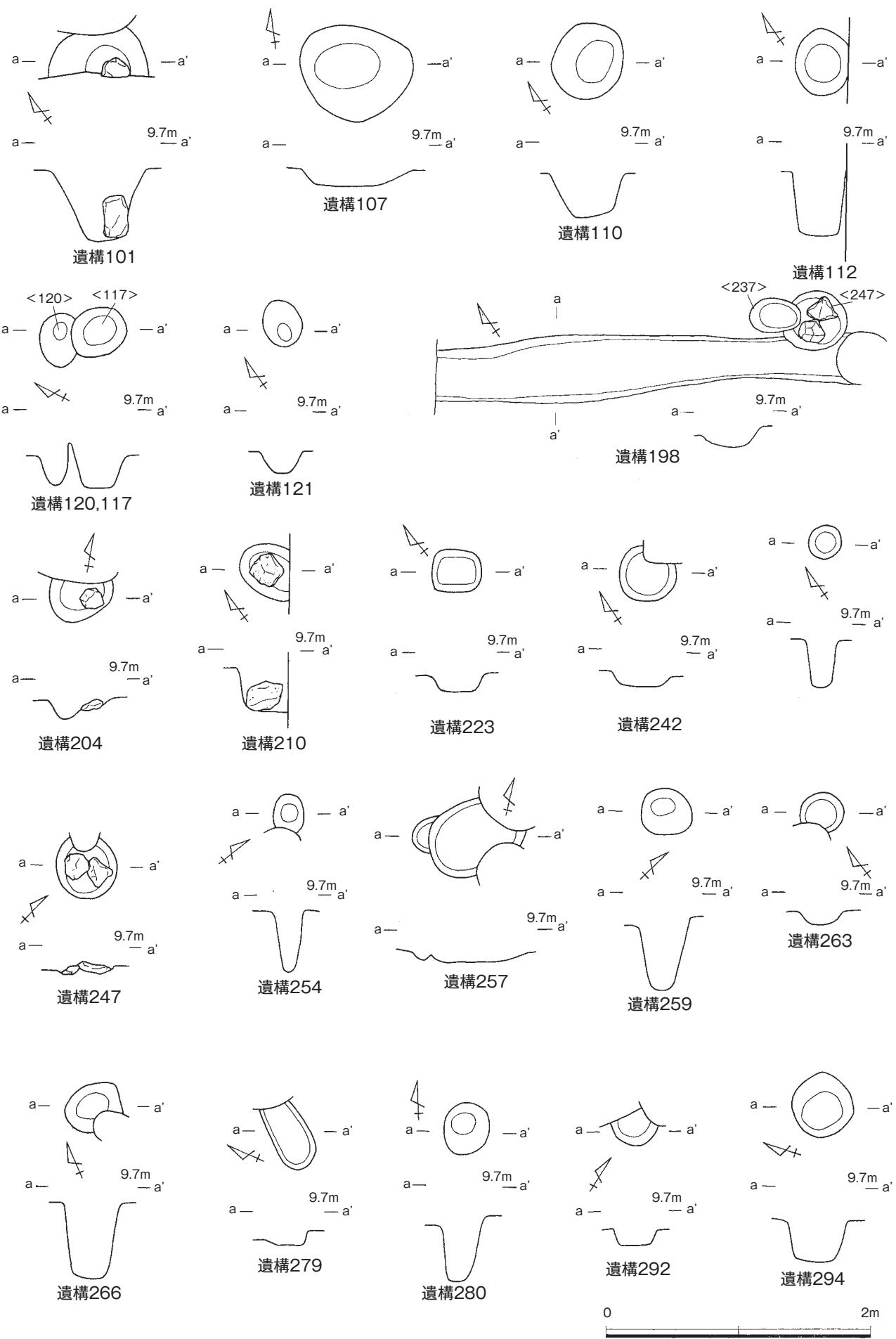


図16 第3面個別遺構図(1)

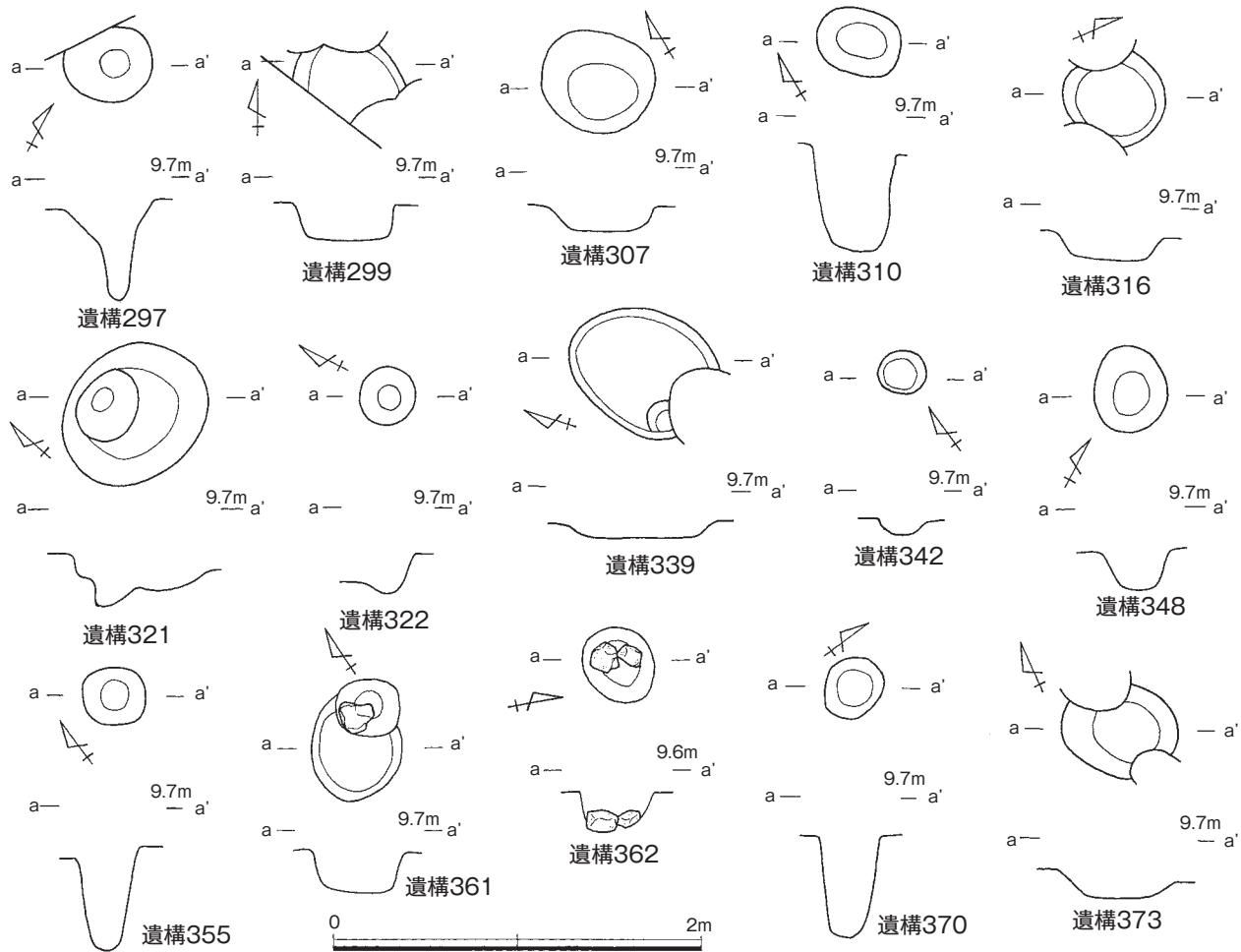


図17 第3面個別遺構図(2)

1～5は鉄製品・釘・その他に破片で手づくね・かわらけ。白磁口元皿が出土している。その他に柱穴(遺構341)で、実測はできなかったが手づくねが出土した。

第2節 第3面の遺構と遺物（図14～図21）

前述した第4面と同様に、第3面も調査区の西側で多くの遺構が切りあって発見された。発見した遺構は土坑10基・ピット116穴・溝状土坑1基である。確認した地表レベルは海拔約9.50 mを測る。調査区の西側では第4面の検出状況と同じく多くのピットが切りあって発見されたが、東側は後述する遺構111のような大型の土坑を検出し、遺構の検出状況が大きく異なる。

遺構95（図15）

楕円を呈する深い土坑。覆土は図15に表記しているが泥岩・泥岩粒を多く含む。後述する遺構111とともに、第4面で発見された方形堅穴建築址（遺構131）を埋めて整地する際の地業の一つであろうと思われる。

- ・図15-8～15は遺構95出土遺物である。

8・9は手づくね。8・9は外底部に指頭による整形痕。9は胎土に雲母を多く含み硬質な胎土。10はかわらけ。雑な成形。内底面横ナデの後、見込みをナデて整形。11は山茶碗。やや粗い胎土。12は青磁櫛搔文皿。外底部無釉。13は緑釉の洗。内底部に花文の線刻。内側面に沈線。14は平瓦。15は鉄製品・釘。その他に破片で、手づくね・かわらけ・白かわらけ・常滑甕・渥美甕が出土している。

遺構 101 (図 16・図 18)

調査区外に遺構が延びているために正確な形状・規模は不明。土坑である。遺構底面に泥岩が遺存。根固めか? 覆土は暗灰色砂質土。暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む。

- ・図 18-1 は手づくね。外底部指頭と籠状工具によるナデ痕・外側面に筋状に回転ナデの跡が残る・内底部横ナデの後見込み周囲をナデ。

遺構 107 (図 16・図 18)

不正円形の浅い土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・黒色粘質土を含む。

- ・図 18-2・3 は遺構 107 出土。

2 はかわらけ・外底部板状圧痕・内底部横ナデ・胎土に雲母を多く含み軟質。3 は青磁櫛搔文皿。破片で手づくね・かわらけが出でている。

遺構 110 (図 16・図 18)

円形の土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図 18-4 は手づくね。赤褐色を呈し硬質な胎土。外底部指頭によるナデ・内底部横ナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・渥美甕・常滑甕が破片で出土している。

遺構 111 (図 15)

不定形な深い土坑。覆土は黒褐色粘質土。大型の破碎泥岩を含み、かわらけ細片が多く混入していたが、遺構 95とともに、第 4 面で発見した遺構 131 を埋めて地業をした際の遺構であると考えている。

- ・図 15-1~7 は遺構 111 出土遺物である。

1・2 は手づくね。1 は赤褐色を呈し、硬質な胎土。2 は外底部に指頭による整形痕。3 はかわらけ。内面見込み全体に横ナデ痕。外底部板状圧痕。4 は青白磁碗。内面に花文。5 は青磁鎬蓮弁文碗。6 はかわらけ質土器。外底部籠状工具によって糸切り痕を消している。・内底部ナデ痕・胎土に雲母を多く含む粗い土。7 は轍の羽口破片。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・青磁割花文碗・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢 II 類・平瓦・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 112 (図 16・図 18)

楕円形を呈するピット。覆土は黒色弱粘質土・炭化物を多く含む。

図 18-5 はかわらけ。胎土は雲母を多く含みやや粉質。その他に、手づくね・かわらけ・山茶碗が破片で出土している。

遺構 117・120 (図 16・図 18)

遺構 117 は楕円形を呈するピット。遺構 120 を切る。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物褐色砂質土を含む。遺構 120 は円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物を多く含み、泥岩粒混入。

- ・図 18-6・7 は遺構 117 出土。

6 は常滑片口鉢 I 類。白色粒を多く含み硬質な胎土。7 は鉄製品・釘。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

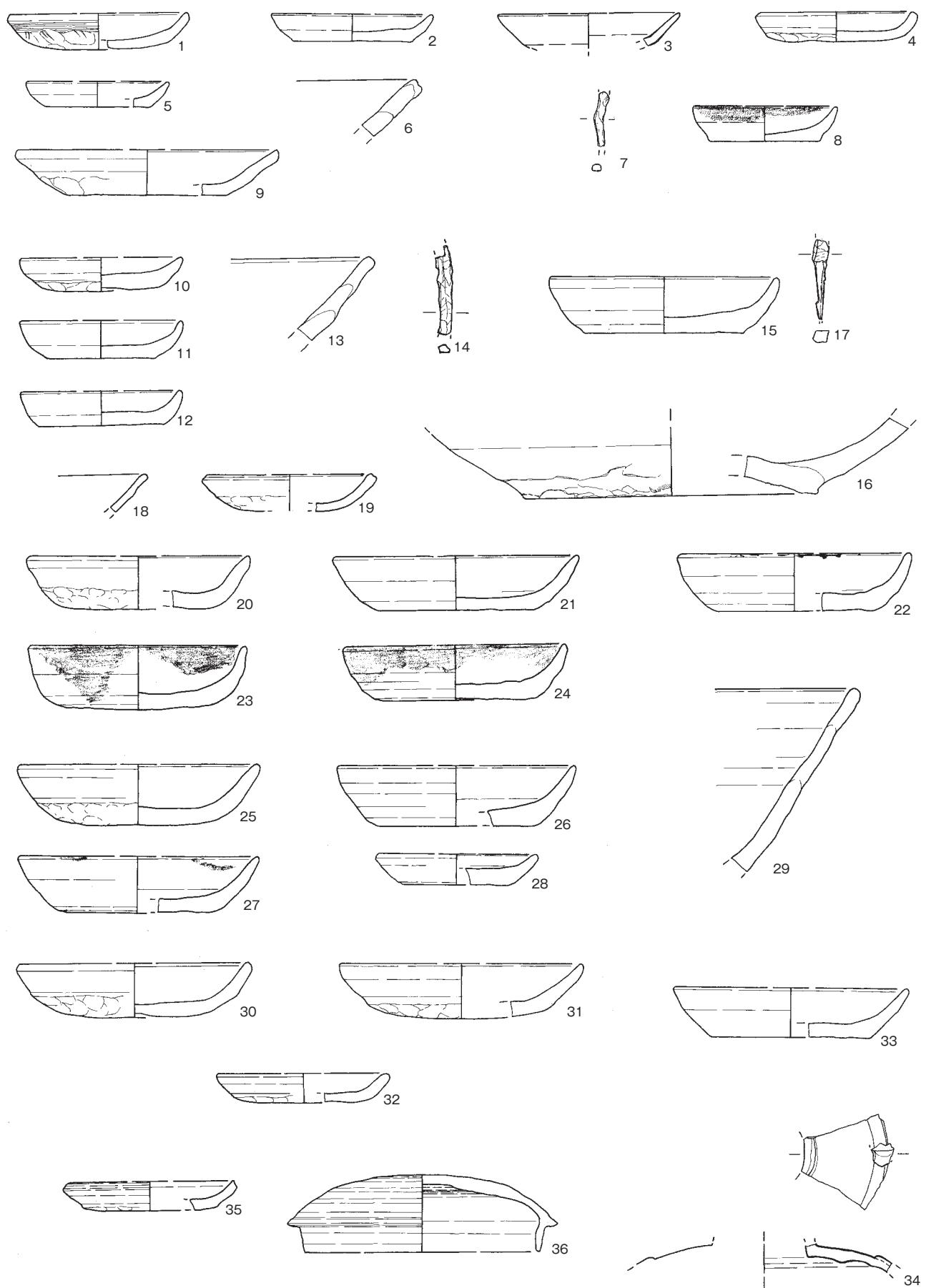


図18 第3面個別遺構出土遺物

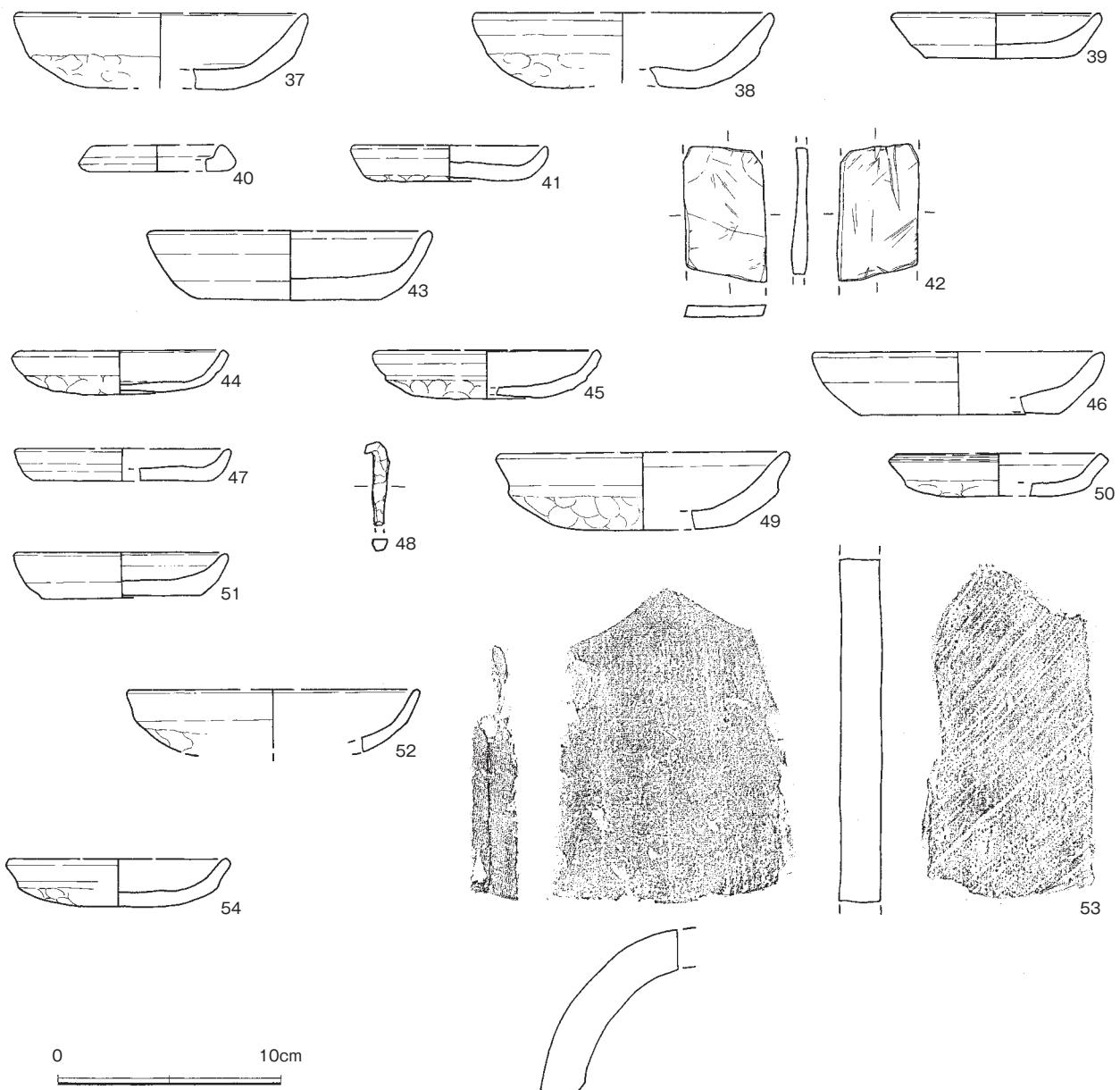


図19 第3面個別遺構出土

・図18-8は遺構120出土。

8はかわらけ。内底部横ナデ・内外面口唇部に油煤痕。その他に、破片で手づくねが出土している。

遺構121(図16・図18)

橢円を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を多く含む。締まりなし。

・図18-9は手づくね・外底部に指頭による整形痕・内底部横ナデ痕・胎土に雲母を多く含み、やや硬質。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構198(図16・図18)

溝状の土坑である。遺構の片端は調査区外に延び、一方は上層の遺構によって削平を受け、正確な形状・規模は不明。覆土は茶褐色砂質土・貝砂を多く含み、炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。

・図18-10～14は遺構198出土

10は手づくね。外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲をナデ。11・12はかわらけ。

11は底部粘土版貼り付け・雑な成形。12は外底部板状圧痕・内底部横ナデ。13は常滑片口鉢I類・口唇部摩耗。14は鉄製品・釘。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構204 (図16)

円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩・泥岩粒を覆土内に多く含む。根固めとして使用したのか？若干の炭化物混入する。出土遺物はない。

遺構210 (図16)

調査区外に遺構が延びるが、楕円形を呈すると思われるピット。ピット底面に不整形の砂質凝灰岩。覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・泥岩粒を含む。出土遺物はない。

遺構223 (図16)

方形を呈するピット。暗茶褐色弱粘質土。泥岩粒・炭化物を含む。出土遺物はない。

遺構242 (図16・図18)

円形を呈するピット。上層の遺構に壊され正確な規模は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図18-15～17は遺構242出土遺物

15はかわらけ。橙色を呈し外底部に板状圧痕・内底部横ナデ。16は常滑・甕底部片。外底部雑な成形・外側面籠状工具による整形痕。17は鉄製品・釘。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構243 (図16)

円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。覆土内に有機質土も混入しており、柱、あるいは杭が立っていたのかもしれない。出土遺物はない。

遺構247 (図16・図18)

円形を呈するピット。上層の遺構によって壊されており、底面の砂質凝灰岩のみ確認した。根固めだったか？覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。

- ・図18-18は須恵器・碗の口縁部片。全体に摩耗している。その他に、手づくね・瓦器碗が破片で出土している。

遺構254 (図16・図18)

円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩を含み、覆土内に有機質土が混入する。杭、あるいは柱痕か？

- ・図18-19は手づくね。外底部に指頭による整形痕。その他に、破片で手づくねが出土している。

遺構257 (図16・図18)

楕円形を呈する土坑。上層の遺構に壊されて正確な規模は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物を多く含む・締まりのない土。

- ・図18－20～24は遺構257出土。

20は手づくね。外底部指頭による雑な整形痕。内底部横ナデ痕。小石粒を含む粗い胎土。21～24はかわらけ。21は外底部板状圧痕。内底部横ナデの後、見込み周囲を指頭によるナデ。22は外底部板状圧痕内底部に強い横ナデ痕・口唇部油煤痕。23は器形の歪みが強い。外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。外側面・内側面から内側面にかけた油煤痕。24は外底部板状圧痕・内面全体を指頭による横ナデで整形している。内外側面から口唇部全周に油煤痕。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構259（図16・図18）

円形を呈する深いピット。暗褐色粘質土。泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図18－25～29は遺構259出土。

25は手づくね。外底部指頭による整形痕。内底部横ナデ痕・赤褐色を呈し、やや硬質な胎土。26～28はかわらけ。26は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・胎土に雲母を含み、やや硬質。27は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・口唇部に油煤痕。28はかわらけ。外底部板状圧痕・雑な整形・内底部横ナデ痕。29は常滑片口鉢I類・内側面下部が摩耗している。使用痕か？その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕・常滑片口鉢I類・須恵器蓋が破片で出土している。

遺構263（図16・図18）

円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

- ・図18－30は手づくね。外底部に指頭によるナデ痕。内底部強い横ナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけが破片で出土している。

遺構266（図16・図18）

円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図18－31は手づくね。外底面に指頭によるナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・鉄製品釘が出士している。

遺構279（図16・図18）

橢円形を呈する土坑。上層の遺構に壊されており規模は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図18－32は手づくね。外底面指頭による整形痕。内底面に強い横ナデ。胎土に雲母を多く含む。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構280（図16・図18）

円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図18－33・34は遺構280出土。

33はかわらけ。外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・胎土橙色を呈し雲母を多く含む。34は白磁四耳壺・素地・灰色を呈し堅緻。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・白磁器種不明が破片で出土している。

遺構292（図16・図18）

円形を呈するピット。上層の遺構に壊されており規模は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

- ・図18-35・36は遺構292出土。

35は手づくね。外底部指頭によるナデ痕・内底部ナデ痕。36は須恵器・蓋。胎土に白色粒を多く含む。外面頂部に箒による丁寧な整形痕。その他に、破片でかわらけが出土している。

遺構294（図16・図19）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含む。

- ・図19-37～39は遺構294出土。

37・38は手づくね。37・38は外底面指頭による整形痕。内底面指頭による横ナデ痕。39はかわらけ。外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。胎土赤褐色を呈しやや硬質。その他に、手づくねが破片で出土している。

遺構297（図17・図19）

円形を呈する深いピット。暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図19-40～42は遺構297出土

40はコースター形の手づくね。外底面ナデによる整形。41は手づくね。外底面指頭による整形痕・内底面ナデ痕。42は石製品・砥石。仕上砥・側面に切り出し痕。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構299（図17・図19）

楕円形を呈する土坑。覆土は暗褐色弱粘質土・褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。

- ・図19-43はかわらけ。胎土に白色粒を多く含む。底部粘土貼り付け。内底面に強く横ナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・常滑甕が出土している。

遺構307（図17・図19）

楕円形を呈する土坑。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物を多く含み、焼土黒色粘土・泥岩粒・褐鉄を含む。玉石混入。

- ・図19-44・45は手づくね。44は外底面板状圧痕・指頭によるナデ痕・やや硬質な胎土。45は外底面の整形が雑なため歪みが大きい。内底面指頭によるナデ痕・硬質な胎土・焼成良好。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構310（図17・図19）

円形を呈する深いピット。暗褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒を含み、締まりのない土。

- ・図19-46はかわらけ。外底部に板状圧痕。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・白磁器種不明・常滑甕が破片で出土している。

遺構321（図17）

楕円形を呈するピット。杭か柱の抜き痕か？覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物を多く含み、泥岩粒・褐色砂質土を含む。破片で、手づくね・かわらけ・常滑甕が出土している。

遺構322 (図17)

円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・締まりのない覆土。破片で手づくねが出土している。

遺構339 (図17・図19)

楕円形を呈する土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図19-47はかわらけ。内底部に強い横ナデ痕。

遺構342 (図17・図19)

円形を呈する浅いピット。暗茶褐色弱粘質土・炭化物を含む。下層に褐鉄が堆積。

- ・図19-48は鉄製品・釘。その他に破片で、手づくねが出土している。

遺構348 (図17)

円形を呈するピット。覆土は暗茶褐色粘質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。破片で、手づくね・かわらけが出土している。

遺構355 (図17・図19)

円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図19-49・50は手づくね。49は外底面指頭によるナデ痕。50は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が出土している。

遺構361 (図17・図19)

円形を呈するピット。遺構355に切られる。暗褐色弱粘質土・炭化物・褐鉄を含む。

- ・図19-51はかわらけ。外底面板状圧痕・雑な整形・内底面に強く横ナデ痕・覆土に雲母を多く含む。

遺構362 (図17)

円形を呈するピット。底面に砂質凝灰岩が残る。根固めか? 暗褐色弱粘質土・黒色粘土・褐鉄を含む。破片で、手づくね・かわらけ・白磁口兀皿・鉄製品釘が出土している。

遺構370 (図17・図19)

円形を呈する深いピット。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・炭化物を多く含む。覆土内に焼けた骨片を発見した。獸骨か?

- ・図19-52・53は遺構370出土

52は手づくね。外底面に指頭による整形痕。53は丸瓦。その他に、手づくね・常滑甕が破片で出土している。

遺構373 (図17・図19)

楕円形を呈する土坑。上層の遺構に壊され規模は不明。覆土は暗褐色弱粘質土・黒色粘土・炭化物を含む。

- ・図19-54は手づくね。外底面ナデによる丁寧な整形・内底面横ナデ痕・赤褐色を呈し硬質な胎土。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

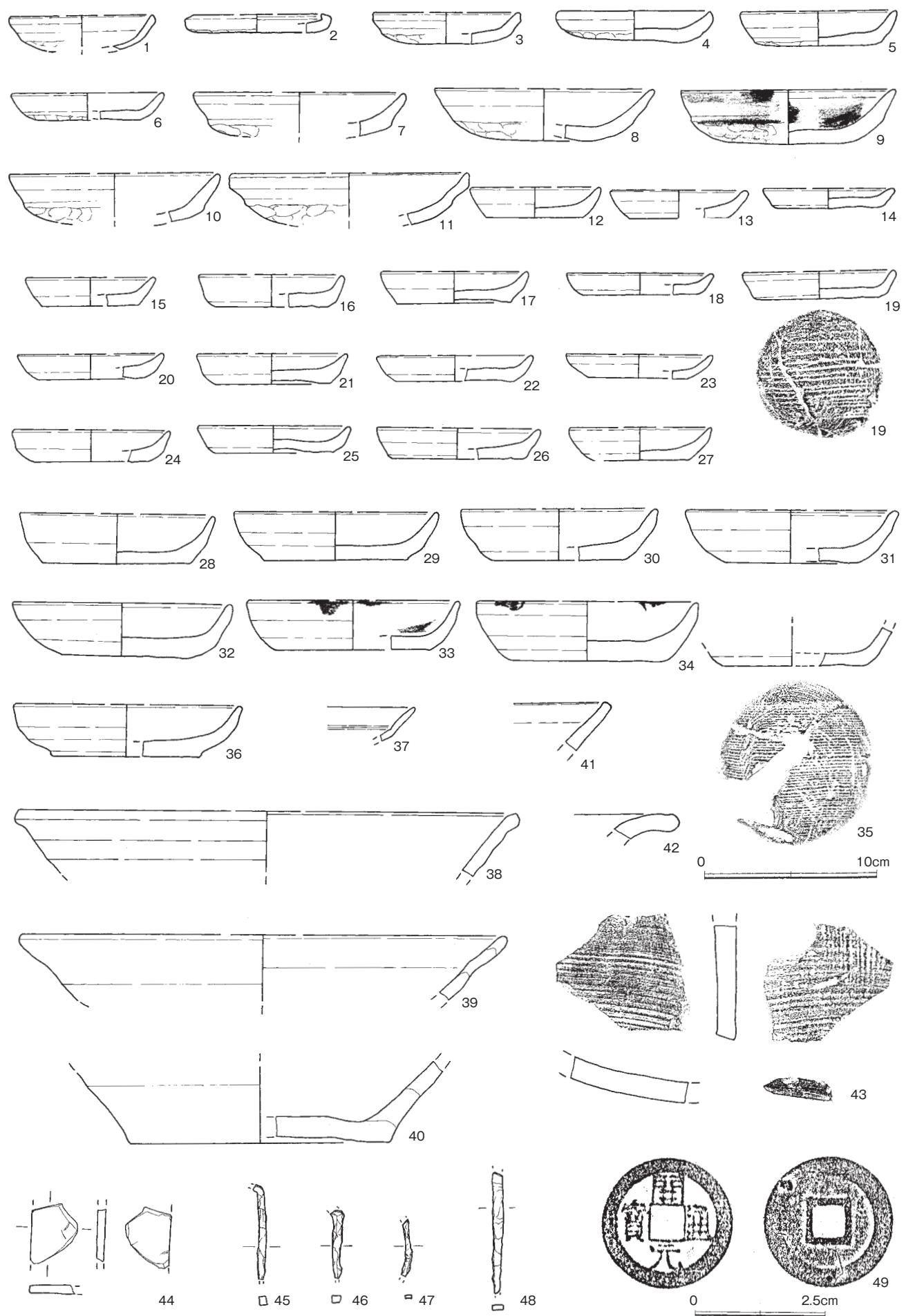


図20 第3面面上出土遺物

・第3面上出土遺物(図20)

1～11は手づくね。1は白かわらけ・外底部指頭による整形痕・硬質な胎土。2は内折れかわらけ・外底部指頭によるナデ痕。3は外底部指頭による整形痕内底のナデ整形は不明。4は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲をナデて整形・小石粒の混入する粗い胎土。5は外底部をナデにより丁寧に整形・内底部横ナデの後、回転によるナデ整形。6は外底部指頭によるナデ整形・内底部やや強い横ナデ・胎土に雲母を含みやや硬質。7は小石粒を含む粗い胎土。8は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲を回転ナデ。9は外底部指頭によるナデ痕・内底部粗い横ナデ痕・内底から内側面にかけて濃い油煤痕・大型の器形である。10は外底部指頭によるナデ整形・内底部強い横ナデ痕。11は外底部指頭による整形痕・内底部弱い横ナデ痕・精良な胎土でやや硬質・大型の器形である。12～36はかわらけ。12は外底面板状圧痕・内底部やや強い横ナデ痕。13は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。14は外底部板状圧痕・内底部ナデ不明。15は内底部横ナデ痕。16は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・分厚い底部を持つ。17は外底部板状圧痕・内底部に強い横ナデ痕。18は外底部板状圧痕・内底部横ナデ。19は外底部にすだれ状の圧痕・内底部雑な横ナデ痕・軟質な胎土。20は外底部板状圧痕・内面ナデ不明。21は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。22は底部粘土版貼り付け痕・内底部雑な横ナデ痕。23はやや硬質な胎土。24は内底部横ナデ痕。25は外底部板状圧痕・内底部雑な横ナデ痕。26は外底部に19と同様のすだれ状圧痕・内底部雑な横ナデ痕。27は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。28は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。29は外底部板状圧痕・内底部丁寧な横ナデ痕。30は外側面に回転ナデの稜が強く残る・内底面横ナデ痕。31は内底面に弱い横ナデ痕。32は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。

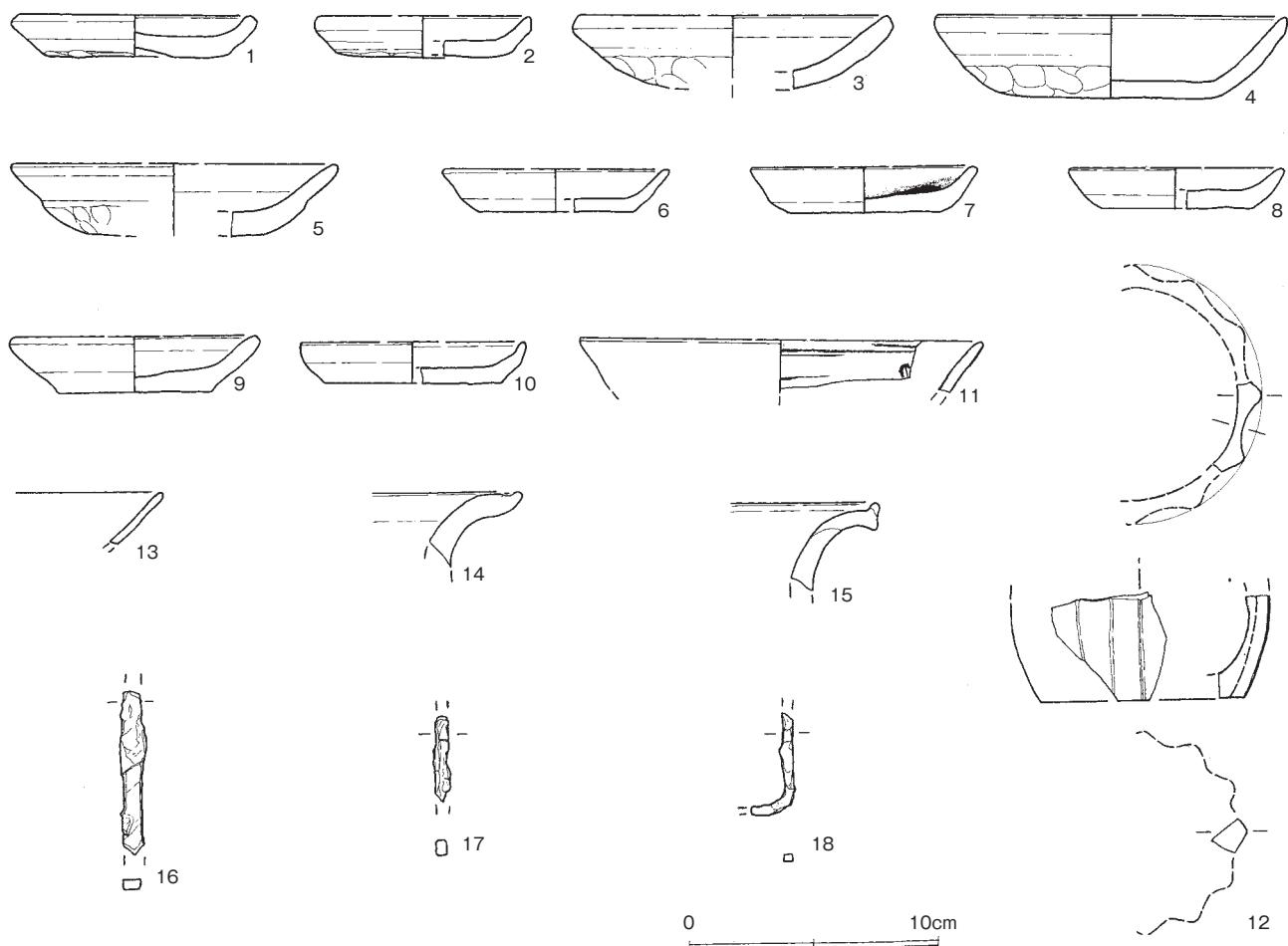


図21 第3面構成土

33は外底面板状圧痕・口唇部一部内外面に油煤痕。34は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕・口唇部に油煤痕。35は外底面に19と同様のすだれ状の圧痕・底部粘土版貼り付け痕・内底部雑な横ナデ痕。36は外底部板状圧痕・底部粘土版貼り付け痕・内底部横ナデ痕。37は青磁櫛搔文皿・軟質な胎土。38～41は常滑片口鉢I類。38・39は白色粒が多く含まれる胎土。40は胎土赤褐色を呈し、内底部に指頭による整形痕。41は硬質な胎土。42は渥美甕の口縁部片。43は平瓦。44は石製品・砥石・仕上砥。45～48は鉄製品・釘。49は銭・開元通寶。

・第3面構成土出土遺物(図21)

1～5は手づくね。1は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕・胎土に雲母を多く含みやや硬質。2は外底部指頭によるナデ痕・内底部横ナデ痕。3は外底部指頭による整形痕・内底部にやや強めの横ナデ痕。4は外底部板状圧痕・指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。5は外底部指頭による整形痕・内底部強い横ナデ痕・雲母・白色粒を含み粗い胎土。6～10はかわらけ。6は外底面板状圧痕。内面弱いナデ痕。7は粗い胎土・二次焼成か?内面に煤痕。8は外底面板状圧痕・内面弱いナデ痕。9は外底部に板状圧痕・内底面横ナデ痕・手づくねの器形に似て外側面肥厚する。10は外底面に板状圧痕・内底面に弱い横ナデ痕。11は青磁櫛搔文碗。12は青白磁壺・瓜形か?13は山茶碗外面口唇部から内面にかけて降灰釉。14・15は常滑甕口縁部片。16～18は鉄製品・釘。

第3節 第2面の遺構と遺物(図22～図30)

上層の遺構によって壊されている部分を除き、丁寧な泥岩による地業層上で第2面を検出した。地業が遺存している部分はスクリーントーンで示している。地業は意識的に平らに割って整形した大型の泥岩と、細かに割り碎いた泥岩を使用している。細かく割り碎いた泥岩の地業層序一部には、かわらけ細片も地業材として利用していた様子も観察された。2面構成土は泥岩層と薄い暗茶褐色弱粘質土が互層に堆積し地業していた様子を観察している。また、一部ではあるが地業層上面に貝砂の混じる褐色砂質土が堆積していた。発見した遺構は土坑12基・ピット56穴である。第2面検出レベルは海拔約9.70mである。

遺構52(図22・図28)

調査区をI区・II区と分けた境で発見したため正確な形状は不明。円形を呈する浅いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土を多く含む。

- ・図28-1は鉄製品・釘。その他に、手づくねが破片で出土した。

遺構54(図22・図28)

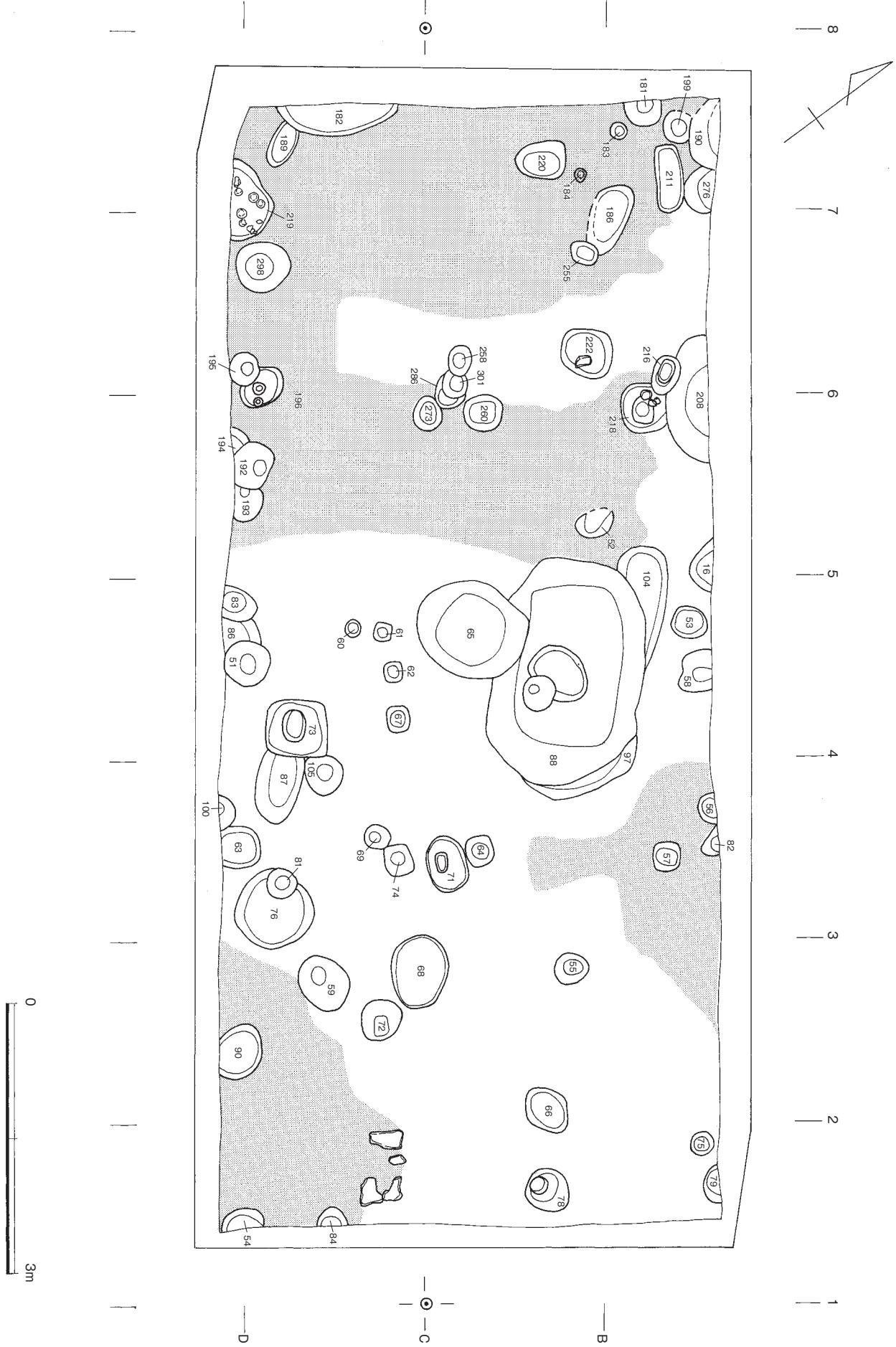
調査区南東隅で発見し、調査区外に遺構が延びてしまっているため正確な形状は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土を多く含む。

- ・図28-2は緑釉洗。胎土灰褐色を呈し、白色粒の混じる粗い土。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構59(図27・図28)

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。

- ・図28-3は手づくね。胎土に雲母が多く混入。内底面横ナデ痕。その他に、手づくね・白かわらけが



破片で出土している。

遺構63（図27・図28）

調査区外に遺構が延びてしまっていたため正確な形状は不明。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物・泥岩粒・褐色砂質土を含む。

- ・図28-4は山茶碗口縁部片。灰色を呈し堅緻で精良な胎土。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけが破片で出土している。

遺構65（図23）

円形を呈する土坑。上層の井戸であった可能性がある。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・炭化物・黒色粘土を含む。下層に有機質土が堆積していた。第2面調査時には遺構底面まで掘りきることができなかつたが、第3面地業層上で痕跡を確認することができなかつたため、この段階でほぼ底部まで検出していると思われる。

- ・図23・1～4は遺構65出土

1・2はかわらけ。1は赤褐色を呈し、やや硬質な胎土。ほぼ直立する器壁を持つ。外側面は轆轤成形時の回転のナデが強く残る。2は口唇部に油煤痕。内底に弱い横ナデ痕。3・4は常滑甕。3は白色粒を多く含む粗い胎土。4は外側面下部に籠状工具による整形痕。黒色粒を含む粘性の強い胎土。その他に破片で、手づくね・かわらけ・白かわらけ・青磁器種不明・白磁器種不明・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢I類・瀬戸褐釉器種不明・瀬戸器種不明・平瓦が出土している。

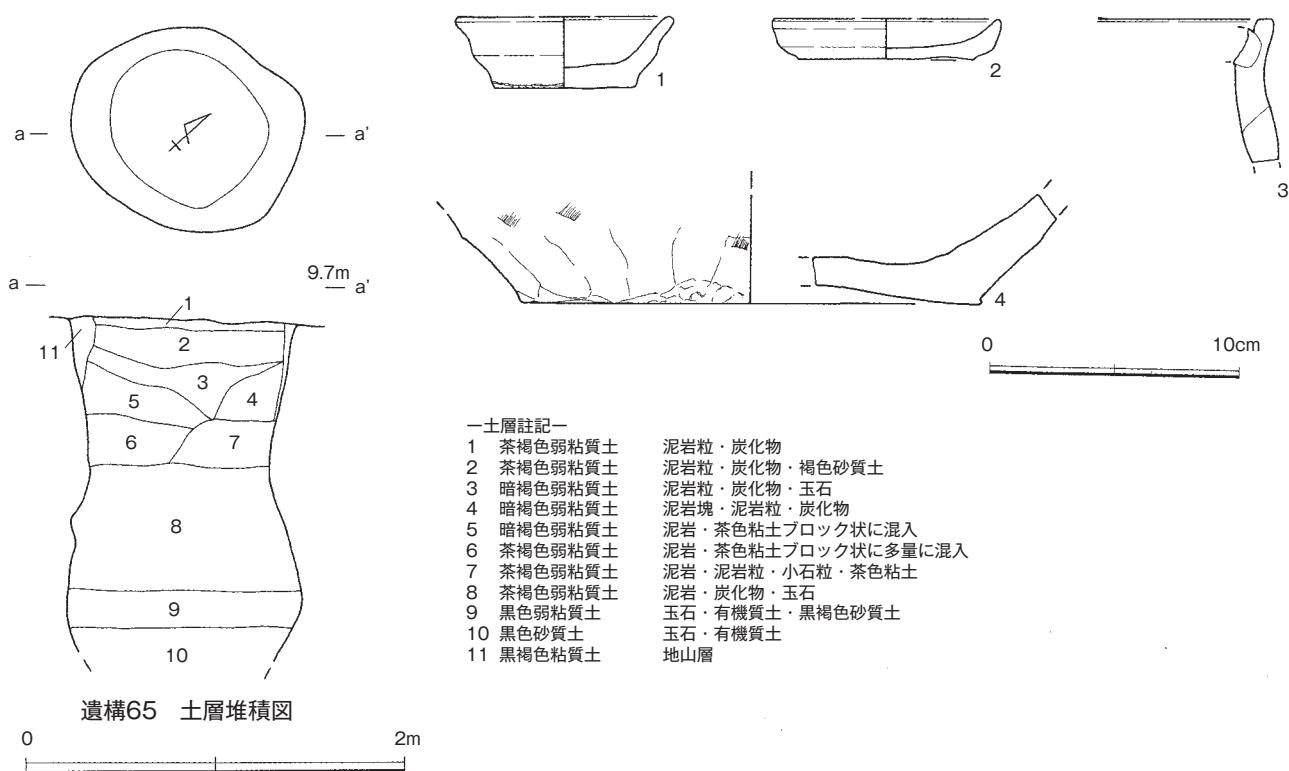


図23 遺構65・出土遺物

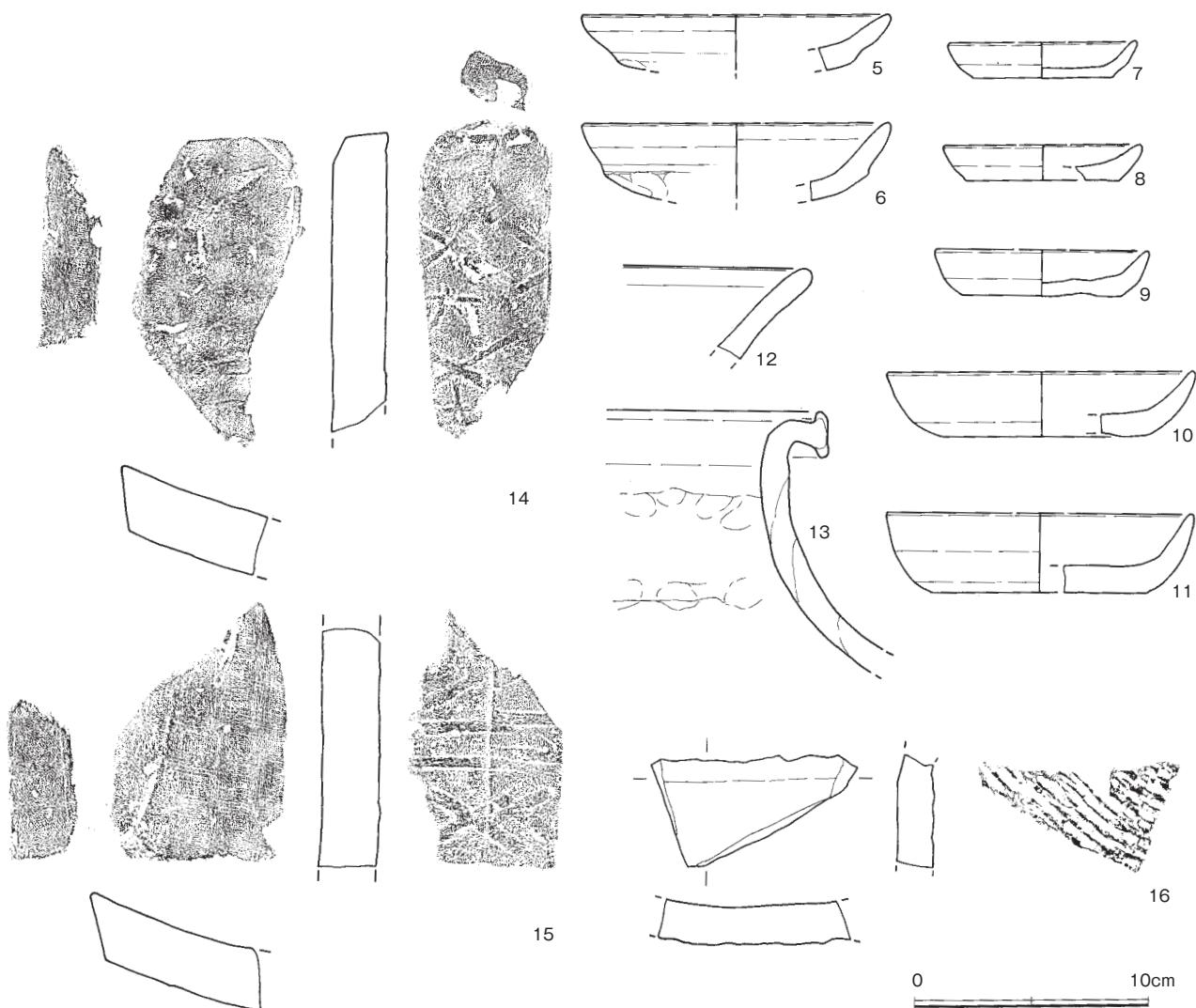
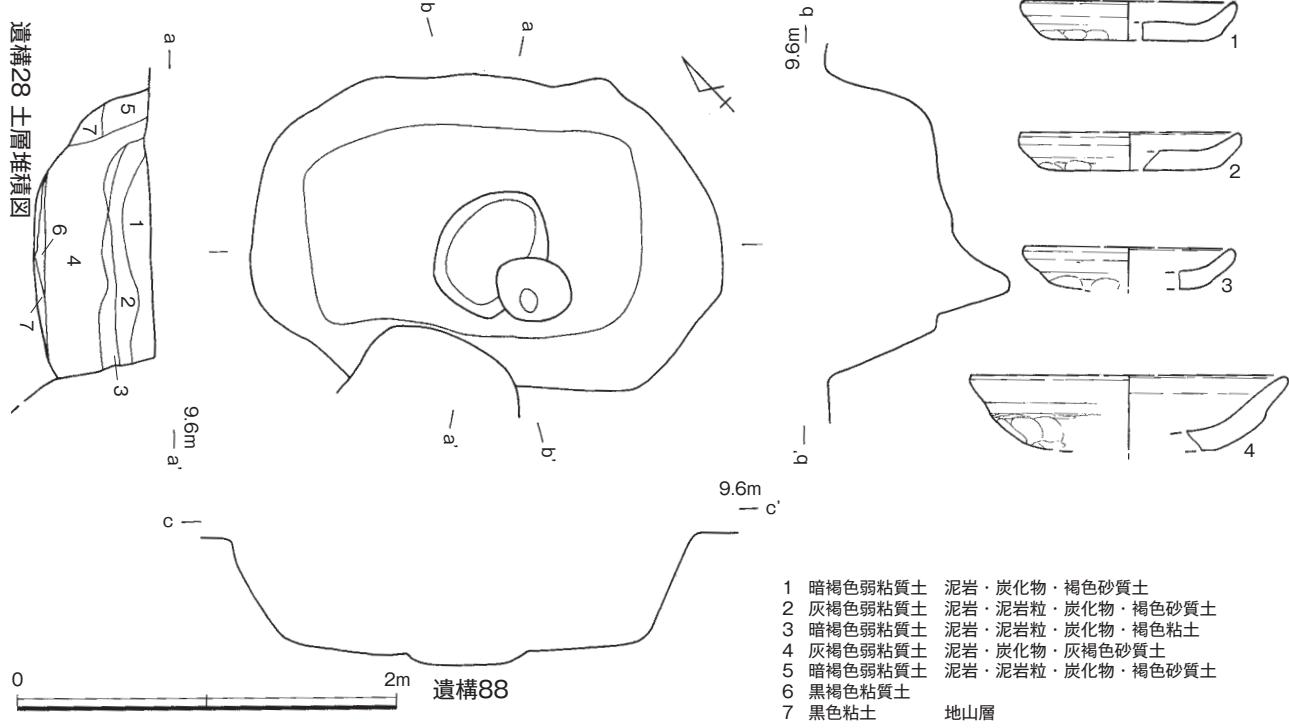


図24 遺構88・出土遺物

遺構68（図27・図28）

楕円形を呈する深い土坑。覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。かわらけ細片が多く混入。

- ・図28-5はかわらけ。外底部板状圧痕。内底面横ナデ痕。小石粒を含む粗い胎土。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・渥美甕が破片で出土している。

遺構71（図27・図28）

楕円形を呈するピット。遺構底面に方形のピット。柱痕か？覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。

- ・図28-6は鉄製品・釘。鏽も付着しておらず、遺存状態良好。その他に、手づくね・かわらけ・青磁碗・渥美甕・常滑甕・瓦器火鉢が破片で出土している。

遺構73（図27・図28）

遺構87を切る。底面に柱痕が遺存するピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・微量の泥岩粒・炭化物を含む。底面のピット覆土には茶色有機質土が含まれていた。

- ・図28-7～9は遺構73出土

7は手づくね。外底面に指頭による整形痕。内底面横ナデ痕。赤褐色を呈し硬質で精緻な胎土。8はかわらけ。外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。雲母を多く含む。9は渥美甕口縁部片。胎土は褐色を呈し砂粒・白色粒を含む。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構78（図27・図28）

円形を呈するピット。覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。

- ・図28-10～13は遺構78出土

10・11は手づくね。10は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。11は内外底面に指頭による整形痕。12は常滑甕。暗褐色を呈し白色粒の混じる精緻な胎土。13は鉄製品・釘。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕が破片で出土している。

遺構87（図27・図28）

遺構73に切られる。方形を呈する深い土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・微量の泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。

- ・図28-14は常滑甕。その他に、手づくね・かわらけ・渥美甕が破片で出土している。

遺構88（図24）

楕円形を呈する土坑。土坑底部に柱穴痕と思われるピットがあった。覆土は褐色砂質土を多く含む。

- ・図24-1～16は遺構88出土

1～6は手づくね。1～3は外底面に指頭による整形痕・内底面に横ナデ痕。4は赤褐色を呈し外底面に指頭による整形痕・外側面に強く稜が入る。内底面に横ナデ痕。5は褐色を呈しやや分厚い器壁を持つ。胎土に雲母を多く含む。6は赤褐色を呈し外底面籠状工具による整形痕。内底面に横ナデ痕。やや硬質な胎土。7～11はかわらけ。7は外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。8は外底面板状圧痕。胎

土に雲母を多く含む。9は外底面板状圧痕。内底面に強く横ナデ痕。雲母を多く含み粗い胎土。10は外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。やや軟質な胎土。11は外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。器壁はやや直立して立ち上がる。12は常滑片口鉢I類・口縁部片。13は常滑甕。小石粒・白色粒を多く含む粗い胎土。14・15平瓦。凸部に斜格子状の叩き痕。16は須恵器甕。胴部片。その他に、手づくね・かわらけ・白かわらけ・青白磁不明・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢II類・平瓦・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構90(図27・図28)

円形を呈する深いピット。覆土は暗褐色弱粘質土・微量の泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。
・図28-15は常滑片口鉢II類・口縁部片。その他に破片で、手づくね・かわらけが出土している。

遺構104(図25)

楕円形を呈する深い土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・褐色砂質土を多く含み・微量の炭化物・泥岩粒を含む。

・図25-1~8は遺構104出土

1は手づくね・白かわらけ。コースター状の器形。外底面指頭による整形痕・内底面回転ナデ痕。2~4はかわらけ。2は外底面板状圧痕・内底面強い横ナデ痕。3は外底面強い板状圧痕・内底面横ナデ痕。4は口唇部に油煤痕・小石粒の混じる粗い胎土。5は青磁櫛搔文皿・同安窯系。6は渥美片口鉢・褐色を呈し砂質な胎土。7は常滑片口鉢I類・褐色を呈し硬質な胎土。8は鉄製品・釘。その他に、かわらけ・白かわらけ・青磁器種不明・渥美甕・常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

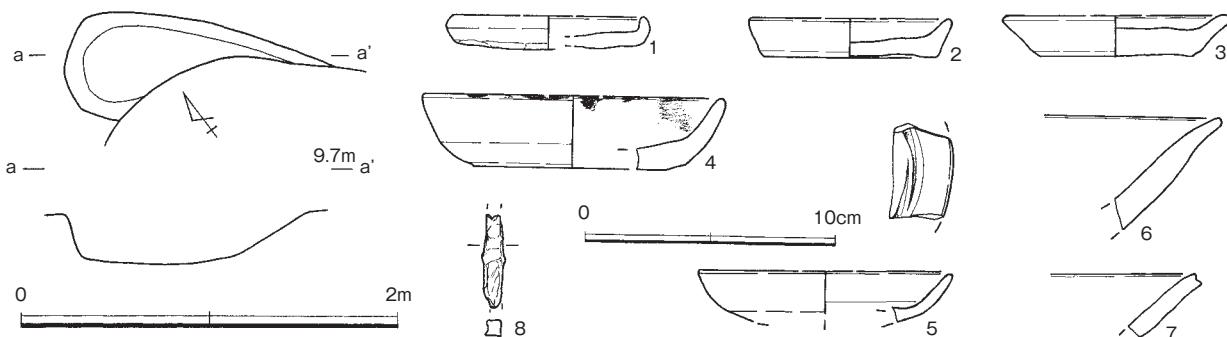


図25 遺構104・出土遺物

遺構105(図27・図28)

遺構73に切られる。円形を呈する深いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・砂質土・炭化物を多く含む。

・図28-16・17は遺構105出土

16は手づくね。内外底面に指頭による整形痕。17は銭・開元通寶。破片でも手づくねが出土している。

遺構182(図27・図28)

調査区外に遺構が延びてしまっているために正確な形状は不明。深い土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・玉石が多く混入・褐鉄を含む。

・図28-18~20は遺構182出土

18・19はかわらけ。18は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。19は外底面板状圧痕。小石粒の混じる粗い胎土。20は鉄製品・釘。その他に手づくね・かわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構196(図22・図28)

個別に平面図を掲載していないが、底面に2穴の柱痕が残るピットである。覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を多く含む。

- ・図28-21～23は遺構196出土

21～23はかわらけ。21は外底面板状圧痕・外側面に糸切り痕・内底面横ナデ痕。22は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。23は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。その他に手づくね・かわらけ・白かわらけ・常滑甕・綠釉器種不明が破片で出土している。

遺構208(図22・図28)

個別に平面図を掲載していない。調査区外に遺構が延びていたためや、調査途中に調査区壁が崩落してしまい正確な形状は不明。井戸の可能性もある深い土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土。

- ・図28-24～26は遺構208出土

24は手づくね。外底面指頭による横ナデ痕・内底面回転ナデ痕。25はかわらけ。内底面横ナデ痕。26は鉄製品・釘。その他に手づくね・かわらけ・青磁器種不明・白磁器種不明・常滑片口鉢I類・獸骨が破片で出土している。

遺構218(図27・図28)

円形を呈する浅いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物・かわらけ細片を多く含む。

- ・図28-27～31は遺構218出土

27・28は手づくね。27は内外底面に指頭による整形痕。28は内底面横ナデ痕。29～31はかわらけ。

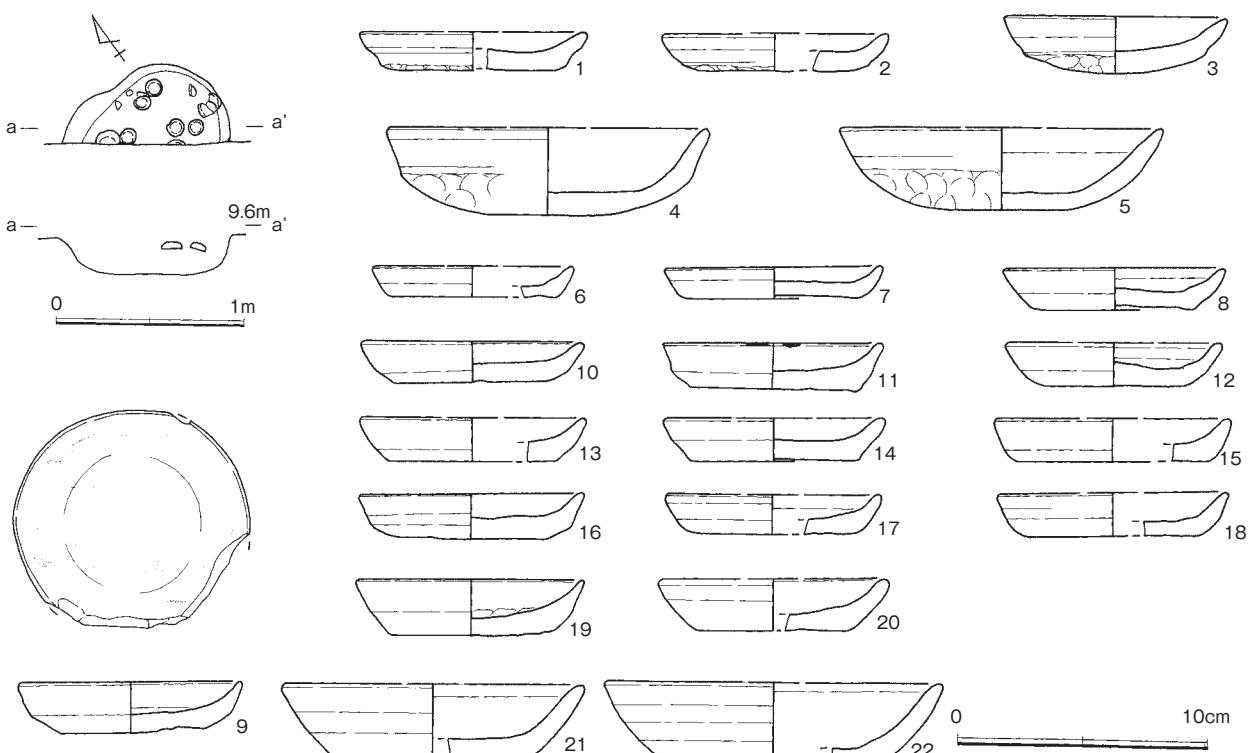


図26 遺構219・出土遺物

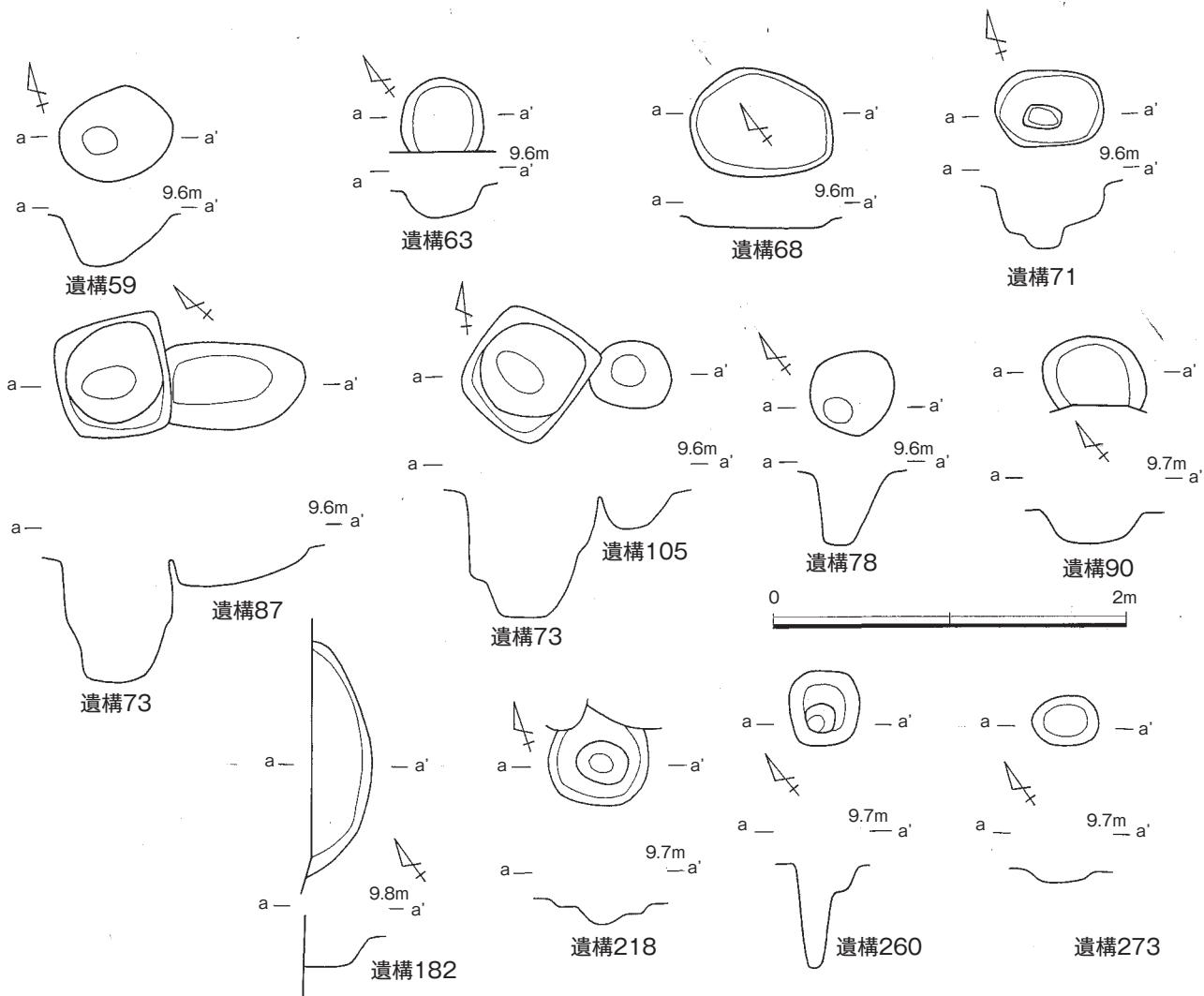


図27 第2面遺構・個別平面図

29は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。30は外底面板状圧痕・内底面強い横ナデ痕。31は外底面板状圧痕・内底面回転ナデ痕。その他に手づくね・かわらけ・渥美甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

遺構219（図22・図26）

調査区外に遺構が延びてしまっているために正確な形状は不明であるが、ほぼ円形を呈すると思われる土坑である。土坑内には手づくね・かわらけが出土し、実測した遺物の他に破片で手づくね・かわらけ・常滑甕・鉄製品釘・獸骨が出土している。手づくね・かわらけ等の廃棄土坑と思われる。

・図26-1～22は遺構219出土

1～5は手づくね。1・2は内外底面に指頭による整形痕。小石粒の混じる粗い胎土。3は外底面に指頭による整形痕・内底面回転ナデ痕。赤褐色を呈し硬質な胎土。4は外底面に指頭によるナデ痕・内底面横ナデ痕。5は外底面に指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。6～22はかわらけ。6は外底面板状圧痕。内底面横ナデ痕。7は外底面糸切り痕をナデている・内底面回転ナデ痕。8は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。9は内面に薄くではあるが格子状の墨痕。内底面横ナデ痕・外底面強い板状圧痕。10は外底面板状圧痕・内底面に横ナデ痕。雲母・小石粒を含む粗い胎土。11は外底面に強い板状圧痕・内底面横ナデ痕。12は外側面に糸切り痕の痕跡が残る。内底面横ナデ痕。小石粒の混じる粗い胎土。

13は内底面にナデ痕。14は外底面弱い糸切り痕・内底面横ナデ痕。15は外底面板状圧痕・内底面回転ナデ痕。16は外底面強い板状圧痕・内底面横ナデ痕・赤褐色を呈し硬質な胎土。17は外底面板状圧痕・

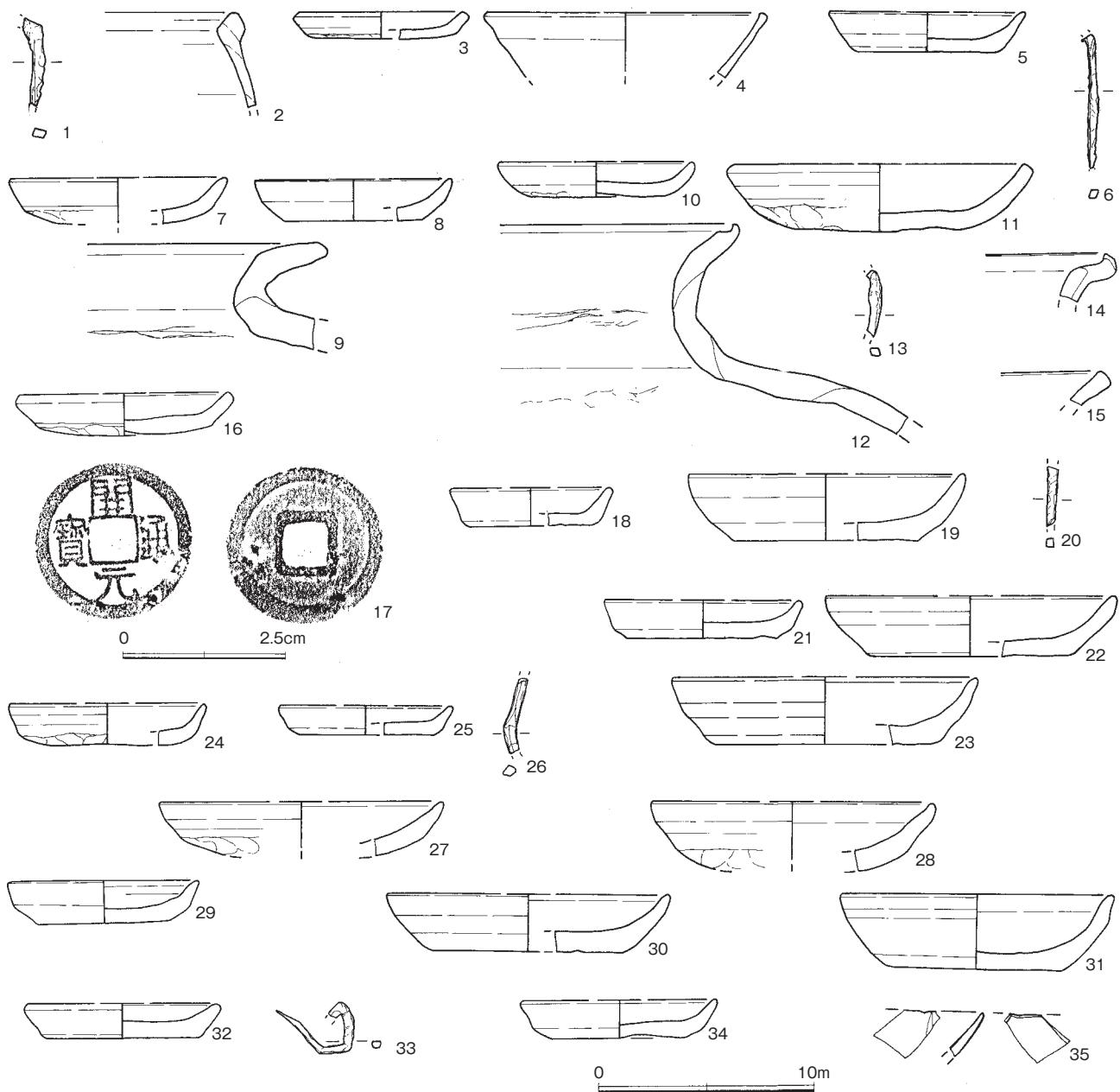


図28 第2面遺構出土遺物

内底面横ナデ痕。18は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。19は外底面に強い板状圧痕・内底面横ナデ痕・赤褐色を呈し、雲母を多く含む硬質な胎土。20は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。21は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。22は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。その他に、手づくね・かわらけ・常滑甕・鉄製品釘・獸骨が破片で出土している。

遺構260(図27・図28)

- 円形を呈するピット。底面に柱痕が残る。覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物を多く含む。
- ・図28-32・33は遺構260出土
- 32はかわらけ。外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。33は鉄製品・釘。その他に、手づくね・かわらけ・

常滑甕が破片で出土している。

遺構273(図27・図28)

円形を呈する浅いピット。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。
・図28-34はかわらけ。外底面板状圧痕・内底面強い横ナデ痕。その他にかわらけが破片で出土している。

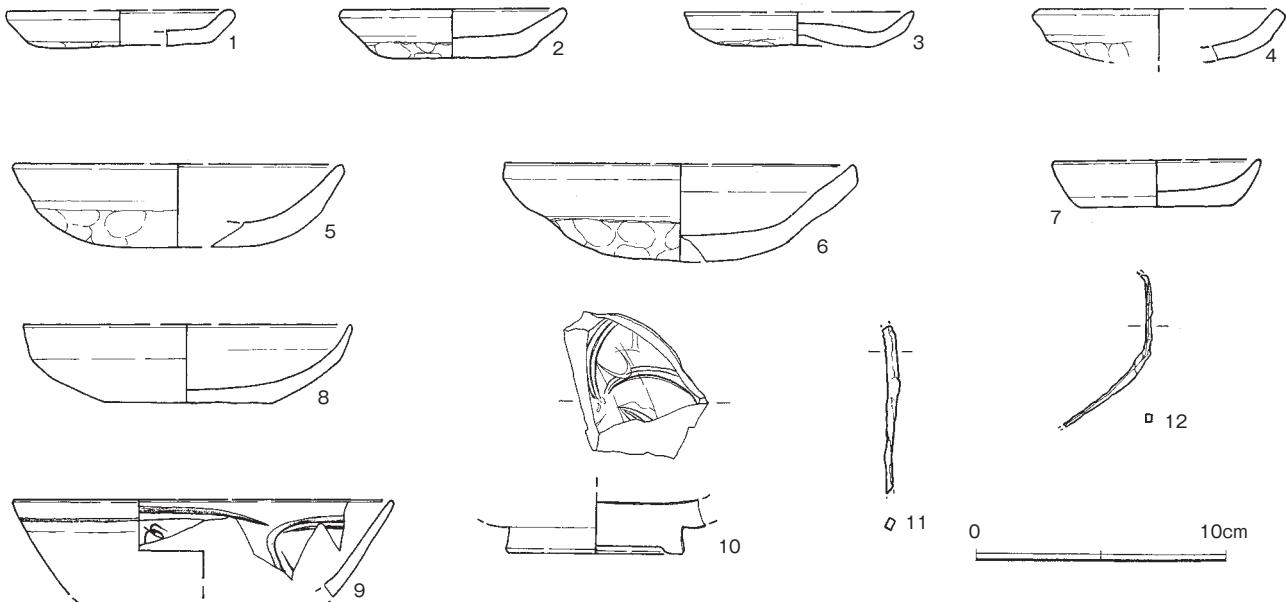


図29 第2面上出土遺物

遺構301(図22・図28)

個別に平面図は掲載していない。遺構268に切られる。円形を呈するピットである。覆土は暗茶褐色弱粘質土・炭化物を多く含む。

・図28-35は青磁・輪花型・白堆文碗である。小片ではあるが鎌倉市街地遺跡では稀な出土遺物である。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

・第2面上出土遺物(図29)

第2面の面上で出土した遺物である。1~6は手づくね。1は内底面横ナデ痕。2は外底面指頭による整形痕。3は内外底面指頭による整形痕。4は精良で硬質な胎土・丁寧な整形。5・6は内外底面に指頭による整形痕。7・8はかわらけ。7は内底面横ナデ痕。8は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。9は青磁劃花文碗。胎土灰白色を呈し精緻。10は青磁劃花文皿。胎土黄褐色を呈する。高台底部無釉。11・12は鉄製品・釘。

・第2構成土出土遺物(図30)

1~19は手づくね。1は白かわらけ。外底面指頭による整形痕。2は外底面指頭による整形痕。内底面回転ナデ痕。3は内底面横ナデ痕。4は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。赤褐色を呈し硬質な胎土。5は内外底面指頭による整形痕。6は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。7は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。8は外底面指頭による整形痕・赤褐色を呈し硬質な胎土。9は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。10は外底面指頭による整形痕。11は外底面指頭による整形痕・

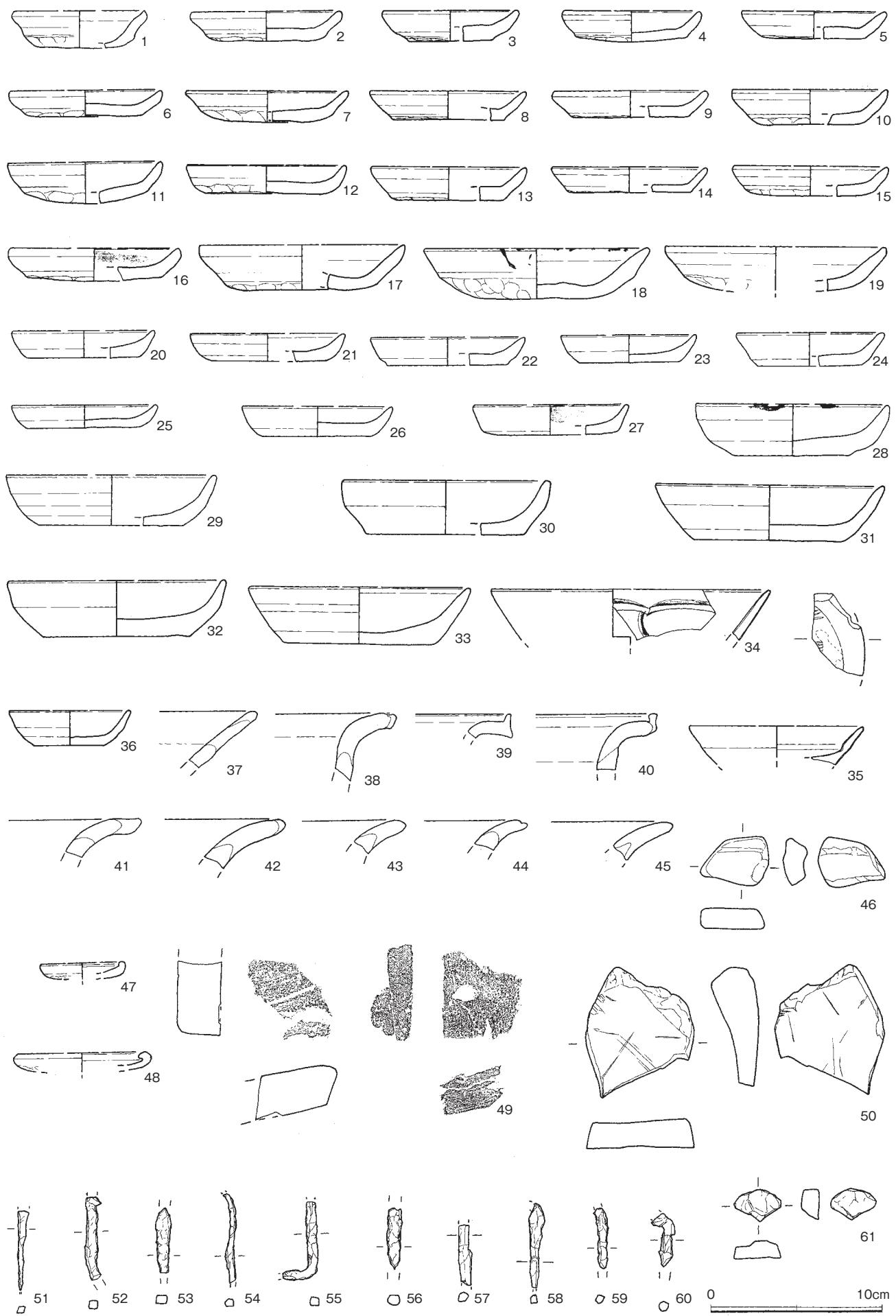


図30 第2面構成土出土遺物

内底面横ナデ痕。12は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。13は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。14は内外底面に指頭による整形痕。15は外底面指頭による整形痕。16は外底面指頭による整形痕・内面全体に油煤痕。硬質で精良な胎土17は外底面指頭による整形痕。赤褐色を呈し硬質な胎土。18は外底面指頭による整形痕と板状圧痕が残る。内底面に強い横ナデ痕。19は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。20～33はかわらけ。20は外底面に板状圧痕。二次焼成を受けたためか器肌が剥離している。21は外底面に板状圧痕・内底面横ナデ痕。22は内底面横ナデ痕。23は内底面横ナデ痕。24は内底面回転ナデ痕。25は内底面回転ナデ痕。26は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。27は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。内側面に油煤痕。28は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。口唇部1か所打ち搔け・内外面口唇部に油煤痕。29は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。30は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。31は外底面板状圧痕・内底面強い横ナデ痕。32は内底面横ナデ痕・内底面磨滅している。33は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。34は青磁割花文碗。35は青磁櫛搔文皿。36は山皿。外底面糸切り痕・内底面剥離。37は常滑片口鉢I類口縁部片。胎土に小石粒・白色粒が多く混入38～40は常滑甕。38は小石粒の混入する粗い胎土。39は褐色を呈し精良な胎土。40は小石粒の混入する粘性の強い胎土。41～45は渥美甕・口縁部片。46は魚住・片口鉢転用品。断面に摩耗痕残る。47・48は瓦器皿・内折れ。外底面に指頭による整形痕。49は平瓦。50は石製品・砥石。51～60は鉄製品・釘。61はチャート破片。火打石に使用か？

第4節 第1面の遺構と遺物（図31～図40）

重機によって、表土から約50cm堆積していた現代埋土を掘り下げる、泥岩地業層上、海拔約10.00mで第1面を検出した。上層の現代層によって部分的に壊されてしまっていたが、細かく碎いた泥岩で丁寧な地業を行っている様子を観察できた。第1面で発見した遺構は土坑15基・ピット28穴・溝2条である。泥岩地業層下層には茶褐色砂質土が堆積していることを確認した。また、泥岩地業層と茶褐色砂質土層の間で数枚の錢をまとめて発見しており、地業の際の地鎮であったのかもしれない。前述した第2面の地業の際には大型の泥岩も地業用材として使用していたが、第1面では細かく碎いた泥岩を地業用材として使用している。

遺構3（図32）

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。手づくね・かわらけ・常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

遺構4（図32・図33）

楕円形を呈する土坑である。覆土は黒褐色弱粘質土・泥岩粒を多く含み・泥岩・炭化物・褐色砂質土を含む。

・図33-1・2は遺構4出土

1は手づくね・外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。2は青磁割花文皿。見込みに櫛搔草文。底部は削り取って整形している。竜泉窯。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構5（図32・図33）

楕円形を呈する土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。



図31 第1面全測図

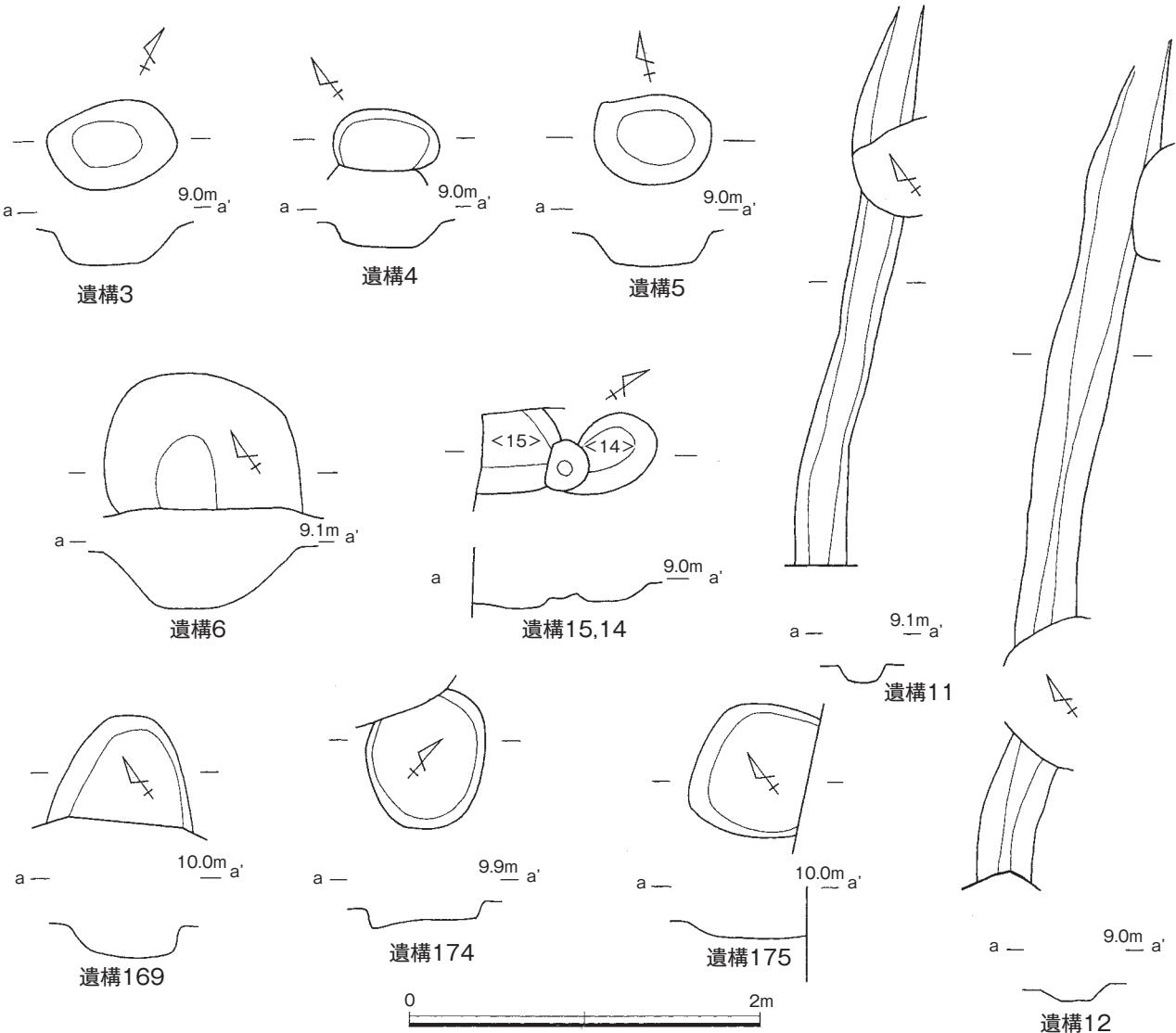


図32 第1面個別遺構図

・図33-3・4は遺構5出土

3はかわらけ。外底面板状圧痕・内底面強いナデ痕。4は常滑片口鉢I類底部片。内面残存部に摩耗痕。その他に、手づくね・かわらけ・渥美甕・常滑甕・硯材が破片で出土している。

遺構6(図32・図33)

調査区外に遺構が延びているために正確な形状は不明。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土・拳大の泥岩を含み・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。

・図33-5は平瓦。水殿瓦窯・凸部に斜格子の中に<大>の字の叩き痕。その他に出土遺物はない。

遺構11(図32)

南北に延びる溝状の土坑である。断面は逆台形に立ち上がる。遺構の北側は現代の堆積に壊され、南側は調査区外に延びてしまっているために規模は不明。深さ約8cmを測る。覆土は暗黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。手づくね・かわらけ・常滑甕・瀬戸器種不明が破片で出土している。

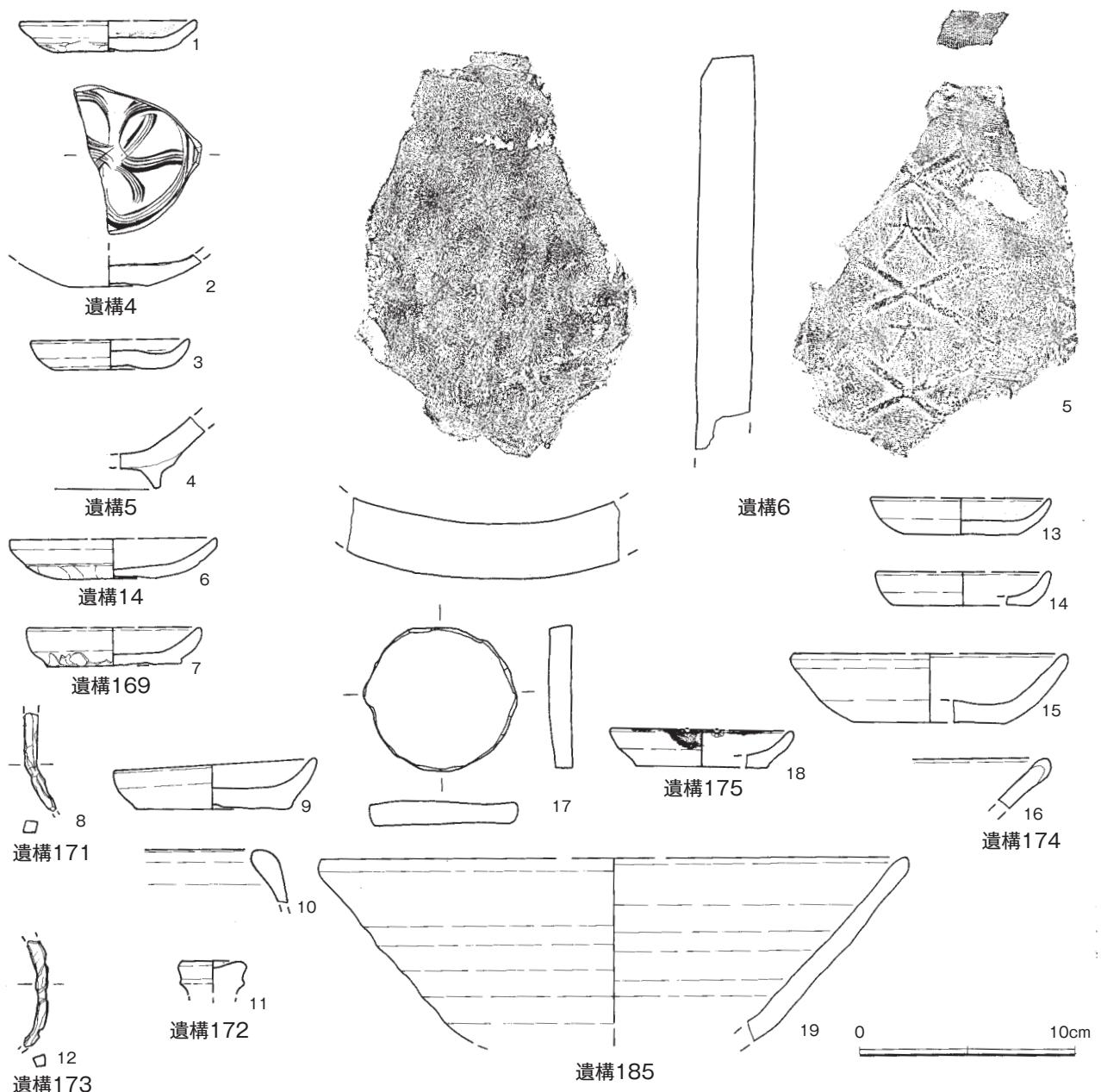


図33 第1面・個別遺構出土遺物

遺構 12 (図32)

遺構11と、ほぼ平行に南北に走る溝状の土坑である。遺構11と同様に北側を現代の堆積に壊され、南側は調査区外に延びてしまっているために規模は不明。深さ約9cmを測る。覆土も遺構11に近似し、黄褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。手づくね・かわらけ・常滑甕・常滑片口鉢I類が破片で出土している。

遺構 14 (図32・図33)

円形を呈する深い土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・褐色砂質土を含む。
・図33-6は手づくね。外底面籠状工具による整形痕・薄手で精良な胎土。その他に、手づくね・かわらけ・青磁蓮弁文碗が破片で出土している。

遺構 169 (図32・図33)

調査区外に遺構が延びてしまっているために正確な形状は不明。土坑である。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩塊を多く含み・泥岩粒・炭化物を含む。

- ・図33-7はかわらけ・外底部に強い板状圧痕・内底部横ナデ痕。その他に出土遺物はない。

遺構 171 (図31・図33)

調査区外に遺構が延びているために正確な形状は不明。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒・炭化物・灰褐色砂質土を含む。

- ・図33-8は鉄製品・釘。その他に出土遺物はない。

遺構 172 (図31・図33)

調査区外に遺構が延びてしまっているために、正確な形状は不明。土坑である。覆土は黒色粘質土・褐鉄炭化物・褐色砂質土を含む。

- ・図33-9～11は遺構172出土

9はかわらけ・外底部強い板状圧痕・内底面強い横ナデ痕。10は瀬戸鉢。二次焼成を受けたのか？外側面釉がガラス状に変質している。11は土師器・蓋の摘み部か？その他に、手づくね・かわらけ・青磁鉢・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・瀬戸鉢・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 173 (図31・図33)

調査区外に遺構が延びているために正確な形状は不明。土坑である。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩炭化物を含む。

- ・図33-12は鉄製品・釘。その他に出土遺物はない。

遺構 174 (図32・図33)

円形を呈する深い土坑。覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩・炭化物を多く含む。

- ・図33-13～16は遺構174出土

13～15はかわらけ。13は底部粘土貼り付け痕・内底部横ナデ痕。14は外底部板状圧痕。15は内底部横ナデ痕・胎土に雲母を多く含む。16は常滑片口鉢Ⅰ類。その他に、手づくね・かわらけが破片で出土している。

遺構 175 (図32・図33)

ほぼ円形を呈する深い土坑。覆土は茶褐色弱粘質土・泥岩・泥岩粒を多く含む。

- ・図33-17・18は遺構175出土

17はかわらけ底部片の転用品・円盤状製品。18は外底部板状圧痕・内外口唇部に油煤痕・器肌剥離。その他に出土遺物はない。

遺構 185 (図31・図33)

ほぼ円形を呈する深い土坑。覆土は暗茶褐色弱粘質土・泥岩塊・泥岩粒を多く含み・玉石・炭化物混入。出土遺物内に近世・現代遺物が混入していなかったために、第1面遺構として掲載したが、中世以

降の可能性もある。

・図33－19は常滑片口鉢I類。白色粒を多く含む精良な胎土。その他に手づくね・かわらけ・白かわらけ・渥美甕・常滑甕・瓦器火鉢・軽石が破片で出土している。

・第1面上出土遺物(図34)

1～7は手づくね。1は白かわらけ。2は外底面ナデによる整形痕。3は外底面指頭による整形痕。4は外底面ナデによる整形痕・内底面横ナデ痕。5は内底面横ナデ痕。6は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。7は外底面指頭による整形痕。赤褐色を呈し硬質な胎土。8～18はかわらけ。8は外底部糸切り痕不明。板状圧痕は残る・全体に器肌が摩耗している。9は外底面強い板状圧痕・内底横ナデの後、見込み周囲をナデて整形。10は外底面板状圧痕。11は外底面板状圧痕。12は外底面板状圧痕・内底面ナデ不明。13は内底部強く横ナデ痕。14は外底部板状圧痕・内底須横ナデ痕・口唇部油煤痕。15は外底部板状圧痕・外側面に糸切りによる水引痕・内底部横ナデ痕。16は外底部板状圧痕・内底部強く横ナデ痕。17は小石粒の混入する粗い胎土。18は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。19は青磁櫛搔文碗。素地灰白色を呈し堅緻。20は青磁碗底部片。高台内部無釉。21は黄釉洗。22は瀬戸折縁深皿。23はかわらけ底部転用品・円盤状製品。24～27は常滑片口鉢I類。24は胎土灰白色を呈し、白色粒の混入する粗い胎土。25は胎土褐色を呈し、やや軟質な胎土。26・27は胎土灰白色を呈し、白色粒の混入するやや硬質な胎土。28・29は常滑片口鉢II類。28は赤褐色を呈し軟質な胎土。29は胎土褐色を呈し、白色粒の混入する硬質な胎土。30は瓦器碗・底部片。内底部に花文の暗文。31～34は平瓦。35～37は鉄製品・釘。

・第1面構成土出土 遺物(図35～図40)

1～6は手づくね・白かわらけ。胎土精良で硬質。3は内底横ナデ痕が残る。7は手づくね・内折れ。外底部ナデ整形。やや硬質な胎土。8～36は手づくね。8は外底部ナデ整形。内底部横ナデ痕。9は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。10は外底部・内底部ナデ整形。11は外底部ナデ整形・内底部横ナデ痕。12は外底部指頭による整形痕・内底部ナデ痕。13は外底部指頭による整形痕。14は外底部指頭による整形痕。15は外底部ナデ整形・内底部見込み周囲を回転ナデ痕。16は外底部ナデ整形。17は外底部指頭による整形・内底横ナデ痕。18は外底部ナデによる整形。19は外底部指頭による整形。20は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。21は外底・内底部ナデによる整形痕。22は外底部指頭による整形痕・23は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。24は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデの後、見込み周囲を回転ナデで整形。25は外底部指頭による整形痕・赤褐色を呈し硬質な胎土。26・27は外底部指頭による整形痕。28は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。29は外底部指頭による整形痕・赤褐色を呈し硬質な胎土。30は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。31は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。32は外底部指頭による整形痕・内底部横ナデ痕。33は外底部ナデ整形・内底部横ナデ痕。34は外底部ナデによる整形痕。35は外底部指頭による整形痕。36は内外底部指頭による整形痕。37は轆轤成形の白かわらけ。底部板状圧痕。38～74はかわらけ。38・39は内折れかわらけ。40は外底部板状圧痕。41は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。42は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。43は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。44は外底部緩やかな糸切り痕・内底部横ナデ痕・口唇部油煤痕。45は外底部板状圧痕。46は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。47は外底部板状圧痕。48は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。49は全体に器肌が摩耗。50は外底部板状圧痕・内底部

横ナデ痕。51は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。52は外底部板状圧痕・内底部強い横ナデ痕。53は外底部板状圧痕。54は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。55は外底部強い板状圧痕・内底部横ナデの後、見込み周囲をナデて整形。56は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。57は外底部板状圧痕。58は外底部板状圧痕・内底部強い横ナデ痕。59は内面器肌が薄く灰色に変色。油煤痕か？60は赤褐色を呈し、胎土に雲母を多く含みやや硬質。61は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・口唇部に油煤痕。62は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。63は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。64は外底部板状圧痕・内底部強い横ナデ痕。65は外底部強い板状圧痕・内底部強い横ナデ痕。66は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。67は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。68は内外器肌が薄く黒色に変色。69は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕・内外器肌に墨痕のような染み付着。70は外底部板状圧痕・内底部弱い横ナデ痕。71は砂粒・白色粒を含む粗い胎土。72は外底部強い板状圧痕・内底部回転ナデ。73は外底部板状圧痕・内底部横ナデ痕。74は外底部板状圧痕・赤褐色を呈し硬質な胎土・底部粘土版貼り付け。75はかわらけ底部転用品・円盤状製品。76は青磁碗底部片。高台底部無釉・内底中央に「金玉満堂」の印文。竜泉窯。77は青白磁碗・無文。78・79は青磁無文碗。78は薄い灰青色の釉。79は灰緑色の不透明な釉。竜泉窯。80は青磁櫛搔文碗。81は白磁口元皿・高台底部無釉。82は青白磁合子。83は緑釉洗。二次焼成を受けたためか器肌が銀色に変色してしまっている。84は黄釉洗。白色粒の混入する軟質な胎土。85は瀬戸器種不明。胎土は灰白色を呈し精良・口唇部外面に段が廻る・器形は鉢型と思われる。86～89は常滑甕。86は胎土褐色を呈し、焼き締まる。87は胎土灰色を呈し、やや軟質な胎土。88・89は白色粒の混入する粗い胎土。90～100は常滑片口鉢I類。90は胎土灰白色を呈し、精良な胎土。91は白色粒の混入する、やや軟質な胎土。92は内側面上部まで摩耗痕。93・94は白色粒の混入する焼き締まった胎土。95～98は灰白色を呈し、軟質な胎土。99は白色粒の混入する焼き締まった胎土。100は高台部貼り付け痕・内底面摩耗痕。胎土灰白色を呈しやや軟質。101・102は常滑片口鉢II類。101は赤褐色を呈し、小石粒の混入する粗い胎土・内側面下部に摩耗痕。102は胎土灰黒色を呈し、やや軟質・外側面下部に籠状工具による整形痕・内面黒色に変色。103～105は渥美甕。胎土褐色を呈し、やや軟質。106は瓦器碗。107は滑石鍋口縁部片・転用途中だったか？断面に鑿痕・内外面に擦過痕。108～127は平瓦。128は瓦器・火鉢。129は土垂。130は石製品・砥石。131～143は鉄製品・釘。144・145は鉄製品・刀子。146～153は錢。146・147は元豊通寶。148は東国通寶。149は開元通寶。150は元祐通寶。151は●豊通●。152は治平元寶。153は祥符通寶。154・155は須恵器・碗。

表採出土遺物（図41）

1～6は手づくね。1は外底面指頭による整形痕。2は外底面指頭による整形痕・内底面横ナデ痕。3・4は外底面指頭による整形痕。5は指頭による整形痕・内底横ナデ痕。6は内外底面に指頭によるナデ痕。7～13はかわらけ。7は内底面横ナデ痕。8は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。9は外底面強く板状圧痕・内底面横ナデ痕。10は外底面板状圧痕・外側面全体に薄く油煤痕・内底面強く横ナデ痕。11は外底面板状圧痕・内底面横ナデ痕。12は内底面強く横ナデ痕・赤橙色を呈し硬質な胎土。13は外底面にすだれ状の圧痕・内底面強く横ナデ痕。14は青磁無文碗・竜泉窯。15は常滑片口鉢I類・口縁部片・小石粒の混入する粗い胎土。16・17は鉄製品・釘。18～20は平瓦。凸面斜格子の叩き文・永福寺III期。

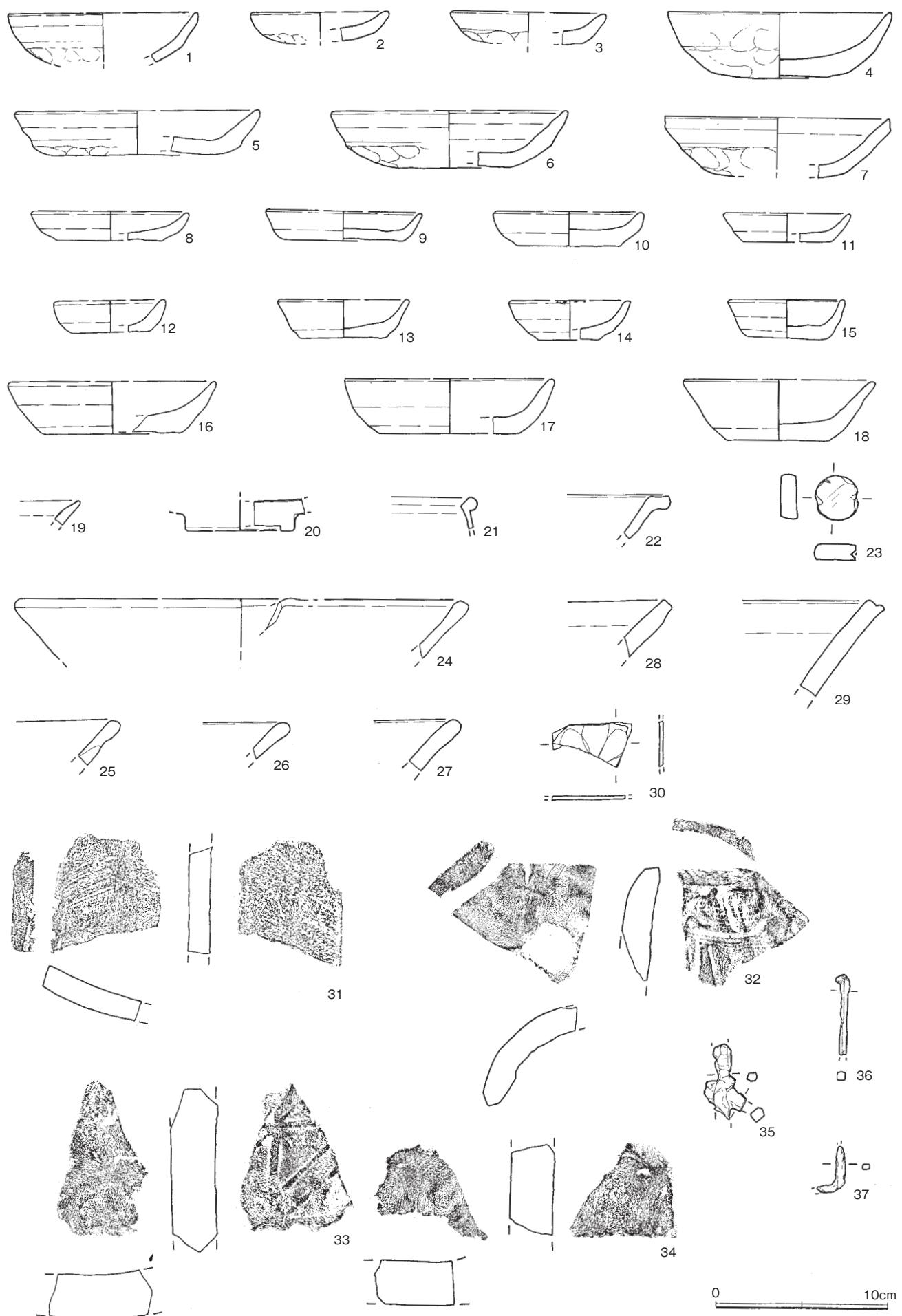


図34 第1面・面上出土遺物

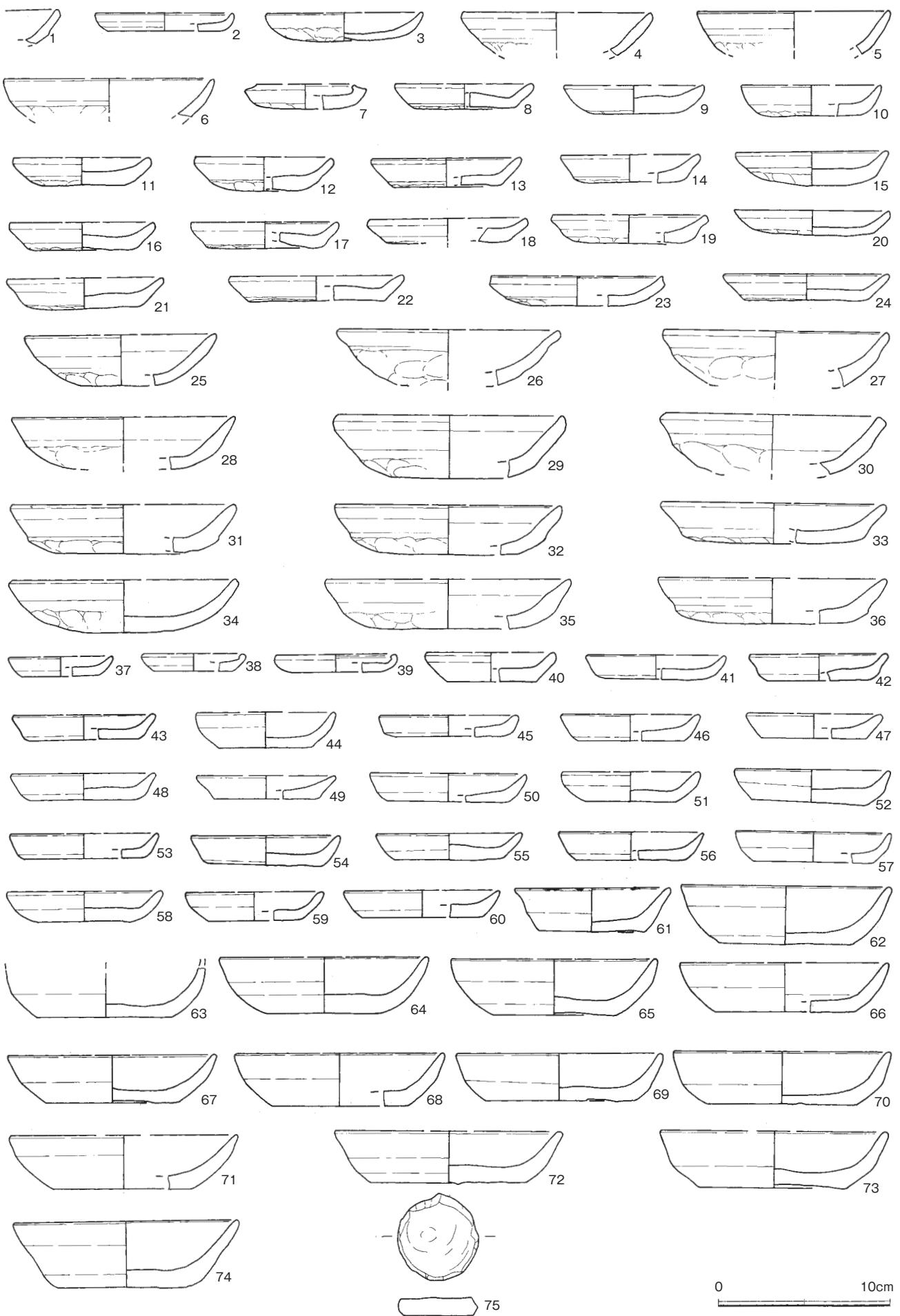


図35 第1面・構成土出土遺物(1)

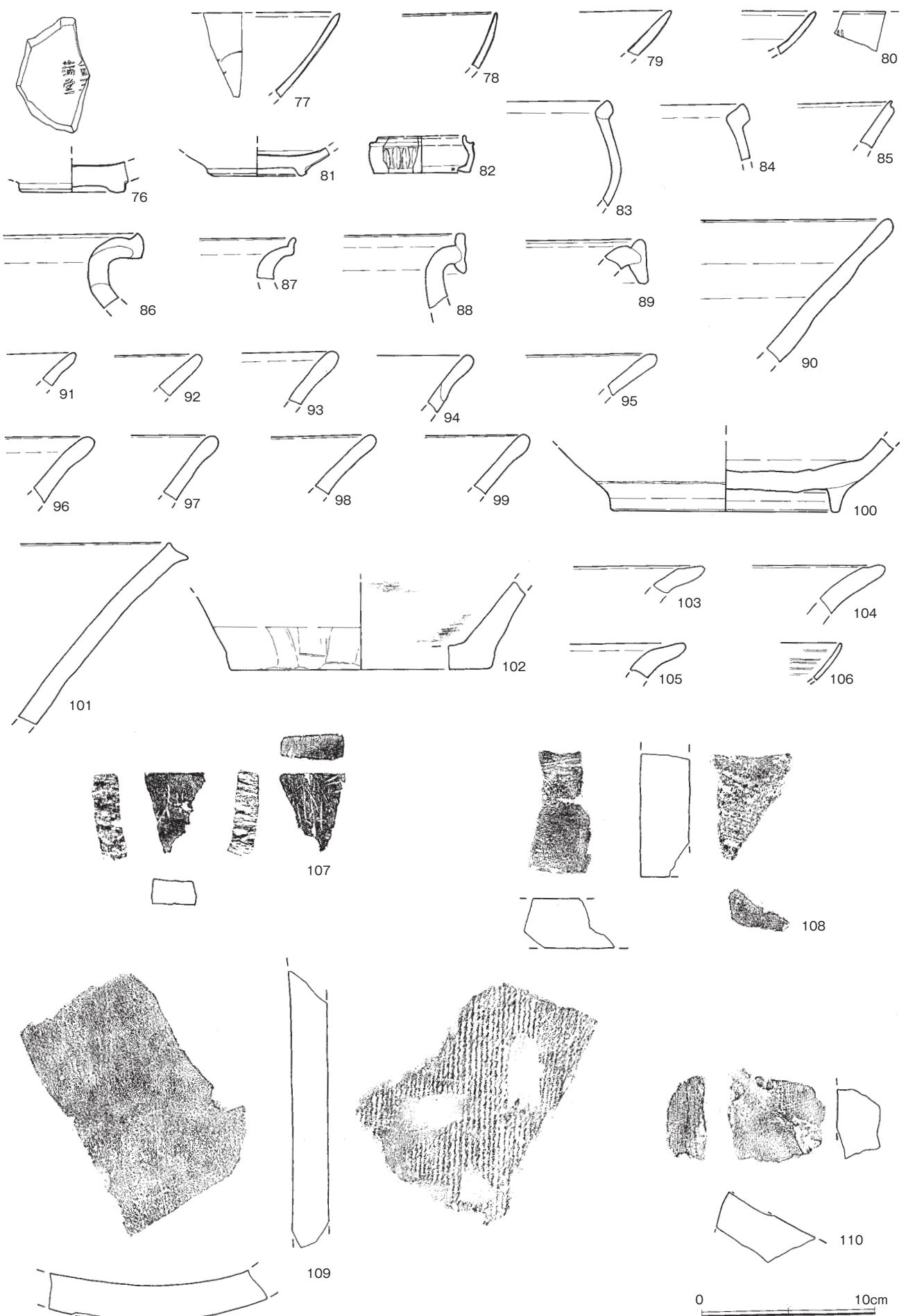


図36 第1面・構成土出土遺物(2)

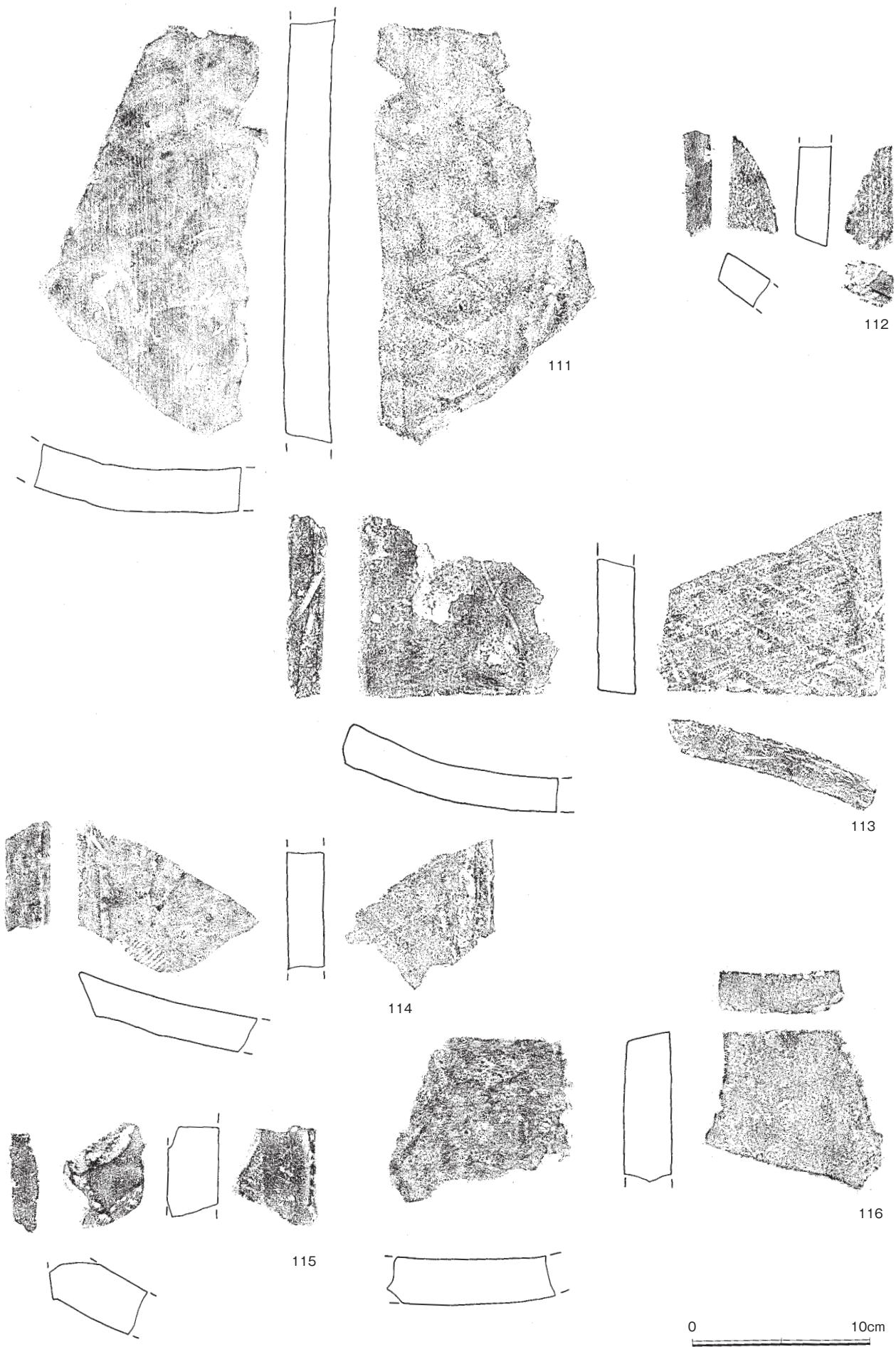


図37 第1面・構成土出土遺物(3)

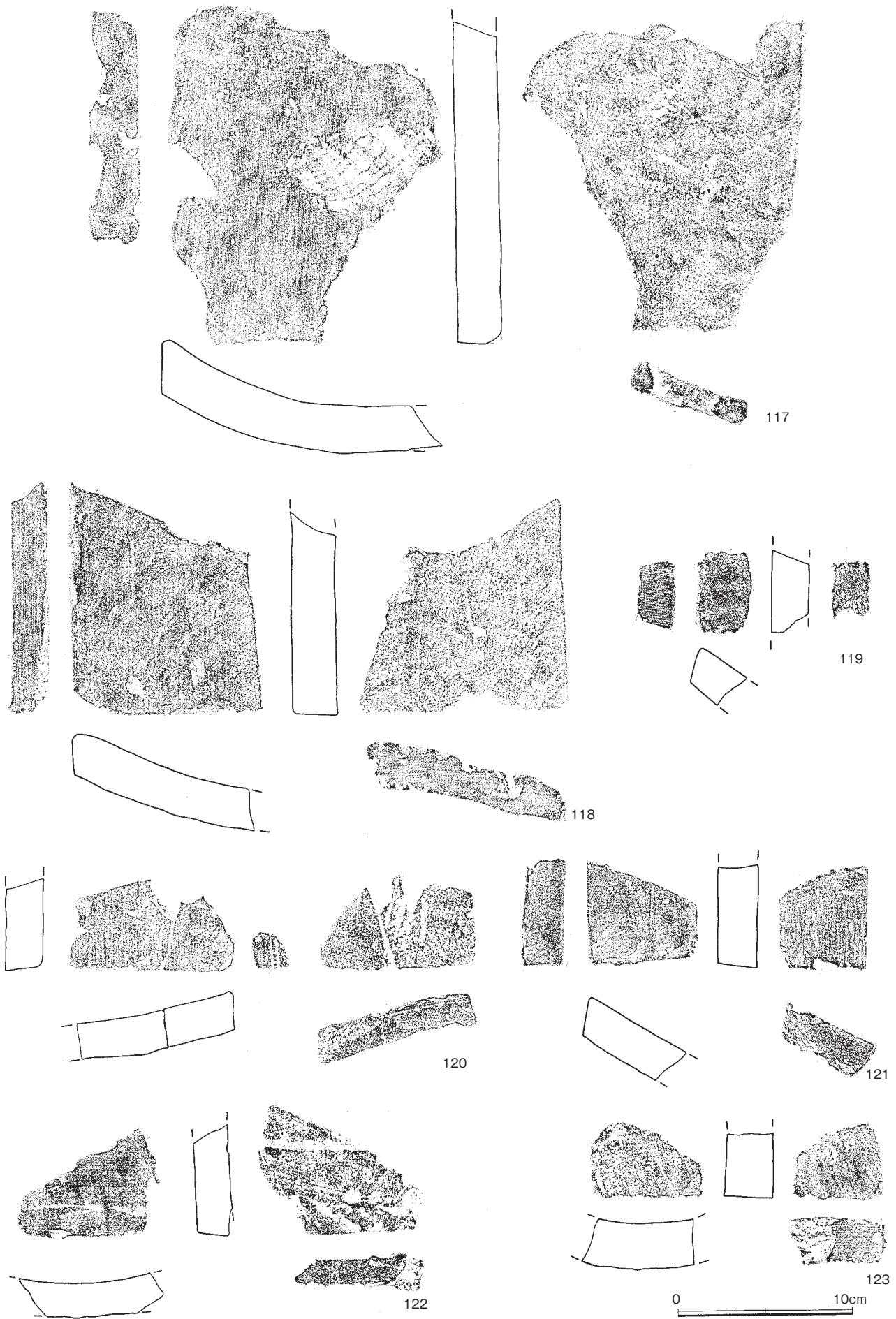


図38 第1面・構成土出土遺物(4)

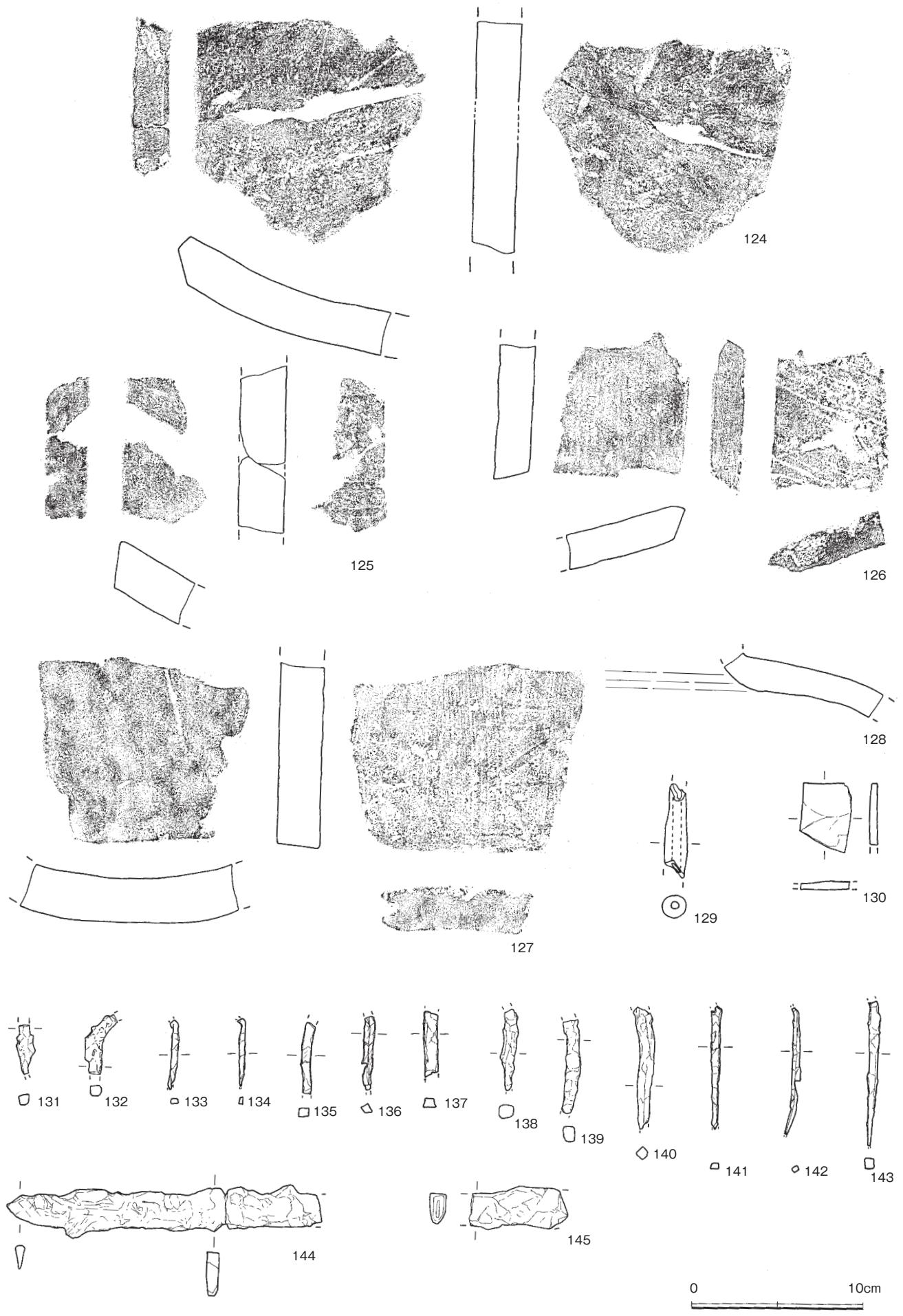


図39 第1面・構成土出土遺物(5)

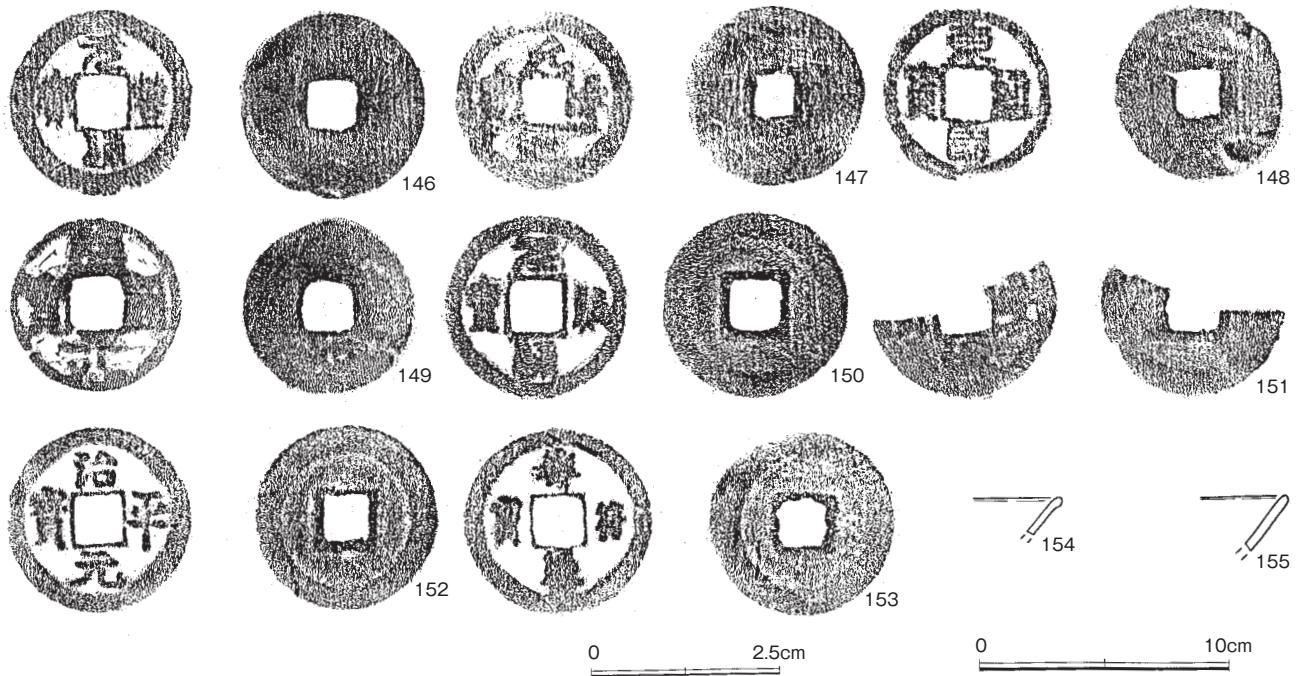


図40 第1面・構成土出土遺物(6)

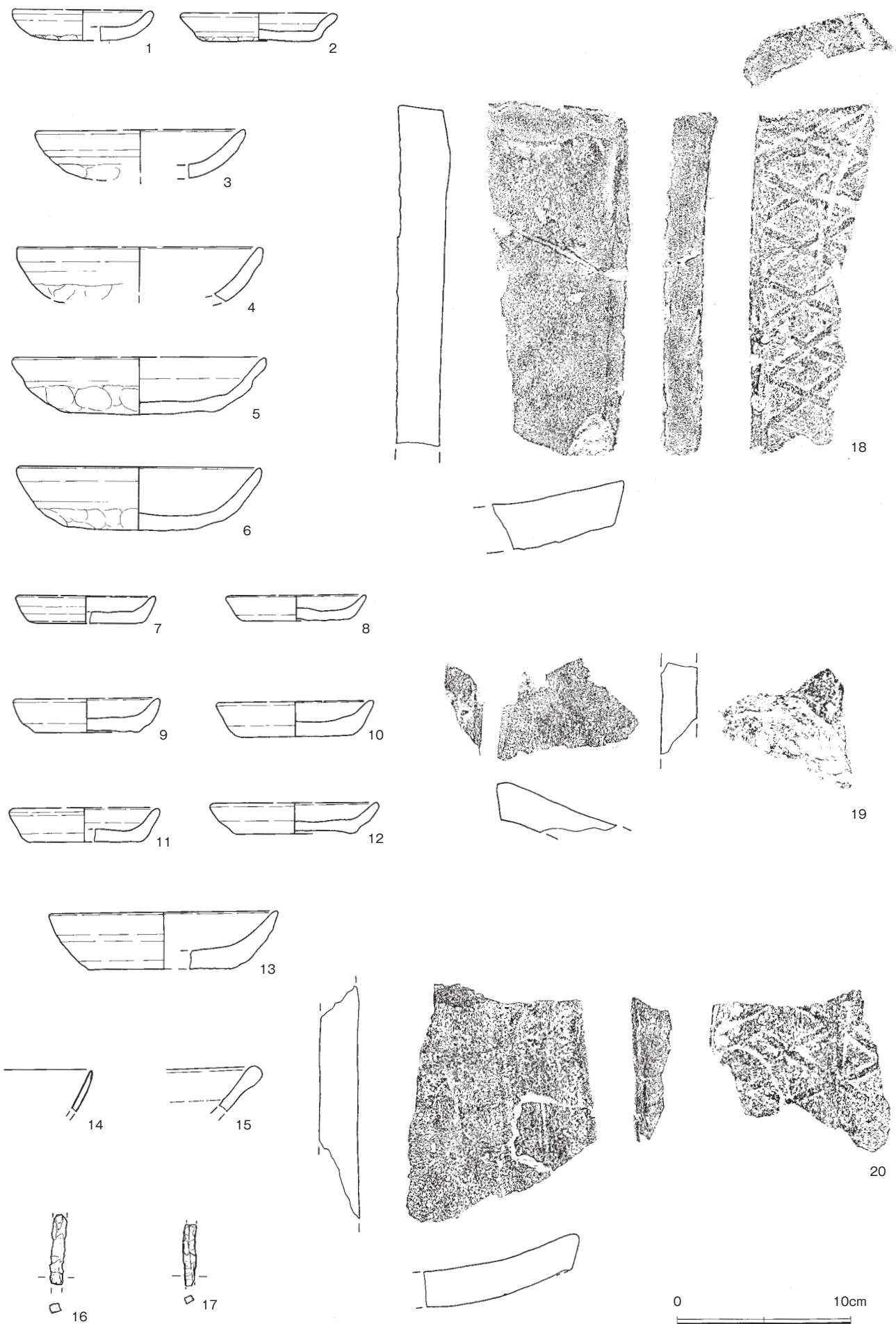


図41 表採出土遺物

第三章　まとめ

鎌倉市街地中心域は鶴岡八幡宮を起点に海に向かって南北に延びる若宮大路を中心に、大路西側には古代からの幹線道路でもあった武藏大路から今小路につながる道が南北にはしり、大路東側には東西に走る六浦路と、中世の幹線道路であった車大路を結ぶ小町大路が南北に走っている。

本調査地はこの小町大路東側に面する。小町大路を挟んだ調査地西側には「北条小町邸」と推定される遺跡地があり、執権北条泰時・経時・重時の正亭があったとも、幕府が置かれていたともされる場所である。北条小町邸の北側、調査地北西には「政所」があったとされ、調査地北側に建つ宝戒寺は、北条高時の旧宅に後醍醐天皇の命で高時の菩提を弔うために建てられたといい、調査地は幕府の公的機関、要人の住まいなどが立地した一帯に属する。

以下、検出した遺構・遺物について簡単なまとめを行いたい。

検出した遺構と遺物

本報告では遺構検出面を4面に分けて報告しているが、それぞれの面で検出した遺構は1時期の生活痕ではなく、複数回の生活面の造り替えを確認している。表土下50cmで確認した第1面の生活面から第4面までは約60cmであり、各面の地業層を含む構成土は10～20cmと薄い堆積である。

第4面は表土下約1m。海拔9.40mで確認した。発見した遺構は方形堅穴建築址1軒(土坑1基・ピット23穴を含む)・礎石建物址・土坑22基・ピット121穴である。方形堅穴建築址は、少なくとも2時期の造り替えが行われていたことを土層堆積から確認し、造りかえた方形堅穴建築址は、張り出し部を持ち、1辺約5mを測る壁に沿った底面に礎板が遺存する柱穴を持つことを確認した。調査区の東半分はこの方形堅穴建築址検出で占められてしまったが、西半分は少なくとも3時期の遺構が切りあっており、遺構内に礎板・礎石が遺存しているピットも発見しており、何らかの建物址が立っていたと考えられるが、柱間や柱穴覆土から推定できたのは1軒のみとなった。また、鋳造関係の遺構は確認できなかったが、遺構262からは鉄製品・取瓶が出土しており、調査地近辺での鋳造作業あるいは鋳物師などの工人の存在をうかがわせる。第4面で発見した遺物の大半は手づくねとかわらけで占められ、特に手づくねの出土量が多い。手づくねは外側面にやや強めの稜が入る器形が多く見られた。2時期にわたる方形堅穴建築址(遺構131)出土の遺物では、旧方形堅穴建築址出土の手づくねかわらけは底径・口径比が大きく。張り出し部を持つ新方形堅穴建築址出土の手づくねは底径・口径比がやや小さくなる傾向が見られた。出土した遺物から、第4面は13世紀第2四半期の年代観が与えられる。

第3面は海拔9.50mで確認した。発見した遺構は土坑10基・ピット116穴・溝状遺構1条である。第3面と、下層の第4面の確認レベルは10～20cmと、ほとんど差がない。調査区の東は、第4面で検出した方形堅穴建築址を廃絶した後、数基の土坑・ピットが確認されたのみで空閑地となるが、西側は第4面同様に少なくとも3時期の遺構の切りあいを確認した。第3面で出土した遺物の内、手づくね成形のかわらけは器壁に稜が入る器形とともに器壁がやや丸みを帯びている器形が混じてくる。轆轤成形のかわらけでは、糸切り痕の上に細かいすだれ状の圧痕が残るものがあり、内底部には雑な横ナデ整形をしていた。出土した遺物から第3面は13世紀中から後半の年代観が与えられる。

第2面は、海拔9.70mで確認した。検出した遺構は土坑12基・ピット56穴である。上層の遺構に壊されてはいたが、破碎泥岩による丁寧な地業を確認している。特に西側で確認した地業は平らに整形した大型の破碎泥岩を多用し、細かく碎いた泥岩を使用した地業部分では、かわらけ細片をも地業材と

して利用していた。柱痕の残るピットなどを発見したが、建物址を推定することはできなかった。第2面では、手づくねよりも轆轤成形のかわらけの出土が目立ってくる。検出したかわらけ廃棄遺構（遺構219）では、実測できた遺物で、手づくね成形のかわらけ（小）が3個体・（大）が2個体。轆轤成形のかわらけ（小）が15個体・（大）が2個体出土しており、第2面出土遺物として特徴的な出土例である。この遺構ではその他に、破片数で手づくね（小）19・かわらけ（大）1・かわらけ（小）16・常滑甕1・鉄製品不明1・獸骨が出土している。第2面は出土遺物から13世紀後半の年代観が与えられる。

第1面は、海拔10.00メートルで確認した。検出した遺構は土坑15基・ピット28穴・溝状土坑2条である。第2面同様に破碎泥岩による地業上で遺構を確認したが、第1面の地業は細かく碎いた破碎泥岩を全体に使用していた。調査区東で確認した溝状遺構を含め、いずれの遺構も現代の地業によって上層を壊されており正確な形状・規模は不明となった。第1面で出土した遺物は、手づくねの底形が、やや丸底になり、器壁の稜が弱くなり、第1面から第2面にかけての堆積層（第1面構成土）からは、破片ではあるが瓦の出土量が多くなる。出土した瓦は永福寺Ⅱ期に分類される美里水殿窯の瓦を多く発見している。第1面は出土した遺物から13世紀後半以降の年代観が与えられる。

調査区西側の破碎泥岩による地業層上で、江戸後期に比定される磁器片を数点発見しており、第1面上層には近世の遺構が遺存していた可能性もある。

本調査で出土した遺物は整理保管箱数にして33箱。出土した遺物は、かわらけ（手づくね成形・轆轤成形・白かわらけ・内折れかわらけ）・舶載磁器（青磁・青白磁・白磁・緑釉）・国産陶器（渥美・常滑・瀬戸・褐釉・山茶碗・備前・瓦器）・瓦・古代（須恵器・土師器）・石製品（滑石鍋・砥石）・鉄製品（刀子・釘）・銅製品・加工骨・鉄滓・獸骨・貝・種子・玉石・軽石・錢などである。

遺構確認面で発見した遺物のうち、実測外となった遺物の破片数・総数15123ヶのうち、手づくね成形のかわらけが、大・小合わせて9410ヶと全体の62%。轆轤成形のかわらけが4493ヶと29%。その他の白かわらけ等を合わせると破片数ではあるが、かわらけが出土遺物全体の93%を占めた。

参考文献

- 鎌倉市史 総説編・資料編・考古編 吉川弘文館 昭和34年初版
鎌倉市史 社寺編 昭和47年 吉川弘文館
鎌倉廢寺事典 貫達人 川副竹胤 有隣堂 昭和55年
日本歴史大系第14巻 「神奈川県の地名」 平凡社1984年

*註（図1）調査地とその周辺の遺跡位置図

- 1・小町3丁目523番外地点『東勝寺跡』「第3・4次遺構確認調査報告書」担当菊川
1998年3月 鎌倉市教育委員会
- 2・小町3丁目506番地点『東勝寺跡』「第3・4次遺構確認調査報告書」担当菊川
1998年3月 鎌倉市教育委員会
- 3・小町3丁目523番14地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」担当小林
2001年3月 鎌倉市教育委員会
- 4・小町3丁目468番2外地点「東勝寺発掘調査報告書」担当宮田 2001年10月
東勝寺遺跡発掘調査団
- 5・小町3丁目468番10地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」担当宮田
2002年3月 鎌倉市教育委員会
- 6・小町3丁目497番地点「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I」鎌倉市教育委員会
1983年3月
- 7・小町3丁目497番地点「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報I」東勝寺遺跡発掘調査団
1983年3月
- 8・小町3丁目11～34『東勝寺遺跡発掘調査報告書』「第1次・第2次調査」
東勝寺遺跡発掘調査団 担当赤星 1977年3月
- 9・雪ノ下3丁目606番1地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」担当菊川
鎌倉市教育委員会 1993年3月
- 10・雪ノ下3丁目607番1地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」担当降矢
鎌倉市教育委員会 2004年3月
- 11・雪ノ下4丁目620番5地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」担当馬淵
鎌倉市教育委員会 1998年3月
- 12・雪ノ下3丁目607番2外地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」担当菊川
鎌倉市教育委員会 1994年3月
- 13・雪ノ下4丁目610番2他地点「大倉南御門A地点発掘調査報告書」担当赤星
大倉幕府周辺遺跡発掘調査団 1983年12月
- 14・雪ノ下4丁目610番2他地点「大倉南御門B地点発掘調査報告書」担当赤星
大倉幕府周辺遺跡発掘調査団 1983年12月
- 15・雪ノ下4丁目610番2他地点「大倉南御門C地点発掘調査報告書」担当赤星
大倉幕府周辺遺跡発掘調査団 1983年12月
- 16・雪ノ下3丁目965番「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」担当手塚
鎌倉市教育委員会 1992年3月
- 17・雪ノ下3丁目966番1地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」担当瀬田
鎌倉市教育委員会 1992年3月
- 18・雪ノ下3丁目987番1・2地点「政所跡発掘調査報告書」担当手塚
政所跡発掘調査団 1991年3月
- 19・雪ノ下3丁目988番地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」担当手塚
鎌倉市教育委員会 1993年3月
「神奈川県埋蔵文化財報告35」同地点 政所跡発掘調査団の調査分 担当手塚
- 20・雪ノ下3丁目970番2外地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」担当手塚
鎌倉市教育委員会 1999年3月
- 21・雪ノ下3著目971番6地点「神奈川県埋蔵文化財報告41」担当手塚 政所跡発掘調査団
- 22・雪ノ下3丁目989番4地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」担当宗臺
鎌倉市教育委員会 2001年3月
- 23・小町2丁目426番3地点「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」担当原
鎌倉市教育委員会 1996年3月

- 24・小町3丁目455番4地点 「神奈川県埋蔵文化財報告41」 担当原 北条高時邸跡発掘調査団
- 25・小町2丁目389番1地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12－2」 担当原
鎌倉市教育委員会 1996年3月
- 26・小町2丁目534番12外地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9－3」 担当田代
鎌倉市教育委員会 1993年3月
- 27・雪ノ下1丁目395番地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」 担当菊川
鎌倉市教育委員会 1989年3月
- 28・雪ノ下1丁目400番1地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18－2」 担当馬淵
鎌倉市教育委員会 2002年3月
- 29・雪ノ下1丁目401番5外地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」 担当馬淵
鎌倉市教育委員会 2003年3月
- 30・雪ノ下1丁目432番2地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」 担当菊川
鎌倉市教育委員会 1989年3月
- 31・小町2丁目402番5地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17－1」 担当手塚
鎌倉市教育委員会 2003年3月
- 32・小町2丁目374番1地点 「神奈川県遺跡調査・研究発表会要旨」 担当原 1998年6月
- 33・小町1丁目325番イ外地点 「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10－3」 担当田代
鎌倉市教育委員会 1994年3月

出土遺物觀察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
6	1	遺構 1 1 9		てづくね	9. 2	(6. 0)	1. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	2	遺構 1 1 9		てづくね	13. 0	(5. 0)	3. 4	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
6	3	遺構 1 1 9		かわらけ	8. 8	7. 0	1. 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	4	遺構 1 4 4	常滑	甕				胎土: 白色粒・黒色粒・色調: 暗赤褐色・叩き文残る
6	5	遺構 2 6 1		かわらけ	(12. 8)	(9. 0)	2. 6	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	6	遺構 2 6 2		かわらけ	(8. 8)	(6. 0)	1. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	7	遺構 2 6 2		鉄製品・取瓶		(5. 0)		口縁部片口・内外面に錆が付着していたため器形に難
6	8	遺構 2 6 8		てづくね	(9. 2)	(6. 8)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・やや粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	9	遺構 2 6 8	舶載	青白磁印花文碗		(5. 6)		素地: 白色・釉: 淡水色
6	10	遺構 2 8 3		かわらけ	(9. 4)	(7. 4)	1. 9 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	11	遺構 3 1 5		鉄製品・釣	(7. 2)	(1. 5)	(0. 7)	
6	12	遺構 3 2 1		てづくね	(9. 6)	(5. 2)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	13	遺構 3 2 4		鉄製品・釣	(3. 7)	(0. 6)	(0. 5)	
6	14	遺構 3 2 7		鉄製品・釣	(3. 7)	(0. 4)	(0. 4)	
6	15	遺構 3 4 8		てづくね	(12. 5)	(6. 0)	2. 9	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・やや粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	16	遺構 3 7 1		かわらけ	(8. 4)	5. 9	1. 9 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	17	遺構 3 7 9		てづくね	(7. 2)	(6. 0)	(1. 0 5)	コースター型・胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	18	遺構 3 7 9		てづくね	(9. 1)	(5. 6)	1. 6 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
6	19	遺構 3 7 9		かわらけ	(8. 7)	(6. 8)	1. 8	胎土: 微砂・黑色粒子・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
6	20	遺構 3 8 2		鉄製品・釣	(4. 1)	(0. 6 5)	(0. 5)	
6	21	遺構 3 8 7		かわらけ	(12. 4)	(8. 4)	2. 9 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
6	22	遺構 3 8 7		てづくね	(8. 4)	(6. 2)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	1	遺構 1 3 2		てづくね	(8. 4)			胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	2	遺構 1 3 2		てづくね	(8. 4)	(7. 0)	(1. 3)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	3	遺構 1 3 2		てづくね	9. 0	(6. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	4	遺構 1 3 2		てづくね	(9. 6)	(7. 6)	(1. 7)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	5	遺構 1 3 2		てづくね	10. 0	(7. 0)	1. 5	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	6	遺構 1 3 2		てづくね	(11. 8)	(6. 4)	(3. 2)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
9	7	遺構 1 3 2		てづくね	(13. 8)	(9. 0)	(3. 1)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	8	遺構 1 3 2		かわらけ	(8. 8)	(7. 0)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
9	9	遺構 1 3 2		かわらけ	(8. 6)	7. 0	1. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
9	10	遺構 1 3 2		かわらけ	(9. 6)	(7. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	11	遺構 1 3 2		かわらけ	(9. 6)	(7. 0)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
9	12	遺構 1 3 2		かわらけ	13. 4	9. 4	3. 3	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色・底部貼り付け
9	13	遺構 1 3 2		かわらけ	(14. 2)	(6. 6)	4. 0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色・底部貼り付け
9	14	遺構 1 3 2		鉄製品・釣	(3. 8)	(0. 4)	(0. 3)	
9	15	遺構 1 3 2	鳴滝	石製品・砥石	(4. 4)	(3. 3)	(0. 8)	仕上砥
9	16	遺構 1 5 9		鉄製品・釣	4. 5	0. 3	0. 2	
9	17	遺構 1 6 7		てづくね	(13. 6)	(5. 8)	(2. 9)	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 橙色
10	1	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(8. 4)	(5. 0)	(1. 3)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	2	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(8. 6)	(3. 8)	(1. 8)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	3	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(9. 2)	(5. 2)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	4	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(9. 4)	(6. 6)	(1. 8)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	5	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(8. 6)	(5. 6)	(1. 9)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	6	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(9. 4)	(6. 6)	(1. 7)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	7	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(13. 6)	(8. 0)	2. 9	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
10	8	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(12. 8)	(6. 0)	2. 4	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
10	9	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(13. 8)			胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	10	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(9. 6)			胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内面に油煤痕
10	11	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(7. 6)	(4. 2)	1. 4	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
10	12	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(7. 8)	(5. 4)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	13	遺構 1 3 1 a 床面上		てづくね	(8. 4)	(7. 0)	(1. 7)	胎土: 微砂・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	14	遺構 1 3 1 a 床面上		山皿				胎土: 白色粒・精良・色調: 灰色・焼成: 良好・硬質・東濃型
10	15	遺構 1 3 1 a 床面上		摩耗製品				常滑變転用製品・片面に油煤痕・断面摩耗
10	16	遺構 1 3 1 a 床面上		鉄製品・釣	6. 5	0. 6	0. 3	
10	17	遺構 1 3 1 b 床面上		てづくね	(9. 6)			胎土: 微砂・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
10	18	遺構 1 3 1 b 床面上		てづくね	(14. 4)	(8. 0)	2. 5	胎土: 微砂・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	19	遺構 1 3 1 b 床面上		てづくね	(15. 6)	(8. 0)	2. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	20	遺構 1 3 1 b 床面上		かわらけ	(8. 8)	(6. 0)	1. 5	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	21	遺構 1 3 1 b 床面上		かわらけ	(8. 8)	(7. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
10	22	遺構 1 3 1 b 床面上	舶載	青磁櫛搔文皿				素地: 灰色・精良・釉: 灰緑色
10	23	遺構 1 3 1 b 床面上		鉄製品・釣	7. 8	0. 4	0. 3	
12	1	遺構 1 3 1		てづくね	(6. 6)	(6. 2)	(1. 2)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
12	2	遺構 1 3 1		てづくね	(6. 6)	(5. 6)	(1. 5)	内折れかわらけ・胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 橙色
12	3	遺構 1 3 1		てづくね	(7. 8)	(6. 0)	(1. 1)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
12	4	遺構 1 3 1		てづくね	(7. 8)	(6. 0)	(1. 4)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	5	遺構 1 3 1		てづくね	8. 2	5. 8	1. 5	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	6	遺構 1 3 1		てづくね	(8. 6)	(5. 2)	(2. 0)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	7	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 2)	(4. 8)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
12	8	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 6)	(6. 0)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	9	遺構 1 3 1		てづくね	(8. 8)	(5. 0)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
12	10	遺構 1 3 1		てづくね	(8. 6)	(5. 4)	(1. 9)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	11	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 2)	(6. 0)	(1. 4)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	12	遺構 1 3 1		てづくね	(8. 8)	(5. 4)	(1. 6)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	13	遺構 1 3 1		てづくね	9. 8	5. 8	2. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	14	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 2)	(7. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	15	遺構 1 3 1		てづくね	9. 2	4. 0	1. 9	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	16	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 2)	(4. 6)	2. 0	胎土: 微砂・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	17	遺構 1 3 1		てづくね	9. 2	5. 4	1. 8	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
12	18	遺構 1 3 1		てづくね	(9. 4)			胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色

出土遺物観察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
12	19	遺構131		てづくね	(9.8)	(4.2)	(2.0)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	20	遺構131		てづくね	(11.8)			胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	21	遺構131		てづくね	(13.4)			胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	22	遺構131		てづくね	(12.8)			胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	23	遺構131		てづくね	(13.4)	(8.0)	(2.9)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
12	24	遺構131		てづくね	(13.8)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	25	遺構131		てづくね	(13.8)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	26	遺構131		てづくね	(13.6)	(8.0)	(2.7)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	27	遺構131		てづくね	(13.6)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	28	遺構131		てづくね	(13.6)		(3.0)	胎土:微砂・雲母・小石粒・焼成:良好・色調:橙色
12	29	遺構131		てづくね	(13.4)	(7.6)	(2.7)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	30	遺構131		てづくね	(13.8)	(6.6)	(3.1)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
12	31	遺構131		てづくね	(14.8)	(8.0)	(3.1)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	32	遺構131		てづくね	(15.6)	(9.6)	(2.8)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	33	遺構131		てづくね	(15.8)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	34	遺構131		てづくね	(15.6)	(8.2)	3.0	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	35	遺構131		かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.9	胎土:微砂・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	36	遺構131		かわらけ	(8.6)	(6.2)	1.7	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
12	37	遺構131		かわらけ	(8.8)	6.6	1.8	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
12	38	遺構131		かわらけ	(9.4)	(6.2)	2.0	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	39	遺構131		かわらけ	(9.2)	6.6	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
12	40	遺構131		かわらけ	(9.8)	(6.8)	1.9	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	41	遺構131		かわらけ	(9.6)	(6.4)	1.6	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
12	42	遺構131		かわらけ			7.0	胎土:微砂・雲母・焼成:良好・色調:橙色
12	43	遺構131	舶載	青磁櫛搔文皿				素地:灰色・精良・釉:灰緑色
12	44	遺構131	舶載	青磁劃花文碗				素地:灰色・精良・釉:灰緑色
12	45	遺構131	舶載	青磁櫛搔文皿		(5.0)		素地:灰色・精良・釉:灰緑色
12	46	遺構131	舶載	青磁櫛搔文皿		(5.0)		素地:灰色・精良・釉:灰緑色
12	47	遺構131		円盤状製品	2.6	3.0	0.5	かわらけ底部転用製品
12	48	遺構131	常滑	片口鉢1類	(27.4)			胎土:砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調:灰色
12	49	遺構131	常滑	片口鉢1類				胎土:砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調:灰色
12	50	遺構131	常滑	片口鉢1類				胎土:砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調:灰色
12	51	遺構131	常滑	甕				胎土:砂粒・黒色粒・色調:黒褐色
12	52	遺構131	常滑	甕				胎土:砂粒・白色粒・黒色粒・色調:褐色・縁帯幅:1.4cm
12	53	遺構131		摩耗石	(8.0)	(4.6)	(1.6)	全体に摩耗痕・表面に刃物痕・火熱を受け黒く変色・凝灰岩
12	54	遺構131		平瓦			2.1	凹面:離れ砂・布目痕なし・横位のナデ・凸面:離れ砂・綱目痕・横位のナデ・側面:ケズリ痕・端面:ケズリ痕・胎土:白色粒・焼成:良好・色調:灰色
12	55	遺構131		鉄製品・釘	(4.8)	(0.6)	(0.5)	
12	56	遺構131		鉄製品・釘	(3.5)	(0.4)	(0.4)	
12	57	遺構131		鉄製品・不明	(8.8)	(0.7)	(0.9)	
13	25	遺構362		鉄製品・釘	(7.5)	(0.6)	(0.5)	
13	26	遺構362		鉄製品・釘	(5.5)	(0.5)	(0.7)	
13	27	遺構362		鉄製品・釘	(5.0)	(0.7)	(0.5)	
13	28	遺構362		鉄製品・釘	(3.8)	(0.4)	(0.7)	
13	29	遺構362		鉄製品・釘	(3.2)	(0.6)	(0.5)	
15	1	遺構111		てづくね	(9.8)	(6.8)	(2.2)	胎土:微砂・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
15	2	遺構111		てづくね	(11.6)	(5.6)	(3.0)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄灰色
15	3	遺構111		かわらけ	8.2	5.8	1.4	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
15	4	遺構111	舶載	青白磁碗				素地:灰色・精良・釉:水色
15	5	遺構111	舶載	青磁蓮弁文碗				素地:灰色・精良・釉:灰緑色・竜泉窓
15	6	遺構111		土師質壺			(1.00)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色・底部貼り付け
15	7	遺構111		鞴の羽口				外径(8.8cm)・内径(3.0cm)
15	8	遺構95		てづくね	(8.8)	(4.6)	(2.5)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
15	9	遺構95		てづくね	(13.0)	(5.8)	(3.3)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
15	10	遺構95		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
15	11	遺構95	尾張	山茶碗				胎土:砂粒・色調:灰色
15	12	遺構95	舶載	青磁櫛搔文皿			5.0	素地:灰色・精良・釉:灰緑色・同安窓
15	13	遺構95	舶載	綠釉洗				胎土:砂粒・精良・釉:綠釉・泉州磁窓
15	14	遺構95		平瓦			1.8	胎土:砂粒・焼成:良好・色調:灰色・凸面:綱目痕・縦位ナデ・凹面:離れ砂・縦位ナデ・12世紀末
15	15	遺構95		鉄製品・釘	(4.2)	(0.6)	(0.4)	
18	1	遺構101		てづくね	(9.8)	(4.8)	(2.0)	胎土:微砂・泥岩粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
18	2	遺構107		かわらけ	(8.8)	(6.4)	1.5	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
18	3	遺構107	舶載	青磁櫛搔文皿	(9.8)			素地:灰色・精良・釉:灰緑色・同安窓
18	4	遺構110		てづくね	8.4	5.6	1.6	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
18	5	遺構112		かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.4	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
18	6	遺構117	常滑	片口鉢II類				胎土:砂粒・白色粒・長石・色調:暗赤褐色
18	7	遺構117		鉄製品・釘	(3.0)	(0.5)	(0.4)	
18	8	遺構120		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.9	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色・内外面上部に油煤痕
18	9	遺構121		てづくね	(14.4)	(8.4)	2.5	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
18	10	遺構198		てづくね	(8.8)	(5.4)	(1.8)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
18	11	遺構198		かわらけ	(8.8)	(6.0)	2.0	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
18	12	遺構198		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.9	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
18	13	遺構198	常滑	片口鉢I類				胎土:砂粒・小石粒・白色粒・色調:灰色
18	14	遺構198		鉄製品・釘	(5.9)	(0.6)	(0.5)	
18	15	遺構242		かわらけ	12.4	8.8	3.1	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
18	16	遺構242	常滑	甕			(1.60)	胎土:白色粒・黒色粒・色調:赤褐色
18	17	遺構242		鉄製品・釘	(4.5)	(0.7)	(0.7)	
18	18	遺構247		須恵器・碗				胎土:砂粒・白色粒・色調:灰色
18	19	遺構254		てづくね	(8.9)	(4.6)	2.0	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色

出土遺物觀察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
18	20	遺構 2 5 7		てづくね	(1 2. 0)	(8. 0)	(2. 9 5)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 淡橙色
18	21	遺構 2 5 7		かわらけ	(1 3. 3)	(8. 6)	3. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
18	22	遺構 2 5 7		かわらけ	(1 2. 6)	(8. 5)	3. 1 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面口唇部に油煤痕
18	23	遺構 2 5 7		かわらけ	1 1. 8	8. 4	3. 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面口唇部に油煤痕・器形の歪み激しい
18	24	遺構 2 5 7		かわらけ	(1 2. 1)	8. 8	3. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面上部に油煤痕
18	25	遺構 2 5 9		てづくね	(1 3. 0)	(6. 2)	3. 3	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
18	26	遺構 2 5 9		かわらけ	(1 2. 9)	(8. 5 5)	3. 3	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
18	27	遺構 2 5 9		かわらけ	(1 3. 1)	(8. 4)	3. 1	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面口唇部に油煤痕
18	28	遺構 2 5 9		かわらけ	(8. 6)	(6. 4)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
18	29	遺構 2 5 9	常滑	片口鉢 I 類				胎土: 砂粒・白色粒・石英・色調: 灰色・内面下部に摩耗痕
18	30	遺構 2 6 3		てづくね	(1 2. 5)	(6. 8)	2. 9 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・やや粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
18	31	遺構 2 6 6		てづくね	(1 3. 2)	(5. 6)	(2. 9)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
18	32	遺構 2 7 9		てづくね	(9. 3)	(6. 0)	1. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒子・泥岩粒・貝状骨針・やや粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
18	33	遺構 2 8 0		かわらけ	(1 2. 8)	(8. 8)	2. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
18	34	遺構 2 8 0	舶載	白磁壺				素地: 明灰色・黒色粒・釉: 薄い・四耳壺か?
18	35	遺構 2 9 2		てづくね	(9. 2)	(6. 0)	(1. 5)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
18	36	遺構 2 9 2		須恵器・蓋				口径 1 3. 0 cm・最大径 1 5. 0 cm・高さ 4. 3 cm・色調: 灰黒色
19	37	遺構 2 9 4		てづくね	(1 2. 6)	(6. 6)	(3. 3)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 淡橙色
19	38	遺構 2 9 4		てづくね	(1 3. 0)		(3. 3)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 淡橙色
19	39	遺構 2 9 4		かわらけ	8. 9 5	6. 7	1. 9 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
19	40	遺構 2 9 7		てづくね	(5. 7)	(6. 0)	1. 1 5	内折れかわらけ・胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	41	遺構 2 9 7		てづくね	(8. 6)	(6. 2)	1. 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	42	遺構 2 9 7		石製品・砥石	(5. 7)	3. 6	0. 7	鳴滝産・仕上砥・良面に使用痕・側面切り出し痕
19	43	遺構 2 9 9		かわらけ	(1 2. 3)	(8. 0)	3. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	44	遺構 3 0 7		てづくね	9. 1	4. 0	1. 9	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 淡橙色
19	45	遺構 3 0 7		てづくね	(9. 9)	(6. 2)	2. 1	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 淡橙色
19	46	遺構 3 1 0		かわらけ	(1 2. 8)	(8. 7)	2. 7 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒子・貝状骨針・やや粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	47	遺構 3 3 9		かわらけ	(9. 3)	(8. 0)	1. 4	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	48	遺構 3 4 2		鉄製品・釘	(3. 8)	(0. 6)	(0. 5)	
19	49	遺構 3 5 5		てづくね	(9. 1)	(5. 4)	1. 8 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	50	遺構 3 5 5		てづくね	(1 2. 3)	(5. 8)	3. 4	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	51	遺構 3 6 1		かわらけ	9. 3	7. 1	1. 9 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	52	遺構 3 7 0		てづくね	(1 2. 6)			胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
19	53	遺構 3 7 0		丸瓦			1. 8	胎土: 砂粒・精良・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 布目痕・斜位ナデ・凹面: 縄目痕・縦位ナデ
19	54	遺構 3 7 3		てづくね	(9. 6)		2. 1	胎土: 微砂・黒色粒子・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
20	1	第3面面上		てづくね	(8. 6)			白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 乳白色
20	2	第3面面上		てづくね	(7. 8)	(7. 0)	(1. 0)	内折れ・胎土: 微砂・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	3	第2面面上		てづくね	(8. 8)	(4. 6)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
20	4	第3面面上		てづくね	8. 6	(5. 8)	1. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	5	第3面面上		てづくね	(8. 8)	(6. 4)	(1. 9)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	6	第3面面上		てづくね	(8. 7)	(6. 2)	1. 5 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
20	7	第3面面上		てづくね	(1 2. 8)		(2. 6)	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	8	第2面面上		てづくね	(1 3. 2)	(6. 4)	(3. 2)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	9	第3面面上		てづくね	1 3. 3	7. 6	3. 0	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面に油煤痕
20	10	第3面面上		てづくね	(1 2. 8)		(2. 9)	胎土: 微砂・雲母・小石粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	11	第3面面上		てづくね	(1 3. 4)			胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	12	第3面面上		かわらけ	(7. 8)	(6. 0)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	13	第2面面上		かわらけ	(8. 2)	(6. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	14	第3面面上		かわらけ	(7. 8)	(6. 0)	1. 2	胎土: 微砂・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 乳橙色
20	15	第3面面上		かわらけ	(7. 8)	(6. 0)	1. 7	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	16	第3面面上		かわらけ	(8. 8)	(7. 0)	1. 9	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	17	第3面面上		かわらけ	(8. 8)	(7. 0)	1. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	18	第2面面上		かわらけ	8. 8	7. 2	1. 3	胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 乳橙色
20	19	第3面面上		かわらけ	9. 2	7. 2	1. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色・外底部に細かく木目痕
20	20	第3面面上		かわらけ	(8. 8)	(6. 4)	1. 5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
20	21	第3面面上		かわらけ	(9. 0)	7. 0	1. 8	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	22	第3面面上		かわらけ	(8. 8)	(6. 8)	1. 5	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 灰黄色
20	23	第2面面上		かわらけ	(8. 8)	(6. 0)	1. 4	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
20	24	第3面面上		かわらけ	(9. 4)	(7. 0)	1. 9	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	25	第3面面上		かわらけ	9. 2	7. 2	1. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	26	第3面面上		かわらけ	(9. 8)	(8. 0)	1. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色・
20	27	第3面面上		かわらけ	(8. 6)	(3. 0)	2. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	28	第2面面上		かわらけ	(1 1. 8)	9. 0	3. 0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	29	第3面面上		かわらけ	1 2. 4	8. 6	2. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	30	第3面面上		かわらけ	(1 1. 8)	(8. 2)	3. 1	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	31	第3面面上		かわらけ	(1 2. 8)	(8. 0)	3. 2	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
20	32	第3面面上		かわらけ	1 3. 2	7. 8	3. 2	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
20	33	第2面面上		かわらけ	(1 2. 8)	(9. 4)	3. 0	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色内外面口唇部の一部に油煤痕・内側面一部に薄く油煤痕
20	34	第3面面上		かわらけ	(1 2. 5)	(8. 8)	3. 4	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面口唇部に油煤痕
20	35	第3面面上		かわらけ			8. 6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 乳白色外底部に櫛状工具で、ろくろ回転痕を消している。9~10条単位の櫛痕
20	36	第3面面上		かわらけ	(1 3. 8)	(9. 0)	3. 1	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
20	37	第3面面上	舶載	青磁櫛搔文皿				素地: 黄橙色・釉: 灰緑色
20	38	第2面面上	常滑	片口鉢 I 類	(3 0. 4)			胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰色・遺構 208 破片と接合
20	39	第3面面上	常滑	片口鉢 I 類	(3 9. 6)			胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰色
20	40	第3面面上	常滑	片口鉢 I 類	(1 6. 0)			胎土: 小石粒・白色粒・色調: 赤褐色
20	41	第3面面上	常滑	片口鉢 I 類				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰褐色

出土遺物観察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
20	42	第3面面上	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰色
20	43	第2面面上		平瓦			1.2	胎土: 精良・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 繩目痕・横位ナデ・凹面: 斜位ナデ
20	44	第3面面上		石製品・砥石	(3.2)	(2.8)	0.5	鳴滝産・仕上砥
20	45	第3面面上		鉄製品・釘	(5.8)	(0.4)	(0.6)	
20	46	第3面面上		鉄製品・釘	(4.2)	(0.6)	(0.5)	
20	47	第3面面上		鉄製品・釘	(3.7)	(0.3)	(0.2)	
20	48	第2面面上		鉄製品・釘	(6.8)	(0.6)	(0.3)	
20	49	第3面面上		釘				開元通寶・初鑄年一唐621年
21	1	第3面構成土	てづくね	(9.0)	(7.0)	1.6		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	2	第3面構成土	てづくね	(8.4)	(6.0)	(1.6)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	3	第3面構成土	てづくね	(1.2.2)				胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	4	第3面構成土	てづくね	(1.3.8)	(8.0)	(3.2)		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	5	第3面構成土	てづくね	(1.2.8)	(6.8)	2.9		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・燒成: 良好・色調: 橙色
21	6	第3面構成土	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	7	第3面構成土	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.8		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内底面油煤痕
21	8	第3面構成土	かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.6		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内外面口唇部に油煤痕
21	9	第3面構成土	かわらけ	(9.8)	(6.0)	2.2		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	10	第3面構成土	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.6		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
21	11	第3面構成土	舶載	青磁鑄搔文碗	(1.5.8)			素地: 灰色・精良・釉: 灰綠色
21	12	第3面構成土	舶載	青白磁壺		(8.0)		素地: 白色・黑色粒・精良・釉: 水色・外面蓮弁文?
21	13	第3面構成土	東濃	山茶碗				胎土: 灰色・精良
21	14	第3面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 褐色
21	15	第3面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・黑色粒・色調: 黑褐色・縁帶幅1.1cm
21	16	第3面構成土		鉄製品・釘	(6.5)	(0.7)	(0.3)	
21	17	第3面構成土		鉄製品・釘	(3.4)	(0.4)	(0.6)	
21	18	第3面構成土		鉄製品・釘	(4.8)	(0.4)	(0.3)	
23	1	遺構6.5	かわらけ	(8.4)	(5.6)	2.8		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
23	2	遺構6.5	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.6		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
23	3	遺構6.5	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 褐色・縁帶幅5.5cm
23	4	遺構6.5	常滑	甕		(1.8.0)		胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・色調: 赤褐色・外底部砂付着
24	1	遺構8.8	てづくね	(8.2)	(6.1)	(1.5)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	2	遺構8.8	てづくね	(8.6)	(6.0)	(1.5)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	3	遺構8.8	てづくね	(8.2)		(1.6)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	4	遺構8.8	てづくね	(1.2.4)	(6.0)	(3.0)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
24	5	遺構8.8	てづくね	(1.2.8)				胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	6	遺構8.8	てづくね	(1.2.8)				胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
24	7	遺構8.8	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.5		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	8	遺構8.8	かわらけ	(8.2)	(6.4)	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	9	遺構8.8	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.9		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	10	遺構8.8	かわらけ	(1.2.8)	(8.0)	2.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	11	遺構8.8	かわらけ	(1.2.8)	(9.0)	3.3		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
24	12	遺構8.8	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰色
24	13	遺構8.8	常滑	甕				胎土: 砂粒・黑色粒・白色粒・小石粒・色調: 褐色・縁帶幅1.9cm
24	14	遺構8.8		平瓦			2.4	胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜微氏の叩き目・縁位ナデ・凹面: 離れ砂・縁位のナデ
24	15	遺構8.8		平瓦			2.4	胎土: 砂粒・良土・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 斜微氏・凹面: 布目痕・縁位のナデ
24	16	遺構8.8		須恵器甕				部位不明・胎土: 砂粒・白色粒・焼成: 良好・色調: 灰色・外面に叩き目
25	1	遺構10.4	てづくね	(7.4)	(6.0)	(1.3)		胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 灰色
25	2	遺構10.4	かわらけ	(7.8)	(6.8)	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
25	3	遺構10.4	かわらけ	(8.6)	6.0	1.6		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
25	4	遺構10.4	かわらけ	(1.1.8)	(7.8)	2.8		胎土: 微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
25	5	遺構10.4	舶載	青磁鑄搔文皿	(9.8)			素地: 灰色・精良・釉: 灰綠色・同安窯
25	6	遺構10.4	渥美	片口鉢				胎土: 砂粒・白色粒・粗土・色調: 灰色・釉: 刷毛塗り
25	7	遺構10.4	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・色調: 灰色・瀬戸窯の可能性もあり(馬淵氏ご教授)
25	8	遺構10.4		鉄製品・釘	(3.7)	(0.6)	(0.6)	
26	1	遺構2.19	てづくね	(8.9)	(6.8)	1.6		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	2	遺構2.19	てづくね	(8.9)	(6.0)	1.4.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	3	遺構2.19	てづくね	8.7	2.0	2.2.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
26	4	遺構2.19	てづくね	(1.2.5)	(5.0)	3.4		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・白色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
26	5	遺構2.19	てづくね	(1.2.6)	(5.8)	3.2		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色・内外面口唇部に油煤痕
26	6	遺構2.19	かわらけ	(7.8)	(6.8)	1.2		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	7	遺構2.19	かわらけ	8.5.5	7.2	1.2		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・白色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	8	遺構2.19	かわらけ	8.7	6.3	1.6.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	9	遺構2.19	かわらけ	8.6	5.9	2.0		胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
26	10	遺構2.19	かわらけ	8.7	6.0	1.6.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	11	遺構2.19	かわらけ	8.5	6.6	1.8		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
26	12	遺構2.19	かわらけ	(8.4)	(5.6)	1.7.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	13	遺構2.19	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・黑色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	14	遺構2.19	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	15	遺構2.19	かわらけ	(9.1)	(7.6)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	16	遺構2.19	かわらけ	8.8	6.1	1.8		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
26	17	遺構2.19	かわらけ	(8.4)	(6.4)	1.5.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	18	遺構2.19	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	19	遺構2.19	かわらけ	9.0	6.8	2.0		胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 淡橙色
26	20	遺構2.19	かわらけ	(8.9)	(6.0)	2.0		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	21	遺構2.19	かわらけ	(1.1.8)	(7.8)	2.8.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
26	22	遺構2.19	かわらけ	(1.3.3)	(8.4)	3.0.5		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
28	1	遺構5.2		鉄製品・釘	(4.0)	(0.5)	(0.4)	
28	2	遺構5.4		緑釉洗				胎土: 白色粒・火熱を受けたためか釉が剥離している・泉州磁窯窓
28	3	遺構5.9		てづくね	(7.4)	(4.8)	(1.2)	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 橙色

出土遺物觀察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
28	4	遺構 6 3		山茶碗	(12.6)			胎土:灰色・精良・焼成:良好・色調:灰色・東濃系
28	5	遺構 6 8		かわらけ	(8.8)	6.4	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	6	遺構 7 1		鉄製品・釘	(6.1)	(0.3)	(0.3)	
28	7	遺構 7 3		てづくね	(9.8)	(5.8)	(2.1)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	8	遺構 7 3		かわらけ	(8.8)	(6.2)	1.9	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	9	遺構 7 3	渥美	甕				胎土:灰色・砂粒・白色粒・粗土・色調:灰褐色・釉:刷毛塗り
28	10	遺構 7 8		てづくね	(8.8)	(6.0)	1.6	胎土:微砂・雲母・焼成:良好・色調:橙色
28	11	遺構 7 8		てづくね	(13.2)	(7.6)	(3.1)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
28	12	遺構 7 8	常滑	甕				胎土:砂粒・白色粒・小石粒・色調:黑褐色
28	13	遺構 7 8		鉄製品・釘	(3.0)	(0.3)	(0.3)	
28	14	遺構 8 7	常滑	甕				胎土:砂粒・白色粒・黑色粒・色調:褐色
28	15	遺構 9 0	常滑	片口鉢II類				胎土:砂粒・白色粒・色調:暗赤褐色
28	16	遺構 1 0 5		てづくね	(9.6)	(6.8)	(1.9)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:暗灰色
28	17	遺構 1 0 5		銭				開元通寶・初鑄年-唐621年
28	18	遺構 1 8 2		かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	19	遺構 1 8 2		かわらけ	(13.4)	(9.0)	3.2	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	20	遺構 1 8 2		鉄製品・釘	(3.0)	(0.4)	(0.4)	
28	21	遺構 1 9 6		かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.7	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	22	遺構 1 9 6		かわらけ	(13.2)	(9.0)	2.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
28	23	遺構 1 9 6		かわらけ	(13.8)	(10.0)	3.0	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
28	24	遺構 2 0 8		てづくね	(8.8)	(6.0)	(1.9)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	25	遺構 2 0 8		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.3	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	26	遺構 2 0 8		鉄製品・釘	(3.6)	(0.6)	(0.5)	
28	27	遺構 2 1 8		てづくね	(12.8)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
28	28	遺構 2 1 8		てづくね	(12.8)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	29	遺構 2 1 8		かわらけ	(8.7)	(7.0)	(1.9)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
28	30	遺構 2 1 8		かわらけ	(12.8)	(8.6)	2.6	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	31	遺構 2 1 8		かわらけ	12.5	9.0	3.4	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
28	32	遺構 2 6 0		かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.6	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	33	遺構 2 6 0		鉄製品・釘	(6.7)	(0.4)	(0.3)	
28	34	遺構 2 7 3		かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.7	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
28	35	遺構 3 0 1	舶載	青磁白堆文碗				輪花型・素地:灰色・釉:灰綠色
29	1	第2面面上		てづくね	(8.8)	(6.0)	(1.4)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
29	2	第2面面上		てづくね	(8.8)	(4.8)	(1.9)	胎土:微砂・焼成:良好・色調:橙色
29	3	第2面面上		てづくね	(9.0)	(6.0)	(1.3)	胎土:微砂・赤色粒・土丹粒・焼成:良好・色調:橙色
29	4	第2面面上		てづくね	(9.4)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・小石粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
29	5	第2面面上		てづくね	(12.8)	(6.0)	(3.2)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
29	6	第2面面上		てづくね	(13.6)	(4.2)	(3.8)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
29	7	第2面面上		かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
29	8	第2面面上		かわらけ	(12.8)	6.6	3.0	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
29	9	第2面面上	舶載	青磁劃花文碗	(14.8)			素地:精良・黑色粒・灰色・釉:灰綠色
29	10	第2面面上	舶載	青磁劃花文皿		(7.0)		素地:灰褐色・黑色粒・釉:綠褐色
29	11	第2面面上		鉄製品・釘	(6.6)	(0.4)	(0.3)	
29	12	第2面面上		鉄製品・釘	(7.5)	(0.2)	(0.3)	
30	1	第2面構成土		てづくね	(8.0)	(5.0)	(2.2)	白かわらけ・胎土:精良・焼成:良好・色調:乳白色
30	2	第2面構成土		てづくね	(8.6)	(6.0)	(1.7)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	3	第2面構成土		てづくね	(7.8)	(4.8)	(1.7)	胎土:微砂・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
30	4	第2面構成土		てづくね	(7.8)	(6.4)	(1.8)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	5	第2面構成土		てづくね	(8.2)	(5.8)	(1.5)	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	6	第2面構成土		てづくね	(8.6)	(6.4)	(1.5)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
30	7	第2面構成土		てづくね	(9.2)	(4.8)	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	8	第2面構成土		てづくね	(8.8)	(6.2)	(1.6)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
30	9	第2面構成土		てづくね	(8.6)	(6.8)	(1.5)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
30	10	第2面構成土		てづくね	(8.8)	(5.0)	(2.0)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
30	11	第2面構成土		てづくね	(8.8)		(2.4)	胎土:微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	12	第2面構成土		てづくね	(9.0)	(7.0)	1.6	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	13	第2面構成土		てづくね	(8.8)	(6.0)	(1.9)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
30	14	第2面構成土		てづくね	(8.8)	(7.0)	(1.4)	胎土:微砂・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
30	15	第2面構成土		てづくね	(8.8)	(5.8)	(1.7)	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色
30	16	第2面構成土		てづくね	(9.6)	(7.0)	(1.9)	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色・内面に油煤痕
30	17	第2面構成土		てづくね	(11.8)	(5.8)	(2.6)	胎土:微砂・焼成:良好・色調:橙色
30	18	第2面構成土		てづくね	(12.9)	(6.2)	2.9	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:黄橙色・外外面口唇部に油煤痕
30	19	第2面構成土		てづくね	(12.6)			胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:橙色
30	20	第2面構成土		かわらけ	(8.6)	(7.0)	1.6	胎土:微砂・雲母・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
30	21	第2面構成土		かわらけ	(8.9)	(6.4)	1.6	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
30	22	第2面構成土		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.6	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
30	23	第2面構成土		かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.7	胎土:雲母・貝状骨針・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:橙色
30	24	第2面構成土		かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.9	胎土:微砂・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	25	第2面構成土		かわらけ	8.8	7.0	1.4	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	26	第2面構成土		かわらけ	(9.2)	(6.6)	1.8	胎土:微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	27	第2面構成土		かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.7	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成:良好・色調:黄橙色・内面に油煤痕
30	28	第2面構成土		かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.1	胎土:雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色・内面口唇部に油煤痕
30	29	第2面構成土		かわらけ	(10.8)	(9.0)	3.1	胎土:微砂・雲母・赤色粒・焼成:良好・色調:黄橙色
30	30	第2面構成土		かわらけ	11.6	9.0	3.1	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	31	第2面構成土		かわらけ	(13.0)	8.6	3.2	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	32	第2面構成土		かわらけ	(12.4)	8.4	3.2	胎土:微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	33	第2面構成土		かわらけ	(12.7)	8.7	3.25	胎土:微砂・雲母・貝状骨針・焼成:良好・色調:橙色
30	34	第2面構成土	舶載	青磁劃花文碗	(15.8)			素地:灰色・精良・釉:灰綠色
30	35	第2面構成土	舶載	青磁櫛搔文皿	(9.8)			素地:灰色・精良・釉:灰綠色

出土遺物観察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
30	36	第2面トレンチ	尾張	山皿	(6.8)	(4.0)	2.0	胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・硬質・焼成: 良好・色調: グレー・底部回転糸切り
30	37	第2面構成土	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・黒色粒・白色粒・色調: グレー
30	38	第2面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・長石粒・色調: 灰緑色
30	39	第2面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・小石粒・色調: 暗赤褐色
30	40	第2面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・長石粒・小石粒・色調: 赤褐色
30	41	第2面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 暗灰色・釉: 刷毛塗り
30	42	第2面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 黒褐色・釉: 刷毛塗り
30	43	第2面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 灰緑色・釉: 刷毛塗り
30	44	第2面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: グレー
30	45	第2面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 黒褐色・釉: 刷毛塗り
30	46	第2面構成土	魚住	片口鉢				片口鉢転用品・断面摩耗・砥石として使用か?・胎土: 砂粒・白色粒・色調: 暗灰色
30	47	第2面構成土		瓦器皿	(4.8)		(0.9)	手づくね・内折れ小皿・胎土: 砂粒・雲母・焼成: 良好・色調: グレー
30	48	第2面構成土		瓦器皿	(7.4)	(6.0)	(1.0)	手づくね・内折れ小皿・胎土: 砂粒・雲母・粗土・焼成: 良好・色調: 黒灰色
30	49	第2面構成土		平瓦			2.6	胎土: 砂粒・白色粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 斜格子・斜位ナデ・凹面: 離れ砂・布目痕無・ナデ不明
30	50	第2面構成土		石製品・砥石	(6.8)	(6.2)	約2.0	上野産・中砥・色調: 灰緑色・生産地切り出し痕
30	51	第2面構成土		鉄製品・釘	(4.5)	(0.4)	(0.4)	
30	52	第2面構成土		鉄製品・釘	(4.8)	(0.5)	(0.5)	
30	53	第2面構成土		鉄製品・釘	(3.7)	(0.7)	(0.5)	
30	54	第2面構成土		鉄製品・釘	(5.1)	(0.5)	(0.4)	
30	55	第2面構成土		鉄製品・釘	(5.5)	(0.5)	(0.5)	
30	56	第2面構成土		鉄製品・釘	(3.5)	(0.7)	(0.6)	
30	57	第2面構成土		鉄製品・釘	(3.8)	(0.6)	(0.6)	
30	58	第2面構成土		鉄製品・釘	(5.2)	(0.5)	(0.5)	
30	59	第2面構成土		鉄製品・釘	(3.4)	(0.5)	(0.5)	
30	60	第2面構成土		鉄製品・釘	(3.0)	(0.5)	(0.5)	
30	61	第2面構成土		チャート				破片だが出土例として掲載
33	1	遺構4		てづくね	(8.0)	(5.0)	1.4	胎土: 微砂・雲母・焼成: やや不良・色調: グレー・内面に油煤痕
33	2	遺構4	舶載	青磁割花文皿				素地: 灰白色・黒色粒・精良堅緻・気孔あり・釉: 緑褐色・貫入あり・底部ケズリ有
33	3	遺構5		かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.3	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
33	4	遺構5	常滑	片口鉢1類				内底面下部摩耗痕・胎土: 灰白色・砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒
33	5	遺構6	水殿瓦窯	平瓦			2.0	胎土: 灰色・砂粒・焼成: 良好・色調: 黒灰色・凸面: 斜格子の中に<大>の文字・ナデ不明・凹面: 離れ砂・水切り痕・斜目のナデ・永福寺II期
33	6	遺構14		てづくね	(9.4)	(5.6)	(1.8)	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
33	7	遺構169		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
33	8	遺構171		鉄製品・釘	(4.8)	(0.5)	(0.5)	
33	9	遺構172		かわらけ	9.2	7.0	2.0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: やや不良・色調: 黃橙色
33	10	遺構172	瀬戸	鉢				口縁部に鉄滓付着
33	11	遺構172	土器質	摘み?	3.1			
33	12	遺構173		鉄製品・釘	(4.9)	(0.5)	(0.5)	
33	13	遺構174		かわらけ	(8.0)	(5.2)	1.6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
33	14	遺構174		かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.5	胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
33	15	遺構174		かわらけ	(12.4)	(7.0)	3.1	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
33	16	遺構174	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・白色粒・小石粒・色調: グレー
33	17	遺構175		円盤状製品	6.5	7.0	1.0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・色調: 黃橙色・かわらけ底部転用品
33	18	遺構175		かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色・口唇部打ち掛け・口唇部内外面に油煤痕
33	19	遺構185	常滑	片口鉢1類	(28.6)			胎土: 白色粒・砂粒・黒色粒・小石粒・焼成: 良好・色調: グレー・釉: 灰緑色
34	1	第1面面上		てづくね	(10.8)			白かわらけ・胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 乳白色
34	2	第1面面上		てづくね	(7.6)			胎土: 雲母・赤色粒・やや粗土・焼成: 良好・色調: 橙色
34	3	第1面面上		てづくね	(8.8)	(4.6)	(1.7)	胎土: 微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
34	4	第1面面上		てづくね	(12.8)	(5.0)	3.7	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黃橙色
34	5	第1面面上		てづくね	(13.8)	(10.0)	2.5	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・粗土・焼成: 良好・色調: 黃橙色・内外面油煤痕
34	6	第1面面上		てづくね	(13.4)	(7.0)	(3.2)	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
34	7	第1面面上		てづくね	(13.0)	(7.0)	(3.4)	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 暗灰色
34	8	第1面面上		かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.6	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
34	9	第1面面上		かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.7	胎土: 雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
34	10	第1面面上		かわらけ	(8.4)	(6.0)	1.9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
34	11	第1面面上		かわらけ	(7.3)	(5.2)	1.6	胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黃橙色
34	12	第1面面上		かわらけ	(6.2)	(4.4)	1.8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 橙色
34	13	第1面面上		かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.2	胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 橙色
34	14	第1面面上		かわらけ	(6.8)	(3.6)	2.2	胎土: 微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
34	15	第1面面上		かわらけ	6.4	4.4	7.3	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 黃橙色
34	16	第1面面上		かわらけ	(11.6)	(8.0)	3.0	胎土: 雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
34	17	第1面面上		かわらけ	(11.6)	(8.0)	3.1	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
34	18	第1面面上		かわらけ	(10.8)	5.8	3.4	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
34	19	第1面面上	舶載	青磁飾文皿				素地: 灰色・黒色粒・精良堅緻・釉: 透明・貫入あり・同安窯系
34	20	第1面面上	舶載	青磁碗		(6.0)		素地: 灰色・堅緻・釉: 透明・竜泉窯系
34	21	第1面面上	舶載	黄釉洗				胎土: 白色粒・褐色砂粒・硬質・釉: 黄褐色・施釉は薄い・泉州磁窯系
34	22	第1面面上	瀬戸	折縁深皿				胎土: 白色粒・精良・焼成: 良好・色調: グレー・釉: 灰緑色
34	23	第1面面上		円盤状製品	3.0	2.5	1.0	かわらけ底部転用製品
34	24	第1面面上	常滑	片口鉢1類	(25.0)			胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・色調: グレー
34	25	第1面面上	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・白色粒・色調: 外面暗灰色・内面灰色
34	26	第1面面上	常滑	片口鉢1類				胎土: 灰色・砂粒・白色粒・黒色粒・色調: グレー
34	27	第1面面上	常滑	片口鉢1類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・色調: グレー
34	28	第1面面上	常滑	片口鉢II類				胎土: 砂粒・白色粒・小石粒・色調: 暗赤褐色
34	29	第1面面上	常滑	片口鉢II類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 灰褐色・内底下部に磨滅痕
34	30	第1面面上		瓦器碗				胎土: 灰色・精良・色調: 暗灰色・内底に菊花文の暗文

出土遺物觀察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
34	31	第1面面上		平瓦				胎土: 砂粒・小石粒・白色粒・凸面: 叩き目不明・縦ナデ・凹面: 離れ砂・布目痕無・縦ナデ・側面: 削り痕
34	32	第1面面上		丸瓦				玉縁部幅(1.6cm)・胎土: 灰色・砂粒・焼成: やや不良・色調: 暗灰色・凸面: 横位のナデ・凹面: 布目痕・側縁部: ケズリ・袋布の抜き取り痕あり
34	33	第1面面上		平瓦			2.5	胎土: 灰白色・砂粒・やや粗土・焼成: やや不良・色調: 灰白色・凸面: 斜格子の叩き目・ナデ不明・凹面: 離れ砂・布目痕無・横位のナデ・美里水殿瓦窓
34	34	第1面面上		平瓦			2.5	胎土: 灰白色・砂粒・やや粗土・焼成: やや不良・色調: 暗灰白色・凸面: 縦位のナデ・凹面: 縦位のナデ・美里水殿瓦窓
34	35	第1面面上		鉄製品・釘				2~3本が癒着した状態で出土。
34	36	第1面面上		鉄製品・釘	(4.6)	(0.5)	(0.5)	
34	37	第1面面上		鉄製品・釘	(3.3)	(0.4)	(0.3)	
35	1	第1面構成土	てづくね					白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 黄白色
35	2	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(6.6)	1.0		白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 乳白色
35	3	第1面構成土	てづくね	(9.0)	(6.0)	(1.6)		白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 乳白色
35	4	第1面構成土	てづくね	(10.8)				白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 乳白色
35	5	第1面構成土	てづくね	(10.8)				白かわらけ・胎土: 微砂・焼成: 良好・色調: 乳白色
35	6	第1面構成土	てづくね	(11.8)				白かわらけ・胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 黄白色
35	7	第1面構成土	てづくね	(5.6)	(4.2)	(1.4)		内折れ・胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 橙色
35	8	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(5.8)	(1.4)		胎土: 微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	9	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(4.8)	(1.6)		胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	10	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(5.6)	(1.7)		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	11	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(4.8)	1.6		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	12	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(4.0)	1.9		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	13	第1面構成土	てづくね	(8.4)	(6.0)	(1.6)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	14	第1面構成土	てづくね	(7.8)	(5.0)	(1.6)		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	15	第1面構成土	てづくね	8.6	4.0	2.0		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	16	第1面構成土	てづくね	(8.2)	(6.0)	1.6		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	17	第1面構成土	てづくね	(8.4)	(5.4)	1.5		胎土: 微砂・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄灰色
35	18	第1面構成土	てづくね	(9.0)	(6.0)	(1.4)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	19	第1面構成土	てづくね	(8.6)	(6.0)	(1.6)		胎土: 雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	20	第1面構成土	てづくね	8.8	(5.0)	1.4		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	21	第1面構成土	てづくね	(8.8)	(6.4)	(1.7)		胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	22	第1面構成土	てづくね	(9.8)	(7.4)	(1.4)		胎土: 微砂・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	23	第1面構成土	てづくね	(9.6)	(5.4)	(1.7)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	24	第1面構成土	てづくね	9.4	7.2	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	25	第1面構成土	てづくね	(10.8)	(4.8)	(2.9)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
35	26	第1面構成土	てづくね	(12.4)				胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	27	第1面構成土	てづくね	(12.8)				胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	28	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(5.8)	(3.0)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	29	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(6.6)	(3.5)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	30	第1面構成土	てづくね	(12.2)				胎土: 微砂・雲母・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	31	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(7.6)	(2.8)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内外面口唇部に油煤痕
35	32	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(7.0)	2.8		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	33	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(9.0)	(2.3)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	34	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(5.0)	(3.0)		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
35	35	第1面構成土	てづくね	(13.8)	(8.4)	(2.8)		胎土: 雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	36	第1面構成土	てづくね	(12.8)	(8.0)	(2.5)		胎土: 雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 橙色
35	37	第1面構成土	かわらけ	(5.8)	(4.4)	1.1		胎土: 白色粒・精良・焼成: やや不良・色調: 乳白色・白かわらけ
35	38	第1面構成土	かわらけ	(5.6)	(4.4)	1.0		胎土: 微砂・雲母・粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	39	第1面構成土	かわらけ	6.8	5.0	1.0		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	40	第1面構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	41	第1面構成土	かわらけ	7.8	5.8	1.4		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	42	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.5		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	43	第1面構成土	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.4		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	44	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2.0		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・粗土・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内外面口唇部に油煤痕
35	45	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.2		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	46	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(6.0)	(1.5)		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	47	第1面構成土	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.4		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	48	第1面構成土	かわらけ	8.2	6.0	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	49	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.3		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	50	第1面構成土	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.6		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
35	51	第1面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	52	第1面構成土	かわらけ	8.8	6.6	1.9		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	53	第1面構成土	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.4		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	54	第1面構成土	かわらけ	8.4	6.6	1.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	55	第1面構成土	かわらけ	8.2	6.2	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	56	第1面構成土	かわらけ	(8.2)	(6.2)	1.6		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	57	第1面構成土	かわらけ	(8.8)	(6.8)	1.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	58	第1面構成土	かわらけ	(8.8)	(5.2)	1.7		胎土: 微砂・雲母・貝状骨針・焼成: やや不良・色調: 黄灰色
35	59	第1面構成土	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6		胎土: 微砂・雲母・泥岩粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	60	第1面構成土	かわらけ	(8.8)	(7.0)	1.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・粗土・焼成: 良好・色調: 橙色
35	61	第1面構成土	かわらけ	8.8	6.2	2.5		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色・内外面口唇部に油煤痕
35	62	第1面構成土	かわらけ	11.8	7.4	3.3		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・小石粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	63	第1面構成土	かわらけ			7.8		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	64	第1面構成土	かわらけ	(11.8)	(6.4)	3.2		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	65	第1面構成土	かわらけ	(11.6)	7.0	3.2		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	66	第1面構成土	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.8		胎土: 微砂・泥岩粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄灰色
35	67	第1面構成土	かわらけ	(11.8)	(7.6)	2.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	68	第1面構成土	かわらけ	11.8	7.8	3.0		胎土: 微砂・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄灰色
35	69	第1面構成土	かわらけ	11.6	8.8	2.7		胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 黄橙色

出土遺物観察表 単位: cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
35	70	第1面構成土		かわらけ	(1 2. 8)	(8. 4)	3. 0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 暗橙色
35	71	第1面構成土		かわらけ	(1 0. 8)	(8. 0)	3. 0	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	72	第1面構成土		かわらけ	(1 2. 8)	(9. 0)	2. 9	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色
35	73	第1面構成土		かわらけ	(1 2. 8)	(8. 4)	3. 2	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・泥岩粒・焼成: 良好・色調: 橙色
35	74	第1面構成土		かわらけ	1 2. 8	7. 2	3. 8	胎土: 微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成: 良好・色調: 橙色
35	75	第1面構成土		円盤状製品	約4. 6	約4. 6	1. 0	かわらけ底部転用製品
36	76	第1面構成土	舶載	青磁碗		5. 8		素地: 灰色・精良・釉: 灰緑色・内底に「金玉満堂」の押印
36	77	第1面構成土	舶載	青白磁碗				素地: 白色粒・精良・釉: 水色
36	78	第1面構成土	舶載	青磁無文碗				素地: 灰色・精良・釉: 灰緑色・童泉窯
36	79	第1面構成土	舶載	青磁無文碗				素地: 灰色・精良・釉: 灰緑色・童泉窯
36	80	第1面構成土	舶載	青磁櫛搔文碗				素地: 黄灰色・黒色粒・精良・釉: 黄緑色
36	81	第1面構成土	舶載	白磁口兀皿		5. 0		素地: 白色
36	82	第1面構成土	舶載	青白磁合子	(5. 0)	(5. 4)	2. 0	最大径(6. 0)・素地: 白色・精良・釉: 淡水色
36	83	第1面構成土	舶載	綠釉洗				胎土: 砂粒・精良・釉: 緑釉・火熱を受けたためか銀色に変色・泉州磁窯窯
36	84	第1面構成土	舶載	黃釉洗				胎土: 白色粒・褐色粒・火熱を受けたためか釉が剥離している・泉州磁窯窯
36	85	第1面構成土	瀬戸	器種不明				胎土: 微砂・精良・焼成: 良好・やや軟質・1 3世紀中
36	86	第1面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 黒褐色・縁帯幅1. 5cm・5期
36	87	第1面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・色調: 灰色・縁帯部1. 0cm・5期
36	88	第1面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 暗赤褐色・縁帯幅2. 2cm
36	89	第1面構成土	常滑	甕				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 黒褐色・縁帯幅2. 6cm
36	90	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 白色粒・やや砂質・内底下部摩耗痕
36	91	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 白色粒・やや砂質
36	92	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 灰色粒・やや砂質
36	93	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 黒褐色
36	94	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 黒褐色
36	95	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 砂粒・白色粒・小石粒・色調: 灰色
36	96	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 灰色
36	97	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 灰色
36	98	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 白色粒・やや砂質
36	99	第1面構成土	常滑	片口鉢I類				胎土: 白色粒・やや砂質
36	100	第1面構成土	常滑	片口鉢I類	1 2. 8			胎土: 白色粒・やや砂質・内底下部摩耗痕
36	101	第1面構成土	常滑	片口鉢II類				胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 暗赤褐色
36	102	第1面構成土	常滑	片口鉢II類	(1 4. 6)			胎土: 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒・色調: 灰色・内面磨滅痕・油煤痕有
36	103	第1面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・黒色粒・白色粒・焼成: 良好・焼き縮まる・色調: 黑褐色・釉: 刷毛塗り
36	104	第1面構成土	渥美	甕				胎土: 砂粒・黒色粒・白色粒・年生あり・色調: 黑褐色・釉: 刷毛塗り
36	105	第1面構成土	渥美	甕				胎土: 白色粒
36	106	第1面構成土		瓦器碗				胎土: 灰白色・内面に磨き痕
36	107	第1面構成土		滑石鍋				磁石として転用か?
36	108	第1面構成土		平瓦		2. 8		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 離れ砂・布目痕・斜・縦位のケズリ・ナデ・凹面: 横位と斜位のナデ・鎌倉鶴岡八幡宮I A期か?
36	109	第1面構成土		平瓦		2. 0		胎土: 白色粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 縄目の叩き痕・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・縦位のナデ・永福寺A
36	110	第1面構成土		平瓦		2. 4		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 欠損のため不明・凹面: 布目痕・斜位のナデ・鎌倉鶴岡八幡宮I A期か?
37	111	第1面構成土		平瓦		2. 5		胎土: 砂粒・小石粒・やや粗土・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・離れ砂・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・布目痕・横位と縦位のナデ・広端面: ケズリ・永福寺D期
37	112	第1面構成土		平瓦		1. 8		胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 縄目の叩き目・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・斜位と縦位のナデ・永福寺B期
37	113	第1面構成土		平瓦		2. 0		胎土: 砂粒・小石粒・白色粒・黒色粒・やや粗土・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 離れ砂・斜格子の叩き目・離れ砂・布目痕・側面: ケズリナデ・端部: ケズリ
37	114	第1面構成土		平瓦		2. 0		胎土: 砂粒・小石粒・白色粒・黒色粒・やや粗土・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・離れ砂・布目痕・側面: ケズリナデ・端部: ケズリ
37	115	第1面構成土		平瓦		2. 8		胎土: 砂粒・白色粒・焼成: 良好・色調: 黄橙色・凸面: 斜格子の叩き目・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・斜位のナデ・美里水殿瓦窯
37	116	第1面構成土		平瓦		2. 6		胎土: 砂粒・焼成: やや不良・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・凹面: 離れ砂・横位のナデ
38	117	第1面構成土		平瓦		2. 5		胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・布目痕・側面: ケズリナデ・美里水殿瓦窯
38	118	第1面構成土		平瓦		2. 5		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 離れ砂・横位・斜位のナデ・凹面: 離れ砂・縦位のナデ・美里水殿瓦窯
38	119	第1面構成土		平瓦		2. 1		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 離れ砂・ナデ不明・凹面: ナデ不明・側面: ナデ・ケズリ美里水殿瓦窯
38	120	第1面構成土		平瓦		2. 1		胎土: 砂粒・黒色粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子・斜位ナデ・凹面: 離れ砂・縦位・斜位ナデ
38	121	第1面構成土		平瓦		2. 2		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 離れ砂・横位のナデ・凹面: 離れ砂・縦位・斜位のナデ・美里水殿瓦窯
38	122	第1面構成土		平瓦		2. 0		胎土: 砂粒・白色粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 斜位のナデ・凹面: 離れ砂・斜位のナデ・鎌倉鶴岡八幡宮I A期か?
38	123	第1面構成土		平瓦		2. 6		胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 離れ砂・斜位のナデ・凹面: 離れ砂・縦位のナデ・美里水殿瓦窯
39	124	第1面構成土		平瓦		2. 5		胎土: 砂粒・焼成: 良好・色調: 暗灰色・凸面: 縦位のナデ・凹面: 離れ砂・斜位のナデ・美里水殿瓦窯
39	125	第1面構成土		平瓦		2. 6		胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・離れ砂・凹面: 離れ砂・永福寺D期
39	126	第1面構成土		平瓦		2. 1		胎土: 砂粒・黒色粒・焼成: やや不良・色調: 黄灰色・凸面: 離れ砂・斜位のナデ・凹面: 離れ砂・斜位のナデ・美里水殿瓦窯
39	127	第1面構成土		平瓦		2. 5		胎土: 砂粒・小石粒・焼成: 良好・色調: 灰色・凸面: 斜格子の叩き目・離れ砂・縦位のナデ・凹面: 離れ砂・横位と斜位のナデ・広端面: ケズリ・美里水殿瓦窯
39	128	第1面構成土		瓦器火鉢				胎土: 砂粒・灰色・色調: 暗灰色・外面磨きが入る
39	129	第1面構成土		土垂				外径(1. 3) 内径(0. 4) 長さ(5. 4)
39	130	第1面構成土		石製品・砥石	(3. 9)	(2. 8)	(0. 4)	鳴滻産・仕上砥・側面切り取り痕
39	131	第1面構成土		鉄製品・釘	(2. 9)	(0. 6)	(0. 6)	
39	132	第1面構成土		鉄製品・釘	(3. 5)	(0. 6)	(0. 7)	

出土遺物觀察表　単位：cm ()=復元値

図版No.	No.	出土地	産地	種別	口径(長さ)	底径(幅)	器高(厚さ)	備考
39	133	第1面構成土		鉄製品・釘	(4.0)	(0.5)	(0.3)	
39	134	第1面構成土		鉄製品・釘	(3.9)	(0.2)	(0.3)	
39	135	第1面構成土		鉄製品・釘	(4.2)	(0.5)	(0.4)	
39	136	第1面構成土		鉄製品・釘	(4.3)	(0.5)	(0.4)	
39	137	第1面構成土		鉄製品・釘	(3.8)	(0.6)	(0.5)	
39	138	第1面構成土		鉄製品・釘	(5.7)	(0.8)	(0.7)	
39	139	第1面構成土		鉄製品・釘	(5.3)	(0.7)	(0.8)	
39	140	第1面構成土		鉄製品・釘	(7.0)	(0.7)	(0.7)	
39	141	第1面構成土		鉄製品・釘	(7.0)	(0.5)	(0.3)	
39	142	第1面構成土		鉄製品・釘	(7.2)	(0.3)	(0.2)	
39	143	第1面構成土		鉄製品・釘	(8.2)	(0.6)	(0.5)	
39	144	第1面構成土		鉄製品・刀子	(18.2)	約2.0	(0.7)	
39	145	第1面構成土		鉄製品・刀子	(5.7)	(0.9)	(1.8)	
40	146	第1面構成土		銭				元豐通寶・初鑄年-北宋1078年・篆書
40	147	第1面構成土		銭				元豐通寶・初鑄年-北宋1078年・行書
40	148	第1面構成土		銭				東國通寶・初鑄年-高麗1097年・真書
40	149	第1面構成土		銭				開元通寶・初鑄年-唐621年
40	150	第1面構成土		銭				元祐通寶・初鑄年-北宋1086年・篆書
40	151	第1面構成土		銭				○豊通○・行書
40	152	第1面構成土		銭				治平元寶・初鑄年-北宋1064年・真書
40	153	第1面構成土		銭				祥符通寶・初鑄年-1008年
40	154	第1面構成土		須恵器碗				胎土：白色粒・灰色
40	155	第1面構成土		須恵器碗				胎土：白色粒・灰色
41	1	表探		てづくね	(7.8)		1.7	胎土：雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成：良好・色調：橙色
41	2	表探		てづくね	(8.8)	(6.4)	1.6	胎土：微砂・雲母・貝状骨針・焼成：良好・色調：黃橙色
41	9	表探		てづくね	(11.6)			胎土：微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成：良好・色調：黃橙色
41	4	表探		てづくね	(13.6)			胎土：微砂・雲母・泥岩粒・焼成：良好・色調：黃橙色
41	5	表探		てづくね	(14.2)	(8.4)	3.2	胎土：微砂・雲母・泥岩粒・焼成：良好・色調：黃橙色
41	6	表探		てづくね	13.8	(6.8)	3.6	胎土：微砂・雲母・小石粒・焼成：良好・色調：橙色
41	7	表探		かわらけ	(7.9)	(5.7)	1.55	胎土：微砂・雲母・赤色粒・泥岩粒・焼成：良好・色調：黃橙色
41	8	表探		かわらけ	(8.2)	6.0	1.9	胎土：微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成：良好・色調：黃橙色
41	3	表探		かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.4	胎土：微砂・雲母・赤色粒・焼成：良好・色調：黃橙色
41	10	表探		かわらけ	(8.8)	(7.6)	1.95	胎土：微砂・雲母・貝状骨針・焼成：良好・色調：橙色
41	11	表探		かわらけ	(8.3)	(7.3)	1.95	胎土：微砂・雲母・貝状骨針・焼成：良好・色調：橙色
41	12	表探		かわらけ	(9.4)	(7.6)	1.7	胎土：微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成：良好・色調：橙色
41	13	表探		かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.2	胎土：微砂・雲母・赤色粒・貝状骨針・焼成：良好・色調：橙色
41	14	表探	舶載	青磁無文碗				素地：灰色・精良・釉：灰綠色
41	15	表探	常滑	片口鉢I類				胎土：砂粒・白色粒・黑色粒・色調：灰色
41	16	表探		鉄製品・釘	(3.9)	(0.5)	(0.5)	
41	17	表探		鉄製品・釘	(3.5)	(0.4)	(0.4)	
41	18	表探		平瓦			2.5	胎土：灰白色・砂粒・小石粒・焼成：良好・色調：灰色・凸面斜格子の叩き文・凹面：離れ砂・縦位のナデ
41	19	表探		平瓦				胎土：砂粒・赤色粒・黒色粒・焼成：良好・色調：橙灰色・凸面：斜格子・ナデ不明・凹面：離れ砂・布目痕無・縦ナデ・永福寺D類
41	20	表探		平瓦				胎土：砂粒・雲母・焼成：やや不良・色調：灰褐色・凸面：斜格子の叩き目・水切り痕・凹面：離れ砂・斜位のナデ

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第1面	1	搅乱			
	2	土坑	8 8 . 0	8 8 . 4	3 7 . 0
	3	土坑	6 8 . 0	4 8 . 0	1 7 . 9
	4	土坑	6 8 . 0	3 4 . 0	1 1 . 3
	5	土坑	6 9 . 0	5 4 . 0	2 0 . 5
	6	土坑	1 1 2 . 0	(7 8 . 0)	3 3 . 8
	7	土坑	(5 3 . 0)	4 3 . 0	1 4 . 5
	9	ピット	2 8 . 0	(1 8 . 0)	1 8 . 0
	10	ピット	2 9 . 0	2 3 . 0	1 8 . 1
	11	溝状土坑	(3 2 0 . 0)	(2 6 . 0)	(1 0 . 0)
	12	溝状土坑	(4 8 0 . 0)	(3 7 . 0)	(1 1 . 7)
	13	搅乱			
	14	土坑	4 6 . 0	4 5 . 0	1 3 . 8
	15	土坑	4 5 . 0	(4 0 . 0)	1 0 . 1
	16	土坑	5 0 . 0	4 7 . 0	1 1 . 5
	21	ピット	4 2 . 0	2 7 . 0	1 1 . 0
	22	ピット	3 4 . 0	3 0 . 0	4 . 4
	26	ピット	4 0 . 0	2 9 . 0	3 2 . 6
	28	土坑	6 0 . 0	(5 1 . 0)	1 0 . 7
	27	土坑	4 9 . 0	4 4 . 0	2 1 . 6
	30	ピット	2 7 . 0	2 5 . 0	1 1 . 0
	32	ピット	2 6 . 0	2 3 . 0	1 4 . 2
	33	ピット	2 2 . 0	2 2 . 0	1 6 . 0
	36	ピット	2 9 . 0	2 2 . 0	1 4 . 4
	37	ピット	3 9 . 0	2 4 . 0	1 0 . 9
	38	ピット	2 4 . 0	2 0 . 0	1 0 . 7
	39	土坑	5 1 . 0	3 6 . 0	1 2 . 8
	41	ピット	2 3 . 0	2 3 . 0	2 0 . 5
	45	ピット	3 7 . 0	(2 1 . 0)	1 6 . 7
	46	ピット	3 4 . 0	2 3 . 0	1 2 . 0
	47	ピット	2 1 . 0	1 9 . 0	1 0 . 5
	48	ピット	2 8 . 0	2 3 . 0	1 4 . 0
	49	土坑	5 2 . 0	3 5 . 0	1 1 . 7
	50	土坑	8 5 . 0	(5 4 . 0)	2 4 . 4
	80	土坑	4 5 . 0	(2 3 . 0)	3 8 . 3
	168	搅乱			
	169	土坑	7 0 . 0	(6 2 . 0)	1 9 . 0
	171	土坑	(4 6 . 0)	6 4 . 0	6 . 9
	172	土坑	(5 7 . 0)	(4 6 . 0)	3 1 . 7
	173	搅乱			
	174	土坑	(7 0 . 0)	6 9 . 0	1 1 . 3
	175	土坑	(6 7 . 0)	7 8 . 0	8 . 0
	176	搅乱			
	177	搅乱			
	178	土坑	(7 2 . 0)	(3 2 . 0)	1 9 . 5
	185	土坑	1 5 9 . 1	(1 5 0 . 0)	1 3 . 9
第2面	51	土坑	4 9 . 0	4 9 . 0	3 5 . 0
	52	ピット	4 1 . 0	1 1 . 0	2 2 . 4
	53	ピット	4 1 . 0	3 5 . 0	3 3 . 3
	54	土坑	4 7 . 0	1 9 . 0	3 2 . 8
	55	ピット	3 7 . 0	3 3 . 0	5 . 0
	56	ピット	3 3 . 0	(1 8 . 0)	1 7 . 7
	57	ピット	3 5 . 0	3 5 . 0	1 2 . 0
	58	土坑	4 6 . 0	3 5 . 0	1 6 . 0
	59	土坑	6 7 . 0	4 9 . 0	2 7 . 4
	60	ピット	1 7 . 0	1 5 . 0	2 2 . 0
	61	ピット	2 1 . 0	2 0 . 0	2 0 . 0

*注 搅乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第2面	62	ピット	24.0	20.0	25.0
	63	土坑	46.0	(42.0)	14.1
	64	ピット	32.0	31.0	12.7
	65	井戸	126.0	107.0	(160.0)
	66	土坑	58.0	45.0	7.0
	67	ピット	30.0	25.0	18.0
	68	土坑	80.0	60.0	9.0
	69	ピット	28.0	26.0	17.5
	71	土坑	61.0	42.0	23.2
	72	ピット	47.0	46.0	33.3
	73	ピット	65.0	65.0	67.3
	74	ピット	35.0	30.0	40.6
	75	ピット	27.0	25.0	9.7
	76	土坑	89.0	87.0	7.8
	78	土坑	50.0	47.0	41.2
	79	ピット	43.0	18.0	13.9
	81	ピット	36.0	30.0	18.0
	82	ピット	31.0	16.0	8.0
	83	土坑	43.0	36.0	29.4
	84	ピット	34.0	17.0	6.2
	86	ピット	37.0	(23.0)	3.0
	87	土坑	(76.0)	48.0	19.7
	88	土坑	248.0	160.0	70.0
	90	土坑	58.0	(38.0)	17.8
	91	土坑	60.0	24.0	15.7
	100	土坑	42.0	(20.0)	12.0
	104	土坑	(142.0)	(58.0)	26.2
	105	土坑	47.0	38.0	16.8
	181	ピット	38.0	21.0	24.8
	182	土坑	133.0	35.0	20.5
	183	ピット	18.0	18.0	9.6
	184	ピット	14.0	12.0	9.0
	186	土坑	80.0	(30.0)	9.3
	189	土坑	51.0	(21.0)	14.0
	190	土坑	(80.0)	(33.0)	???
	192	土坑	49.0	37.0	30.8
	193	ピット	(37.0)	30.0	57.5
	194	ピット	(32.0)	18.0	32.8
	195	ピット	34.0	34.0	24.5
	196	土坑	51.0	(33.0)	14.3
	199	ピット	33.0	(30.0)	17.0
	208	土坑	103.2	35.0	34.5
	211	土坑	76.0	30.0	8.0
	216	ピット	41.0	29.0	30.0
	218	土坑	58.0	(51.0)	11.5
	219	土坑	87.0	45.0	11.5
	220	土坑	55.0	38.0	11.0
	222	土坑	55.0	53.0	15.0
	255	ピット	32.0	24.0	14.0
	258	ピット	33.0	24.0	28.5
	260	ピット	43.0	40.0	14.5
	273	ピット	37.0	28.0	3.0
第2面	276	ピット	48.0	33.0	29.0
	286	ピット	(39.0)	36.0	18.0
	298	土坑	60.0	55.0	35.5
	301	土坑	(80.0)	(33.0)	23.5
第3面	92	ピット	41.0	45.0	36.6

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第3面	93	ピット	1 5 . 0	2 3 . 0	2 6 . 8
	94	ピット	1 8 . 0	2 3 . 0	1 6 . 0
	95	土坑	2 1 4 . 0	1 1 8 . 0	2 3 . 0
	96	ピット	2 6 . 0	2 4 . 0	9 . 6
	98	ピット	3 3 . 0	3 3 . 0	9 . 6
	101	土坑	7 5 . 0	(3 7 . 0)	5 3 . 6
	102	土坑	(4 7 . 0)	3 6 . 0	1 1 . 0
	104	土坑	(1 4 2 . 0)	(5 8 . 0)	2 6 . 2
	103	ピット	3 8 . 0	3 4 . 0	2 3 . 2
	107	土坑	8 2 . 0	6 9 . 0	1 3 . 9
	108	土坑	(8 0 . 0)	(8 2 . 0)	2 7 . 5
	109	土坑	8 5 . 0	(3 6 . 0)	3 5 . 1
	110	ピット	5 5 . 0	5 4 . 0	3 1 . 3
	111	土坑	3 6 2 . 0	2 4 0 . 0	1 0 . 4
	112	ピット	4 0 . 0	5 0 . 0	5 1 . 8
	113	ピット	4 5 . 0	3 4 . 0	2 4 . 0
	117	ピット	4 3 . 0	3 7 . 0	2 4 . 9
	120	ピット	3 8 . 0	(2 4 . 0)	2 2 . 3
	121	ピット	3 3 . 0	2 9 . 0	1 6 . 7
	124	ピット	3 5 . 0	3 5 . 0	7 . 5
	128	ピット	3 0 . 0	(1 8 . 0)	1 2 . 2
	159	ピット	3 0 . 0	2 5 . 0	2 2 . 0
	167	ピット	3 7 . 0	2 8 . 0	1 9 . 0
	197	土坑	4 5 . 0	(3 0 . 0)	3 8 . 5
	198	溝状土坑	(3 4 2 . 0)	(4 7 . 0)	9 . 0
	200	ピット	(2 0 . 0)	2 2 . 0	1 4 . 0
	201	土坑	5 7 . 0	3 0 . 0	9 . 0
	202	ピット	2 8 . 0	(2 2 . 0)	8 . 0
	204	ピット	4 8 . 0	(2 9 . 0)	1 4 . 5
	205	ピット	3 4 . 0	3 0 . 0	1 0 . 5
	206	ピット	3 8 . 0	3 1 . 0	2 4 . 0
	212	土坑	5 0 . 0	4 5 . 0	4 3 . 0
	213	土坑	(4 7 . 0)	(1 7 . 0)	1 2 . 0
	214	土坑	5 3 . 0	4 5 . 0	2 9 . 5
	216	ピット	4 1 . 0	3 0 . 0	1 7 . 0
	217	ピット	2 4 . 0	2 1 . 0	1 3 . 5
	221	土坑	4 5 . 0	3 7 . 0	2 1 . 0
	223	ピット	3 8 . 0	3 3 . 0	1 1 . 5
	224	土坑	5 0 . 0	3 8 . 0	1 4 . 0
	225	ピット	1 8 . 0	1 5 . 0	7 . 0
	227	ピット	2 9 . 0	2 4 . 0	3 3 . 0
	228	ピット	1 4 . 0	1 4 . 0	4 . 5
	229	ピット	2 0 . 0	2 0 . 0	4 . 5
	230	ピット	3 8 . 0	3 5 . 0	5 . 5
	232	ピット	1 4 . 0	1 1 . 0	1 7 . 5
	233	土坑	5 2 . 0	1 0 . 0	7 . 5
	235	ピット	3 3 . 0	3 0 . 0	6 . 0
	236	ピット	(3 0 . 0)	2 8 . 0	1 3 . 0
	237	ピット	4 0 . 0	2 5 . 0	1 9 . 5
	238	土坑	4 5 . 0	4 2 . 0	1 8 . 5
	239	ピット	3 5 . 0	3 3 . 0	6 . 0
	240	ピット	3 2 . 0	3 2 . 0	1 9 . 5
	241	ピット	3 2 . 0	3 0 . 0	1 2 . 0
	242	ピット	4 4 . 0	4 3 . 0	1 0 . 5
	243	ピット	2 7 . 0	2 5 . 0	3 7 . 5
	244	ピット	3 8 . 0	2 5 . 0	7 8 . 0
第3面	245	ピット	3 0 . 0	2 8 . 0	3 3 . 0

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第2面	246	ピット	30.0	22.0	24.0
	247	土坑	46.0	(36.0)	???
	248	ピット	35.0	(18.0)	11.5
	249	土坑	52.0	(37.0)	8.5
	250	ピット	32.0	32.0	10.0
	251	土坑	86.0	(56.0)	6.5
	252	ピット	34.0	34.0	41.0
	253	土坑	54.0	46.0	25.5
	254	ピット	25.0	(24.0)	46.0
	256	土坑	42.0	45.0	24.5
	257	土坑	75.0	55.0	7.0
	259	ピット	39.0	36.0	56.0
	263	ピット	34.0	(25.0)	8.0
	264	ピット	20.0	(13.0)	8.5
	265	土坑	55.0	55.0	28.5
	266	土坑	45.0	34.0	54.0
	267	土坑	43.0	41.0	8.5
	269	土坑	40.0	28.0	10.0
	271	土坑	52.0	(50.0)	72.0
	272	ピット	35.0	36.0	15.0
	274	ピット	24.0	15.0	5.0
	275	ピット	28.0	26.0	16.0
	277	土坑	41.0	36.0	7.5
	278	ピット	(13.0)	10.0	9.5
	279	土坑	(52.0)	28.0	11.5
	280	ピット	36.0	38.9	40.0
	287	ピット	26.0	(11.0)	9.0
	289	ピット	35.0	32.0	64.0
	291	ピット	30.0	(18.0)	18.0
	292	ピット	35.0	(25.0)	10.0
	294	土坑	50.0	44.0	31.0
	295	ピット	36.0	(15.0)	16.5
	297	土坑	48.0	40.0	50.5
	299	土坑	(45.0)	40.0	18.5
	302	土坑	45.0	(20.0)	4.0
	304	土坑	44.0	47.0	11.0
	306	土坑	(43.0)	46.0	7.0
	307	土坑	60.0	55.0	18.5
	309	土坑	(43.0)	(10.0)	14.0
	310	土坑	47.0	36.0	54.5
	311	土坑	44.0	(32.0)	7.0
	313	土坑	(48.0)	(34.0)	3.5
	316	土坑	55.0	(45.0)	12.5
	317	土坑	40.0	41.0	56.5
	318	土坑	(40.0)	40.0	11.0
	319	土坑	60.0	(26.0)	14.5
	322	ピット	29.0	31.0	22.0
	325	ピット	25.0	20.0	34.0
	326	ピット	43.0	37.0	41.0
	328	土坑	(36.0)	(25.0)	5.0
	329	ピット	44.0	41.0	45.5
	331	土坑	48.0	41.0	7.0
	335	ピット	24.0	22.0	42.5
	336	ピット	29.0	28.0	11.0
	337	ピット	(14.0)	(31.0)	44.5
第3面	338	ピット	34.0	36.0	49.5
	339	土坑	60.0	63.0	7.0

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第3面	340	ピット	4 4 . 0	(2 3 . 0)	2 3 . 5
	342	ピット	2 5 . 0	(2 2 . 0)	8 . 5
	343	ピット	3 2 . 0	2 1 . 0	1 8 . 0
	347	ピット	2 0 . 0	(1 0 . 0)	1 6 . 0
	350	ピット	(3 0 . 0)	3 4 . 0	1 0 . 5
	352	ピット	(2 2 . 0)	(2 0 . 0)	1 . 5
	354	ピット	3 0 . 0	2 8 . 0	2 . 5
	355	ピット	3 4 . 0	3 0 . 0	5 6 . 0
	357	ピット	(1 4 . 0)	(2 5 . 0)	7 . 0
	360	土坑	(4 4 . 0)	(1 4 . 0)	6 . 5
	361	土坑	5 0 . 0	(5 5 . 0)	8 . 5
	363	ピット	4 5 . 0	(3 4 . 0)	9 . 5
	367	ピット	3 5 . 0	2 3 . 0	3 1 . 5
	370	ピット	3 4 . 0	3 1 . 0	5 6 . 5
	372	ピット	(2 4 . 0)	2 4 . 0	1 4 . 0
	373	土坑	6 2 . 0	4 8 . 0	1 4 . 0
	380	ピット	(1 2 . 0)	(2 6 . 0)	1 5 . 0
	385	ピット	3 9 . 0	3 7 . 0	1 9 . 5
	388	ピット	3 8 . 0	(1 5 . 0)	9 . 0
第4面	114	土坑	(1 3 6 . 0)	(1 1 6 . 0)	1 5 . 7
	116	ピット	4 2 . 0	3 3 . 0	2 9 . 3
	118	ピット	(4 0 . 0)	2 3 . 0	1 4 . 8
	119	ピット	2 8 . 0	3 1 . 0	5 1 . 3
	122	ピット	2 9 . 0	(1 3 . 0)	1 9 . 0
	123	ピット	(1 1 . 0)	1 3 . 0	(5 . 0)
	125	ピット	(2 0 . 0)	2 3 . 0	1 4 . 2
	126	ピット	3 1 . 0	2 6 . 0	9 . 0
	127	土坑	3 9 . 0	2 3 . 0	1 3 . 5
	129	土坑	5 0 . 0	(3 2 . 0)	1 9 . 0
	130	建物址	本文記載		
	131	建物址	本文記載		
	132	ピット	3 1 . 0	3 0 . 0	3 5 . 0
	133	ピット	4 4 . 0	4 4 . 0	1 8 . 3
	134	ピット	3 7 . 0	2 7 . 0	2 4 . 0
	135	ピット	1 4 . 0	1 1 . 0	1 4 . 8
	136	ピット	3 3 . 0	3 2 . 0	2 1 . 3
	137	ピット	3 3 . 0	2 8 . 0	3 5 . 0
	138	ピット	1 5 . 0	1 5 . 0	1 2 . 1
	139	ピット	1 5 . 0	1 4 . 0	9 . 7
	140	ピット	2 5 . 0	2 4 . 0	4 9 . 3
	141	土坑	1 1 1 . 0	1 0 0 . 0	3 1 . 9
	142	土坑	6 1 . 0	4 3 . 0	6 2 . 4
	143	土坑	4 9 . 0	4 3 . 0	2 2 . 3
	144	ピット	3 4 . 0	3 2 . 0	2 6 . 5
	145	ピット	(2 9 . 0)	(3 1 . 0)	3 5 . 9
	146	ピット	2 8 . 0	3 2 . 0	2 3 . 0
	147	ピット	3 0 . 0	2 4 . 0	1 4 . 0
	148	ピット	3 5 . 0	3 2 . 0	2 8 . 0
	149	ピット	3 0 . 0	2 7 . 0	1 7 . 0
	150	ピット	3 2 . 0	2 8 . 0	1 3 . 0
	151	ピット	3 4 . 0	2 6 . 0	2 8 . 0
	152	ピット	2 3 . 0	2 1 . 0	5 . 0
	153	ピット	3 0 . 0	2 7 . 0	2 2 . 9
	154	ピット	2 8 . 0	2 6 . 0	2 2 . 2
	155	土坑	8 3 . 0	4 7 . 0	4 7 . 7
	156	ピット	3 1 . 0	3 0 . 0	3 0 . 0
	157	ピット	3 7 . 0	3 3 . 0	2 7 . 0

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第4面	158	ピット	42.0	31.0	23.0
	159	ピット	28.0	25.0	20.0
	160	ピット	41.0	44.0	15.0
	161	ピット	35.0	33.0	25.0
	162	ピット	36.0	28.0	23.0
	164	ピット	28.0	(25.0)	14.0
	165	土坑	84.0	(85.0)	15.0
	166	ピット	20.0	18.0	6.5
	167	ピット	35.0	27.0	12.0
	209	ピット	34.0	25.0	7.5
	210	ピット	40.0	40.0	32.0
	215	ピット	26.0	(15.0)	5.0
	231	ピット	34.0	(30.0)	41.5
	259	ピット	34.0	37.0	46.0
	261	ピット	32.0	(24.0)	20.0
	262	土坑	75.0	58.0	9.0
	268	ピット	35.0	(17.0)	66.0
	270	土坑	(57.0)	63.0	8.5
	281	ピット	36.0	34.0	50.5
	283	ピット	43.0	(34.0)	26.0
	284	ピット	(30.0)	(27.0)	22.0
	285	ピット	47.0	24.0	29.0
	288	土坑	50.0	(33.0)	41.0
	293	土坑	(28.0)	(35.0)	17.5
	296	ピット	46.0	37.0	51.5
	300	土坑	(60.0)	(25.0)	19.0
	306	土坑	46.0	(44.0)	7.0
	308	ピット	34.0	35.0	12.5
	312	ピット	26.0	17.0	7.5
	314	土坑	(34.0)	(9.0)	7.5
	315	土坑	80.0	82.0	15.5
	318	ピット	38.0	(27.0)	11.0
	320	ピット	38.0	(32.0)	39.5
	321	土坑	81.0	70.0	31.0
	323	ピット	(17.0)	(16.0)	19.0
	324	土坑	105.0	72	60.5
	327	土坑	(64.0)	(27.0)	29.0
	330	ピット	42.0	38.0	7.0
	332	ピット	32.0	30.0	34.1
	333	ピット	38.0	42.0	27.5
	334	土坑	(68.0)	(23.0)	20.0
	341	ピット	54.0	35.0	46.0
	344	ピット	30.0	(26.0)	10.0
	345	ピット	(26.0)	(21.0)	2.5
	348	土坑	45.0	39.0	21.5
	349	ピット	(32.0)	30.0	40.0
	351	ピット	15.0	15.0	5.0
	353	ピット	34.0	(17.0)	61.5
	356	ピット	40.0	35.0	45.5
	358	ピット	(26.0)	30.0	3.0
	359	ピット	(13.0)	(27.0)	8.0
	362	ピット	43.0	37.0	19.0
	364	ピット	19.0	17.0	11.5
	365	ピット	18.0	(12.0)	23.0
	366	土坑	52.0	33.0	8.5
	369	ピット	26.0	(19.0)	5.0
	371	ピット	35.0	23.0	68.0

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第4面	374	ピット	3 6 . 0	3 2 . 0	1 5 . 0
	375	ピット	2 0 . 0	2 2 . 0	8 . 0
	377	土坑	(6 4 . 0)	(3 5 . 0)	1 4 . 0
	378	ピット	2 5 . 0	(2 3 . 0)	1 1 . 5
	379	土坑	8 0 . 0	5 9 . 0	5 7 . 5
	381	ピット	(1 8 . 0)	(1 8 . 0)	5 . 0
	382	土坑	3 5 . 0	(2 8 . 0)	5 . 5
	383	ピット	3 4 . 0	2 7 . 0	5 3 . 0
	384	ピット	3 8 . 0	3 2 . 0	4 4 . 5
	385	ピット	4 0 . 0	3 6 . 0	2 2 . 0
	387	ピット	3 8 . 0	(1 9 . 0)	5 . 0
	389	ピット	4 1 . 0	(1 9 . 0)	8 . 0
	392	ピット	2 4 . 0	(1 8 . 0)	4 6 . 5
	393	ピット	3 2 . 0	2 9 . 0	4 6 . 5
	395	ピット	2 2 . 0	2 3 . 0	2 0 . 5
	396	ピット	3 0 . 0	(2 0 . 0)	3 9 . 0
	397	土坑	(3 2 . 0)	(1 1 . 0)	1 0 . 5
	398	ピット	2 0 . 0	1 9 . 0	5 1 . 0
	399	ピット	1 2 . 0	1 3 . 0	9 . 5
	400	ピット	2 6 . 0	1 8 . 0	8 . 0
	401	ピット	1 9 . 0	1 9 . 0	1 4 . 0
	402	ピット	3 5 . 0	(2 8 . 0)	2 7 . 0
	403	ピット	2 1 . 0	2 0 . 0	1 0 . 5
	404	ピット	3 8 . 0	3 2 . 0	1 9 . 5
	405	ピット	2 0 . 0	1 6 . 0	1 6 . 5
	406	ピット	3 9 . 0	(3 4 . 0)	3 0 . 0
	409	ピット	1 8 . 0	1 7 . 0	1 6 . 5
	410	ピット	1 8 . 0	(8 . 0)	2 . 5
	411	ピット	2 5 . 0	2 3 . 0	2 4 . 0
	412	ピット	1 8 . 0	1 9 . 0	8 . 0
	414	ピット	3 6 . 0	(3 2 . 0)	3 5 . 0
	415	土坑	3 8 . 0	(4 4 . 0)	1 0 . 5
	416	ピット	2 0 . 0	(1 6 . 0)	1 2 . 0
	417	ピット	2 0 . 0	1 5 . 0	9 . 0
	418	ピット	2 1 . 0	(1 1 . 0)	1 3 . 0
	419	ピット	8 . 0	8 . 0	6 . 0
	420	ピット	3 7 . 0	3 7 . 0	1 8 . 0
	422	ピット	2 5 . 0	2 2 . 0	1 4 . 0
	423	ピット	1 3 . 0	1 2 . 0	7 . 5
	424	ピット	2 0 . 0	(1 0 . 0)	5 . 0
	425	ピット	9 . 0	8 . 0	7 . 5
	426	ピット	3 9 . 0	4 0 . 0	6 7 . 0
	427	ピット	2 1 . 0	(7 . 0)	3 8 . 0
	428	ピット	8 . 0	8 . 0	7 . 5
	429	ピット	3 0 . 0	(1 5 . 0)	5 . 0
	430	ピット	3 4 . 0	(1 8 . 0)	5 4 . 5
	431	ピット	1 5 . 0	1 5 . 0	3 5 . 5
	432	ピット	2 9 . 0	2 9 . 0	1 6 . 0
	433	ピット	4 3 . 0	(2 6 . 0)	9 . 5
	434	ピット	5 0 . 0	3 4 . 0	7 . 0
	435	ピット	2 4 . 0	2 5 . 0	7 . 5
	436	土坑	(4 0 . 0)	(4 0 . 0)	1 7 . 0
	437	ピット	2 4 . 0	2 4 . 0	8 . 0
	438	ピット	2 0 . 0	2 0 . 0	2 7 . 0
	439	ピット	1 7 . 0	1 8 . 0	9 . 0
	440	ピット	3 3 . 0	(2 2 . 0)	8 . 0
	441	ピット	(1 7 . 0)	1 7 . 0	1 1 . 5

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

遺構計測表 単位 cm

面	遺構No.	形態	長さ	幅	深さ
第4面	442	ピット	35.0	(13.0)	17.0
	443	ピット	(22.0)	20.0	5.0
	444	ピット	(15.0)	26.0	6.0
	445	ピット	21.0	(14.0)	55.0
	446	ピット	26.0	(17.0)	9.0
	447	ピット	25.0	17.0	5.5
	448	ピット	34.0	40.0	7.5
	449	ピット	(15.0)	13.0	11.5
	450	ピット	26.0	(16.0)	19.5
	451	ピット	19.0	(13.0)	9.0
	452	ピット	24.0	(16.0)	9.0
	453	ピット	(20.0)	(10.0)	4.8
	454	ピット	19.0	18.0	6.0
	455	ピット	20.0	18.0	6.0
	456	ピット	(16.0)	(16.0)	???
	458	ピット	15.0	16.0	10.5
	459	ピット	13.0	(5.0)	11.0
	461	ピット	26.0	22.0	17.5

*注 搾乱は計測していない。調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を()で表記した。

図版1



▲ I 区 第1面全景(西から)



▲ I 区 調査区東側遺構群(西から)



◀ II 区 第1面全景(東から)



▲ I 区 第2面全景 (西から)

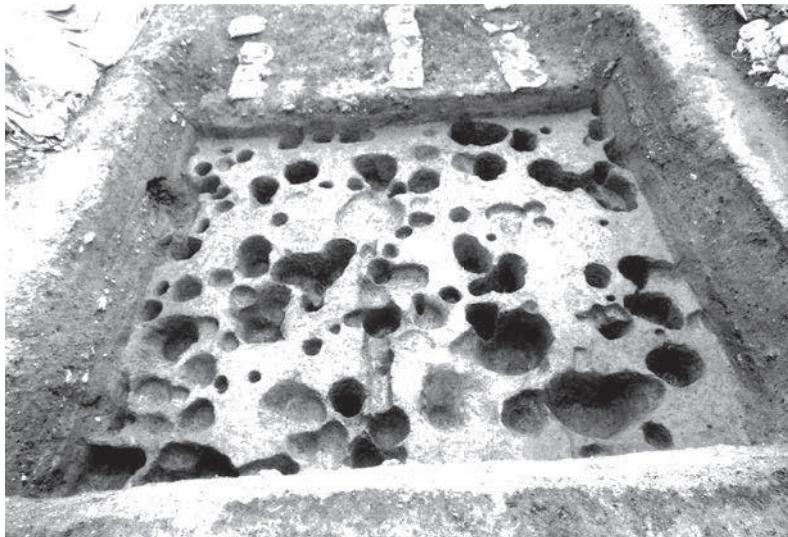


▲ II 区 第2面全景 (北から)



◀ I 区 第3面全景 (西から)

図版3



◀ II区 第3面全景(西から)

II区 第4面全景(西から) ▶



◀第2面遺構219(北から)





▲第1面構成土 刀子(図39-144) 出土状況



▲第2面遺構73



▲第2面遺構65・88・99・104



▲第2面遺構65



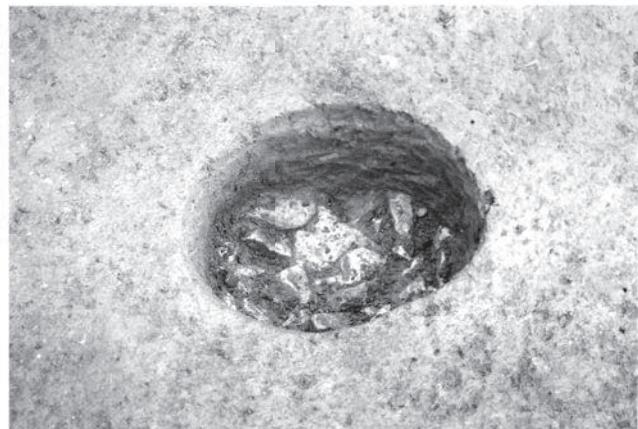
▲第2面遺構88



▲第2面遺構195・196



▲第3面遺構111



▲第3面遺構113

図版5



▲第4面遺構131十字ベルト状況(南から)



▲第4面遺構131ベルト西側(南から)



▲第4面遺構131(北から)



▲第4面遺構132(北から)



▲第4面遺構131根太出土状況(南から)



▲第4面遺構131根太出土状況(南から)



▲第4面遺構149



▲第4面遺構159



▲第4面遺構166(柱痕)



▲第4面遺構151(柱痕)

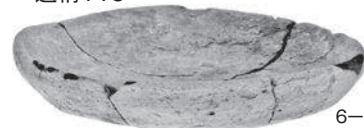


▲第4面遺構151(柱痕アップ)

図版7

第4面各遺構

▽遺構119



6-1

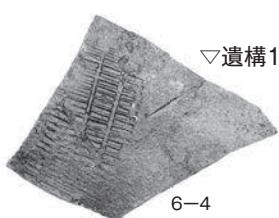


6-2

▽遺構262



6-3



▽遺構144



△遺構379 6-17



6-7

▽遺構132



9-3



9-5



9-11

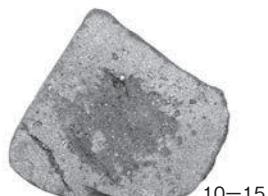
▽遺構131床面



10-2



10-6



10-15



10-20



10-22



12-1



12-6



12-13



12-2



12-15



12-17



12-31



12-34



12-47



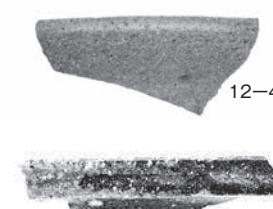
12-43



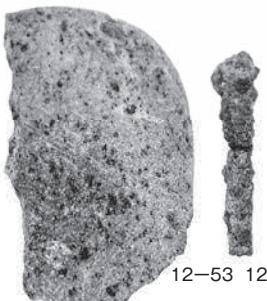
12-44



12-45



12-46



12-53



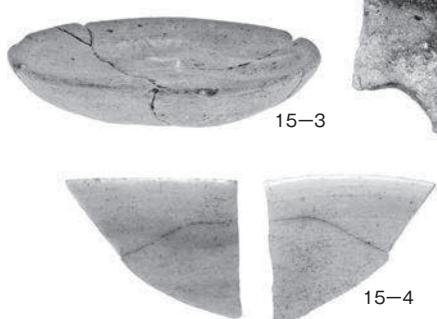
12-42



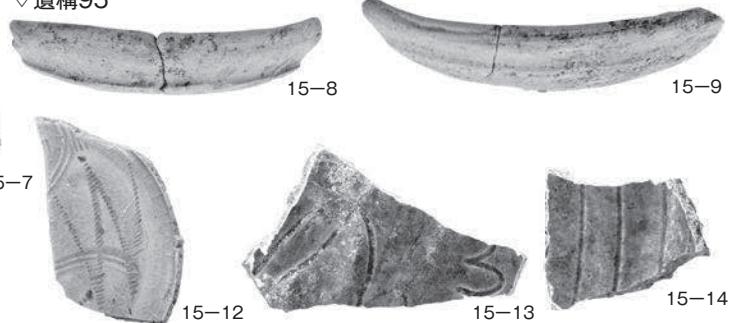
12-57

第3面各遺構

▽遺構111



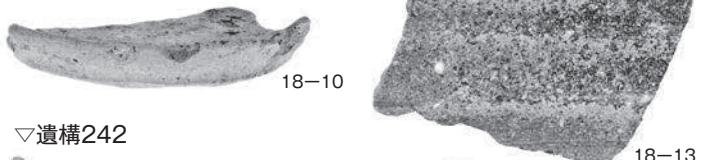
▽遺構95



▽遺構110



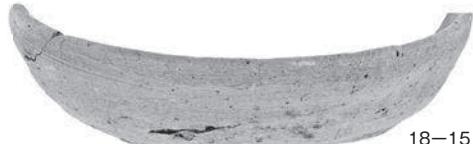
▽遺構198



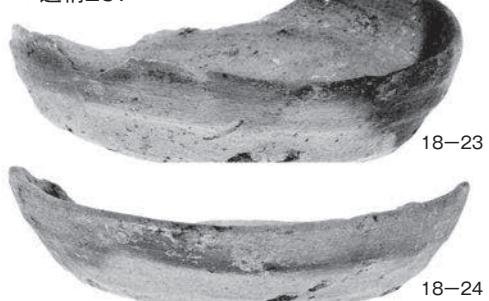
▽遺構117



▽遺構242



▽遺構257



▽遺構259



▽遺構266



▽遺構292



▽遺構294



▽遺構297



▽遺構307

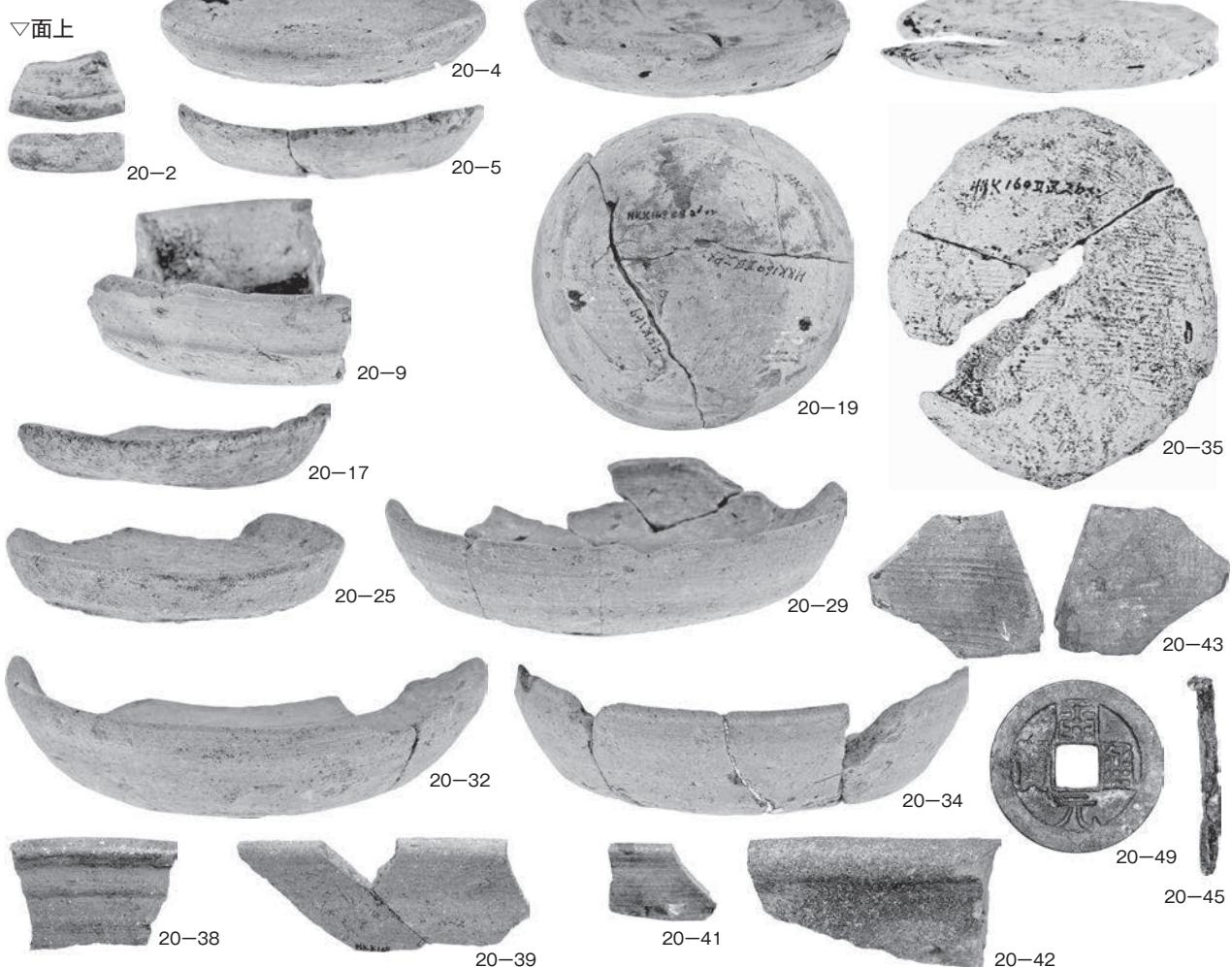


▽遺構355

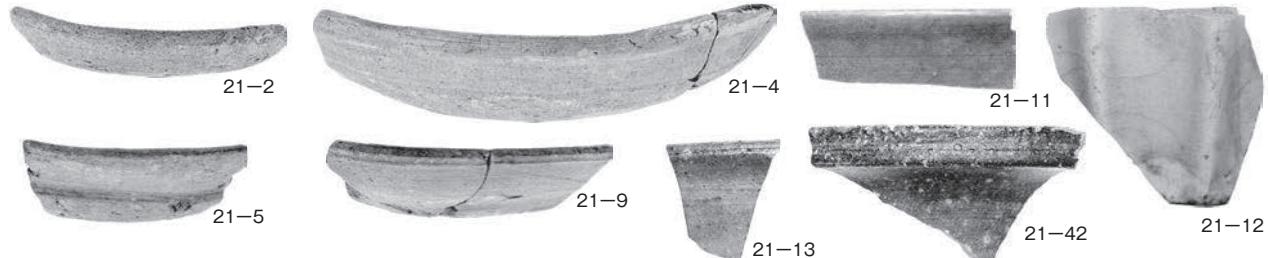


図版9

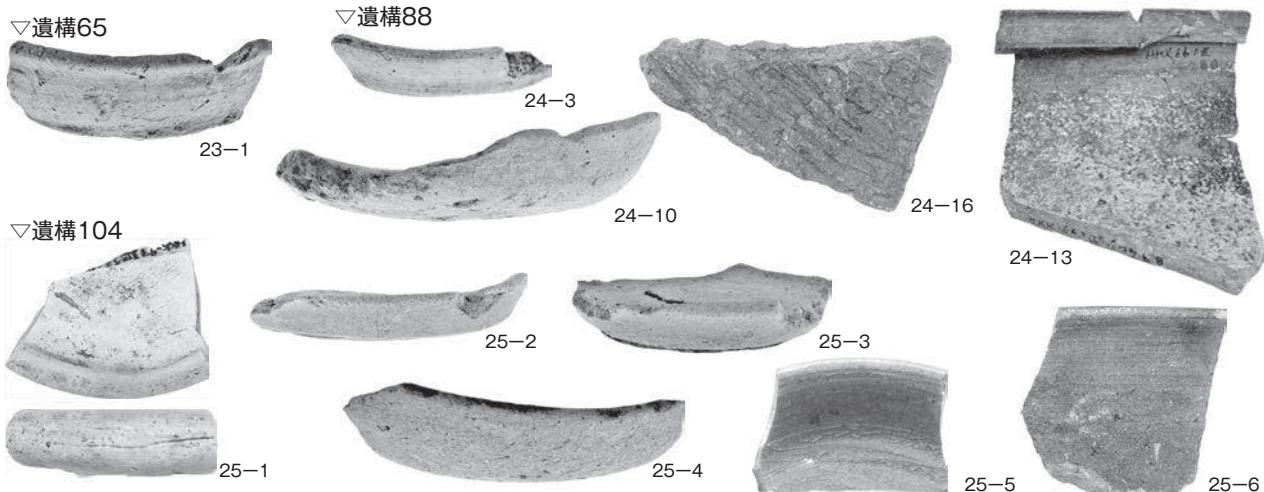
第3面遺構外



▽第3面構成土



第2面各遺構

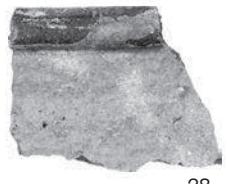


第2面各遺構

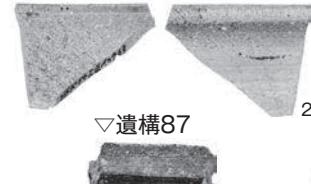
▽遺構219



▽遺構54



▽遺構63



▽遺構105



▽遺構87



▽遺構208



▽遺構218



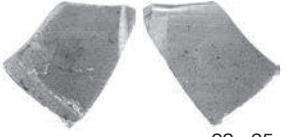
▽遺構78



▽遺構218

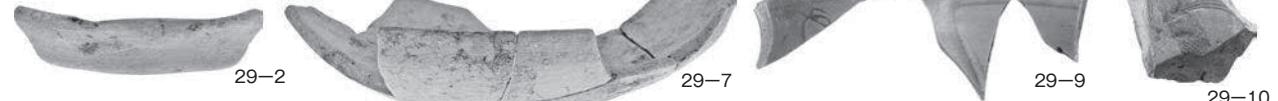


▽遺構301



第2面遺構外

▽面上



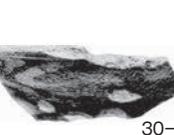
▽第2面構成土



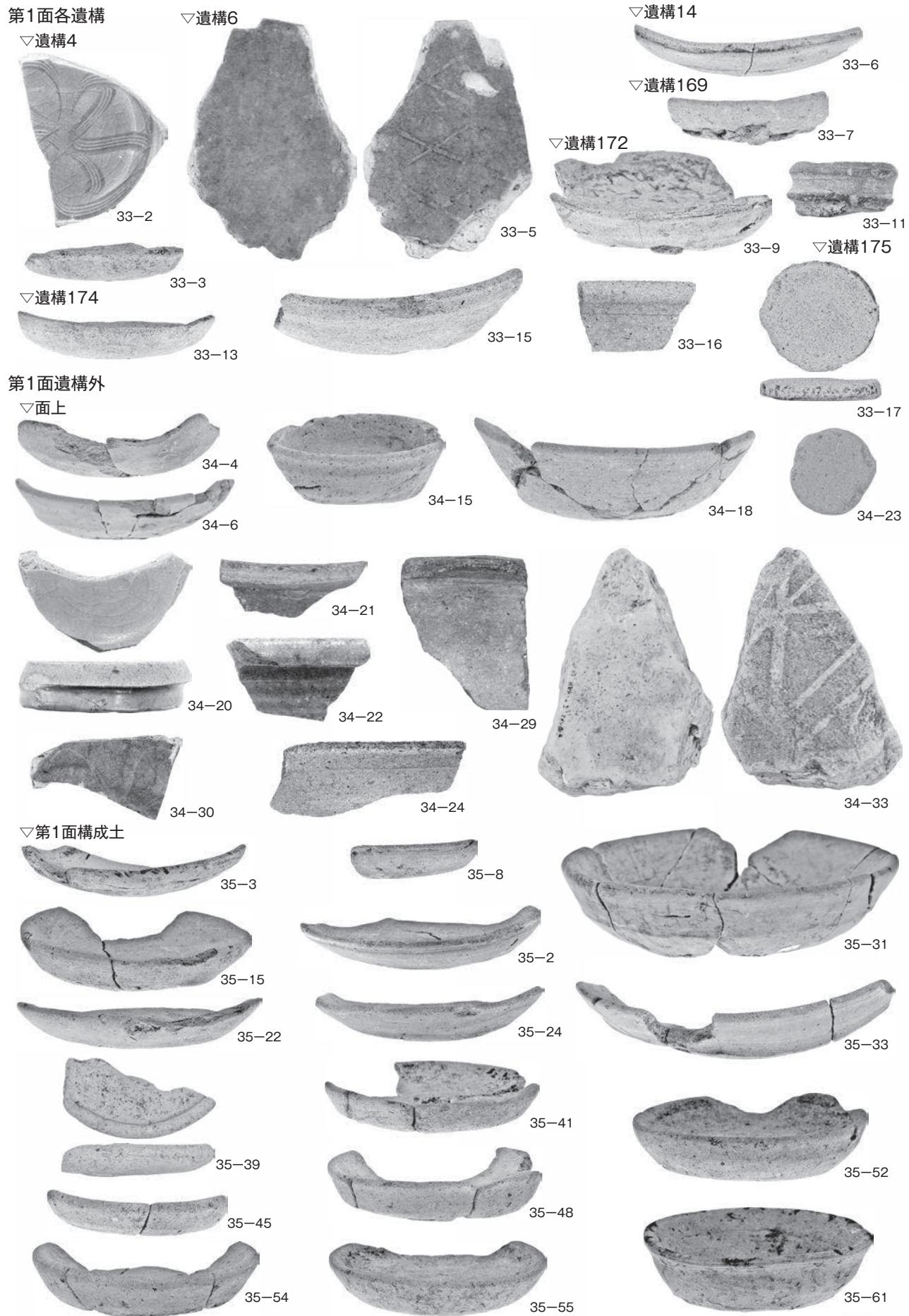
30-34

30-37

30-33

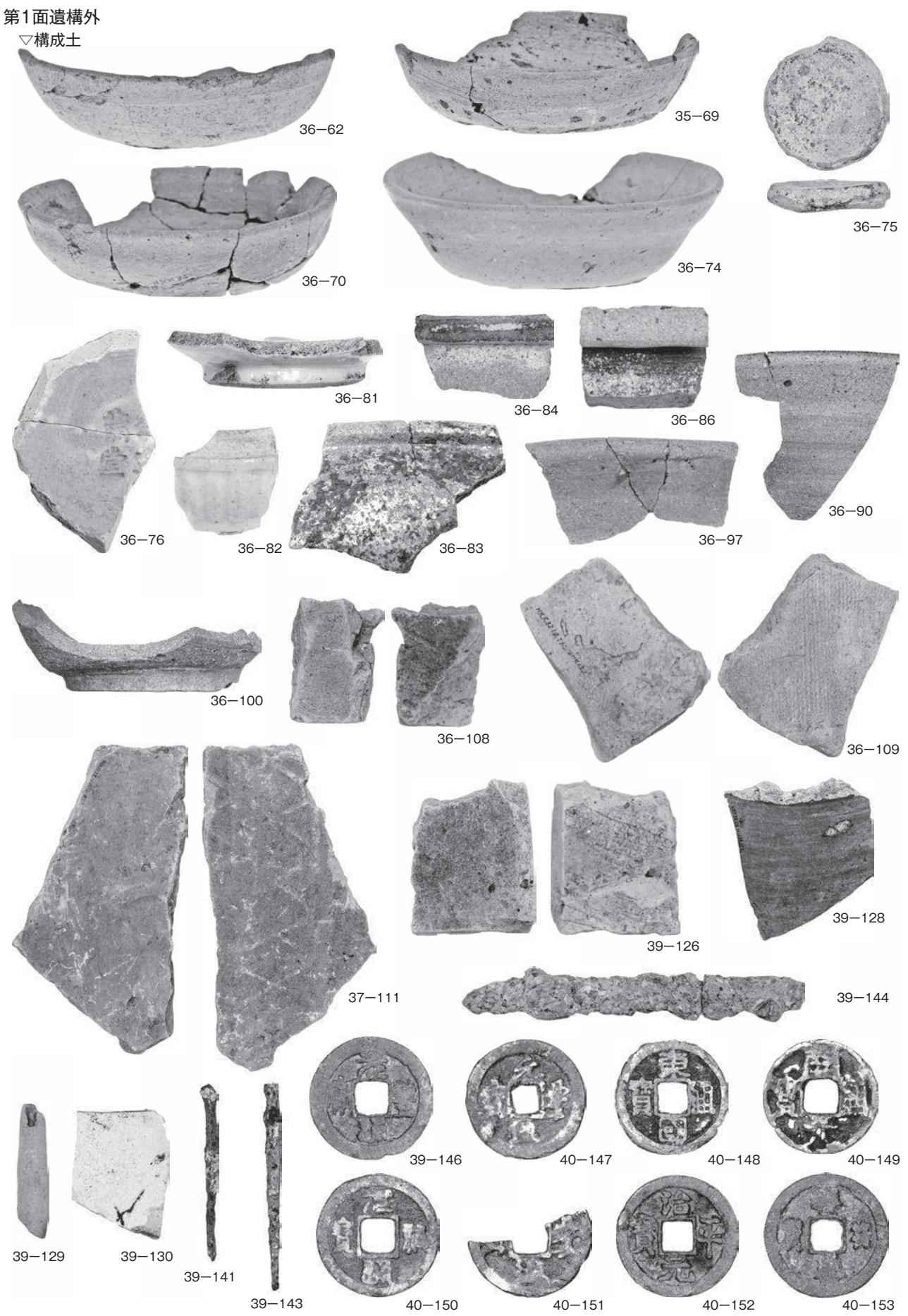


図版 11



第1面遺構外

△構成土



甘繩神社遺跡群 (No.177)

長谷一丁目 227 番 24 地点

例 言

1. 本書は鎌倉市長谷一丁目227番24地点に所在する個人専用住宅建設に伴い行われた甘縄神社遺跡群（県遺跡台帳No.177）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は鎌倉市教育委員会が、平成18年3月6日より同年5月1日にかけて鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本書使用の遺構図及び遺物実測図は調査員が分担し、原稿執筆・編集は福田 誠が担当した。
4. 本書に使用した遺構の全景写真・遺構個別写真撮影は福田、古田土俊一が、遺物写真撮影は須佐仁和、田畠衣理が行った。
5. 発掘調査の体制

主任調査員 福田 誠（鎌倉市教育委員会嘱託）

調査員 石元道子、古田土俊一、鈴木絵美

調査補助員 梅岡ケイト、小野夏菜、山口正紀、

作業員 鎌倉市シルバー人材センター

整理作業の体制

主任調査員 福田 誠（鎌倉市教育委員会嘱託）

調査員 石元道子、須佐仁和、田畠衣理

調査補助員 後藤亜季子、山口亜希子、森谷十美

6. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。

目 次 本文目次

第一章 調査地点の歴史的環境	322
第1節 位置と歴史的環境	
第2節 『吾妻鏡』中から拾える調査地関係の記載	
①甘繩神明神社に関係した記載	
②甘繩の地名に関係した記載	
第二章 調査の経過と土層	330
第1節 調査の経過	
第2節 土層	
第三章 検出された遺構と遺物	330
第1節 第1面の遺構と遺物(図3・図4)	
第2節 第2面の遺構と遺物(図5～図14)	
第3節 第3面の遺構と遺物(図15～図27)	
第4節 第4面の遺構と遺物(図28～図31)	
第5節 第5面の遺構と遺物(図32～図36)	
第四章 まとめ	362

出土遺物点数表

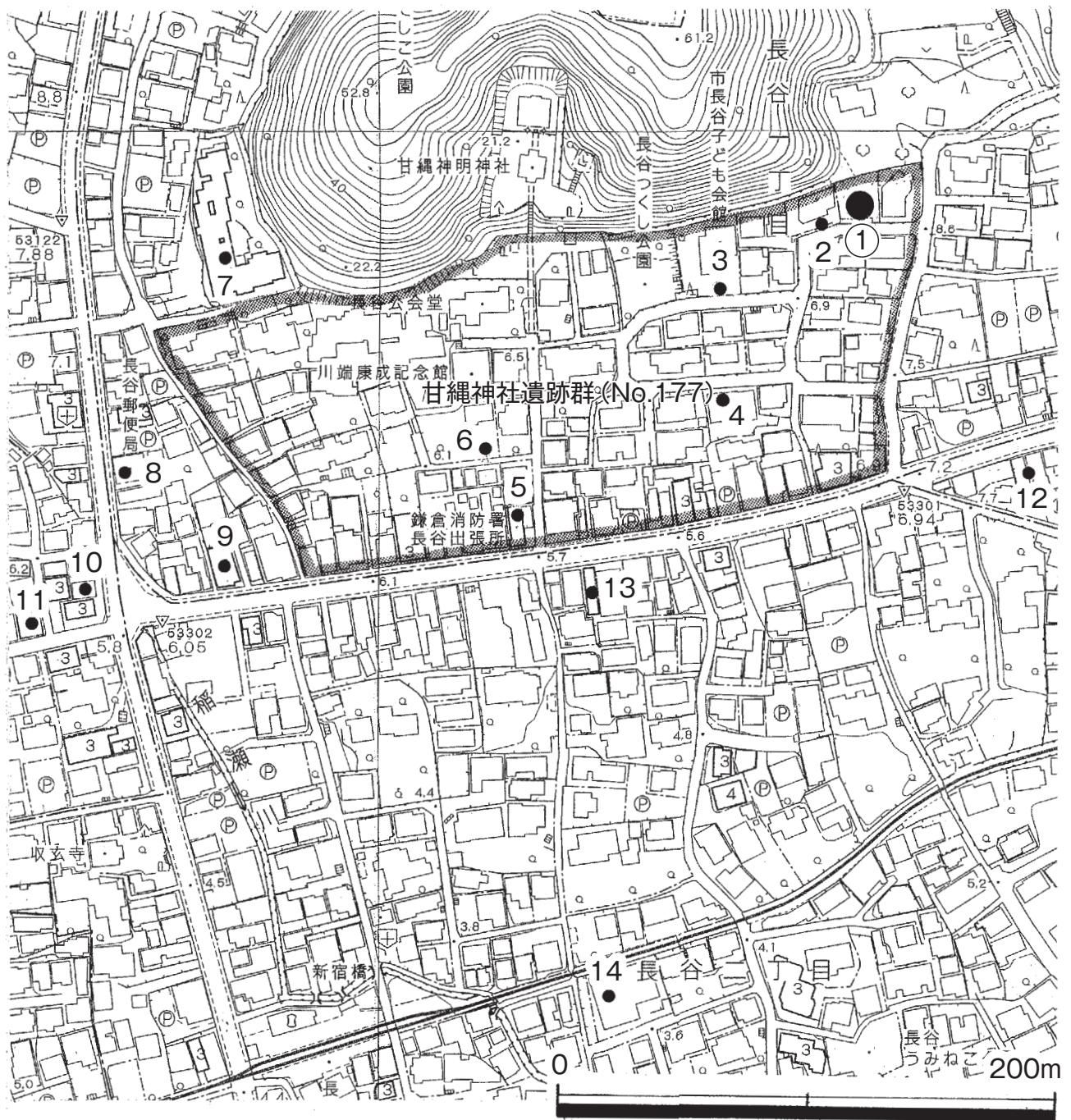
遺物観察表

挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡	321	図19 第3面構成土出土遺物(1)	345
図2 調査区の位置とグリッド設定図	323	図20 第3面構成土出土遺物(2)	346
図3 第1面全測図と調査区壁の土層図及び遺構 エレベーション図	329	図21 第3面構成土出土遺物(3)	347
図4 第1面遺構・構成土出土遺物	331	図22 第3面構成土出土遺物(4)	348
図5 第2面全測図と遺構のエレベーション図	331	図23 第3面構成土出土遺物(5)	349
図6 第2面遺構出土遺物(1)	332	図24 第3面構成土出土遺物(6)	350
図7 第2面遺構出土遺物(2)	333	図25 第3面構成土出土遺物(7)	351
図8 第2面遺構出土遺物(3)	334	図26 第3面構成土出土遺物(8)	352
図9 第2面上面出土遺物(1)	335	図27 第3面構成土出土遺物(9)	353
図10 第2面構成土出土遺物(1)	336	図28 第4面全測図とPit列のエレベーション図	353
図11 第2面構成土出土遺物(2)	337	図29 第4面遺構出土遺物(1)	355
図12 第2面構成土出土遺物(3)	338	図30 第4面遺構出土遺物(2)・面上出土遺物	356
図13 第2面構成土出土遺物(4)	339	図31 第4面構成土出土遺物	357
図14 第2面構成土出土遺物(5)	340	図32 第5面全測図とPit列のエレベーション図	358
図15 第3面全測図と井戸の土層図	341	図33 第5面かわらけ溜り遺物分布図	358
図16 第3面井戸出土遺物(1)	342	図34 第5面かわらけ溜り出土遺物(1)	359
図17 第3面井戸出土遺物(2)	343	図35 第5面かわらけ溜り出土遺物(2)	360
図18 第3面上面出土遺物	344	図36 第5面遺構・面上・構成土出土遺物	361

図版 目次

図版1	376	図版11	386
1. 調査地北壁		3面 井戸出土遺物	
2. 調査地東壁		図版12	387
3. 1面全景(西から)		3面 出土遺物	
4. 常滑甕		3面 構成土出土遺物	
5. 1面全景(東から)		図版13	388
6. 2面全景(西から)		3面 構成土出土遺物	
7. 2面全景(東から)		図版14	389
図版2	377	3面 構成土出土遺物	
1面 遺構・構成土出土遺物		図版15	390
2面 遺構出土遺物(1)		4面 遺構出土遺物	
図版3	378	図版16	391
2面 遺構出土遺物(1)(2)		1. 4面全景(西から)	
図版4	379	2. 4面全景(東から)	
2面 遺構出土遺物(3)		3. 5面全景(西から)	
図版5	380	4. 5面全景(東から)	
2面 出土遺物		5. 5面かわらけ溜まり	
図版6	381	6. 5面かわらけ溜まり	
2面 構成土出土遺物		図版17	392
図版7	382	4面 溝状遺構2出土遺物	
2面 構成土出土遺物		4面 出土遺物	
図版8	383	図版18	393
2面 構成土出土遺物		4面 構成土出土遺物	
図版9	384	5面 かわらけ溜り出土遺物	
1. 2面土坑4		図版19	394
2. 調査区西壁		5面 かわらけ溜り出土遺物	
3. 3面全景(西から)		図版20	395
4. 3面全景(東から)		5面 かわらけ溜り出土遺物	
5. 2面出土女瓦		図版21	396
6. 2面出土土製品		5面 かわらけ溜り出土遺物	
7. 3面井戸		5面 出土遺物	
8. 3面井戸		5面 遺構出土遺物	
図版10	385		
3面 井戸出土遺物			



番号	遺跡名	地番	発掘年	報告書	発行年
①	本調査地点 甘縄神社遺跡群(No.177)	長谷一丁目227番24地点	2006年3月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29	2013年3月
2	甘縄神社遺跡群(No.177)	長谷一丁目227番25地点	2003年6月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1	2007年3月
3	甘縄神社遺跡群(No.177) 伝 安達泰盛邸跡	長谷一丁目227番地点	1978年1月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査年報1	1983年3月
4	甘縄神社遺跡群(No.177)	長谷一丁目236番1地点	1991年2月	神奈川県埋蔵文化財調査報告34-No.129	1992年4月
5	甘縄神社遺跡群(No.177)	長谷一丁目271番10地点	1992年12月	甘縄神社遺跡群発掘調査報告書 鎌倉市長谷一丁目271番10	1995年7月
6	甘縄神社遺跡群(No.177)	長谷一丁目262番14外地点	2010年4月	未報告	
7	高徳院周辺遺跡(No.327)	長谷一丁目290番1地点	1988年10月	長谷一丁目290-1地点遺跡 高徳院周辺遺跡群内、グラントフォルム鎌倉 建設に伴う中世遺跡の発掘調査報告書	1989年12月
8	長谷小路周辺遺跡(No.236)	長谷一丁目284番1地点	1987年5月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4	1988年3月
9	長谷小路周辺遺跡(No.236)	長谷一丁目33番3地点	1997年9月	長谷小路周辺遺跡13 長谷1-33-3地点 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2	1998年8月
10	長谷観音堂周辺遺跡(No.296)	長谷三丁目39番4地点	1993年10月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-2	1995年3月
11	長谷観音堂周辺遺跡(No.296)	長谷三丁目41番イ地点	1992年4月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2	1994年3月
12	長谷小路周辺遺跡(No.236)	由比ガ浜三丁目206番6外	2008年5月	未報告	
13	長谷小路周辺遺跡(No.236)	長谷二丁目252番1地点	1989年7月	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7	1991年3月
14	由比ガ浜南遺跡(No.315)	長谷二丁目122番9、10地点	1989年1月	神奈川県埋蔵文化財調査報告32-No.175	1990年3月

図1 調査地点と周辺の遺跡

第一章 調査地点の歴史的環境

第1節 位置と歴史的環境

調査地は鎌倉市長谷一丁目227番24に所在する。江ノ島電鉄の長谷駅から大仏方面に進み長谷観音前交差点を下馬方面、東に曲がり300m程行くと文学館入口交差点がある。この交差点を文学館に向かい左手に折れた約100m先、文学館入口の脇に位置する。

調査地の南約500mには相模湾に流れ込む稻瀬川の河口、由比ヶ浜が広がり、かつての砂丘地帯の裏側に位置していると考えられる。遺跡名の甘縄神社遺跡群(県台帳NO.177)の名称は隣接する甘縄神明神社の俗称「甘縄神社」に由来するものである。

甘縄神明神社の祭神は天照大神・配祀倉稻魂命・伊邪那美命・武甕槌命・菅原道真命で、例祭は9月14日。元村社、長谷区の氏神社。『相州鎌倉郡御輿山甘縄寺神明宮縁起略』では、和銅三(710)年八月、行基の創設と伝えられる。

源頼義が相模守として下向した時、平直方の女を娶り八幡太郎義家の誕生を祈り、この地で誕生したと伝えられる古社で、この故事から源頼朝・政子の参拝など、甘縄神社、甘縄の地名は『吾妻鏡』の記載の中から41個所検索することが出来る。

甘縄神明神社は安達泰盛が守護に当たり、かつて社殿近くには安達氏代々の屋敷があったと推察される地域である。

建長三年二月大十日 「天晴る。甘縄の邊焼亡。火は地相法橋が宅より起る。戌の刻より子の一點に到るまで止まず。東は若宮大路、南は由比の濱、北は中下馬橋、西は佐々目谷なり。相模(北条)右近大夫将監時定・相模(北条)八郎時隆等が第以下數箇所災すと云々。』『吾妻鏡』

正嘉二年正月大十七日 「霽る。丑の刻、秋田城介(安達)泰盛が甘縄の宅失火す。南風しきり扇ぎ、薬師堂の後山を越えて壽福寺に到る。総門・仏殿・庫裏・方丈已下、郭内一字を残さず。餘炎、新清水寺・窟堂ならびにその邊の民屋、若宮の寶藏、同別當坊等を焼失す。』『吾妻鏡』

この文に記述された範囲全てを含むとは思われないが、佐々目から若宮大路近くまでを含む広範囲な地域を「甘縄」と呼んでいたと読みとくことができる。このことから、現在の甘縄の地域は、神明神社付近の極狭い地域をさす呼称となっているが、かつての「甘縄」の範囲は、現在の長谷から佐々目・中下馬・JR鎌倉駅付近までを含む広い範囲を指していたと思われる。

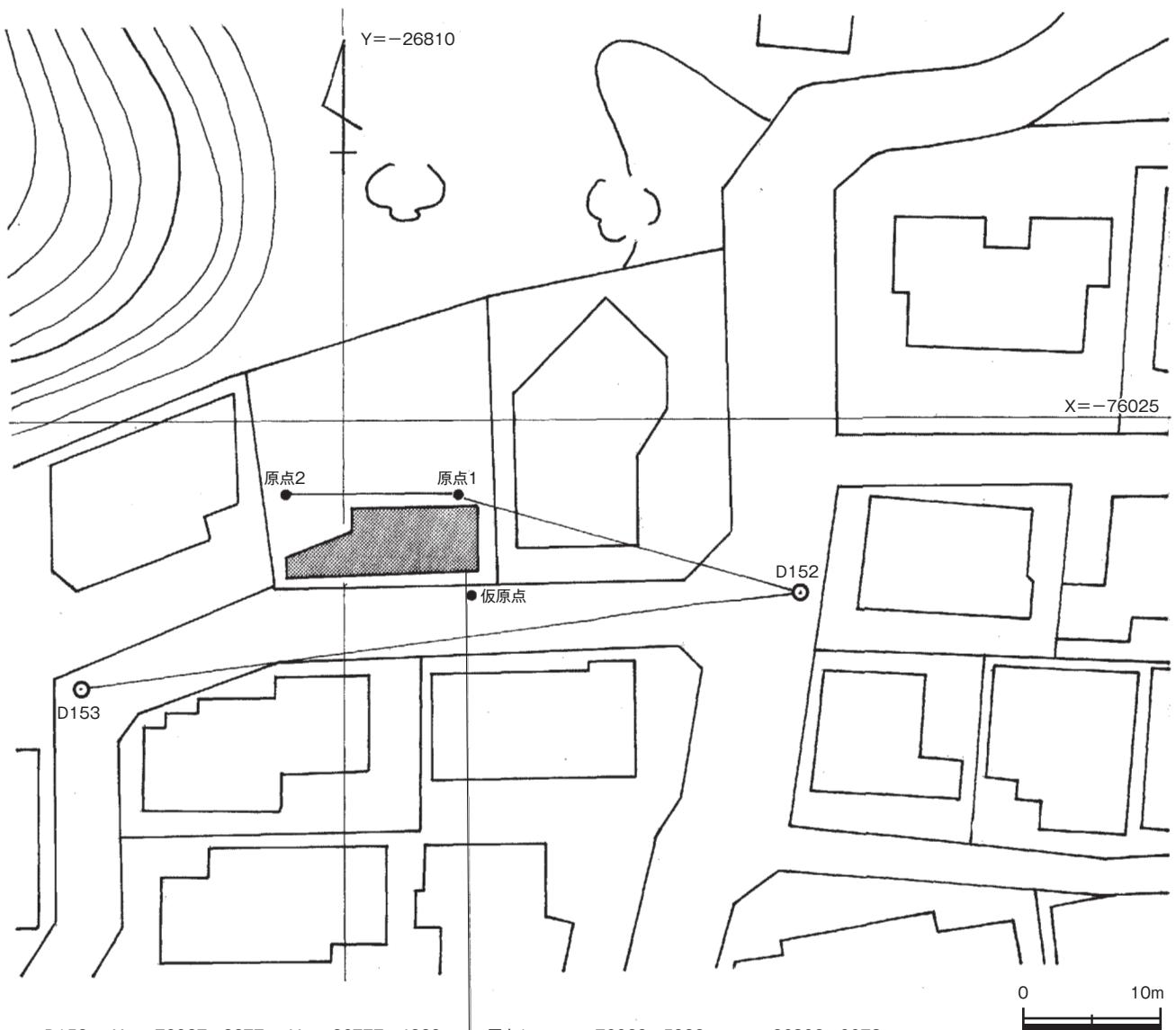
第2節 『吾妻鏡』中から拾える調査地関係の記載

①甘縄神明神社に関係した記載

文治二年 丙午

正月二日 辛巳 暮れに及びて雪ふる。二品ならびに御臺所、甘縄神明宮に御参。御還向の便路をもつて、簾九朗盛長が家に入御すと云々

十月廿四日 丁酉 甘縄神明の寶殿に修理を加へらる。今日四面の荒垣ならびに鳥居を立つ。簾九朗盛長これを沙汰す。二品監臨したまふ。小山五郎宗政・同七郎朝光・千葉小太郎胤正・佐々木三郎盛



D152 X=-76037, 3277 Y=-26777, 4239
 D153 X=-76043, 8786 Y=-26830, 5525
 仮原点 X=-76037, 3391 Y=-26801, 1443

原点1 x=-76029, 5932 y=-26802, 0078
 原点2 x=-76029, 5924 y=-26815, 0072
 レベル三級基準点(5301) L=6,940m

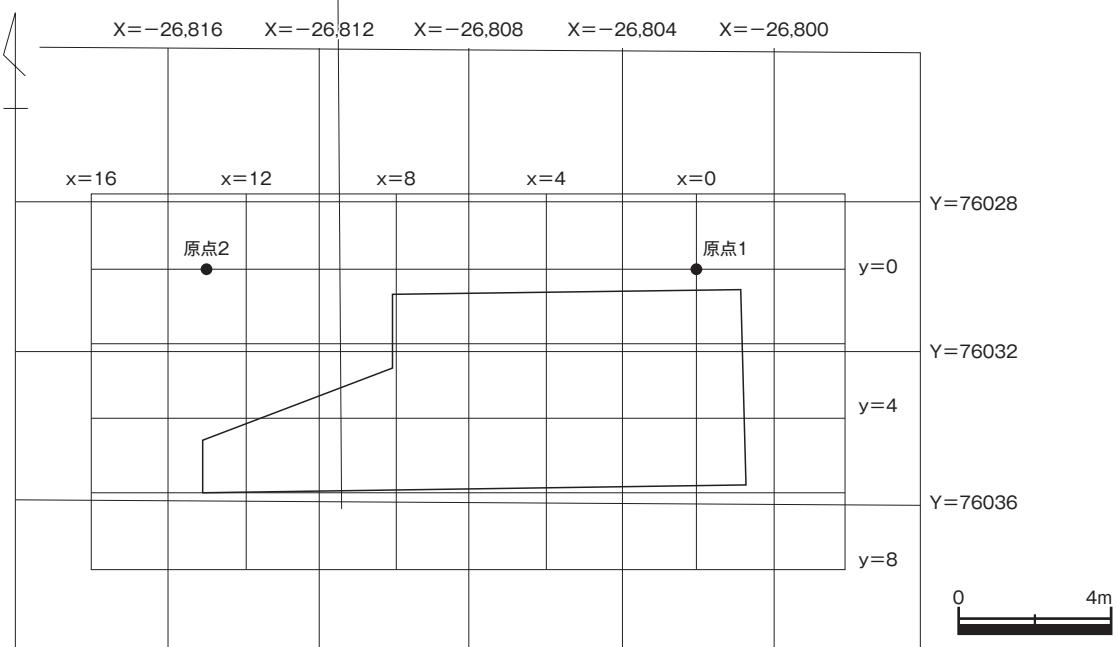


図2 調査区の位置とグリッド設定図

綱・梶原刑部丞朝景・同兵衛尉景定等御共にあり。

文治五年 巳酉

十月十七日 癸卯 御臺所、鶴岡宮ならびに甘繩神明に御参詣。これ報賽の御神拝なり。

建長五年 甲寅

正月大四日 丙寅 甘繩宮・御靈社に御参幣。知家御使たり。

六月大廿六日 甲寅 未明、將軍家、甘繩宮に御参。これ伊勢の別宮なり。

閏八月廿二日 巳卯 將軍家、甘繩宮伊勢の別宮。に参らる。還向の時をもつて簾九郎盛長が家に入御すと云々。

②甘繩の地名に関係した記載

治承四年 庚子

十二月廿日 戊戌 今日、御成始の儀。簾九郎盛長の甘繩の家に入御。盛長、御馬一疋を奉る。佐々木三郎盛綱これを引くと云々。

養和二年 壬戌 五月廿七日壽永元年となす。

正月大三日 甲戌 武衛御成始として、簾九郎盛長が甘繩の家に渡御す。佐々木四郎高綱、御調度を懸けて御駕の傍にあり。足利冠者(義兼)・北条殿(時政)・畠山次郎重忠・三浦介義澄・和田小太郎義盛以下御後に列すと云々。

十二月大七日 癸卯 夜深く人定の後、武衛鶴岳に御参。佐々木三郎盛綱・和田次郎義茂等のほか御共に侯する人なし。しかうして拝殿において御念誦あり。宮寺の承仕法師榮光咎め來りて云はく、君の御座に著するは誰人ぞや。早く退去すべしと云々。武衛御感の餘りに御前に召し出し、甘繩の邊の田一町を賜ふ。

元暦二年 乙巳 八月十四日文治元年となす。

八月廿八日 丁丑 甘繩の邊の土民字は所司二郎。去夜困の上において立ちながら頓死す。人舉りてこれを見る。家の輩、群衆の者に語りて云はく、半更に及びて、戸を叩きてこの男の名字を喚ぶ者あり。この男答へてすなわち戸を開くの刻、再び語らずしてやや久しう。これを怪しみ、指燭を取りて見るのところ、すでに死門に入ると云々。

文治二年 丙午

六月十日 丙辰 晩頭に甚雨雷鳴す。今日丹後内侍、甘繩の家において病惱す。二品、その體を訪はしめたまはんがために、ひそかきかの所に渡御す。朝光・胤頼のほか御供に侯するの者なしと云々。

建久二年 辛亥

三月小四日 壬子 陰る。南風烈し。丑の刻、小町大路の邊失火す。江間殿(義時)・相模守(大内惟義)・村上判官代(基國)・比企右衛門尉(能員)・同簾内(朝宗)・佐々木三郎(盛綱)・昌寛法橋・新田四郎(忠常)・工藤小次郎(行光)・佐貫四郎(廣綱)已下の人屋敷十字焼亡す。餘炎飛ぶがごとくにして鶴岡の馬場本の塔婆に移る。この間幕府同じく災す。すなわちまた若宮の神殿・廻廊・經所等ことごとくもつて灰燼と化す。供僧の宿坊等少々、同じくこの災を遁れずと云々。およそ邦房が言、掌を指すがごときか。寅の刻、簾九郎盛長(安達)が甘繩の宅に入御。炎上の事によつてなり。

七月大廿八日 甲戌 寝殿・對屋・御廁等造華の間、今日御移徙の義なり。亥の刻に及びて、簾九郎盛長が甘繩の家より、新御亭に入御。武藏守(大内義信)・參河守(範頼)・上総介(足利義兼)・伊豆守(山名義範)・越後守(安田義資)・大和守(重弘)・千葉介(常胤)・小山左衛門尉(朝政)・三浦介(義澄)・

畠山二郎(重忠)・八田右衛門尉(知家)・同太郎左衛門尉(知重)・土屋三郎(宗遠)・梶原平三(景時)・和田左衛門尉(義盛)等供奉す。梶原左衛門尉(景季)御剣を役す。

橋右馬允公長御調度を懸く。河勾七郎(政頼)御甲を著く。隨兵十六人。おののおの騎馬。

先陣

三浦左衛門尉義連・長江太郎明義・小野寺太郎道綱・比企四郎右衛門尉能員

千葉四郎胤信・葛西三郎清重・小山五郎宗政・梶原三郎兵衛尉景茂

後陣

江間四郎(義時)殿・修理亮(開瀬)義盛・村上左衛門尉頼時・里見太郎義成

工藤左衛門尉祐経・狩野五郎宣安・伊澤五郎信光・阿佐利冠者長義

建久三年

十一月五日 甲戌 卯の刻、新誕の若公御行始成り。簾九郎(安達)盛長が甘繩の家に入御。御輿を用ひらる。女房大貳局・阿波局等これを扶持してまつる。供奉人は相模次郎・信濃三郎(南部光行)・小山三郎・三浦兵衛尉(義村)・梶原源太(景季)左衛門尉・下河邊四郎(政義)・佐々木三郎(盛綱)等なり。終日おわします。供奉人等の中に獻盃あり。盛長御剣を獻ず。また御共の男女、同じく贈物あり。女房二人、おののおの小袖一領、相模次郎以下おののおの色革一枚なり。亥の刻、還御と云々。

建久四年 癸丑

七月大二日 丙寅 武藏守(大内)義信、養子の僧律師と號す。を召し進す。去夜參著す。これ曾我十朗祐成が弟なり。日來越後國久我窮山にある間、參上今に延引すと云々。しかるに今日梶首せらるべきの由を聞き、甘繩の邊において、念佛読経の後自殺すと云々。景時この旨を啓す。將軍家ははなはだ悔い歎かしめたまふ。もとより誅すべきの志にあらず。ただ兄に同意せしむか否か、召し問はれるがためばかりなりと云々。

建久五年 甲寅

正月大八日 庚午 將軍家、簾九郎(安達)盛長が甘繩の家に入御す。

十二月一日 丁巳 將軍家、簾九郎(安達)盛長が甘繩の家に入御。かの奉行の上野國中の寺社は、一向に管領すべきの由、當座において仰せを蒙ると云々。

建久六年 乙卯

正月大四日 庚寅 將軍家、簾九郎(安達)盛長が甘繩の家に入御。三浦介義澄以下供奉せしむと云々。

十二月廿二日 癸酉 将軍家、簾九郎(安達)盛長が甘繩の家に入御。今夜御止宿と云々。

建久十年 己未

八月十九日 己卯 晴る。讒佞の族あり。妾女の事によつて景盛怨恨を貽すの由、これを訴へ申す。よつて小笠原彌太郎(長経)・和田三郎(朝盛)・比企三郎・中野五郎(能成)・細野四郎已以下の軍士等を石の御壺に召し聚め、景盛を誅すべきの由沙汰あり。晩に及びて、小笠原旗を揚げ、簾九郎(安達盛長)入道蓮西が甘繩の宅に赴く。この時に至りて、鎌倉中の壯士等、鉢を争ひて競ひ集まる。これによつて尼(政子)御臺所にはかにもつて盛長が宅に渡御、行光(二階堂)をもつて御使となし、羽林(頼家)に申されて云はく、幕下(頼朝)薨御の後、幾程を歷ず姫君また早世して、悲歎一にあらざるのところ、今鬪戦を好まる。これ亂世の源なり。就中に景盛はその寄あり。先人殊に憐愍せしめたまふ。罪科を聞かしめたまはば、我早く尋ね成敗すべし。事問せず誅戮を加へられれば、定めて後悔を招かしめたまはんか。もしなほ追罰せらるべくは、我まづその箭に中るべしと云々。しかる間、瀧りながら軍兵の發向を止められをはんぬ。およそ鎌倉中騒動なり。萬人恐怖せずといふことなし。廣元朝臣云はく、かのごと

きの事は先規なきにあらず。鳥羽院御寵愛の祇園の女御は、源仲宗が妻なり。しかうして仙洞に召すの後、仲宗を隠岐國に配流せらると云々。

正治二年 庚申

八月大廿一日 甲辰 宮城四郎(家業)、御使節として奥州に下向す。これ芝田次郎尋問せらるべき事あるによって、度々召に遣はすといへども、病瘡と稱して参らず。よつてこれを追討せられんがためなり。午の刻、宮城首途して、甘繩の宅を出で御所に参ず。家子三人、郎等十餘人を相具し、侍の西南の角に侯ずしばらくあって、廣元朝臣、廊根の妻戸に出で、御使を招き、事の由を召し仰す。その後退出するの刻、御馬鞍を置く。を給はる。中野五郎能成庭上に引き立つ。宮城これを給りて退出す。

建暦三年 癸酉

二月大十五日 丙戌 天霽る。千葉介成胤、法師一人を生虜り相州に進ず。これ叛逆の輩の中使なり。信濃國の住人青栗七郎が弟、阿静房安念と云々。合力の奉を望まんがために、かの司馬(成胤)が甘繩の家に向かうところに、忠直を存ずるによつて、これを召し進ずと云々。相州すなはちこの子細を上啓せらる。前大膳大夫(廣元)のごとき評議ありて、山城判官(二階堂)行村が方に渡され、その實否を糺すべきの旨仰せ出さる。よつて金窪兵衛尉行親を相副へらると云々。

五月小三日 癸卯 …前略…將軍家はなはだこれを驚かしめたまひ、防戦の事なほもつて評議せられんと擬す。時に廣元朝臣政所に侯ぜしむるの間その、召あり。しかるに凶徒路次に満つ。怖畏なきにあらず。警護の武士を賜りて参上すべきの由、これを申すによつて、軍士等を遣はさるるの時、廣元水干葛袴。参上するの後、御立願に及ぶ。廣元御願書を鶴岳に奉らる。この時に當りて大學助(土屋)義清、甘繩より龜谷に入り、窟堂の前の路次を経、旅御所に参ぜんと欲するのところ、若宮の赤橋の砌において、流矢の犯すところ義清命亡ふ。件の箭は北方より飛び来る。これ神鏑の由謳歌す。…後略…

貞應三年 甲申

三月小十九日 丙申 晴る。今晚より前奥州(義時)の御祈祷として、百日の泰山府君祭これを始めらる。御使は林太郎。これ殿中に表示等あるが故なり。

丑の刻、甘繩山麓以南三町餘焼亡す。千葉介胤綱が家その中にあり。

安貞三年 己丑 三月五日より寛喜元年となす。

十二月小 己未 今夜窟堂の下の邊焼亡す。時に風烈しく、餘焰飛ぶがごとし。若宮大路・甘繩等の人屋に至ると云々。

寛喜三年 癸卯

正月大廿五日 壬子 霽る。未の刻、名越の邊失火し、越後四郎時幸・町野加賀守康俊が宿所等災す。同時に甘繩の邊の人家五十餘宇焼失す。放火と云々。

十月大十九日 辛未 雨しきりに降る。二階堂の御堂の地を甘繩に改め、城太郎(安達義景)が南、千葉介が北、西山の傍を點定せらる。兩國司また巡検したまふ。今日、橘寺供養の日に相當、不吉なりと云々。よつて陰陽道の數輩これを召し決せらる。泰貞・晴茂・長重・文元一同に申さく、件の寺供養は寛治五年なり。しかうして供養と作事とはおのとの別事なり。はなはだ憚りあるべからずと云々。また斎藤兵衛入道淨圓申して云はく、辛未の日不吉の所見ありと云々。…後略…

寛喜四年 壬辰

二月大十四日 乙丑 甘繩の邊の民居焼亡す。

文暦二年 乙未

正月小廿一日 乙卯 御願の五大堂建立の事、相州(時房)・武州(泰時)度々巡検して、鎌倉中の勝

地を選ばる。去年城太郎(義景)が甘縄の地を定めらるといえども、なほ相叶はず、すこぶる思しめし煩ふところ、幕府の鬼門の方に相當りてこの地あり。毛利藏人大夫入道西阿が領なり。御祈祷相應の所たるによつて、これを點ぜらる。すなわち地を引かれをはんぬ。よつて今日まづ總門ばかりこれを建てる。相州・武州・大膳權大夫(師員)以下の數輩相向はる。伊賀式部入道光西・清(清原)判官季氏等奉行たり。

嘉禎四年 戊戌

正月廿日 丁卯 御弓始なり。今年は御物忌たるべきによつて、この儀あるべかざるの由、窮冬定めらるといへども、故にこれを遂げらる。射手の事、昨夕にはかに御前において、始めのごとく義村に仰せ合せらる。催促のために日記(風)を陸奥太郎(實時)に下さると云々。

射手

- 一番 小笠原六郎(時長) 藤澤四郎(清親)
- 二番 横溝六郎(義行) 松岡四郎(時家)
- 三番 岡邊左衛門四郎 本間次郎(信忠)
- 四番 三浦又太郎(氏村)左衛門尉 秋葉小三郎
- 五番 下河邊(行光)右衛門尉 山田五郎

午の刻、將軍家御上洛あるべきによつて、御出門のために秋田城介義景が甘縄の家に入御、御輿に召さる。御立鳥帽子、御直垂なり。供奉人の行粧、同じくその體を模したてまつると云々。夜に入りて左京兆ならびに室家、駿河守有時の第に御出門。

仁治二年 辛丑

三月大十七日 乙巳 天霽る。丑の剣、巽の風烈し。前濱の邊の人居より失火起り、甘縄の山麓を限りて數百宇災す。

千葉介(時胤)が舊宅、秋田城介(安達義景)・伯耆前司(葛西清親)等が家その中に有りと云々。

仁治四年 癸卯

正月大五日 壬午 天霽る。將軍家、秋田城介(義景)が甘縄の家に入御す。御車を用ひらる。駿河守(有時)・遠江馬助・備前守(時長)以下供奉す。隱岐(佐々木)太郎左衛門尉政義御調度を懸く。御臺所(家行女)・乙若君おのの御輿。前右馬權頭(政村)の亭に入御す。若君(頼嗣)ならびに御母儀(親能女)二棟の御方と號す。皆御輿。若狭前司(三浦泰村)が家に渡御す。これ皆御行始の儀なり。面々に御儲はなはだ結構す。御引出物、風流に及ぶと云々。

寛元二年 甲寅

六月小十三日 壬午 將軍家御元服御任官の後、吉書始の儀あり。今日御行始の儀あり。秋田城介義景が甘縄の家に入御したまふ。前大納言家(頼経)、御見物のために御車を小町口の西に立てらる。供奉人布衣、上括。

その砌に侯ず。岡崎僧正道慶同じく車を立てらると云々。未の剣、御出。行列。

まず隨兵。三騎相並ぶ。…後略…

寛元四年 丙午

五月大廿二日 己卯 天晴る。寅の剣、秋田城介(安達)義景が家中ならびに甘縄の邊騒動す。緯すでに廣々に及ぶ。

宝治元年 丁未

四月小四日 丁亥 今日、秋田城介(安達)入道覺地俗名景盛、簾九郎盛長が息。高野より下著し、

甘縄の本家にありと云々。

五月十八日 庚午 今夕光物あり。西方より東天に亘る。その光しばらく消えず。時に秋田城介義景が甘縄の家に白旗一流出現す。人これを觀ると云々。

六月大五日 丙戌 天晴る。辰の刻、小雨灑く。今晚鶏鳴以後、鎌倉中いよいよ物惣。未明左親衛、まづ萬年入道を泰村が許に遣はし、郎従等の騒動を相慎むべきの由を仰せらる。次に平左衛門盛阿(盛綱)に付けて、御書を同人に遣はさる。これすなはち世上の物惣、もし天魔の人性に入らんか、上計においては貴殿を誅伐せらるべきの構へにあらざるか。この上日來のごとく異心あるべかざるの趣なり。あまりさへ御誓言を載せ加へると云々。泰村御書を披くの時、盛阿詞をもつて和平の子細を述ぶ。泰村殊に喜悦して、また具に御返事を申すところなり。盛阿座を起つの後、泰村なほ出居にあり。妻室みづから湯漬をその前に持ち來りてこれを勧め、安堵の仰せを賀す。泰村一口これを用ゐ、すなわち反吐すと云々。ここに高野入道覺地(安達景盛)、御使を遣はさるるの旨を傳へ聞き、子息秋田城介義景・孫子九郎泰盛おの兼ねて甲冑を著す。を招き、諷詞を盡して云はく、和平の御書を若州(泰村)に遣わさるるの上は、向後かの氏族ひとり驕を窮め、ますます當家を蔑如するの時、なまじひに對揚の所在を顯さば、かへつて殃に逢ふべきの篠、置きて疑いなし。ただ運を天に任せ、今朝すべからく雌雄を決すべし。かつて後日を期するなかれてへれば、これによつて城九郎泰盛・大曾禰左衛門尉長泰・武藤左衛門尉景頼・橘薩摩十郎公義以下、一味の族、軍士を引率して甘縄の館を馳せ出づ。同門前的小路を東に行き、若宮大路中下馬橋の北に至りて、鶴岡宮寺の赤橋を打ち渡り、相構へて盛阿(平盛綱)歸參以前に、神護寺の門前において時の聲を作る。…後略…

建長三年 辛亥

正月小五日 丙辰 天霽る。二位殿(頼経室)ならびに二棟(大宮局)の御方等御行始。秋田城介義景が甘縄の弟に入御す。

二月大十日 庚子 天晴る。甘縄の邊焼亡。火は地相法橋が宅より起る。戌の刻より子の一間に到るまで止まず。東は若宮大路、南は由比の濱、北は中下馬橋、西は佐々目谷なり。相模(北条)右近大夫将監時定・相模(北条)八郎時隆等が第以下數箇所災すと云々。

五月大一日 庚申 天霽る。相州の室家の産所松下禅尼の甘縄の第。に御祈祷等を始行せらると云々。

建長五年 癸丑

九月大十四日 己丑 雨降り、雷鳴數聲。城介入道(義景)が百ヶ日の佛事、甘縄の舊宅においてこれを行ふ。導師は若宮僧正隆辨。

正嘉二年 戊午

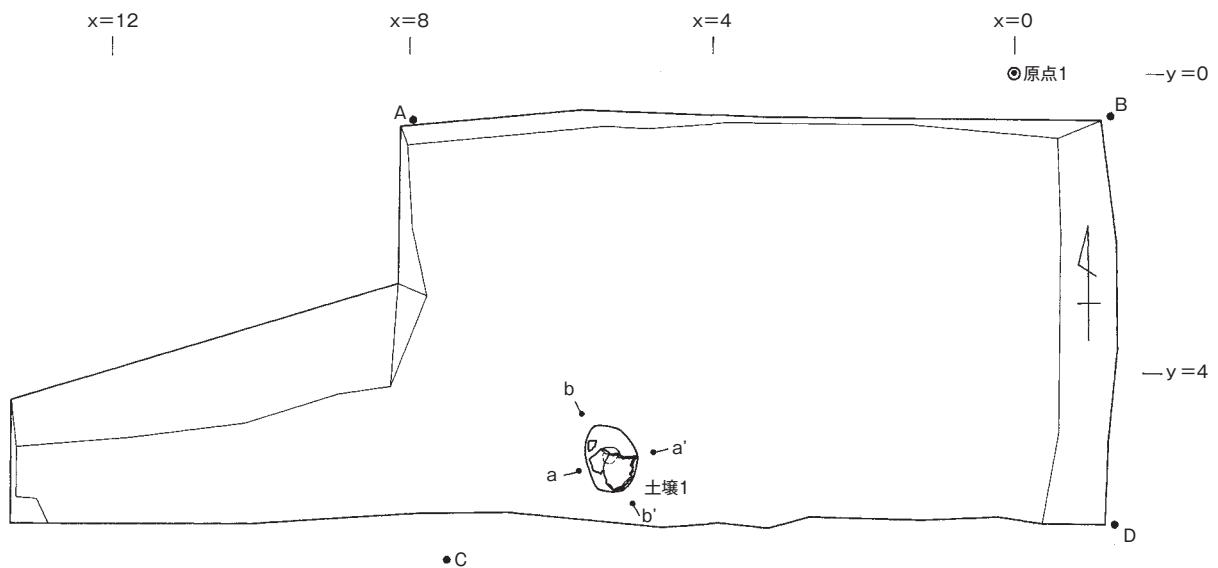
正月大十七日 丁卯 霽る。丑の刻、秋田城介(安達)泰盛が甘縄の宅失火す。南風しきり扇ぎ、薬師堂の後山を越えて壽福寺に到る。総門・仏殿・庫裏・方丈已下、郭内一字を残さず。餘炎、新清水寺・窟堂ならびにその邊の民屋、若宮の寶藏、同別當坊等を焼失す。

文應二年 辛酉 二月廿日、弘長元年となす。

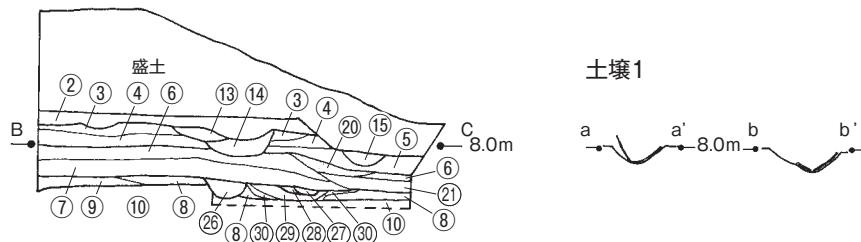
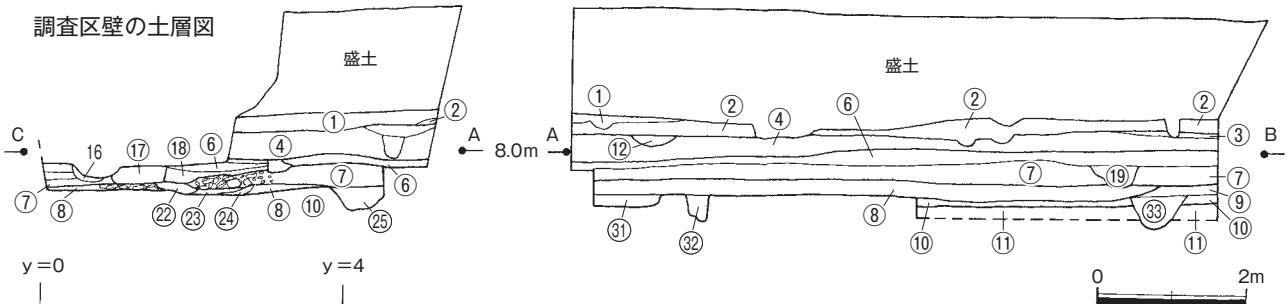
四月大廿三日 甲子 雨降る。相模(時宗)太郎殿十一歳。御嫁娶。堀内殿。女房甘縄の亭より御出の時、掃部助(押垂)範元御身固に俟す。この御祈として去ぬる廿二日より天曹地府・呪詛・靈氣等の祭これを勤行すと云々。

弘長三年 癸亥

八月大廿五日 壬申 …前略…亥の刻、甘縄に火事あり。北斗堂の邊の民居多くもつて災す。



$y = 4$ $y = 0$ $y = 8$ $x = 4$ $x = 0$



調査区壁の土層注記

① 淡茶灰色粘質土層	(第1面構成土)	⑮ 灰褐色砂質土	3~5cm大の土丹が密に入る
② 淡茶灰色粘質土層	1~3cm大の土丹地業層 (第1面構成土)	⑯ 茶褐色粘質土	5~20cm大の土丹を含む
③ 淡茶灰色砂質土層	(第2面構成土)	⑰ 灰褐色砂質土	土丹粒を少量含むが混入物は少ない (第4面 溝状2の含土)
④ 茶灰色粘質土層	土丹地業層 (第2面構成土)	㉑ 灰褐色砂質土	土丹粒・かわらけ片を含む (第4面 溝状2の含土)
⑤ 茶灰色砂質土層	頭骨大的土丹が混じる (第2面構成土)	㉒ 灰褐色砂質土	土丹粒を含む (第4面 溝状2の含土)
⑥ 土丹地業層	(第3面構成土)	㉓ 灰色砂質土	こぶし大の土丹・炭化物を含む (第4面 土壌9)
⑦ 暗茶灰色粘質土層	土丹地業層 (第3面構成土)	㉔ 茶褐色粘質土	土丹混じる (第4面 溝状2の含土)
⑧ 暗茶灰色粘質土層	炭化物多く含む (第4面構成土)	㉕ 暗灰褐色粘質土	土丹含む (第4面 溝状2の含土)
⑨ 暗茶褐色粘質土層	土丹少ない (第4面構成土)	㉖ 淡茶灰色砂質土	1~3cm大の土丹を含む
⑩ 暗茶褐色粘質土層	(第5面構成土)	㉗ 淡茶灰色砂質土	茶灰色砂質土
⑪ 中世地山		㉘ 茶灰色砂質土	10~20cm大の土丹を多く含む (第5面 土壌14)
⑫ 灰褐色砂質土	こぶし大の土丹を含む (第2面 土壌6)	㉙ 暗茶褐色粘質土	こぶし大の土丹を含む (第5面 Pit52)
⑬ 暗茶褐色砂質土	炭化物・かわらけ片を多く含む (第2面 土壌7)	㉚ 暗灰色粘質土	1~5cm大の土丹・炭化物を含む (第5面 溝状3)
⑭ 茶褐色砂質土	5cm大の土丹を含む (第2面 Pit8)		
⑮ 茶褐色砂質土	5~10cm大の土丹を含む (第2面 布堀り)		
⑯ 灰褐色砂質土	3~5cm大の土丹を含む		
⑰ 灰褐色砂質土	細かい土丹粒・炭化物を含む		

図3 第1面全測図と調査区壁の土層図及び遺構エレベーション図

第二章 調査の経過と土層

第1節 調査の経過

調査に先行して、鎌倉市教育委員会によって行われた試掘調査の結果を基に、本調査は専用住宅建設によって掘削、削平が行われる敷地内の建物建築部分の60m²に対して行われた。

調査地は南側の市道(海拔7.93m)より約2m程高い段差の上(海拔約10m)に位置している。西隣の住宅に於いて2003年6月に発掘調査が行われ、この時のデータを元にちょうさが進められた。

遺構埋没深度までの表土層は、重機を使用して掘り下げるのこととした。この掘削作業には調査員が立ち会い、重機が掘り下げる深さと掘削時に出土する遺物に対処した。

第2節 土層

現地表から遺構面(第1面)までの段差(約130cm)はすべて近代の造成による盛土。南側の市道に接している前面部分は道路面とほぼ同じ深さで遺構面(第2面)を検出した。

ベースとなる基盤層は黒褐色粘質土層・暗茶褐色粘質土層。この中世の基盤層からは古代の遺物(須恵器片・土師器片)が出土するが、山際のため流水等による流れ込みと考えられ遺構は確認されていない。このことから、古代の遺構は北の山際(かつて北側の山裾で竈を持った縦穴住居跡が検出された)や谷の奥にあるものと推察される。

調査により明らかにされた第1～5面に渡る生活面は、土丹混じりの淡茶灰色・暗茶灰色・暗茶褐色の粘質土と土丹で地業されている。

第三章 検出された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構と遺物(図3・図4)

第1面は、地表から約1.3m下の第1層目の茶灰色粘質土層を第1面とした。海拔8.4m。

a. 土壙1

調査区のほぼ中央で検出した、縦約1m、幅約65cmの土壙である。中には常滑産の甕底部が据えられていた。第1面は全体が大きく削平を受けているものと考えられ、比較的深い土壙1のみが削平を免れ検出されたものと考えられる。

遺物は、土壙1から常滑の底部片。面と構成土から、大小かわらけ、瀬戸折縁鉢片、常滑甕口縁部片、火舎、銭1枚(皇宋通宝)が出土している。

第2節 第2面の遺構と遺物(図5～図14)

第2面は、地表から約1.6m下の第3層目の淡茶灰色砂質土層を第2面とした。海拔8.2m。

a. 柱穴1～8・12

第2面では9穴の柱穴を検出した。検出した柱穴の深さが比較的浅いこと、規格性が見いだせないことから、布掘りに沿って設けられた柵列のようなものが考えられる。

柱穴1、かわらけ小4点出土、口縁部に打ち欠きが見られることから燈明皿に使用。柱穴2、かわらけ大小4点、瀬戸1点出土。柱穴3、かわらけ大小5点出土。柱穴5、常滑1点、かわらけ大小3点出土。煤が付着することから燈明皿に使用。

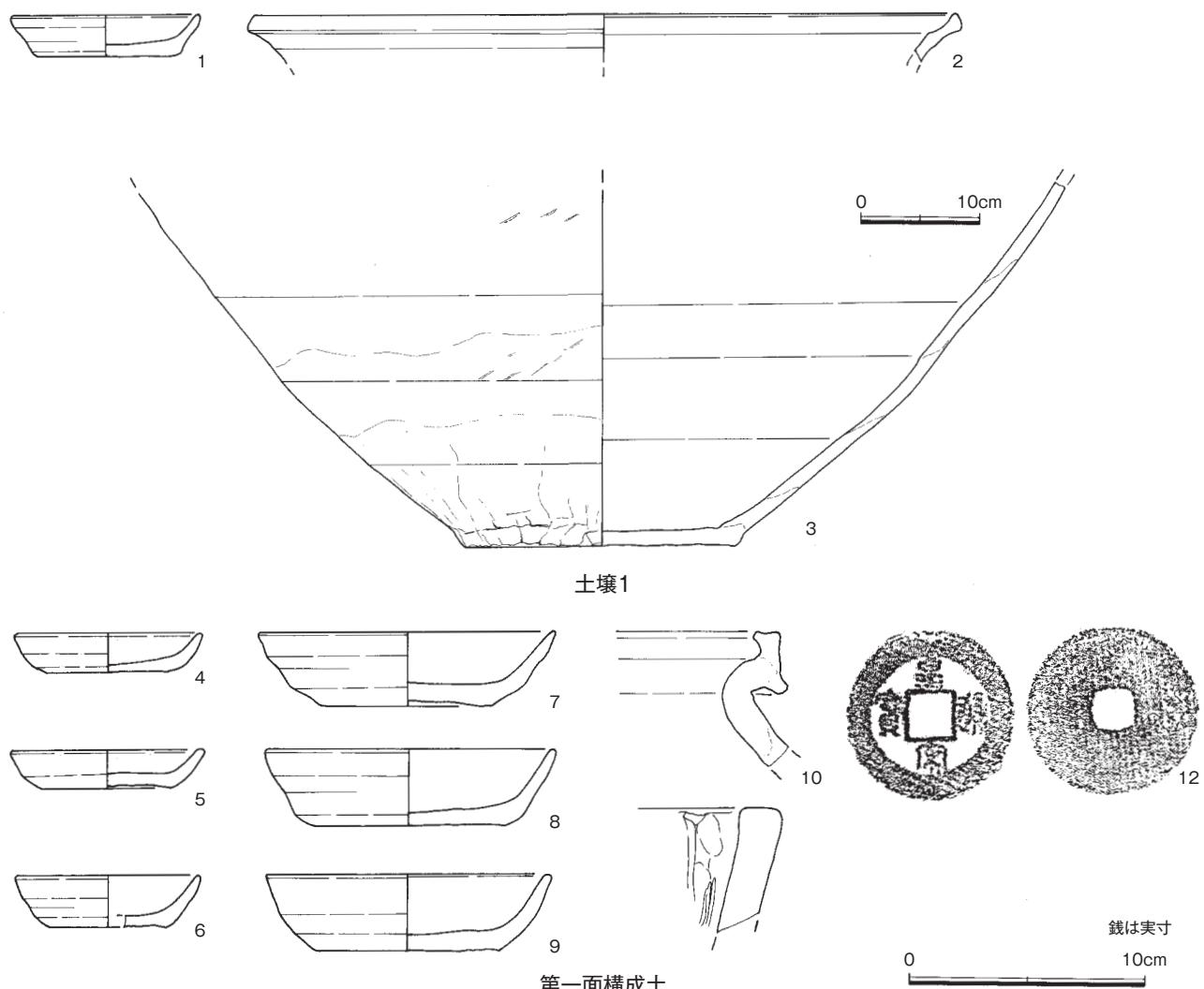


図4 第1面遺構・構成土出土遺物

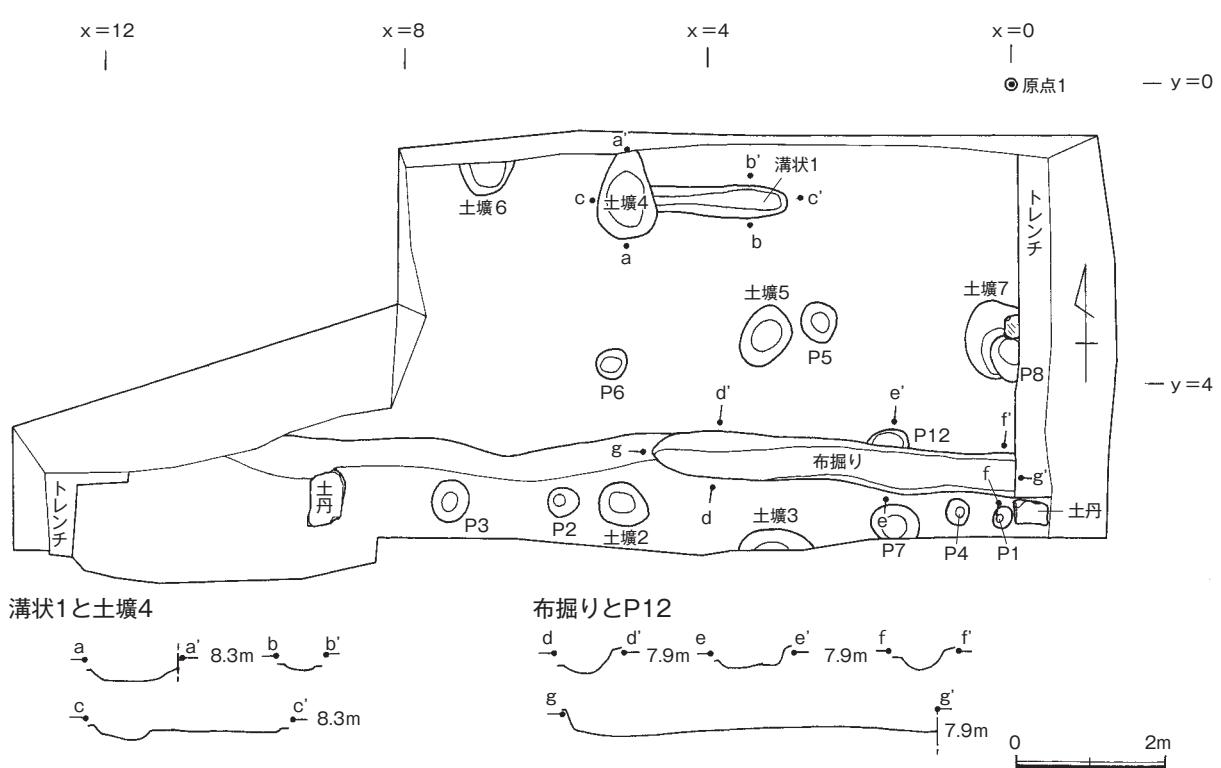


図5 第2面全測図と遺構のエレベーション図

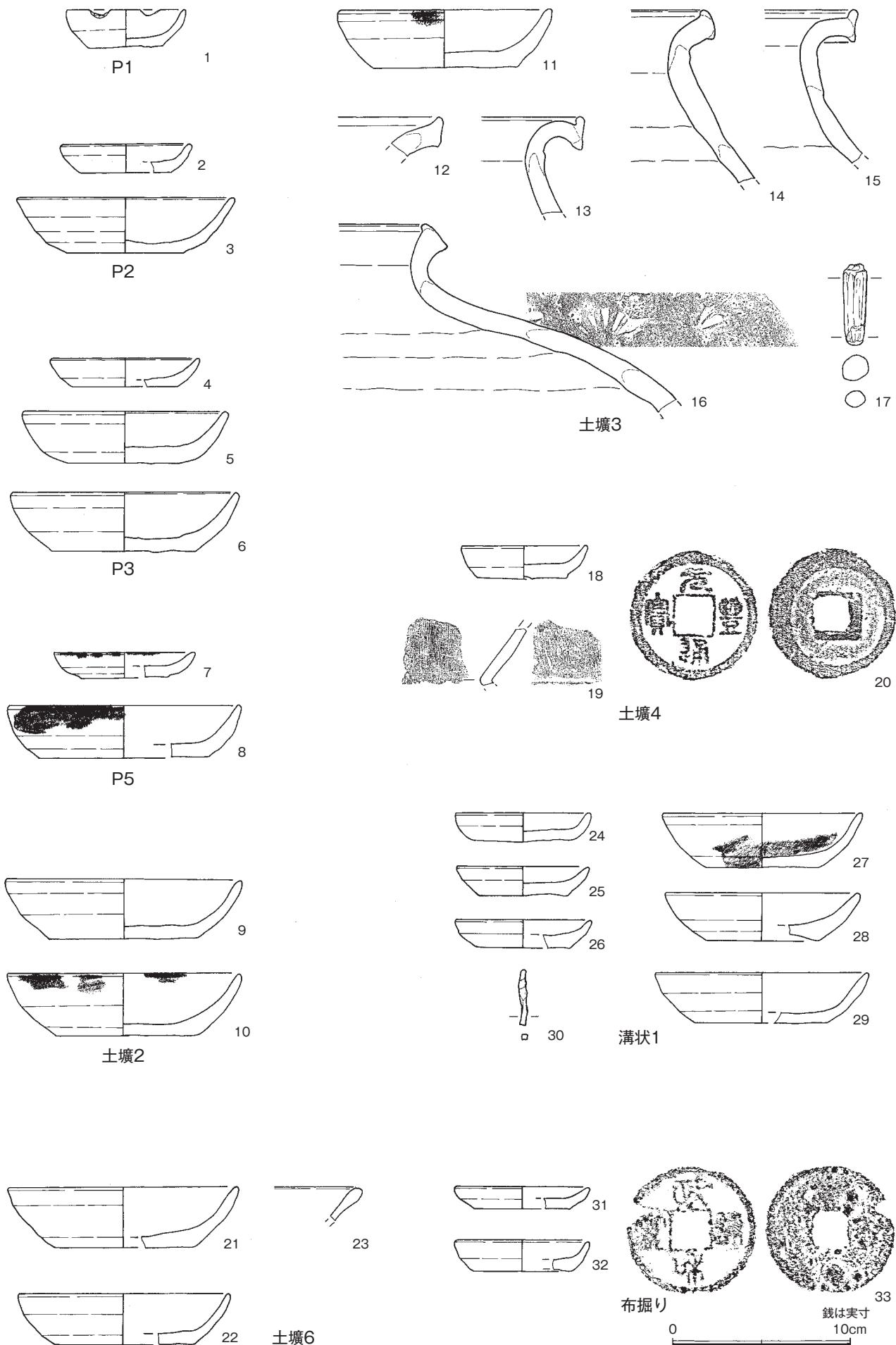


図6 第2面遺構出土遺物(1)

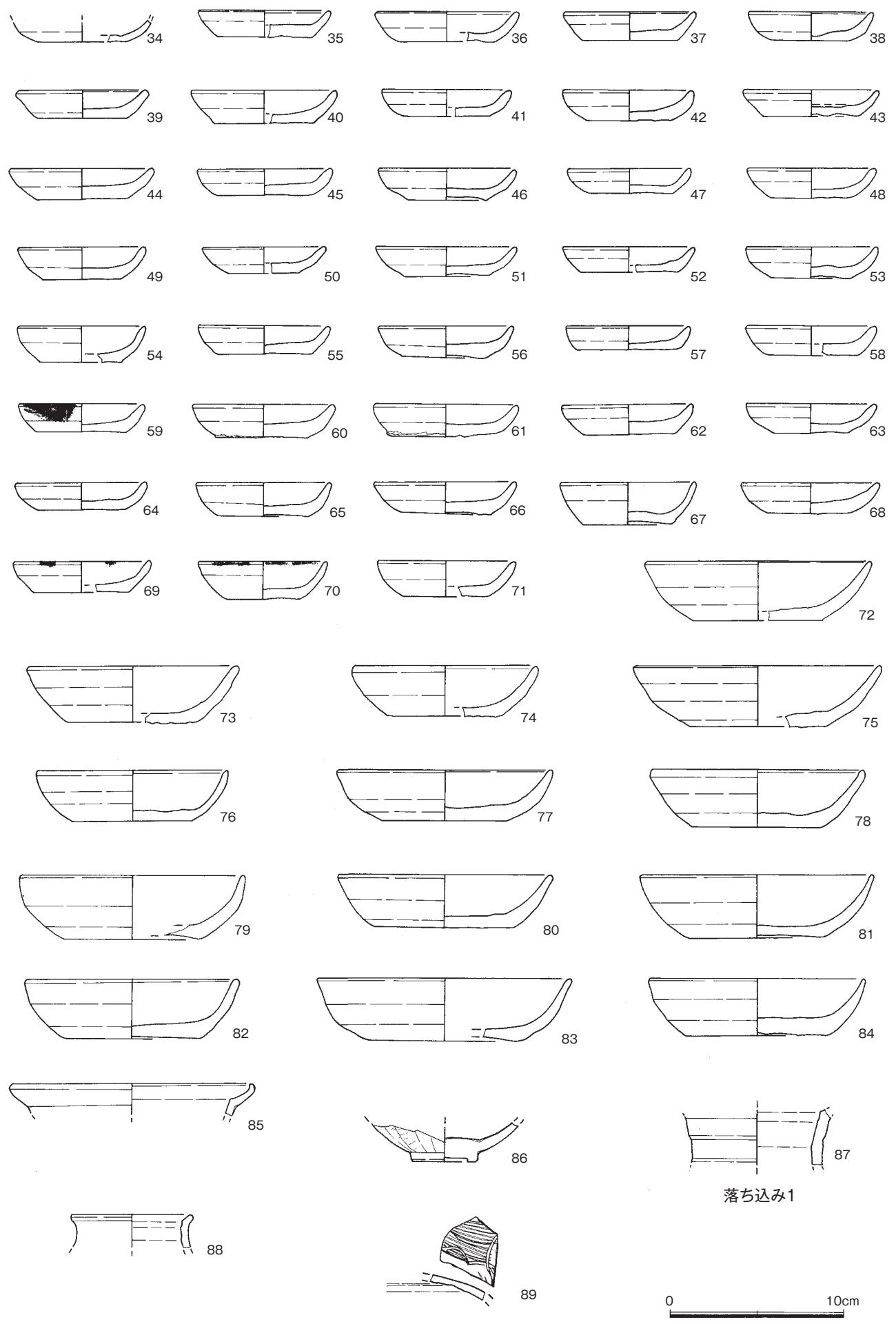


図7 第2面遺構出土遺物(2)

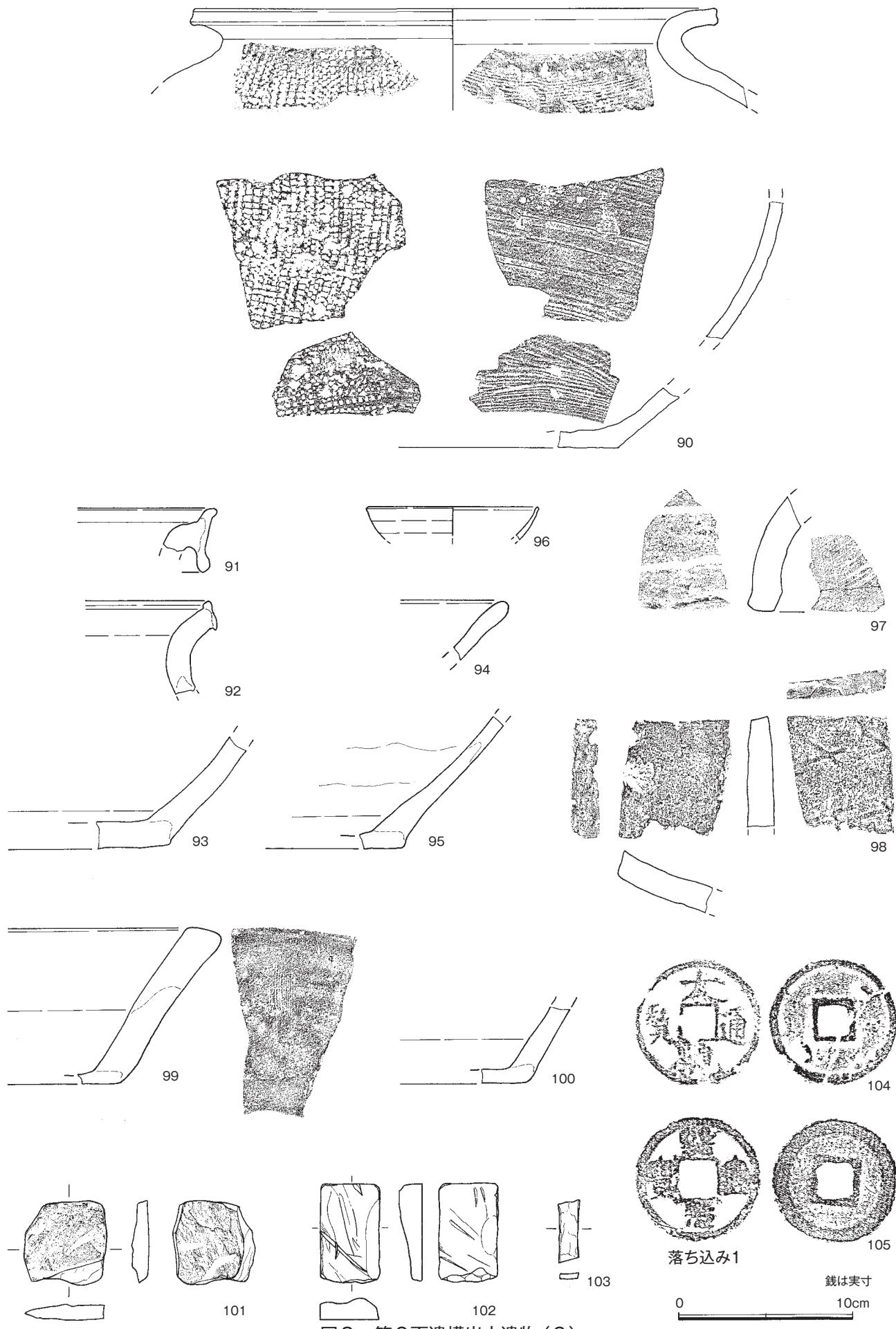


図8 第2面遺構出土遺物(3)

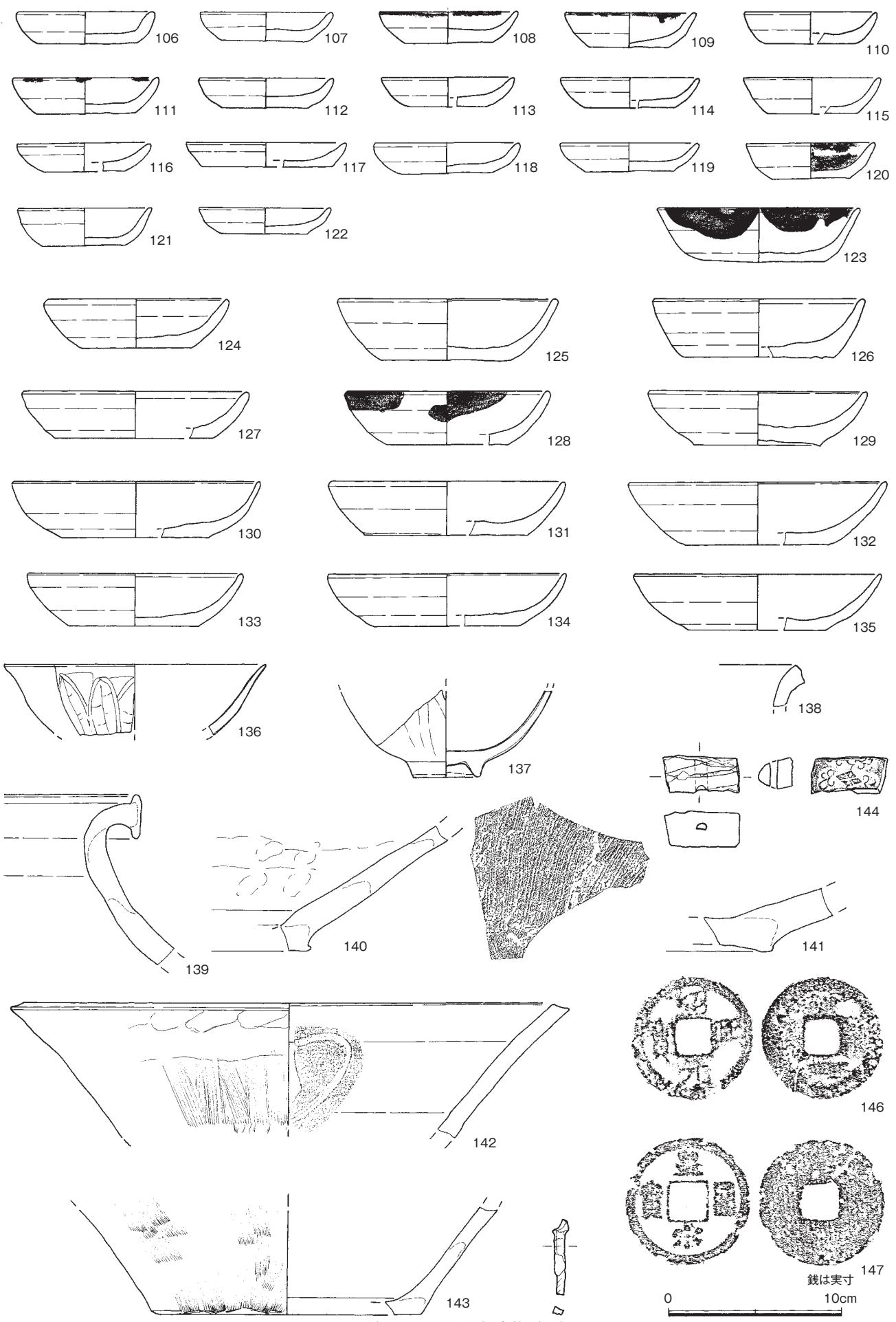


図9 第2面面上出土遺物(1)

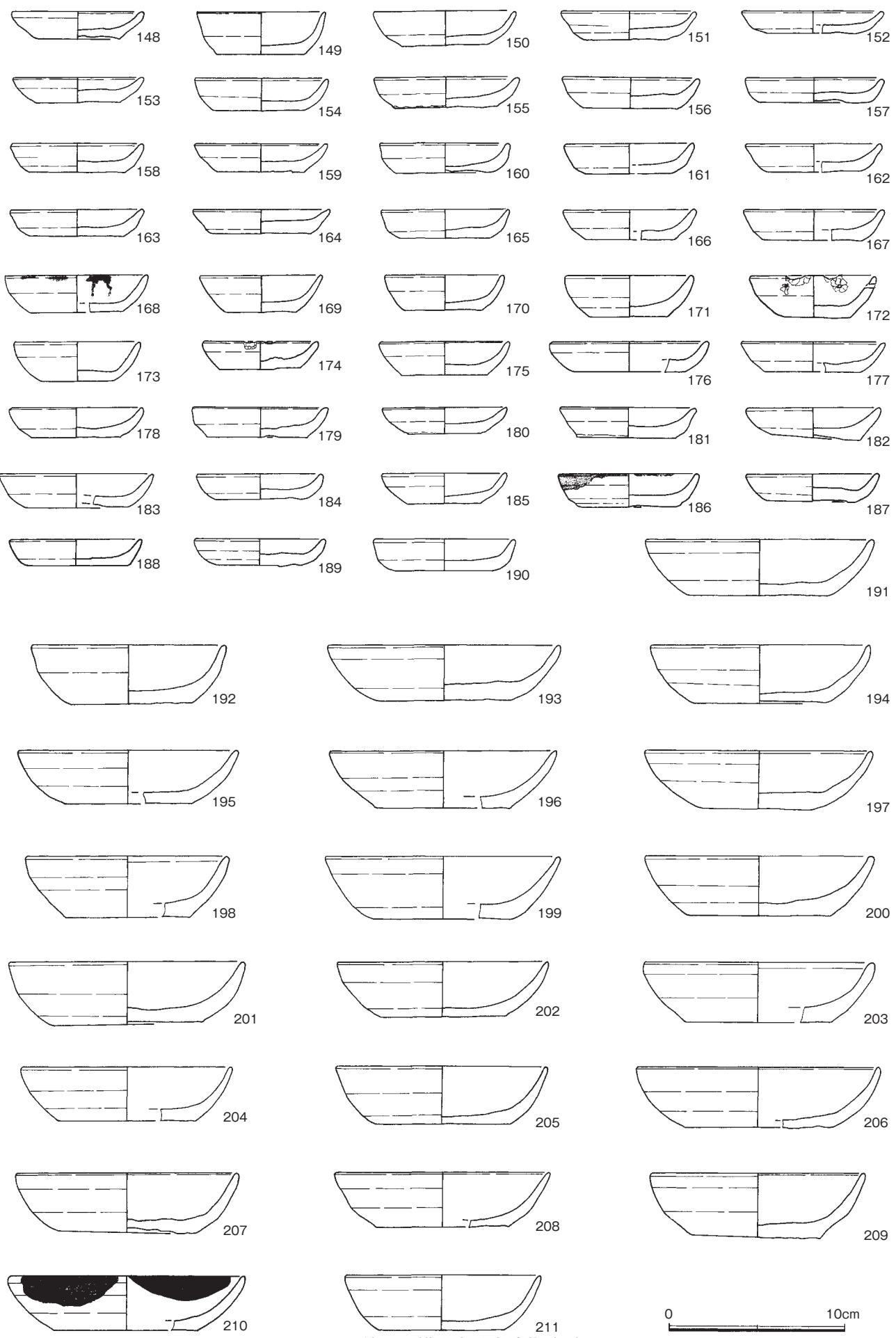


図10 第2面構成土出土遺物(1)

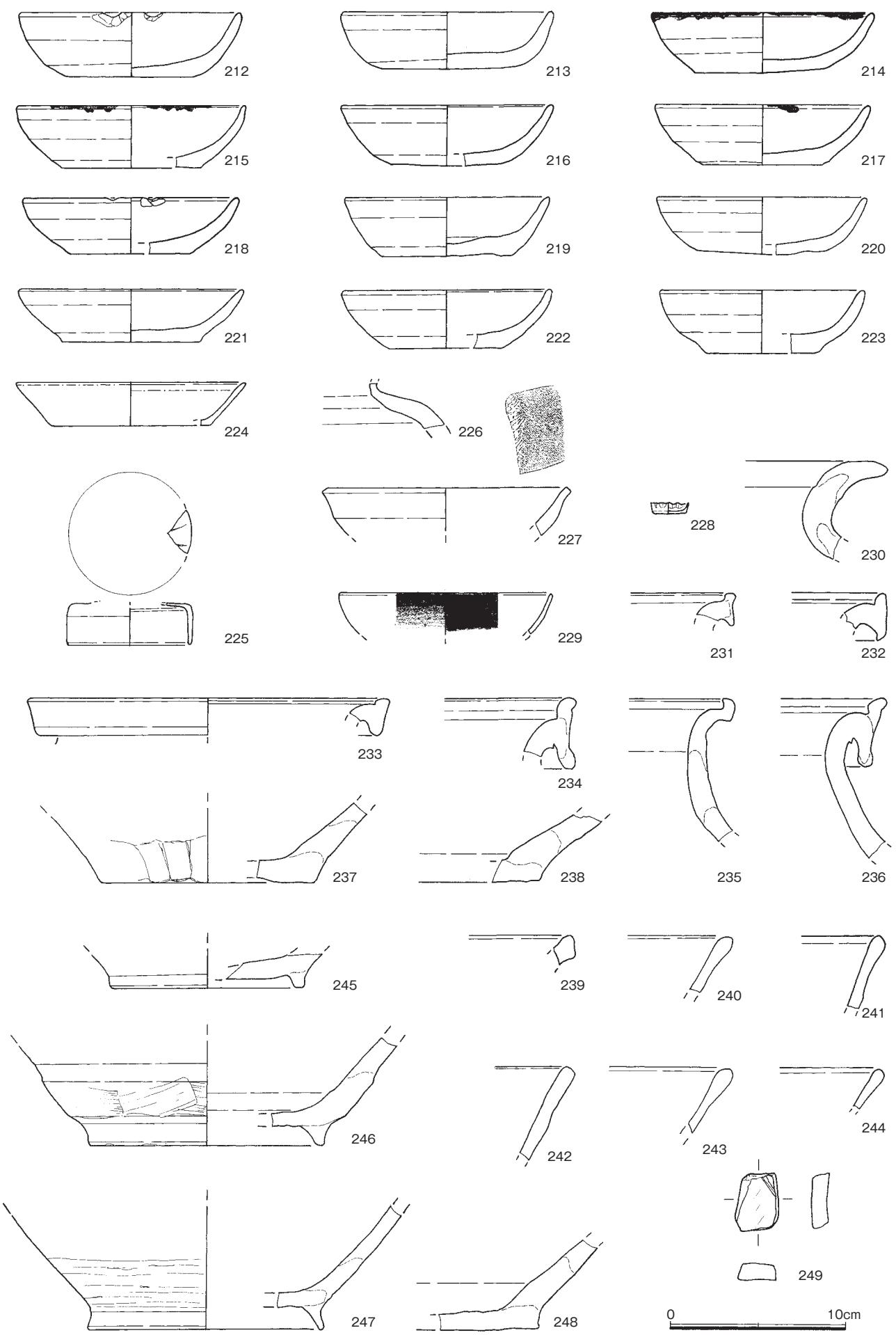


図11 第2面構成土出土遺物(2)

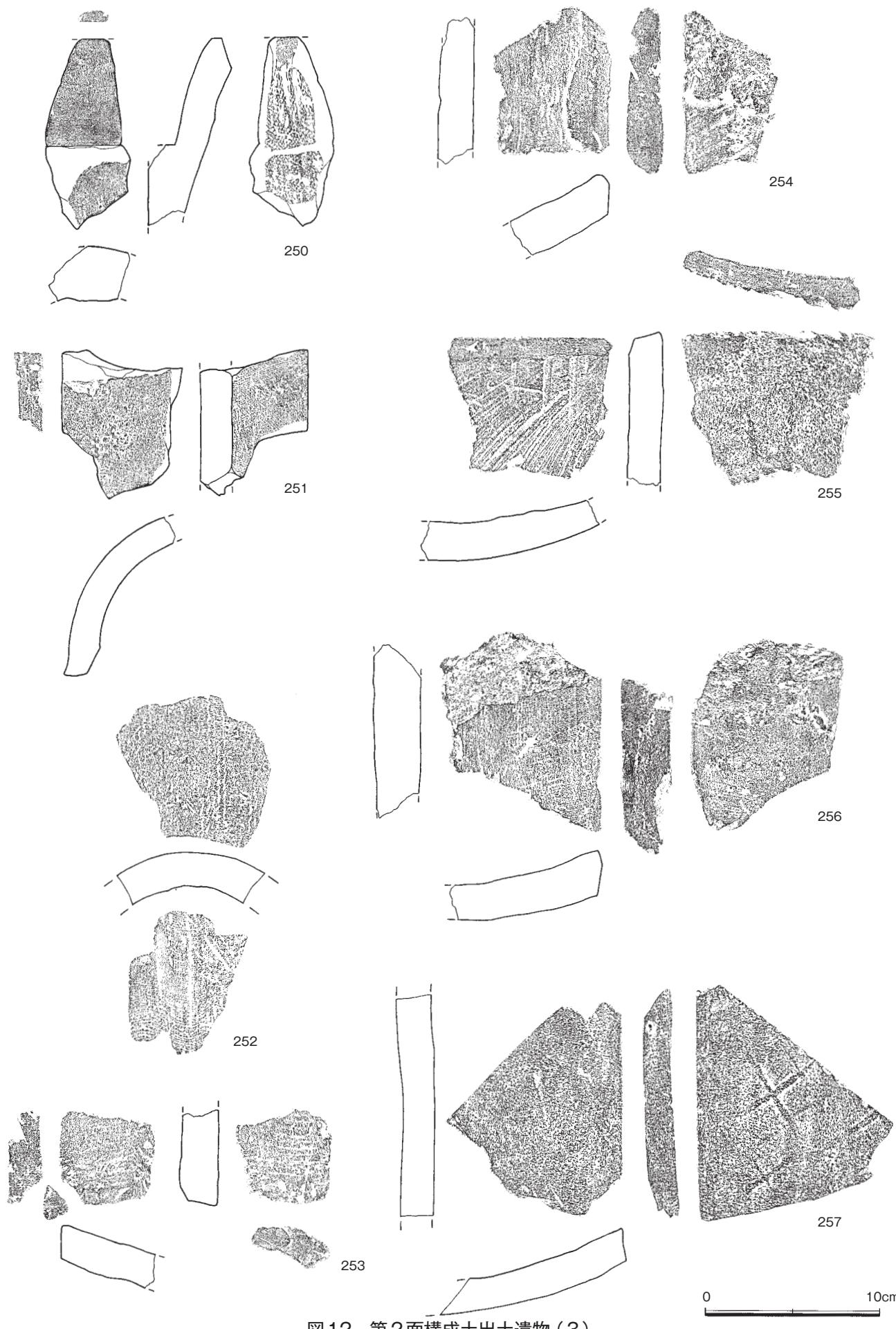


図12 第2面構成土出土遺物(3)

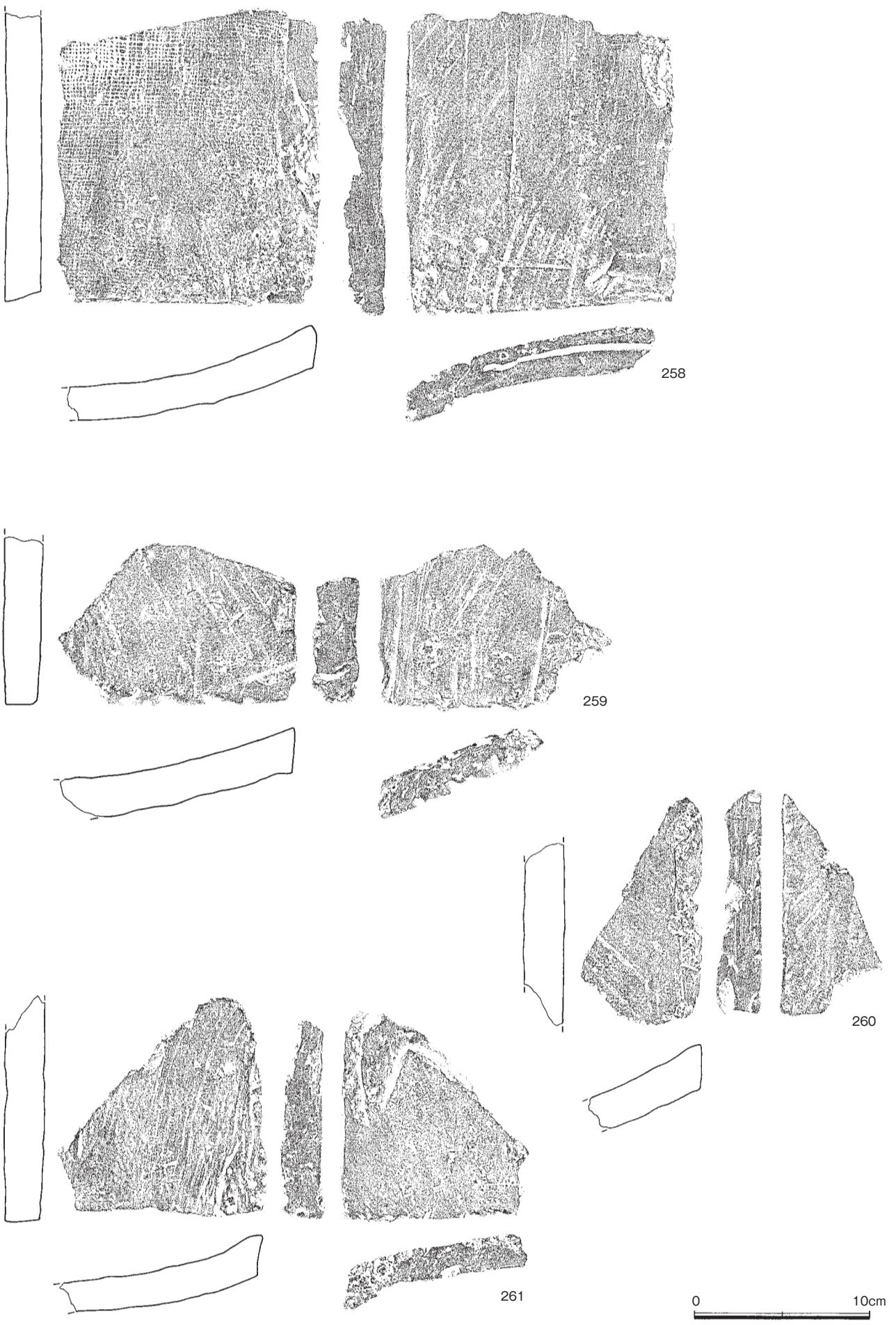
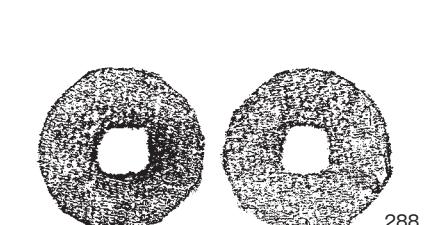
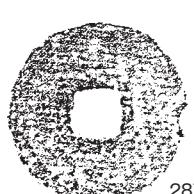
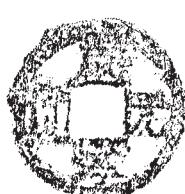
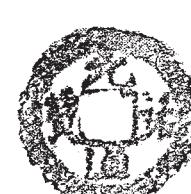
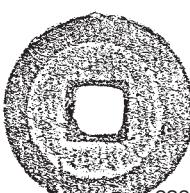
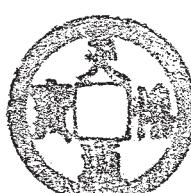
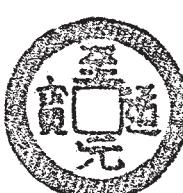
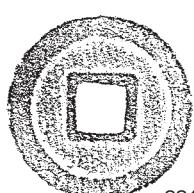
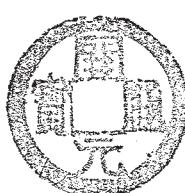
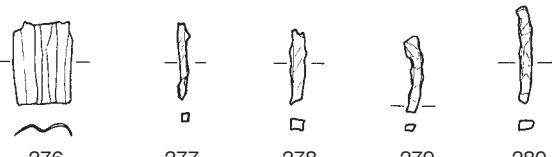
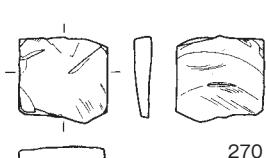
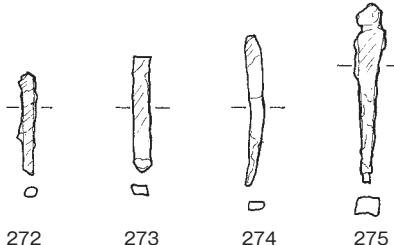
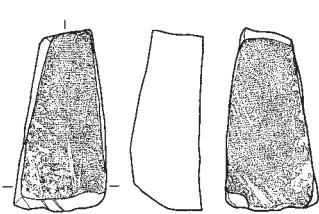
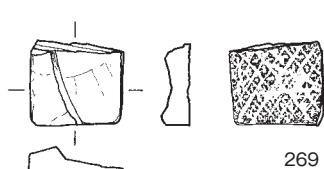
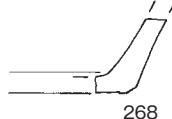
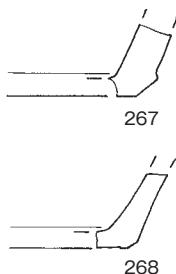
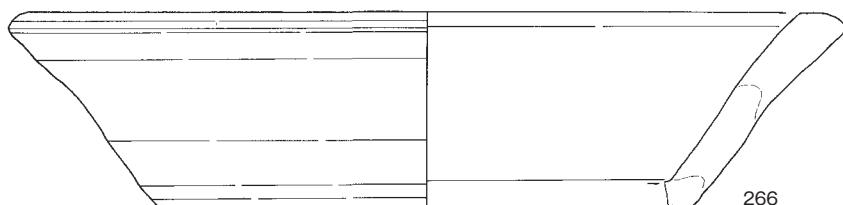
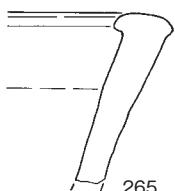
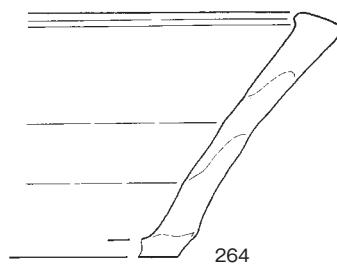
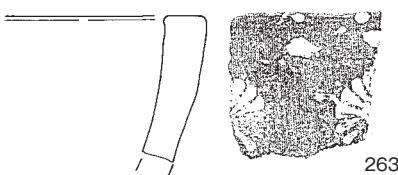
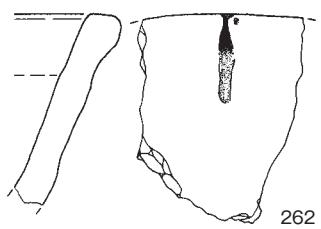


図13 第2面構成土出土遺物(4)



0
10cm

図14 第2面構成土出土遺物(5)

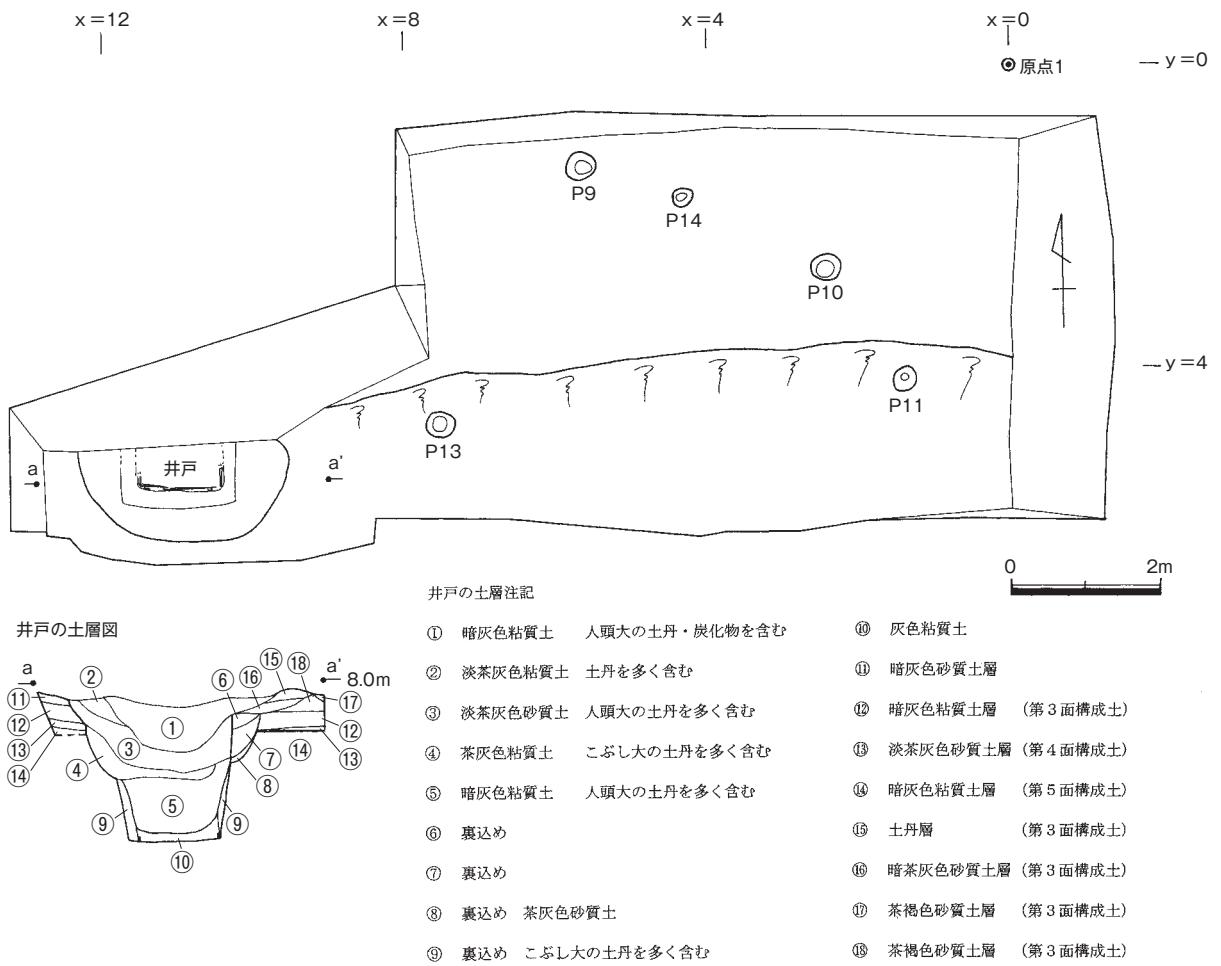


図15 第3面全測図と井戸の土層図

b. 土壙2~7

土壙2、かわらけ大小、常滑甕片1点出土。土壙3、かわらけ5点、常滑甕片21点出土。土壙4、かわらけ大小35点、常滑甕片6点、白磁1点出土。他に土師器片5点出土。土壙5、かわらけ片2点、獸骨1点出土。土壙6、かわらけ大小21点、常滑甕片2点出土。土壙7、かわらけ小1点、瀬戸1点出土。

c. 溝状1

調査区の中央北側で、東西方向に検出した長さ180cm、幅40cm程の遺構である。西側で土壙4に接していることから、何らかの関わりがあると考えられるが詳細は不明。かわらけ大小12点と鉄釘が出土。

d. 布掘り

調査地の東半分にかかる幅50cm、長さ約5mの溝を検出した。調査区の南辺とほぼ平行に穿たれていた。平坦部と斜面地を区画した溝とも考えられるが、委細不明。また溝の底面はほぼ平らで、現況から水を流した時にどちらに流れるかは不明である。かわらけ大小11点と常滑1点、銭1枚(元豊通宝)が出土。

e. 落ち込み1

布掘りの南側が大きく落ち込んで行く。落ち込みを掘り込んで行くと、柱穴や土壙が検出された。面の低いところとも考えられるが、一応遺構とした。

大小の轆轤成形のかわらけが717点、瓦器碗、今回の調査で1点だけ出土した亀山産甕(多くの破片に割れていたが1個体と数えた。)、青磁碗5点、白磁2点、青白磁5点などが出土。

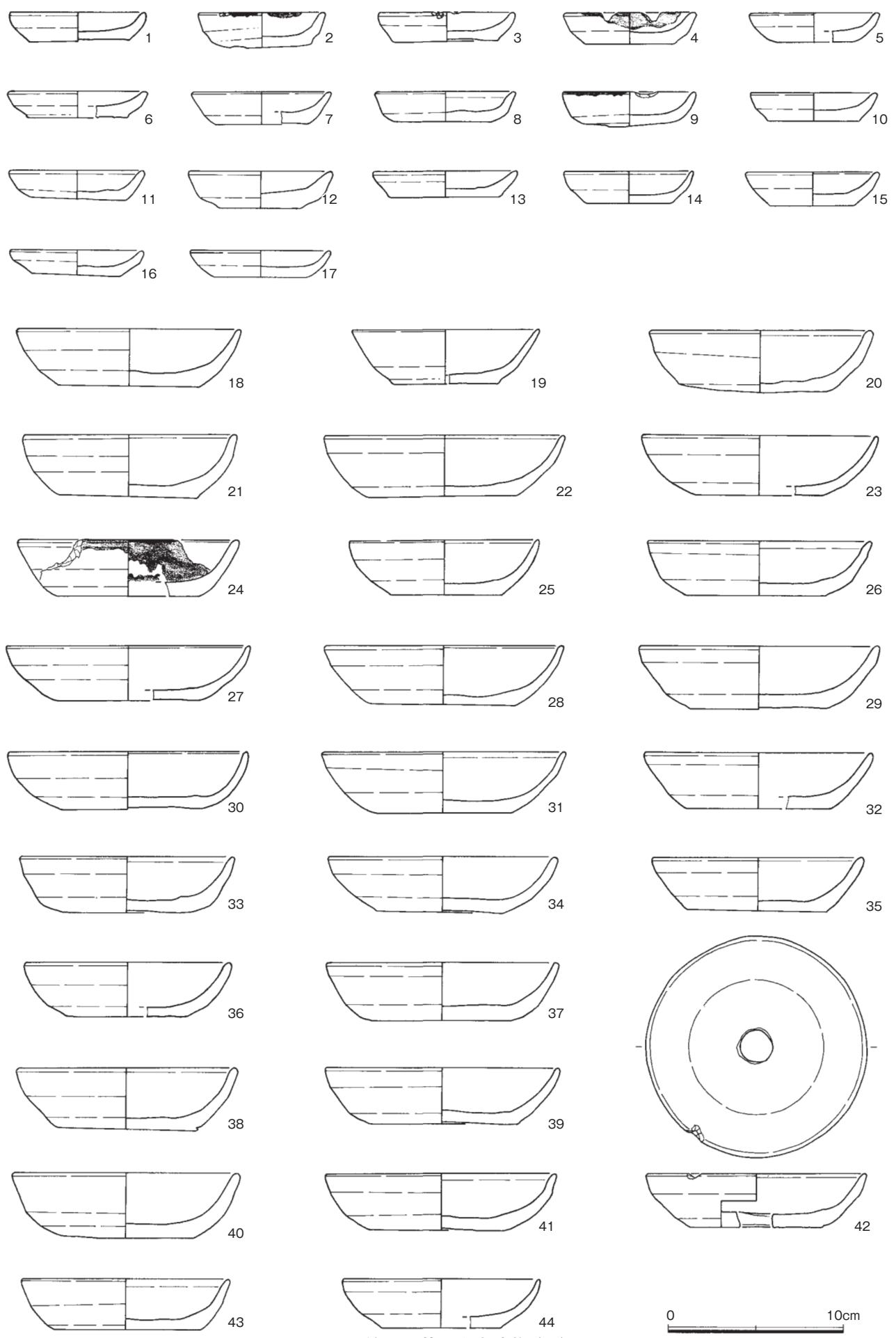


図 16 第3面井戸出土遺物(1)

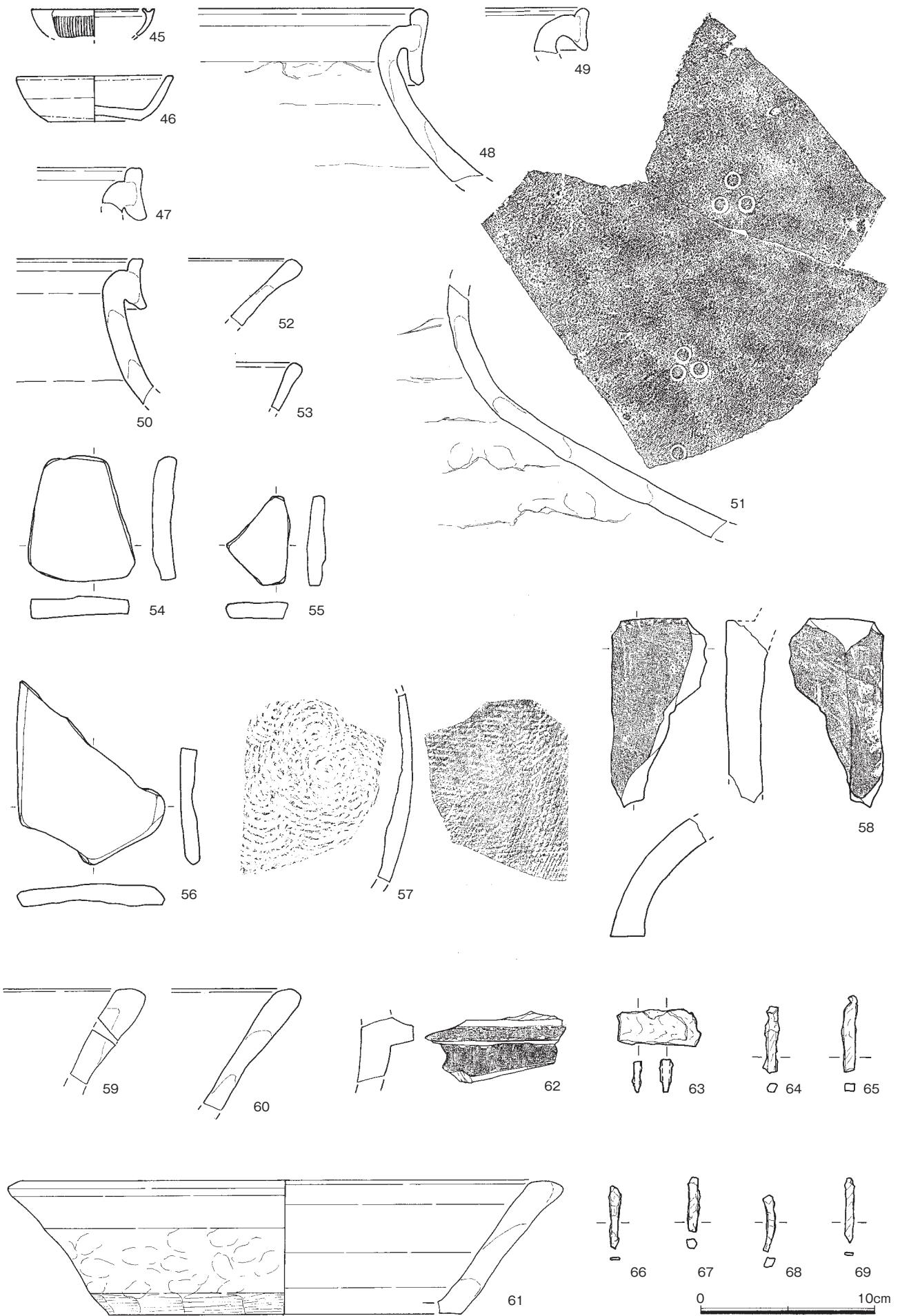


図17 第3面井戸出土遺物(2)

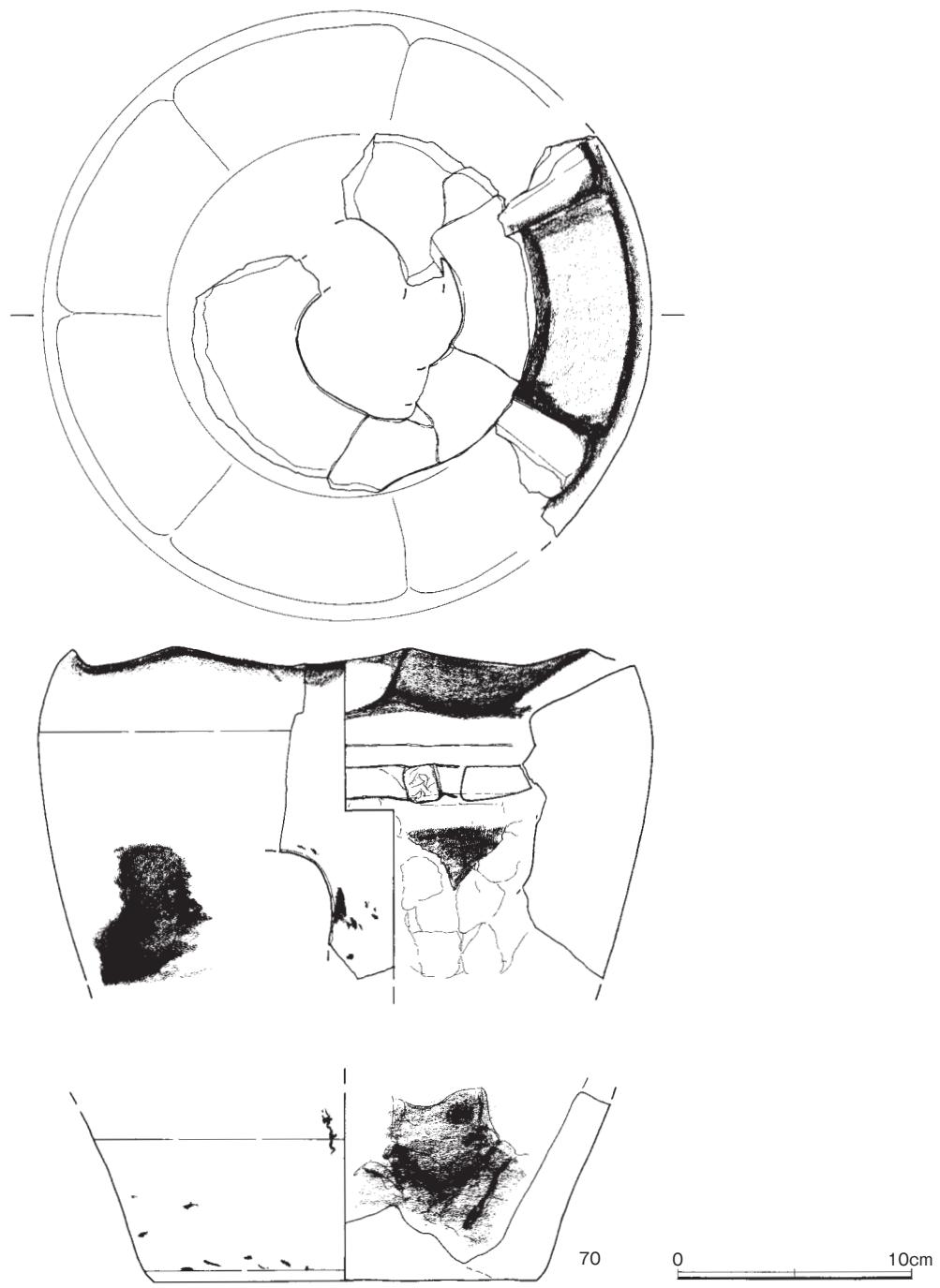


図18 第3面上出土遺物

第3節 第3面の遺構と遺物（図15～図27）

第3面は地表から約2.0m下の第6層、土丹地業層を第3面とした。海拔8.0m。柱穴と井戸を検出。

a. 柱穴

第3面では柱穴を5穴検出したが、規則性は見いだせない。

b. 井戸

第3面より掘り込まれた井戸を、調査区西隅で検出した。直径2.8m、深さ1.8m程の掘方で底面に一段だけ一辺1mの木組み（横桟）が遺存していた。北半分が調査区北壁にかかっていたため、南側だけの調査となった。かわらけが大小計297点出土。

c. 不明土製品（図18・図版13）

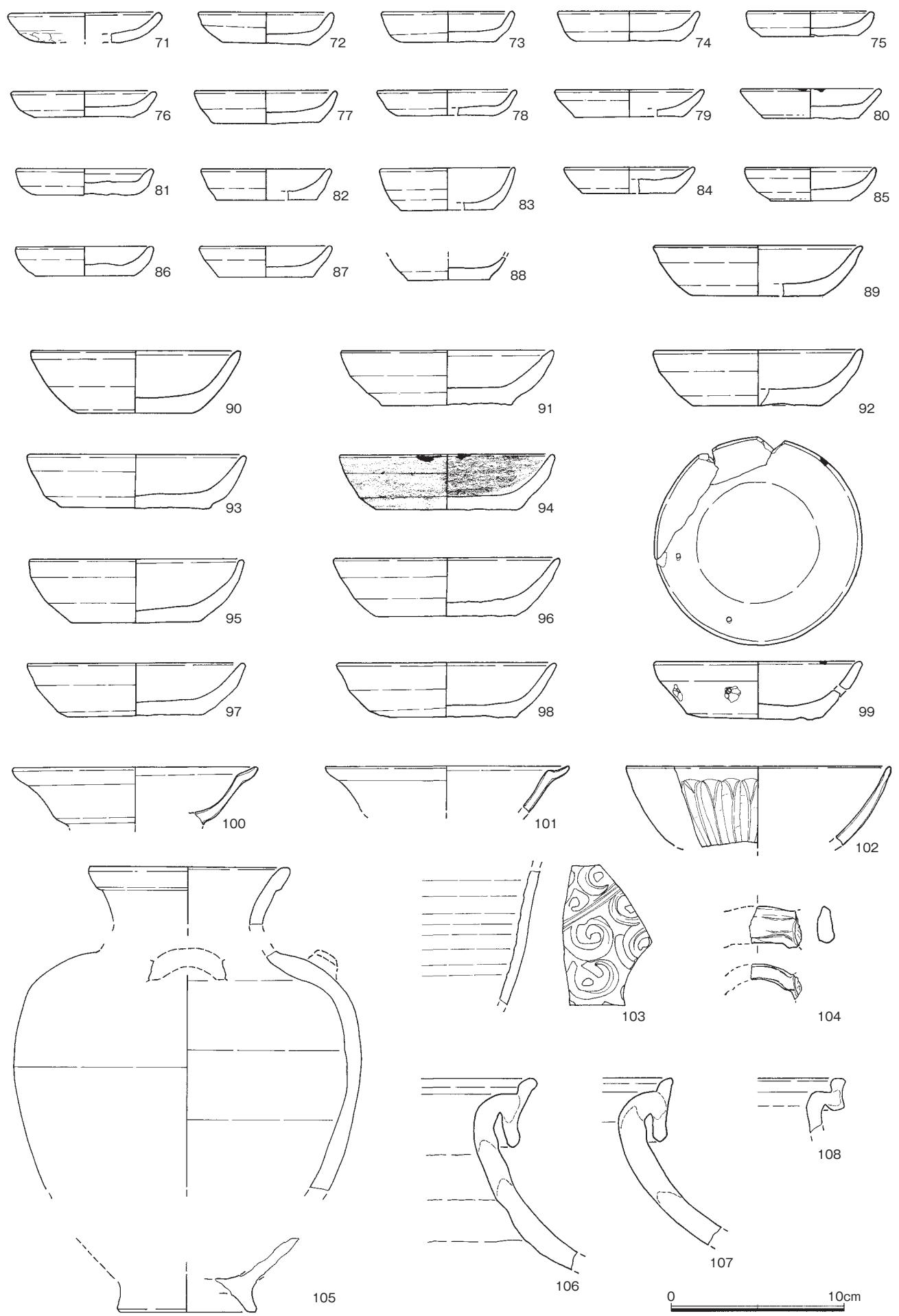


図19 第3面構成土出土遺物(1)

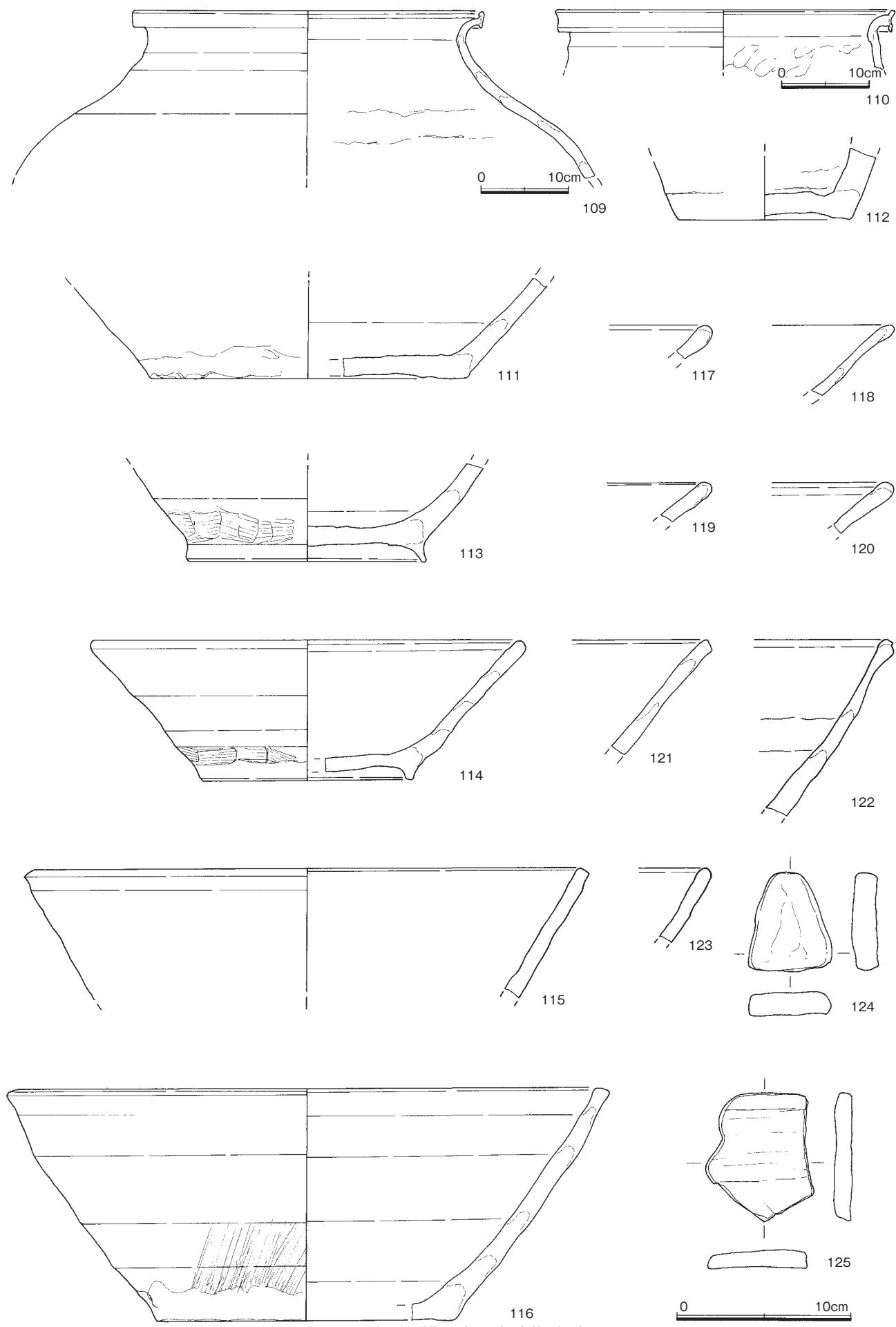


図20 第3面構成土出土遺物(2)

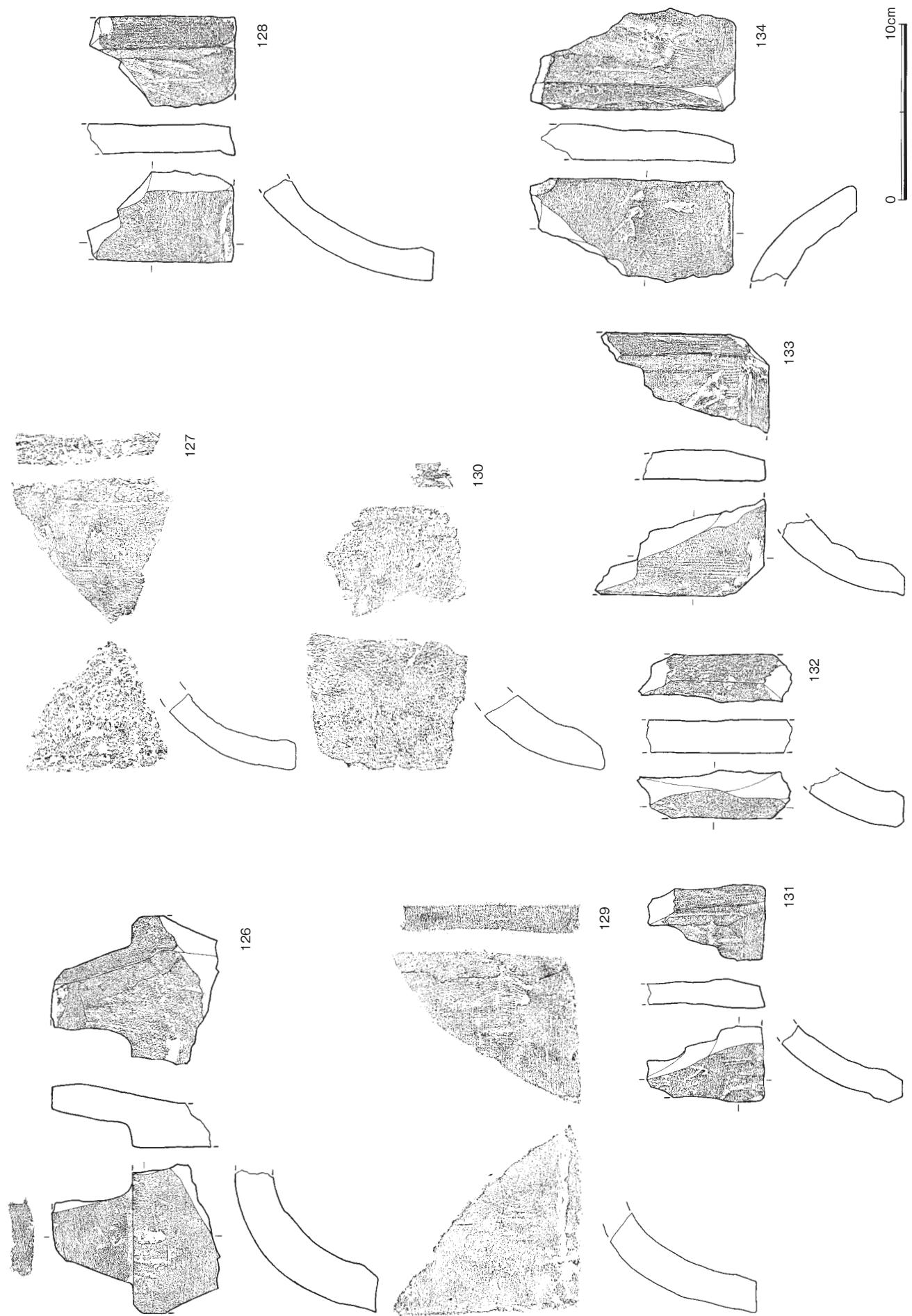


図21 第3面構成土出土遺物(3)

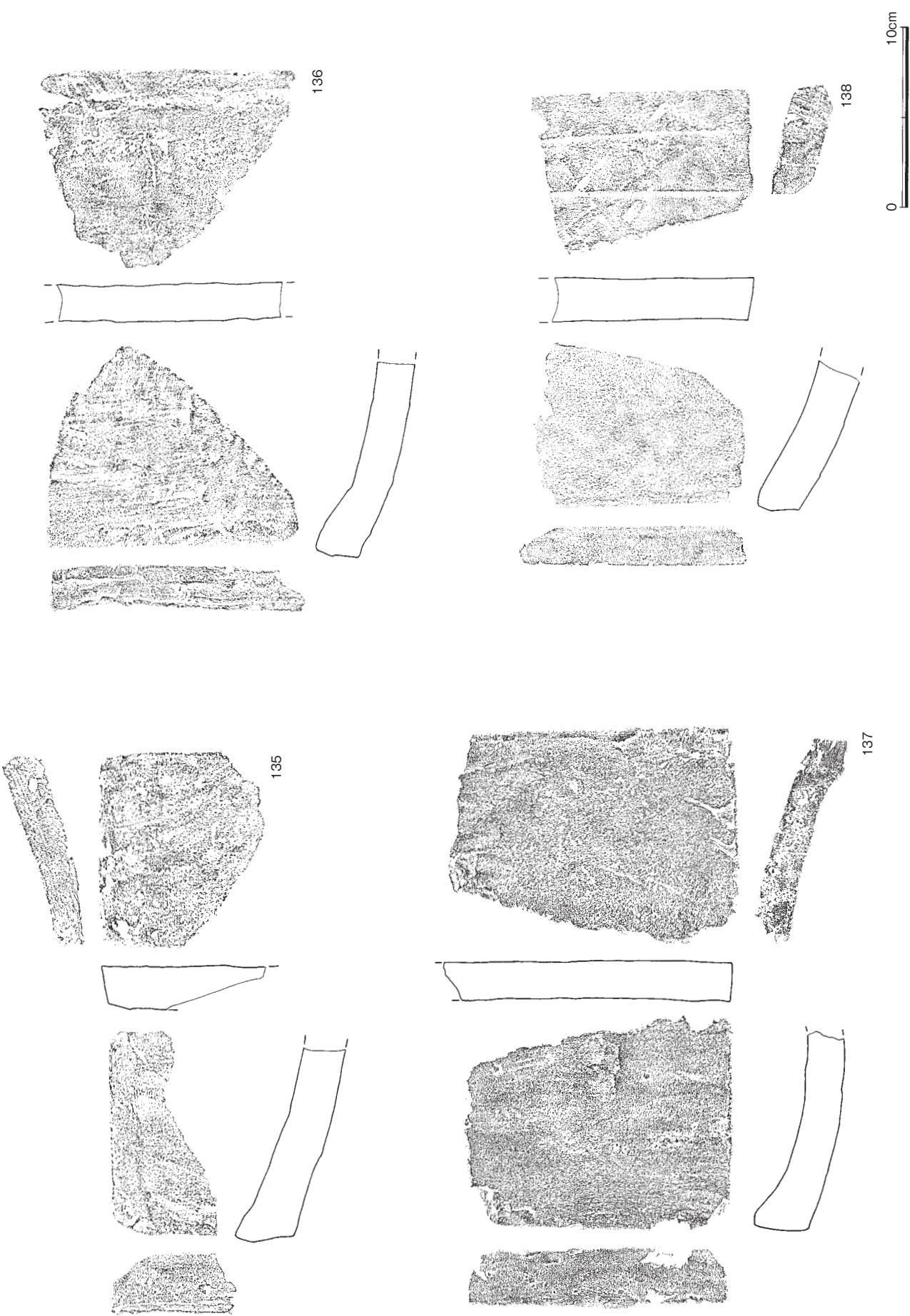


図22 第3面構成土出土遺物(4)

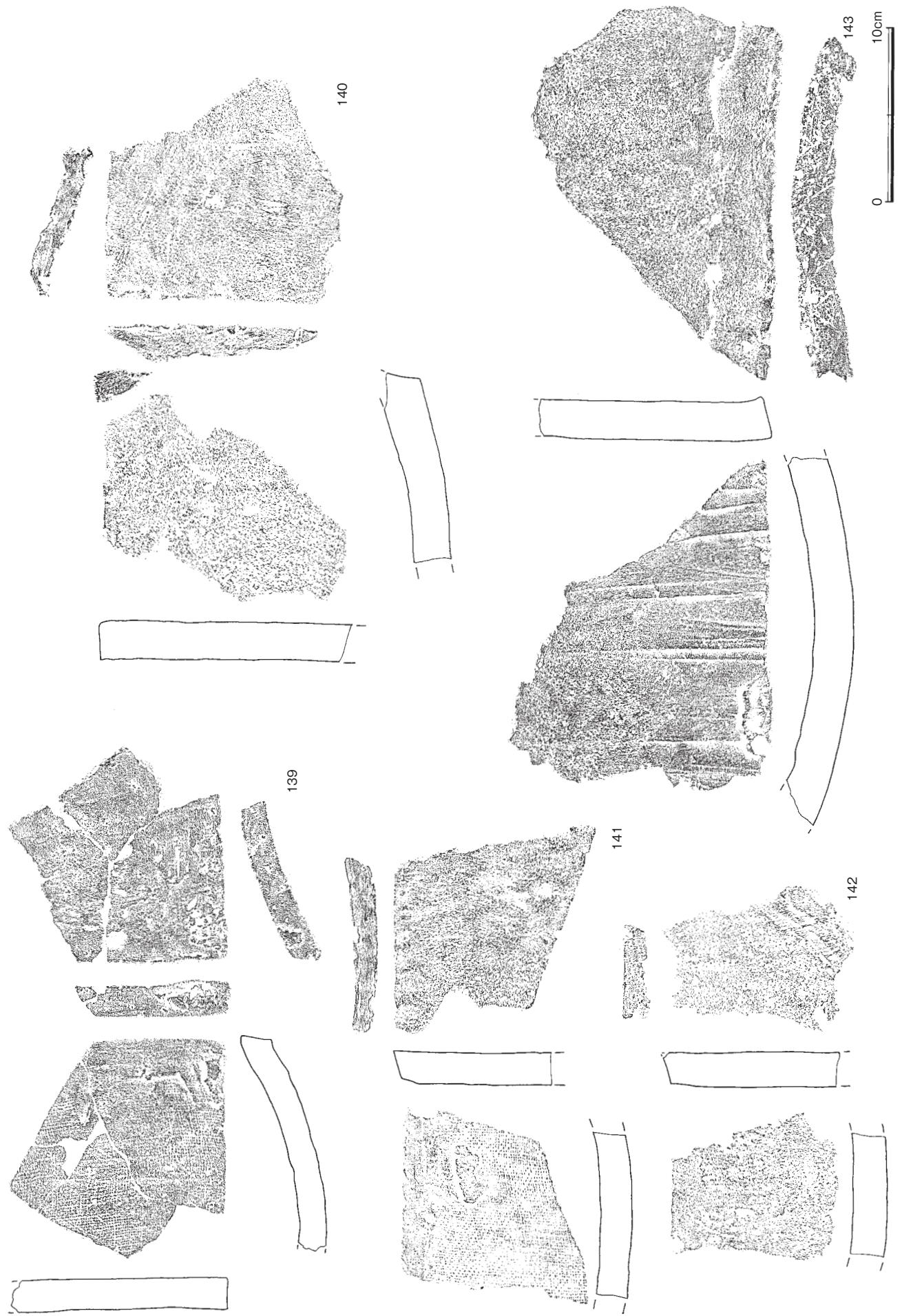


図23 第3面構成土出土遺物(5)

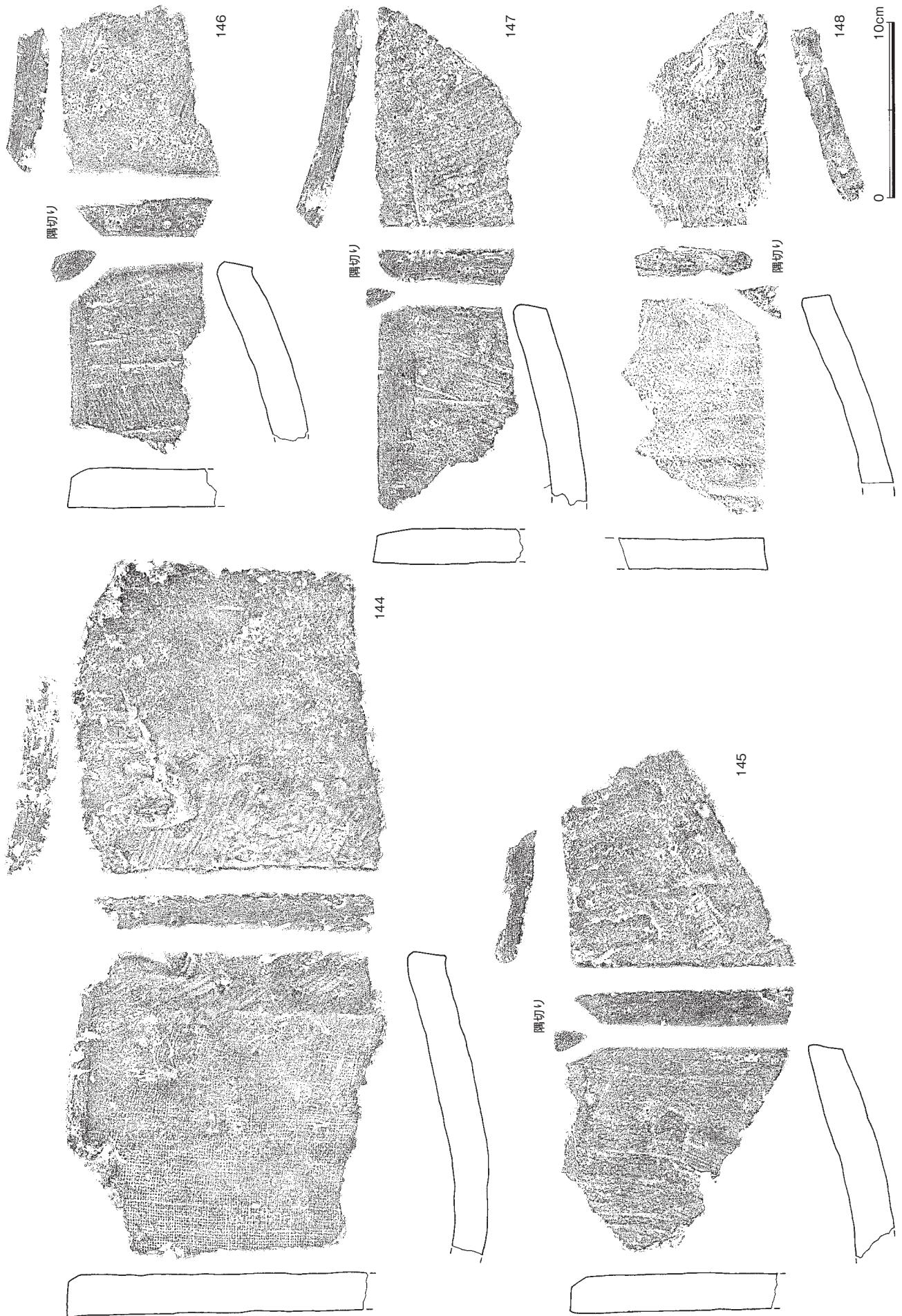


図24 第3面構成土出土遺物(6)

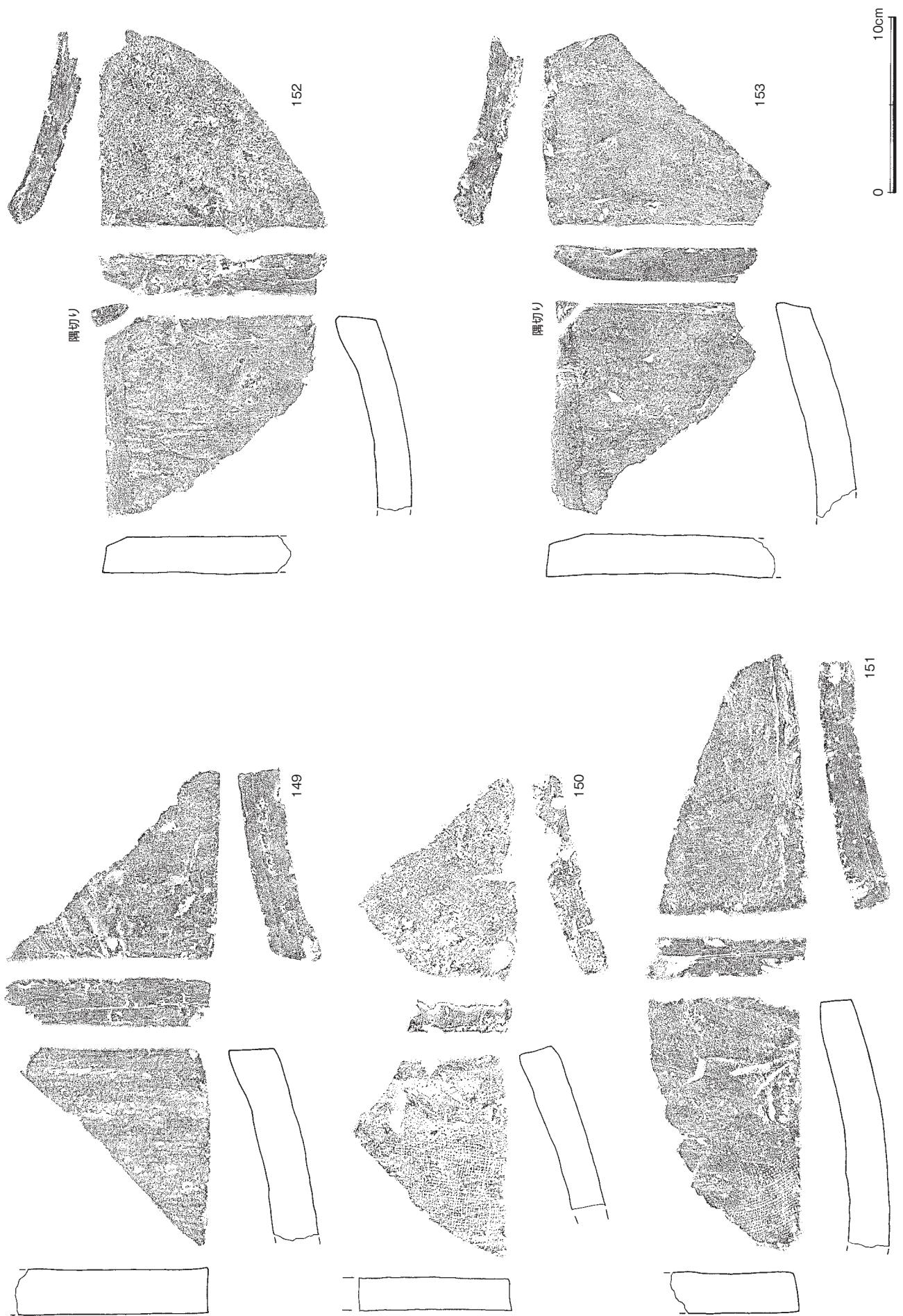


図25 第3面構成土出土遺物(7)

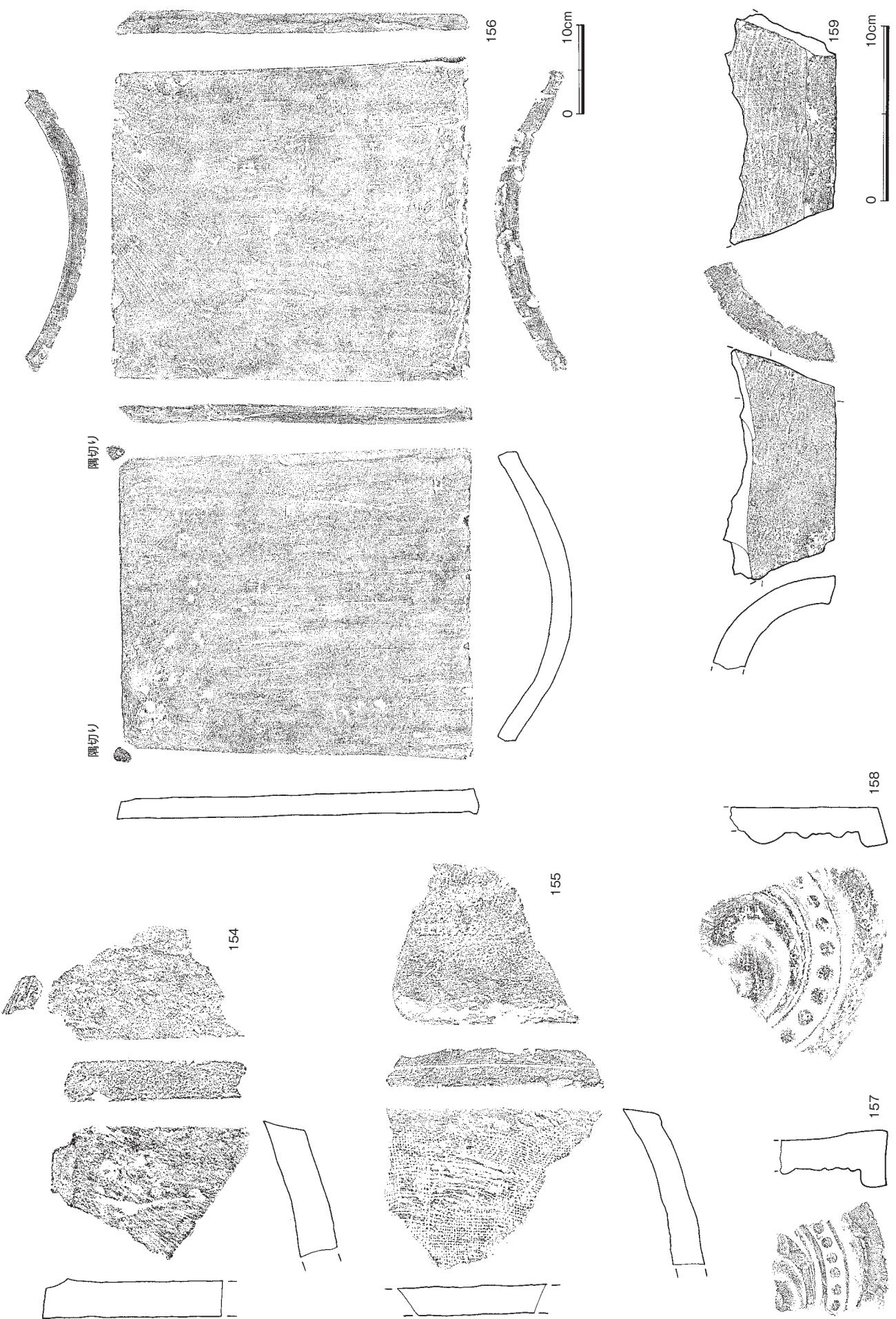


図26 第3面構成土出土遺物(8)

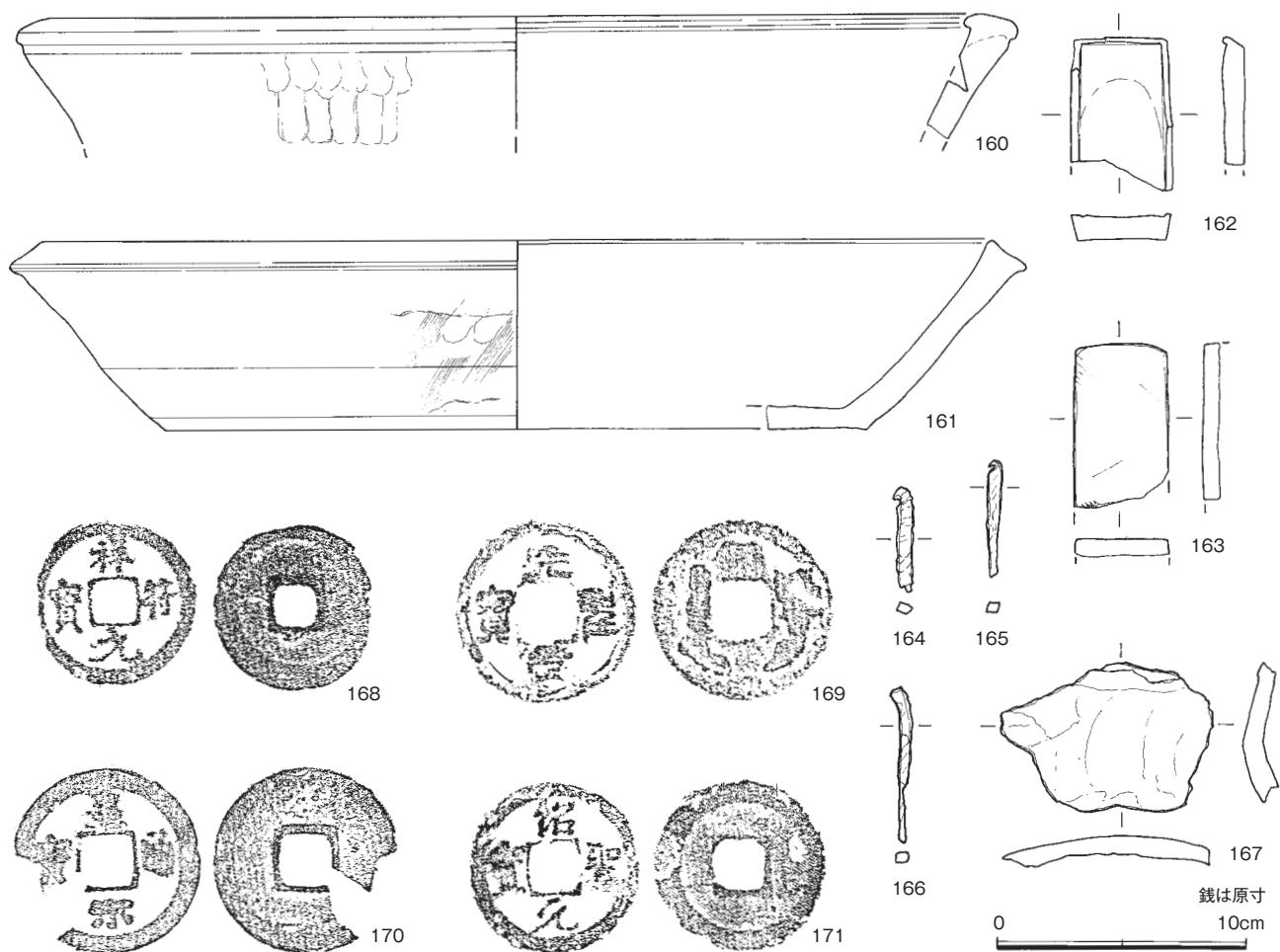


図27 第3面構成土出土遺物(9)

$x=12$
 $x=8$
 $x=4$
 $x=0$
 ● 原点1
 — $y=0$
 — $y=4$

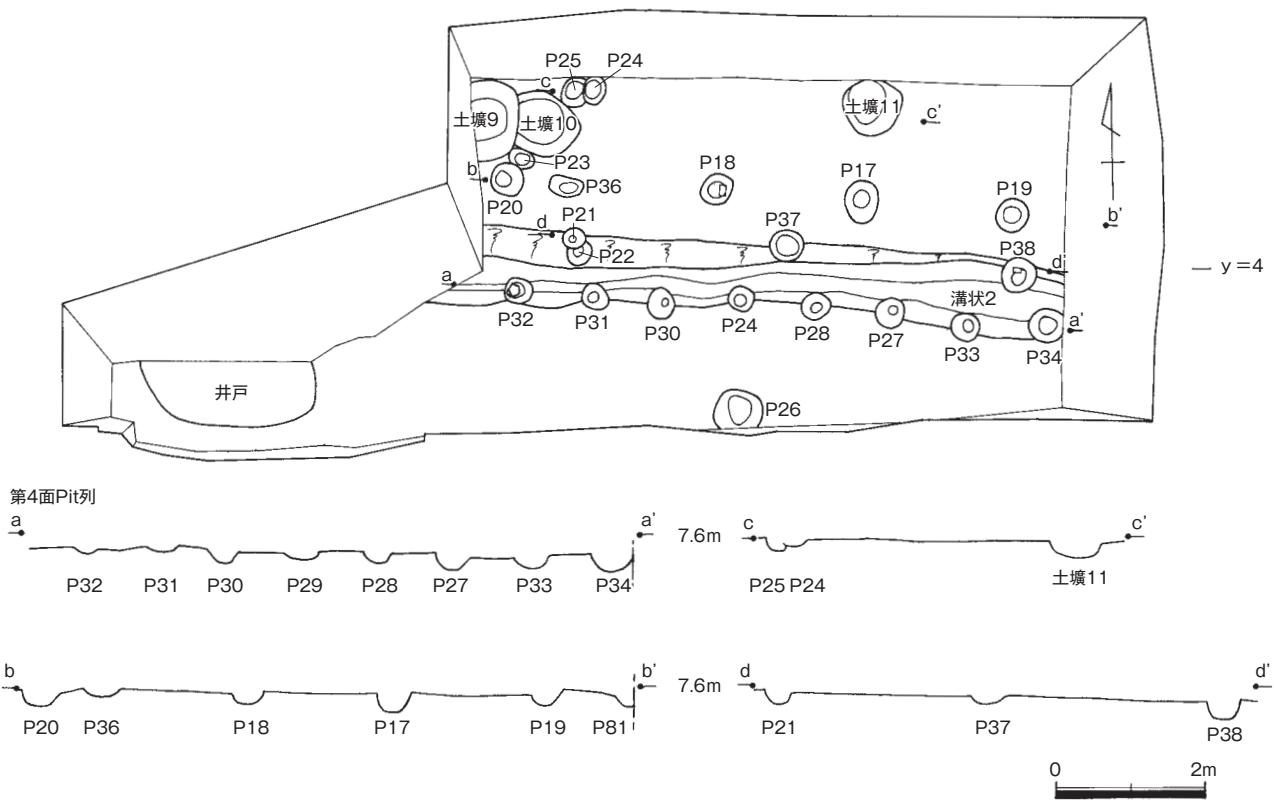


図28 第4面全測図とPit列のエレベーション図

3面出土の遺物で、複数に割れて出土した。当初、表面が焼け強い火を受けた痕跡であることから鋳型あるいは土風呂と考えていたものである。法量は口径24cm、内径13cm、底径16cm、最大径24.5cm、高さ20cm以上。器壁は約5cmもあり色調は明るい茶色、内面に漆喰状の白色土が塗られている。胎土はきめ細かな砂質土。口縁部は七弁の五徳状になり、内面は七輪のように仕切りが付き空気穴が開く。金属加工に用いられる炉のようなものか。

第4節 第4面の遺構と遺物（図28～図31）

第4面は地表から約2.2m下の第8層、暗茶灰色粘質土層を第4面とした。炭化物を多く含んでいる。海拔7.6m。柱穴と溝状遺構、土壙を検出した。

a. 柱穴列

第4面より柱穴を21穴検出した。溝の南肩に沿って95cm間隔で柱穴が7間並び、北側でも肩に沿って2.9m間隔で2間以上伸びる。また、溝の北側でも3間以上の列が確認された。いずれも東西方向のみに伸びて行くことから、建物と云うよりも柵列と考えられる。

b. 溝状2

第2面の布掘りの下に位置し、調査区の南辺と平行に東西方向に伸びる、幅1m、長さ8.3mの溝である。

c. 土壙

北壁際で3つの土壙が検出されている。いずれも直径80cm程、深さ20cm程である。

第5節 第5面の遺構と遺物（図32～図36）

第5面は地表から約2.4m下の第10層、暗茶褐色粘質土層を第5面とした。よく締まり、地山の土に似ている。海拔7.5m。柱穴と土壙、かわらけ溜りを検出した。

a. 柱穴

39穴を検出した。多くの柱穴は重なり合い、規則性は見いだせなかった。

b. 土壙

4つ検出している。いずれも20cm程の深さである。

c. かわらけ溜り

第5面直上、調査区の北東、北壁に一部かかった状態で検出された。範囲は東西300cm、南北250cmで、轆轤成形のかわらけが大363個、小251個が出土した。胎土は粗めで、大の口径の平均は12.16cm。器形も丸深でなく、いわゆる中サイズはほとんど見られないことから、13世紀後半代のものと考えられる。

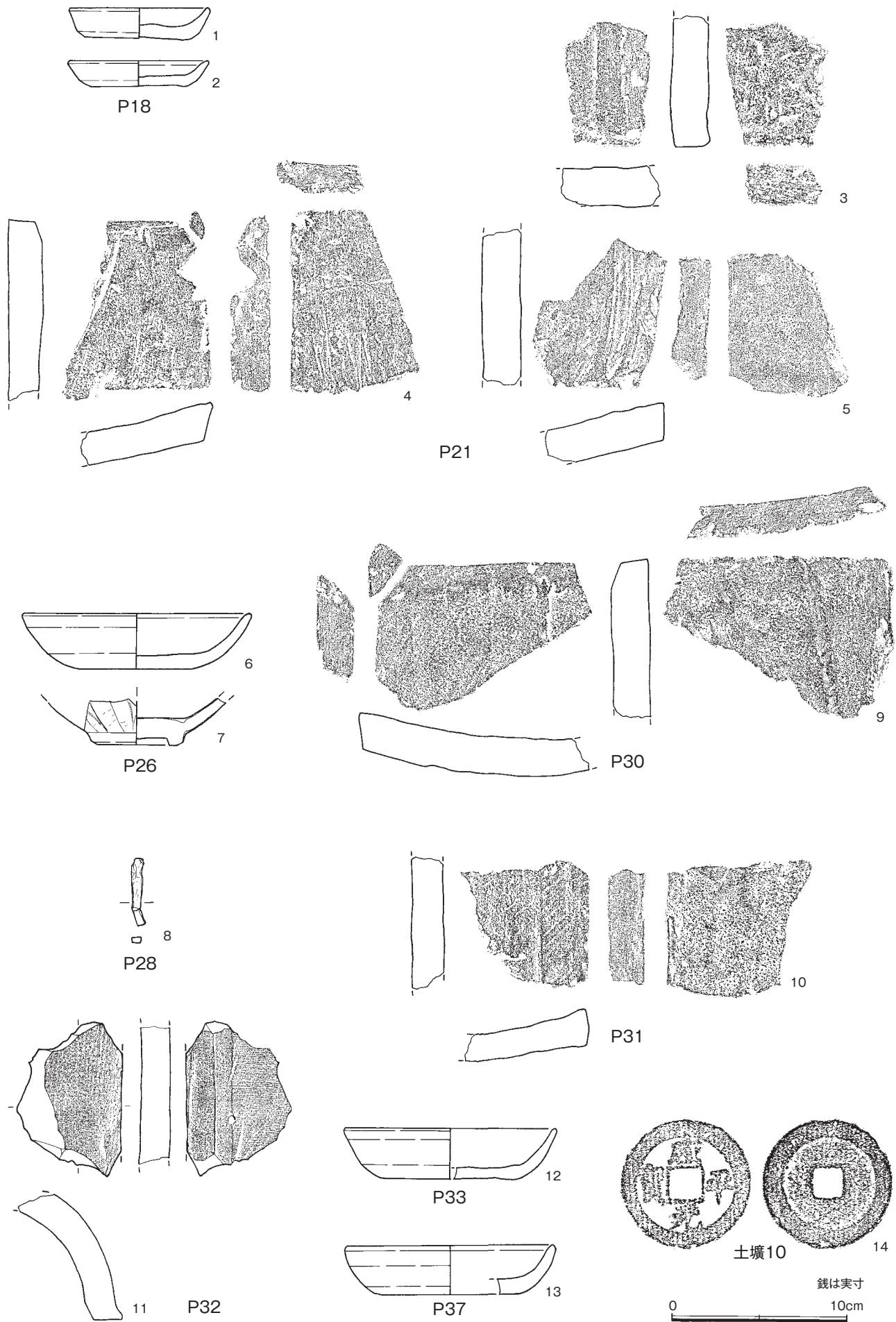
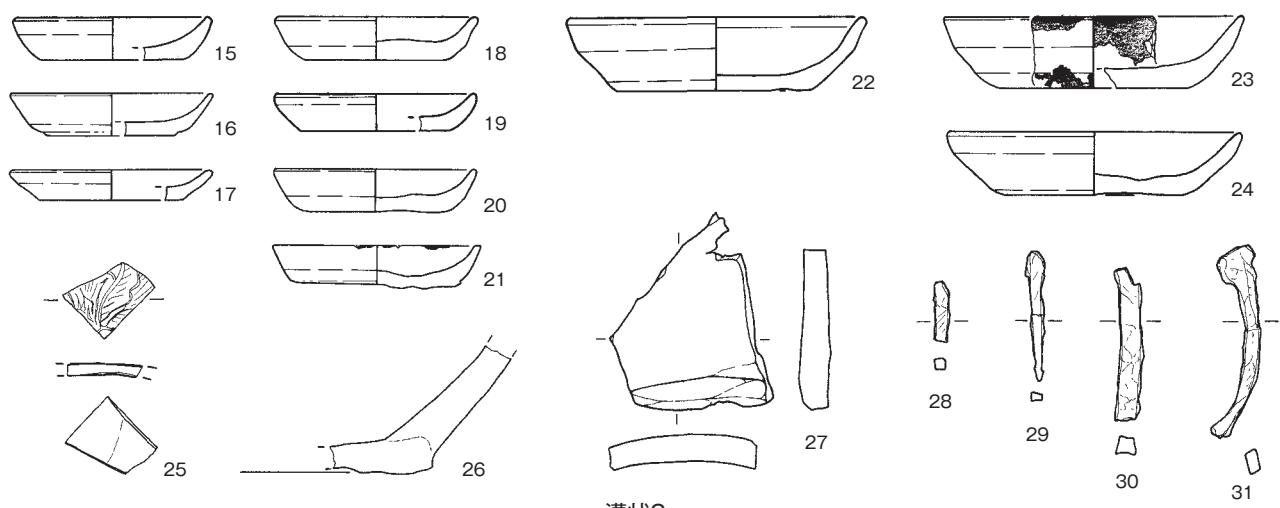
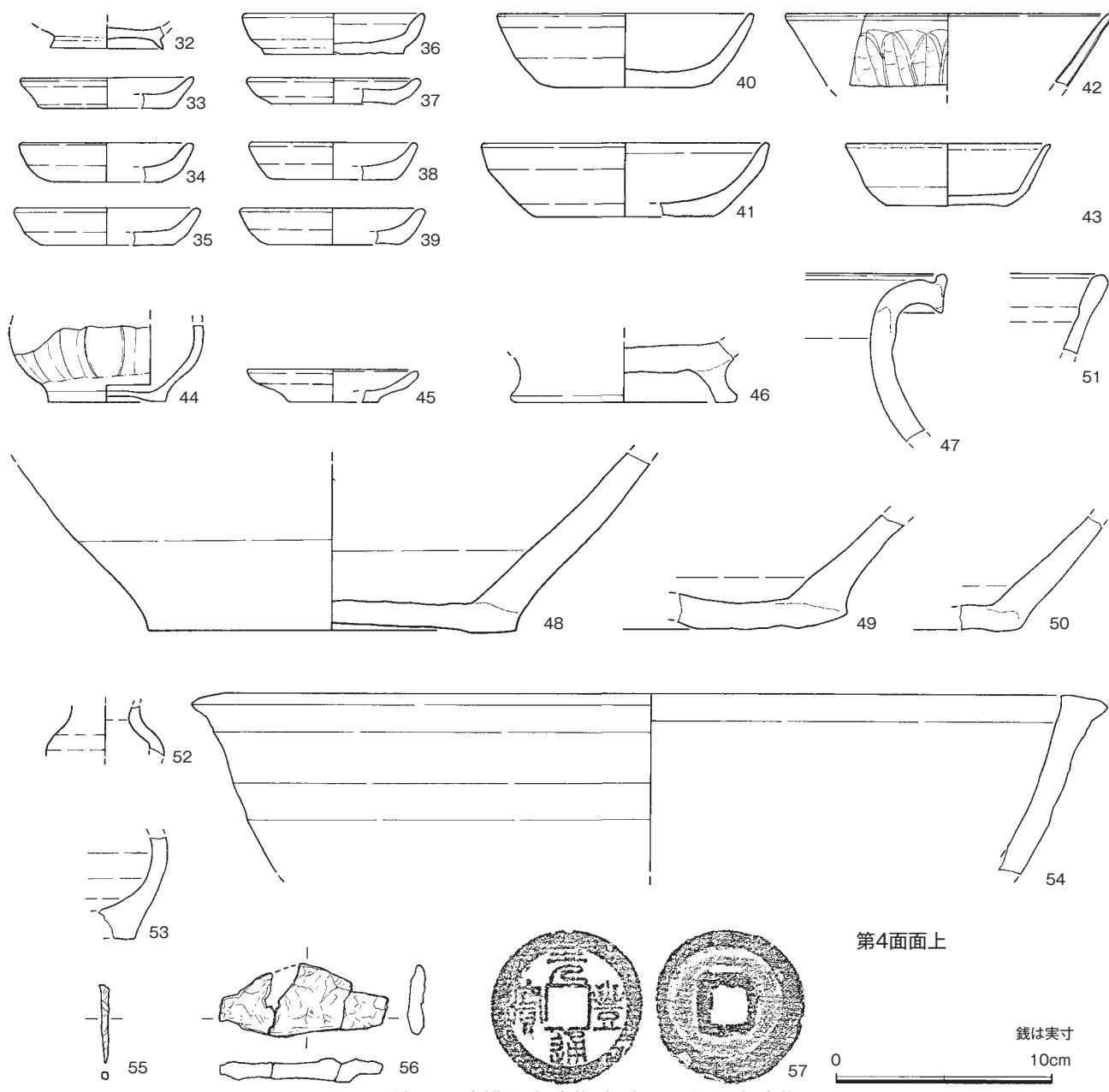


図29 第4面遺構出土遺物(1)



溝状2



第4面上

図30 第4面遺構出土遺物(2)・面上出土遺物

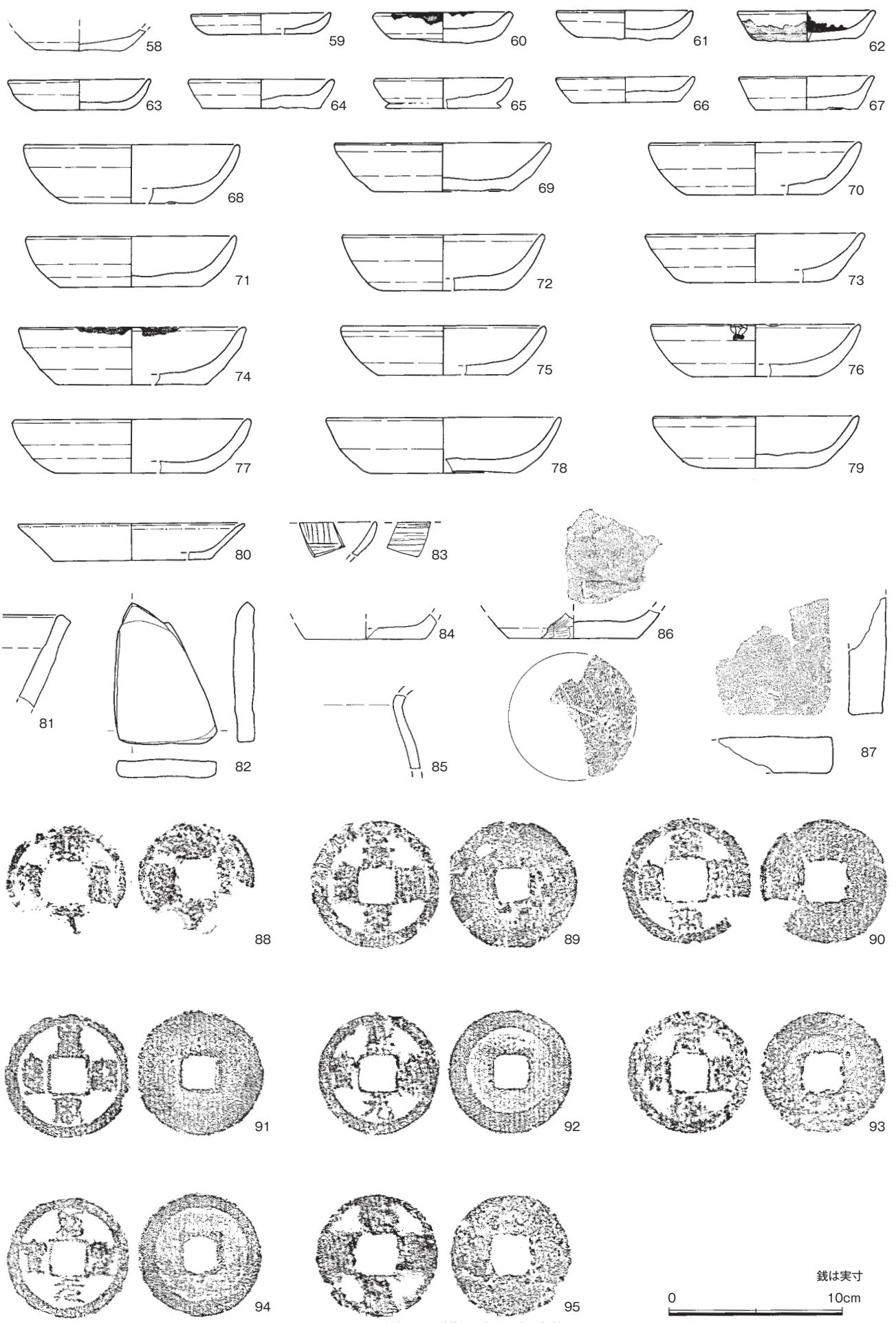
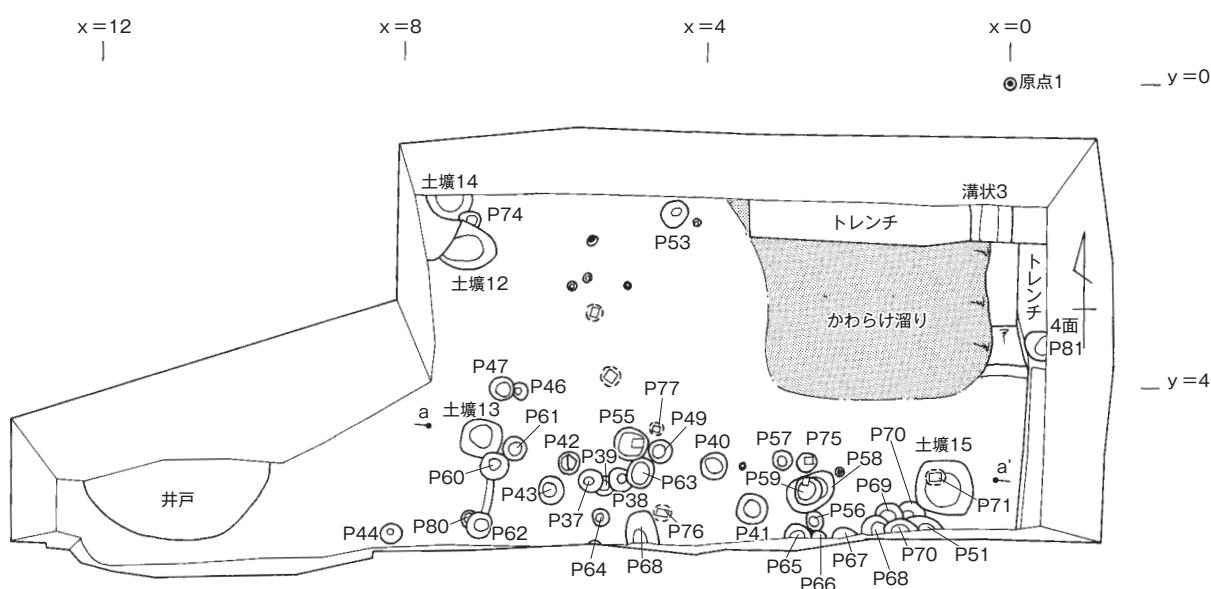


図31 第4面構成土出土遺物



第5面Pit列

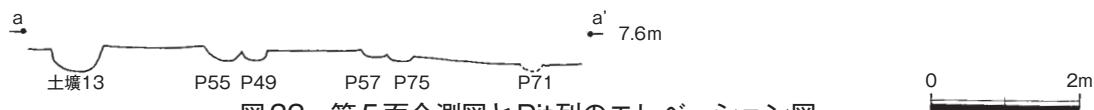


図32 第5面全測図とPit列のエレベーション図

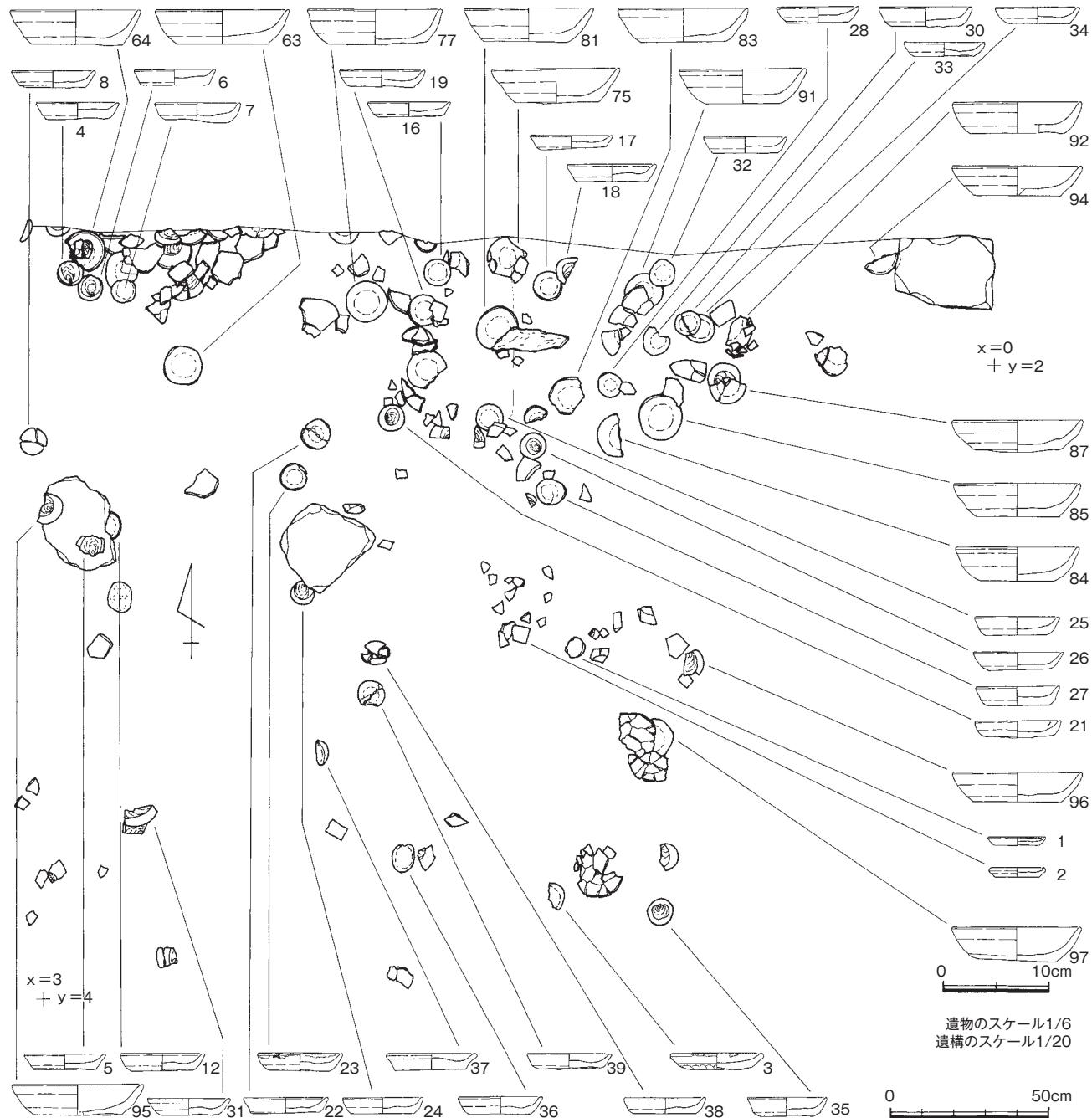


図33 第5面かわらけ溜り遺物分布図

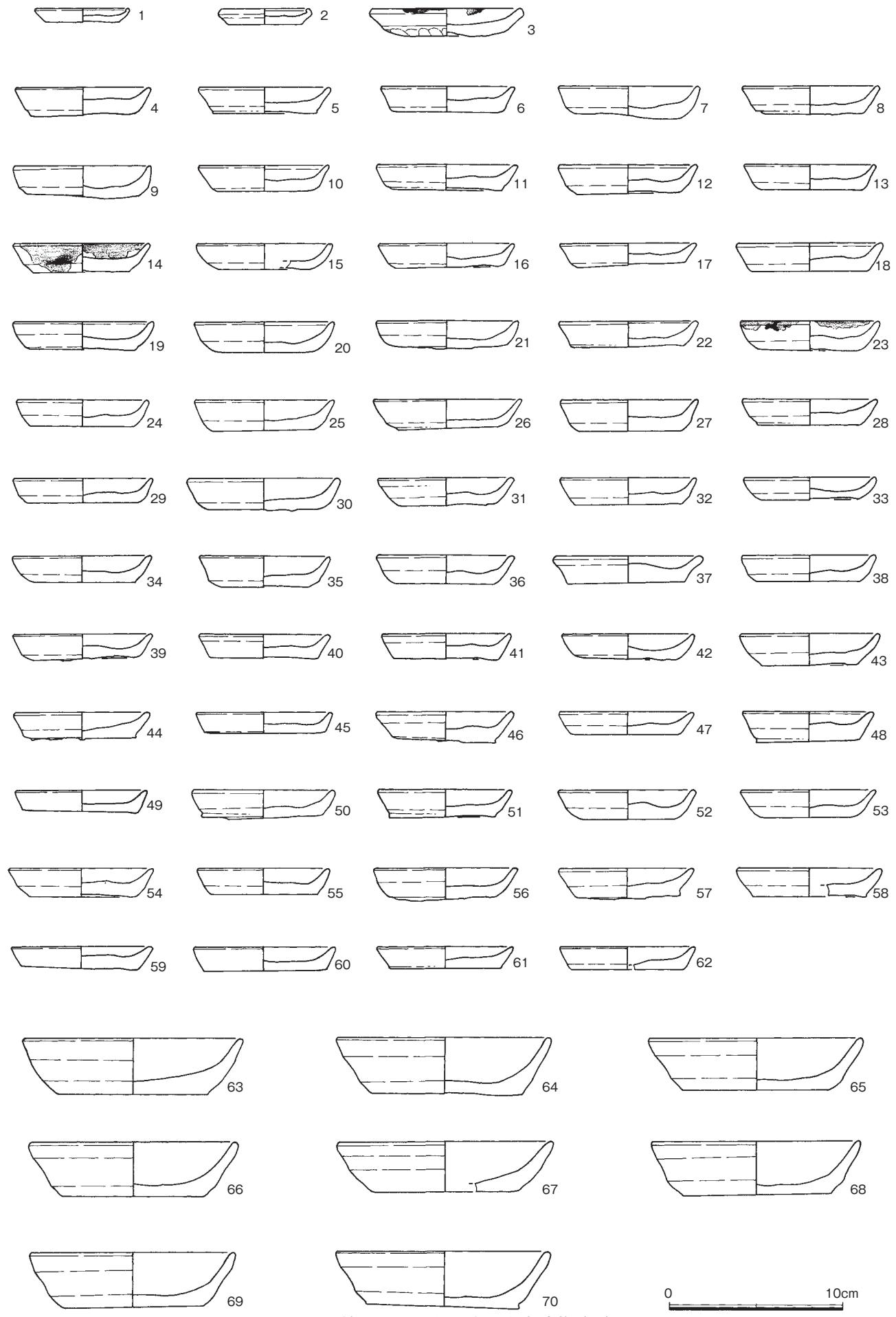


図34 第5面かわらけ溜り出土遺物 (1)

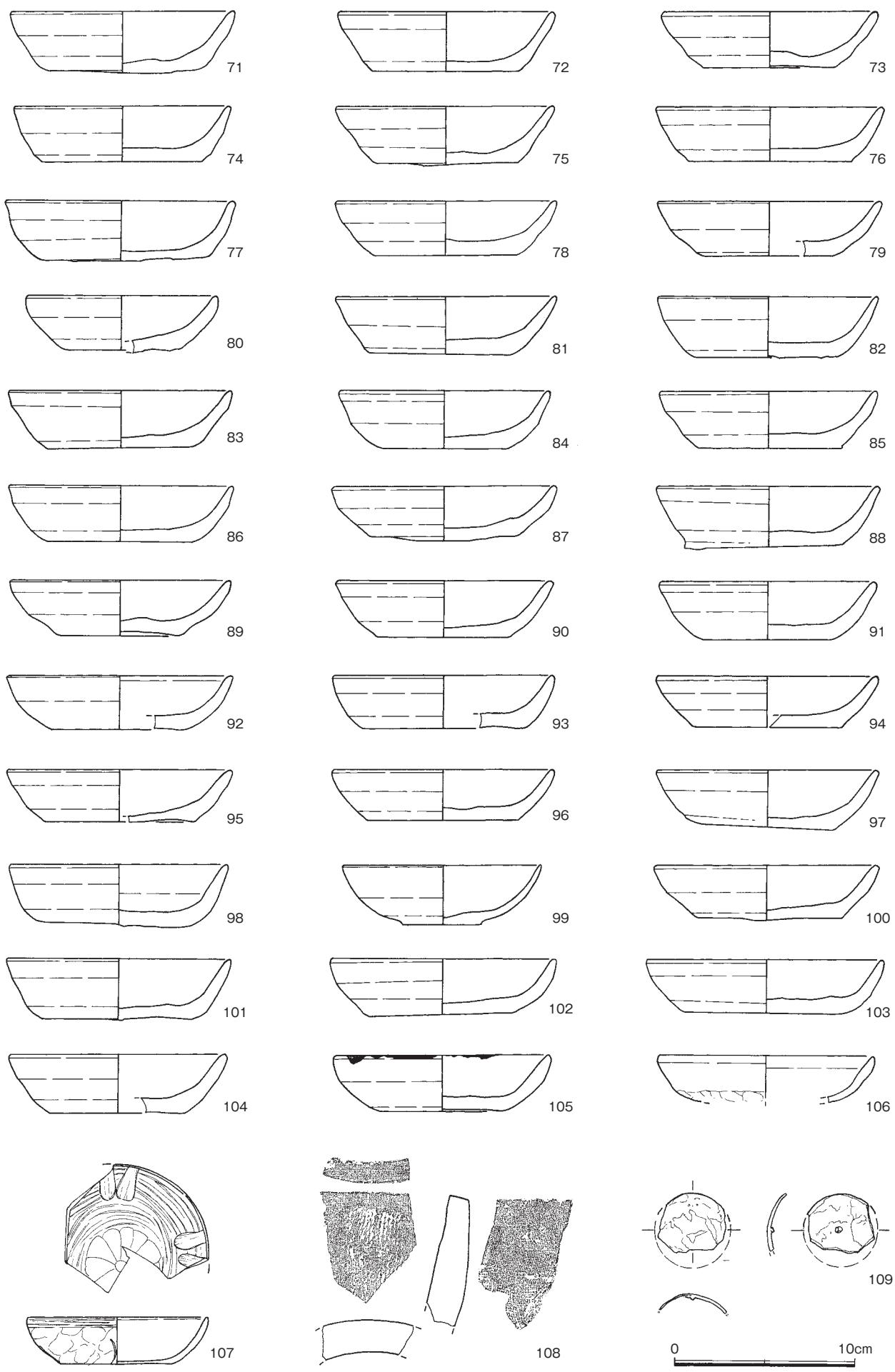


図35 第5面かわらけ溜り出土遺物（2）

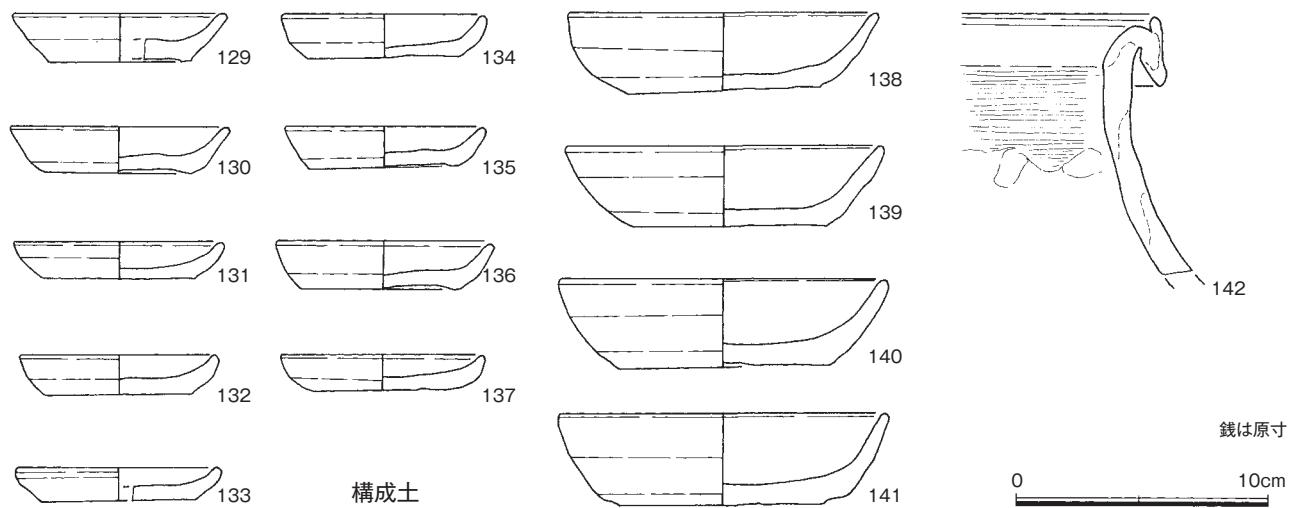
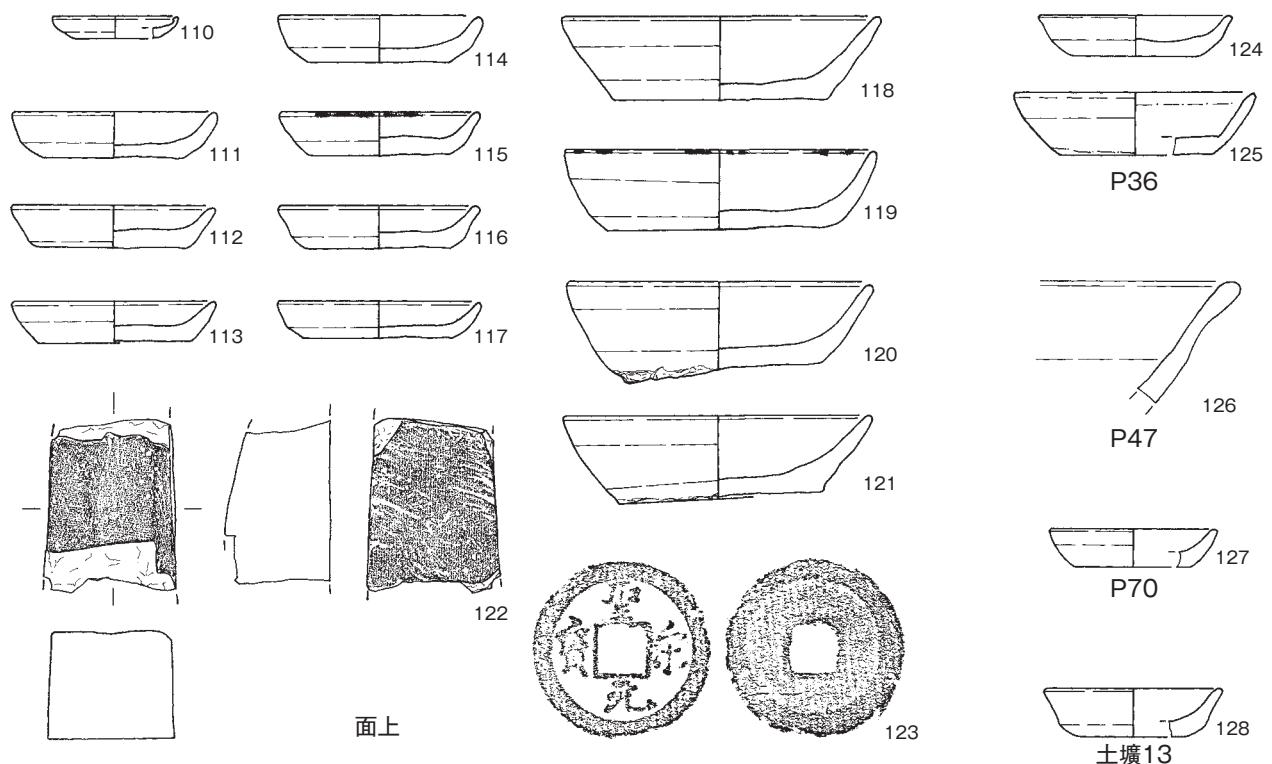


図36 第5面遺構・面上・構成土出土遺物

第四章 まとめ

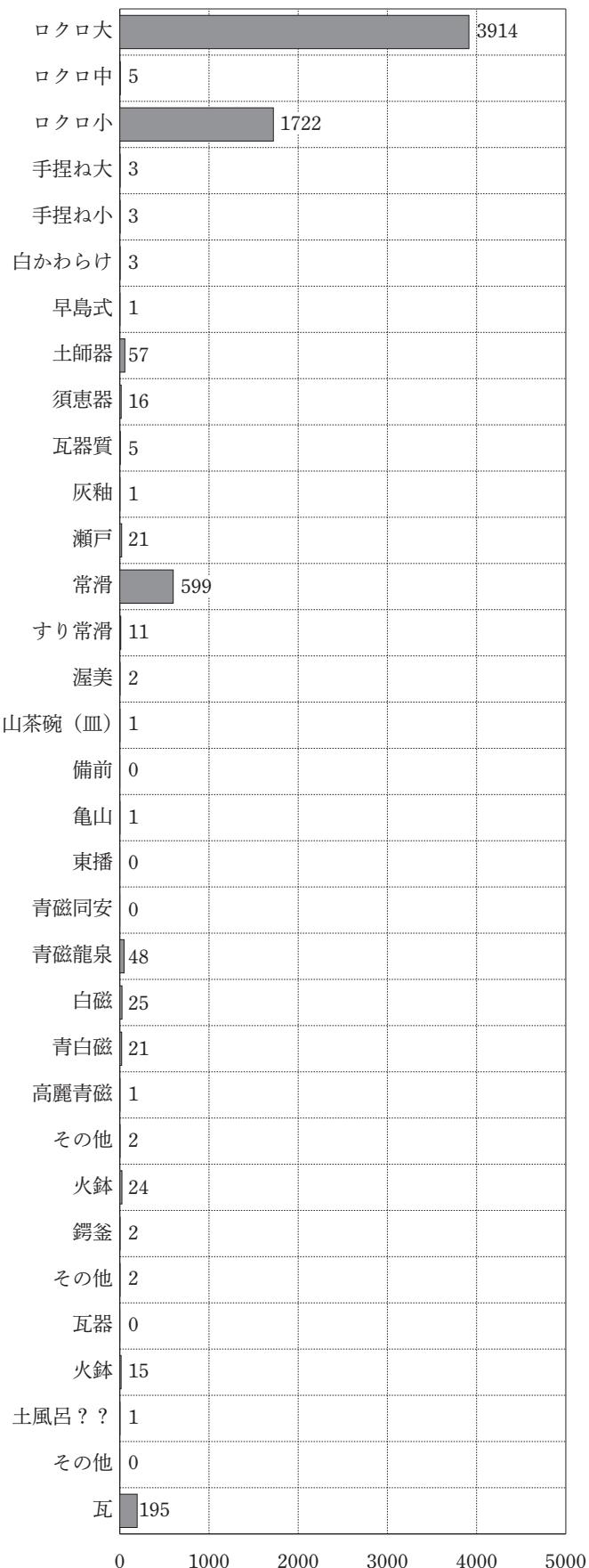
調査地点は、「甘縄神社遺跡群」の北東の一角に位置する。鎌倉以前からある甘縄神明神社や甘縄という字名から、武家屋敷が確認される予想もあったが、有無を確認できるだけの遺構には恵まれなかった。

遺跡の年代は最下層の第5面かわらけ溜りの遺物が13世紀後半、第1面の遺物も14世紀前半代に収まるもので、比較的狭い年代が考えられる。

遺物は総数にして6958点が出土した。この内土器、舶載陶磁器、国産陶器類、瓦といった焼き物の出土点数は6701点であった。遺物の状況を概観すると、かわらけが圧倒的に多く、大小かわらけの合計は5637点、84.1%。常滑は599点出土、8.9%。舶載磁器は計94点、1.4%であった。

常滑甕の口縁から型式を見てゆくと、ほとんどが6a型式に属するもので、年代的には13世紀後半代が考えられる。第5面で検出したかわらけ溜り出土のかわらけの特徴(少し粗めな胎土や12~13cmの口径を中心)を見ても、やはり13世紀後半から14世紀初頭の年代が考えられる。井戸が検出されたにもかかわらず、中から木製品・漆器の出土は確認されなかった。

瓦が破片ではあるが計195点出土している。ほとんどが男瓦、女瓦であるが、2点連珠巴文鑄瓦(鎌倉後期)が出土している。近くに瓦葺きの建物の存在を窺わせるものかもしれない。



出土遺物点数表

図4 第1面 遺構・構成土出土遺物

遺構名	仮図No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
土壤1	1	かわらけ	(7.8)	5.6	1.7	轆轤成形
	2	瀬戸 折縁皿	(29.4)			縁灰釉 ツケガケ
	3	常滑 甕		23.0		
構成土	4	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6	轆轤成形
	5	かわらけ	8.0	5.6	1.6	轆轤成形
	6	かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.1	轆轤成形
	7	かわらけ	12.2	(7.0)	3.1	轆轤成形
	8	かわらけ	12.0	8.0	3.2	轆轤成形
	9	かわらけ	11.8	7.6	3.2	轆轤成形
	10	常滑 甕				6a型式
	11	火鉢				瓦質 輪花形
	12	銭 皇宋通寶	径2.4	重g3.1		初鑄年1038年(北宋)篆書

図6 第2面 遺構出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
Pit1	1	かわらけ	7.0	5.2	1.8	轆轤成形
Pit2	2	かわらけ	(7.0)	(5.0)	1.6	轆轤成形
	3	かわらけ	(11.8)	(6.5)	3.1	轆轤成形
Pit3	4	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.6	轆轤成形
	5	かわらけ	(11.2)	(6.2)	2.9	轆轤成形
	6	かわらけ	12.9	8.0	3.3	轆轤成形
Pit5	7	かわらけ	(7.8)	(4.8)	1.4	轆轤成形 口縁部に煤付着
	8	かわらけ	(12.8)	(9.6)	2.9	轆轤成形 口縁部・内面に煤付着
土壤2	9	かわらけ	13.0	8.2	3.3	轆轤成形
	10	かわらけ	13.0	8.0	3.5	轆轤成形 口縁部に煤付着
土壤3	11	かわらけ	12.0	8.0	3.2	轆轤成形 口縁部に煤付着
	12	常滑 甕				
	13	常滑 甕				
	14	常滑 甕				
	15	常滑 甕				
	16	常滑 甕				菊花文スタンプ
	17	骨製品 桟	長4.5	幅1.3～1.	厚1.3～0.	9
土壤4	18	かわらけ	7.0	5.2	1.8	轆轤成形
	19	土師器 壺				
	20	銭 元豊通寶	径2.4	重g2.6		初鑄年1078年(北宋)篆書
土壤6	21	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.4	轆轤成形
	22	かわらけ	(11.8)	(7.8)	2.8	轆轤成形
	23	常滑片口鉢(I類)				
溝状1	24	かわらけ	(7.4)	(5.8)	1.7	轆轤成形
	25	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6	轆轤成形
	26	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	轆轤成形
	27	かわらけ	(11.0)	(6.3)	3.0	轆轤成形 体部内・外面に煤付着
	28	かわらけ	(10.8)	(6.4)	2.6	轆轤成形
	29	かわらけ	(11.8)	(7.4)	2.8	轆轤成形
	30	鉄製品 釘	残長3.0	幅0.3	厚0.3	
布掘り	31	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.2	轆轤成形
	32	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.7	轆轤成形
	33	銭 政和通寶	径2.4	重g1.7		初鑄年1111年(北宋)篆書

図7 第2面 遺構出土遺物(2)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
落ち込み1(1)	34	白かわらけ		(5.0)		轆轤成形
	35	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.5	轆轤成形
	36	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.2	轆轤成形
	37	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.6	轆轤成形
	38	かわらけ	(7.0)	(4.2)	1.6	轆轤成形
	39	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.6	轆轤成形
	40	かわらけ	(8.3)	(5.8)	1.9	轆轤成形
	41	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.5	轆轤成形

	42	かわらけ	7.4	4.8	1.8	輶舎成形
	43	かわらけ	7.6	5.6	1.5	輶舎成形
	44	かわらけ	8.2	5.2	1.8	輶舎成形
	45	かわらけ	9.6	5.6	1.5	輶舎成形
	46	かわらけ	7.8	4.6	1.8	輶舎成形
	47	かわらけ	7.0	4.9	1.4	輶舎成形
	48	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.7	輶舎成形
	49	かわらけ	(7.2)	(4.4)	1.8	輶舎成形
	50	かわらけ	(7.0)	(4.0)	1.5	輶舎成形
	51	かわらけ	(8.0)	(5.0)	1.8	輶舎成形
	52	かわらけ	(7.4)	(5.5)	1.4	輶舎成形
	53	かわらけ	(7.4)	(4.5)	1.8	輶舎成形
	54	かわらけ	(7.4)	(4.5)	2.1	輶舎成形
	55	かわらけ	7.4	5.5	1.6	輶舎成形
	56	かわらけ	7.6	5.0	1.7	輶舎成形
	57	かわらけ	6.8	5.9	1.5	輶舎成形
	58	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.8	輶舎成形
	59	かわらけ	(7.0)	(5.2)	1.6	輶舎成形 口縁部・外面に煤付着
	60	かわらけ	8.0	5.4	1.9	輶舎成形
	61	かわらけ	8.0	6.5	1.9	輶舎成形
	62	かわらけ	7.4	5.4	1.7	輶舎成形
	63	かわらけ	7.5	4.2	1.7	輶舎成形
	64	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.5	輶舎成形
	65	かわらけ	7.9	5.1	1.9	輶舎成形
	66	かわらけ	8.0	5.3	1.9	輶舎成形
	67	かわらけ	7.6	5.2	2.4	輶舎成形
	68	かわらけ	7.8	4.9	1.8	輶舎成形
	69	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.8	輶舎成形 口縁部に煤付着
	70	かわらけ	(7.4)	(4.2)	2.2	輶舎成形 口縁部に煤付着
	71	かわらけ	(7.8)	(4.9)	2.0	輶舎成形
	72	かわらけ	(12.8)	(7.3)	3.4	輶舎成形
	73	かわらけ	(11.8)	(7.4)	3.2	輶舎成形
	74	かわらけ	(10.4)	(6.0)	2.9	輶舎成形
	75	かわらけ	(13.8)	(7.6)	3.5	輶舎成形
	76	かわらけ	10.8	6.8	2.9	輶舎成形
	77	かわらけ	(12.0)	(7.2)	2.9	輶舎成形
	78	かわらけ	(12.0)	(7.0)	3.5	輶舎成形
	79	かわらけ	(12.7)	(7.6)	3.7	輶舎成形
	80	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.0	輶舎成形
	81	かわらけ	(13.0)	(7.7)	3.6	輶舎成形
	82	かわらけ	12.0	7.9	3.4	輶舎成形
	83	かわらけ	(14.4)	(9.4)	3.7	輶舎成形
	84	かわらけ	(12.2)	(8.4)	3.2	輶舎成形
	85	青磁 折縁鉢	(13.4)			
	86	青磁 蓮弁文碗			3.6	
	87	白磁				器種不明
	88	青白磁 壺	(6.8)			
	89	青白磁 梅瓶				牡丹唐草文

図8 第2面 遺構出土遺物(3)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
落ち込み1(2)	90	亀山	(30.0)	(23.0)		残高上5.0、中7.8、下3.3
	91	常滑 瓶				
	92	常滑 瓶				
	93	常滑 瓶				
	94	常滑片口鉢(I類)				
	95	常滑片口鉢(II類)				
	96	瓦器質 碗	(9.6)			
	97	男瓦			厚1.6	
	98	女瓦			厚1.5	
	99	火鉢			8.9	
	100	火鉢				

	101	砥石	長4.5	幅4.9	厚1.1	産地不明仕上砥
	102	砥石	残長5.6	幅3.3	厚1.2	鳴滝産仕上砥
	103	鉄製品 器種不明	残長3.	幅1.0	厚0.3	
	104	銭 大觀通寶	径2.3	重g2.7		初鑄年1107年(北宋)
	105	銭 熙寧元寶	径2.3	重g3.2		初鑄年1068年(北宋)篆書

図9 第2面 直上出土遺物

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
2面直上	106	かわらけ	7.7	5.8	1.8	轆轤成形
	107	かわらけ	7.6	5.1	1.7	轆轤成形
	108	かわらけ	7.8	5.0	1.8	轆轤成形 口縁部に煤付着
	109	かわらけ	(7.4)	4.6	2.0	轆轤成形 口縁部に煤付着
	110	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.8	轆轤成形
	111	かわらけ	(8.2)	(5.6)	2.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	112	かわらけ	(7.6)	(4.8)	1.7	轆轤成形
	113	かわらけ	(7.5)	(4.6)	1.7	轆轤成形
	114	かわらけ	(7.9)	(5.2)	1.7	轆轤成形
	115	かわらけ	(7.8)	(5.1)	2.1	轆轤成形
	116	かわらけ	(7.6)	(4.6)	1.6	轆轤成形
	117	かわらけ	(9.1)	(7.6)	1.4	轆轤成形
	118	かわらけ	(8.2)	(5.4)	1.7	轆轤成形
	119	かわらけ	(7.8)	(5.1)	1.6	轆轤成形
	120	かわらけ	7.7	4.6	2.0	轆轤成形 口縁部・内面に煤付着
	121	かわらけ	(7.6)	(4.8)	2.2	轆轤成形
	122	かわらけ	7.4	5.0	1.5	轆轤成形
	123	かわらけ	11.4	7.0	3.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	124	かわらけ	(10.2)	(6.2)	2.8	轆轤成形
	125	かわらけ	(12.4)	(7.4)	3.5	轆轤成形
	126	かわらけ	(12.0)	(8.6)	3.3	轆轤成形
	127	かわらけ	(12.6)	(9.0)	2.7	轆轤成形
	128	かわらけ	(11.4)	(6.8)	3.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	129	かわらけ	(12.4)	(7.2)	3.1	轆轤成形
	130	かわらけ	(14.0)	(8.2)	3.2	轆轤成形
	131	かわらけ	(13.2)	(9.2)	3.1	轆轤成形
	132	かわらけ	(14.6)	(8.3)	3.6	轆轤成形
	133	かわらけ	12.2	7.4	3.0	轆轤成形
	134	かわらけ	(13.4)	(7.8)	3.0	轆轤成形
	135	かわらけ	(14.0)	(7.8)	3.2	轆轤成形
	136	青磁 蓮弁文碗	(14.8)			
	137	青磁 蓮弁文碗				
	138	白磁 四耳壺				
	139	常滑 甕				
	140	常滑 甕				
	141	常滑 甕				
	142	常滑片口鉢(II類)	(32.0)			8~9期
	143	常滑片口鉢(II類)		(17.4)		
	144	滑石 スタンプ	残長1.8	幅4.2	厚2.0	唐草・花菱
	145	鉄製品 釘	残長4.3	幅0.5	厚0.3	
	146	銭 紹熙元寶	径2.3	重g(1.5)		初鑄年1190年(南宋)背四
	147	銭 皇宗通寶	径2.4	重g2.8		初鑄年1038年(北宋)真書

図10 第2面 構成土出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	148	かわらけ	(7.4)	4.8	1.5	轆轤成形
	149	かわらけ	(7.2)	4.8	2.4	轆轤成形
	150	かわらけ	(8.0)	4.6	1.9	轆轤成形
	151	かわらけ	(7.4)	(4.4)	1.6	轆轤成形
	152	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.2	轆轤成形
	153	かわらけ	(7.2)	(4.8)	1.4	轆轤成形
	154	かわらけ	7.4	5.2	1.8	轆轤成形
	155	かわらけ	(8.0)	5.6	1.7	轆轤成形
	156	かわらけ	(7.6)	5.2	1.8	轆轤成形

	157	かわらけ	(7.6)	6.2	1.3	轆轤成形
	158	かわらけ	(7.4)	5.4	1.6	轆轤成形
	159	かわらけ	(7.4)	5.0	1.6	轆轤成形
	160	かわらけ	(7.2)	5.4	1.7	轆轤成形
	161	かわらけ	(7.2)	(4.8)	1.7	轆轤成形
	162	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.6	轆轤成形
	163	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.5	轆轤成形
	164	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.3	轆轤成形
	165	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.6	轆轤成形
	166	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.7	轆轤成形
	167	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.7	轆轤成形
	168	かわらけ	(8.0)	(5.4)	2.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	169	かわらけ	7.0	4.0	2.1	轆轤成形
	170	かわらけ	6.7	4.5	2.0	轆轤成形
	171	かわらけ	7.2	4.5	2.3	轆轤成形
	172	かわらけ	7.0	4.2	2.4	轆轤成形 体部に穿孔1箇所
	173	かわらけ	(7.0)	4.0	2.2	轆轤成形
	174	かわらけ	6.3	4.6	1.6	轆轤成形
	175	かわらけ	(7.2)	(4.8)	1.9	轆轤成形
	176	かわらけ	(8.8)	(6.0)	1.2	轆轤成形
	177	かわらけ	(8.0)	(5.4)	1.7	轆轤成形
	178	かわらけ	7.4	5.0	1.7	轆轤成形
	179	かわらけ	7.5	5.6	1.7	轆轤成形
	180	かわらけ	7.0	4.0	1.5	轆轤成形
	181	かわらけ	7.6	5.6	1.7	轆轤成形
	182	かわらけ	7.1	5.1	1.8	轆轤成形
	183	かわらけ	(8.6)	(5.8)	2.0	轆轤成形
	184	かわらけ	7.0	3.3	1.4	轆轤成形
	185	かわらけ	(7.0)	(4.2)	1.7	轆轤成形
	186	かわらけ	7.7	5.8	1.9	轆轤成形 口縁部に煤付着
	187	かわらけ	7.3	4.8	1.6	轆轤成形
	188	かわらけ	7.2	6.0	1.5	轆轤成形
	189	かわらけ	(7.1)	(4.7)	1.5	轆轤成形
	190	かわらけ	(7.7)	(6.1)	1.8	轆轤成形
	191	かわらけ	12.8	8.0	3.2	轆轤成形
	192	かわらけ	(10.8)	(7.0)	3.3	轆轤成形
	193	かわらけ	(13.0)	(7.4)	3.1	轆轤成形
	194	かわらけ	12.4	7.55	3.3	轆轤成形
	195	かわらけ	(12.2)	(7.2)	3.0	轆轤成形
	196	かわらけ	(12.8)	(7.4)	3.3	轆轤成形
	197	かわらけ	(12.8)	(6.2)	3.3	轆轤成形
	198	かわらけ	(11.4)	(7.0)	3.4	轆轤成形
	199	かわらけ	(13.2)	(8.0)	3.6	轆轤成形
	200	かわらけ	12.8	8.0	3.4	轆轤成形
	201	かわらけ	13.2	8.4	3.6	轆轤成形
	202	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.1	轆轤成形
	203	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.4	轆轤成形
	204	かわらけ	(11.8)	(7.6)	3.0	轆轤成形
	205	かわらけ	(11.8)	(7.8)	3.3	轆轤成形
	206	かわらけ	(13.6)	(8.2)	3.4	轆轤成形
	207	かわらけ	12.3	7.1	3.4	轆轤成形
	208	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.1	轆轤成形
	209	かわらけ	11.8	7.2	3.7	轆轤成形
	210	かわらけ	13.2	(8.2)	3.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	211	かわらけ	(11.0)	(7.0)	3.1	轆轤成形

図11 第2面 構成土出土遺物(2)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	212	かわらけ	12.5	7.25	3.6	轆轤成形
	213	かわらけ	12.0	7.2	3.2	轆轤成形
	214	かわらけ	12.4	7.3	3.5	轆轤成形 口縁部に煤付着
	215	かわらけ	(12.7)	(7.9)	3.6	轆轤成形 口縁部に煤付着

	216	かわらけ	(11.7)	(6.4)	3.4	轆轤成形
	217	かわらけ	(12.0)	(6.7)	3.5	轆轤成形 口縁部に煤付着
	218	かわらけ	(12.0)	(6.6)	3.2	轆轤成形
	219	かわらけ	(11.4)	(7.4)	3.4	轆轤成形
	220	かわらけ	(11.8)	(7.4)	3.3	轆轤成形
	221	かわらけ	(12.4)	(7.6)	3.0	轆轤成形
	222	かわらけ	(11.6)	(6.4)	3.4	轆轤成形
	223	かわらけ	(11.2)	(6.6)	3.6	轆轤成形
	224	白磁 口兀皿	(12.8)	(9.0)	2.4	景德鎮
	225	青白磁 梅瓶蓋	(6.8)			
	226	瀬戸 片口小瓶				
	227	瀬戸 卸皿	(13.4)			縁灰釉 ツケガケ
	228	瀬戸 入子	2.1	1.8	0.6	花弁8
	229	瓦器質 黒縁皿	(11.8)			
	230	渥美 甕				
	231	常滑 甕				
	232	常滑 甕				
	233	常滑 甕		(20.6)		
	234	常滑 甕				
	235	常滑 甕				
	236	常滑 甕				
	237	常滑 甕		(12.2)		
	238	常滑 甕				
	239	常滑片口鉢 (I類)				
	240	常滑片口鉢 (I類)				
	241	常滑片口鉢 (I類)				
	242	常滑片口鉢 (I類)				
	243	常滑片口鉢 (I類)				
	244	常滑片口鉢 (I類)				
	245	常滑片口鉢 (I類)		(10.8)		
	246	常滑片口鉢 (I類)		(13.4)		
	247	常滑片口鉢 (I類)		(13.3)		
	248	常滑片口鉢 (II類)				
	249	磨り常滑	長3.2	幅2.4	厚1.0	

図12 第2面 構成土出土遺物(3)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	250	男瓦			厚2.0	
	251	男瓦			厚1.8	
	252	男瓦			厚2.0	
	253	女瓦			厚2.0	
	254	女瓦			厚2.0	
	255	女瓦			厚2.0	
	256	女瓦			厚2.2	
	257	女瓦			厚1.9	永福寺女瓦A類

図13 第2面 構成土出土遺物(4)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	258	女瓦			厚2.1	
	259	女瓦			厚2.2	
	260	女瓦			厚2.2	
	261	女瓦			厚2.1	

図14 第2面 構成土出土遺物(5)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	262	火鉢				土器質 煤付着
	263	火鉢				菊家文スタンプ
	264	火鉢		(24.0)	9.6	瓦質
	265	火鉢				土器質
	266	火鉢	(31.4)	(11.0)	7.6	
	267	火鉢				
	268	火鉢				

269	滑石 スタンプ	残長3.2	残幅3.6	残厚1.2	花菱の集合体
270	砥石	残長3.2	幅3.4	厚0.7	鳴滝仕上砥
271	砥石	残長7.2	幅3.0	厚2.6	鳴滝中砥
272	鉄製品 釘	残長4.0	残幅0.5	残厚0.4	
273	鉄製品 釘	残長4.5	残幅0.6	残厚0.4	
274	鉄製品 釘	残長5.9	残幅0.6	残厚0.3	
275	鉄製品 釘	残長7.0	残幅0.8	残厚0.6	
276	銅製品 器種不明	残長3.2	残幅2.3	残厚0.1	
277	鉄製品 釘	残長3.0	残幅0.3	残厚0.3	
278	鉄製品 釘	残長2.9	残幅0.5	残厚0.4	
279	鉄製品 釘	残長3.1	残幅0.4	残厚0.2	
280	鉄製品 釘	残長3.8	残幅0.5	残厚0.4	
281	銭 開元通寶	径2.4	重g2.5		初鑄年960年(南唐)隸書
282	銭 至道元寶	径2.5	重g3.8		初鑄年995年(北宋)行書
283	銭 天禧通寶	径2.5	重g3.0		初鑄年1017年(北宋)隸書
284	銭 明道元寶	径2.4	重g2.9		初鑄年1032年(北宋)篆書
285	銭 元祐通寶	径2.4	重g3.3		初鑄年1086年(北宋)行書
286	銭 元祐通寶	径2.4	重g2.3		初鑄年1086年(北宋)行書
287	銭 咸淳元寶	径2.4	重g3.4		初鑄年1265年(南宋)背四か
288	磨り銭	径2.2	重g1.8		

図16 第3面 井戸出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
井戸	1	かわらけ	7.6	5.6	1.2	轆轤成形
	2	かわらけ	7.0	5.7	2.0	轆轤成形 口縁部に煤付着
	3	かわらけ	7.5	5.6	1.7	轆轤成形
	4	かわらけ	(7.2)	4.9	1.8	轆轤成形 口縁部に煤付着
	5	かわらけ	(7.0)	(4.2)	1.6	轆轤成形
	6	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.5	轆轤成形
	7	かわらけ	(7.7)	(5.2)	1.8	轆轤成形
	8	かわらけ	7.7	5.4	1.7	轆轤成形
	9	かわらけ	7.3	5.4	1.9	轆轤成形 口縁部に煤付着
	10	かわらけ	6.9	5.2	1.6	轆轤成形
	11	かわらけ	7.4	5.5	1.6	轆轤成形
	12	かわらけ	(8.0)	(4.4)	2.1	轆轤成形
	13	かわらけ	(8.0)	6.2	1.5	轆轤成形
	14	かわらけ	(7.2)	4.7	1.8	轆轤成形
	15	かわらけ	(7.3)	(4.8)	1.9	轆轤成形
	16	かわらけ	7.4	6.9	1.4	轆轤成形
	17	かわらけ	(7.8)	5.2	1.5	轆轤成形
	18	かわらけ	12.5	7.9	3.3	轆轤成形
	19	かわらけ	(10.4)	(7.8)	3.1	轆轤成形
	20	かわらけ	12.3	8.5	3.5	轆轤成形
	21	かわらけ	11.8	7.7	3.5	轆轤成形
	22	かわらけ	13.4	8.3	3.5	轆轤成形
	23	かわらけ	(13.2)	(7.0)	3.4	轆轤成形
	24	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.2	轆轤成形 口縁部・内側に煤付着
	25	かわらけ	10.5	6.2	3.1	轆轤成形
	26	かわらけ	12.5	7.9	3.1	轆轤成形
	27	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.1	轆轤成形
	28	かわらけ	13.3	8.0	3.4	轆轤成形
	29	かわらけ	(13.2)	(7.6)	3.6	轆轤成形
	30	かわらけ	13.4	7.9	3.3	轆轤成形
	31	かわらけ	13.5	7.5	3.5	轆轤成形
	32	かわらけ	(12.7)	(8.0)	3.2	轆轤成形
	33	かわらけ	(11.8)	7.2	3.2	轆轤成形
	34	かわらけ	12.7	7.1	3.2	轆轤成形
	35	かわらけ	11.7	8.0	3.0	轆轤成形
	36	かわらけ	(11.4)	(6.8)	3.1	轆轤成形
	37	かわらけ	(12.8)	(7.8)	3.3	轆轤成形
	38	かわらけ	12.1	7.8	3.5	轆轤成形
	39	かわらけ	13.1	8.3	3.2	轆轤成形

	40	かわらけ	12.6	7.5	3.7	轆轤成形
	41	かわらけ	12.9	7.5	3.2	轆轤成形
	42	かわらけ	12.2	7.5	3.0	轆轤成形 穿孔
	43	かわらけ	11.5	8.4	2.9	轆轤成形
	44	かわらけ	(11.0)	(6.6)	2.8	轆轤成形

図17 第3面 井戸出土遺物(2)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
井戸	45	白磁 合子の身	(7.0)	内径(5.6))	
	46	白磁 口兀皿	(8.6)	5.2	2.5	
	47	常滑 龍				縁帯幅3.0 6a型式
	48	常滑 龍				縁帯幅3.3 7型式
	49	常滑 龍				縁帯幅2.4 6a型式
	50	常滑 龍				6a型式
	51	常滑 龍				竹管φ1.0
	52	常滑片口鉢(I類)				
	53	常滑片口鉢(I類)				
	54	磨り常滑	長5.1	幅3.5	厚1.1	
	55	磨り常滑	長7.0	幅6.0	厚1.2	
	56	磨り常滑	長10.6	幅8.2	厚1.0	
	57	須恵器				
	58	男瓦			厚1.8	
	59	火鉢				瓦質 内面からの貫通孔有り
	60	火鉢				瓦質
	61	火鉢	30.0	20.0	7.6	瓦質
	62	滑石 鍋				
	63	鉄製品 刃物か	残長4.7	幅1.9	厚0.6	
	64	鉄製品 釘	残長3.8	幅0.5	厚0.5	
	65	鉄製品 釘	残長4.4	幅0.5	厚0.4	
	66	鉄製品 釘	残長3.5	幅0.5	厚0.1	
	67	鉄製品 釘	残長3.0	幅0.6	厚0.5	
	68	鉄製品 釘	残長3.2	幅0.5	厚0.6	
	69	鉄製品 釘	残長3.7	幅0.5	厚0.2	

図18 第3面 直上出土遺物

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
3面直上	70	土製品 器種不明	24.0	16.0		最大径25.4、内径13.0

図19 第3面 構成土出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	71	かわらけ	(8.4)			手捏ね成形
	72	かわらけ	7.6	5.0	1.7	轆轤成形
	73	かわらけ	7.4	5.4	1.7	轆轤成形
	74	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.7	轆轤成形
	75	かわらけ	(7.2)	(5.6)	1.4	轆轤成形
	76	かわらけ	(8.2)	5.8	1.4	轆轤成形
	77	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	轆轤成形
	78	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.4	轆轤成形
	79	かわらけ	(8.4)	(6.2)	1.5	轆轤成形
	80	かわらけ	(7.9)	(5.2)	1.7	轆轤成形 口縁部に煤付着
	81	かわらけ	(7.7)	(6.0)	1.5	轆轤成形
	82	かわらけ	(7.5)	(5.8)	1.8	轆轤成形
	83	かわらけ	(7.6)	(5.2)	2.4	轆轤成形
	84	かわらけ	(7.4)	(5.3)	1.5	轆轤成形
	85	かわらけ	(7.4)	(4.6)	1.9	轆轤成形
	86	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.7	轆轤成形
	87	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.8	轆轤成形
	88	かわらけ		(4.6)		轆轤成形
	89	かわらけ	(11.7)	(7.4)	2.9	轆轤成形
	90	かわらけ	(11.7)	(6.4)	3.6	轆轤成形
	91	かわらけ	(12.0)	7.4	3.1	轆轤成形
	92	かわらけ	(11.6)	(7.2)	3.2	轆轤成形

	93	かわらけ	(12.4)	(8.4)	3.0	轆轤成形
	94	かわらけ	12.4	8.2	3.2	轆轤成形 全体に煤付着
	95	かわらけ	(12.2)	7.4	3.6	轆轤成形
	96	かわらけ	(12.8)	8.0	3.3	轆轤成形
	97	かわらけ	12.4	7.8	3.0	轆轤成形
	98	かわらけ	12.4	7.8	3.1	轆轤成形
	99	かわらけ	11.6	7.8	3.3	轆轤成形 体部に二箇所穿孔有り
	100	青磁 無文鉢	(13.8)			貫入有り
	101	青磁 無文鉢	(13.8)			貫入有り
	102	青磁 蓮弁碗	(13.0)			
	103	青白磁 梅瓶				
	104	白磁 四耳壺耳部		耳幅2.0	厚0.8	
	105	瀬戸 四耳壺	(11.2)	(7.8)		
	106	常滑 甕				7型式
	107	常滑 甕				6a型式
	108	常滑 甕				縁帯幅1.8 6a型式

図20 第3面 構成土出土遺物(2)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	109	常滑 甕	39.8			縁帯幅1.8 6a型式
	110	常滑 甕	19.0			縁帯幅2.4 6a型式
	111	常滑 甕		(18.0)		
	112	常滑 壺			9.8	
	113	常滑片口鉢(I類)		(13.4)		
	114	常滑片口鉢(I類)	(24.4)	(11.8)	7.9	
	115	常滑片口鉢(II類)	(31.1)			
	116	常滑片口鉢(II類)	(33.0)	(17.0)	13.2	
	117	常滑片口鉢(I類)				
	118	常滑片口鉢(I類)				
	119	常滑片口鉢(I類)				
	120	常滑片口鉢(I類)				
	121	常滑片口鉢(II類)				
	122	常滑片口鉢(I類)				
	123	常滑片口鉢(I類)				
	124	磨り常滑	長5.6	幅4.8	厚1.4	常滑の加工品(甕・鉢不明)
	125	磨り常滑	長7.3	幅5.8	厚0.9	常滑片口鉢I類の加工品

図21 第3面 構成土出土遺物(3)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	126	男瓦 玉縁			厚2.4	
	127	男瓦			厚1.5	
	128	男瓦			厚1.6	
	129	男瓦			厚2.0	
	130	男瓦			厚2.2	
	131	男瓦			厚1.3	
	132	男瓦			厚1.9	
	133	男瓦			厚1.8	
	134	男瓦			厚2.0	

図22 第3面 構成土出土遺物(4)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	135	女瓦			厚2.3	
	136	女瓦			厚2.0	
	137	女瓦			厚2.0	
	138	女瓦			厚2.3	

図23 第3面 構成土出土遺物(5)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	139	女瓦			厚1.7	
	140	女瓦			厚2.2	
	141	女瓦			厚1.8	
	142	女瓦			厚2.0	

	143	女瓦		厚2.2	
--	-----	----	--	------	--

図24 第3面 構成土出土遺物(6)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	144	女瓦			厚2.2	
	145	女瓦			厚2.2	隅切瓦
	146	女瓦			厚2.2	隅切瓦
	147	女瓦			厚2.0	隅切瓦
	148	女瓦			厚1.6	隅切瓦

図25 第3面 構成土出土遺物(7)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	149	女瓦			厚2.5	
	150	女瓦			厚1.8	
	151	女瓦			厚2.2	
	152	女瓦			厚2.0	隅切瓦
	153	女瓦			厚2.3	隅切瓦

図26 第3面 構成土出土遺物(8)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
	154	女瓦			厚2.0	
	155	女瓦			厚1.5	
	156	女瓦	長40.7	幅32.6	厚2.1～2.	隅切瓦 隅切2箇所
	157	軒丸瓦			厚1.7	
	158	軒丸瓦			厚1.5	
	159	面戸瓦			厚1.8	

図27 第3面 構成土出土遺物(9)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	160	火鉢	(37.0)			瓦質
	161	火鉢	(38.0)	28.0	7.5	土器質
	162	石製品 砥	残長5.2	幅4.0	厚1.0～0.	鳴滝産
	163	砥石	残長6.3	幅3.8	厚(0.7)	鳴滝産仕上砥
	164	鉄製品 釘	残長4.1	幅0.5	厚0.5	
	165	鉄製品 釘	残長4.5	幅0.4	厚0.4	
	166	鉄製品 釘	残長6.1	幅0.5	厚0.4	
	167	鉄製品 器種不明	残長5.5	幅8.2	残厚0.8	
	168	銭 切符元寶	径2.2	重g1.9		初鑄年1008年(北宋)
	169	銭 天聖元寶	径2.4	重g1.5		初鑄年1023年(北宋)篆書
	170	銭 皇宗通寶	径2.5	重g(1.9)		初鑄年1038年(北宋)真書
	171	銭 紹聖元寶	径2.4	重g2.0		初鑄年1094年(北宋)行書

図29 第4面 遺構出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
Pit18	1	かわらけ	7.8	5.9	1.7	轆轤成形
	2	かわらけ	(7.8)	5.4	1.5	轆轤成形
Pit21	3	女瓦			厚2.1	
	4	女瓦			厚1.9	
	5	女瓦			厚2.1	
Pit26	6	かわらけ	(12.9)	(8.0)	3.4	轆轤成形
	7	青磁 蓮弁文碗		4.4		
Pit28	8	鉄製品 釘	残長3.8	幅0.5	厚0.3	
Pit30	9	女瓦			厚2.2	
Pit31	10	女瓦			厚1.7	
Pit32	11	男瓦			厚1.7	
Pit33	12	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.9	轆轤成形
Pit37①	13	かわらけ	(11.6)	(8.6)	2.8	轆轤成形
土壤10	14	銭 咸平元寶	径2.5	重g3.8		初鑄年998年(北宋)

図30 第4面 遺構出土遺物(2)・面上出土遺物

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
溝状2	15	かわらけ	(7.4)	(5.4)	1.7	轆轤成形

	16	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.7	轆轤成形
	17	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.2	轆轤成形
	18	かわらけ	(7.7)	(5.3)	1.7	轆轤成形
	19	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.4	轆轤成形
	20	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	轆轤成形
	21	かわらけ	8.2	6.2	1.6	轆轤成形 口縁部に煤付着
	22	かわらけ	11.4	7.7	2.9	轆轤成形
	23	かわらけ	(11.6)	(7.3)	2.8	轆轤成形
	24	かわらけ	(11.4)	(7.0)	2.5	轆轤成形
	25	高麗青磁 蓋か				模様：牡丹か
	26	常滑 甕				
	27	磨り常滑	長7.6	幅5.7	厚1.1	
	28	鉄製品 釘	残長2.4	幅0.4	厚0.4	
	29	鉄製品 釘	残長5.1	幅0.4	厚0.3	
	30	鉄製品 釘	残長5.8	幅0.6	厚0.6	
	31	鉄製品 釘	残長7.5	幅0.5	厚0.8	
4面上	32	かわらけ		(5.2)		早島
	33	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.4	轆轤成形
	34	かわらけ	(7.6)	(5.0)	1.8	轆轤成形
	35	かわらけ	(8.3)	(6.0)	1.7	轆轤成形
	36	かわらけ	(8.1)	(6.4)	1.9	轆轤成形
	37	かわらけ	(7.7)	(5.6)	1.2	轆轤成形
	38	かわらけ	(7.4)	(5.6)	1.7	轆轤成形
	39	かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.7	轆轤成形
	40	かわらけ	(11.6)	(8.0)	3.5	轆轤成形
	41	かわらけ	(12.9)	(8.0)	3.4	轆轤成形
	42	青磁 蓮弁碗	(14.8)			
	43	白磁 口兀皿	9.4	5.6	2.8	
	44	青白磁 合子		5.4		八花弁
	45	須恵器 皿	(7.8)	(4.0)	1.5	
	46	瀬戸 四耳壺	底部	10.0		
	47	常滑 甕				6a型式
	48	常滑 甕		(17.0)		
	49	常滑 甕				
	50	常滑 甕				
	51	常滑片口鉢(I類)				
	52	花瓶				土器質
	53	薦口壺				土器質
	54	火鉢	(42.2)			瓦質
	55	鉄製品 釘	残長3.5	幅0.3	厚0.3	
	56	鉄製品 火打金	残長7.4	幅3.1	厚0.7	
	57	錢 元豊通寶	径2.3	重g2.7		初鑄年1078年(北宋)篆書

図31 第4面 構成土出土遺物

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
構成土	58	白かわらけ		(5.0)		轆轤成形
	59	かわらけ	(7.8)	(5.9)	1.2	轆轤成形
	60	かわらけ	7.6	5.8	1.7	轆轤成形 口縁部に煤付着
	61	かわらけ	7.6	5.3	1.6	轆轤成形
	62	かわらけ	7.6	6.0	1.8	轆轤成形 口縁部に煤付着
	63	かわらけ	8.0	5.5	1.7	轆轤成形
	64	かわらけ	(8.0)	(6.8)	1.7	轆轤成形
	65	かわらけ	(7.7)	(6.6)	1.7	轆轤成形
	66	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.5	轆轤成形
	67	かわらけ	(7.6)	(5.9)	1.9	轆轤成形
	68	かわらけ	(12.1)	(7.1)	3.4	轆轤成形
	69	かわらけ	(12.2)	(7.6)	2.8	轆轤成形
	70	かわらけ	(11.8)	(7.7)	3.0	轆轤成形
	71	かわらけ	(11.8)	(8.0)	2.9	轆轤成形
	72	かわらけ	(11.3)	(6.6)	3.2	轆轤成形
	73	かわらけ	(12.2)	(9.0)	2.8	轆轤成形
	74	かわらけ	(12.5)	(8.4)	3.3	轆轤成形 口縁部に煤付着

75	かわらけ	(11.5)	(7.4)	2.8	轆轤成形
76	かわらけ	(11.8)	(7.2)	3.0	轆轤成形 口縁部に煤付着
77	かわらけ	(13.2)	(8.6)	3.1	轆轤成形
78	かわらけ	(13.1)	(8.2)	3.2	轆轤成形
79	かわらけ	(11.6)	(7.6)	3.0	轆轤成形
80	白磁 口兀皿(景)	(12.8)	(9.0)	2.1	
81	常滑片口鉢(Ⅱ類)				
82	磨り常滑	長8.0	幅5.7	厚1.0	
83	瓦器質 皿				
84	須恵器 皿		(7.0)		
85	土師器 長頸壺				
86	古代 壺		(7.4)		外底面に木葉痕
87	不明				
88	銭 開元通寶	径2.3	重g(1.0)		初鑄年621年(唐)
89	銭 景祐元寶	径2.4	重g2.5		初鑄年1034年(北宋)篆書
90	銭 皇宗通寶	径2.4	重g(1.7)		初鑄年1038年(北宋)篆書
91	銭 皇宗通寶	径2.4	重g3.2		初鑄年1038年(北宋)篆書
92	銭 熙寧元寶	径2.3	重g3.1		初鑄年1068年(北宋)真書
93	銭 元豊通寶	径2.4	重g2.6		初鑄年1078年(北宋)篆書
94	銭 紹聖元寶	径2.3	重g2.6		初鑄年1094年(北宋)篆書
95	銭 不明	径2.3	重g1.5		

図32 第5面 かわらけ溜まり出土遺物(1)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
かわらけ溜ま	1	かわらけ	5.5	4.2	0.8	轆轤成形
	2	かわらけ	(5.4)	(4.2)	0.9	轆轤成形
	3	かわらけ	(8.8)	(7.2)	1.6	手捏ね成形 口縁部に煤付着
	4	かわらけ	7.8	6.0	1.6	轆轤成形
	5	かわらけ	7.6	6.0	1.5	轆轤成形
	6	かわらけ	7.7	6.5	1.5	轆轤成形
	7	かわらけ	8.1	6.1	1.7	轆轤成形
	8	かわらけ	7.9	5.7	1.6	轆轤成形
	9	かわらけ	7.9	6.4	1.8	轆轤成形
	10	かわらけ	7.5	5.6	1.5	轆轤成形
	11	かわらけ	8.1	6.2	1.5	轆轤成形
	12	かわらけ	8.0	5.9	1.7	轆轤成形
	13	かわらけ	7.6	5.8	1.4	轆轤成形
	14	かわらけ	7.9	5.6	1.7	轆轤成形 口縁部・体部に煤付着
	15	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.5	轆轤成形
	16	かわらけ	7.8	5.9	1.4	轆轤成形
	17	かわらけ	7.8	6.1	1.3	轆轤成形
	18	かわらけ	8.2	6.6	1.6	轆轤成形
	19	かわらけ	8.1	6.0	1.6	轆轤成形
	20	かわらけ	(8.0)	(5.7)	1.7	轆轤成形
	21	かわらけ	8.1	6.6	1.6	轆轤成形
	22	かわらけ	8.0	6.4	1.5	轆轤成形
	23	かわらけ	8.0	5.8	1.7	轆轤成形 口縁部に煤付着
	24	かわらけ	7.6	6.0	1.5	轆轤成形
	25	かわらけ	8.0	6.0	1.8	轆轤成形
	26	かわらけ	8.5	5.7	1.7	轆轤成形
	27	かわらけ	7.9	5.8	1.8	轆轤成形
	28	かわらけ	7.8	5.9	1.5	轆轤成形
	29	かわらけ	(8.0)	(6.4)	1.4	轆轤成形
	30	かわらけ	(8.8)	(6.2)	1.8	轆轤成形
	31	かわらけ	7.8	5.5	1.6	轆轤成形
	32	かわらけ	7.8	6.2	1.6	轆轤成形
	33	かわらけ	7.6	5.4	1.3	轆轤成形
	34	かわらけ	8.0	5.7	1.5	轆轤成形
	35	かわらけ	7.5	5.0	1.8	轆轤成形
	36	かわらけ	7.9	5.6	1.7	轆轤成形
	37	かわらけ	8.6	6.7	1.6	轆轤成形
	38	かわらけ	7.7	5.9	1.5	轆轤成形

39	かわらけ	8.0	5.7	1.4	轆轤成形
40	かわらけ	7.5	6.1	1.4	轆轤成形
41	かわらけ	7.4	5.9	1.5	轆轤成形
42	かわらけ	7.6	5.3	1.4	轆轤成形
43	かわらけ	8.1	5.4	1.8	轆轤成形
44	かわらけ	7.8	6.4	1.6	轆轤成形
45	かわらけ	7.8	6.9	1.2	轆轤成形
46	かわらけ	7.9	5.5	1.7	轆轤成形
47	かわらけ	7.7	6.1	1.3	轆轤成形
48	かわらけ	7.5	5.9	1.7	轆轤成形
49	かわらけ	7.5	6.6	1.2	轆轤成形
50	かわらけ	8.2	7.0	1.6	轆轤成形
51	かわらけ	7.7	6.1	1.6	轆轤成形
52	かわらけ	7.9	5.1	1.7	轆轤成形
53	かわらけ	7.7	5.4	1.6	轆轤成形
54	かわらけ	8.3	6.0	1.6	轆轤成形
55	かわらけ	7.6	6.1	1.5	轆轤成形
56	かわらけ	8.2	6.1	1.8	轆轤成形
57	かわらけ	7.7	6.0	1.7	轆轤成形
58	かわらけ	(8.4)	(6.6)	1.6	轆轤成形
59	かわらけ	8.1	6.5	1.3	轆轤成形
60	かわらけ	8.1	7.0	1.4	轆轤成形
61	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.3	轆轤成形
62	かわらけ	(7.8)	(6.4)	1.3	轆轤成形
63	かわらけ	12.6	8.6	3.2	轆轤成形
64	かわらけ	12.3	8.6	3.3	轆轤成形
65	かわらけ	12.3	8.3	3.0	轆轤成形
66	かわらけ	(12.0)	8.0	3.0	轆轤成形
67	かわらけ	(12.4)	(8.4)	2.9	轆轤成形
68	かわらけ	12.0	8.4	3.1	轆轤成形
69	かわらけ	11.8	8.0	3.2	轆轤成形
70	かわらけ	12.3	8.8	3.2	轆轤成形

図35 第5面 かわらけ溜まり出土遺物(2)

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
かわらけ溜ま	71	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.4	轆轤成形
	72	かわらけ	(12.0)	8.2	3.3	轆轤成形
	73	かわらけ	(12.0)	7.2	3.1	轆轤成形
	74	かわらけ	(12.0)	(8.8)	3.1	轆轤成形
	75	かわらけ	12.1	7.8	3.2	轆轤成形
	76	かわらけ	(12.6)	(9.0)	3.0	轆轤成形
	77	かわらけ	12.7	9.3	3.3	轆轤成形
	78	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.0	轆轤成形
	79	かわらけ	(12.4)	(7.2)	3.0	轆轤成形
	80	かわらけ	(10.6)	(6.4)	3.0	轆轤成形
	81	かわらけ	12.2	7.7	3.2	轆轤成形
	82	かわらけ	12.1	7.8	3.4	轆轤成形
	83	かわらけ	12.3	8.1	3.2	轆轤成形
	84	かわらけ	(11.6)	(6.8)	3.2	轆轤成形
	85	かわらけ	12.0	7.8	3.2	轆轤成形
	86	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.1	轆轤成形
	87	かわらけ	(12.4)	(8.2)	3.0	轆轤成形
	88	かわらけ	12.3	8.7	3.3	轆轤成形
	89	かわらけ	(12.2)	(6.6)	3.1	轆轤成形
	90	かわらけ	(12.0)	(7.4)	3.1	轆轤成形
	91	かわらけ	(12.0)	(7.0)	3.2	轆轤成形
	92	かわらけ	(12.4)	(7.5)	3.0	轆轤成形
	93	かわらけ	(12.2)	(8.8)	3.0	轆轤成形
	94	かわらけ	(12.2)	(8.2)	2.8	轆轤成形
	95	かわらけ	(12.4)	(8.4)	2.9	轆轤成形
	96	かわらけ	(12.2)	(8.2)	2.8	轆轤成形
	97	かわらけ	12.2	7.2	3.1	轆轤成形

	98	かわらけ	12.0	8.5	3.4	轆轤成形
	99	かわらけ	(10.9)	(4.3)	3.3	轆轤成形
	100	かわらけ	12.4	8.0	3.0	轆轤成形
	101	かわらけ	12.4	8.3	3.4	轆轤成形
	102	かわらけ	12.4	7.8	3.1	轆轤成形
	103	かわらけ	13.1	8.5	3.0	轆轤成形
	104	かわらけ	(12.0)	(7.5)	3.3	轆轤成形
	105	かわらけ	(12.0)	(6.4)	3.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	106	白かわらけ	(11.8)			手捏ね成形
	107	瓦器質 皿	9.8	6.0	2.5	暗文 菊花
	108	男瓦			厚1.8	玉縁
	109	鉄製品 器種不明	(4.0)			内側中心に突起

図36 第5面 遺構・面上・構成土出土遺物

遺構名	No	遺物名	法量(cm)			備考
			口径	底径	器高	
5面上	110	かわらけ	(4.8)	(3.0)	0.8	轆轤成形
	111	かわらけ	(7.8)	(5.4)	1.8	轆轤成形
	112	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.6	轆轤成形
	113	かわらけ	7.8	6.0	1.6	轆轤成形
	114	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.8	轆轤成形
	115	かわらけ	7.6	5.4	1.7	轆轤成形 口縁部に煤付着
	116	かわらけ	(7.6)	(5.6)	1.6	轆轤成形
	117	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.4	轆轤成形
	118	かわらけ	(12.4)	8.4	3.2	轆轤成形
	119	かわらけ	12.2	8.6	3.1	轆轤成形 口縁部に煤付着
	120	かわらけ	11.8	8.2	3.3	轆轤成形
	121	かわらけ	12.0	8.0	3.2	轆轤成形
	122	砥石	長(6.1)	幅4.9	厚4.1	天草産中砥
Pit36	123	銭 聖宋元寶	径2.4	重g3.3		初鋳年1101年(北宋)行書
	124	かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.6	轆轤成形
Pit47	125	白磁 口兀皿	(9.2)	6.0	2.4	
	126	常滑片口鉢(I類)				
Pit70	127	かわらけ	(6.4)	(4.6)	1.5	轆轤成形
土壤13	128	かわらけ	(6.7)	(4.0)	1.9	轆轤成形
構成土	129	かわらけ	(8.2)	(5.6)	1.9	轆轤成形
	130	かわらけ	(8.4)	(5.8)	1.8	轆轤成形
	131	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.4	轆轤成形
	132	かわらけ	7.6	5.9	1.5	轆轤成形
	133	かわらけ	(7.8)	(6.0)	3.0	轆轤成形
	134	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.7	轆轤成形
	135	かわらけ	7.6	6.0	1.6	轆轤成形
	136	かわらけ	8.4	6.2	1.8	轆轤成形
	137	かわらけ	7.8	5.7	1.3	轆轤成形
	138	かわらけ	12.0	7.5	3.1	轆轤成形
	139	かわらけ	12.4	8.2	3.1	轆轤成形
	140	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.4	轆轤成形
	141	かわらけ	(12.6)	8.0	3.6	轆轤成形
	142	常滑 甕				6a型式



1. 調査地北壁



2. 調査地東壁



3. 1面全景(西から)



5. 常滑甕



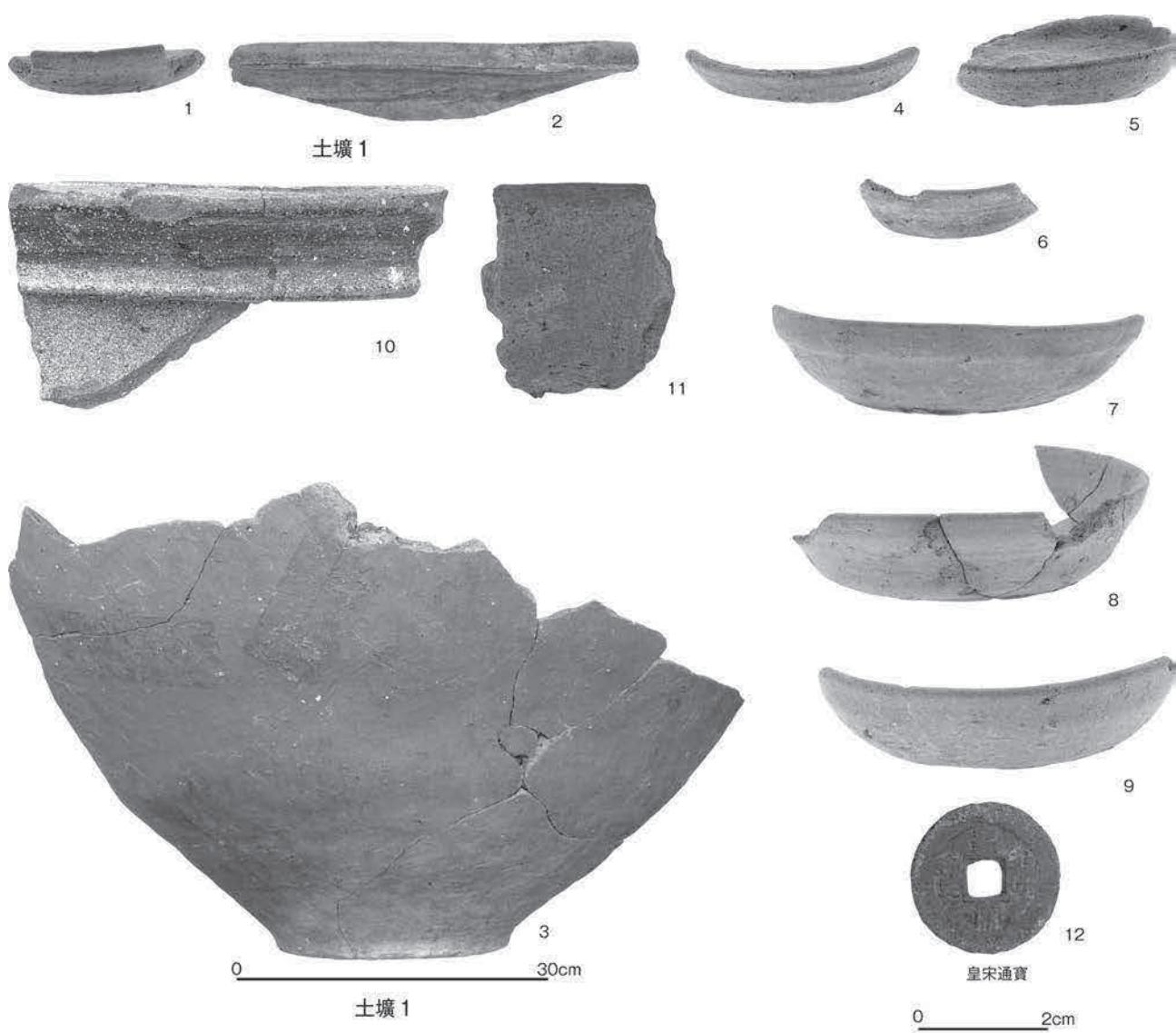
4. 1面全景(東から)



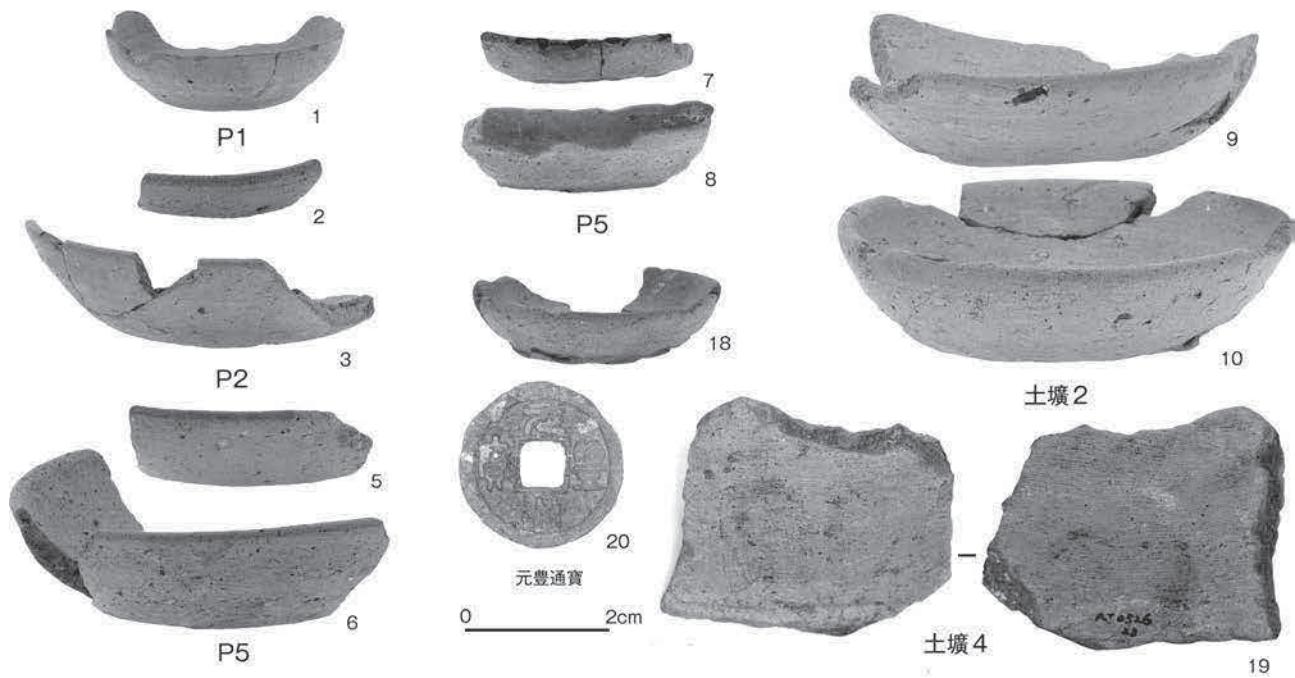
6. 2面全景(西から)



7. 2面全景(東から)

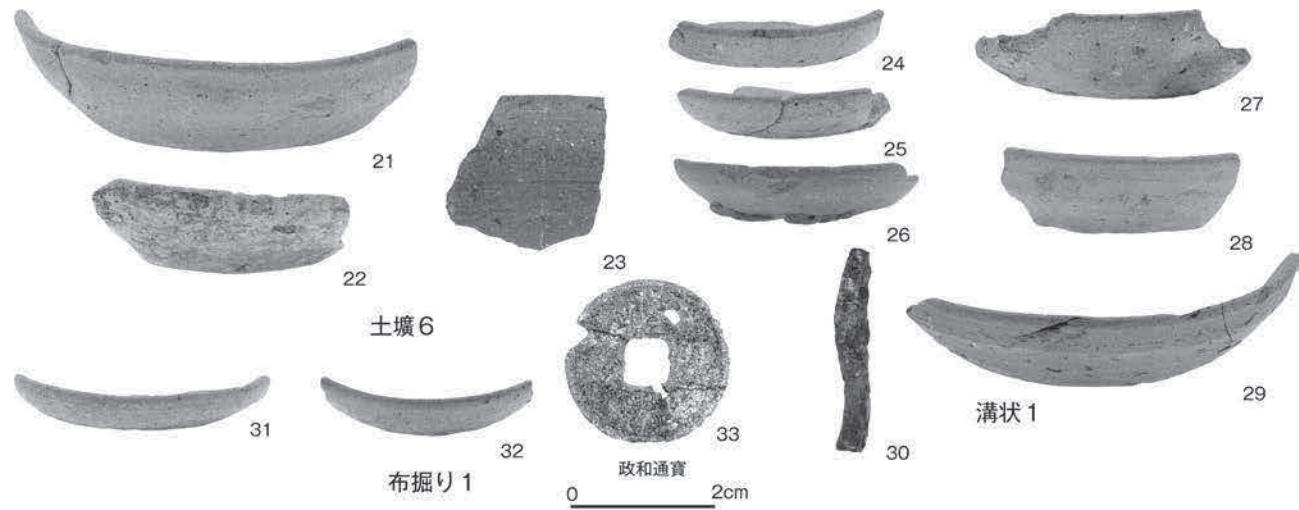


1面 遺構・構成土出土遺物

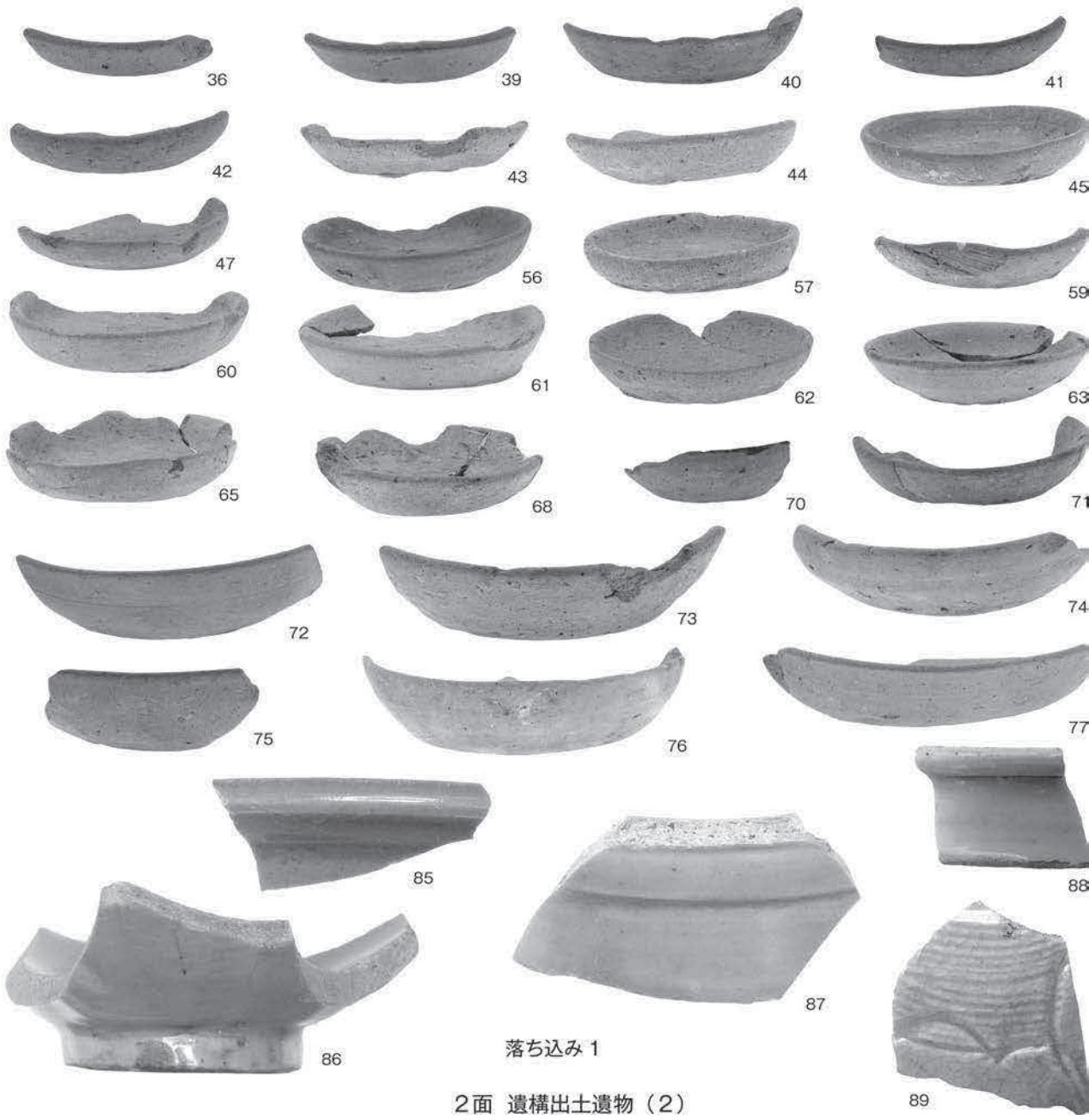


2面 遺構出土遺物（1）

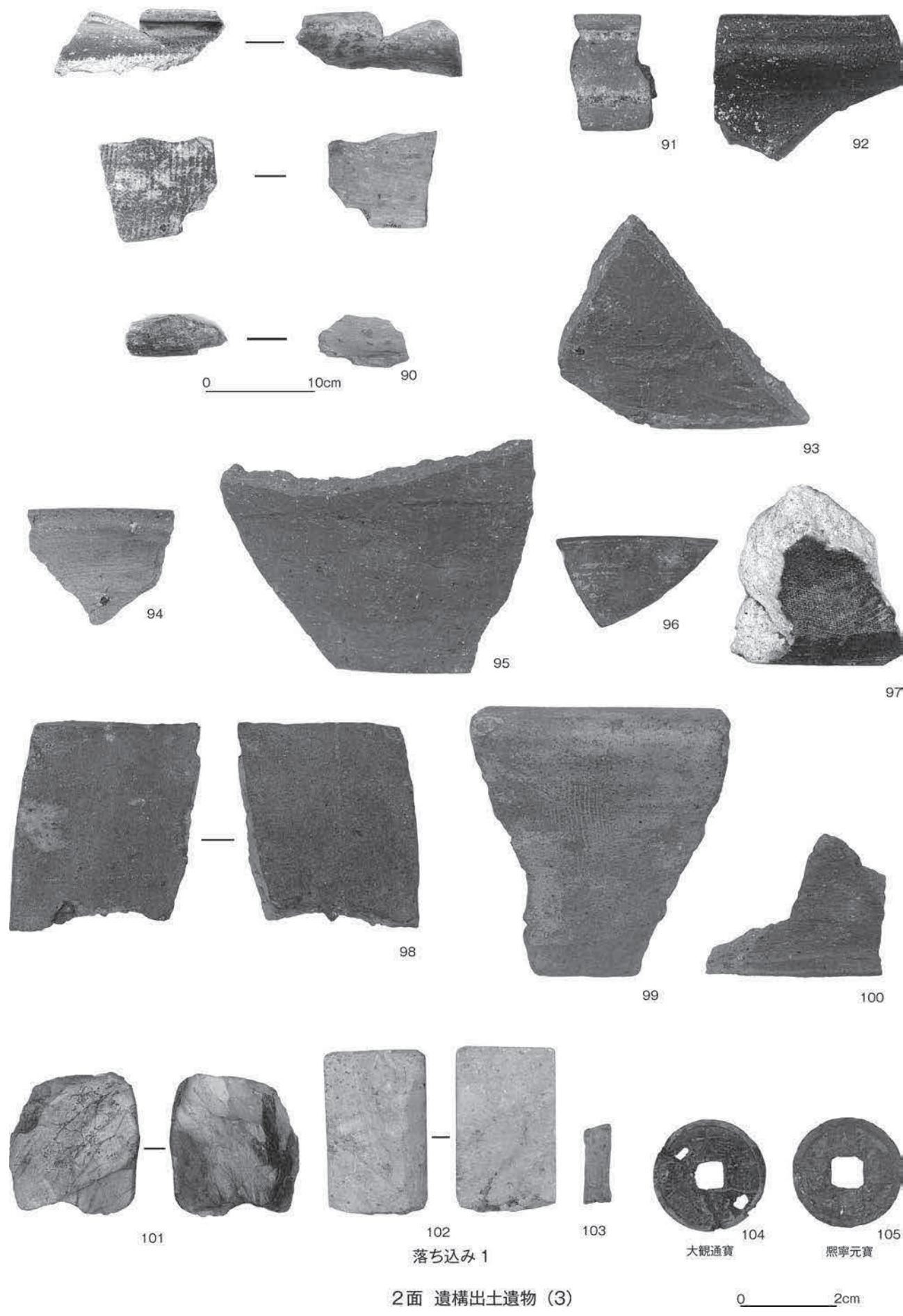
図版3



2面 遺構出土遺物 (1)

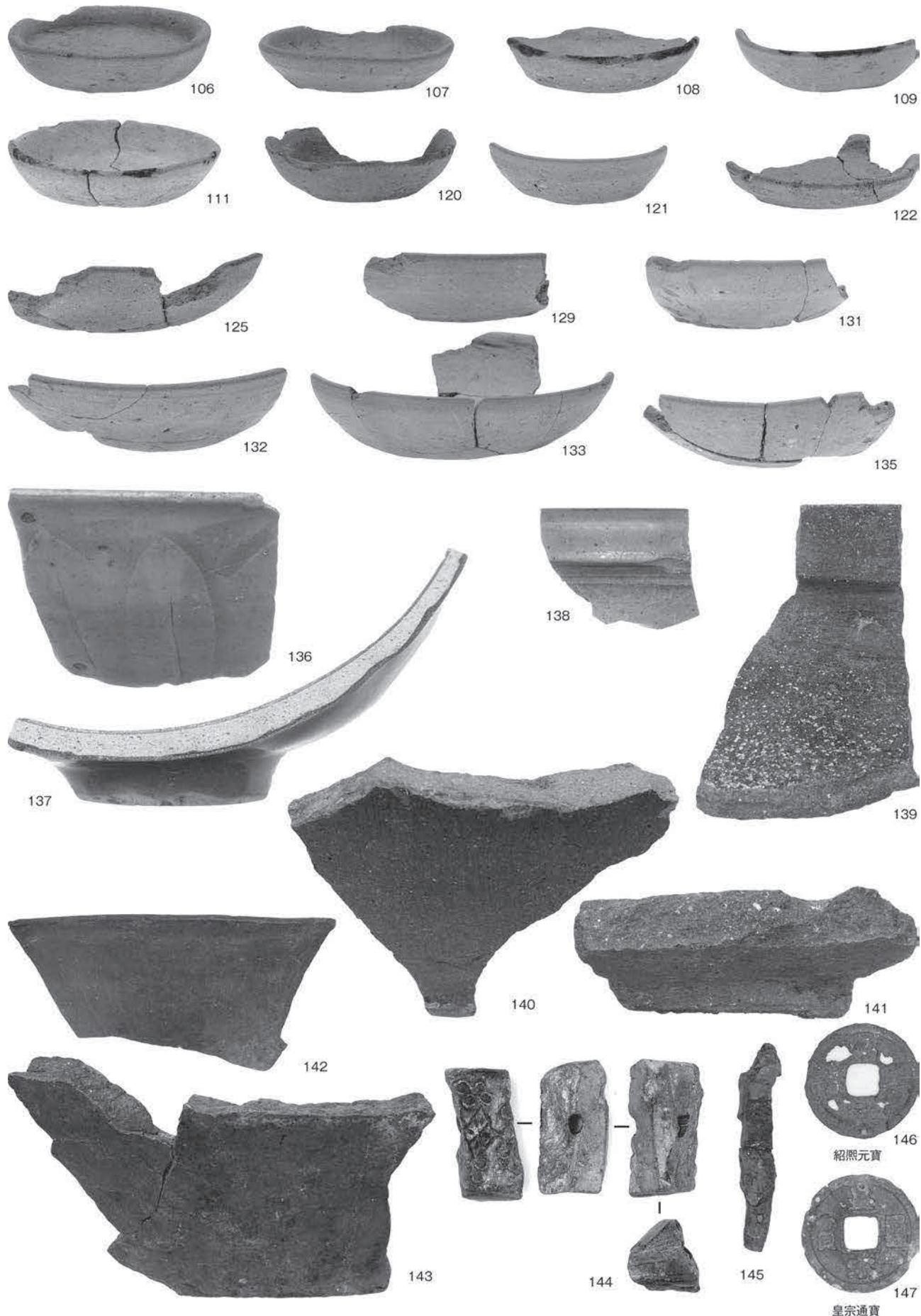


2面 遺構出土遺物 (2)



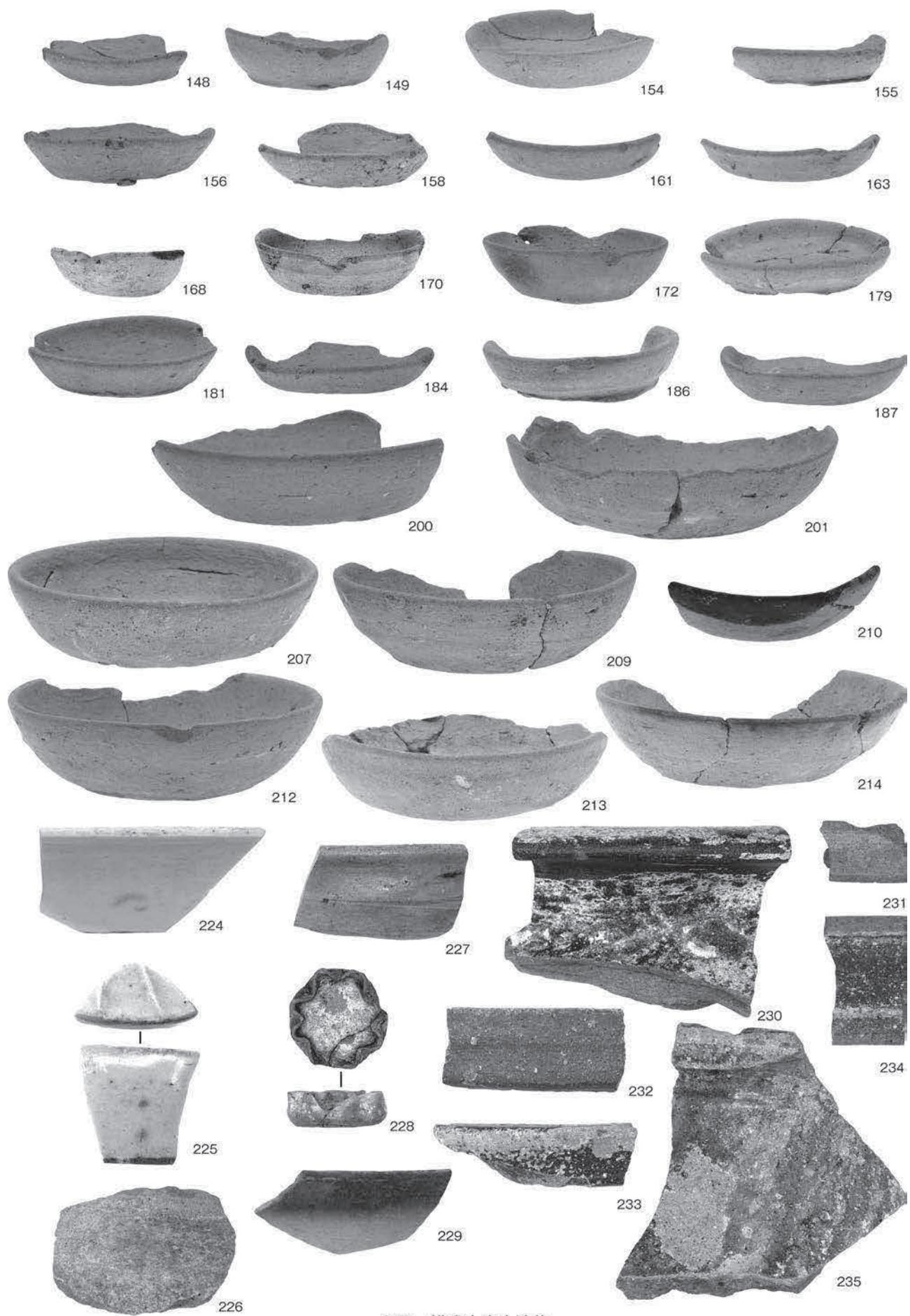
2面 遺構出土遺物 (3)

図版5



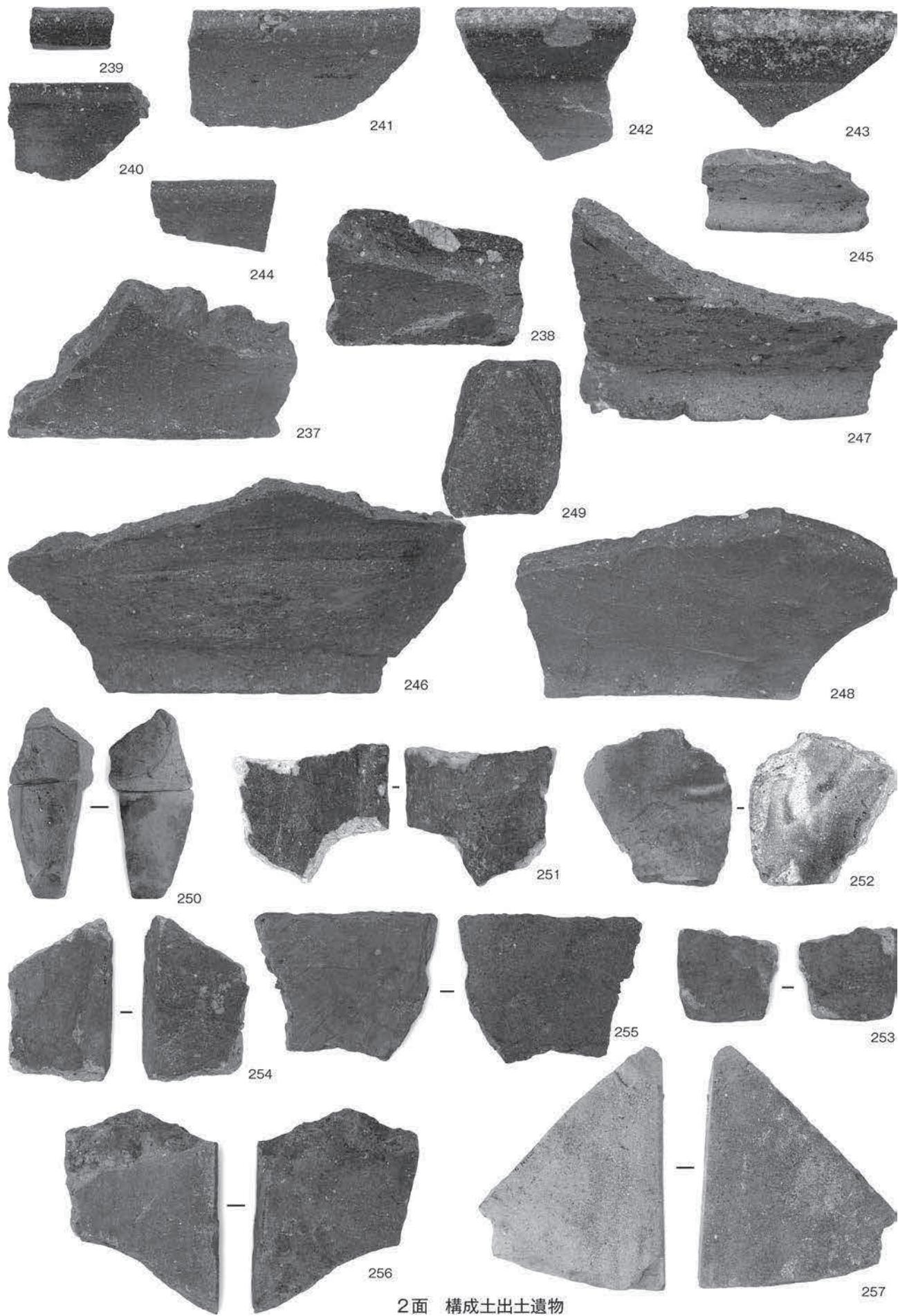
2面 出土遺物

0 2cm



2面 構成土出土遺物

図版7



2面 構成土出土遺物



2面 構成土出土遺物

0 2cm



1. 2面土坑4



2. 調査区西壁



5. 2面出土女瓦



3. 3面全景(西から)



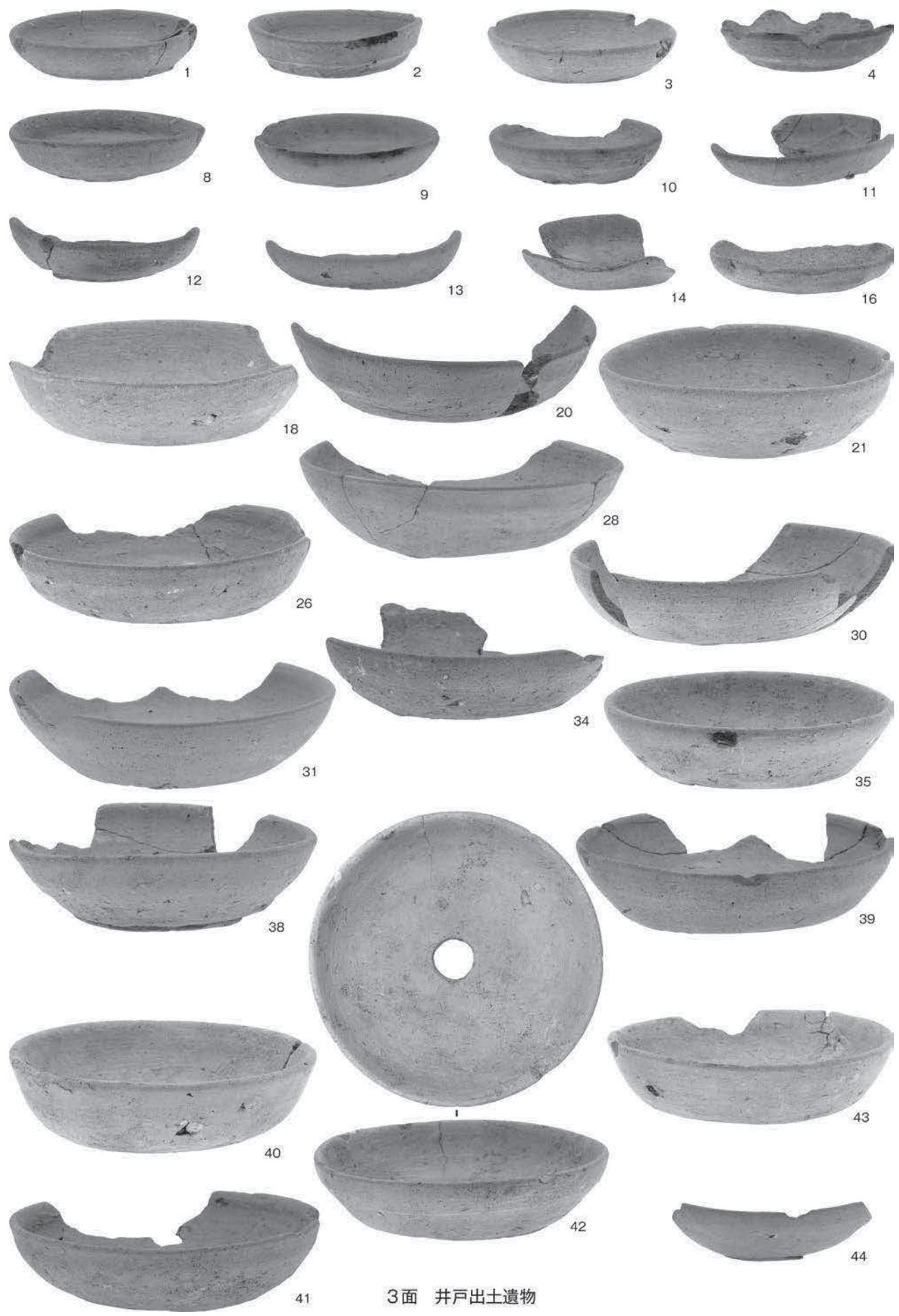
4. 3面全景(東から)



7. 3面井戸

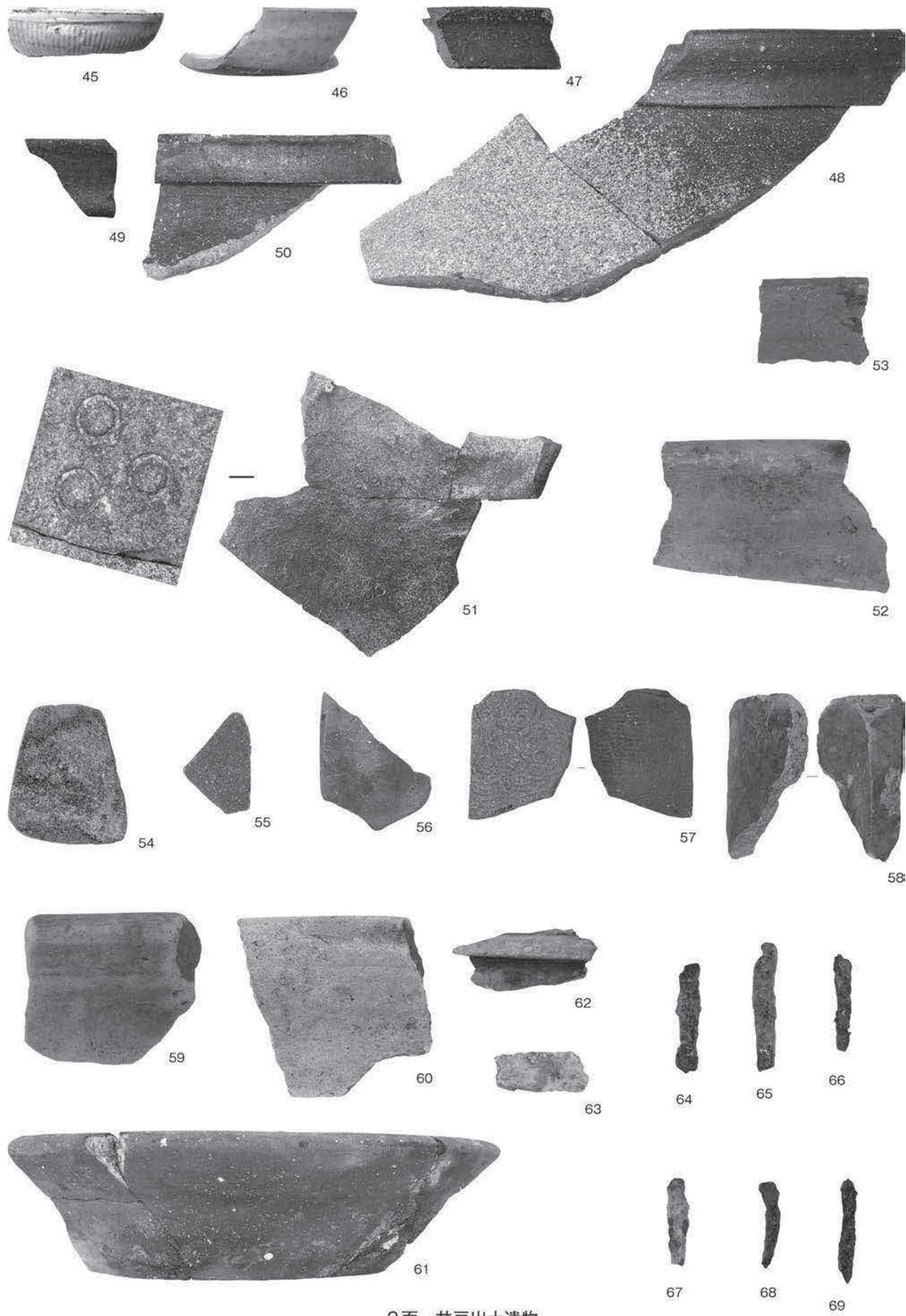


8. 3面井戸

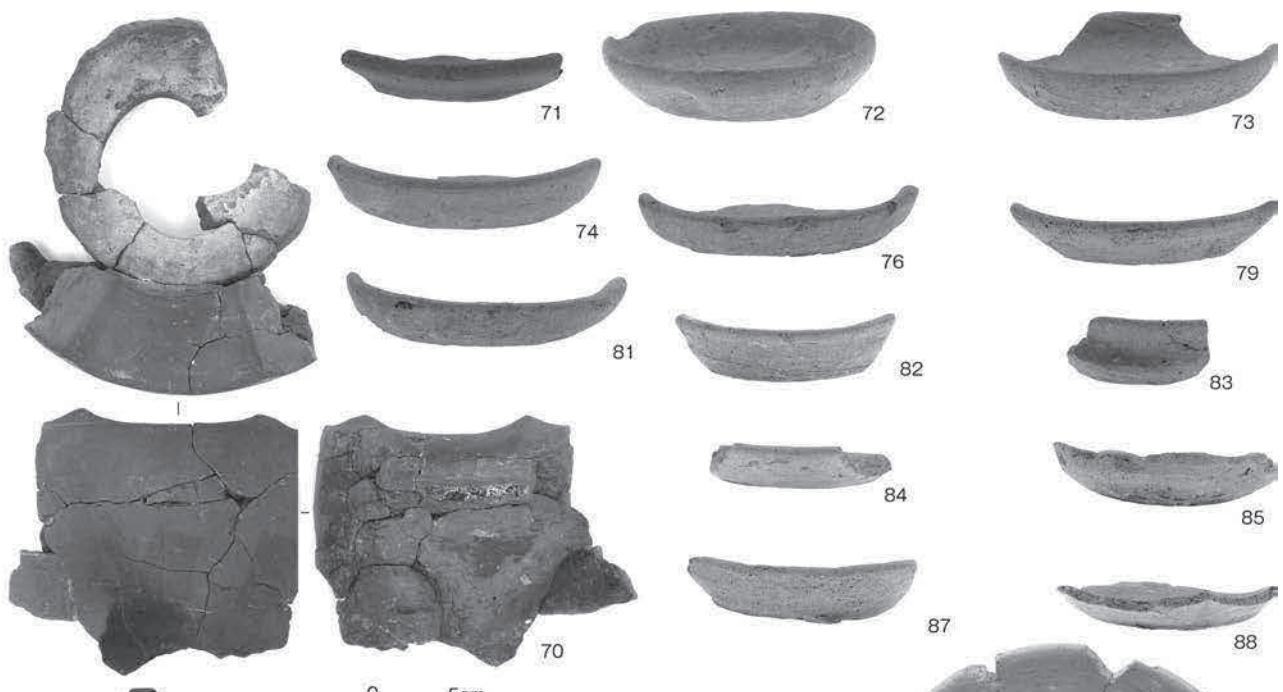


3面 井戸出土遺物

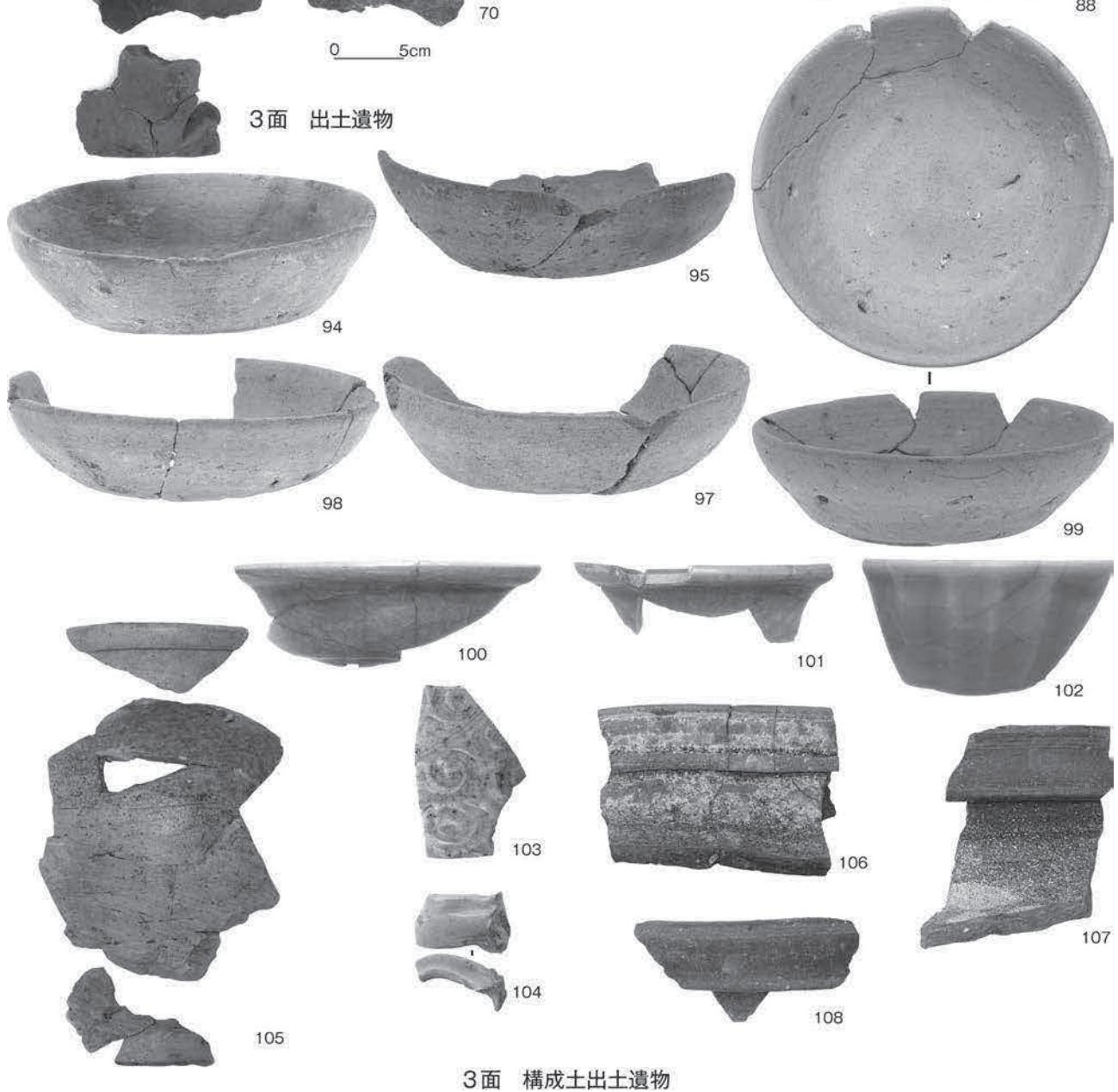
図版 11



3面 井戸出土遺物



3面 出土遺物

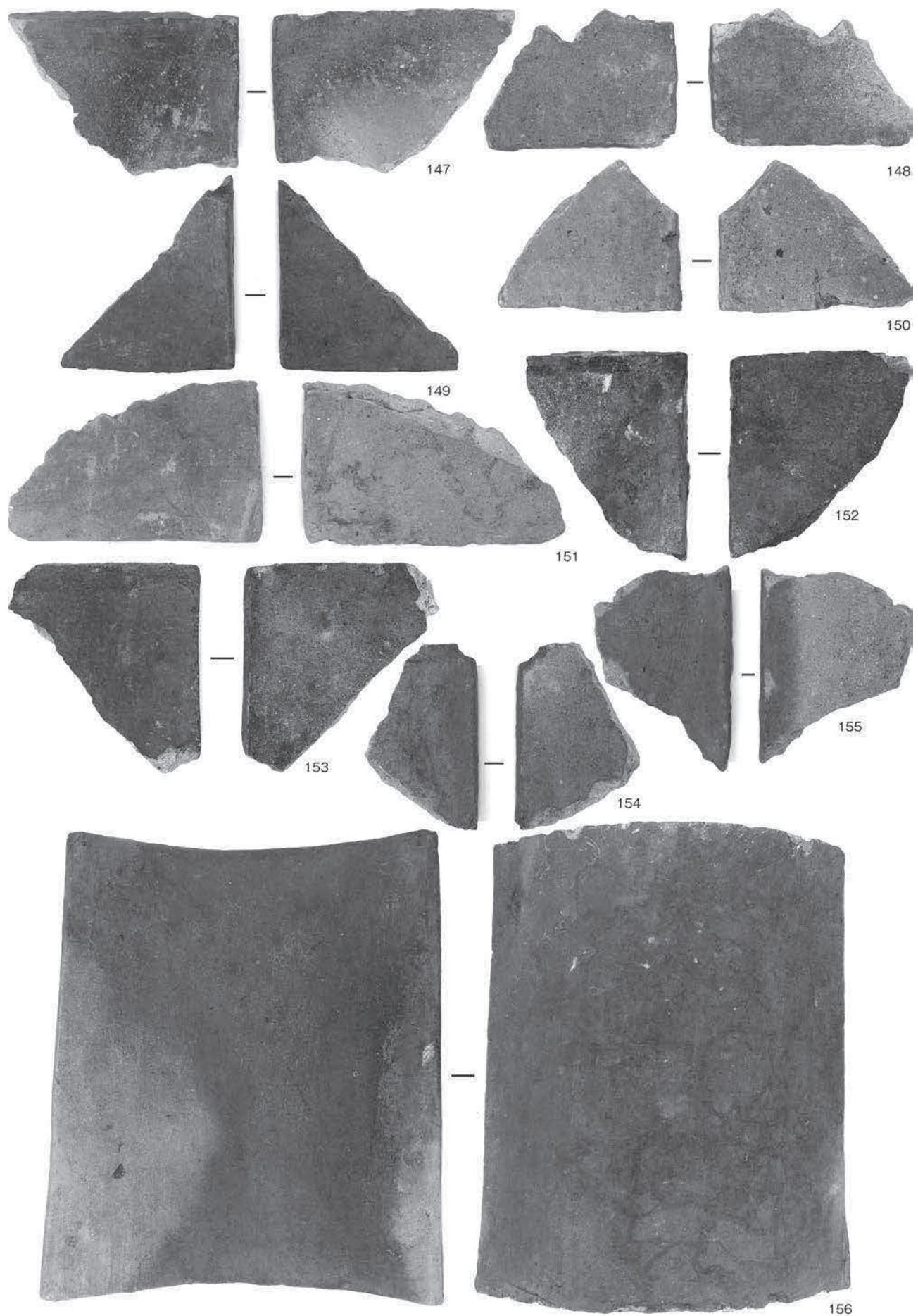


3面 構成土出土遺物

図版13

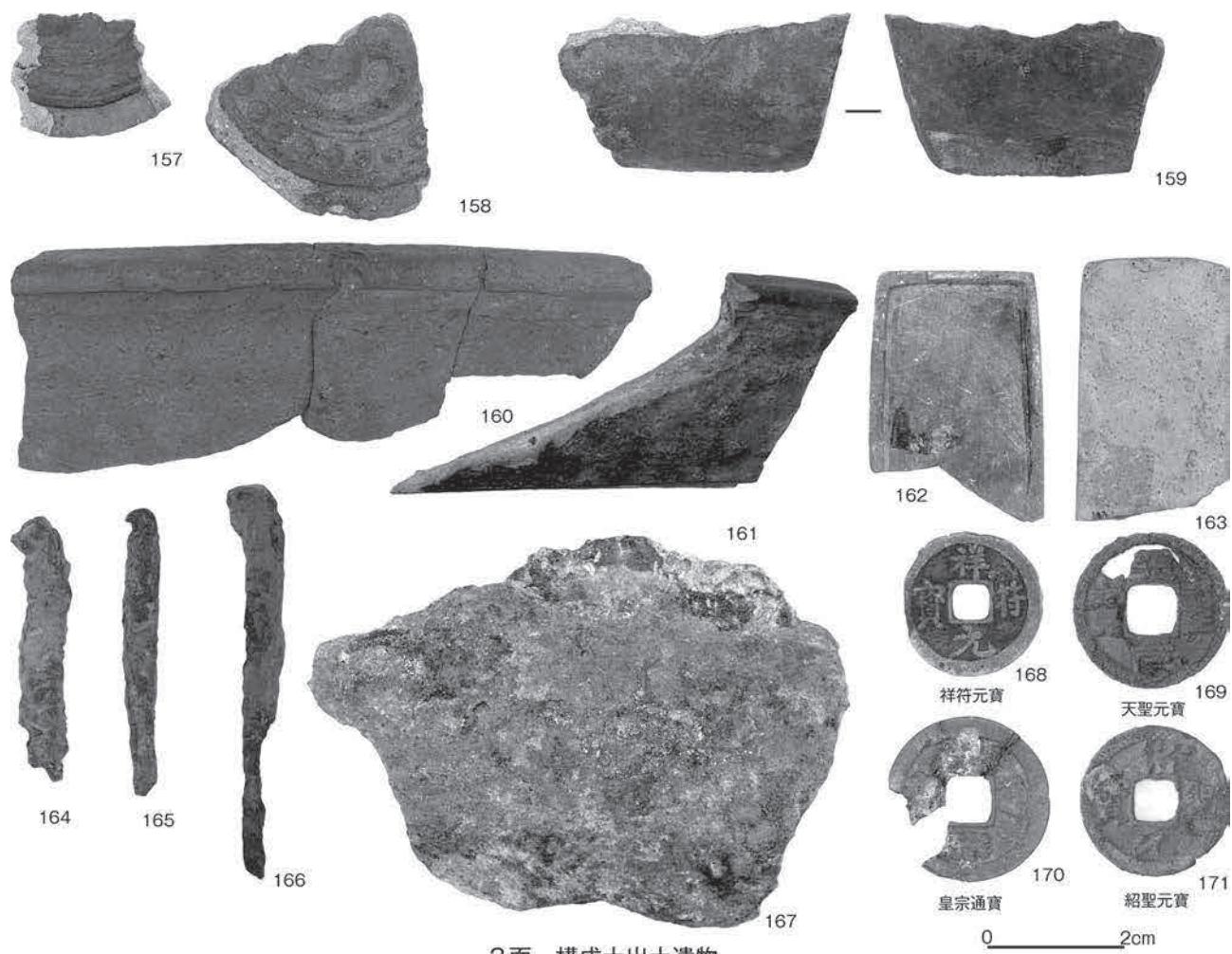


3面 構成土出土遺物

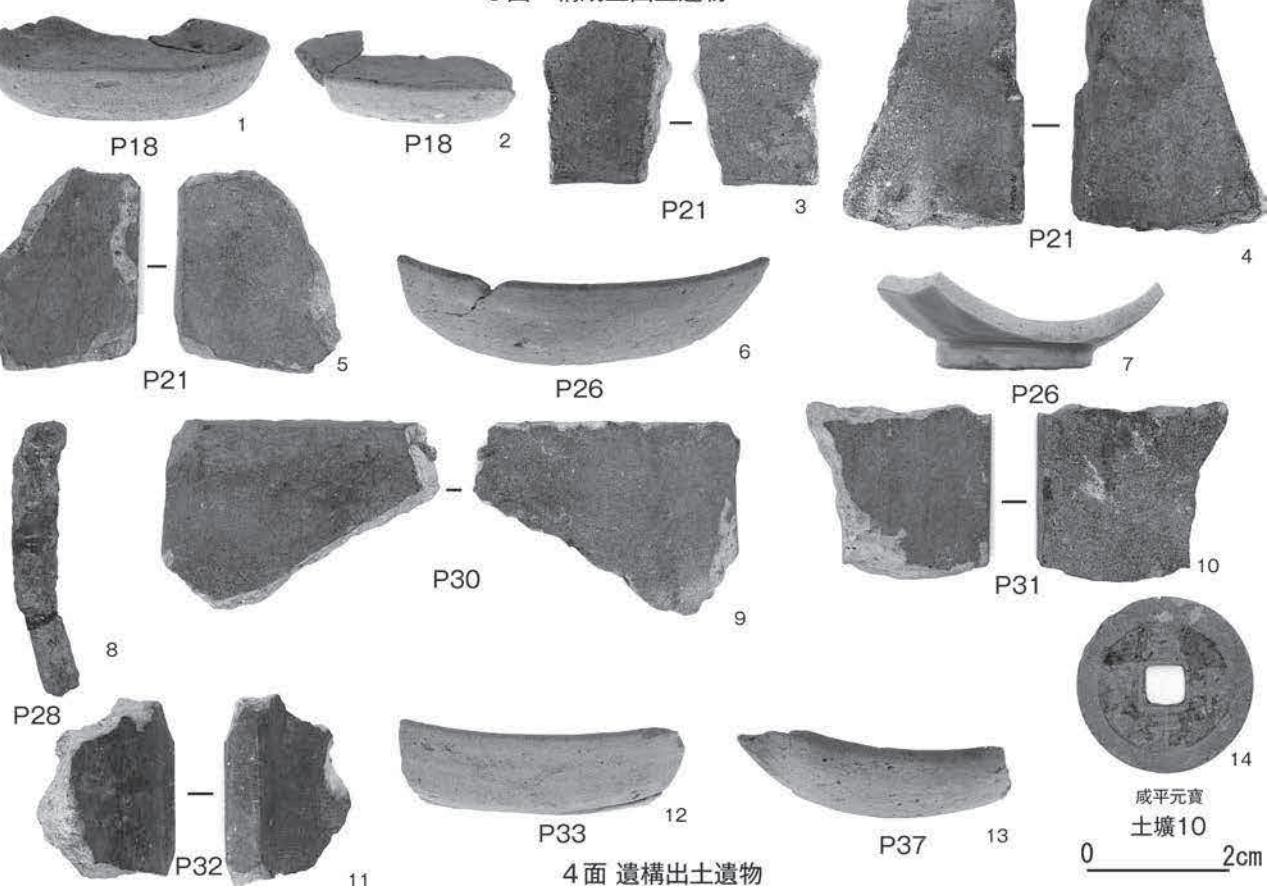


3面 構成土出土遺物

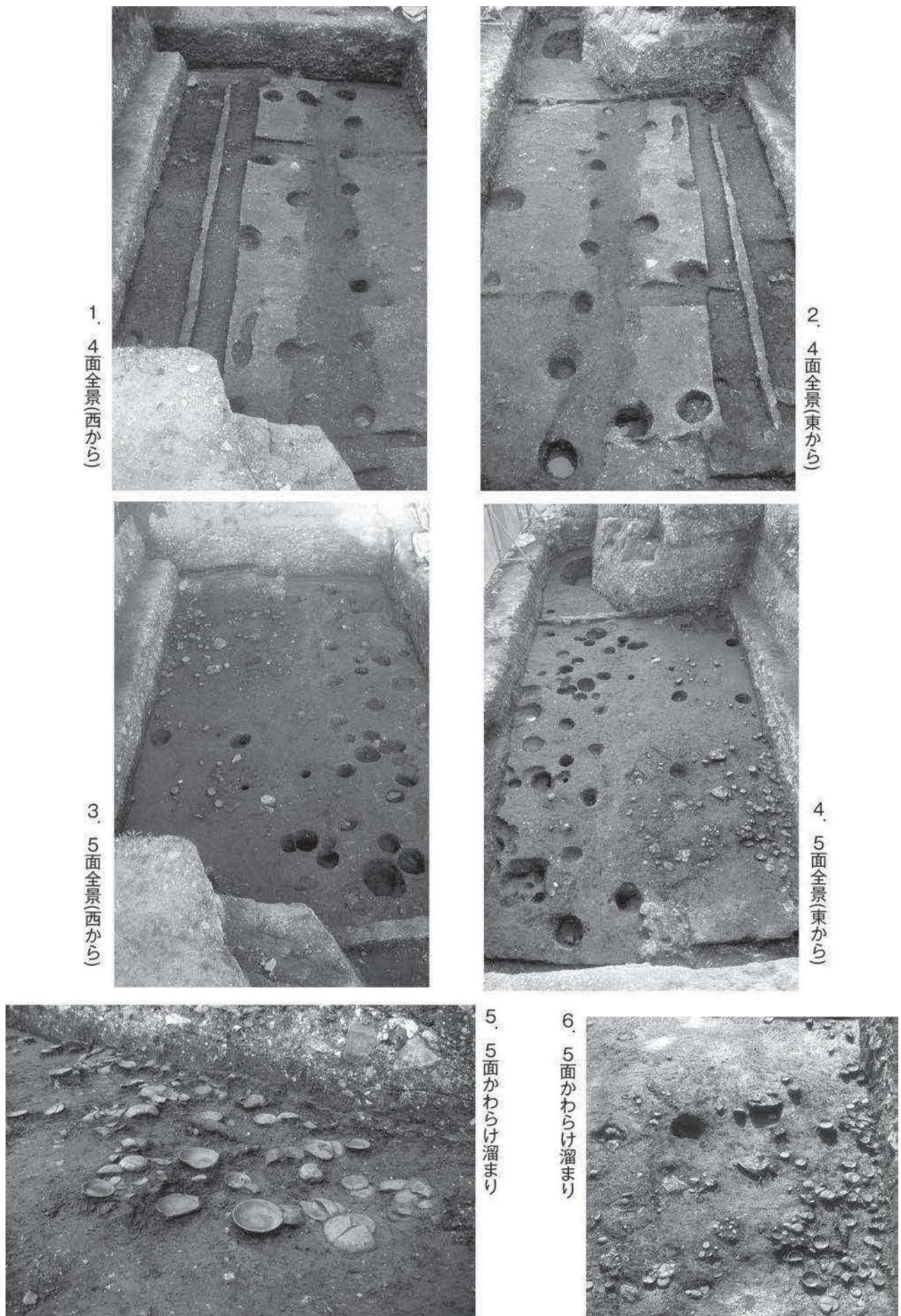
図版15



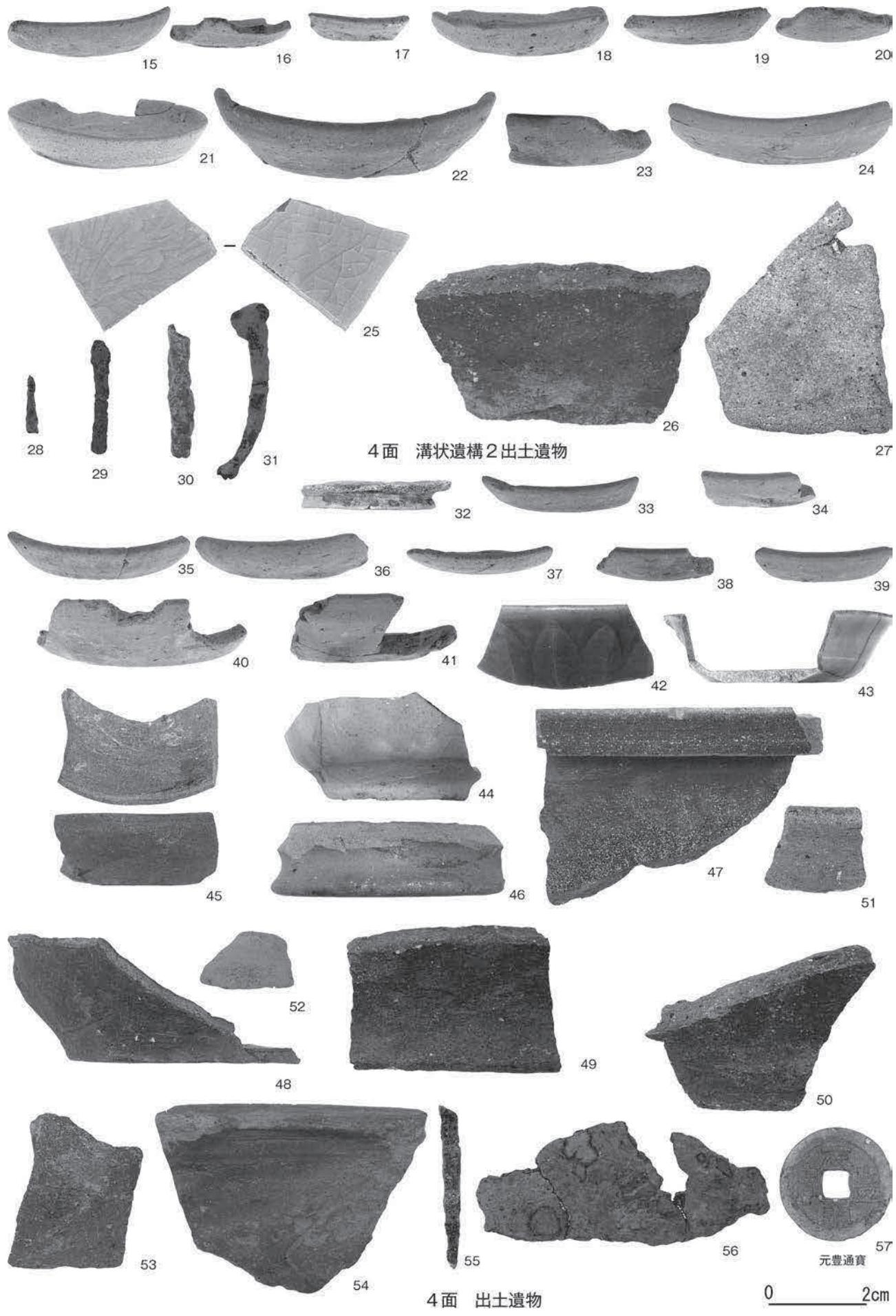
3面 構成土出土遺物

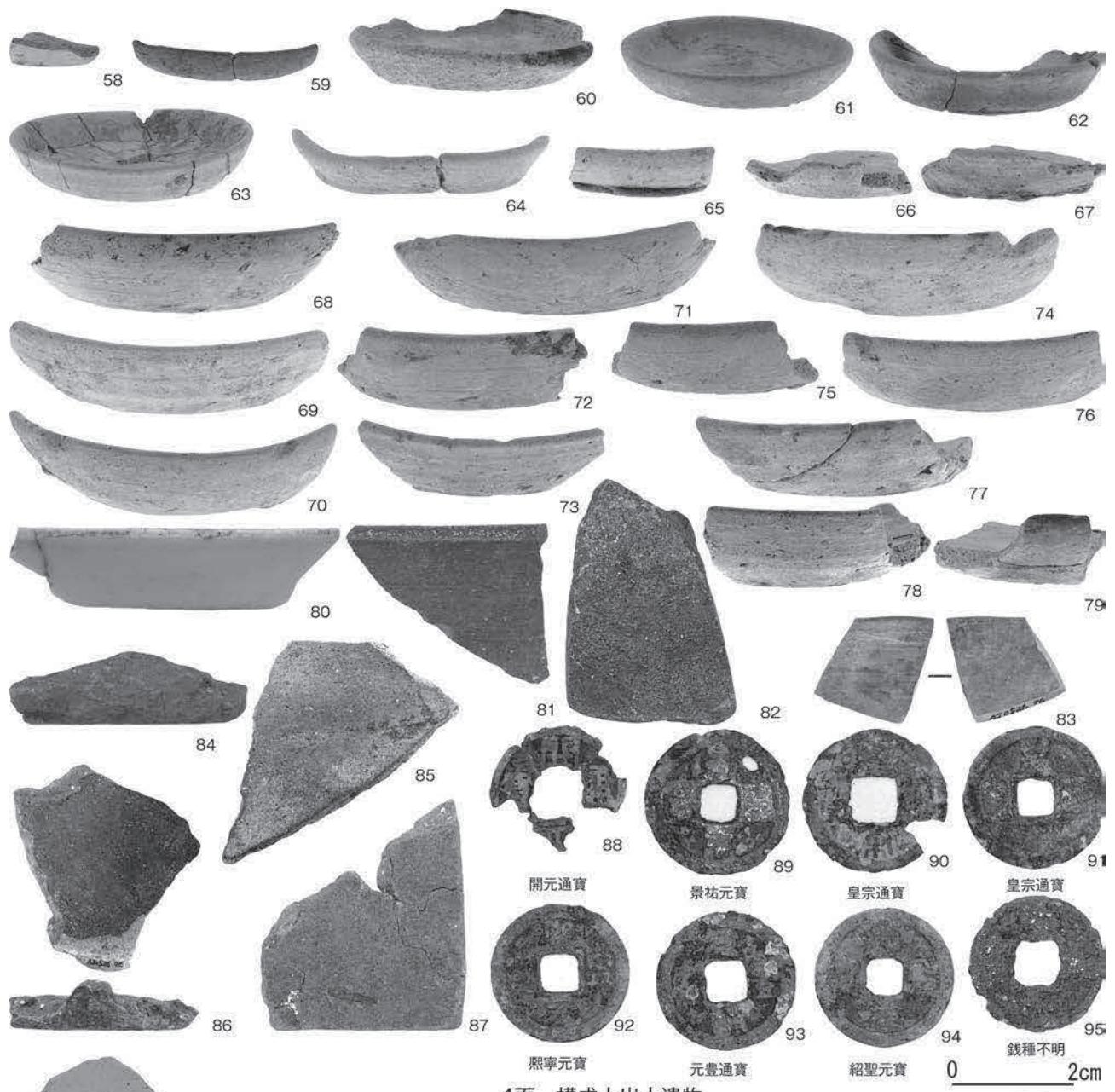


4面 遺構出土遺物



図版 17

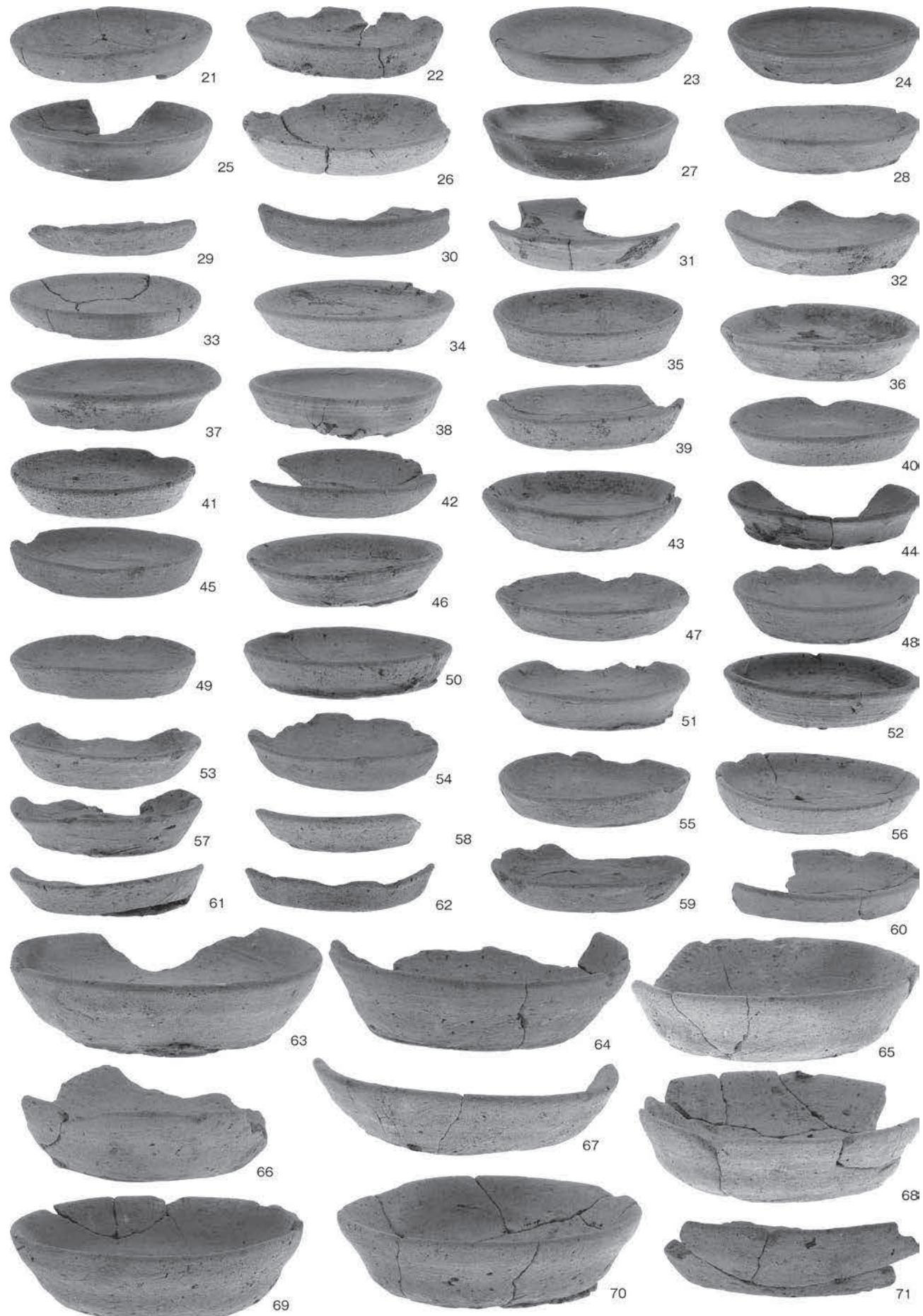




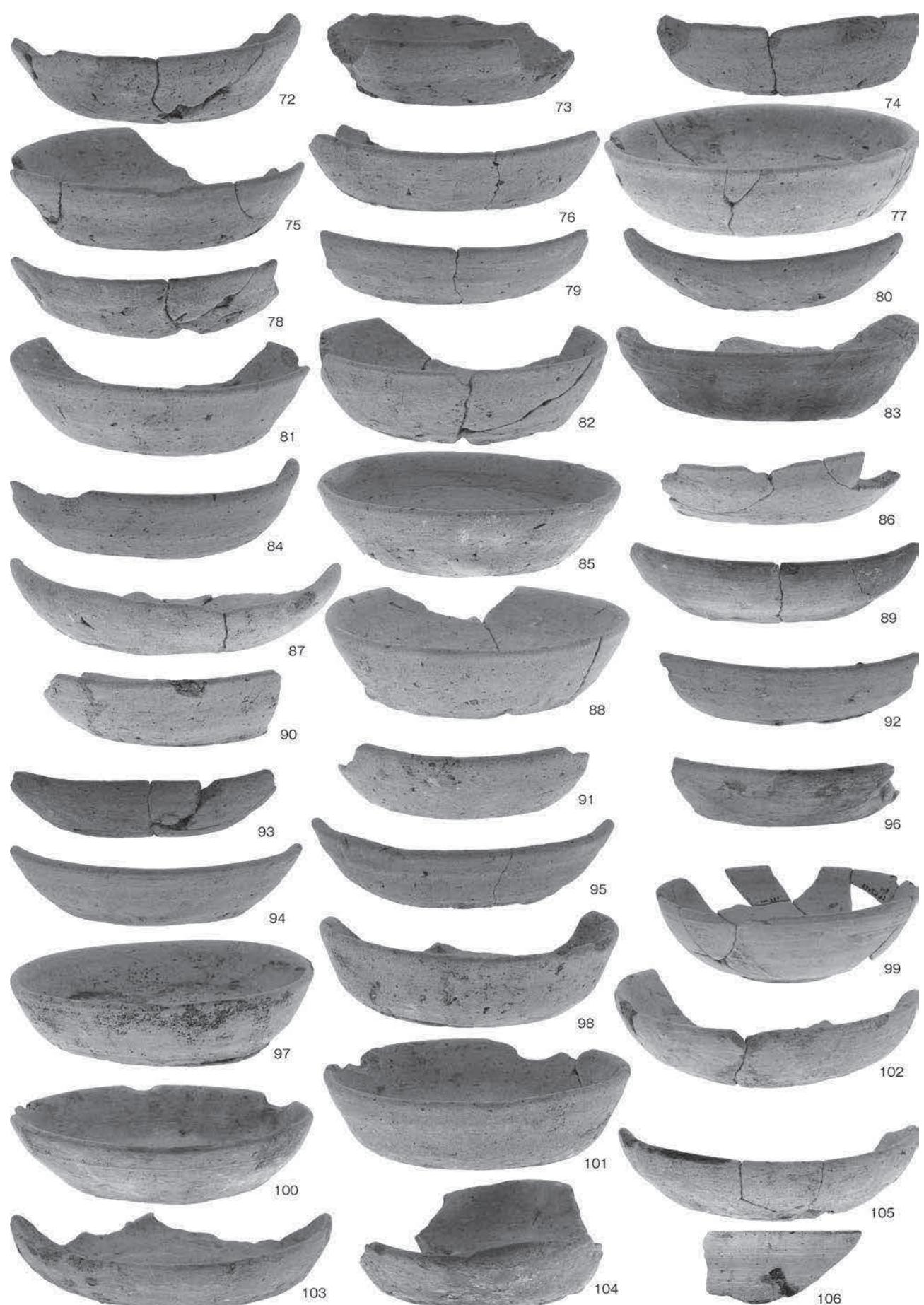
4面 構成土出土遺物

5面 かわらけ溜り出土遺物

図版19

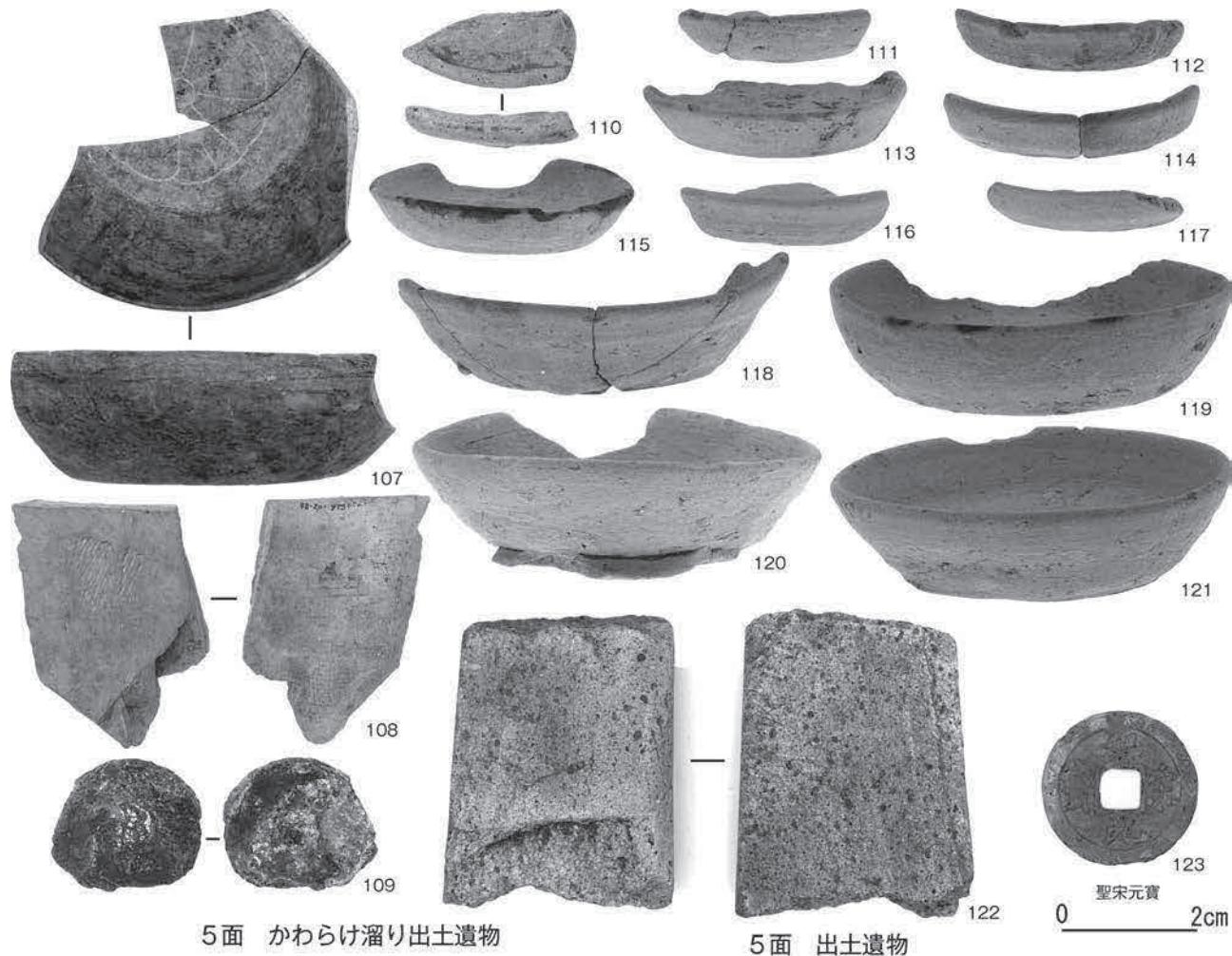


5面 かわらけ溜り出土遺物



5面 かわらけ溜り出土遺物

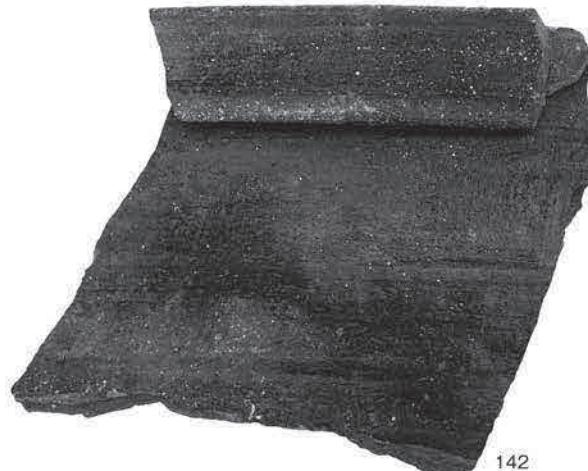
図版21



5面 かわらけ溜り出土遺物

5面 出土遺物

0 2cm



5面 遺構出土遺物

下馬周辺遺跡（No.200）

由比ガ浜二丁目 19 番 4 地点

例 言

1. 本報は「下馬周辺遺跡」内、由比ガ浜二丁目19番4における埋蔵文化財発掘調査報告である。
2. 調査期間 2006年4月24日～同年6月13日
調査面積 82.40m²
3. 本調査地点の略称はGY2191とした。
4. 調査体制

担当者 馬淵和雄
調査員 松原康子・沖元道（資料整理）・根本志保（資料整理）
調査補助員 鈴木弘太・岩崎卓治（資料整理）
作業員 安達越郎・鯉沼稔・藤枝正義・沼上三代治（社団法人鎌倉シルバー人材センター）
5. 本報作成成分担

遺構図整理 沖元
遺物実測 松原・岩崎
同墨入れ 松原・岩崎
同観察表 松原
同写真撮影 沖元
原稿執筆 馬淵・沖元・根本
編集 沖元
6. 現地調査及び資料整理に際して以下の方々からご助言とご協力を戴いた。記して感謝の意を表した
（敬称略、五十音順）。
汐見一夫・原廣志

目 次 本文目次

第一章 遺跡の概観	401
1. 位置と立地	
2. 歴史的環境	
第二章 調査の概要	409
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査方法	
3. 調査の経過	
第三章 調査結果	411
第1節 概要	
1. 層序	
第2節 各説	
1. 近世	
2. I面	
3. II面(海成砂層面)	
4. 最終確認深掘り	
5. 遺物計量比について(表5)	
第四章 まとめと考察	432
1. 遺跡の変遷と年代	
2. まとめに代えて	

挿 図 目 次

図1 周辺の遺跡	402	図10 土坑9、同出土遺物	417
図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)	405	図11 竪穴4~8、竪穴4・5出土遺物	418
図3 調査区設定図	410	図12 土坑1~3・13、土坑2・3・13出土遺物	419
図4 調査区土層断面図	412	図13 土坑11・12・14~17、同出土遺物	420
図5 近世遺構全図	413	図14 I面小穴出土遺物	421
図6 近世竪穴建物	413	図15 II面遺構全図	422
図7 I面遺構全図	414	図16 深掘り設定図・深掘り土層断面	423
図8 I面出土遺物、溝1・竪穴1、同出土遺物	415	図17 遺構外出土遺物(1)	424
図9 竪穴2・3、同出土遺物	416	図18 遺構外出土遺物(2)	425

表 目 次

表1 出土遺物観察表(1)	427	表4 出土遺物観察表(4)	430
表2 出土遺物観察表(2)	428	表5 出土遺物計量表	431
表3 出土遺物観察表(3)	429		

図 版 目 次

図版 1	435	図版 5	439
1 - 1 六地蔵方向から調査地点を望む		5 - 1 2 区竪穴 8 (東から)	
1 - 2 下馬四ツ角方向から調査地点を望む		5 - 2 2 区土坑 2 (南から)	
1 - 3 近世竪穴 (西から)		5 - 3 2 区土坑 3 (東から)	
1 - 4 近世竪穴 (北から)		5 - 4 土坑 3 中央ベルト土層断面 (南から)	
図版 2	436	5 - 5 (左から) P.12、P.13、P.21 (東から)	
2 - 1 1 区全景 (南から)		5 - 6 P.14 (左)、土坑 15 (東から)	
2 - 2 1 区全景 (西から)		図版 6	440
2 - 3 2 区全景 (東から)		6 - 1 2 区確認深掘り全景 (南から)	
2 - 4 2 区全景 (南から)		6 - 2 2 区確認深掘り西壁土層断面	
2 - 5 溝 1 (南から)		6 - 3 1 区風成砂下の確認面 (南から)	
2 - 6 溝 1 北壁土層断面		6 - 4 1 区風成砂下層の小穴 (北から)	
図版 3	437	6 - 5 1 区海成砂層面全景 (南から)	
3 - 1 溝 1 内瀬戸香炉(図8-3)出土状況(西から)		6 - 6 2 区海成砂層面全景 (南から)	
3 - 2 1 区竪穴 3 (南から)		図版 7	441
3 - 3 2 区竪穴 3 (東から)		7 - 1 2 区西壁土層断面	
3 - 4 2 区竪穴 3 (南から)		7 - 2 1 区西壁土層断面	
3 - 5 1 区竪穴 3 内土坑 9 (南から)		図版 8	442
3 - 6 1 区北壁土層断面竪穴 3 部分		出土遺物 1	
図版 4	438	図版 9	443
4 - 1 1 区竪穴 4 (南から)		出土遺物 2	
4 - 2 1 区竪穴 4 東壁束柱痕 (南西より)		図版 10	444
4 - 3 1 区竪穴 6 床面検出状況 (北から)		出土遺物 3	
4 - 4 1 区竪穴 6 掘り方 (北から)			
4 - 5 2 区竪穴 7 柱穴列 (南から)			
4 - 6 2 区竪穴 7 (東から)			

第一章 遺跡の概観

1. 位置と立地

調査地点は由比ガ浜二丁目19番4に所在する。下馬周辺遺跡（県遺跡台帳No.200）の範囲内に位置し、北側を県道鎌倉葉山線、南東側を江ノ島電鉄に挟まれている。

鎌倉市の旧市街地は北の鶴岡八幡宮を頂点とし、南の相模湾に面した三角形の沖積低地、及び砂丘地帯があり、それを取り巻く丘陵の谷戸地、十二所に源を発し東北丘陵の裾を流れる滑川低地から形成されている。砂丘の裾は地点112の発掘調査でも確認されており、砂丘の頂部が一ノ鳥居辺りと現今小路辺りにあったと考えられる。先の三角形の沖積地の中央を鶴岡八幡宮から由比ガ浜へ向かって南北に貫くのが若宮大路である。調査地点の150m東には現在「下馬四ツ角」と呼ばれる交差点があり、調査地点の北を東流する佐助川はこのあたりで滑川に合流している。上本進二によれば鎌倉時代この一帯は砂丘後背地（旧砂丘）である（上本2000）。調査地点の海拔は6m前後であり、下馬四ツ角は3.8mと低い。下馬四ツ角を中心に、南東になだらかに上がっていき、東は滑川右岸でぐんと高まり、鉄道踏切を過ぎたあたりで6.6mほどになる。

2. 歴史的環境

図1の狭い範囲内ではあるが各時代の遺跡の変遷を見ていきたい。

縄文時代

縄文時代は鎌倉駅西口ロータリーあたりの地点41・42・48・53・75・109・112・115・124・126で土器が発見されている。海岸砂丘地帯での出土例は今までないようである。遺構の確認もない。海進・海退期の水位と遺物分布の関係が検討される必要があろう。

弥生時代

弥生土器の分布は縄文土器の分布域をやや南下したところに集まるが、やはり海岸砂丘での出土は見られない。地点41・42・75・84・87・88・109・124があげられる。土器の年代は概ね弥生時代後期のものであるが、地点87・88には中期後半宮ノ台期に遡る資料も多い。この辺りは砂丘地帯であり、砂丘頂部は現今小路辺りにあると見られている。遺構の検出はないが集落が砂丘丘陵上、もしくは裾部に存在した可能性は否めない。

古墳時代

古墳時代前期の遺物分布は全体に分散するが、若宮大路より西側に比較的多い。海岸砂丘地帯では一旦空閑地を隔てた後、若干南に寄る（地点26・27・36）。北側では地点41・42・84・88・105・109・123・124があげられる。中期の土器の出土地点は少なく、地点53・84・124のみであるが、地点53では竪穴住居が検出されており、集落の存在は疑いない。

古墳時代後期はさらに減少傾向にあり、分布に何かしらの傾向を見出すことは難しい（地点9・25・39・41・42・72・87・123・124）。また砂丘地帯では祭祀遺構が点在する。古墳時代後期の遺構として地点72・123で後期の竪穴住居址各1軒が検出されている。地点は離れているが、いずれも後世の度重なる削平によって消滅した可能性のある集落の存在を思わせる。またこの時期、横穴墓も多い（千葉ヶ谷横穴）。調査地点から南に約400m南下したところには現在「和田塚」と呼ばれる中世石塔の戴る塚があり、それはかつて「無常堂塚」という名の円墳であったという。「采女塚」という円墳も人物埴輪の出土で知られる。周辺は古い字を「向原（むかいはら）」といい、高塚式の向原古墳群があったとされる。円筒埴輪片が地点41・42・43など数地点で出土している。

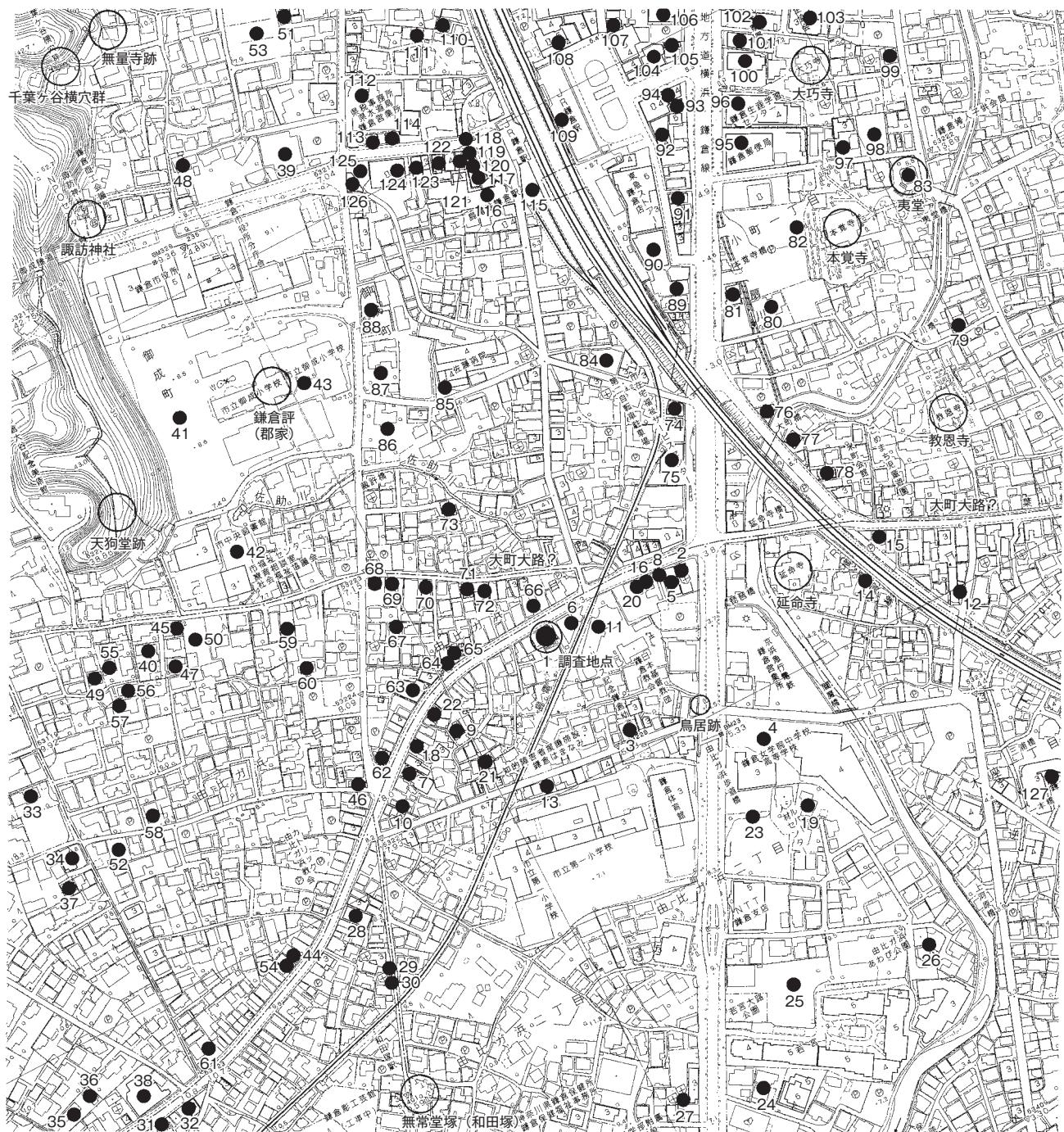


図1 周辺の遺跡

馬周辺遺跡(NO.200) 1. 調査地点 由比ガ浜二丁目19-4(2-19-1) 2. 由比ガ浜二丁目2-2(1988福田) 3. 由比ガ浜二丁目27-9(1998田代) 4. 由比ガ浜二丁目1011-1 (1989大河内) 大河内 1998『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団 5. 由比ガ浜二丁目2-10 (1990福田) 6. 由比ガ浜二丁目4-41 (1990宗墓) 宗墓 1992『下馬周辺遺跡』下馬周辺遺跡発掘調査団 7. 由比ガ浜2-107-1 (1995馬淵・汐見) 汐見 1997『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』13鎌倉市教育委員会 8. 由比ガ浜二丁目2-12 (1998斎木・熊谷) 熊谷 1998『下馬周辺遺跡発掘調査報告書』4 下馬周辺遺跡発掘調査団・鎌倉遺跡調査会 9. 由比ガ浜二丁目110-5 (1999菊川) 菊川 2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』17鎌倉市教育委員会 10. 由比ガ浜二丁目106-6・7 (2000汐見) 汐見 2000『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18鎌倉市教育委員会 11. 由比ガ浜二丁目18-1 (2001汐見) 12. 由比ガ浜二丁目975-6 (2003宮田・

森) 森 2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22鎌倉市教育委員会 13. 由比ガ浜二丁目39-14 (2004原) 原 2010『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』26鎌倉市教育委員会 14. 材木座一丁目1002-1 (2004福田) 福田 2008『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』24鎌倉市教育委員会 15. 大町二丁目1001-4 (2005馬淵) 馬淵 2011『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』27鎌倉市教育委員会 16. 由比ガ浜二丁目3-7 (2005田代) 18. 由比ガ浜二丁目107-5 (2007鈴木) 19. 由比ガ浜二丁目1058-5 (2008森) 20. 由比ガ浜二丁目3-6 (2008滝沢) 21. 由比ガ浜二丁目54-15 (2008伊丹) 22. 由比ガ浜二丁目113-5 (2009伊丹) 23. 由比ガ浜二丁目1075 (2010植山・馬淵) **由比ガ浜中世集団墓地遺跡 (NO.372)** 24. 由比ガ浜二丁目1015-29 (1989大河内) 大河内 1991『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』7鎌倉市教育委員会 25. 由比ガ浜二丁目1034-1 (1990原・汐見) 原 1993

『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』9 鎌倉市教育委員会**26**.由比ガ浜二丁目1037-1 (1992原) 佐藤1992『鎌倉考古』22 鎌倉考古学研究所**27**.由比ガ浜二丁目1203-20 (1998原) 原2000『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16 鎌倉市教育委員会

長谷小路周辺遺跡(NO.236) **28**.由比ガ浜三丁目223-11 (1989斎木・汐見) **29**.由比ガ浜三丁目228・229 (1991宗臺) 宗臺1993『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』9 鎌倉市教育委員会**30**.由比ガ浜三丁目228-2 (1991宗臺) 宗臺1998『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』14 鎌倉市教育委員会**31**.由比ガ浜三丁目254-15(1999原・福田) 福田2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会**32**.由比ガ浜三丁目254-1 (2006鈴木)

笛目遺跡(NO.207) **33**. 笛目町324・311-3(1988田代・原) 田代1990『昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書』笛目遺跡内やぐら発掘調査団**34**. 笛目町425-1 (1993田代・継) 繼『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』10 鎌倉市教育委員会**35**. 笛目町285-1(1999斎木・伊丹) 伊丹2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会**36**. 笛目町286-1 (1999斎木・伊丹) 伊丹2001『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』17 鎌倉市教育委員会**37**. 笛目町302-11 (2000継・土屋) 宗臺2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18 鎌倉市教育委員会**38**. 笛目町287-1外 (2003田代)

今小路西遺跡(NO.201) **39**. 御成町15-5 (1980手塚) 手塚1982『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団**40**. 由比ガ浜一丁目148-11 (1983赤星) 赤星『発掘調査概要』鎌倉市由比ガ浜一丁目148-11所在遺跡発掘調査団**41**. 御成町625-3 (1984河野) 河野1990『今小路西遺跡(御成小学校)内』発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 河野1993『今小路西遺跡(御成小学校)内』第5次発掘調査概報』鎌倉市教育委員会**42**. 御成町625-2 (1989河野・宮田) 宮田・清水他1993『今小路西遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会**43**. 御成町625-3 (1989河野) 河野1990『今小路西遺跡(御成小学校)内』平成元年度試掘及び確認調査概報』鎌倉市教育委員会**44**. 由比ガ浜1-213-3 (1991宗臺) 宗臺1993『今小路西遺跡』今小路西遺跡発掘調査団**45**. 由比ガ浜1-148-1 (2000野本) 野本2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18 鎌倉市教育委員会**46**. 由比ガ浜1-183-1 (2000汐見) 汐見2002『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18 鎌倉市教育委員会**47**. 由比ガ浜1-148-5 (2000宮田・滝沢) 宮田他2004『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20 鎌倉市教育委員会**48**. 御成町200-2の一部 (2003原) 原2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22 鎌倉市教育委員会**49**. 由比ガ浜一丁目157-7外 (2005馬淵) **50**. 由比ガ浜一丁目141-5外 (2006小林) 香川他2007『今小路西遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所**51**. 御成町176-7 (2006宮田・滝沢) **52**. 由比ガ浜一丁目197-2外 (2006瀬田) 瀬田2007『今小路西遺跡発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会**53**. 御成町171-1外 (2006菊川) 菊川2008『今小路西遺跡(NO.201) 発掘調査報告書』斎藤建設**54**. 由比ガ浜一丁目213-12 (2007熊谷) 熊谷他『今小路西遺跡』(NO.201) 発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会**55**. 由比ガ浜一丁目151-1の一部(2007熊谷) **56**. 由比ガ浜一丁目147-2外 (2007原) **57**. 由比ガ浜一丁目147-1の一部 (2007斎木) **58**. 由比ガ浜一丁目165-2 (2008斎木) **59**. 由比ガ浜一丁目136-1の一部 (2008滝沢) **60**. 由比ガ浜一丁目134-4 (2008伊丹) **61**. 由比ガ浜一丁目211-18・19 (2009熊谷) 熊谷2010『第20回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』NPO法人鎌倉考古学研究所他

若宮大路周辺遺跡群(NO.242) **62**. 由比ガ浜一丁目129-5 (1993清水) 清水1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団**63**. 小町二丁目1-14 (1986福田) **64**. 由比ガ浜一丁目120-2 (2008斎木) **65**. 由比ガ浜一丁目120-6 (1991原) **66**. 由比ガ浜一丁目117-1 (1988斎木・汐見) 斎木1991『由比ガ浜1-117-1地点遺跡』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団**67**. 由比ガ浜一丁目127-1 (2003鈴木・田代) 宗臺2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22 鎌倉市教育

委員会**68**. 由比ガ浜一丁目126-1 (2005斎木・熊谷) 熊谷2009『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25 鎌倉市教育委員会**69**. 由比ガ浜一丁目126-1 (2005熊谷) 2009熊谷『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25 鎌倉市教育委員会**70**. 由比ガ浜一丁目123-5 (1994馬淵) 馬淵1995『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』11 鎌倉市教育委員会**71**. 由比ガ浜一丁目188 (1995田代) 繼1997『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』13 鎌倉市教育委員会**72**. 由比ガ浜一丁目127 (2003鈴木) 宗臺2006『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22 鎌倉市教育委員会**73**. 御成町727-12・19 (1990木村) **74**. 御成町872-14 (1991木村) 木村1992『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』8 鎌倉市教育委員会**75**. 御成町884-6 (1997宮田) 宮田1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団**76**. 小町一丁目2028-1 (1990大河内) 大河内1992『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』8 鎌倉市教育委員会**77**. 大町一丁目1034-2 (1982松尾) **78**. 御成町790-7 (2006田代・浜野) **79**. 大町一丁目1084-4 (2007宇都) **80**. 小町一丁目276-18 (2005宮田) 宮田2006『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株博通**81**. 小町一丁目287-13(1992斎木) 斎木1992『鎌倉考古』鎌倉考古学研究所**82**. 小町一丁目302外 (1982斎木) 斎木1989『よみがえる中世』3(株平凡社)**83**. 小町一丁目302 (1977斎木) 斎木1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会**84**. 御成町868 (1990木村) 木村1993『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会**85**. 御成町778-1 (1988田代) **86**. 御成町763-5(2007斎木)**87**. 御成町783-1外(2005斎木) 斎木2009『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(有)鎌倉遺跡調査会**88**. 御成町786-1 (1999斎木) 斎木2002『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団・鎌倉遺跡調査会**89**. 小町一丁目83-3 (2007宮田・滝沢) 宮田他2000『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株博通**90**. 小町一丁目83-1 (1990(株四門) 四門1993『鎌倉市早見芸術学園改装工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』(株四門)**91**. 小町一丁目81-1 (1980鎌倉市教育委員会) **92**. 小町一丁目81-8 (1991木村) 木村1995『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団**93**. 小町一丁目81-23 (1988田代) **94**. 小町一丁目81-18 (1998宮田) 宮田2000『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16 鎌倉市教育委員会**95**. 小町一丁目305・308 (1975斎木) 斎木1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会**96**. 小町一丁目891 (1979斎木) 斎木1985『(推定) 藤内定員邸跡遺跡』鎌倉市教育委員会**97**. 小町一丁目333-2 (2007原・山口) 山口2008『第18回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会**98**. 小町一丁目333-5 (2010押木) **99**. 小町1-329-1 (2010宮田・滝沢) **100**. 小町一丁目309-4 (1979斎木) 斎木1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会**101**. 小町一丁目309-5 (1982斎木) 斎木1983『小町一丁目309番5地点発掘調査報告書』(推定) 藤内定員邸跡発掘調査団**102**. 小町一丁目319-2 (1978斎木) 斎木1983『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報』1 鎌倉市教育委員会**103**. 小町一丁目322-1 (1992宮田) 宮田1997『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団**104**. 小町一丁目75-1 (1979斎木) 斎木1982『小町1丁目75番1地点発掘調査報告書』鎌倉考古学研究所**105**. 小町一丁目75-1 (1979斎木) 斎木1982『小町1丁目75番1地点発掘調査報告書』鎌倉考古学研究所**106**. 小町一丁目67-2 (1987福田) 福田1994『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会**107**. 小町二丁目65-21(1979斎木・河野) 斎木・河野『小町1丁目65番地21号発掘調査報告書』鎌倉考古学研究所**108**. 小町一丁目107-7外 (2010宮田) **109**. 小町一丁目103-9 (1982調査会) 調査会1984『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎改裝にかかる遺跡調査会**110**. 御成町123-3 (2004福田) 福田2009『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25 鎌倉市教育委員会**111**. 御成町126-1 (2003汐見) 汐見2007『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』23 鎌倉市教育委員会**112**. 御成町12-18 (1984服部) 服部1986『千葉地東遺跡』神

奈川県埋蔵文化財センター 113.御成町 228-2・130-1 (1985 斎木) 斎木 1987『御成町 228 番 2 地点遺跡』千葉地東遺跡発掘調査団 114.御成町 130-6 (1984 松尾) 115.御成町 822-2 (1981 手塚) 手塚 1983『蔵屋敷東遺跡』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団 116.御成町 802-2 外 (2002 濑田) 濑田 2003『第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨』鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 117.御成町 11-2 (1979 斎木) 斎木 1982『鎌倉考古学研究所研究報告第2集』鎌倉考古学研究所 118.御成町 (1080 松尾) 宇田川 1981『鎌倉考古』5 鎌倉考古学研究所 119.御成町 819-1 (1984 玉林) 120.御成町 819-1 (1989 菊川) 1999 菊川『若宮大路周辺

遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 121.御成町 818-1 (1991 松尾) 松尾・継『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』9 鎌倉市教育委員会 122.御成町 811 (1991 松尾・継) 123.御成町 806-9 (1981 斎木) 斎木 1982『鎌倉考古学研究所研究報告第2集』鎌倉考古学研究所 124.御成町 806-5 (1981 斎木) 1985『諫訪東遺跡』諫訪東遺跡調査委員 125.御成町 808-6 (2005 浜野) 126.御成町 788-3・788-5 (1995 菊川) 菊川 1997『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』13 鎌倉市教育委員会材木座町屋遺跡 (NO.261) 127.材木座一丁目 910 (2000 森) 森 2001『材木座町屋遺跡発掘調査報告書』材木座町屋遺跡発掘調査団

古代

古代は遺物、遺構とも急増し市域全体に検出されるが、大きく分けて、鎌倉評(地点41・43)を中心とした地域と、古東海道と考えられる現県道(旧国道134号線)沿いを中心とした地域を見ていきたい。

評(郡家)を中心とした古代遺物出土地点は、地点41～43・45・48～50・53・80・84・86・87・89・96・109・112・115・117・120・122～124・126である。調査地点から北に300mの地点41・43の今小路西遺跡(御成小学校地点)で鎌倉評もしくは郡家の政庁が発見されている。検出遺構は掘立柱建物12棟・礎石建物5棟・柵9条・池状凹地1基・溝3条などであり、8世紀前半から10世紀代まで遺構を5期に区分している。I期では天平五年(733)銘の木簡の出土がある。

政庁に関連すると考えられる周辺の遺跡をいくつかあげたい。地点41・43に程近く真南に位置し、調査地点より北西に260mの地点42では政庁と同時期の掘立柱建物3棟・土坑・溝の検出がある。政庁の真北、調査地点より北に550mの地点53では掘立柱建物10棟・竪穴住居址1棟・溝・柱穴が発見され、7世紀中葉から9世紀以降の時期をあて、5期に区分している。政庁に先行する時代の建物を省けば同時代の6棟の掘立柱建物が検出されている。調査地点から北東に390mの地点122では8世紀後半の掘立柱建物3棟・竪穴建物3軒が検出されている。その隣接地、調査地点より北東390mの地点119では掘立柱建物2棟・竪穴建物(1～4号住居)4軒が確認されている。遺構は8世紀前半から10世紀中葉に位置づけられており、地点41で検出された基壇状遺構とどう関わるか課題となろう。

調査地点から南東に430m、政庁から730mと離れた地点127に注目したい。6棟の掘立柱建物が検出されている。報告者は建物の構成や遺跡の立地から、一般集落ではなく、8世紀前半段階の水陸両方の交通・運搬に関する機関とそれに付属する建物(居館)と指摘している(森2001)。大上周三はこの遺跡に対し、断定は避けながらも、検出された遺構・遺物から水上交通、とりわけ郡衙の港湾施設、郡津も視野に入れたい、とする(大上2009)。

評(郡家)に関連する遺物として、現在の鎌倉駅西口周辺に瓦の出土が多い。古代瓦は砂丘域の集落からも多量に出土するが、評家とはまた別な瓦を持つ建物の存在が窺われる。石帶が地点34・42で出土している。

地点41・43から現在の今小路を挟んだ東隣接地で地点86・87が調査されている。

地点86では竪穴建物3軒の報告がある。いずれも竈、柱穴といった付帯施設が明確なかたちでは捉えられなかったため、住居とはしていない。報告者は、調査地点の立地、遺構の検出状況(後世の削平によって遺構が消滅している可能性も含め)や竪穴建物に限られること、その帰属年代が評家・郡家の第I期8世紀前葉までに収まることから、「郡衙」中枢域から一定の空閑地を隔てた別の機能空間が展開していたとし、一般集落を構成するものではなく、郡衙もしくは関連遺構の造営、あるいは官衙機能の一端を担った建物との見方もできるとしている(2009 斎木)。地点87では河道から弥生時代中期から古代にわたる土器片が出土している。河道は地点112・113・126で検出された「河川」の下流部として、

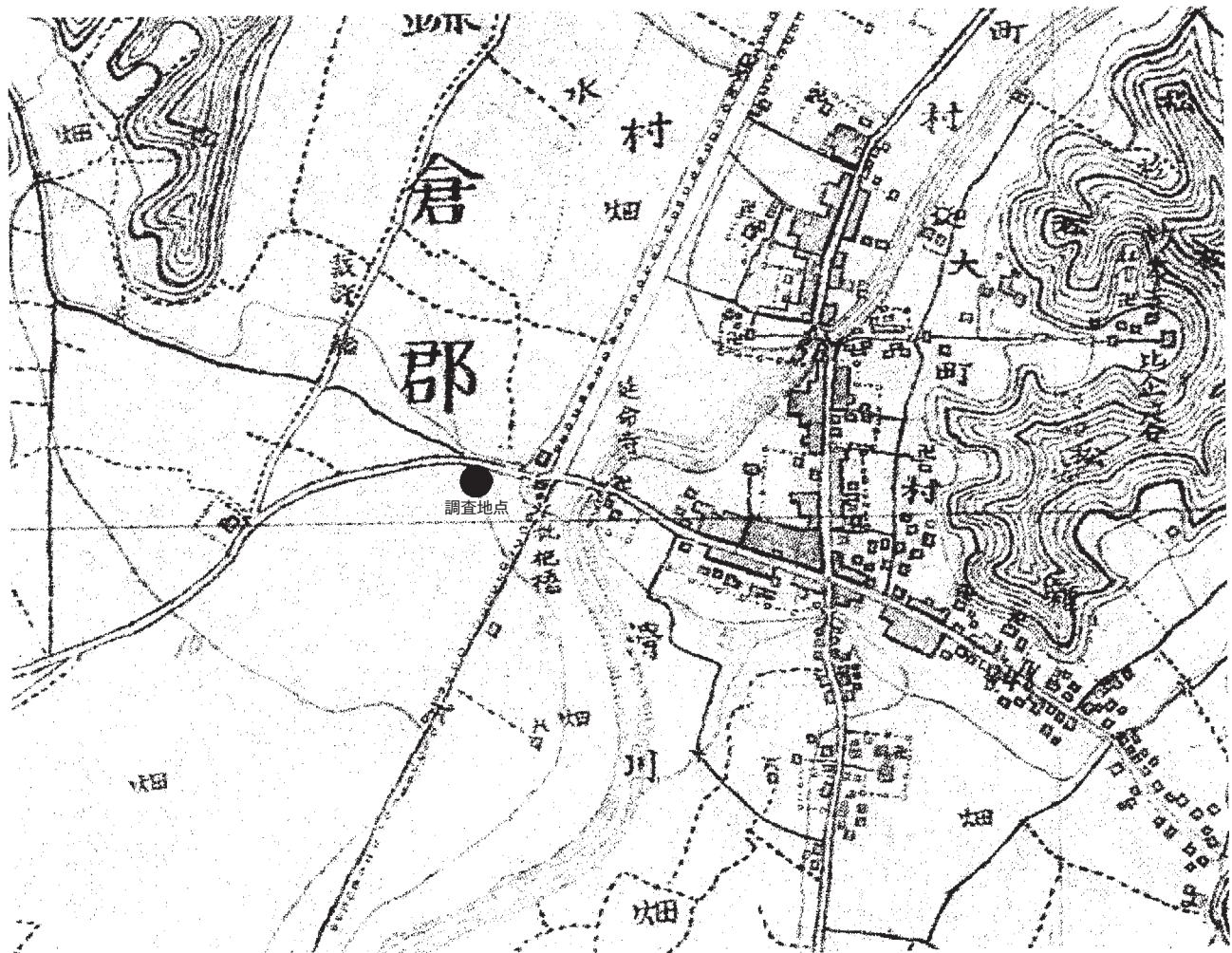


図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)

その流路や正式名称は判明していないとしながらも、寿福寺方面に源流を発する「扇ヶ谷川」ではないか、と報告者は捉えている（2002降矢）。地点73・115でも河川が検出されている。

一方、県道沿いを中心とした地域では、地点9・10・13～15・29～31・35・36・44・46・62・67・72～74・127で古代遺構・遺物の出土があり、そのうち地点67では竪穴住居址が検出されている。

調査地点の北側に接する県道鎌倉葉山線には古東海道説がある。大化改新(645)直後から宝亀二年(711)の五畿七道制の改編まで、鎌倉を東海道駅路が通過していた。経路はいまだ確実にされていないが、相模国府から海岸沿いに鎌倉郡に至り稻村ガ崎と靈山ヶ崎の間の鞍部を越えて鎌倉湾側に抜け、稻瀬川河口付近から鎌倉郷に入った可能性がある。相模国中枢部からの官道として、海老名から藤沢市下土棚を経て藤沢市川名から鎌倉に入る道も想定されている。近年の研究は海老名に国府の存在したことを疑問視しているので、この場合は相模国分寺から鎌倉郡にいたる伝路ということになろう。またこの道は、明治時代に敷設された横須賀水道路(すいどうみち)にほぼ重なる(木下1997)。ただし相模国府が平塚市四宮付近にあったとすれば、相模川を渡った後、駅路がこの道の途中に合流した可能性は少くない。いずれにせよ、国府の年代的な変遷も考慮に入れる必要があろう。

古東海道駅路が鎌倉郷を横断する経路にも二系統が想定される。一つは現在の六地蔵交差点から下馬四ツ角交差点を東に渡り、現大町四ツ角から南下して小坪方面に抜ける経路。もう一つは、六地蔵交差点から私立中高校の北側を通り元八幡宮の前を通り小坪に抜ける経路である（木下1997）。この元八幡の前を通る経路は評家地域の項で紹介した地点127の前も通ることになるので、より有力であると考えられる。

る。先に県道沿いの古代の遺構・遺物の出土地点をあげたが現六地蔵交差点から御成中学校を結ぶ道沿いには出土例が少なく、評家域と区別が付くと共に古東海道が背景に浮かぶのではないか。

中世

「下馬」の名称は、鶴岡八幡宮に対して下馬の礼を取るところから来ている。したがって、この地名は鎌倉時代初期におこったものであろう。『吾妻鏡』の中では「中(の)下馬橋」「下(の)下馬橋」が出てくる。「下馬」の近くに作られた橋のため「下馬橋」と呼ばれたと言われている。觀応三年(1352)九月三日付將軍足利尊氏御教書(『県史資料編』3 - 4185)に「若宮少(小)路三箇所橋造営」と見えることから、若宮大路上・中・下それぞれの下馬に橋が架かっていた可能性が高いが、「上(の)下馬橋」は史料に現れない。

『吾妻鏡』によると「中下馬橋」の初見は建保元年(1213)五月一日条で、今の二ノ鳥居付近であることがわかる。「下下馬橋」は県道鎌倉葉山線が若宮大路と交差する今の下馬四ツ角付近にあったと思われる。『吾妻鏡』による「下下馬橋」の初見は仁治二年(1241)十一月二九日条であり、それによれば、下下馬の辺りは「好色家」が並び、武士達の「酒宴乱舞会」の催される繁華な場所であった。しかし『快元僧都記』天文三年(1534)六月一六日条に出てくる「下ノ下馬」は「七度行路」と共に「下馬橋二ヶ所」修理の勧進状であり、この頃には若宮大路の荒廃と共に中ノ下馬橋、下ノ下馬橋はしばしば破損し修理をする状態であったようだ。

中世都市鎌倉の大路造成に関わる事を記載すると、治承四年(1180)、源頼朝が鎌倉に入り大倉に幕府を開いた。このとき鶴岡八幡宮と若宮大路が置かれ、現代まで続く町並みの骨格が出来上がる。若宮大路を中心に小町大路とほぼ対称位置に現在の今小路はある。今小路について斎木秀雄は、道筋の再検討の必要性に言及している。地点86の調査結果を見る限り、今小路が今の道筋であった可能性は低いとし、安達泰盛邸を地点53に推定するとすれば、少なくとも鎌倉時代の初めから本地点は甘縄でしかも浜地であり、ここに若宮大路に並行する今小路、あるいはそれに準ずる幹線道路が鎌倉時代初めに造られていたとは考えられず、仮に造られたとすれば鎌倉市役所北東の信号から鎌倉駅を結ぶラインあたりで、そこから砂丘を避けて御成小学校の校内あるいは御成商店街に沿って曲がる可能性を指摘している(斎木2009)。しかし、図1の分布では現今小路から東側に13世紀中頃から竪穴建物が展開する。遺跡の分布を見ても現在の今小路を挟んだ東西は様相が異なり、それが砂丘という立地的な理由だけではなく何かしらの境界線が今の道筋にあったことに疑いの余地はあるまい。貞享二年(1685)成立の『新編鎌倉誌』は、「今小路」を寿福寺前から南、長谷までの間をいうとする。17世紀後半には現在とは変わらぬ形で存在していたことになる。寿福寺は源義朝の居館「鎌倉之楯」であり、少なくともこの地から南へ延びる道筋は古くからあったと考えるべきだろう。

大路では、おそらく東西道とみられる「大町大路」「車大路」も造成されている。ただ、田代郁夫は『吾妻鏡』に見られる「小町大路」の様々な記事を検討した上で、夷堂橋以南の南北道を「大町大路」というのではないかといっている(田代1998)。これに対し馬淵和雄は、西は御成中学校の下から東は安国論寺までの道を、鎌倉の平坦部を横断する唯一の道であり、これが「大町大路」ではないかとしている(馬淵2007)。押木弘己は県道に近い米町遺跡周辺の調査例を挙げ東西に伸びる道路遺構を紹介し、大規模な道路の存在を示した。それらは主要な交通機能を担っており、「大町大路」との関わりも視野に入ってくるとしている(押木2011)。

また、「車大路」は『吾妻鏡』のなかでは、大倉幕府から小坪に行く途中にあったことを窺わせる記事にとどまる。が、小山下入道生西の家の推定を『吾妻鏡』から起こすと安貞二年(1228)十月十二日条で

は車大路に面していることになり、嘉禎二年（1236）四月四日条では若宮大路に面していることから、小山生西家は若宮大路と車大路の交差するところにあることになる。すなわち「車大路」は若宮大路と直交する東西道であろう。

周辺の遺跡では全地点中世の遺構が検出されている。馬淵は竪穴建物の分布は砂丘・砂堆地であり、前浜（二ノ鳥居東南一帯）、地点41の今小路西遺跡（御成小学校内）に見られる高級武家屋敷前面とし、倉庫としては「恒久的」なものではなく基本的には貨物の一時的な集積施設であり、転送が終ると壊されそれを繰り返すものであり、それは砂地だから可能と言っている（馬淵1994・1995）。しかし分布を見る限り立地に差異はなく、沖積低地にも竪穴建物は分布し、切り合いも多いので、以下では立地に関係なく、大きく三つの地域、掘立柱建物地域（屋敷地）、掘立柱建物と竪穴建物が混在する地域（町屋）、竪穴建物地域（倉庫）、に分ける。

掘立柱建物地域 地点39・41・42・43・48・53を含む現今小路より西側で地点42より北側を中心とする。地点41・53では高級武家屋敷の様相が確認できた。地点43では、報告者は掘立柱建物の検出された西街区を被官屋敷とし、竪穴建物の並ぶ北街区を倉庫地域、竪穴建物と掘立柱建物、井戸が整然と区画内に配置される南街区を商人・職人の居住地域としている（河野1993）。地点84を中心とする地点74・75・89・105・109の南北地域にも掘立柱建物が並ぶ、狭い調査区ながらも、やや小ぶりな建物が想定され、地点43との位置関係から被官級の屋敷も想定される。地点73は鎌倉時代前期（13世紀初頭～13世紀中葉）に掘立柱建物がならび、鎌倉時代後期（13世紀中葉～14世紀初頭）には竪穴建物が構築される。

掘立柱建物と竪穴建物の混在地域 この地域では調査区は一様に狭く、柱穴は検出されるが建物として並ばないことが多い。また後出する竪穴建物に壊されていることも少なくないため、建物としての確認はより困難をともなう。現今小路沿いの地点126がその様相をよく示す。掘立柱建物は一軒分の柱並びの確認ができたものが多く、大型の遺構に一部を壊されたものと思われ、「方形竪穴」（竪穴建物）より古い可能性がある。と報告者は指摘している。また今小路西遺跡（御成小学校内）と年代観は一致し、遺構・遺物の様相から庶民居住区の一画であることは間違いないと言っている（菊川1997）。地点39は小規模な竪穴建物も各面1～2軒建つが主体は掘立柱建物であり、注目すべきは鎌倉市役所北側の東西道に並行して検出された鎌倉時代後期の道である。遺跡の性格としては出土遺物から寺院址の可能性があるとしつつも、寺院の外れの日常生活を営んだ地区としている（手塚1982）。

調査地点より西に300m程の辺りでは調査地点毎に様相を異にする。地点45・49は掘立柱建物が並び、地点47・50は竪穴建物が検出されている。いずれも狭い調査区内でのことであるが、掘立柱建物と竪穴建物が混在する様相をよく表している。すぐ北東には地点42があり、掘立柱建物を主体としつつも、調査区を南北に縦断する道路を挟み東西で様相は変わる。東側では地点41・43の流れを汲む大型柱穴が並び、屋敷的様相を示す掘立柱建物が立つ、西側では小規模な掘立柱建物と竪穴建物が検出され町屋的様相と指摘される（清水・宮田1993）。先述の地点45周辺は地点42の西側と連続しているのだろうか。また地点50は未焼成の土師器皿が土塊等と共に出土していることから、地点付近に焼成施設を伴う製作工房の存在が想定できる、と報告者は言う（香川2007）。地点87では調査区の北東で13世紀前半には作られた板壁建物と井戸がある。掘立柱建物は検出されていないが、都市民の住居と捉えこの地域に入れた。鎌倉駅を挟み地点92・94・104・105は建物の検出はないが井戸や土坑が検出され、決定的因素を欠くが町屋地域に納めたい。

竪穴建物地域 掘立柱建物（屋敷）地域を除く全域に分布する。倉庫としたが竪穴建物の性格把握には立地環境と付属施設、出土資料も含めた総合的判断が必要であることはいうまでもない。しかし、図1

上の狭い範囲内では倉庫的性格の強い検出例が多く、また住居的、工房的な要素の強い例については個別に紹介していきたい。なお、倉としたうち、地点41の武家屋敷裏の基壇上に立つ外周を土居にした掘立柱建物は省く。また小規模な掘立柱建物の内にも倉庫はあるが、含めない。

まず、現今小路を隔てた地点43の対面位置でも、砂丘上に地点86・87で竪穴建物地域は広がる。地点86では調査区東側を中心に竪穴建物は幾度も立て替えられ展開する。また井戸、土坑等も検出され、これに対し報告者は地点43の町屋の様相とはやや異なるといい、河川運搬との関係や、区画された町屋とは別の性格を考える必要があるとしている。また、この近辺に近世・近代に「蔵屋敷」の町名が残っていることと、中世に「方形竪穴建物」(竪穴建物)が集中しているのは興味深い、と指摘している。またこの地は砂丘であり、土坑墓が2基検出される。寺院跡も推定されないこの地が15世紀には「浜」的な性格に戻っていった可能性が高いと指摘している(斎木2009)。「浜」的というのは葬地の意であろうか。地点87はやはり砂丘上である。調査区北東部に河川と思われる落ち込みが検出され、報告者は西側を河岸砂層上とし東側を河岸内低地とに分け、西側の河岸砂層上で検出された竪穴建物群を地点43の「町屋地域」に似ているとし、流通に関わる人々の生活空間としているが、地点43のような区画された町屋とは様相を異にしているので竪穴建物地域(倉庫)の一群として捉えた。報告者は、先にふれた砂丘は周辺の発掘調査結果から少なくとも13世紀前半には利用されていないことになり、13世紀前半頃に遺跡のある地点39から地点43にかけての海拔5m前後の生活面の東側に海拔7m以上の砂丘が存在し、そこは利用されていないこととし、由比ガ浜地域の砂丘の開発時期を知る上で興味深い事実であると指摘している(降矢2002)。

地点88以北で今小路以東の鎌倉駅西口一帯に、地点23を中心として調査は集中するが、何れも竪穴建物が検出されている。若宮大路を越えて東側の地点80・81・95・96・97・101・103も竪穴建物地域である。北に幕府を構え公的色彩の濃い土地柄でありながら竪穴建物は繰り返し建て替えられている。「蔵屋敷」の遺称はこの一帯を指す。

地点80・96では足金物や兜金等の鋳型が出土している。地点68・69・70・71・72は軒並み竪穴建物地域であり、それ以南も連続する。しかし、地点7には板囲い建物が検出されており、地点9・13には掘立柱建物の検出がある。竪穴建物に囲まれるこの一角はやや様相を異にするのだろうか。

地点24では布堀状遺構の検出があり、地点27には柱穴と土坑等が検出されている。今回の調査地点の隣接地である地点6では、竪穴建物の中央に囲炉裏の可能性のある遺構が検出されており、居住空間の可能性が指摘されている(宗臺1999)。地点10で解体痕の残る獸魚骨が数点出土している。地点29でも磨耗陶片・砥石・硯製作用材の端材・多量の獸骨加工片などが出土しており、石材と骨材を用いた工芸活動がされていたことを示す。地点44では13世紀末から15世紀初頭まで続く南北道路とその側溝の検出が主体であったが、多数の銭の鋳型と鋳造失敗品が井戸底から出土している。鋳造施設は発見されなかったものの銭の摸鋳が近隣で行われていたであろうことをうかがわせる。図1からはもれるが、長谷小路周辺遺跡では竪穴建物から骨製品の未成品や轍羽口、鉛滓、砥石、とりべが多数出土し、竪穴建物の工房的側面を見せていく。

(根本)

※引用・参考文献は第四章末に一括

第二章 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

由比ガ浜二丁目19番4において、店舗併用住宅建設の照会があった。工法は鋼管杭打ち込みによる基礎工事を含むものであり、設計変更は困難と判断された。この地点は鎌倉駅から400mほど南に位置し、近隣の調査から中世の遺構が存在することが予想された。地下の遺構の損壊を免れないため、鎌倉市教育委員会により発掘調査が実施されることになった。

調査は2006年4月24日に表土掘削を行い、同25日より本格的に始められた。

2. 調査方法

掘削方法

掘削にあたっては残土を場内処理とし、置き場所の確保のため面積82.40m²の調査区を南北に二分割した。そして前半(南半部)を「1区」、後半(北半部)を「2区」と仮称し、1区の調査時には2区を、2区の調査時は1区をそれぞれ残土置場とした。

両区とも地表下15～65cm前後の表土部分を重機で掘削し、以下を人力で掘削した。

測量基準

調査区北側前面の道路にほぼ直交する軸を概念上の基準軸とし、測量はこれに直交または平行する軸線を5m間隔で設定しておこなった。のち資料整理の際、世界測地系の数値を導入した。調査区はX-75 880～-75 900 Y-25 905～-25 915の間にある。

3. 調査の経過

調査は2006年4月24日に始まり、6月13日に終了した。その間の経過は以下の通り。

- 4月24日 重機により、1区表土掘削
- 4月25日 機材搬入
- 5月17日 1区I面全景写真撮影
- 5月23日 1区海成砂層面写真撮影
- 5月25日 重機により、2区表土掘削
- 6月6日 2区I面全景写真撮影、海成砂層面写真撮影
- 6月7日 最終深掘り写真撮影
- 6月13日 機材撤収

(沖元)

県道鎌倉葉山線（311号）

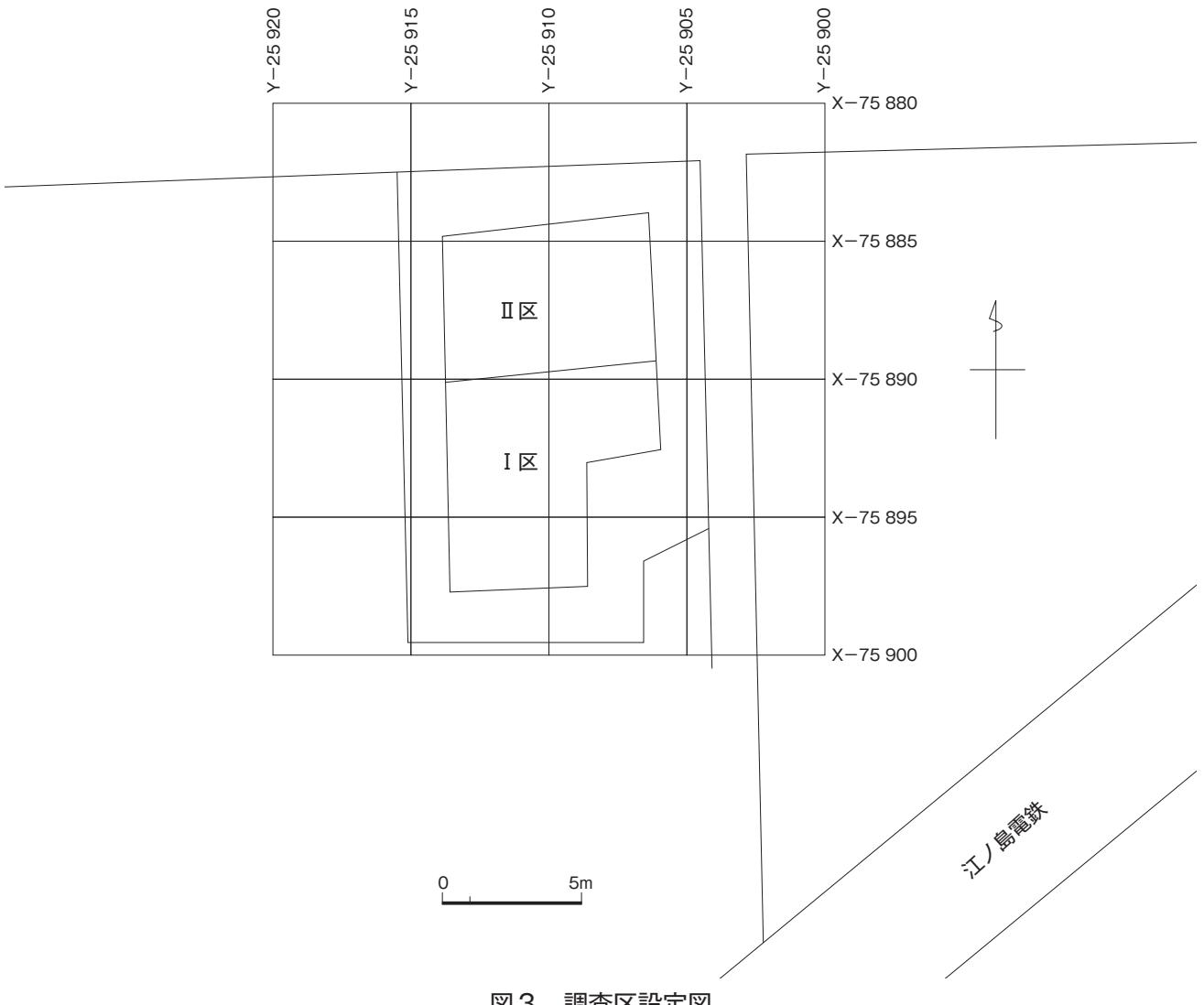


図3 調査区設定図

第三章 調査結果

第1節 概要

1. 層序

地表面

地表面の標高は、調査区北辺で7.10 m前後、南辺で6.15 m前後と、北に向かって傾斜している。後述するように、地山層は南の海岸に向かってなだらかに落ちていくが、地表面は逆に北が低い。これは近代以降、江ノ島電鉄線や県道鎌倉葉山線（旧国道134号線）敷設の際、削平された可能性があろう。

近世（図5）

表土および攢乱層は、凹凸激しくかなり深部に及んでおり、とくに南側では厚さ150cm、攢乱坑中では290cmにも達するところがある。これを除くと、中世層である灰色砂層が現れるが、そこに切り込まれた焦げ茶色の砂の小塊を多く含む層があり、これを近世の土とした。ただし、切り込まれた面そのものはほとんど全く残っていない。

I面（図7）

ほぼ鎌倉時代後期（13世紀後半～14世紀前半）から室町時代前期（15世紀前半）にいたる時代の層であり、おおむね灰色を基調とする砂層である。遺物片・炭化物を含み、締まりは弱く、乾くと灰白色を呈する。大半の遺構がこの層から切り込まれており、中世の遺構面をなす。

II面（海成砂層面）（図8）

面にともなって検出された遺構は見られず、人的営為を積極的に認めることはできない。II面とした海成砂層（図4土層番号21）が基盤層となる。

（馬淵）



図4 調査区土層断面図

53. 明灰褐色砂 黄灰色砂塊混ざる
 54. 灰色砂 淡橙色粗砂大塊全体に混ざる
 55. 灰色砂 54に似るが灰色砂の割合多い
 56. 灰色砂 黄灰色砂大塊多く含む
 57. 明灰茶色砂 黄灰色砂塊・炭化物・貝粒含む
 58. 明灰茶色砂と暗茶褐色砂質土の混合土 砂粒・炭化物含む
 59. 明灰茶色砂と暗茶褐色砂質土の混合土 58に似るが暗茶褐色砂質土と炭化物多い
 60. 明灰茶色砂 大きめの貝粒多い、炭化物微量に含む
 37・39・42・50は欠番

第2節 各説

1. 近世

面の概要(図5)

検出遺構：近世竪穴建物

近世竪穴建物(図6)

位置：X(-75 885.27)～(-75 886.04) Y(-25 910.16)～(-25 913.09) 平面形：方形 規模：東西2.88m×南北(0.63m) 主軸方位：N-12°-W 重複関係：攪乱坑により、切込み面削平される 出土遺物：図化可能なものなし 特記事項：攪乱土坑の底部で検出、構造からみて近世のものと判断。

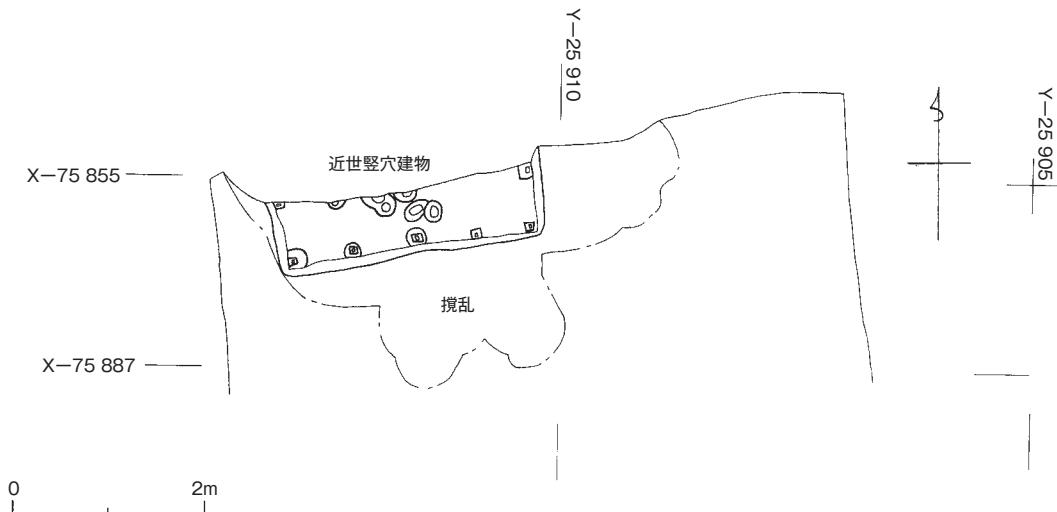


図5 近世遺構全図

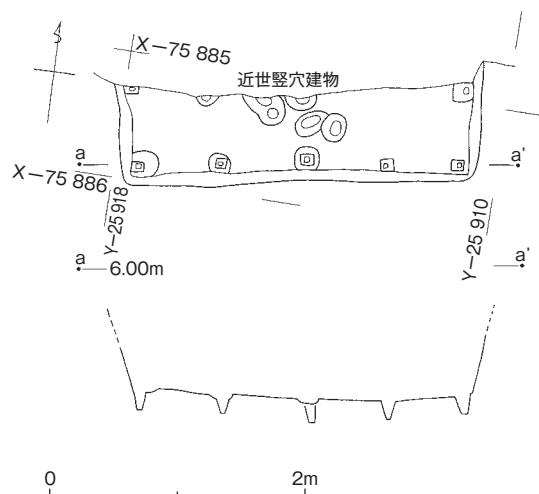


図6 近世竪穴建物

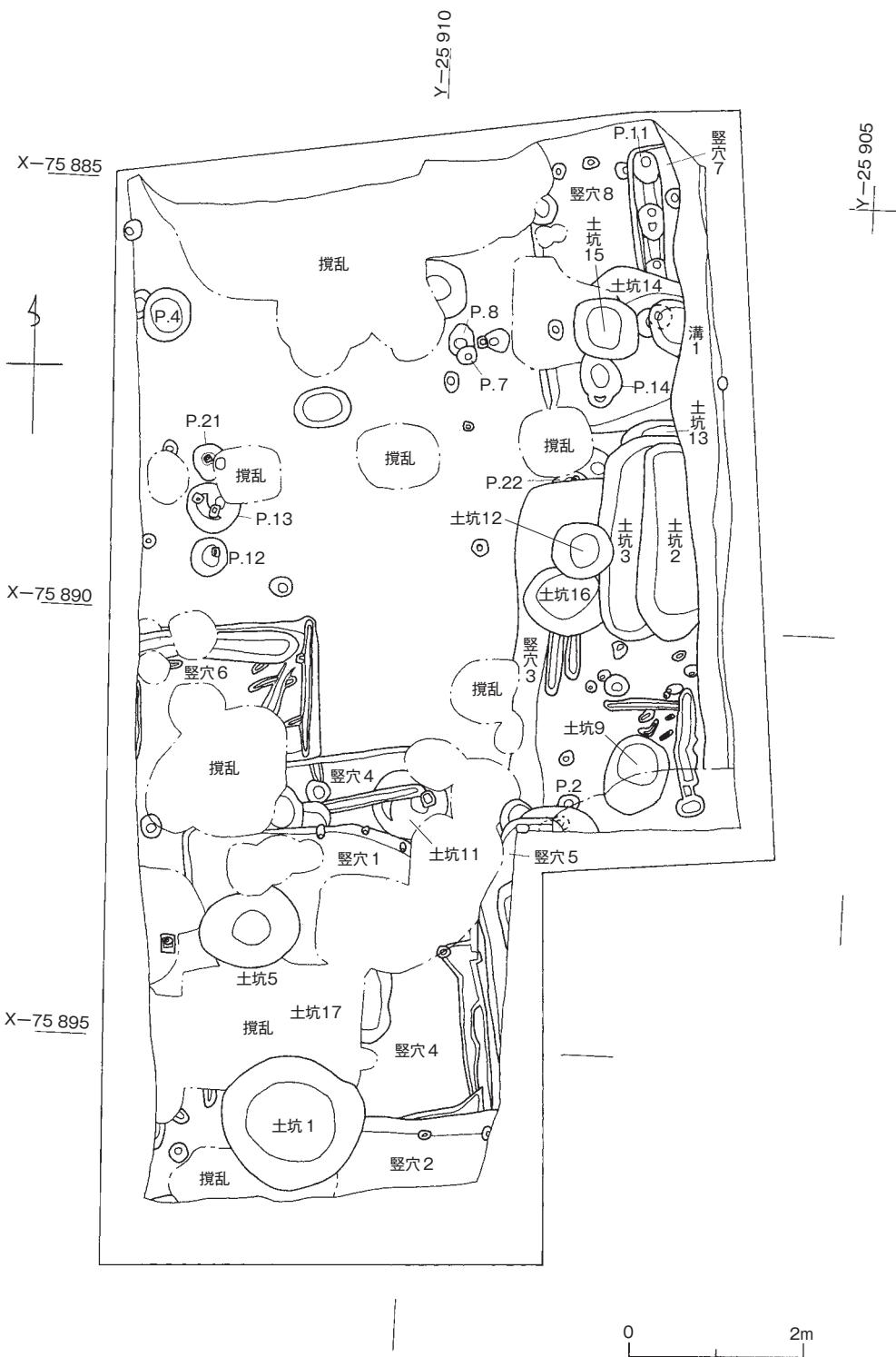


図7 I面遺構全図

2. I面

面の概要(図7・8)

検出遺構：豊穴建物8基・土坑14基・小穴28口 I面出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)

溝1(図8)

位置：X(-71 948.39)～-71 949.45 Y(-28 737.67)～-28 738.78 断面形：V字形ないし逆台形
規模：幅(0.72 m)×長さ(7.56 m)×深さ1.06 m(底面高4.96 m) 主軸方位：N-8°-W 重複関係：

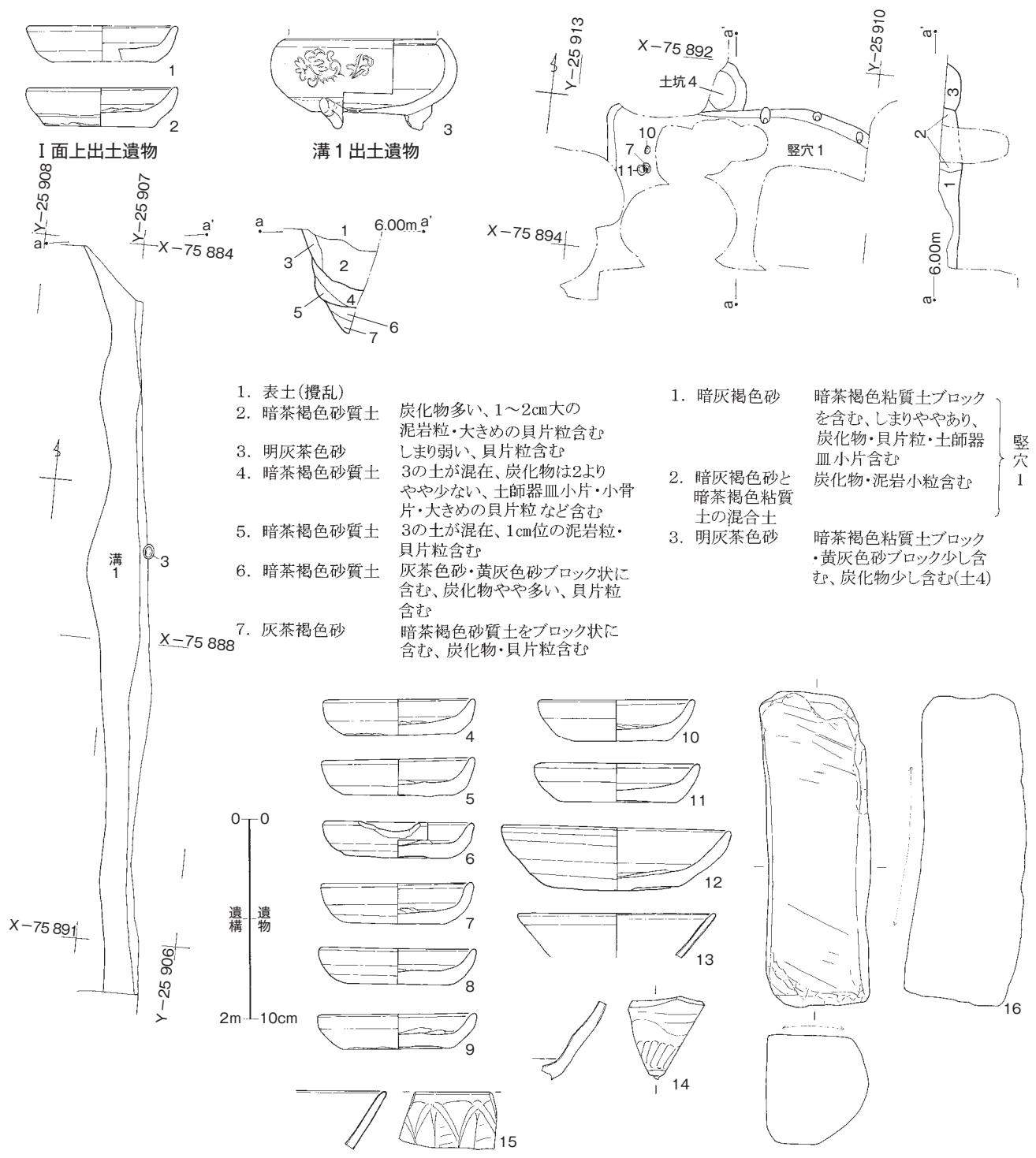
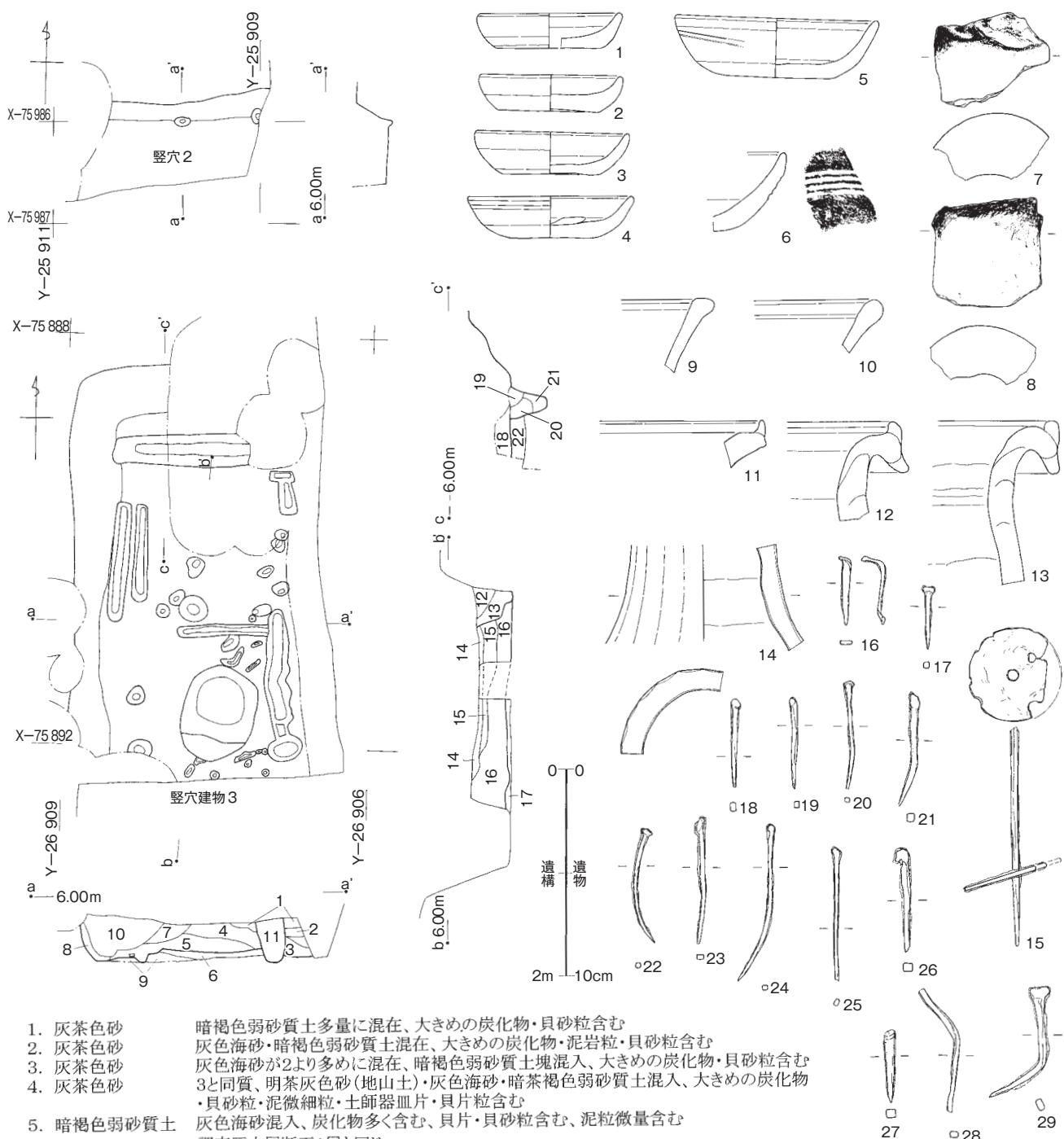


図8 I面出土遺物、溝1・縫穴1、同出土遺物

縫穴3・7・8、土坑2・3・13・14を切る 出土遺物：瀬戸香炉（3） 特記事項：切込み面を攢乱に切られるが、切合い及び土層断面からみて最も新しい遺構のひとつと思われる。溝最底部から出土した香炉は古瀬戸中Ⅱ期のものか。内底部中心に穴が穿たれ、欠損部の縁はきれいに整えられており、転用したものと思われる。

縫穴建物1（図8）

位置：X - 75 892.43 ~ (- 75 894.23) Y(- 25 910.05) ~ (- 25 913.30) 規模：東西191cm以上×南北109cm以上×深さ30cm（底面高5.38m） 平面形：不明 断面形：逆台形 主軸方位：N - 3° - W 重複関係：土坑5・7に切られる 出土遺物：土師器皿R種小型（4～11）・土師器皿R種大型（12）・白



1. 灰茶色砂 暗褐色弱砂質土多量に混在、大きめの炭化物・貝砂粒含む
2. 灰茶色砂 灰色海砂・暗褐色弱砂質土混在、大きめの炭化物・泥岩粒・貝砂粒含む
3. 灰茶色砂 灰色海砂が2より多めに混在、暗褐色弱砂質土塊混入、大きめの炭化物・貝砂粒含む
4. 灰茶色砂 3と同質、明茶灰色砂(地山土)・灰色海砂・暗茶褐色弱砂質土混入、大きめの炭化物・貝砂粒・泥微細粒・土師器皿片・貝片粒含む
5. 暗褐色弱砂質土 灰色海砂混入、炭化物多く含む、貝片・貝砂粒含む、泥粒微量含む
6. 灰色砂 調査区土層断面1層と同じ
7. 灰茶色砂 暗褐色弱砂質土塊含む、貝砂粒多く含む、炭化物少量含む 調査区土層断面2層と同じ
8. 灰茶色砂 4・5・10に比べ灰色海砂多く、色調明るい、貝砂粒多量に含む、炭化物少量含む、土師器皿片微量含む
9. 灰色海砂 暗褐色弱砂質土・灰色海砂多量に混入、暗茶灰色砂(地山土)塊含む、貝砂粒少量含む、貝片・泥粒微量含む
10. 暗褐色弱砂質土 貝砂粒多量に含む(地山漸移層)
11. 灰色砂 5と同質、5より色調暗い、炭化物・貝砂粒多く含む、遺物片・土師器皿片ごく微量含む
12. 明灰茶色砂 調査区土層断面3層と同じ
13. 灰茶色砂
14. 灰茶色砂
15. 灰茶色砂
16. 灰茶色砂
17. 明灰茶色砂
18. 暗褐色砂
19. 暗褐色砂
20. 灰茶色砂
21. 灰茶色砂
22. 灰色砂
12より砂粒やや細かい、暗茶褐色粘質土塊・炭化物少し含む、土師器皿片・貝片含む
18と同質、炭化物やや多い
海砂内に暗褐色砂やや多く含む、炭化物含む
20に比べ色調暗い
地山海砂に近い、暗褐色砂を含む、若干の炭化物含む

1~29
竪穴建物3出土
30
○30

30・31
竪穴建物3床下出土
1/1
31

図9 竪穴建物2・3、同出土遺物

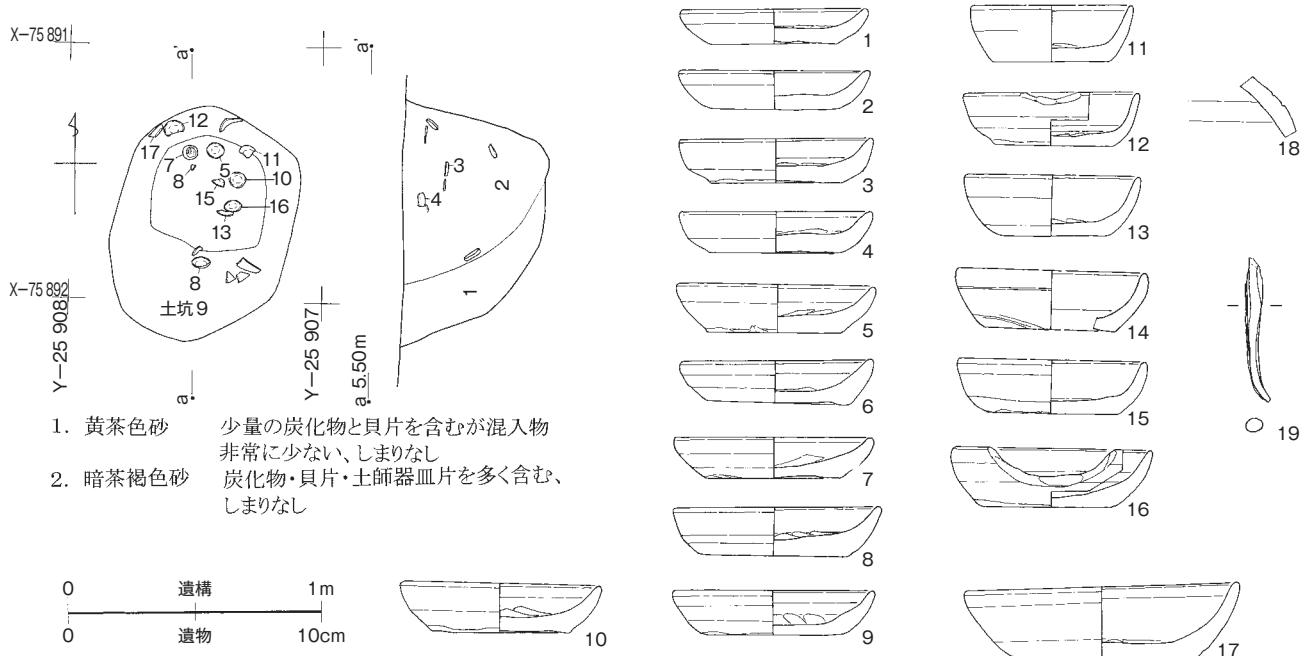


図10 土坑9、同出土遺物

磁口はげ皿(13)・吉州窯天目茶碗(14)・竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗(15)・砥石中砥(16)

豊穴建物2(図9)

位置:X - 75 985.68 ~ (- 75 986.77) Y(- 25 908.90) ~ (- 25 911.77) 規模:東西255cm以上×南北158cm以上×深さ22cm(底面高5.72m) 平面形:(隅丸方形) 断面形:浅い箱形 主軸方位:N - 11° - W 重複関係:豊穴4を切る、土坑1に切られる 出土遺物:図化可能遺物なし

豊穴建物3(図9)

位置:X - 75 887.70 ~ (- 75 892.32) Y(- 25 906.23) ~ - 25 909.34 規模:東西247cm以上×南北408cm以上×深さ39cm(底面高5.39m) 平面形:隅丸方形 断面形:逆台形 主軸方位:N - 4° - W 重複関係:溝1・土坑2・3・12・16に切られる 出土遺物:土師器皿R種小型(1~4)・土師器皿R種中型(5)・土師器皿R種大型(6)・輪羽口(7・8)・尾張型片口鉢(9)・常滑片口鉢I類(10)・常滑甕(11~13)・竜泉窯青磁米色花瓶(14)・鉄製品紡錘車か(15)・鉄釘(16~30)・熙寧元宝(17) 特記事項:床面から土坑9を検出した。恐らく豊穴建物3に伴うものである。9の尾張型片口鉢は瀬戸ないし猿投産と思われる。

土坑9(図10)

位置:X - 75 891.24 ~ - 75 892.16 Y - 25 907.09 ~ - 25 907.16 規模:東西70cm×南北94cm×深さ57cm(底面高4.80m) 平面形:不整橢円形 断面形:深鉢形 主軸方位:N - 7° - E 重複関係:なし

出土遺物:土師器皿R種小型(1~16)・土師器皿R種中型(17)・常滑壺(18)・鉄釘(19) 特記事項:前述したように、豊穴3に伴う土坑と思われる。

豊穴建物4(図11)

位置:X(- 75 891.48) ~ (- 75 895.83) Y - 25 908.98 ~ (- 25 911.53) 規模:東西126cm以上×南北435cm以上×深さ21cm(底面高5.61m) 平面形:(隅丸長方形) 断面形:浅い箱形 主軸方位:N - 9° - W 重複関係:豊穴1・2・6・土坑1・17に切られる 出土遺物:土師器皿R種小型(1)・鉄釘(2・3)・鉄釘ないし鉄製火箸(4) 特記事項:壁際床面の窪みは、切石ないし根太材の抜き痕か。

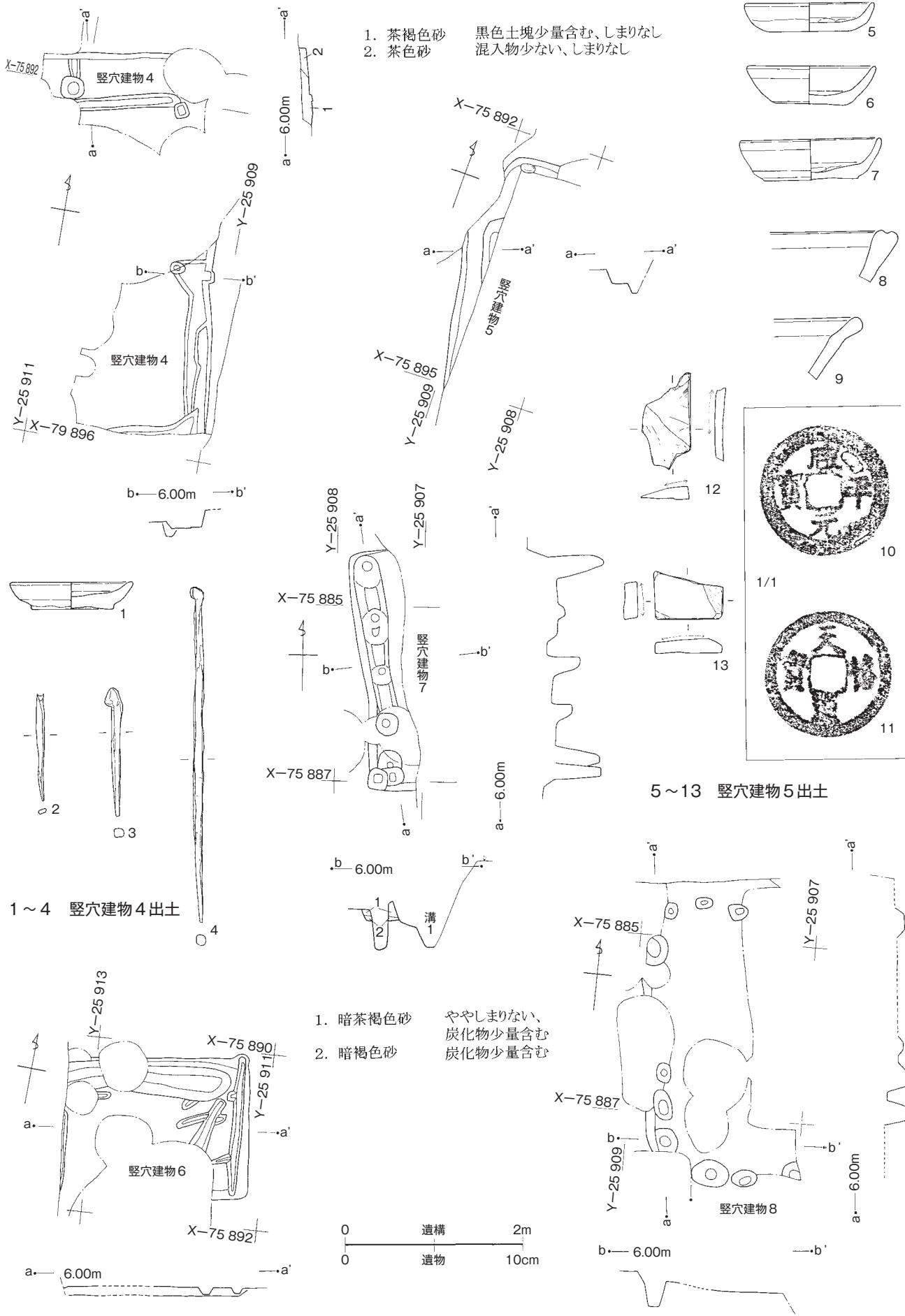


図11 竪穴建物4~8、竪穴建物4·5出土遺物

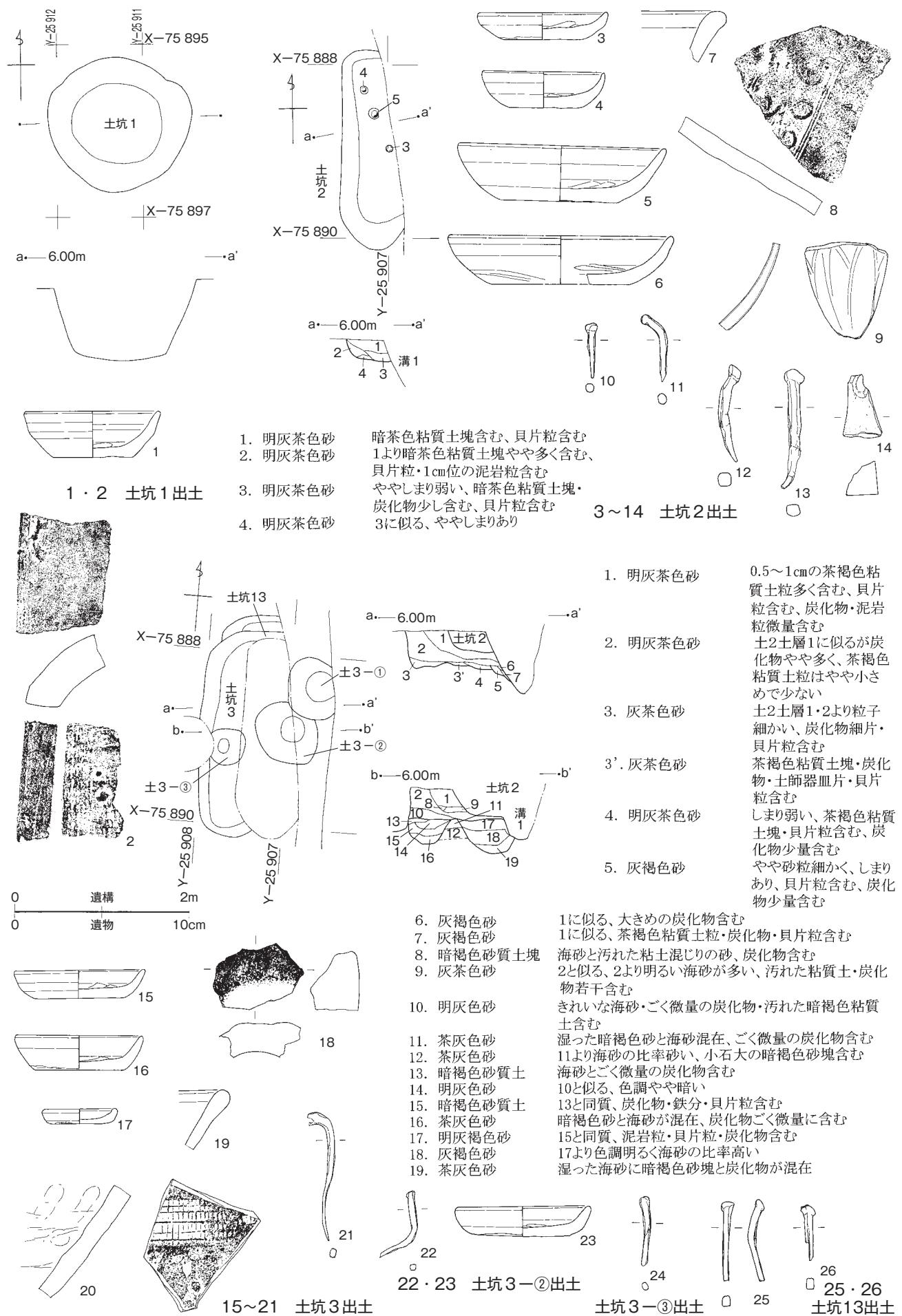
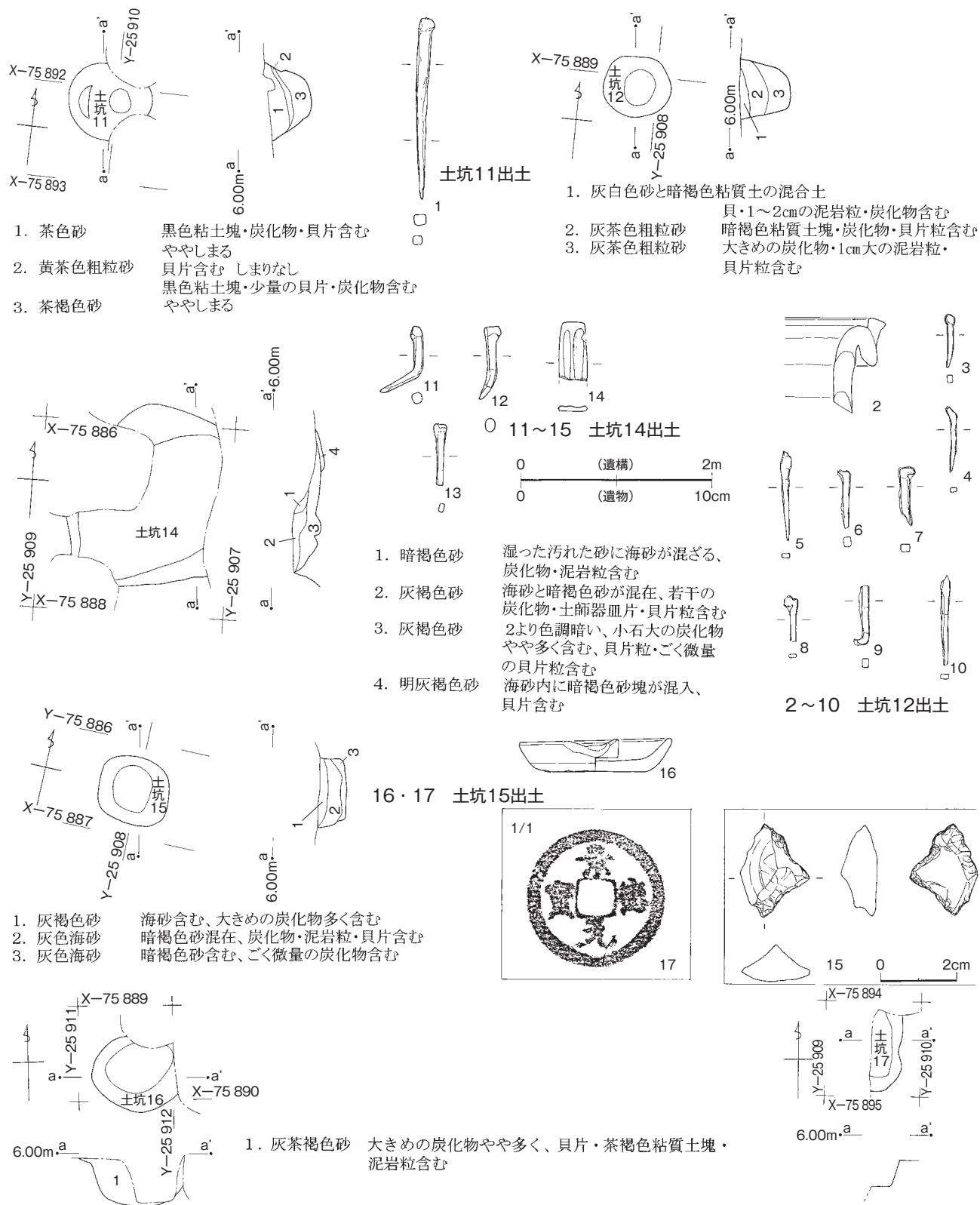


図12 土坑1～3・13、土坑2・3・13出土遺物



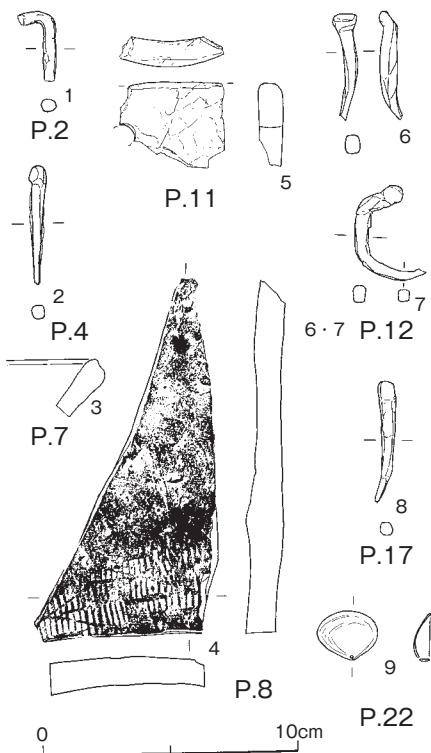


図14 I面小穴出土遺物

竪穴建物6(図11)

位置:X - 75 890.03 ~ - 75 891.71 Y - 25 911.14 ~ (- 25 913.32)

規模:東西207cm以上×南北164cm以上×深さ21cm(底面高5.61m)

平面形:隅丸方形 断面形:浅い逆台形 主軸方位:N - 6° - W

重複関係:竪穴建物4を切る 出土遺物:図化可能遺物なし 特記事項:

事項:根太材の抜き痕と思われる窓みは、竪穴の掘方より上面で検出。

竪穴建物7(図11)

位置:X - 75 884.46 ~ - 75 887.11 Y(- 25 907.02) ~ - 25 907.87

規模:東西60cm以上×南北274cm以上×深さ13cm(底面高5.40m)

平面形:隅丸長方形か 断面形:浅い箱形 主軸方位:N - 11° - W

重複関係:溝1・土坑14に切られる 出土遺物:図化可能遺物なし 特記事項:

竪穴の壁際に、柱穴と思われる小穴列を検出。

竪穴建物8(図11)

位置:X(- 75 884.53) ~ (- 75 887.79) Y(- 25 907.94) ~ (-

25 908.95) 規模:東西171cm以上×南北330cm以上×深さ24cm(底面高5.54m)

平面形:隅丸長方形か 断面形:浅い箱形 主軸方位:

N - 4° - W 重複関係:竪穴建物8・土坑14・15に切られる 出

土遺物:図化可能遺物なし 特記事項:明確な掘り込みは確認できず、柱穴配置から竪穴建物と判断した。

土坑1(図12)

位置:X - 75 895.15 ~ - 75 896.71 Y - 25 910.46 ~ - 25 912.11 規模:東西167×南北157cm×深さ87cm(底面高4.80m) 平面形:不整橢円形 断面形:逆台形 主軸方位:N - 2° - W 重複関係:竪穴建物2・4を切る 出土遺物:土師器皿R種小型(1)・丸瓦(2)

土坑2(図12)

位置:X - 75 887.83 ~ - 75 890.13 Y(- 25 906.82) ~ - 25 907.57 規模:東西72cm以上×南北232cm×深さ24cm(底面高5.57m) 平面形:不整長橢円形 断面形:浅皿形 主軸方位:N - 2° - E 重複関係:竪穴建物3・土坑3を切る、溝1に切られる 出土遺物:土師器皿R種小型(3・4)・土師器皿R種大型(5・6)・常滑片口鉢I類(7)・常滑甕(8)・龍泉窯青磁鎧蓮弁文碗(9)・鉄釘(10~13)・鹿角加工品(14)

土坑3(図12)

位置:X - 75 887.75 ~ - 75 890.14 Y(- 25 906.82) ~ - 25 908.04 規模:東西(115cm)×南北238cm×深さ42cm(底面高5.39m) 平面形:不整長橢円形 断面形:箱形 主軸方位:N - 5° - W 重複関係:竪穴建物3・土坑16を切る、溝1・土坑2・12に切られる 出土遺物:土師器皿R種小型(15・16)・土師器皿R種極小型(17)・轆羽口(18)・尾張型片口鉢(19)・常滑甕(20)・鉄釘(21・22) 特記事項:土坑底面より3基の小穴を検出。これらは土坑3に帰属するものと判断した。

土坑3-②出土遺物

土師器皿R種小型(23)

土坑3-③出土遺物(図12)

土坑13(図12)

位置:X - 75 887.54 ~ (- 75 887.91) Y(- 25 906.93) ~ (- 25 907.85) 規模:東西70cm以上×南北19cm以上×深さ24cm(底面高5.56m) 平面形:橢円形か 断面形:浅皿形 主軸方位:N - 84° - E 重

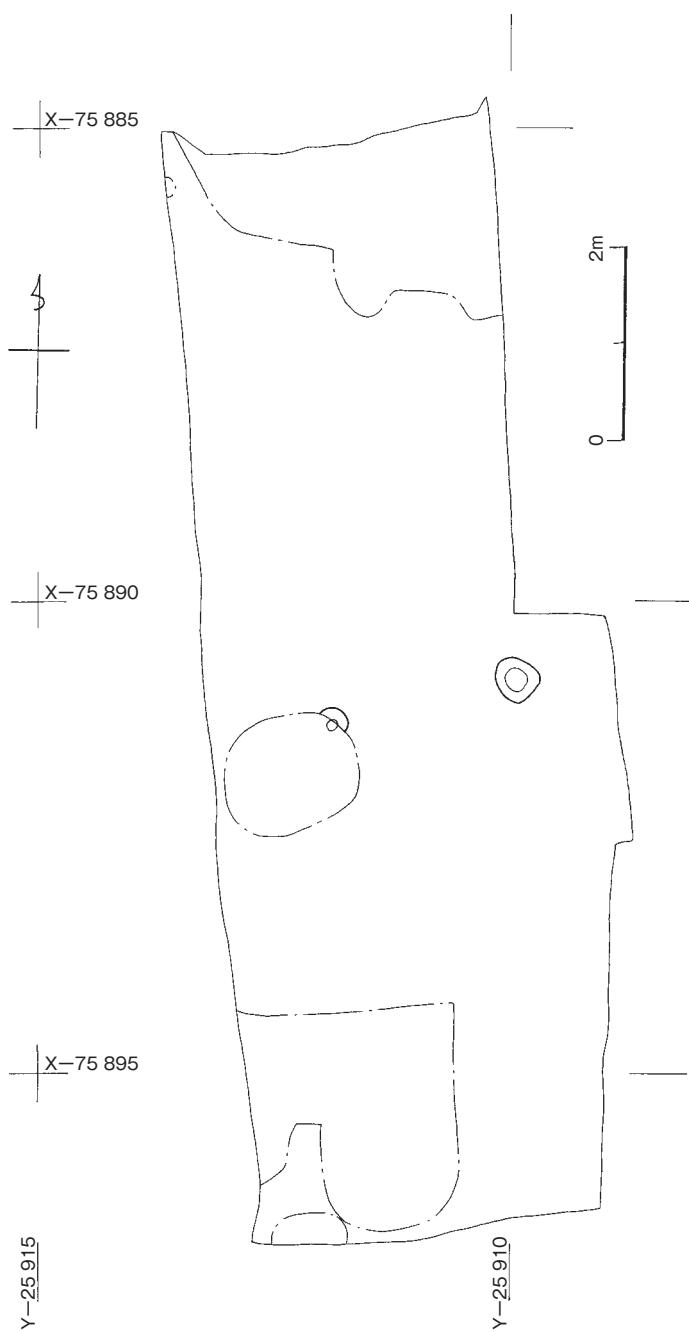


図15 II面遺構全図

cm × 南北 71cm × 深さ 29cm (底面高 5.22 m) 平面形：隅丸方形 断面形：箱形 主軸方位：N – 86° – E
重複関係：土坑 14 を切る 出土遺物：土師器皿 R 種小型 (16)・景德元宝 (17)

土坑 16 (図13)

位置 : X – 75 889.68 ~ X – 75 890.12 Y – 25 908.86 ~ Y – 25 908.02 規模 : 東西 (90cm) × 南北 81cm
× 深さ 50cm 平面形 : 楕円形 断面形 : 深鉢形 主軸方位 : N – 88° – W 重複関係 : 土坑 3 ・ 12 に切
られる 出土遺物 : 図化可能遺物なし

土坑 17 (図13)

位置 : X – 75 894.14 ~ X – 75 894.97 Y – 25 910.20 ~ (Y – 25 910.53) 規模 : 東西 (32cm) × 南北
88cm 平面形 : 隅丸方形 断面形 : 逆台形 主軸方位 : N – 0° – W 重複関係 : 壇穴建物 4 を切る 出
土遺物 : 図化可能遺物なし

複関係 : 土坑 3 に切られる 出土遺物 :
鉄釘 (25・26)

土坑 11 (図13)

位置 : X – 75 891.75 ~ – 75 892.56 Y
– 25 909.62 ~ – 25 910.51 規模 : 東西
89cm × 南北 80cm × 深さ 45cm (底面高 5.23
m) 平面形 : 円形 断面形 : 深鉢形
主軸方位 : N – 87° – E 重複関係 : な
し 出土遺物 : 鉄釘 (1)

土坑 12 (図13)

位置 : X – 75 888.80 ~ – 75 889.53 Y
– 25 907.84 ~ 25 908.56 規模 : 東西 71
cm × 南北 64cm × 深さ 54cm (底面高 5.42
m) 平面形 : 不整橢円形 断面形 : 深
鉢形 主軸方位 : N – 90° – W 重複関係 :
壇穴建物 3 ・ 土坑 3 ・ 16 を切る 出土
遺物 : 常滑甕 (2)・鉄釘 (3~10)

土坑 14 (図13)

位置 : X – 75 885.79 ~ (– 75 887.62)
Y(– 25 907.88) ~ (– 25 908.72) 規模 :
東西 162cm 以上 × 南北 190cm × 深さ 30cm
(底面高 5.49 m) 平面形 : 隅丸方形か
断面形 : 浅皿形 主軸方位 : N – 8° – W
重複関係 : 壇穴建物 7 ・ 8 を切る、土坑
15 ・ 小穴に切られる 出土遺物 : 石英片
(11)・鉄釘 (12~14)・不明骨製品 (15)

土坑 15 (図13)

位置 : X – 75 886.16 ~ – 75 886.87 Y
– 25 907.66 ~ – 25 908.31 規模 : 東西 75
cm × 南北 71cm × 深さ 29cm (底面高 5.22 m) 平面形 : 隅丸方形 断面形 : 箱形 主軸方位 : N – 86° – E
重複関係 : 土坑 14 を切る 出土遺物 : 土師器皿 R 種小型 (16)・景德元宝 (17)

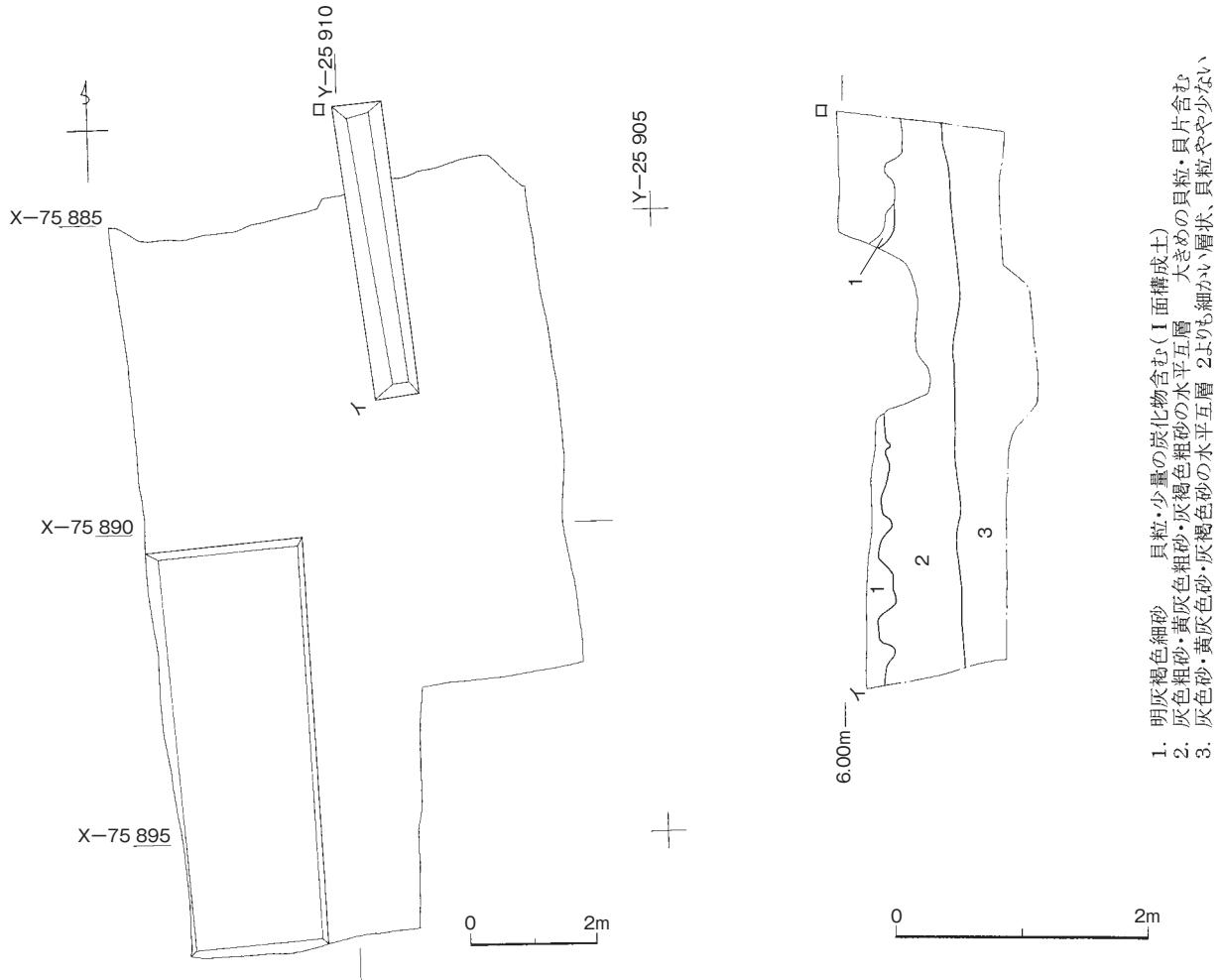


図16 深掘り設定図・深掘り土層断面

I面小穴出土遺物(図14)

(P.2) 鉄釘(1)・(P.4) 鉄釘(2)・(P.7) 常滑片口鉢I類(3)・(P.8) 常滑甕・(P.11) 滑石鍋転用品(5)・
(P.12) 鉄釘(6・7)・(P.17) 鉄釘(8)・(P.22) 貝製品(9)

3. II面(海成砂層面)

面の概要(図15)

検出遺構: 小穴2 出土遺物: 図化可能遺物なし

4. 最終確認深掘り

面の概要(図16)

検出遺構: なし 出土遺物: 図化可能遺物なし

遺構外採集遺物(図17・18)

土師器皿R種小型(1～13)・土師器皿R種大型(14～16)・瓦器火鉢(17)・轍羽口(18～20)・渥美・
湖西片口鉢(21)・常滑片口鉢I類(22～25・27・28)瀬戸窯尾張型片口鉢(26)・常滑片口鉢II類(29・
30)・渥美甕(31・40)・常滑甕(32～39・41・42)・瀬戸卸し皿(43)・瀬戸輪花型入子(44)・隅切軒丸瓦(45)・
竜泉窯青磁鎧蓮弁文碗(46～49)・竜泉窯青磁米色鎧蓮弁文碗(50)・元祐通寶(51)・錢種不明(52)・
鉄釘(53～56)・砥石仕上げ砥(57・59・60)・砥石中砥(58・61)

(沖元)

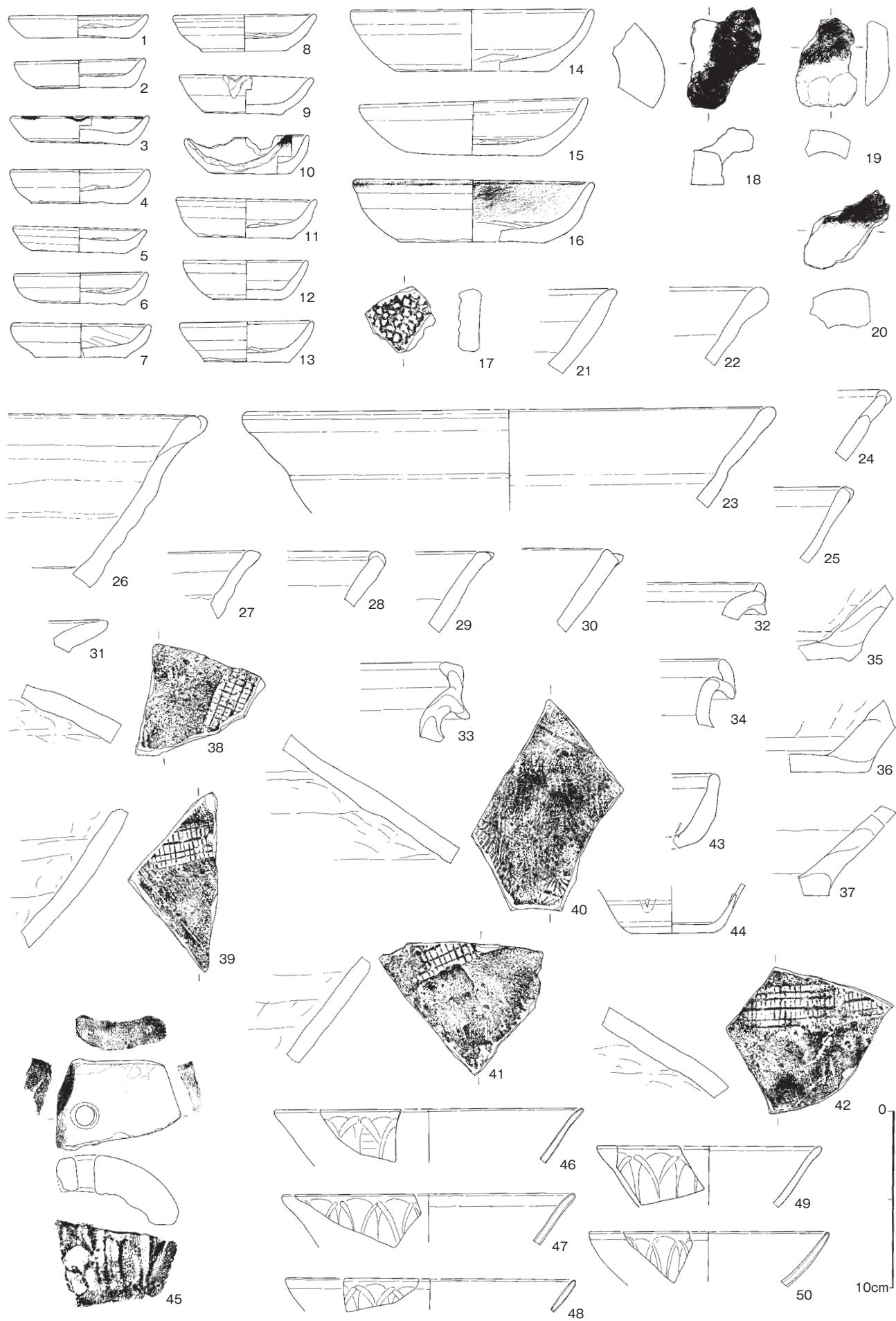


図17 遺構外出土遺物(1)

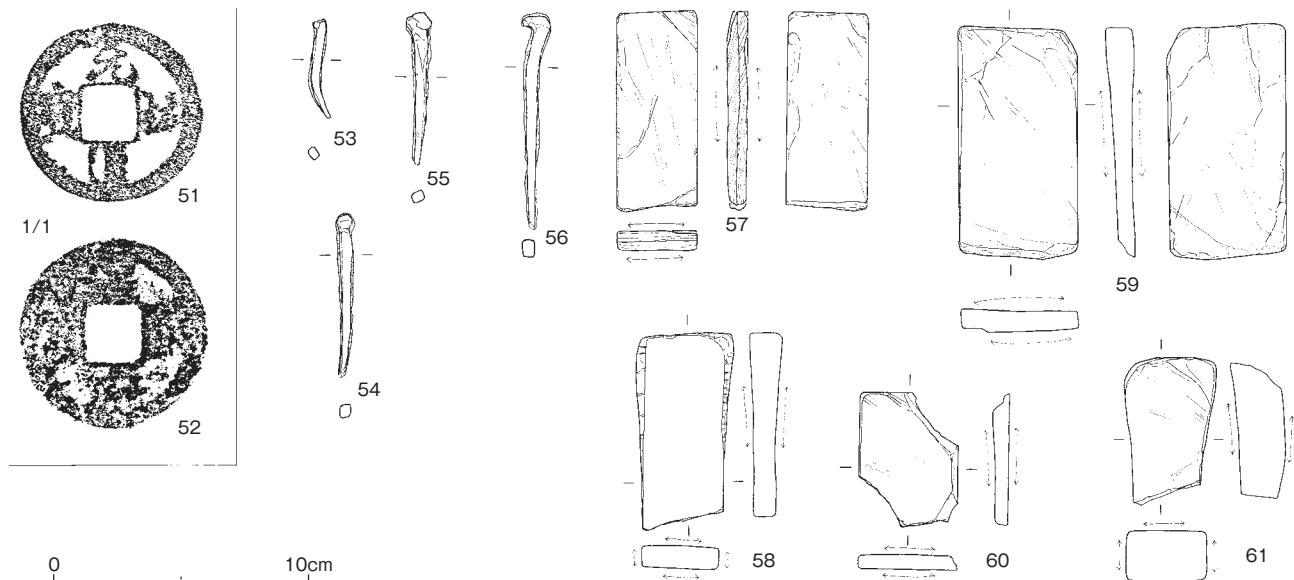


図18 遺構外出土遺物(2)

5. 遺物計量比について（表5）

出土した遺物のほとんどは遺構からの出土である。この内堅穴建物3に伴う土坑9からは土師器皿R種小型の集中出土がみられ、何らかの埋納儀礼が行われたと思われる。釘の出土が多いのは堅穴建物8軒の検出によるものと思われる。

全体の出土遺物を総破片数計量し、グラフにした。1997年に馬淵が試みた総破片数計量による中世都市鎌倉の食器消費の状況から論じた食文化のあり方(1997馬淵)をふまえ、遺跡の傾向を見ていきたい。

馬淵は市内を都市中核部・武家屋敷・町屋地区・海岸部の四つに分け、とりわけ土師器皿の消費のあり方に注目して比較検討している。今回の遺跡は砂丘地帯に位置するので海岸部と呼ぶべきであろう。遺構も海岸部に多い堅穴建物ばかりである。遺物の比較では、土師器皿、国産陶器、中国陶磁器の順で76.1:12.45:1.2となる。土師器皿は馬淵の海岸部の傾向よりやや多く、町屋地区的であり、国産陶磁器は少なくやはり町屋的であるが、中国陶磁器は全体に少なく海岸部的である。これに比べ、遺物の出土状況は先にも触れた土坑9による土師器皿R種の集中出土による埋納遺構があり、海岸部の様相が強い。土師器皿が海岸部の傾向より多いのは土坑9の集中出土によることとみてもいいだろう。国産陶磁器は馬淵の比較によると町屋地区より海岸部は倍多いが本地点では国産陶磁器は逆に少ない。これは、堅穴建物の性格・機能の差からくるのか、また調査地点が比較的町屋地区に近い事による可能性が高い。

(根本)

出土骨分類表

	不明	魚	獸	鳥
表採及び攪乱	29	4	1	
豎穴3	4			1
豎穴5			3	
土坑2	2		3	
土坑3-②			1	
土坑9	2			9
土坑12	3	1		
P4	1			
P13				1
1面精査時	1			
総計	42	5	8	11

出土貝類分類表

	シオフキガイ	クボガイ	ウミニナ	イボニン	アカニシ	サルボウガイ	アカガガイ	バイガイ	ハマグリ	イボキサゴ	カガミガイ	ホタテガイ	オオノガイ	ヒロカタビラガイ	ツメタガイ	チヨウセンハナグリ	キサゴ	ダンベイキサゴ	アワビ	クロアワビ	サザエ	コシダカガングラ	イガイ	ヘビガイ	チリボタン	イワガキ	
表採及び攪乱	1	1	1	1	16	1	1	3	55	5				1	11	12	2	13			3						
溝1下層								3																			
豎穴1			1							2																1	
豎穴3			1			3		1	34		1				4			28	12			1					
豎穴4										6									2								
豎穴4根太痕中										2																	
豎穴5						2			9																		
豎穴7覆土										1									2							1	
土坑2			1							23									20	2						3	
土坑3		3		1					32										11	3	1						
土坑3-①										1																	
土坑3-②										4									5								
土坑4										1									3								
土坑5									3							2				1							
土坑6						1			1		1								1								
土坑7																											
土坑9						2			9					1					16								
土坑12						2			12							1			44								
土坑13	1								1										3								
土坑14									4									22	1								
土坑15									1									4									
P.1											1																
P.4									6								1	13									
P.7																		2									
P.12																		1									
P.13									1										1								
P.21																		1									
I面						1			6										1	3							
II区最終深掘り				1	1	31	1	2	3215	5	1	1	3	1	16	14	3191	19	1	7	1	1	1	1	1	4	
総計	2	7	2	1	31	1	2	3215	5	1	1	3	1	16	14	3191	19	1	7	1	1	1	1	1	4		

表1 出土遺物観察表(1)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
図8-1	I面	土師器皿 R種 小型	口径(7.4)cm 底径(5.0)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む やや粗土
2	I面	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径5.4cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に強い板状圧痕あり 内底部ナデ 胎土は赤色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・海面骨針を含む やや粗土
3	溝1	瀬戸 香炉	頸部径7.8cm 底径5.0cm 最大径9.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 底部中央に径0.4cmの穿孔あり 頸部から上は欠損、故意に打ち欠いてある 植木鉢として転用した可能性あり 脚3箇所貼り付け 脚部外面に4箇所印花文(宝相華紋か)を施す 胎土は淡灰黄色 淡緑色の灰釉が胴部下位まで掛かる
4	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径5.5cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子含む
5	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径5.5cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子含む
6	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径5.2cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針含みやや砂質 口縁部の一部を打ち欠く
7	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.5cm 底径5.2cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・泥岩粒を含む砂質土
8	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.8cm 底径5.4cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底面に強い板状圧痕 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒を含む
9	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.8cm 底径5.8cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底面に薄く板状圧痕 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・雲母・泥岩粒を含みやや砂質
10	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径7.7cm 底径5.0cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・気孔を含む
11	竪穴1	土師器皿 R種 小型	口径8.0cm 底径5.6cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・気孔・海綿骨針を含む
12	竪穴1	土師器皿 R種 大型	口径11.4cm 底径6.8cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
13	竪穴1	白磁 口はげ皿	口径(9.9)cm ロクロ成形 素地は灰白色、黒色微粒子含む 釉は淡灰緑色乳不透明、気泡含む
14	竪穴1	吉州窯 天目茶碗	胴部下位片 ロクロ成形、外面下位にヘラ削り 胎土は鈍い黄褐色を呈し、やや肌理は粗いが堅緻 内面と外側の途中まで艶のある黒釉が掛かる
15	竪穴1	竜泉窯青磁 鎌連弁文碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は白色、一部橙色で黒色微粒子含む 釉は水色半透明、貫入あり
16	竪穴1	砥石 中砥	遺存長(16.0)cm 幅5.2cm 厚さ5.5cm 砥面2面 淡緑灰色凝灰岩 上野産 13世紀後半か
図9-1	竪穴3	土師器皿 R種 小型	口径(6.8)cm 底径(5.0)cm 器高2.7cm 右転ロクロ 底面糸切り 外底面板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・赤色粒子・海綿骨針・大き目の泥岩粒・気孔を含む粗土
2	竪穴3	土師器皿 R種 小型	口径(6.8)cm 底径5.1cm 器高2.7cm 右転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・赤色粒子・海綿骨針・白色粒子・気孔を含む砂質粗土
3	竪穴3	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径4.8cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
4	竪穴3	土師器皿 R種 小型	口径(7.9)cm 底径4.4cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・海面骨針を含む
5	竪穴3	土師器皿 R種 中型	口径(9.8)cm 底径(5.8)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針・泥岩粒を含む やや粗土
6	竪穴3	土師器皿 R種 大型	口縁～胴部片 回転ロクロ 底面糸切り 胎土は鈍い淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・気孔含む砂質粗土 外側口縁部下に4条の沈線が巡る
7	竪穴3	輪 羽口	胎土は淡橙色～赤橙色、赤色粒子・白色粒子・気孔・多量の砂粒含む粗土
8	竪穴3	輪 羽口	胎土は灰橙色～赤橙色、赤色粒子・白色粒子・多量の砂粒・機構泥岩粒含む粗土
9	竪穴3	尾張型片口鉢	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色 瀬戸窯産の可能性が考えられる
10	竪穴3	常滑 片口鉢 I類	口縁部片 輪積み成形後 胎土は灰色、黑色粒子・長石含む 口縁部に降灰
11	竪穴3	常滑 銀	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英・気孔を含む 器表は茶褐色 口縁部に降灰
12	竪穴3	常滑 銀	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・大粒石英・黒色粒子を含む 器表は褐色 口縁部に降灰
13	竪穴3	常滑 銀	口縁部～頸部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英を含む 器表は褐色 口縁部上側・頸部外側に降灰
14	竪穴3	竜泉窯青磁米色 花瓶	頸部片 ロクロ成形 外側に縱方向の稜線 胎土は肌色～茶色で堅緻 釉は外側は灰黄色、内側は鈍い褐色で透明、厚めに掛かり、貫乳入が入る
15	竪穴3	不明鉄製品	紡錘車か?円盤部分は直径4.6cm 径0.4cmの穿孔に遺存長10.7cmの棒状の軸が刺さる
16	竪穴3	鉄釘	長3.4cm 幅0.6cm 厚さ0.2cm 重さ1.4g
17	竪穴3	鉄釘	長3.2cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ1.5g
18	竪穴3	鉄釘	遺存長(4.3)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ1.5g
19	竪穴3	鉄釘	長4.4cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ2.1g
20	竪穴3	鉄釘	遺存長(5.3)cm 幅0.3cm 厚さ0.2cm 重さ g
21	竪穴3	鉄釘	遺存長(5.8)cm 幅0.3cm 厚さ0.4cm 重さ2.5g
22	竪穴3	鉄釘	長3.0cm 幅0.3cm 厚さ0.3cm 重さ1.4g
23	竪穴3	鉄釘	遺存長(5.3)cm 幅0.45cm 厚さ0.2cm 重さ2.3g
24	竪穴3	鉄釘	長8.1cm 幅0.2cm 厚さ0.3cm 重さ2.3g
25	竪穴3	鉄釘	遺存長(5.6)cm 幅0.4cm 厚さ0.2cm 重さ1.6g
26	竪穴3	鉄釘	遺存長(5.1)cm 幅0.45cm 厚さ0.4cm 重さ3.6g
27	竪穴3	鉄釘	遺存長(3.7)cm 幅0.4cm 厚さ0.4cm 重さ1.9g
28	竪穴3	鉄釘	遺存長(6.6)cm 幅0.45cm 厚さ0.3cm 重さ2.6g
29	竪穴3	鉄釘	長6.8cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 重さ5.9g
30	竪穴3床下	鉄釘	遺存長(7.0)cm 幅0.6cm 厚さ0.55cm 重さ3.58g
31	竪穴3床下	熙寧元寶	初鑄1068年 北宋 篆書
図10-1	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(7.2)cm 底径(5.0)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針・泥岩粒を含みや粗土
2	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(7.5)cm 底径(5.0)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・赤色粒子・海綿骨針・泥岩粒・白色粒子を含む砂質土

表2 出土遺物観察表(2)

掲図番号	出土遺構	種別	備考
3	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.5cm 底径5.2cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・赤色粒子・海綿骨針・泥岩粒・礫を含むやや砂質の粗土
4	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.4cm 底径5.2cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針・泥岩粒を含むや砂質土
5	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.7cm 底径5.1cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針・泥岩粒・気孔を含む砂質土
6	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.5cm 底径5.8cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針・白色粒子を含むや砂質土
7	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.8cm 底径5.4cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針・泥岩粒を含むや砂質土
8	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径8.1cm 底径6.0cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部板状圧痕 胎土は淡橙色、微粒・海綿骨針・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒を含む砂質土
9	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.9cm 底径5.9cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・海綿骨針・赤色粒子・泥岩粒・白色粒子を含む砂質土
10	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.7cm 底径5.5cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、砂粒・赤色粒子・海綿骨針・泥岩粒含む砂質土
11	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(7.0)cm 底径4.8cm 器高2.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微粒・砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒を含む
12	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径6.9cm 底径4.6cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 口縁部の一部を打ち欠く
13	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(6.8)cm 底径(4.0)cm 器高2.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
14	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(7.5)cm 底径(5.1)cm 器高2.3cm 回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・海綿骨針を含む
15	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径(7.3)cm 底径5.2cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子を含みやや精良
16	土坑9	土師器皿 R種 小型	口径7.8cm 底径5.2cm 器高2.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 口縁部の一部を打ち欠く
17	土坑9	土師器皿 R種 中型	口径10.7cm 底径7.0cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨針・砂粒・雲母・白色粒子を含む
18	土坑9	常滑壺	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・灰黒色粒子を含む 器表は褐色 浅い沈線が2本巡る
19	土坑9	鉄釘	遺存長(5.8)cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 重さ3.48g
図11-1	堅穴4	土師器皿 R種 小型	口径(6.8)cm 底径(4.6)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い黄橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子・礫を含みや粗土
2	堅穴4	鉄釘	遺存長(6.2)cm 幅0.5cm 厚さ0.25cm 重さ2.7g
3	堅穴4	鉄釘	遺存長(7.3)cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ4.2g
4	堅穴4	鉄製品	鉄釘なし鉄製火箸 長40.1cm 幅0.55cm 厚さ0.6cm 重さ19.0g
5	堅穴5	土師器皿 R種 小型	口径(7.2)cm 底径(4.6)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤橙色、砂粒・赤色粒子・白色粒子を含みや砂質
6	堅穴5	土師器皿 R種 小型	口径7.2cm 底径4.1cm 器高2.1cm 回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・白色粒子を含み精良土
7	堅穴5	土師器皿 R種 小型	口径(7.9)cm 底径(5.3)cm 器高2.3cm 回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子を含む
8	堅穴5	尾張型片口鉢	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、微砂粒・白色粒子を含む 内底面は使用により磨耗
9	堅穴5	瀬戸折縁深皿	口縁部片 胎土は淡灰褐色、微砂粒・気孔を含みや粗 灰緑色の灰釉が掛かるが、全体に被熱によりざらつく
10	堅穴5	咸平元寶	初鑄998年 北宋 楷書
11	堅穴5	天禧通寶	初鑄1017 北宋 楷書
12	堅穴5	砥石 仕上砥	遺存長(2.8)cm 幅4.0cm 最大厚0.8cm 砥面1面 切断面に鋸痕がない 淡橙色と淡赤橙色の群雲状石紋がある頁岩出羽産 14世紀後半か
13	堅穴5	砥石 仕上砥	遺存長(5.5)cm 遺存幅(2.7)cm 最大厚0.8cm 砥面1面 切断面に鋸痕がない 淡橙色と淡赤橙色の群雲状石紋がある頁岩鳴滝産
図12-1	土坑1	土師器皿 R種 小型	口径(7.7)cm 底径(4.6)cm 器高2.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・雲母・白色粒子を含む砂質土
2	土坑1	丸瓦	遺存長(7.1)cm 遺存幅(5.4)cm 厚2.0cm 胎土は白色粒子・黒色粒子・礫・気孔を少し含む肌理の細かい灰色土 凸面と側面は縦位へラ削り後ナデ、凹面糸切り痕と布目痕あり 側面端から2.5cmほどまで暗灰色に変色し白い付着物あり
3	土坑2	土師器皿 R種 小型	口径7.3cm 底径4.5cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は鈍い橙色、砂粒・海綿骨針・雲母を含む砂質土
4	土坑2	土師器皿 R種 小型	口径6.9cm 底径4.2cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子を含む
5	土坑2	土師器皿 R種 大型	口径11.8cm 底径7.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部に薄く板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母含む砂質土
6	土坑2	土師器皿 R種 大型	口径(12.8)cm 底径(7.8)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は淡橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質土
7	土坑2	常滑片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形 胎土は明灰色、石英・長石・砂粒を含む
8	土坑2	常滑甕	方部片 輪積み成形 胎土は灰色、砂粒・長石・石英・黒色粒子を含む 器表は茶褐色 方形の枠に唐草風文様の叩き目
9	土坑2	竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗	胴部片 ロクロ成形 灰色素地は淡灰色で 釉は青灰色半透明、貫入あり 内底面に擦過痕あり
10	土坑2	鉄釘	遺存長(3.3)cm 幅0.5cm 厚さ0.55cm 重さ1.5g
11	土坑2	鉄釘	長4.4cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ2.3g
12	土坑2	鉄釘	長5.8cm 幅0.8cm 厚さ0.8cm 重さ5.33g
13	土坑2	鉄釘	遺存長(7.1)cm 幅0.8cm 厚さ0.65cm 重さ8.1g
14	土坑2	鹿角加工品	長3.6cm 幅2.2cm 厚さ1.9cm 切断面2面 滑らかに磨耗した面1面
15	土坑3	土師器皿 R種 小型	口径(7.0)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む

表3 出土遺物観察表(3)

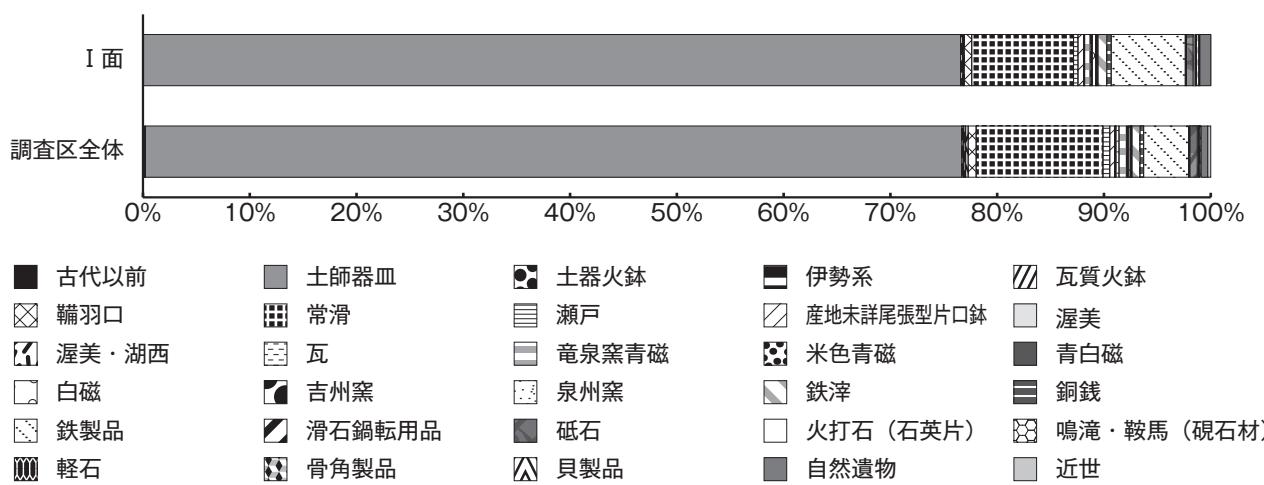
挿図番号	出土遺構	種別	備考
16	土坑3	土師器皿 R種 小型	口径(7.4)cm 底径(5.4)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨針・泥岩粒を含みやや粗土
17	土坑3	土師器皿 R種 極小型	口径4.3cm 底径3.6cm 器高0.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は赤橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子・白色粒子を・海綿骨針含む
18	土坑3	鞴 羽口	胎土は淡橙色～灰色、砂粒含む粗土
19	土坑3	尾張型片口鉢	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・砂粒・灰黒色粒・気孔・礫を含む
20	土坑3	常滑 鮢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、長石・石英・砂粒・灰黒色粒を含む 器表は灰色 格子叩き目
21	土坑3	鉄釘	長8.3cm 幅0.5cm 厚さ0.35cm 重さ7.5g
22	土坑3 P.2	鉄釘	遺存長(5.1)cm 幅0.35m 厚さ0.3cm 重さ1.4g
23	土坑3 P.2	土師器皿 R種 小型	口径7.6cm 底径5.3cm 器高1.7cm 回転ロクロ 底面糸切り 外底部板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡橙色、微砂粒・海綿骨針・泥岩粒・白色粒子を含みやや粗土
24	土坑3 P.3	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.45cm 厚さ0.3cm 重さ1.6g
25	土坑1 3	鉄釘	遺存長(4.9)cm 幅0.5cm 厚さ0.6cm 重さ2.9g
26	土坑1 3	鉄釘	遺存長(3.3)cm 幅0.5cm 厚さ0.6cm 重さ2.1g
図13-1	土坑1 1	鉄釘	長9.6cm 幅0.9cm 厚さ0.6cm 重さ8.1g
2	土坑1 2	常滑 鮢	口縁部片 輪積み成形 胎土は鈍い橙色、砂粒・礫・白色粒子・黒色粒子・気孔を含む 器表は灰褐色
3	土坑1 2	鉄釘	遺存長(2.8)cm 幅0.4cm 厚さ0.35cm 重さ1.1g
4	土坑1 2	鉄釘	遺存長(3.5)cm 幅0.4cm 厚さ0.2cm 重さ0.5g
5	土坑1 2	鉄釘	遺存長(4.9)cm 幅0.45cm 厚さ0.2cm 重さ0.7g
6	土坑1 2	鉄釘	遺存長(3.1)cm 幅0.6cm 厚さ0.45cm 重さ1.8g
7	土坑1 2	鉄釘	遺存長(3.1)cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ2.3g
8	土坑1 2	鉄釘	遺存長(2.4)cm 幅0.4cm 厚さ0.15cm 重さ1.0g
9	土坑1 2	鉄釘	遺存長(3.5)cm 幅0.55cm 厚さ0.5cm 重さ2.1g
10	土坑1 2	鉄釘	遺存長(4.8)cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ1.4g
11	土坑1 4	鉄釘	遺存長(4.6)cm 幅0.55cm 厚さ0.5cm 重さ3.3g
12	土坑1 4	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 重さ4.3g
13	土坑1 4	鉄釘	遺存長(3.2)cm 幅0.3cm 厚さ0.4cm 重さ1.6g
14	土坑1 4	不明骨製品	遺存長(3.0)cm 幅1.5cm 厚さ0.3cm 表面に斜めの研磨痕あり 斧の可能性あり
15	土坑1 4	石英片	最大長2.4cm 最大幅1.8cm 最大厚1.0cm 火打石の剥離片と考えられるが、明確な剥離痕はない
16	土坑1 5	土師器皿 R種 小型	口径8.0cm 底径5.5cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 外底部板状圧痕 胎土は鈍い橙色、砂粒・赤色粒子・海綿骨針・泥岩粒を含む 口縁部一部打ち欠き
17	土坑1 5	景德元寶 初鑄1004 北宋 楷書	
図14-1	P. 2	鉄釘	遺存長(4.2)cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 重さ2.1g
2	P. 4	鉄釘	遺存長(4.7)cm 幅0.55cm 厚さ0.5cm 重さ3.3g
3	P. 7	常滑 片口鉢I類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色、石英・長石多く含む 内側に降灰
4	P. 8	常滑 鮢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、砂粒・石英・白色粒子・黒色粒子を含む 器表は茶褐色 格子に斜線の叩き目
5	P. 1 1	滑石鍋軸用品?	遺存長(3.4)cm 遺存幅(4.1)cm 厚さ1.0cm 口縁部使用 穿孔あり 赤味を帯びた銀灰色
6	P. 1 2	鉄釘	遺存長(4.3)cm 幅0.6cm 厚さ0.7cm 重さ3.4g
7	P. 1 2	鉄釘	遺存長(6.5)cm 幅0.5cm 厚さ0.6cm 重さ4.6g
8	P. 1 7	鉄釘	遺存長(5.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.45cm 重さ3.8g
9	P. 2 2	貝製品	小型のハマグリか? 肝頂部付近に0.1cmの穿孔あり
図17-1	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
2	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.3cm 底径5.4cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
3	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
4	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(7.8)cm 底径(5.6)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
5	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(7.5)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
6	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.5cm 底径5.0cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
7	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(7.8)cm 底径(5.2)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
8	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(8.1)cm 底径(5.0)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
9	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.6cm 底径4.5cm 器高2.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
10	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.0cm 底径4.6cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
11	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径(7.9)cm 底径(5.4)cm 器高2.2cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
12	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.0cm 底径3.9cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
13	遺構外	土師器皿 R種 小型	口径7.5cm 底径4.9cm 器高2.3cm 右回転ロクロ 底面糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色、微砂粒・雲母・赤色粒子を含む
14	遺構外	土師器皿 R種 大型	口径(13.7)cm 底径(8.8)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
15	遺構外	土師器皿 R種 大型	口径13.0cm 底径8.1cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
16	遺構外	土師器皿 R種 大型	口径(13.7)cm 底径(8.4)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 底面糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色、白色粒子・赤色粒子・海綿骨芯・砂粒・雲母・泥岩粒を含む砂質粗土
17	遺構外	瓦器 火鉢	胴部から底部片 胎土は灰色、白色粒子・黒色微粒子・雲母・礫含む 胴部下位縦方向櫛状工具痕、最下位は箇削り

表4 出土遺物観察表(4)

挿図番号	出土遺構	種別	備考
18	遺構外	輪 羽口	胎土は淡橙色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
19	遺構外	輪 羽口	胎土は淡橙色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
20	遺構外	輪 羽口	胎土は淡橙色、赤色粒子・雲母・白色粒子・多量の砂粒含む粗土
21	遺構外	渥美・湖西 片口鉢	底部片 底径(11.2)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
22	遺構外	常滑 片口鉢I類	底部片 底径(11.3)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
23	遺構外	常滑 片口鉢I類	口縁部～胴部片 底口(30.2)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
24	遺構外	常滑 片口鉢I類	底部片 底径(11.5)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
25	遺構外	常滑 片口鉢I類	底部片 底径(11.6)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
26	遺構外	瀬戸窯 尾張型片口鉢	底部片 底径(11.7)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
27	遺構外	常滑 片口鉢I類	底部片 底径(11.8)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
28	遺構外	常滑 片口鉢I類	底部片 底径(11.9)cm 輪積み成形 貼り付け高台 胎土は明灰色、やや大粒の石英・長石・砂粒を含む 内底面は使用により磨耗
29	遺構外	常滑 片口鉢II類	底部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む 内側に降灰 内底面使用により磨耗
30	遺構外	常滑 片口鉢II類	底部片 胎土は灰色、砂粒・長石・石英含む 内側に降灰 内底面使用により磨耗
31	遺構外	渥美 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
32	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
33	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
34	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
35	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
36	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
37	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
38	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
39	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
40	遺構外	渥美 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
41	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
42	遺構外	常滑 瓢	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色、白色粒子・砂粒含む 格子叩き目あり
43	遺構外	瀬戸 卸し皿	口縁部片 胎土は灰桃色、白色粒子・多量の砂粒・雲母含む
44	遺構外	瀬戸 輪花型入子	胴部から底部片 胎土は灰色、白色粒子・黒色微粒子・雲母・礫含む 胴部下位縦方向櫛状工具痕、最下位は箇削り
45	遺構外	隅切軒丸瓦	遺存長(7.0)cm 遺存幅(7.7)cm 厚2.1cm 胎土は白色粒を少し含む肌理の細かく質量のある赤橙色土 凸面は縦目、凹面は平行条叩き文a類をナデ調整で消す 桶巻き作り 古代瓦(8世紀)
46	遺構外	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片 口径(17.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色で黒色微粒子含む 程は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり
47	遺構外	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片 口径(16.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色で黒色微粒子含む 程は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり
48	遺構外	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片 口径(16.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色で黒色微粒子含む 程は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり
49	遺構外	竜泉窯青磁 鎬蓮弁文碗	口縁部片 口径(12.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色で黒色微粒子含む 程は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり
50	遺構外	竜泉窯青磁米色 鎬蓮弁文碗	口縁部片 口径(16.7)cm ロクロ成形 素地は灰白色で黒色微粒子含む 程は水色半透明、細かい貫入あり 内底面に擦過痕あり
図18-51	遺構外	元祐通寶	初鑄108617 北宋 行書
52	遺構外	銭種不明銅銭	
53	遺構外	鉄釘	遺存長(4.0)cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 重さ2.1g
54	遺構外	鉄釘	遺存長(6.5)cm 幅0.55cm 厚さ0.5cm 重さ5.7g
55	遺構外	鉄釘	遺存長(6.0)cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ6.3g
56	遺構外	鉄釘	遺存長(8.4)cm 幅0.75cm 厚さ0.5cm 重さ11.4g
57	遺構外	砥石 仕上砥	遺存長(8.0)cm 幅3.2cm 厚さ0.8cm 砥面2面 黄灰色 鳴滝産 側面の切り出し痕には斜め方向と横方向の2種類が混在、層の固さの違いから鋸を使い分けた可能性あり
58	遺構外	砥石 中砥	遺存長(7.6)cm 最大幅(3.9)cm 最大厚1.35cm 砥面4面 研ぎ灰汁により暗灰色に変色 天草産
59	遺構外	砥石 仕上砥	遺存長(9.1)cm 幅4.8cm 最大厚(1.2)cm 砥面2面 黄灰色 鳴滝産
60	遺構外	砥石 仕上砥	遺存長(5.4)cm 幅4.0cm 厚さ0.5cm 砥面2面 灰黄橙色 鳴滝産
61	遺構外	砥石 中砥	遺存長(5.8)cm 最大幅(3.7)cm 厚さ2.0cm 砥面4面 灰白色 上野産

表5 出土遺物計量表

		I面	最終確認トレンチ	表採		総計				
古代以前	古墳時代	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%	
	古代	0	0.00%	0	0.00%	3	0.39%	3	0.17%	
土器	土師器皿	3	0.31%	0	0.00%	3	0.39%	6	0.35%	
	R種	736	76.27%	2	100%	582	75.88%	1320	76.12%	
	土器質	2	0.21%	0	0.00%	1	0.13%	3	0.17%	
	伊勢系	南伊勢系土鍋	1	0.10%	0	0.00%	1	0.13%	2	0.12%
	土風呂	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%	
土製品	瓦質土器	0	0.00%	0	0.00%	4	0.52%	4	0.23%	
	轆羽口	7	0.73%	0	0.00%	6	0.78%	13	0.75%	
国産陶器	常滑	壺類	1	0.10%	0	0.00%	2	0.26%	3	0.17%
		甕	75	7.77%	0	0.00%	100	13.04%	175	10.09%
		片口鉢I類	15	1.55%	0	0.00%	9	1.17%	24	1.38%
		片口鉢II類	0	0.00%	0	0.00%	3	0.39%	3	0.17%
		摩耗陶片(甕)	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	瀬戸	壺類	2	0.21%	0	0.00%	2	0.26%	4	0.23%
		御皿	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%
		折縁深皿	1	0.10%	0	0.00%	1	0.13%	2	0.12%
		香炉	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
		入子	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%
瓦	尾張型片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	2	0.26%	2	0.12%	
	尾張産	尾張型片口鉢	5	0.52%	0	0.00%	3	0.39%	8	0.46%
	渥美	甕	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%
	渥美・湖西	片口鉢	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%
	平瓦	0	0.00%	0	0.00%	3	0.39%	3	0.17%	
舶載	丸瓦	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
	隅切軒丸瓦	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%	
	青磁碗類	3	0.31%	0	0.00%	7	0.91%	10	0.58%	
	竜泉窯系II類	2	0.21%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.12%	
	米色青磁	蓮弁文碗	0	0.00%	0	0.00%	1	0.13%	1	0.06%
	青白磁	花瓶	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	白磁	梅瓶	1	0.10%	0	0.00%	1	0.13%	2	0.12%
	吉州窯	口はげ皿	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	泉州窯	四耳壺	2	0.21%	0	0.00%	0	0.00%	2	0.12%
	鉄滓	天目茶碗	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
金属製品	鉄滓	緑釉洗	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	中国銅錢	8	0.83%	0	0.00%	5	0.65%	13	0.75%	
	釘	4	0.41%	0	0.00%	2	0.26%	6	0.35%	
	鉄	65	6.74%	0	0.00%	6	0.78%	71	4.09%	
	不明(紡錘車?)	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
石製品	滑石	釘 or 火箸	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	砥石	鍋転用品	1	0.10%	0	0.00%	1	0.13%	2	0.12%
		鳴滝	1	0.10%	0	0.00%	4	0.52%	5	0.29%
		出羽	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
		天草	3	0.31%	0	0.00%	1	0.13%	4	0.23%
	その他	上野	1	0.10%	0	0.00%	1	0.13%	2	0.12%
石材・石	鳴滝・鞍馬(硯石材)	火打石(石英片)	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%
	軽石	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
骨角製品	鹿角加工品	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
	不明(笄?)	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
貝製品	不明	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%	1	0.06%	
	炭化木	3	0.31%	0	0.00%	0	0.00%	3	0.17%	
自然遺物	骨	3	0.31%	0	0.00%	1	0.13%	4	0.23%	
	貝	4	0.41%	0	0.00%	0	0.00%	4	0.23%	
近世	陶器	0	0.00%	0	0.00%	2	0.26%	2	0.12%	
	土器	0	0.00%	0	0.00%	3	0.39%	3	0.17%	
	合計	965	100%	2	100%	767	100%	1734	100%	



第四章　まとめと考察

1. 遺跡の変遷と年代

出土遺物は古代を含むが、検出された遺構のほとんどは鎌倉時代中期以後であり、ここではそれを大きく4期に分けて変遷をみてみたい。

第Ⅰ期

本地点で最も豊かに遺構が展開する時期であり、大半の竪穴建物群がこの期に属する。竪穴建物群は切合い、構造、平面的な位置関係によりさらに5時期に細分できる。

I-1期：調査区中央東寄りで検出された竪穴建物3である。層位・切合い関係からみて溝1・土坑群・竪穴建物5より古く、土坑9を伴う。大型で、床には根太木痕とみられる細い溝がある。

I-2期：竪穴建物4・8が続く。4は調査区南側にあり、8は狭い空閑地を挟んで調査区北東にある。竪穴建物2・5・6・7および溝1・土坑群に切られる。竪穴建物4は1辺4.3m以上、8は3.5m以上といずれも大型で、前者が根太等床下構造の痕跡をとどめるのに対し、後者にそれは見られない。

I-3期：調査区南側の竪穴建物2がこれに当たる。土坑1に切られ、竪穴建物4を切る。竪穴建物5との新旧関係は不明であるが竪穴建物5・6・7の群より大型で根太木等床下構造の痕跡はなく、I-2期寄りであり、後述するI-4期の竪穴建物には該当しづらいので、ここに収めた。遺構の大部分が調査区外にあるため、規模・構造とも不明な点が多い。

I-4期：竪穴建物5・6・7が挙げられる。それぞれ路地のような空閑地を置いて調査区に分布する。溝1、土坑群に切られる。竪穴建物5・7とも調査区外に大半が延びるため明らかではないが、規模は小型化する傾向があり、根太木様の床下構造が見られる。

I-5期：切合い関係からみて、竪穴建物群の中で一番新しいのは調査区南域にある竪穴建物1である。「竪穴建物」とはしたものの、構造の詳細は不明である。

遺構個別の詳細年代は不明だが、竪穴建物群は13世紀後半から14世紀初頭に属する。溝1が14世紀中葉の遺構なので、その頃には廃絶したと考えられる。また、竪穴建物は主軸方位を概ね同じくしており、それは後述する第三期の溝1とも共通する。構築物はあっても土地利用の基軸は踏襲されていたことがわかる。

第Ⅱ期

切合い関係からみて第Ⅰ期の竪穴建物群より新しい遺構群として、土坑があげられる。形態はまちまちであり、用途は特定できない。多くは竪穴建物を切り、調査区東側で溝1に切られる。年代は第Ⅰ期とさほど変わらず、13世紀後半から14世紀初頭の幅が与えられよう。

第Ⅲ期

溝1が相当する。竪穴建物・土坑群を切り、調査区東側で南北方向に走行する。出土した古瀬戸香炉により14世紀中葉頃の年代が与えられる。土坑・竪穴建物を切るが、前述したように遺跡の基本軸は踏襲されていたと考えられる。

第Ⅳ期

近世の竪穴建物1基のみが検出された。切合い関係はほとんどの遺構より新しい。年代を特定できる遺物の出土はみられなかったが、堆積土から年代を判断した。本址と共に構造を持つ竪穴遺構が六浦道に面した大倉幕府周辺遺跡群の一角で検出されている（馬淵1999）。遺構は過半部が北側調査区外にあるため全貌は明らかではないが、溝1と直交関係にあり、主軸方位は竪穴建物群と変わらない。近世に

おいてもこの一帯では中世からの方位規制が踏襲されていることがわかる。

その他の時期

検出遺構についてはおよそ上述のような展開がたどれる。しかし、出土遺物にはほかにも興味深い点が認められるので簡単に指摘しておきたい。

古墳時代後期～律令時代の土器4片が出土している。古墳時代後期の群集墳といわれる「向原古墳群」に至近の位置にあること、調査区の北面する県道に初期東海道(AD.645～771)の可能性が指摘できること、古代の鎌倉評・郡家も指呼の距離にあること、等、本地点一帯が古代に重要な場所であったことは間違ない。

中世でみれば、遺構の主体は13世紀後半から14世紀初頭、すなわち鎌倉時代後期にあることは明白だが、遺物のうちには12世紀末～13世紀初期とみられる渥美窯の甕口縁と、実測に至らない小片ながら手づくね種の土師器皿も6片認められる。鎌倉時代前期からこの一帯が開かれていたことがわかる。また、14世紀後半以降のものもあり、中世後期にも人の往来があったことがうかがえる。

2. まとめに代えて

検出の堅穴建物について

調査地点の周辺はことと同様、堅穴建物が展開する。しかし、隣地でありながら由比ガ浜三丁目18番12地点とはやや様相を異にする。現在でも標高差は0.5m前後あり段差を持つが、この差は南東に向かつて落ちていく風成砂の傾斜を反映しているので、中世以来のものと推測できる。また段を境に遺構の密度に差があることから、地境も中世から続いてきた可能性がある。

由比ガ浜三丁目18番12地点は生活面を3面とらえ、調査区西側では堅穴建物の密度が高く、頻繁な建て替えが認められる。一方調査区の東側では多数の柱穴が検出され、柵列もしくは掘立柱建物の存在が窺われる。年代は13世紀末から15世紀前葉とされているが、13世紀中葉以前と目される手づくね土師器皿の出土も多く、同じく龍泉窯画花文碗の出土も見られる。それに対し今回の調査地点では、手づくね種は小片6片を数えるのみであり、遺跡の年代幅も13世紀後半から14世紀中頃、すなわち鎌倉時代後期にほぼ限定される。生活面も堅穴建物主体の1面が捉えられたにとどまり、土坑の検出が顕著であった。この差異が何によるかは不明であるが都市構造を考える上で重要な差異を示している可能性があるため今後注視していく必要がある。

堅穴建物に対し今まで多くの人により様々な検討がなされてきた。その機能として、物資収蔵の庫(河野2004)・居住建物(斎木1989)・店棚・工房・収蔵(宗臺1999)が出土遺物や構造分類によりあげられてきた。しかし、堅穴建物そのものの性格把握には立地的環境、付属施設、出土資料などの総合的な判断が必要であり、構造分類で機能は特定できていない。

今回の調査地は海岸砂丘の北辺に位置する。「鎌倉中」の「周縁」に近いが、馬淵和雄は、内にも外にも属さない境界領域として、彼岸と此岸の境を示す浜の大鳥居と、聖域である八幡宮境内との境を示す下下馬という二つの標識に挟まれた「両義的な場所」といっている(馬淵1994・1998)。しかし過去の発掘事例からそれを推測するのは未だ困難である。

堅穴建物は得宗貿易最盛期にそのピークを同じく迎えるが、堅穴建物1基の存続時期は短く、同じような場所に何度も掘り直され人為的に埋め戻されるとの評価が有力である。このことから見えることは何であろうか、馬淵は堅穴建物を倉庫とし、恒久的なものではなく基本的には貨物の一時的な集積施設であり、転送が終ると壊される、という。そしてその理由の一端としてそれは砂地だから可能としている。

る（馬淵1994・1995）。が果たしてそうだろうか、竪穴建物は粘質土にも何度も建て替えられるし（佐藤1994）、出土資料からみると職能民の存在も無視できない。また堂込秀人は竪穴建物を工房とした上で、民俗的、習俗的な理由から埋め戻された可能性もあると指摘する（堂込2004）。原廣志は建築構造上考えられることとして二階建ての建物を想定し、重層的な建物であり、機能も複数にわたる可能性があるといふ（原氏教示による）。

竪穴建物には多様な機能が想定される。竪穴建物の群集する海浜部は馬淵の言うとおり「繁華な場」（馬淵1991）であったことが窺える。度重なる掘り直しは宗臺の言うとおり、柱のない広い室内区間の獲得を目的とした壁構造建物であり（宗臺1999）、加えて半地下という構造上、湧水による影響も考えられるので、それゆえ耐久性のない建物であるため頻繁に建て替えの必要があったのだろう。

竪穴建物が海浜部に林立していたことは明らかである。しかし、野放図に立ち並んでいたわけではなく、土地利用に規制があったことが文献資料から読み取れ（鈴木2007）、調査事例からも地割りの存在が看取される。同じような場所に重ねて構築される理由の一端は、そこにあるのではないだろうか。

ただ、「存続時期が短く、何度も掘り直す」という竪穴建物の定義には一抹の疑問もある。竪穴建物は13世紀第2四半期頃に発生し、14世紀前半頃に終焉を向かえる。概ね百年の間に4、5回の建て直しが考えられ、建物として20年前後の耐久年数を想定できるのではないか。

（根本）

引用・参考文献（本報全体に共通）

- 上本進二 2000「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子桟敷戸遺跡』東国歴史考古学研究所
大上周三 2009「鎌倉郡衙と官衛関連遺構について」『神奈川考古』45 神奈川考古同人会
押木弘己 2011「米町遺跡の調査」『かまくら考古』10 鎌倉考古学研究所
河野眞知郎 2004「政権都市「鎌倉」－考古学的研究のこの十年－」『政権都市（中世都市研究）』9 新人物往来社
木下良 1997『神奈川の古代道』藤沢市教育委員会
斎木秀雄 1989「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』5 鎌倉市教育委員会
佐藤仁彦 1994「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』10 鎌倉市教育委員会
宗臺秀明 1999「方形竪穴建物の機能と変遷」『考古学研究』46 考古学研究会
宗臺秀明 2008「中世鎌倉の都市性」『白門考古論叢』中央大学考古学研究会
鈴木弘太 2007「中世鎌倉における「浜地」と「町屋」」『考古論叢 神奈川』15 神奈川考古学会
田代郁夫 1998「「大町大路」と「小町大路」－中世都市の「町」と「路」－」『湘南考古学同人会会報』73 湘南考古学同人会
馬淵和雄 2007「若宮大路周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』20 鎌倉市教育委員会
堂込秀人 2003「建穴建物」『季刊考古学』85 (株) 雄山閣
馬淵和雄 1997「食器から見た中世都市鎌倉」『国立歴史民族博物館研究報告』71 国立歴史民俗博物館
馬淵和雄 1991「都市の周縁、または周縁の都市」『青山考古』9 青山考古学会
馬淵和雄 1994「武士の都鎌倉」『中世の風景を読む』2 新人物往来社
馬淵和雄 1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社
馬淵和雄 1999『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目620番5地点発掘調査報告』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団

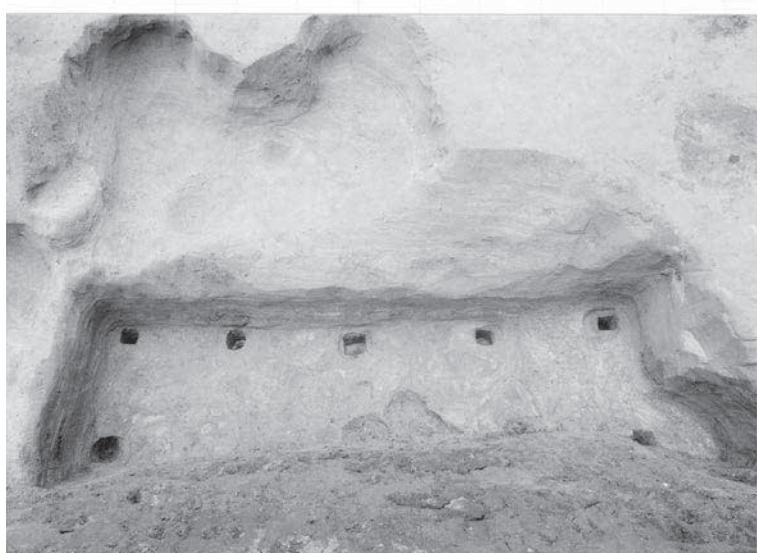


1-1

六地蔵方向から調査地点を望む(▼の下)



1-2 下馬四ツ角方向から調査地点を望む(▼の下)



1-4 近世豊穴(北から)

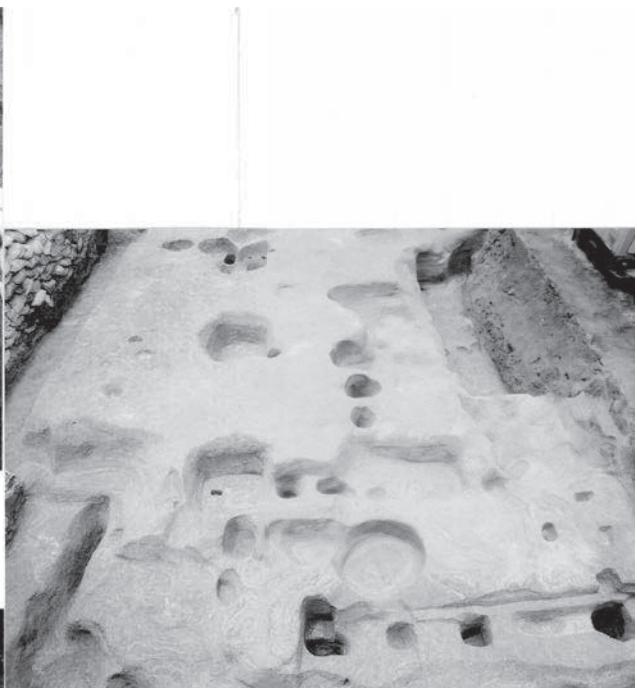


1-3 近世豊穴(西から)

図版2



2-1 1区全景（南から）



2-3 2区全景（東から）



2-2 1区全景（西から）



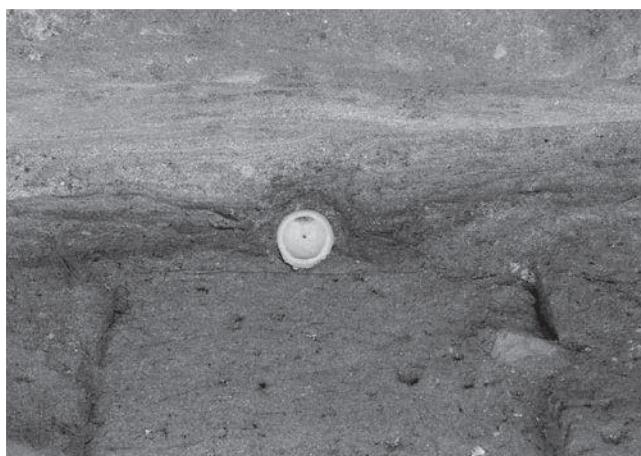
2-4 2区全景（南から）



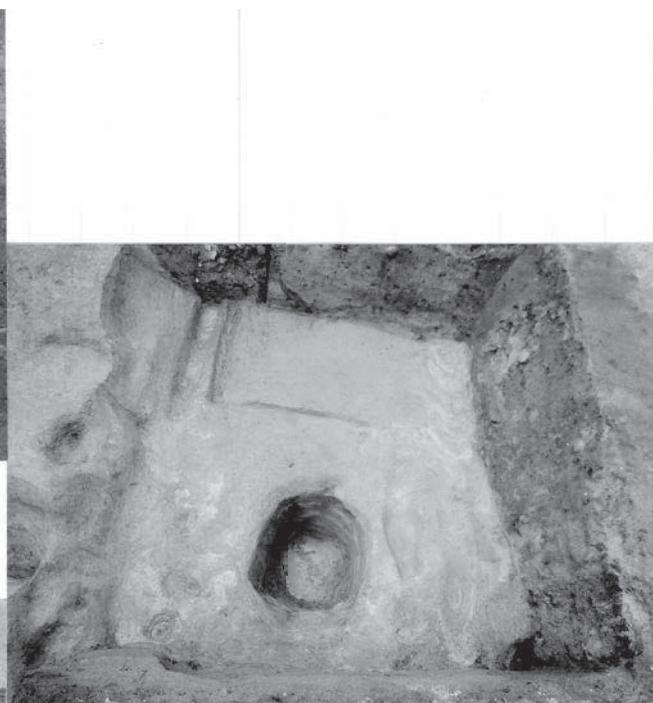
2-5 溝1（南から）



2-6 溝1北壁土層断面



3-1 溝1内瀬戸香炉(図8-3)出土状況(西から)



3-2 1区縫穴3(南から)



3-3 2区縫穴3(東から)



3-4 2区縫穴3(南から)



3-5 1区縫穴3内土坑9(南から)

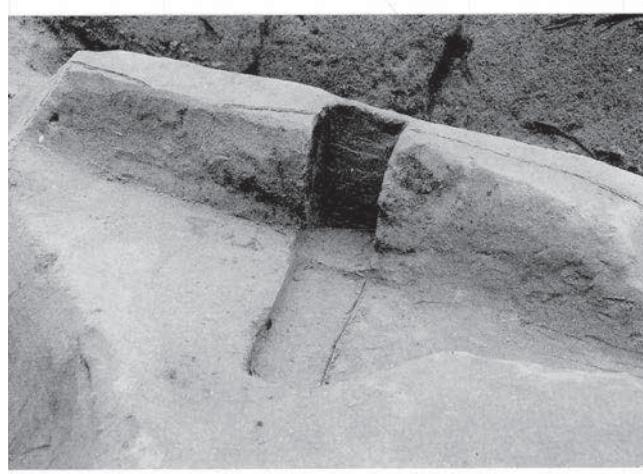


3-6 1区北壁土層断面縫穴3部分

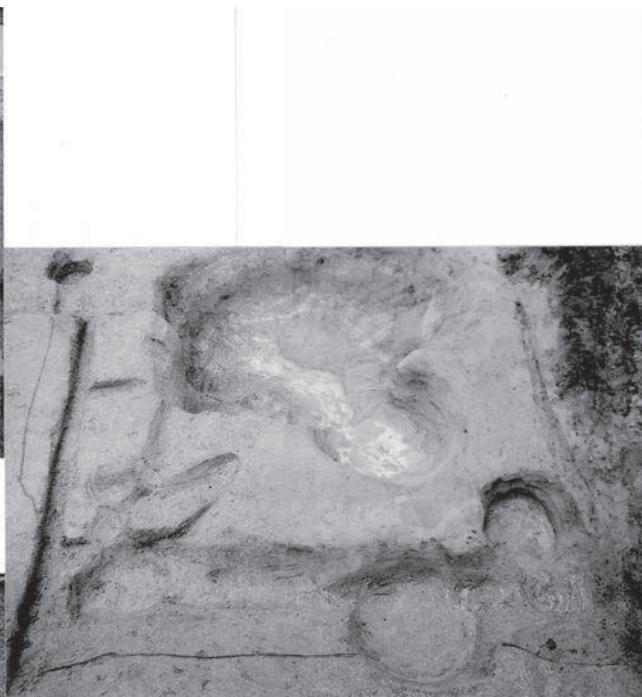
図版4



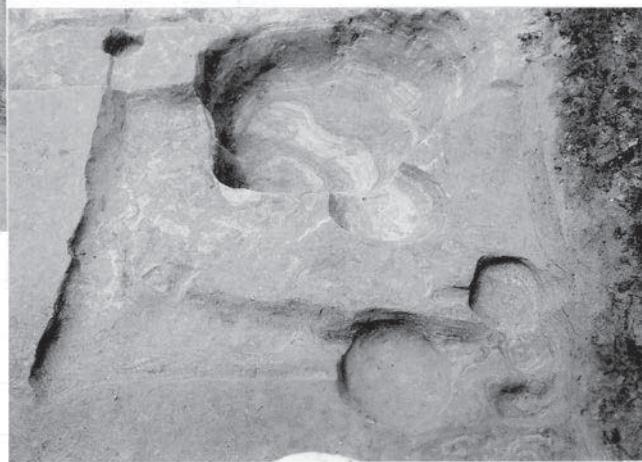
4-1 1区竪穴4（南から）



4-2 1区竪穴4東壁束柱痕（南西より）



4-3 1区竪穴6床面検出状況（北から）



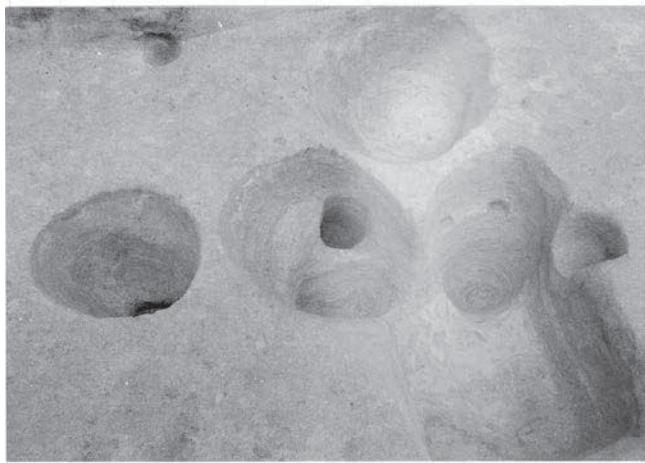
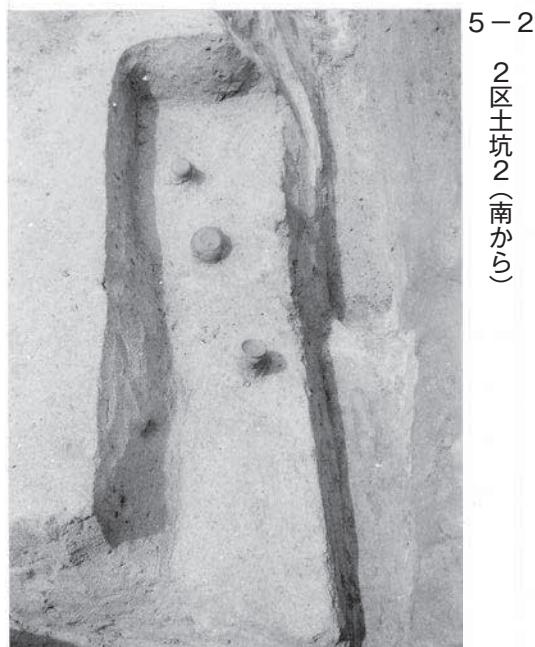
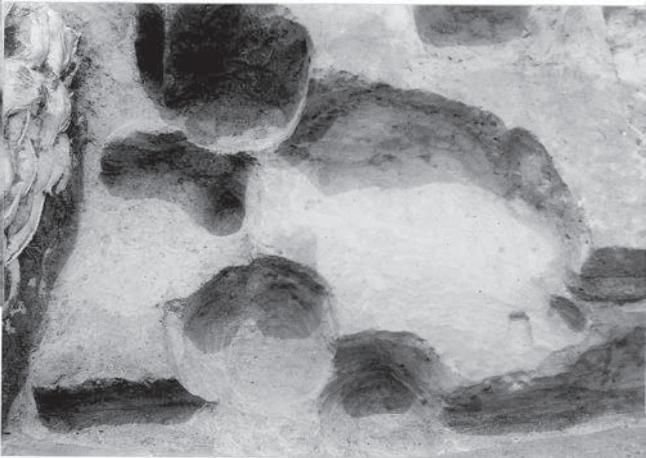
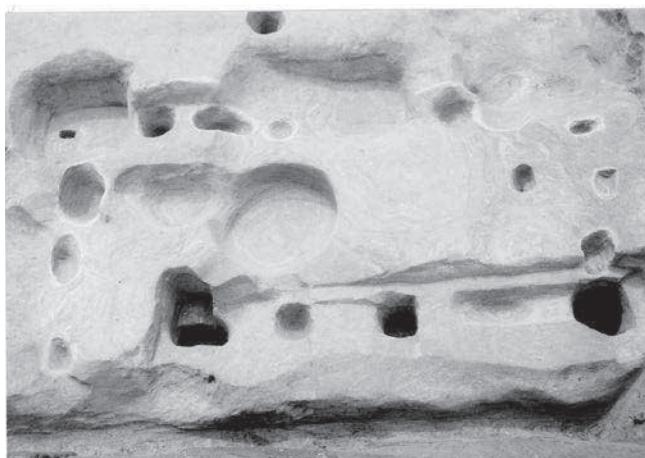
4-4 1区竪穴6掘り方（北から）



4-5 2区竪穴7柱穴列（南から）



4-6 2区竪穴7（東から）



図版6



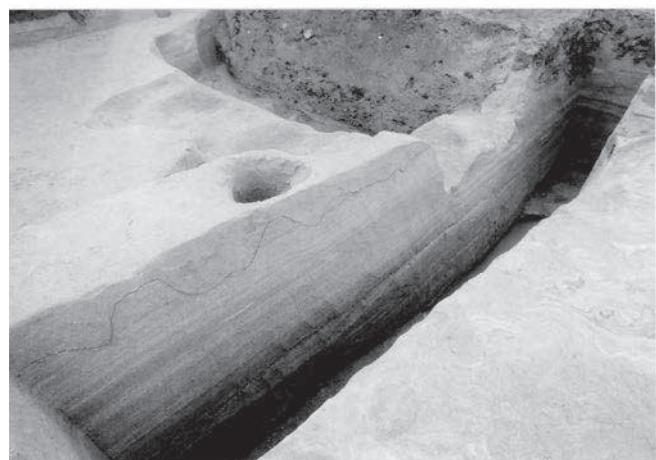
6-1

2区確認深掘り全景（南から）

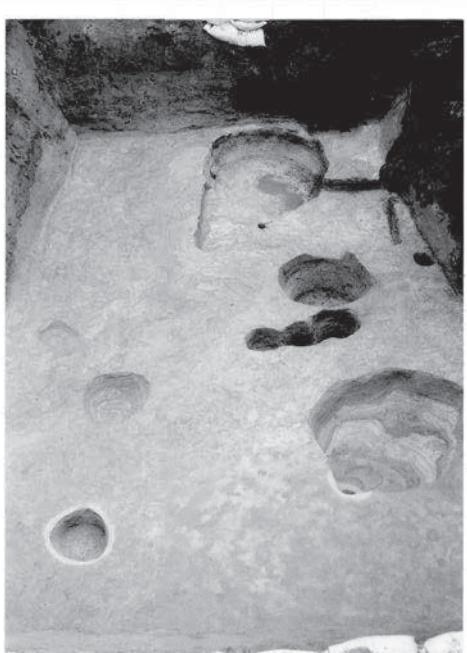


6-3

1区風成砂下の確認面（南から）



6-2 2区確認深掘り西壁土層断面



6-4

1区風成砂下層の小穴（北から）

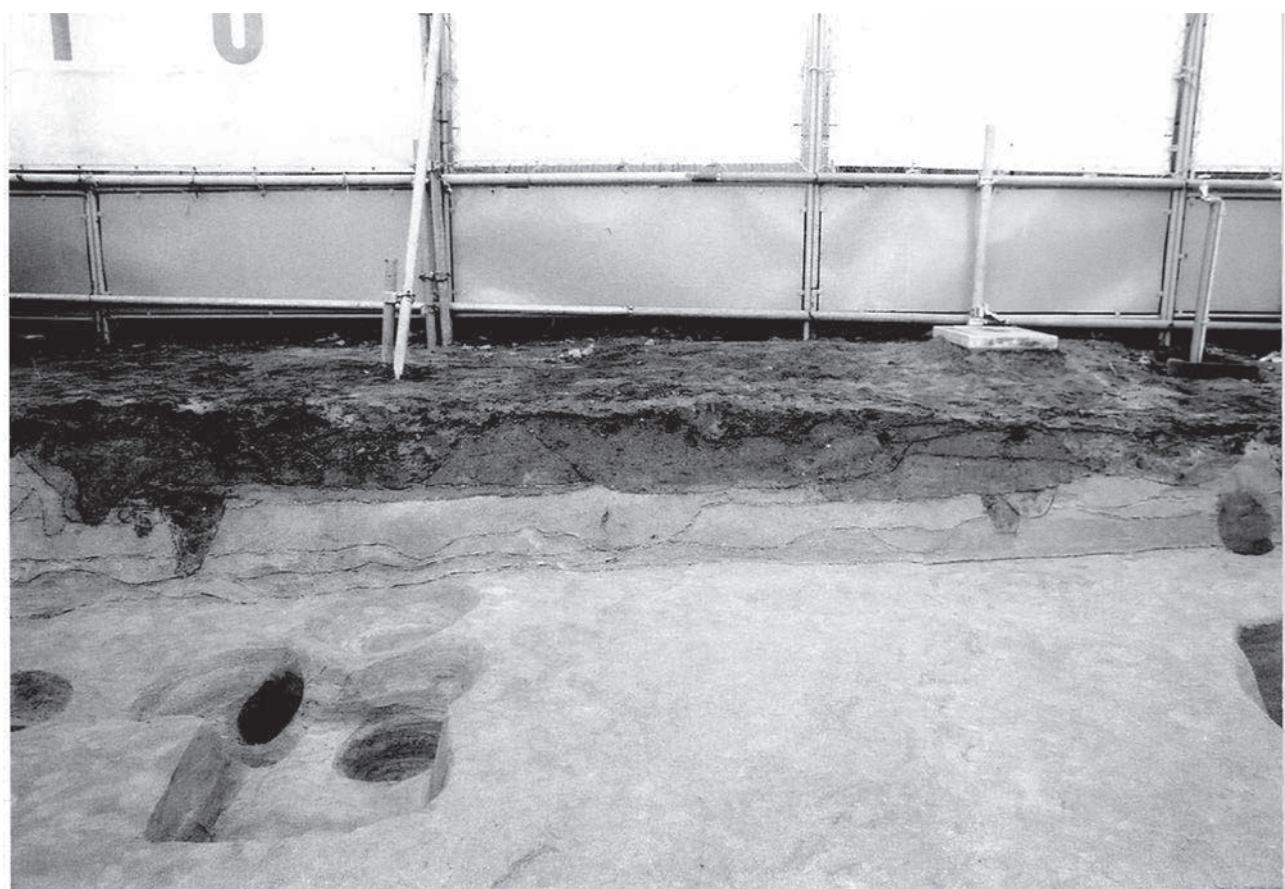


6-5

1区海成砂層面全景（南から）



6-6 2区海成砂層面全景（南から）

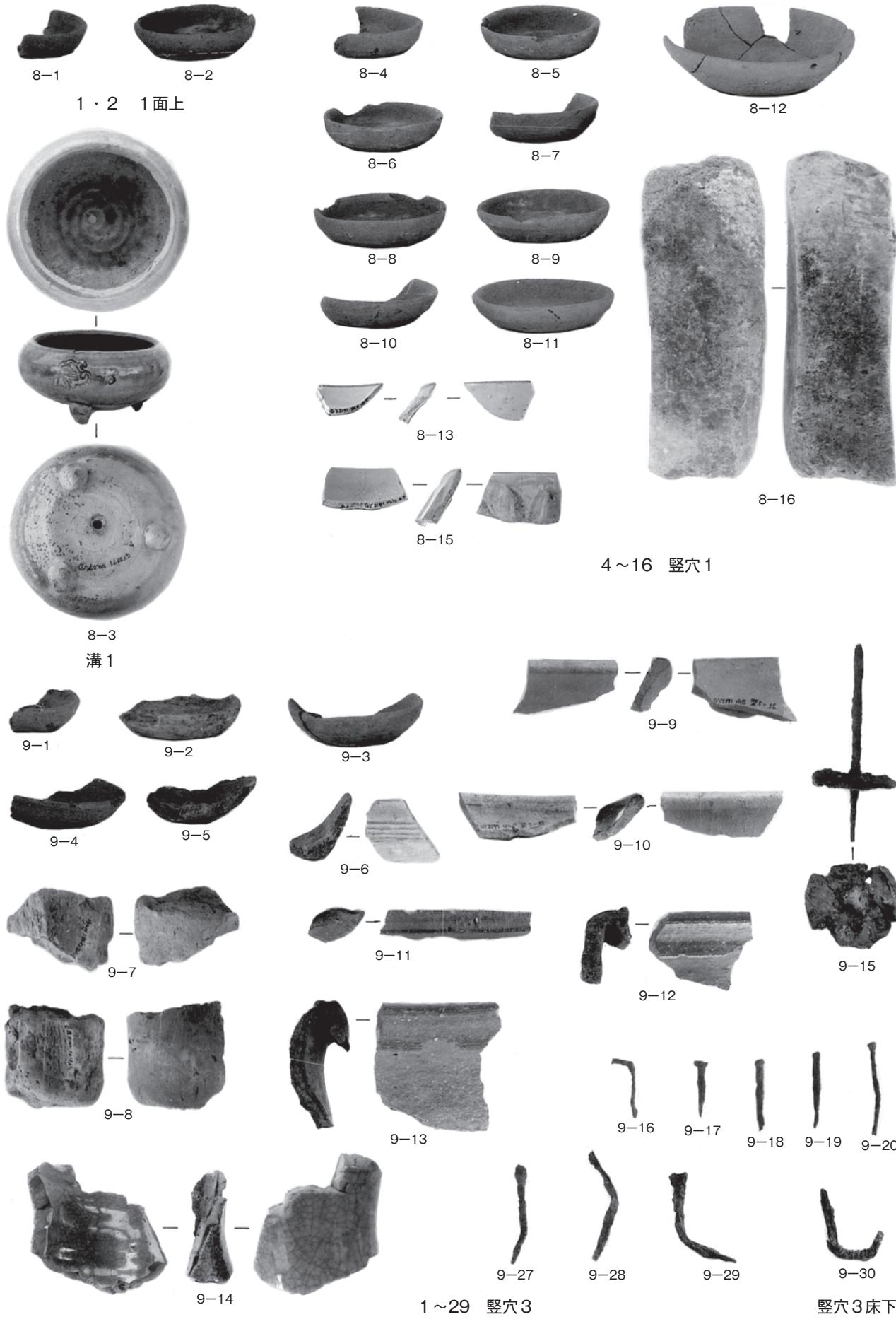


7-1 2区西壁土層断面

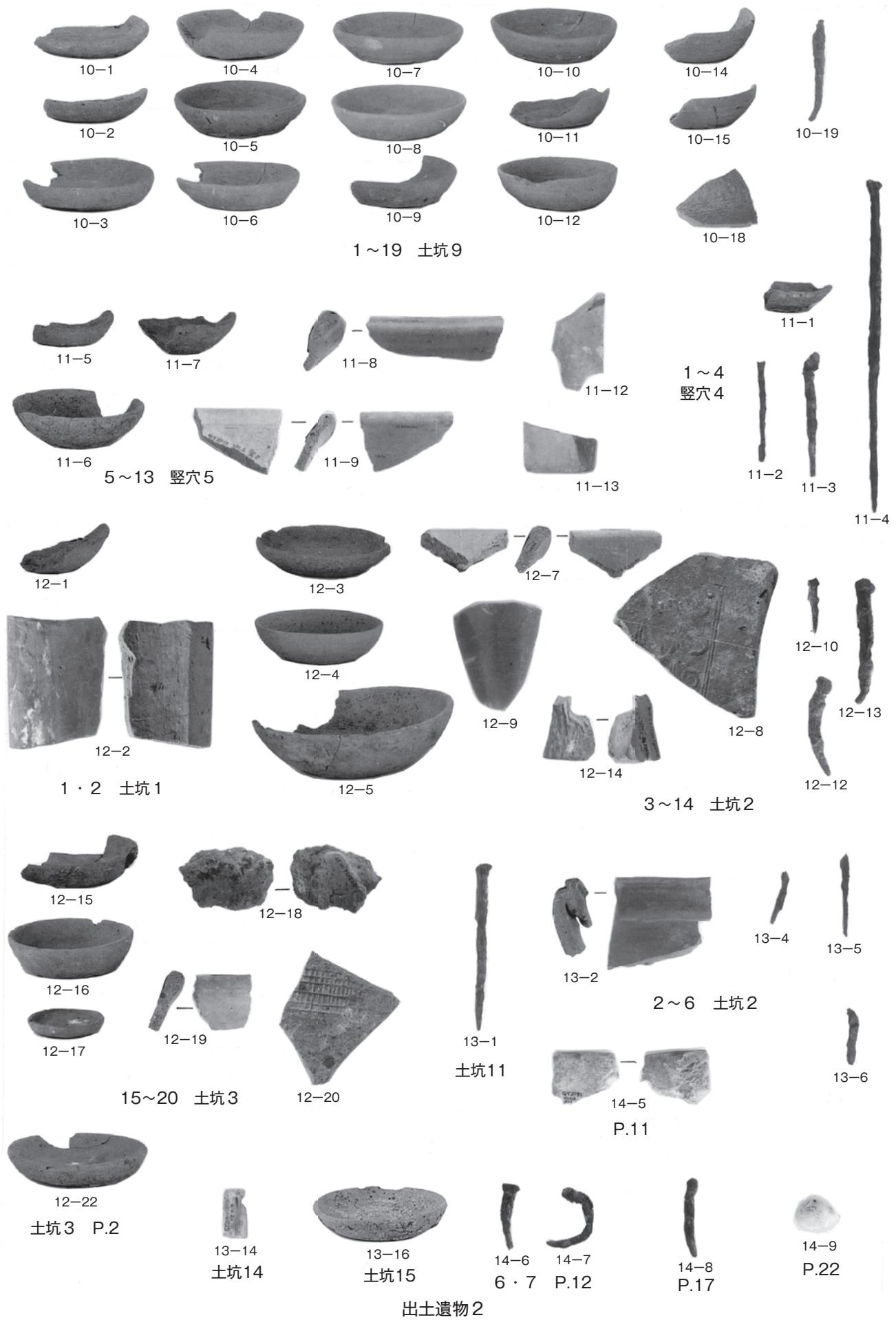


7-2 1区西壁土層断面

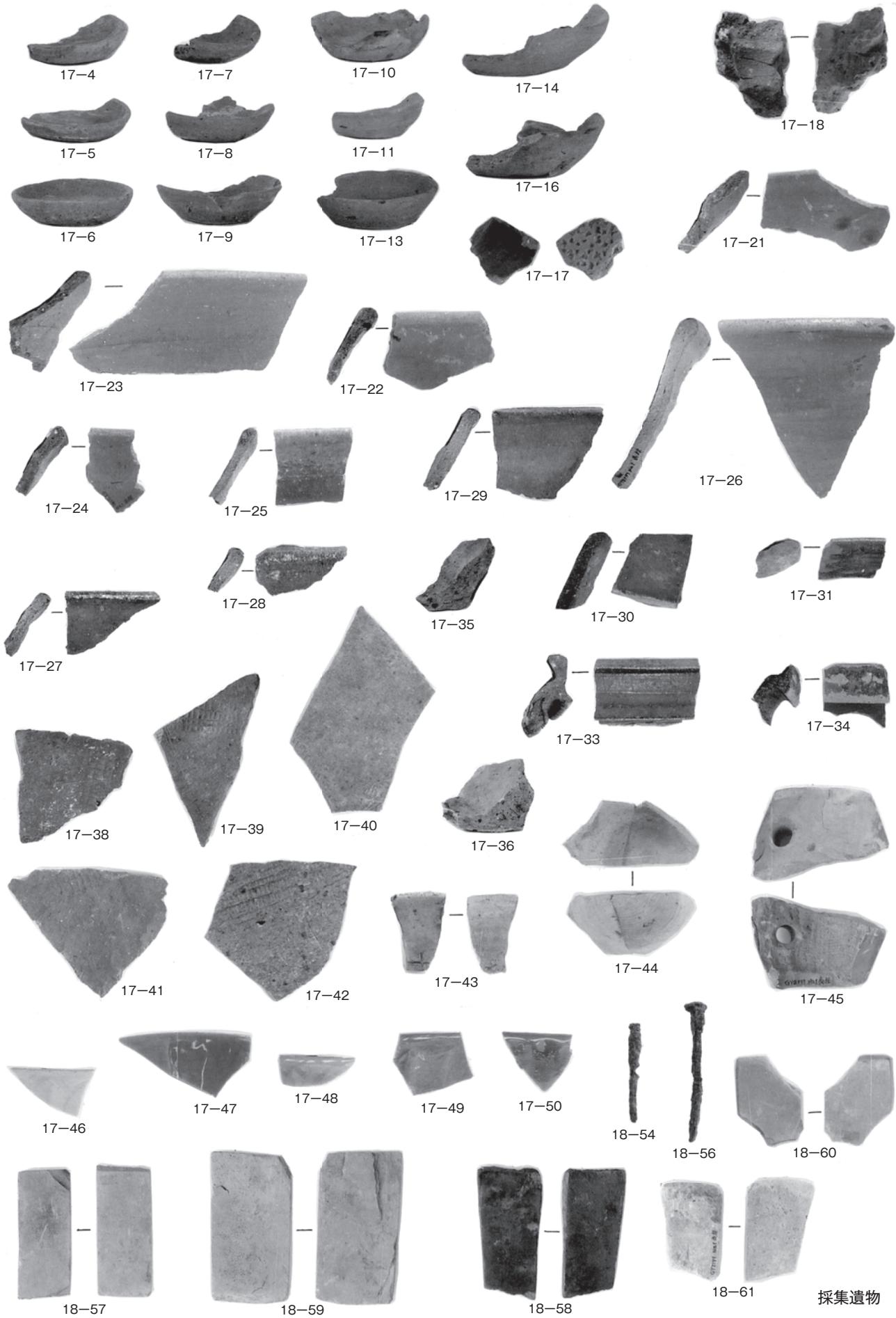
図版8



出土遺物 1



図版10



出土遺物3

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成24年度調査報告							
卷次	29(第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	原廣志・宇都洋平／伊丹まだか／福田誠／馬淵和雄							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2013年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町三丁目 425番3	14204	242	35° 19' 19"	139° 33' 27"	20041210 ～ 20050221	66.00	個人専用 住宅 (杭基礎構造)
こうとくいんしゅうへんいせき 高徳院周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 長谷五丁目 382番7の一部	14204	327	35° 19' 12"	139° 32' 18"	20040620 ～ 20040819	50.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
なごえさんのうどうあと 名越山王堂跡	神奈川県鎌倉市 大町三丁目 1362番1	14204	234	35° 18' 56"	139° 33' 35"	20040823 ～ 20041020	27.50	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町三丁目 422番2外	14204	242	35° 19' 43"	139° 33' 25"	20051031 ～ 20060206	78.00	個人専用 住宅 (地盤の柱状改良)
あまなわじんじやいせきぐん 甘縄神社遺跡群	神奈川県鎌倉市 長谷一丁目 227番24	14204	177	35° 18' 51"	139° 32' 18"	20060306 ～ 20060501	60.00	個人専用 住宅 (車庫の築造)
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 19番4	14204	200	35° 18' 56"	139° 32' 54"	20060424 ～ 20060613	82.40	個人専用 住宅 (杭基礎構造)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	井戸、土坑、溝、柱穴、掘立柱建物	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、土器、石製品、金属製品、木製品等	
こうとくいんしゅうへんいせき 高徳院周辺遺跡	社寺	中世・近世	土坑、溝、柱穴列、かわらけ溜り	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、金属製品、土製品等	
なごえさんのうどうあと 名越山王堂跡	社寺	中世	井戸、土坑、柱穴、板壁建物	かわらけ、舶載陶磁器、国産陶器、石製品、金属製品、木製品等	
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	土坑、溝、柱穴、方形豎穴建築址	かわらけ、舶載磁器、国産陶器、瓦、石製品、金属製品、木製品等	
あまなわじんじやいせきぐん 甘縄神社遺跡群	都市	中世	井戸、柵列、かわらけ溜り	かわらけ、瓦	
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	都市	中世	豎穴遺構、土坑、柱穴、溝	土師器皿、舶載陶磁器、国産陶器、石製品	

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 29

平成24年度発掘調査報告

(第1分冊)

発行日 平成25年3月29日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印 刷 芝浦エンジニアリング株式会社